全学自己点検・評価報告書 2025

―学部・通信教育部・大学院研究科・短期大学部―

日 本 大 学

目　　次

令和７年度　全学自己点検・評価結果
点検・評価報告書
＜学部＞
法学部……1
文理学部……18
経済学部……33
商学部……49
芸術学部……65
国際関係学部……79
危機管理学部……92
スポーツ科学部……103
理工学部……114
生産工学部……131
工学部……145
医学部……159
歯学部……176
松戸歯学部……192
生物資源科学部……208
薬学部……226
通信教育部……242
＜大学院研究科＞
法学研究科……259
新聞学研究科……275
文学研究科……292
総合基礎科学研究科……308
経済学研究科……322
商学研究科……338
芸術学研究科……354
国際関係研究科……367
危機管理学研究科……379
スポーツ科学研究科……390
理工学研究科（地理学専攻を除く）……401
理工学研究科（地理学専攻）……418
生産工学研究科……433
工学研究科……447

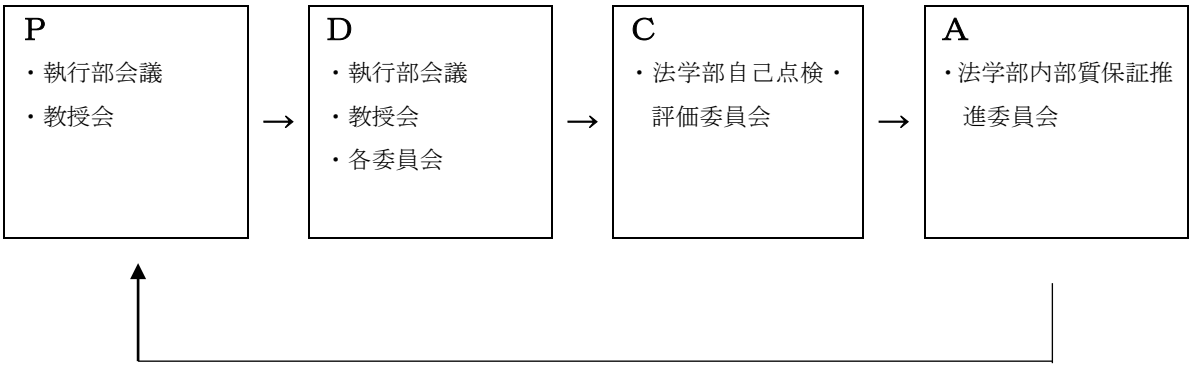
医学研究科・・・

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　法学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。
＜評価の視点＞
・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価委員会からの指示に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，法学部，法学研究科及び新聞学研究科の点検を行い，法学部内部質保証推進委員会に点検結果の報告を行う。法学部内部質保証推進委員会は，必要に応じて各委員会に改善等の指示を行い，改善結果は執行部会議及び教授会の議を経て，ポリシー（学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等），規程改正及び教育組織等の見直しをするなどして課題の改善に取り組んでいる。

法学部内部質保証推進委員会からの検討・指示を経て，法学部ＦＤ委員会等が中心となり見直しを行い，令和５年度には教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の一部改正がなされ，令和６年度には，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び学生の受け入れ方針）（アドミッション・ポリシー）の一部改正が行われた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

法学部における学習成果の測定・把握については，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「科目単位での測定・把握にとどまっている」と指摘されている。基準２は基準４と相互関係にあることから，法学部内部質保証推進委員会が主導し，学位授与方針に示した学習成果を適切に測定・把握する仕組みを構築する必要がある。したがって，学習成果の測定・把握の方法については，改善が求められる。また，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については，令和４年度に実施した外部評価の報告書に記載された改善事項の検討が十分に進んでいない。したがって，例えば，法学部内部質保証推進委員会が主導し，当該改善事項について具体的な検討を行い，必要な対応を速やかに進めるよう改善が求められる。

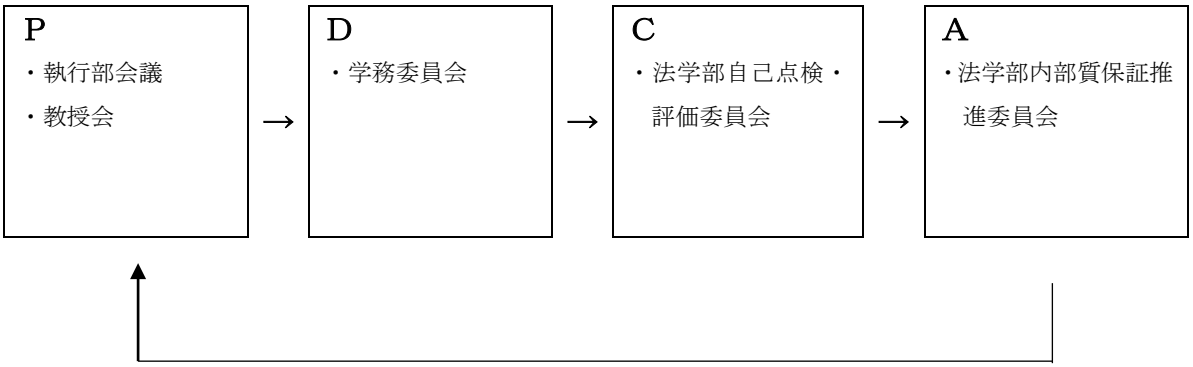
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した学習成果を適切に測定・把握する仕組みについては，構築できていない。法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，構築するように努める。

また，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）について，リーガルマインドとその構成要素と，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関係が分かり難いことを，外部評価機関より意見として付されたことを受けて，ＦＤ委員会及び教授会において，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しを行い，一部改正をした。

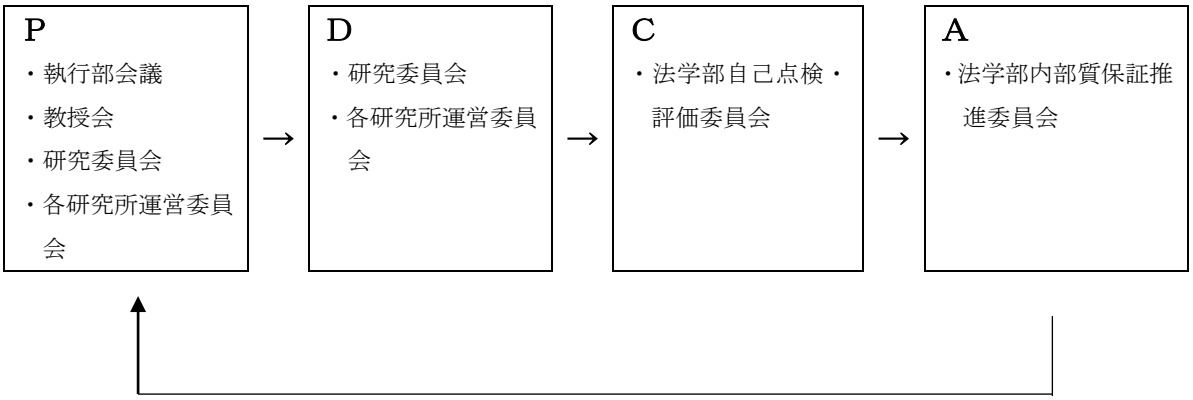
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学科の改組等】



【研究所の新設】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行っている。第二部検討特別委員会において，収容

定員の見直しや既存学科の構成，社会人向けのコースの設置，オンライン授業の導入等について議論している。現時点では，令和８年度より，社会人学生の就学支援や学生の多様な活動と学業の両立支援といった学生の多様な学修ニーズに応えるため，第二部必修科目の一部について，オンデマンド形式での授業実施を導入することを学務委員会での協議を経て，教授会において報告をした。

研究所の新設については，今後の社会情勢の変化などの推移を注視しつつ，社会のニーズに幅広く応えることができるよう，研究委員会及び各研究所の運営委員会において定期的に委員会を開催し，点検・評価を行っている。改善・向上を図った事例として，平成 19 年に新聞学研究所及び国際知的財産研究所を新設した。

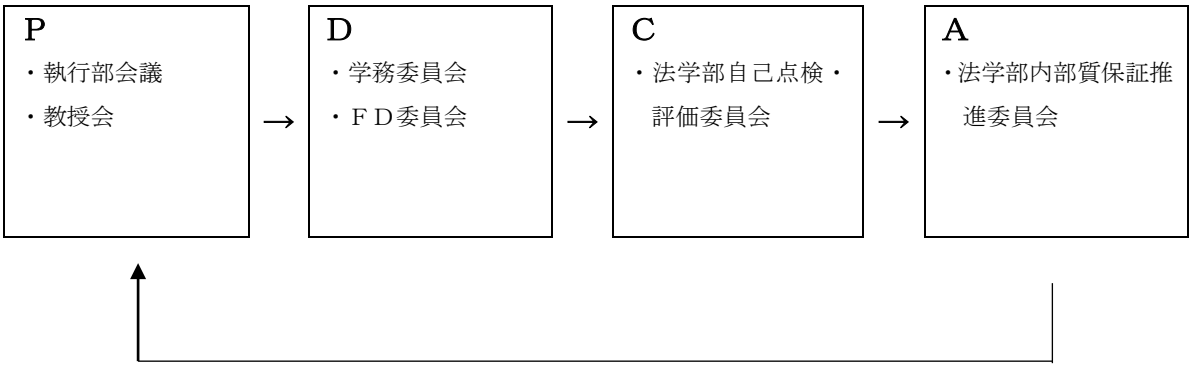
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育課程及びその内容，教育方法等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行っている。カリキュラムついては，学科等主任が中心となり，点検・評価を行っている。改正が必要な場合には，当該学科等主任が中心となってその解決策を提示し，学務委員会からの提案として，学科等主任会議で検討・承認された後，教授会の議を経て，これを実行している。

令和４年度にＦＤ委員会が中心となり実施した外部評価では，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準拠して，点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会に報告をした。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行う。

ＦＤ委員会及び教授会においては，前述した外部評価の指摘により，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）について，リーガルマインドとその構成要素と，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関係が分かり難いことを意見として付されたことを受けて，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しを行い，一部改正をした。

第二部検討委員会においては，収容定員に対する在籍学生数比率について，法律学科（第二部）で 0.73 と低く，令和６年度大学評価（認証評価）で，定員管理を徹底するよう是正勧告が付されていることから，収容定員の見直しや既存学科の構成，社会人向けのコースの設置，オンライン授業の導入等について議論している。現時点では，令和８年度より，社会人学生の就学支援や学生の多様な活動と学業の両立支援といった学生の多様な学修ニーズに応えるため，第二部必修科目の一部について，オンデマンド形式での授業実施を導入することを学務委員会での協議を経て，教授会において報告をした。

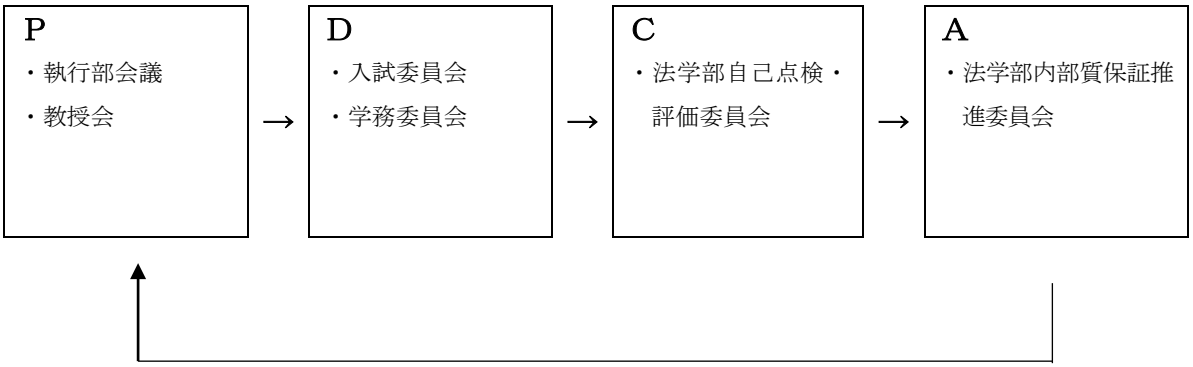
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

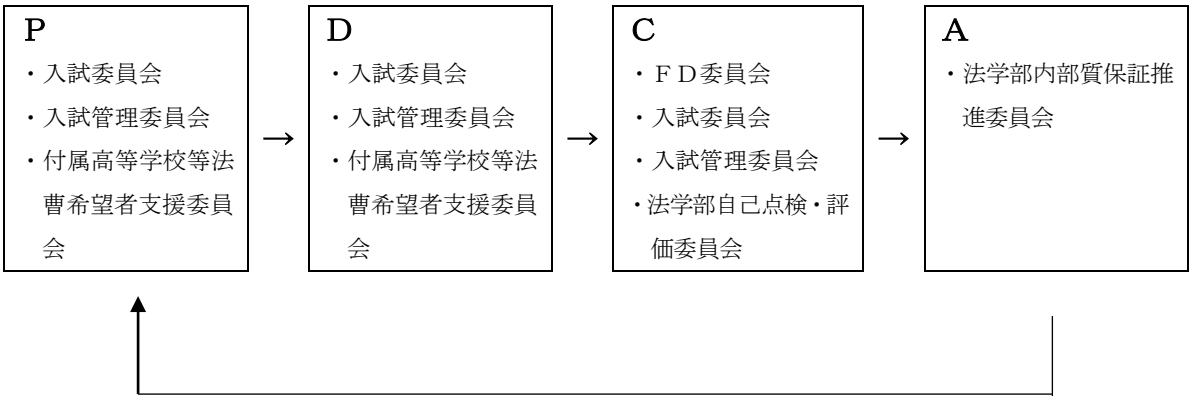
基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【収容定員等】



【学生の受け入れ等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れに関わる事項については，全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。また，ＦＤ委員会，入試委員会及び入試管理委員会も学生の受け入れに関わる事項について定期的に点検・評価を行っており，法学部内部質保証委

員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署に改善の指示を行い，入試委員会及び入試管理委員会において，次年度の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）や入学者選抜制度について検討している。

改善・向上を図った事例として，令和８年度入学者選抜に向けて，令和６年度の入試委員会において，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の改正について協議し，教育研究上の目的にある「リーガルマインド」と明確に区別するため「日本大学法学部マインド」という表記に変更することにした。また，高大連携の仕組みを入学者選抜制度にも取り入れることとし，令和９年度入学者選抜より日本大学法学部法律学科法曹コース高大連動入試を実施することになった。帰国生選抜や総合型選抜については，第二部法律学科への入学者数を確保するため，令和９年度入学者選抜より導入することになった。一般選抜の実施方式については，受験生の選択的かつ効率的な受験に対応した，効率的な入試日程や方式の制度化，入試問題の作問体制の見直し，各学部の入試実施・運営の過重負担の改善を目指し，一般選抜ＡＮ方式（仮称）を令和９年度入学者選抜より実施することになった。

入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数の適正な管理については，全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，入試委員会において，入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数が適正な状況となるべく改善に努めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，提言として付されているとおり，収容定員に対する在籍学生数比率について，法学部法律学科（第二部）が 0.73 と低く，学部の定員管理を徹底するよう是正されたい。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

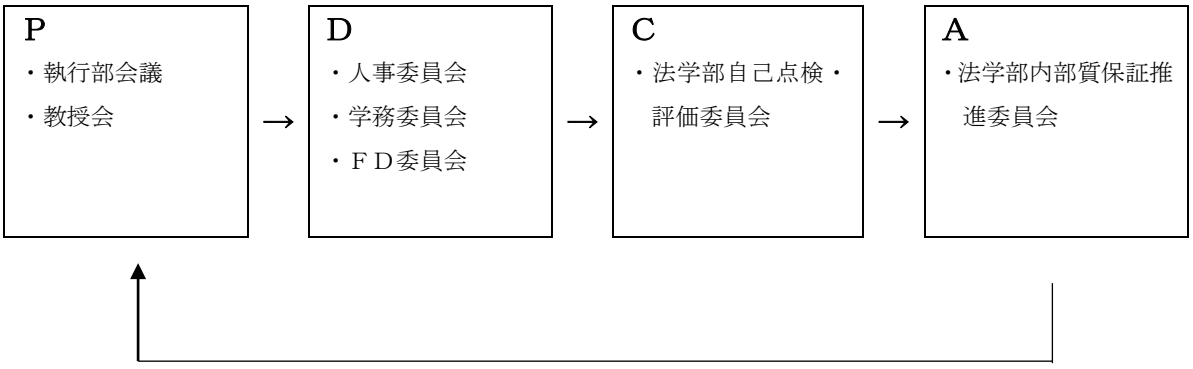
法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行う。

第二部検討委員会においては，収容定員に対する在籍学生数比率について，法律学科（第二部）で 0.73 と低く，令和６年度大学評価（認証評価）で，定員管理を徹底するよう是正勧告が付されていることから，収容定員の見直しや既存学科の構成，社会人向けのコースの設置，オンライン授業の導入等について議論している。現時点では，令和８年度より，社会人学生の就学支援や，学生の多様な活動と学業の両立支援といった学生の多様な学修ニーズに応えるため，第二部必修科目の一部について，オンデマンド形式での授業実施を導入することを学務委員会での協議を経て，教授会において報告をした。

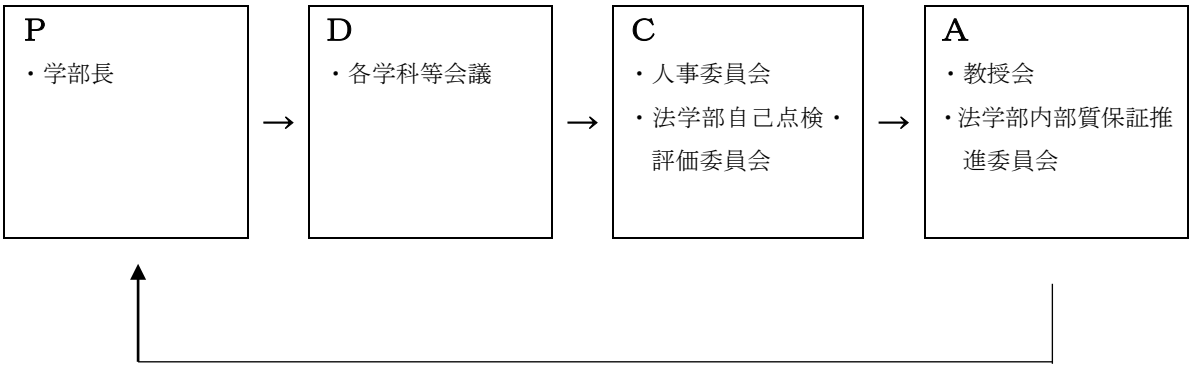
基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教員組織（ＴＡ育成を含む）】



【教員組織（教員の人事等）】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

法学部（第一部・第二部）では，教員配置について，学部長及び人事委員会が大学設置基準に定める基幹教員数を満たしているか確認し，「教員規程」，「日本大学任期制教員規程」，「助教規程」，「教員資格審査規程」，「日本大学法学部教員任用資格審査基準」，「法学部教員昇格審査基準に関する内規」，「日本大学法学部教員の任用及び昇格における研究業績の取扱いに関する要項」，「法学部助教再任審査に関する内規」及び「日本大学法学部特別助教に関する内規」等に基づき，各学科等会議から推薦された候補者について，公平に行われているかについて全学

自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，人事委員会及び法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，教授会及び法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行い，学部長及び各学科等会議が候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を確認するよう取り組んでいる。また，大学教員組織編制方針及び学部等教員組織編制方針に基づき，外国籍教員，若手教員及び女性教員等の様々な人材を確保し，教員組織の活性化及び多様性がある構成となっているか，人事委員会にて推薦学科等主任からの説明を基に点検しており，教員の採用枠のうち，若手研究者養成を目的とした専任教員（助教）の任用制度を創設し，日本大学大学院法学研究科又は日本大学大学院新聞学研究科の博士後期課程在学者を対象として平成 27 年度から 11 名の助教の採用に至っており，不足しがちな若手専任研究者の任用を促進し，特定の年齢に偏ることのない年齢構成の配慮を行っている。

改善・向上に取り組んだ事例については，令和７年度において，退職等により設置基準上の教員数を満たすことができなかったため，令和８年度においては，各学科等会議への依頼に際して，設置基準上必要となる教員数を充足させることを前提に，教育課程を重視した教員配置とし，財政状況を勘案して中期・長期的観点から配置計画を策定し，可能な範囲で多めの採用枠を設定して計画し取り組んでいる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

公募を行わない場合においても，候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を説明できる仕組みの整備の改善が求められる。

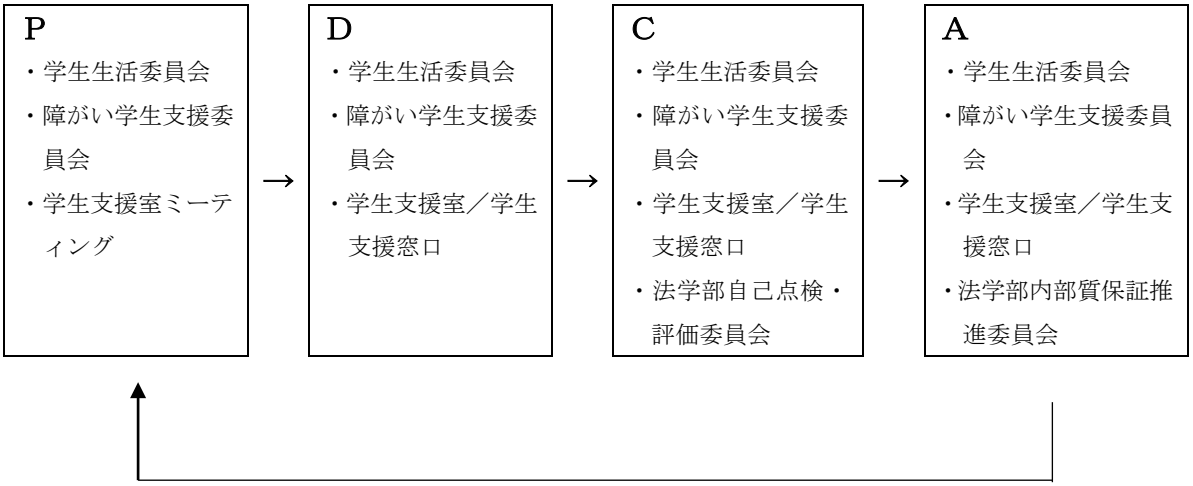
ガイダンス内容は個別対応が中心であり，ＴＡ同士の情報交換や課題共有の場，また，ハラスメント防止・守秘義務等を含む体系的な研修の実施については確認ができなく，改善が求められる。

採用や昇格に当たっては，「教員規程」，「日本大学任期制教員規程」，「助教規程」，「教員資格審査規程」，「日本大学法学部教員任用資格審査基準」，「法学部教員昇格審査基準に関する内規」，「日本大学法学部教員の任用及び昇格における研究業績の取扱いに関する要項」及び「日本大学法学部特別助教に関する内規」等に基づき，各学科等会議から推薦された候補者について，公平に行われているかについて全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，人事委員会及び法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行い，学部長及び各学科等会議が候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を確認するよう取り組んでいる。

ＴＡの育成と教育支援の質向上に向けた取組として，個別指導と併行して，本部学務委員会より案内のあった新規採用教員における研修プログラム動画の視聴を義務付けているが，ＴＡ同士の情報交換や課題共有の場，また，ハラスメント防止・守秘義務等を含む体系的な研修の実施はしていない現状である。法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，実施するように努める。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

・令和６年度，学部専従カウンセラーの配置により，学生支援室ミーティングを定期開催し，学生支援室・支援窓口の対応件数集計や年次推移の報告とともに，本部派遣カウンセラーの意見も反映した実際の学生支援に即した意見交換をしている（Ｐ，Ｄ）。
・現場担当者の事例に基づいた意見交換により，面談室の防音の必要性，学生の傾向や重篤なケースの共有及び学生支援部門の広報の必要性等，学生支援における課題を洗い出している（Ｃ）。
・令和６年度の学生支援室/支援窓口の対応件数は，年度末の学生生活委員会に報告し，学部の支援ニーズを明確化した（Ａ）。
・広報のリソースとしてカウンセリング利用学生へのアンケートを実施。結果については，今後，ホームページへの掲載等を検討している（Ａ）。また，学生が気軽に手に取れる名刺サイズの二次元バーコード付きの学生支援室/支援窓口の案内カードを作成し，保健室や就職指導課等に設置した（Ａ）。
・重篤なケースでは他部署との連携が重要となるため，一般教職員が第一対応者となった場合の対応フローチャートを学生支援室ミーティングで検討している（Ａ）。
・メンタルヘルスの予防的支援として，学生支援室ミーティングにて，メンタルヘルスチェックの活用法を検討し（Ｐ），本学部独自の基準に基づき，リスクの高い学生には，カウンセラーの呼び出し面接を実施（Ｄ）。最もリスクの高い学生（満点）には，年度内にもう一度連絡

を取っている（D）。呼び出しを機に，カウンセリングが継続する等，早期に支援が行えるケースがあった（向上）。
・精神的危機状態になった際に，思い出して来室するケースがあり，学生のメンタルヘルスの重篤化を回避，予防することができた（向上）。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

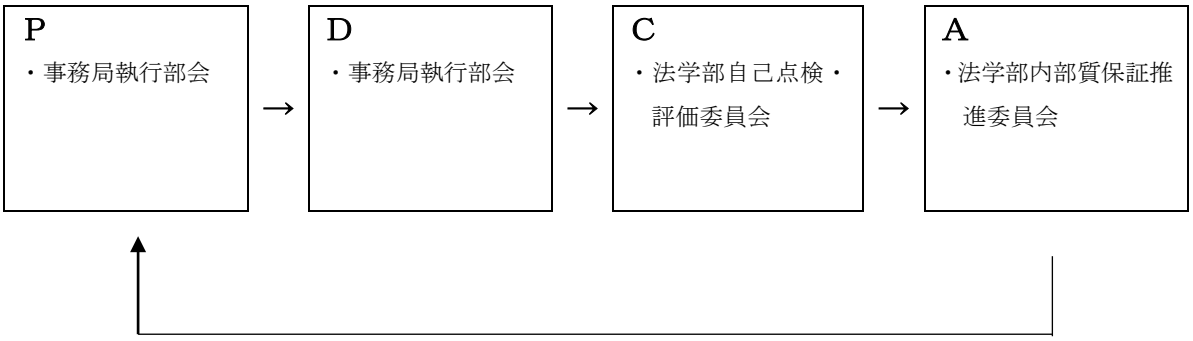
【提言（改善課題）】
令和６年度に学生支援窓口を学生支援室内に移転し，独立した相談窓口を設置したものの，面接室の防音等，プライバシーが守られる環境の整備については十分ではないため，改善が求められる。

・学生支援室のカウンセリング室及び学生支援窓口コーディネーター面談室の防音の未整備について，学生支援室の改修レイアウト等を学生支援室ミーティングで検討し，学部執行部に上申した（P，D）。
・従前の学生支援室内のレイアウトについて，卒業学生を対象としたアンケート調査及び在学生への聞き取り調査を実施した結果，面接室内の会話内容が外部に聞こえることや他者と対面する導線構造に対して，気兼ねや心理的抵抗を感じていた学生がいることを確認した（C）。
・執行部を中心に他の場所への移転や改修工事を検討するとともに，現行の学生支援業務への影響に対応するため，暫定措置を講じた。具体的には，学生支援窓口を学生課内に移転し，コーディネーターの面談室については保健室内産業医の控室を充て，当面の間の防音環境を整備した（A）。
・上記の暫定措置の不具合についても，派遣カウンセラーを含めた担当者自身や学生へのヒアリング調査を実施している（A）。
・学生支援室内のレイアウトと必要な改修内容の見直し，工事中の移転先の検討等，引き続き，プライバシーが保護できる恒久的な環境整備を目指している（A）。

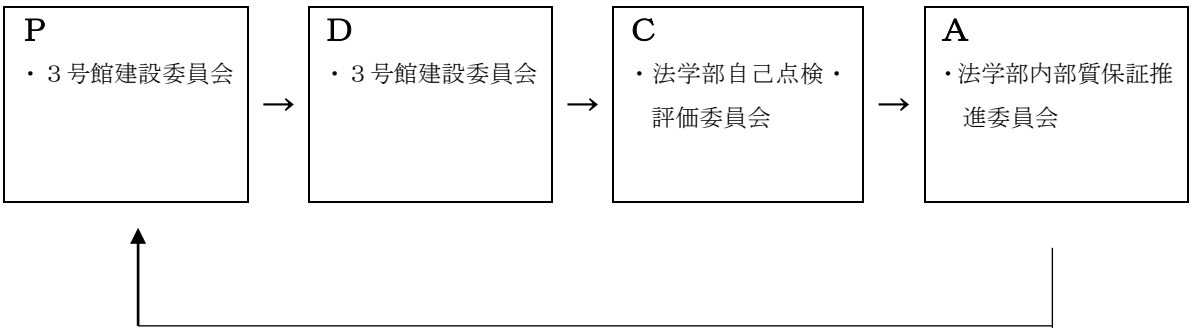
基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

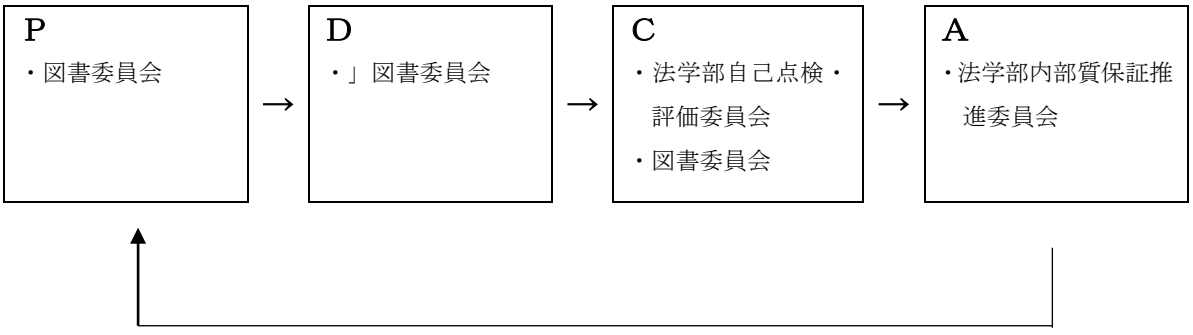
【設備関係等】



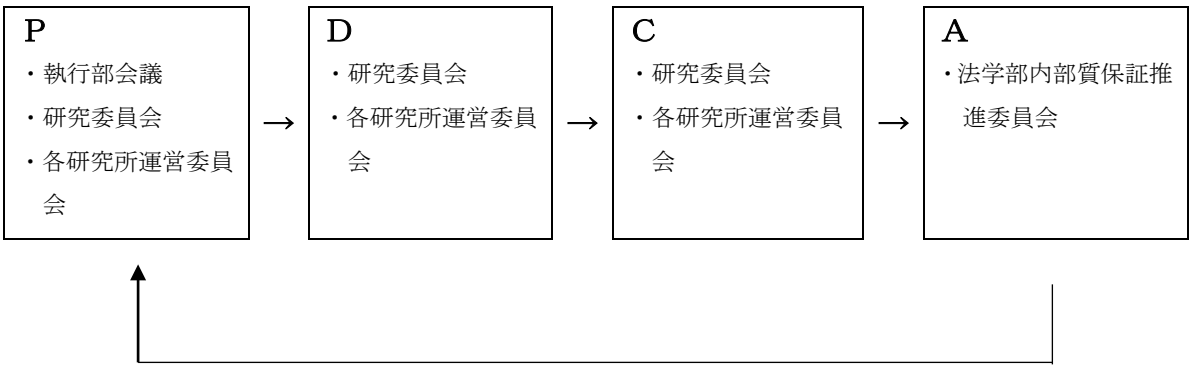
【３号館竣工】



【図書館施設】



【研究環境等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【設備関係等】【３号館竣工】

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，事務局執行部会又は３号館建設委員会が教育研究等環境に関わる施設・設備等の維持について，関係法令にのっとった点検を行うとともに，自主検査としても建物状況や消防設備を点検し，記録している。管財課が点検を行い，防火管理者や関係部署へ報告し，不備があれば修繕に向けた検討を事務局執行部会にて行っている。

また，バリアフリー環境の整備として，視覚に障がい（弱視）のある学生対応として，学生の意見を確認し，階段の端部に色を付ける工事を実施している。階段にあっては照明を明るいＬＥＤ照明器具へ変更を行った。室名サインにあっては視認し難い仕様であったため，色彩に加え，設置場所を見直し，付け替えを行っている。全ての施設の整備は完了しておらず，今後バリアフリー整備は計画的に推進を図ることを，事務局執行部において協議し確認した。

また，建設中の建物にあっては，「高齢者，障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」を遵守した建物としており，各階に多目的トイレを設置する等，建設を進めている。３号館建設委員会において立案し，同時に評価及び実行を行っている。

【図書館施設】

日本大学図書館法学部分館では，授業期間中の開館時間について，平日 8:45～21:45，土曜日を 8:45～20:45 とするほか，日曜日の開館を特定日に実施（開館時間 10:00～17:00）し，利用者にとって学習しやすい環境を整備している。年度ごとに図書委員会で計画した開館日程は，機関決定をして実施している。

図書館の利用については，日本大学図書館法学部分館のホームページで紹介するとともに，図書館利用案内(冊子)を配布して周知に努めている。また，年度始めに在学生を対象とした図書館の利用ガイダンスを実施して，利用の促進を図っている。「日本大学図書館法学部分館利用内規」に基づき実施されている。

蔵書については，図書委員が小委員会で選書した図書をリスト化して，図書委員会で報告して発注を行い購入する。納品された資料はＯＰＡＣで利用できるように配架される。

電子資料の購入は，図書委員会協議で承認され，決定される。ホームページに利用可能な電子資料の一覧を掲載し，法学関連の研究・教育環境に適した学術情報サービスを提供している。

日本大学図書館法学部分館のホームページは，内容及びデザインの立案についてワーキンググループを設け，企画・広報委員会にて協議の上，法学部ホームページのデザインに合わせた，

見やすいレイアウトに変更された。従前の内容を引き継ぎつつ，展示会及び学生協働に関する項目を新規に設けコンテンツを充実させている。

所蔵する貴重書類は，現在ホームページで書誌・所蔵データの公開を進めており，Web 上で誌面全体を閲覧できる資料もある。内容の追加・変更は，ワーキンググループでの協議の上，図書委員会の承認をもって実施される。平成 28 年には日本大学法学部創設 125 周年記念行事として特別展示会を開催し，発行された図録は全ページをホームページに掲載している。

蔵書管理については，図書委員会において年度始めに蔵書点検計画，年度末に蔵書点検結果を報告しており，蔵書の不在状況を確認することで，資産管理の周知や収書計画における効率化が改善されている。

今後も資料の電子化や図書館活動等の情報発信を進め，本学の教育・研究環境の充実を図っていく。

【研究環境等】

研究委員会及び各研究所の運営委員会が定期的に委員会を開催し，点検・評価を行っている。方法として研究委員会では，教員へ３月に個人研究費に係る実績報告書の提出を依頼し，当該年度に実施した研究成果・業績等を確認することにより行っている。各研究所の運営委員会では４月に活動状況の報告，共同研究の「実績報告書」及び次年度の「研究計画」を報告することにより行っている。必要な場合は，執行部会議及び教授会に上程している。改善・向上を図った事例として，博士論文を出版する若手研究者に対して，出版助成費を給付する制度を制定した。また，法学部研究費（学術研究費（個人研究・共同研究））の各支出費目の給付額について給付限度額を設けていたが，その内規について給付限度額を設けないように改正し，研究費を執行しやすいように改善した。

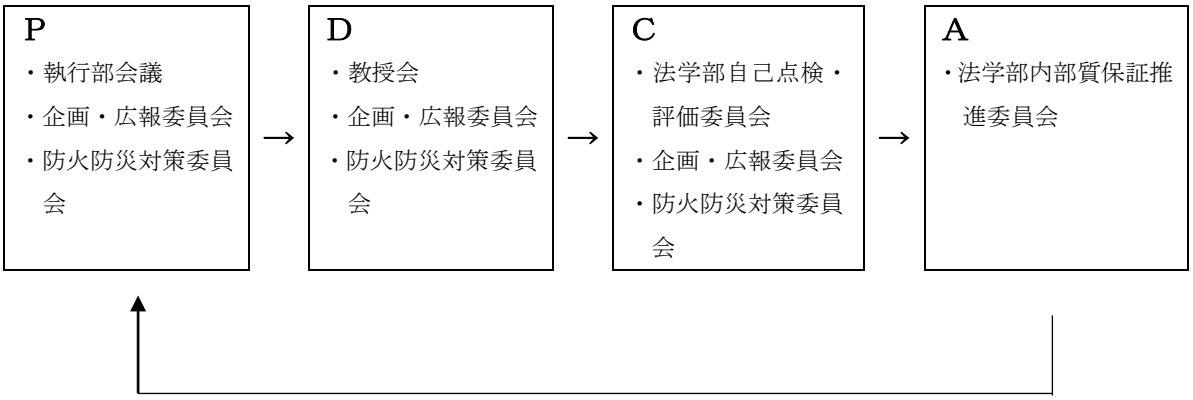
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

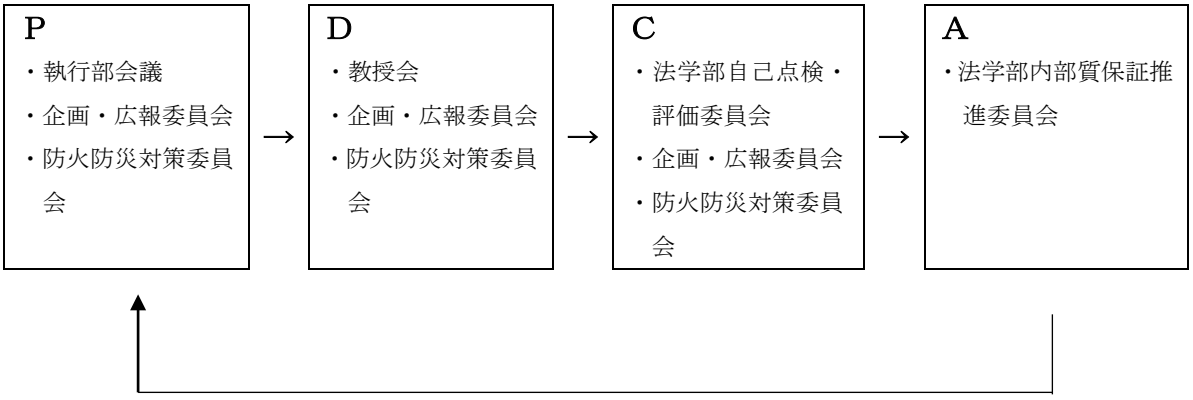
基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【防災関係，社会連携等】



【定期無料法律相談等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

防火・防災関係についての社会連携については，防火防災対策委員会が，自己点検・評価委員会からの指示の下で点検・評価を行っている。

研究委員会及び各研究所の運営委員会が定期的に委員会を開催し，点検・評価を行っている。「定期無料法律相談会」は，法学研究所運営委員会の法律相談部門，「行政なんでも相談」は，

政経研究所運営委員会の行政相談部門において，相談実績及び相談内容等を確認し，社会貢献として有効な活動かどうかという観点から点検・評価を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

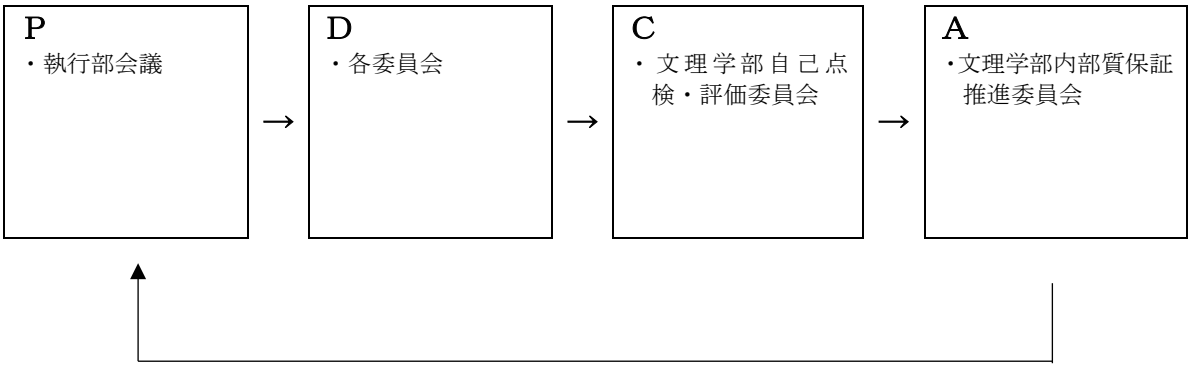
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　文理学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部内部質保証推進委員会を開催し，内部質保証を支える基盤となる４委員会（自己点検・評価委員会，ＳＤ委員会，ＦＤ委員会及び教学ＩＲ推進委員会）の委員会での報告・審議事項等を点検・評価し，問題点を明確にしている。これらを基に４委員会に対し，文理学部内部質保証推進委員会から指示を与えている。また，その他の委員会についても，学部の抱える諸問題の検討・解決を諮問事項として落とし込み全学部的に対応している。なお，令和７年度については，高等教育研究推進センター運営委員会を設置し，教育研究組織の在り方について検討を充実させている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

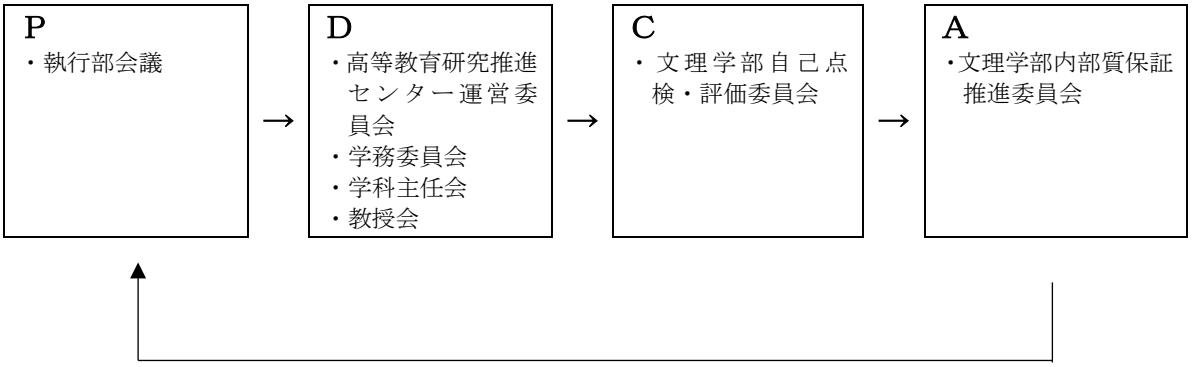
【提言（改善課題）】

学習成果の測定・把握については，アセスメント・テストに限定されており，十分に多面的な把握がなされていないことが令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で指摘されている。基準２は基準４と相互に関連するため，文理学部内部質保証推進委員会が主導し，測定方法の多様化を進めるよう改善が求められる。また，外部評価については，令和６年度後学期に実施予定であるが，令和３年度から令和５年度までの期間では実施されていない。基準２においては，定期的な点検・評価を通じて教育の質を保証することが求められるため，学部内の内部質保証推進委員会が主導し，外部評価を計画的かつ継続的に実施することが望まれる。

学習成果の測定・把握の方法が，アセスメント・テストのみだったが，文理学部自己点検・評価委員会からの改善検討事項の報告を受け，文理学部内部質保証推進委員会において検討し，学外者による外部評価を実施することについて共有を行い，執行部会議の承認を経て令和６年度末に学外者による外部評価を実施した。今後も本評価結果の内容によらず，文理学部内部質保証推進委員会において，外部評価内容の見直し等を行いながら定期的な実施を検討していく。また，測定方法の多様化という趣旨にのっとり，毎年度実施していた「授業改善のためのアンケート」の学科別・授業類型別など，授業科目別以外の結果も学部内共有するように改善を行った。また，「学生が選ぶ文理ティーチング・アワード」など主観的な評価方法も，参考資料として活用できないか検討している。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育面については，月に１回又は２回開催している学科主任会において，学部学科組織の適切性について定期的に点検・評価を行っている。諸問題が生じた際は，学部執行部と連携し対応に当たっている。また，文理学部内部質保証推進委員会から必要に応じ教学ＩＲ推進委員会に対し，学務委員会と連携し教学ＩＲを適切に機能させている。

研究面については，文理学部では研究委員会だけでなく人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所にそれぞれ運営委員会が設置されており，研究委員会と付置研究所運営委員会が連携し審議している。また，毎年度末には全教員を対象としたモニタリング調査を実施しているほか，随時，研究委員会委員長（研究担当），研究委員会副委員長及び研究事務課で点検及び一定の評価を行っている。

なお，学科や研究所の新設，学科の改組等については，執行部で検討されており，令和７年度においては，新しく高等教育研究推進センター運営委員会を設置し，より多角的な視点で学科や研究所の新設，学科の改組等について意見集約に努める段階である。

その一環として，９月合同教授会前に外部講師による講演会「文理学部の現状分析と将来予測」を，ＳＤ研修として実施した。

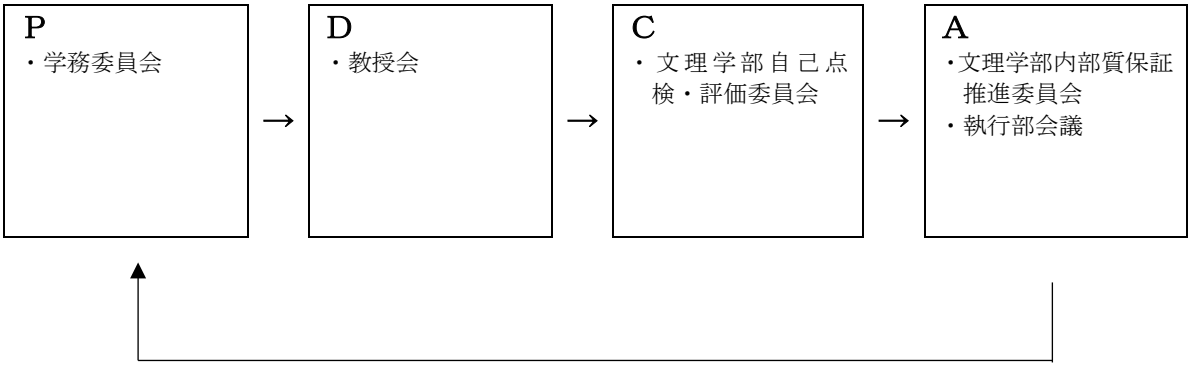
学部の将来に関わるため，拙速な結論にならないよう，教学ＩＲ推進委員会等が分析する客観的データを執行部の前提資料として活用し，引き続き丁寧な検討をしていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

学務委員会において，教育課程の改善・見直しを行っている。

令和７年度より新しいカリキュラムが開始されたが，改正に当たっては，学部執行部や高等教育研究推進センター運営委員会と学務委員会で意見交換を行い，また，学生に対してアンケートを実施するなど，学生・社会のニーズにも配慮したカリキュラムとした。

現在，今後の教育課程の改善・見直しに向けて，情報を収集している段階である。今後，得られた情報を教学ＩＲ推進委員会や文理学部自己点検・評価委員会等と共有し，改善・見直しに向けて活用していく予定である。

なお，高等学校学習指導要領の改訂や中央教育審議会の答申など，大学教育を取り巻く環境の変化等により，必要に応じ柔軟に対応していく予定である。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

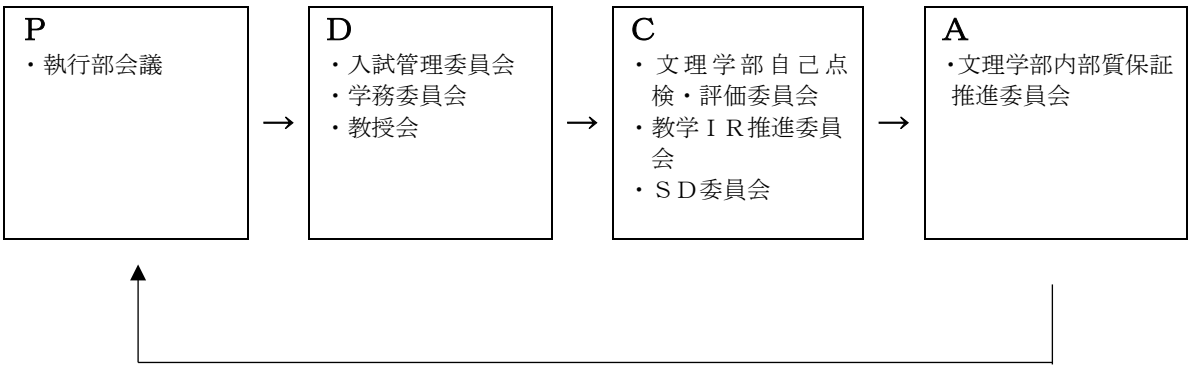
学部での自己点検・評価結果及び全学自己点検・評価結果において，改善・向上すべき事項がある場合は速やかに文理学部内部質保証推進委員会と共有し，執行部会の承認を経て，関係委員会に対し，改善・向上に向けて検討・依頼を進めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

入試管理委員会で募集人員，入試方式等の検討を行い，実績により検証を行っている。また，データ処理委員会において，志願者・受験者・合格者の成績等各種統計データを分析し，合格者判定等の支援・方針を策定している。くわえて，文理学部自己点検・評価委員会，文理学部内部質保証推進委員会で，学部での多角的な検証を実施している。

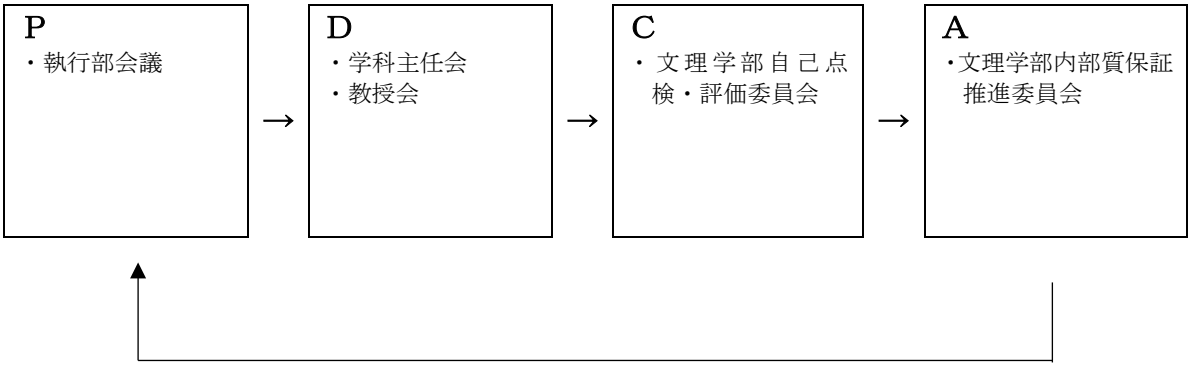
令和７年度は，高等教育研究推進センター運営委員会の学科等将来構想ワーキンググループからの諮問を受け，ＳＤ研修の一環として，「文理学部の現状分析と将来予測」と題して講演を行った。これにより，文理学部の現状を学部全体で共有し，学科の垣根を超えて幅広い意見・アイデアを集約し，文理学部の将来構想の検討の契機を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

法人が定める「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」に基づき，毎年度，学部独自に各職位の人数・年齢及び性別構成等を含む多様性に考慮し，教員配置計画（学科・専攻）を作成し，執行部会議において，将来にわたり大学設置基準等の基準を下回ることのないよう，かつ人件費を抑制することの両立を目指し人事計画を定めている。なお，その際に，計画どおりに人事計画が進行しないことも発生するが，その状況が複数年継続することのないよう，執行部会議にておいて確認を行っている。また，現在法人において検討されている特別教授制度（仮称）及び基幹教員制度の動向に注視し取り組んでいる。

なお，文理学部においては，各専門領域における 18 学科を設置しているが，絶えず変化と改革を促すことが必要であることから，学科に属さない総合文化研究室を設置し，教員を目指す学生のための支援や留学生・留学希望者・外国語学習者への支援のため各センター（教職センター，グローバル教育研究センター）に専任教員を配置するなどの取組を行っている。

令和７年度においては，組織のスリム化及び教員の負担減のため，国際交流委員会の機能をグローバル教育研究センターに統合できないか検討を行うなど，可能な部分から改善・向上を行っている。

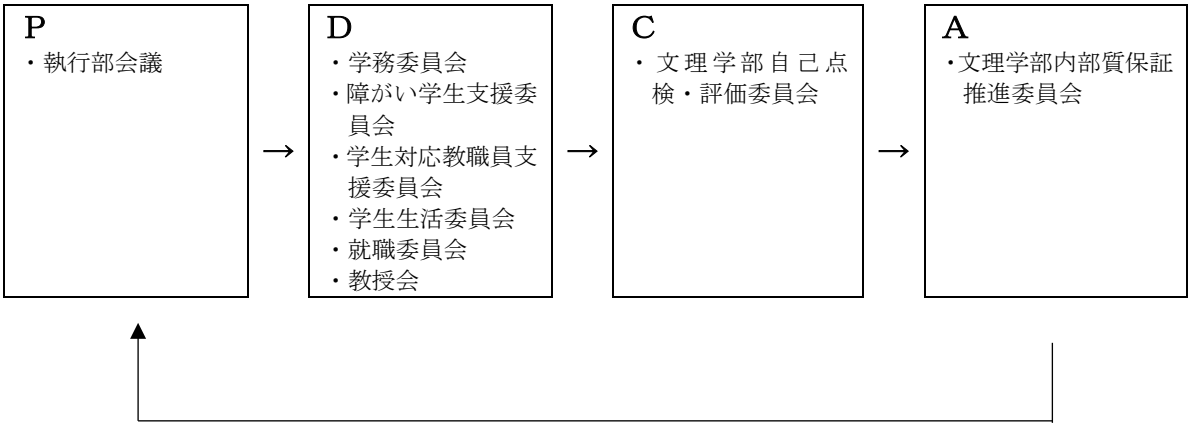
文理学部自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部長の諮問機関として学生生活委員会を設置し，学生生活及び支援に関する事項について協議している。学生生活委員会では，学部行事・サークル活動及び奨学金等全般について協議等を行っている。また，前学期・後学期に１回ずつ学生生活に関する講演会を実施し，学生全体への注意喚起を行っている。

合理的配慮を求める学生からの申出は，「学生支援室窓口」が窓口となっている。

コーディネーターが調整役として，学生のニーズを聞き取り，必要に応じて臨床心理士によるカウンセラーに意見を求め，申出のあった学生の支援者を集めての関係者カンファレンスの開催，「障がい学生支援委員会」で審議の後，合理的配慮の提供が開始される。

合理的配慮の実施状況は学生にモニタリングを行い，その結果適切に配慮されていない場合は「障がい学生支援委員会」に報告し，対応及び調整が行われる仕組みを確立している。

また，合理的配慮を実施した教職員及び関係者にもモニタリングを行っている。

令和６年度の課題であった後学期の合理的配慮の決定（支援開始）のずれ込みは，後学期授業が始まる前（夏季休業期間）から受け付けができるように変更し，後学期授業開始第１回目から支援が開始できるように改善を行った。

また，全学科の教員が委員に属する学生生活委員会で，その他の学生支援の関係する委員会の課題等を集約できないか検討をしている。

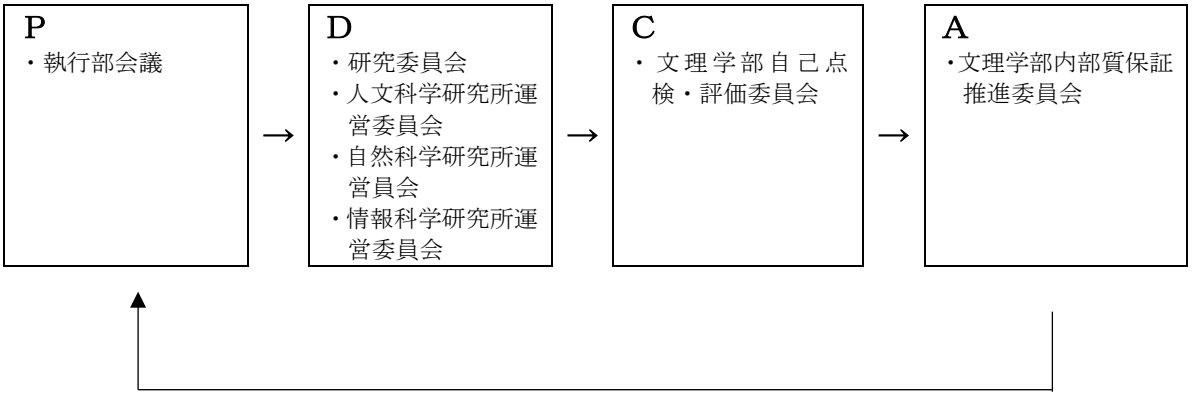
文理学部自己点検・評価委員会が令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部は，研究委員会を設置し，「研究支援・促進体制の整備充実並びに高度化その他学術研究に関する重要事項を審議する」ことが規定の任務の一つとされている。

また，文理学部は，人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所の三つの研究所に運営委員会を設置し，各運営委員会が事業計画や研究費の審議を行うことが既定の任務の一つとされている。

そのため，研究等環境に関わる事項は，研究委員会のみならず，三研究所の運営委員会においても発議され，審議される体制となっている。

これにより，文系学科と理系学科が併設される文理学部にあっては，各委員会がそれぞれの分野での問題点等を発議することによって，検討がなされ，改善を図っている。

令和７年度は，科学研究費助成事業の機関管理に関する改正を行った。これまで前任の研究機関で科研費の研究代表者であった研究者が，当該研究の研究期間の途中で本学の研究員等となった場合，日本大学大学院文学研究科，総合基礎科学研究科及び理工学研究科地理学専攻を修了又は満期退学した者でなくても当該科研費の移管及び本学部在職期間における機関管理をできるように改正した。これにより，本学部の研究活動を更に活性化させるとともに，優秀な若手研究者の確保及び育成できるよう改善している。

文理学部自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達

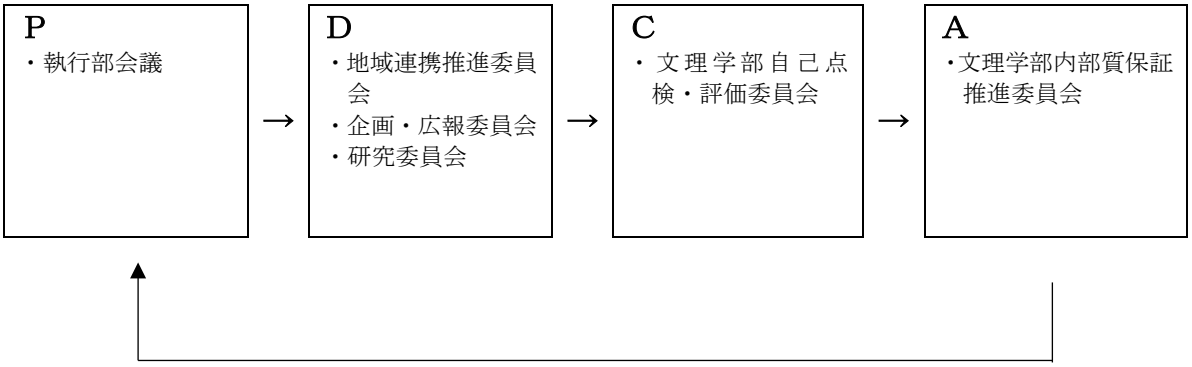
成できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

課題として，教職員が行っている様々な社会連携・社会貢献活動の情報集約する場がなかったため，その機能を果たすため地域連携推進委員会の諮問事項として落とし込みを行った。また，企画・広報委員会が，教職員から集まる活動成果を学部ホームページ等で発信し，アクセス数などから社会から需要に応えられているか確認している。

令和７年度は，地域の小中学生向けに，大学の教育研究活動の社会還元を目的とした「体験フェア～キッズチャレンジ～」を学園祭期間に初めて実施し，より積極的な社会貢献活動を行った。上記イベントのアンケート結果を学科主任会でも共有し，未参加の学科にも次年度以降参加を促し改善を予定している。様々な活動を学部執行部に十分に共有できていなかったので，本年度の事業が終了した段階で，会議上程し，情報共有及び活動への理解を促進して，ブラッシュアップしていく。

また，次年度は学部ホームページ更新時期のため，教員のメディア出演情報・プレスリリースなど更新頻度が少なく他の情報に埋もれがちな社会連携・社会貢献活動の好事例を Top ページで発信できるよう改善を予定している。

文理学部自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

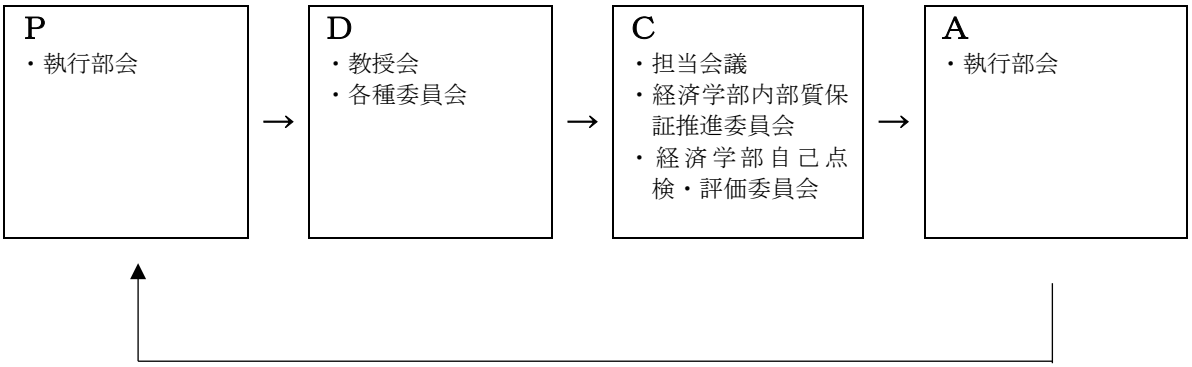
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　経済学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証体制として，学部の運営方針や改善計画を執行部会にて立案する（Plan)。その方針に基づき，教授会における審議・決定を経て，各種委員会等が具体的な教育研究活動や業務を遂行する（Do)。これらの活動状況については，担当会議で各種委員会の運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check)。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な改善事例として，外部評価結果への対応が挙げられる。外部評価者が作成した外部評価報告書を経済学部内部質保証推進委員会において点検・評価した際，学務・学生生活に関する課題が指摘された。これを受け，経済学部内部質保証推進委員会から学務担当（学務委員会)・学生担当（学生生活委員会）へ改善策の検討を指示した。その後，各委員会から提出された改善案が執行部会に諮られ，学部としての具体的な対策が決定・実行された。

その一例として，近年，スマートグラスや超小型イヤホン等のウェアラブル端末，生成ＡＩ

を悪用した不正行為の手口が巧妙化している現状を踏まえ，執行部会から学務担当に対し，最新の不正行為に関する情報収集及び対策の強化を指示した。これを受け，学務委員会で従来の不正行為への対応のほか，使用禁止デバイスの明確化や最新のデバイス特性を踏まえた具体的な未然防止策を検討している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

三つの方針の検証については，現時点において会議体での取組が行われておらず，点検・評価や改善にかかる活動が確認できないことから，是正が必要である。ただし，今後，経済学部内部質保証推進委員会等において検討及び改善を行う体制を整備する方針が示されているため，速やかに具体的な取組へと移行するよう是正されたい。

【提言（改善課題】

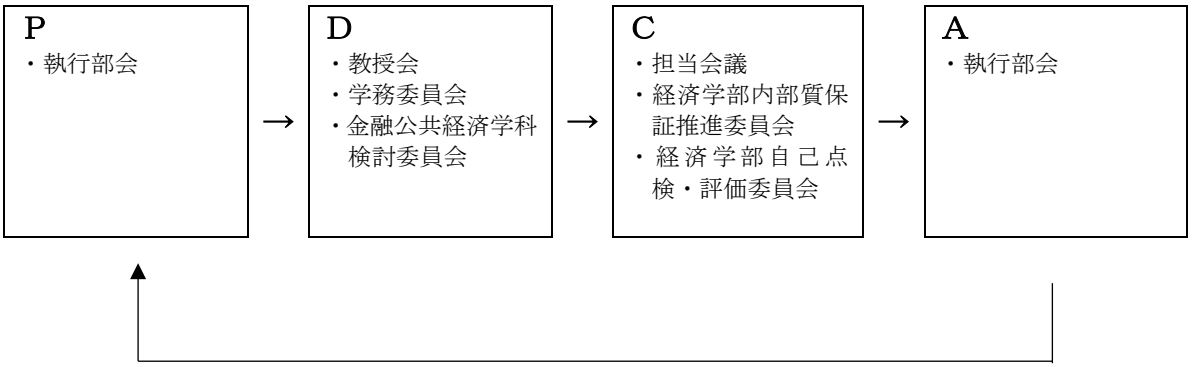
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握がアセスメント・テストに限定されており不十分」であると指摘されている。基準２は基準４と相互に関連するため，経済学部内部質保証推進委員会が主導し，学習成果の測定方法を多面的に整備・拡充し，教育改善に活用できる体制を構築するよう，改善が求められる。

「令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果」で付された提言（是正勧告，改善課題）への対応について，経済学部内部質保証推進委員会において，指摘内容の事実確認及び検討を行った。その検証結果に基づき，経済学部内部質保証推進委員会名をもって，指摘事項に関連する学務担当（学務委員会）及び入試管理委員会委員長に対し，提言（是正勧告，改善課題）と検証所見に係る現状の課題分析及び具体的な改善策の策定を指示した。今後は，各担当部署から提出される改善計画に基づき，ＰＤＣＡサイクルを回しながら改善・向上を図っていく予定である。

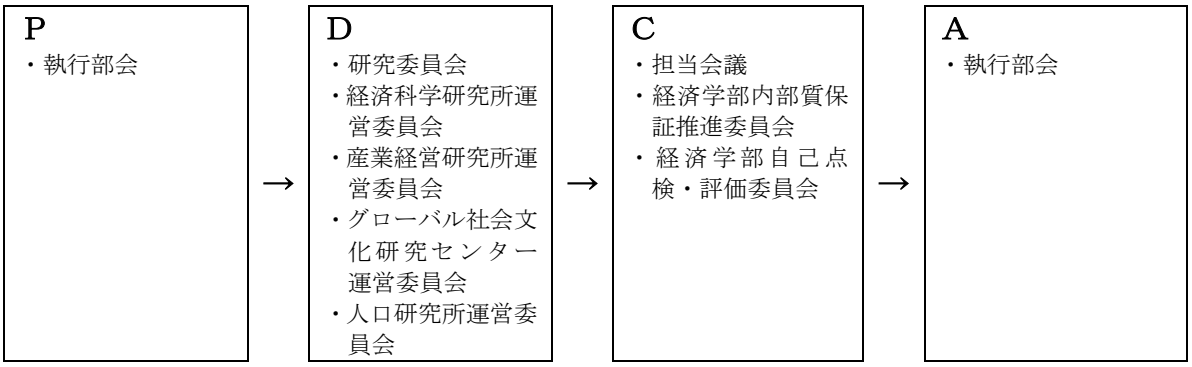
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育組織に関する事案】



【研究組織に関する事案】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育組織に関する事案については，学科の改組等を含めた教育組織の方針を執行部会で立案の上（Plan），その方針に基づき学務委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている

(Do)。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check)。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる教育組織の適正化に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

平成 20 年に新設された金融公共経済学科においては，令和４年度以降，収容定員の未充足状態が継続している。この状況に対処すべく，令和７年度に金融公共経済学科検討委員会を設置した。同委員会及び学務委員会が金融公共経済学科の教育内容や昨今の志願動向を総合的に検証し，カリキュラムと収容定員の見直しを含めた検討を行い，改善方針を取りまとめた。

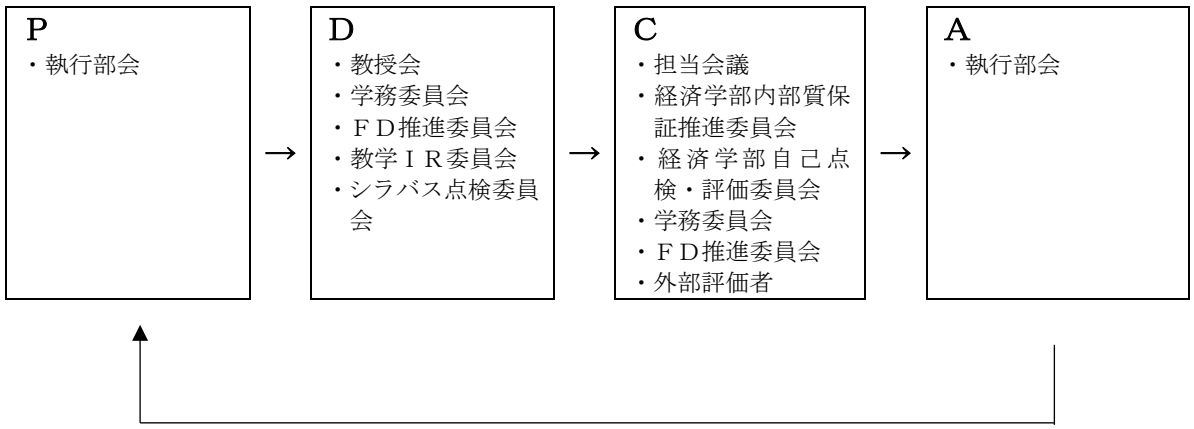
研究組織に関する事案については，執行部会を中心に，現状の問題点，課題を抽出の上，運営方針を立案し（Plan)，研究委員会，各研究所・研究センター運営委員会を経て，計画を具体化・実行している（Do)。また，これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価した（check）上で，執行部会が改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑤1　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法等に関する方針は，執行部会で立案（Plan）し，その方針に基づき学務委員会，ＦＤ推進委員会，教学ＩＲ委員会又はシラバス点検委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている（Do)。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check)。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる教育組織の適正化に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

学務委員会では，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を評価の基準とし，教育課程の内容等が適切であるか年に１度の周期で自己点検・評価を実施している。

ＦＤ推進委員会では，半期ごとに「学生による授業アンケート」を実施し，その結果を教員にフィードバックしている。学生からの指摘に対して，教員は「授業改善計画報告書」の作成を義務付けられており，個々の授業改善につなげている。また，毎年教員が，他の教員が行う授業を聴講する機会「学部内公開授業」を設け，聴講した教員に対してアンケートを実施し，その結果を授業担当教員にフィードバックして教育内容や教育方法等の改善に役立てる仕組みとなっている。

さらに，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等の適切性については，外部評価者（学外の有識者）による点検・評価を年に１度の周期で実施し，その結果を学務委員会及び経済学部内部質保証推進委員会に報告することで，客観的な視点も導入している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学務委員会では，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を評価の基準とし，教育課程の内容等について自己点検・評価し，その結果を次年度の学部要覧やシラバス等の改定に活用している。

ＦＤ推進委員会では，教育方法の改善に関しては，前学期及び後学期に実施する「学生による授業アンケート」の結果を教員へ個別にフィードバックしている。これを受け，教員は学生からの指摘に対する具体的な改善策（教材の見直しや教授法の変更等）を「授業改善計画報告書」として作成する義務を負い，教育内容や教育方法の改善に活用している。また，「学部内公開授業」を参観した教員が記載したアンケートは，授業担当教員にフィードバックすることにより，教員目線による教育内容や教育方法の改善に役立てている。

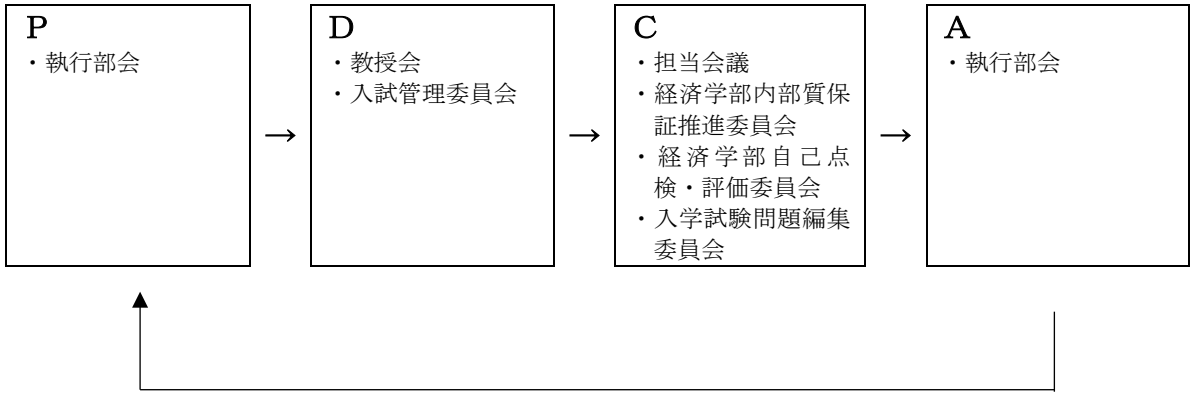
さらに，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等の適切性については，学外の有識者による外部評価の結果を学務委員会及び経済学部内部質保証推進委員会へフィードバックし，教育課程等の改善に活用している。令和７年３月に実施した外部評価によって指摘された教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等に対する事項については，学務委員会で対応策を検討し，改善に向けた見直しを進めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れ方針については，執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき入試管理委員会が志願者の動向等を踏まえ，試験制度，入試区分ごとの募集人員及び学校推薦型選抜（指定校制）（以下「指定校制」という）の高校選定の見直しなどを行っている（Do）。

試験問題については，校正を複数回行うとともに，試験の前後に異なる外部機関に秘密保持を含む業務委託契約を交わした上で，試験問題の事前・事後チェックを依頼し，出題の誤り防止に努めると同時に問題の適切性について外部評価を取り入れている。

また，入学試験問題編集委員会，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる適正化に向けた改善策を策定し，次年度以降の入学者選抜（制度）改革に反映させる（Action）体制を整えている。

改善・向上を図った事例等については，定員割れが続く金融公共経済学科の状況を踏まえ，経済学部内部質保証推進委員会から入試管理委員会委員長に対し，要因を分析の上，定員管理の適正化に向けた具体的な改善策の検討を指示した。これを受け，入試管理委員会で以下３点の改善を行った。

(1)　金融公共経済学科のみに，付属高等学校を対象とした指定校制を設けた。

(2)　付属特別選抜において，付属高等学校ごとに設けた学科ごとの定員を充足した場合，金

融公共経済学科のみに２名の追加枠を設けた。
(3)　令和８年度総合型選抜から，論文・プレゼンテーションによる選考を廃止し，探究学習評価型を導入した。

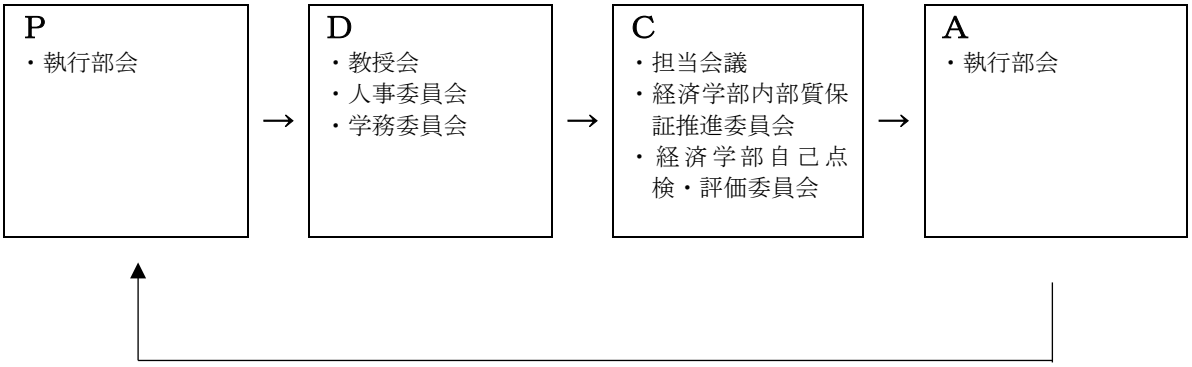
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，金融公共経済学科が 0.88 と低いため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

「令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果」で付された提言（是正勧告，改善課題）への対応について，経済学部内部質保証推進委員会において，指摘内容の事実確認及び検討を行った。その検証結果に基づき，経済学部内部質保証推進委員会名をもって，指摘事項に関連する入試管理委員会委員長に対し，提言（改善課題）と検証所見に係る現状の課題分析及び具体的な改善策の策定を指示した。オープンキャンパスや学校訪問等により積極的に金融公共経済学科の魅力を発信しているものの過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が 1.00 に満たない現状に鑑み，入試管理委員会において，広報戦略の適切性の分析や付属高等学校や予備校からの情報により志願動向を収集し，学科の魅力が受験生に正しく伝わっているのかなどを検証するなど，ＰＤＣＡサイクルを適切に循環させた上で，改善していく。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㉘　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学設置基準や長期的な人事計画に基づき，学部等教員組織編成方針及び教員配置計画を執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき学務委員会及び人事委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている（Do）。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる教員組織の適正化に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

改善・向上を図った事例として，経済学部人事関連内規等の改正が挙げられる。従来の内規等が実態に即したものではない点や「教員資格審査規程」を満たしていない点等の指摘があり，人事委員会が現行に即した専任教員採用の審査プロセスの整理，採用と昇格・再任の分化，「教員資格審査規程」第３条の導入及び審査基準の改善を行った改正案を作成した。担当会議及び執行部会を経て，教授会で審議・決定し，令和６年度から運用を開始した。これにより，人事手続の透明性・公正性の向上を実現している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ＳＡに対する体系的なガイダンスや研修は実施されておらず，業務に必要な基本的な心構えや教育補助者としての役割理解，ハラスメント防止や守秘義務等に関する共通理解の機会が不足している点は改善が求められる。

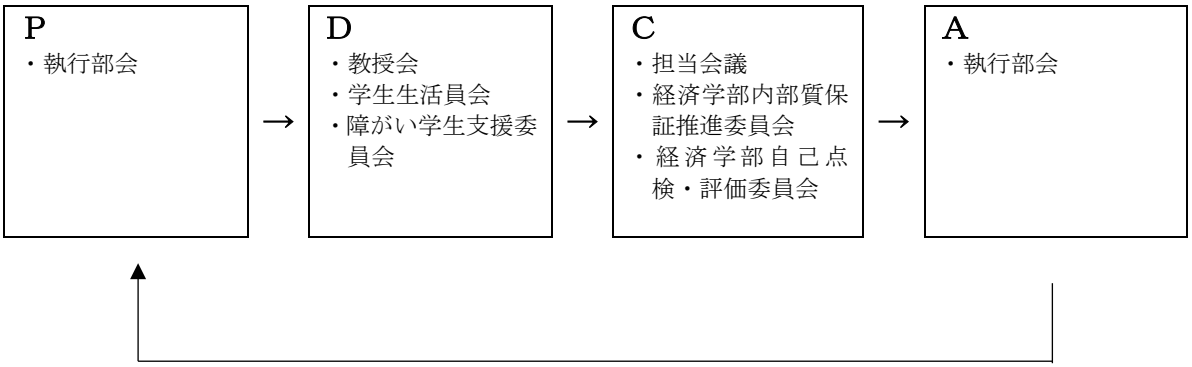
令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（改善課題）にて「ＳＡに対する体系的なガイダンスや研修は実施されておらず，業務に必要な基本的な心構えや教育補助者としての役割理解，ハラスメント防止や守秘義務等に関する共通理解の機会が不足している点は改善が求められる。」と指摘された。

この提言に対し，教務課員がＳＡに対して個別に業務内容・役割や守秘義務等の説明を対面指導により行っており，さらに令和７年度から研修動画（ＳＡの役割・業務内容や心構え，各種ハラスメント防止，守秘義務及び個人情報・情報セキュリティの適切な取扱いに関する注意事項，教員補助や学生支援を行う上での留意事項などＳＡとしての基本事項を体系的に理解できる動画）の視聴を義務付け，併せて視聴後に研修内容の理解度アンケートを実施し，研修内容が確実に理解できたことを確認している。

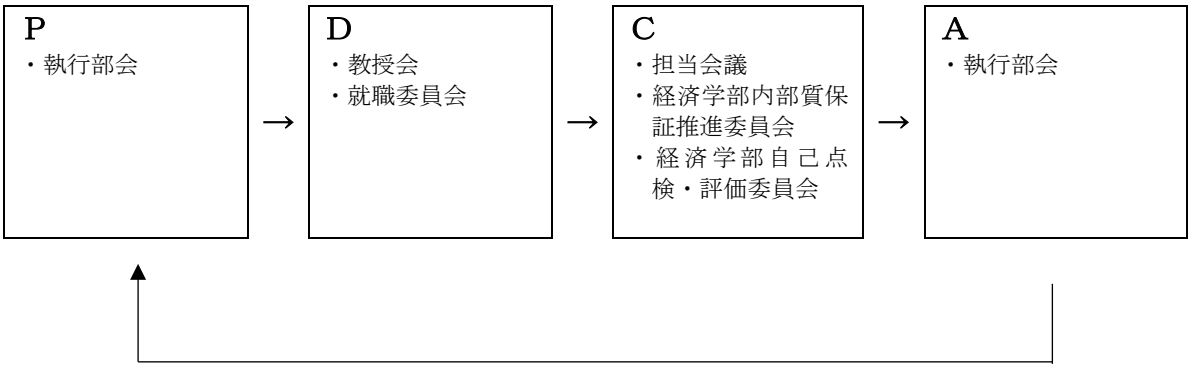
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活に関する事案】



【進路選択に関する事案】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活に関する事案については，学部の方針を執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき，課外活動や各種奨学金などの学生生活全般に対する支援を学生生活委員会，合理的配慮の提供や障がいのある学生への支援を障がい学生支援委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている（Do）。これらの活動状況については，担当会議で運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題

解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な改善・向上を図った事例として，外部評価結果への対応が挙げられる。学外者による外部評価報告書で指摘を受けた事項に基づき，経済学部内部質保証推進委員会では，改善事項として「部活動・サークル活動支援の姿勢」及び「学生を対等な教育パートナーと捉えた支援の在り方」が示された。これらの指摘事項に対し，学生生活委員会では，学生サービスの質向上を目的とし,「学生のニーズや期待に寄り添った窓口対応や親しみやすい案内や明確な手順を提供する」及び「学内イベント等で学生が主体的に意見を述べることができる環境や意思決定に関与できる環境を整える」等の改善案を提示し，執行部会に諮られ，学部としての改善に向けた取組方針が示された。

また，障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供義務化を受け，執行部による体制強化の指示に基づき，令和６年度から学生支援窓口の拡充を行った。具体的には，学生支援窓口に社会福祉士２名・看護師１名の計３名による有資格者体制を整備し，合理的配慮の円滑な提供及び入学から卒業まで，きめ細やかで一貫した支援が可能となった。

進路選択に関する事案については，学部の方針を執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき就職委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている（Do）。これらの活動状況については，担当会議で運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

改善・向上に取り組んだ事例としては，障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供義務化を受け導入した「修学上の合理的配慮が必要な学生のキャリア相談」が挙げられる。これは，就職指導課と学生支援室（学生支援窓口）が連携し就職支援を行う学部の方針を就職委員会で具体化したものである。相談には，キャリアコンサルタント及びメンタルヘルス系の有資格者，障がい者支援業務経験のあるカウンセラーを配置し，学生支援窓口と連携して一人一人の状況に応じたきめ細やかな就職支援体制を整えた。

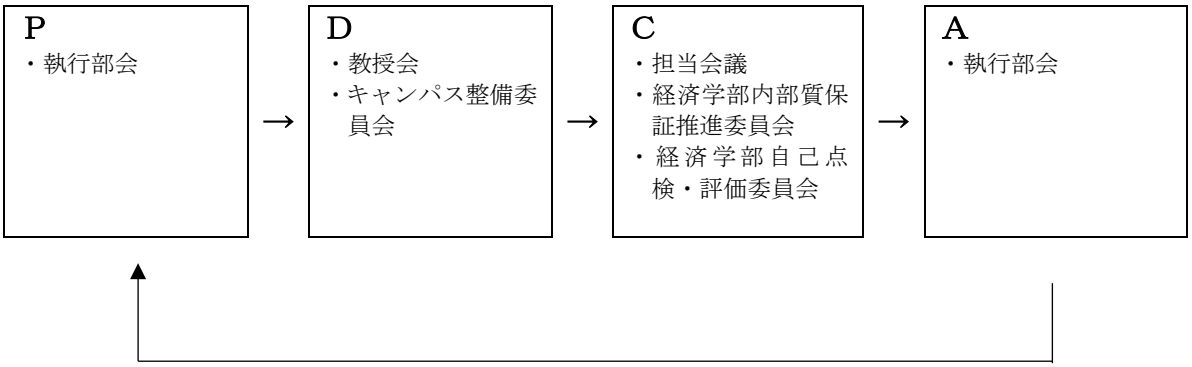
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

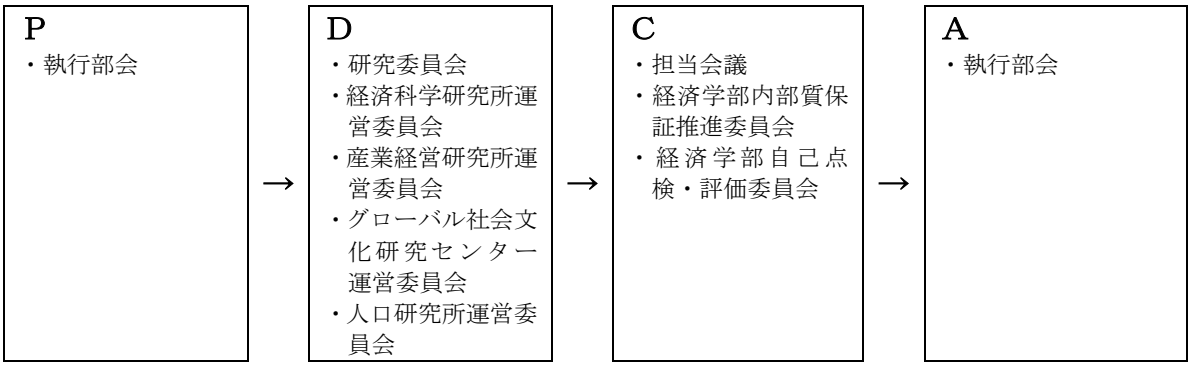
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究室等の施設・設備に関する事案】



【研究費等に関する事案】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

経済学部では，研究室等の施設・設備関する事案については，運営方針を執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき教授会における審議・決定を経て，キャンパス整備委員会で計画を具体化・実行している（Do）。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課

題解決や更なる環境向上に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

令和７年９月に竣工した本学部２号館の事例を挙げると，当初の計画では，各教員の研究室への洗面台の設置は検討されていなかったが，設計段階における検討・検証の過程で，コロナ禍を経て定着した新しい衛生基準や社会情勢の変化を踏まえ，個室内での手洗い・うがい等，衛生環境の確保が必要との意見があった。これを受け，執行部会及びキャンパス整備委員会で計画の見直しを行い，全研究室への洗面台の設置を決定・実行した。この変更により，感染症対策が強化されるとともに，研究活動における教員の安心・安全が確保され，より研究に専念できる環境の構築につながっている。

研究費等に関する事案については，研究する上での現状の問題点，課題を抽出の上，執行部会を中心に運営方針を立案している(Plan)。研究委員会，各研究所・研究センター運営委員会を経て，計画を具体化・実行している（Do)。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価した（Check）上で，執行部会が改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的事例として，リサーチ・ラボの開設当初，利用管理システムの導入は検討されていなかった。しかし，担当会議の点検・評価の過程において，予約システムの必要性について懸念が挙げられた。これを受け，研究委員会にて再検討を行った結果，システムの導入を決定・実行した。導入後は，利用者予約状況を随時確認できるようになったことで利便性が向上し，研究活動の活性化につながっている。

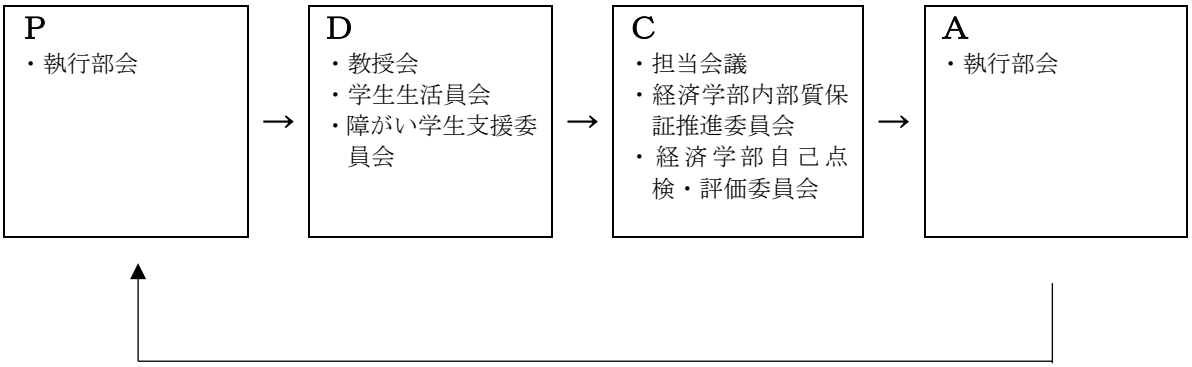
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

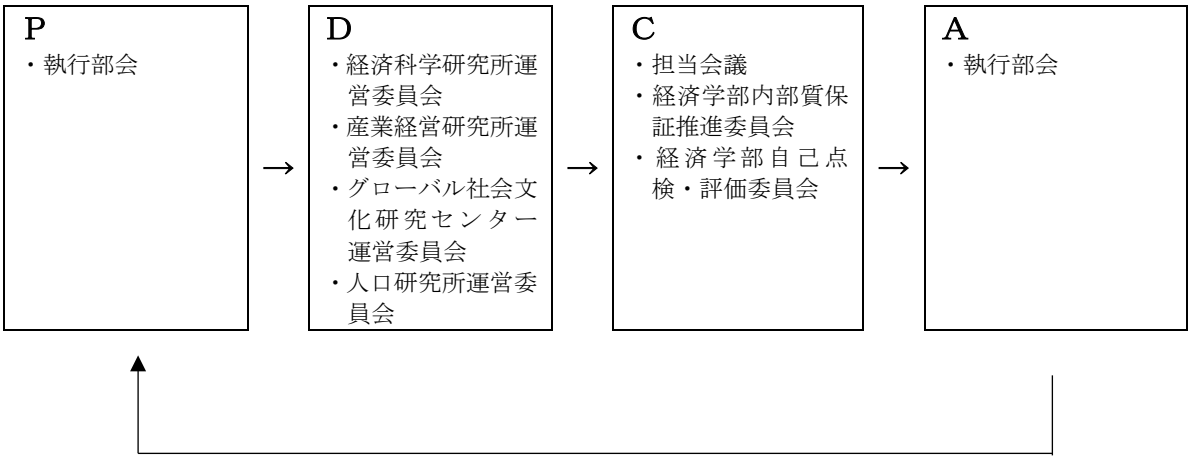
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活に関する事案】



【研究に関する事案】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献において学生に関わる事項については，学部の方針を執行部会で立案し(Plan)，その方針に基づき学生生活委員会や障がい学生支援委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている。その上で，学生課又は学生支援窓口が，千代田区や千代田区社会福

社協議会，ＮＰＯ法人，神田警察署等と連携し，ボランティア活動を含む社会貢献活動や地域連携を遂行している。これらの活動状況については，担当会議で運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check)。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な改善・向上を図った事例として，学部長が定めた「社会課題解決型学部実現に向けた方針」への対応が挙げられる。この方針を受け，学生生活委員会では，社会課題を解決するＳＤＧｓ等への取組を行う学生の課外活動への支援として，「社会課題解決型学生プロジェクト」を令和７年度に新設した。当年度は，１件の申請があり，実施に向けて千代田区と連携しながら準備を進めている。

研究に関する事案については，現状の問題点，課題を抽出の上，執行部会を中心に運営方針を立案している(Plan)。研究委員会，各研究所・研究センター運営委員会を経て，計画を具体化・実行している（Do)。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価した（Check）上で，執行部会が改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な事例として，各研究所・研究センターでは，学外の研究者や実務家を招いて講演会を開催し，地域住民を含む一般社会人にも公開している。講演会終了後には，参加者アンケートを実施し，寄せられた評価や改善要望について，各運営委員会で運用面を含めた協議を行っている。その改善策の一環として，周知強化のために千代田区内にポスターを掲示するなど改善・向上に努めている。また，運営委員会では，各教員から申請された研究プロジェクトについて，その成果が社会へ還元可能かという観点も含めて検討を行っている。これらの活動を通じ，大学の研究能力と企業・団体のノウハウを連携させた受託研究・共同研究へと発展させることを目指している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

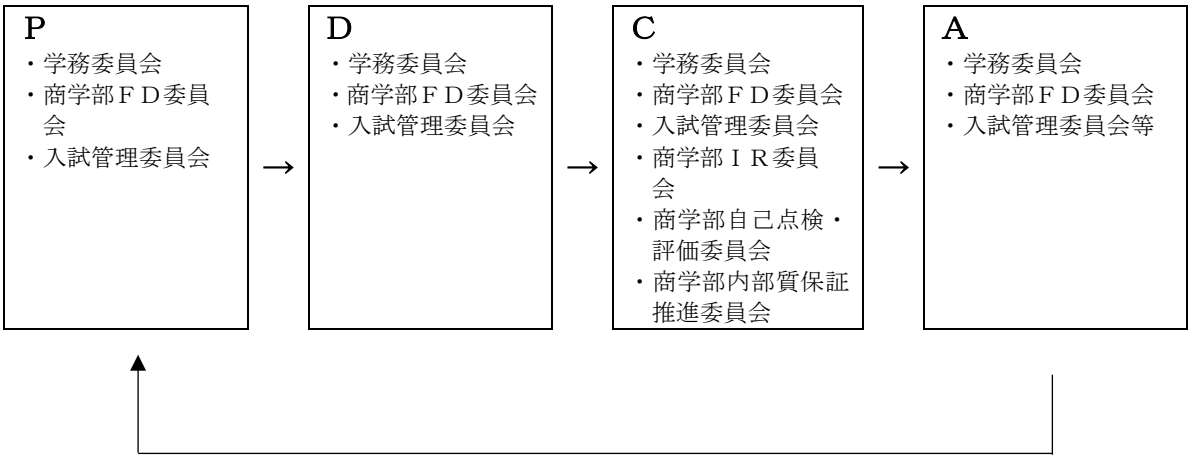
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　商学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

(1)　点検・評価の体制

内部質保証システムの有効性及び適切性に関して，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証の充実を図るため，商学部内部質保証推進委員会が中心となって，商学部自己点検・評価委員会，学務委員会及び商学部ＦＤ委員会等と協力しつつ，本学部の教育・学修等が理念・目的をはじめ，商学部における３つのポリシーなどに照らし，どの程度到達しているか等を検証し，教学の質を保証できるよう対応している。

(2)　改善事項への対応

自己点検・評価及び監事監査の結果，商学部が独自で行っている商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価の結果を，商学部内部質保証推進委員会で総合的に検証した上で，教育課程の編成などの学務事項は学務委員会，教職員のＦＤ活動の活性化等については商学部ＦＤ委員会，入学者選抜事項は入試管理委員会，学習者のラーニングアウトカ

ムを中心にデータや情報の収集・分析の上，可視化し教育改善へ寄与する商学部ＩＲ委員会，地域・社会との連携として商学部社会連携センター運営委員会などと共有し，各部署において教育活動の更なる改善を図っている。

(3)　点検・評価における外部評価の仕組み

具体的には，「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，内部評価者７名及び外部評価者３名が，以下項目において点検・評価を実施している。なお，外部評価者には点検・評価を実施する前に説明を行い，その内容を点検・評価表へ反映させている。

ア　入学者選抜（学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえると，適切に設定されているか等）

イ　カリキュラム内容（教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえると，授業科目群の構成，授業科目の位置付け〔必修・選択等〕及びバランスは適切であるか等）

ウ　学修成果（授業科目ごとに，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示された８つの能力のうちどの能力に該当しているか等）

(4)　結果の共有と改善促進

関係委員会での対応の結果を商学部内部質保証推進委員会で報告している。特に重要な改善事項については，専任教員会にて幅広く意見を聴取し，教授会での審議を経て，組織的に対応を進めている。

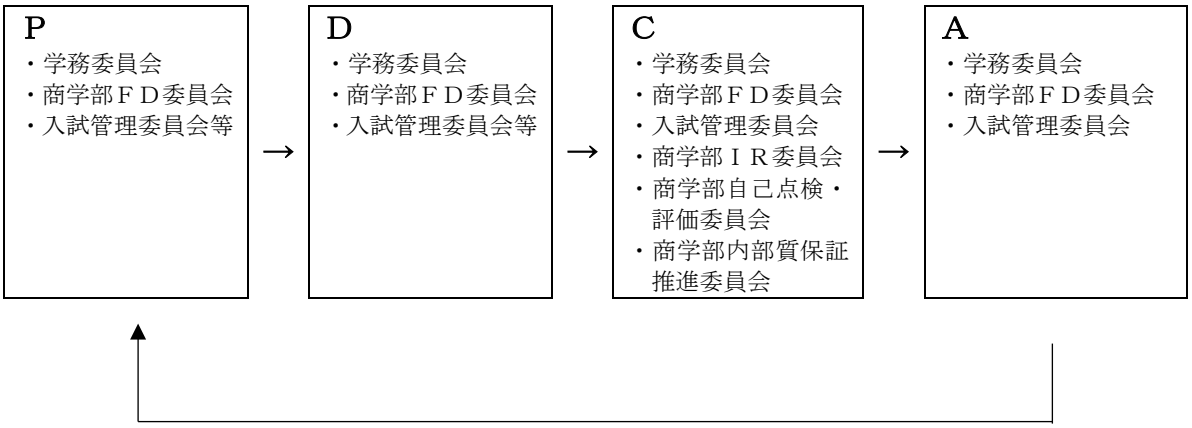
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

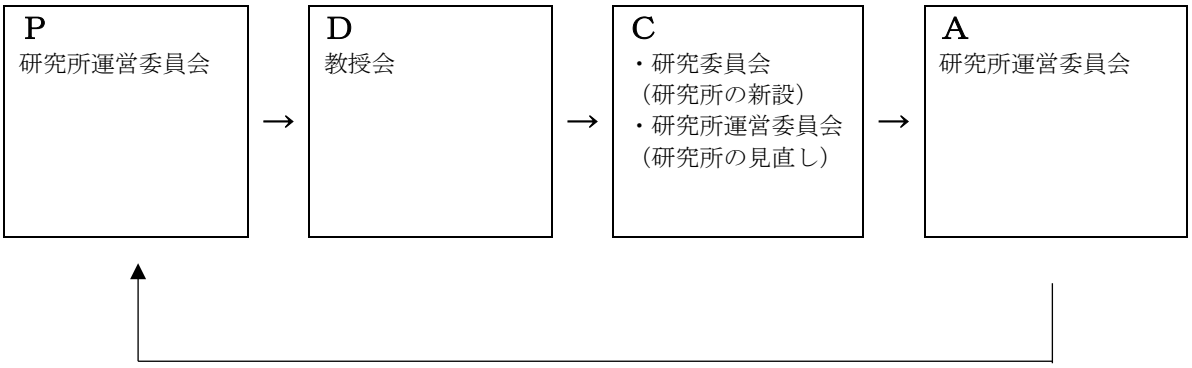
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育組織に関する事項】



【研究組織に関する事項】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織に関して，商学部内部質保証推進委員会において，本学部における教育活動の取組等に関し，３つのポリシーを踏まえた適切性に係る点検・評価を行い，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証を図ることを目的として定めている「日本大学商学部及び大学院商学研

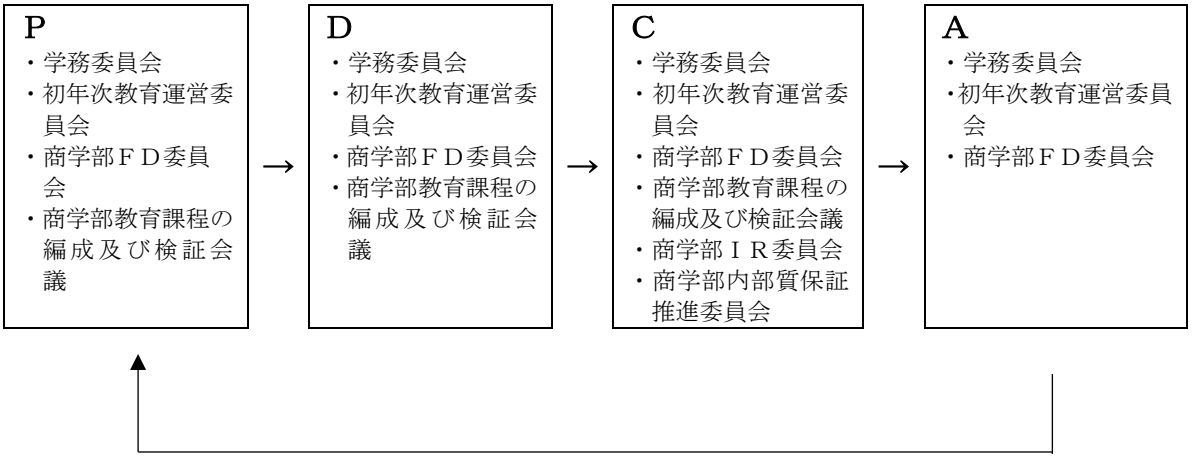
究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，毎年度点検・評価を行っている。
　なお，令和７年度改正カリキュラムに伴い，従前の「商学部コース科目担当者会議」及び「商学部総合教育科目担当者会議」を廃止し，新たに商学部における教育の質を保証し効果的な学修支援計画を立案し実行することができる組織として「商学部教育課程の編成及び検証会議」を設置した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会が中心となり，本学部における教育活動の取組等に関し，３つのポリシーを踏まえた適切性に係る点検・評価を行い，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証を図ることを目的として定めている「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，内部評価者７名と外部評価者３名による点検・評価を年１回実施し，検証を行っている。また，３つのポリシーについて，商学部教育課程の編成及び検証会議に対し，適切であるかを学務委員会から各検証会議の代表者へ確認依頼を行っており，その結果を商学部内部質保証推進委員会にて検証している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

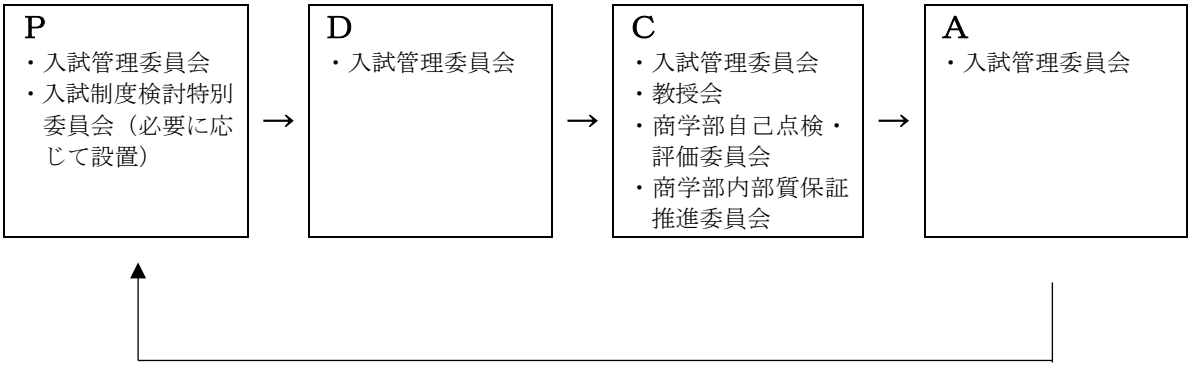
自己点検・評価結果において，商学部内部質保証推進委員会を中心にして，教育課程及びその内容に関しては学務委員会，教育改善・向上に関しては商学部ＦＤ委員会，初年次教育に関しては初年次教育運営委員会にて検証し，改善の必要がある場合は対応している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れに関わる事項について，入試管理委員会が主として定期的に点検及び評価を行っている。入学者の学力水準を維持する目的から，入学志願者状況の動向を捉えた上で，入試管理委員会が入学者選抜に係る方式，募集人員及び選考方法等を見直しており，最終的には教授会で審議し意見集約を行っている。

具体的には，大学入学模擬試験情報等を扱う外部業者からの分析結果に加え，入学者選抜の妥当性・適切性の評価として，一部の選抜方式で入学後の学業成績の情報（ＧＰＡ）等を活用している。また，より優秀な学生を受け入れることを目的とした改善策として，学校推薦型選抜（指定校制）では，本学部の指定高等学校等との関係強化に努めている。

入学者選抜の状況については，毎年度始めの専任教員会において，入試管理委員長から専任教員に対して報告を行っている。

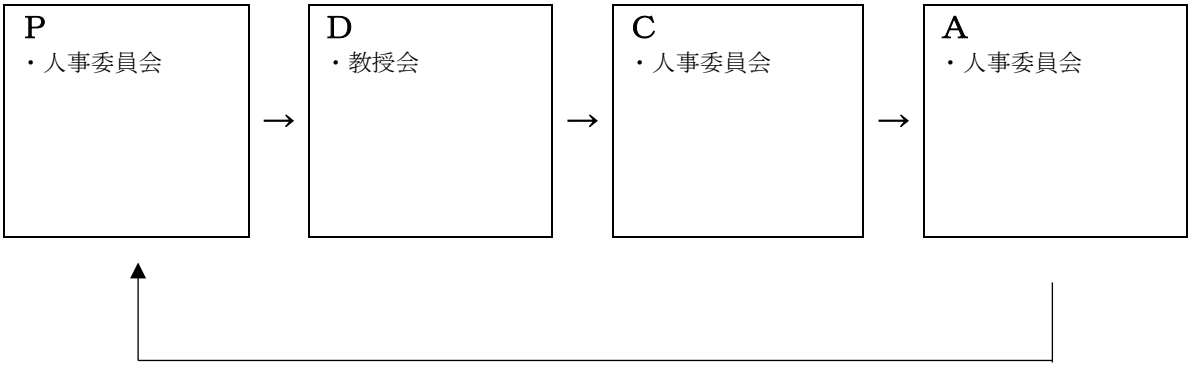
社会状況等の影響により，学部独自で入学者選抜を大幅に見直す場合は，学部長が「入試制度検討特別委員会」を設置の上で諮問し，入試管理委員会，担当会議及び教授会の審議を経て答申する。過年度の入学者選抜の大幅な変更として，令和４年度の入学者選抜で総合型選抜を導入し，令和６年度入学者選抜で外国人留学生選抜（第２期）を導入している。導入した入学者選抜の検証や社会状況の変化に対応するための小幅な変更については，入試管理委員会，担当会議及び教授会での審議を経て変更等をしている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

商学部は，教員組織を維持するための人員を確保するために，人事委員会において教員の昇格・採用を含む中・長期にわたる教員組織・人事計画を行っている。教員人事については，「商学部教員採用の取扱いに関する要項」に基づき，人事委員会で教員の新規採用に係る募集要項（採用科目等）や採用に係る教育研究業績に関する事項，「商学部教員昇格の取扱いに関する要項」に基づく昇格に関する事項，その他特任教授の委嘱や非常勤講師の新規採用等について審議し，教授会に上程している。特に，新規教員採用人事案件に関しては，人事委員会で募集要項（採用科目等）を精査し，人事委員会から教授会に募集要項（採用科目等）を上程している。教授会は，人事委員会案の妥当性・適正性を審議の上，公募を開始している。採用候補者の審査過程の透明化を図るため，人事委員会案の専門小委員，業績審査員を教授会で公表し，その妥当性・適正性を教授会で審議している。教授会の審議を受けて，次年度の教員採用等の教員人事案件を人事委員会において検討を行い，次回以降の採用計画に反映させるなど，教員組織の充実を図っている。

なお，点検・検証の結果，改善・向上を図った事例としては次のものが挙げられる。一つは，年齢構成の歪みを改善するために，助教，専任講師及び准教授を中心に新規採用人事を進め，若手教員を増員した。もう一つは，専門科目の充実・強化を図るため，過去 20 年間において専任教員が担当した科目の洗い出しを行った。その結果，直近の退職者の科目を中心とした補充人事だけではなく，専門科目を充実・強化するための新規採用人事を進めた。

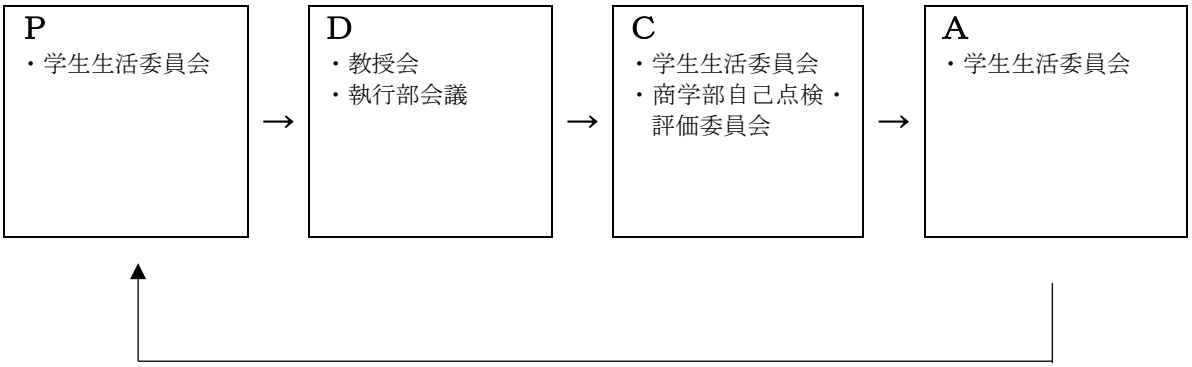
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

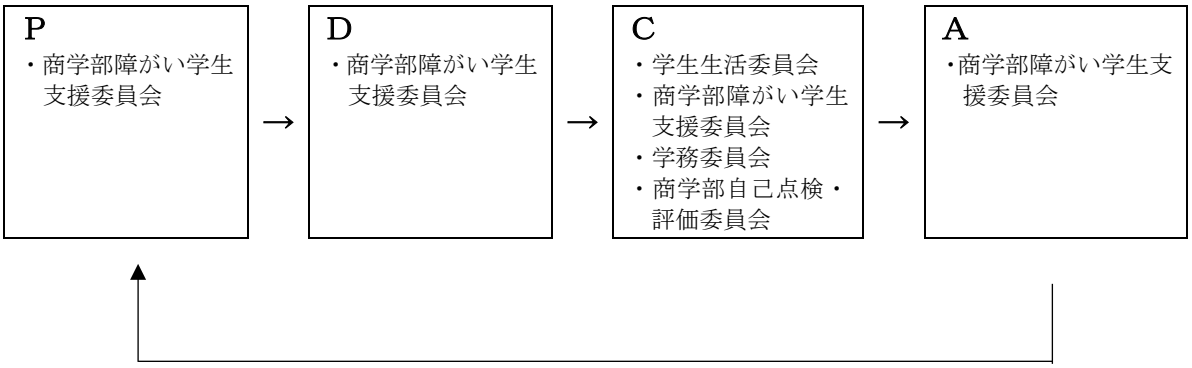
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

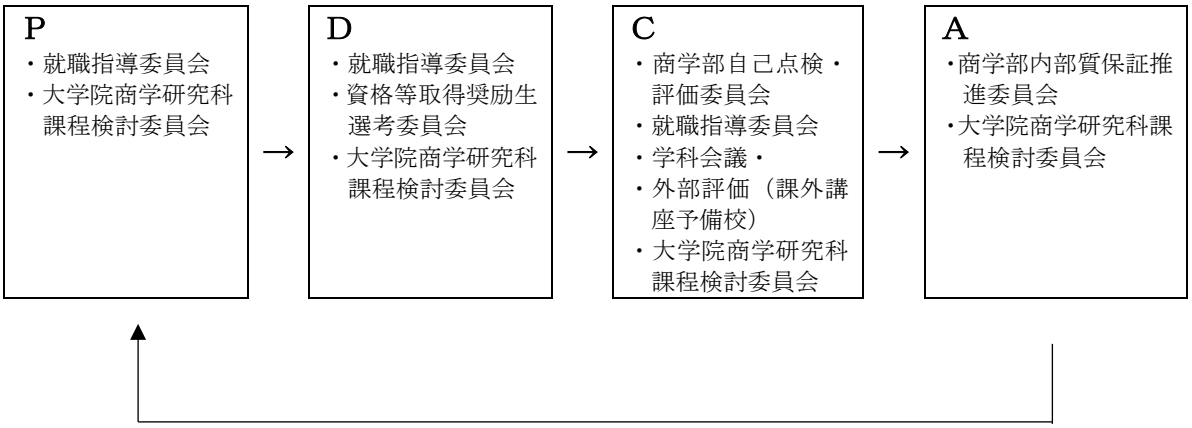
【学生生活に関する事項】



【障がい学生支援に関する事項】



【就職支援に関する事項】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取

組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項について，学生生活委員会及び商学部障がい学生支援委員会が点検・評価を行っている。学生生活の充実と安全を目的とし，学生生活での問題点を踏まえてしかるべき措置を点検・評価している。

学生生活委員会では，コロナ禍により，活動が縮小・減少してきていた学生団体の活性化を図るべく，改善策として，従来の内規では一定期間活動を休止していた団体は廃部とする内容であったところ，コロナ禍の休止期間を猶予期間として除外し，かつ各学生団体がどのような位置付けであるのかを再確認するため，令和５年度内に「日本大学商学部学生団体に関する内規」を改正し，令和６年度から施行した。また，団体活動補助費についても，申請方法を知らない団体があったことを踏まえ，年度当初に説明会を実施した。その結果，令和６年度の公認学生団体は 24 団体となり，学生団体に所属する学生は徐々に増えているものの，団体補助費の申請数は多くなく，今後の検討課題である。

また，学生の健康維持，体力増進及びストレス解消を目的として，トレーニングルームを管理運営している。各機器については，安全性を保つことを重視し，老朽化が危惧されたものについては，管財課と連携し令和６年度から３か年計画で機器の入れ替え，学生が安全，安心して利用できるようにしており，今後も学生の健康維持の観点から点検・評価を継続していく。

また，障がい学生に対する支援については，障がい学生への合理的配慮が義務化されたことにより，本学部でも商学部障がい学生支援委員会において，合理的配慮の提供や決定，点検・評価を行っている。特に修学における合理的配慮については，商学部障がい学生支援委員会において，個々の支援内容を徐々に構築することができており，各学期末の合理的配慮を受けた学生からのモニタリング満足度では高い評価を受けている。全ての希望に対して対応するのは困難であるものの，可能な限り対応し，より 100%に近づけることが今後の検討課題である。更には，年々，合理的配慮希望者は増加しており，学生と大学側の配慮における内容の認識差異が生じることもあり，各授業担当者へのオンライン授業やレポート提出による措置等の依頼により，教員の負担が増えていることから，商学部障がい学生支援委員会と学務委員会が協力し合い，障がい学生を取り巻く環境においても今後は改善に向けて効果的に点検・評価を行っていく。

最後に，前回の概評で「学生に対して，経済的支援（授業料減免，学内外の奨学金を通じた支援を除く）が未実施又は記述していない学部が散見される」とされた点について，商学部では，学生の負担軽減を図るとともに健康促進を目的として，学生に対して 100 円にて朝食を提供している。これまでは，１日に２～３メニューで常に同じメニューであったが，利用学生からの声を受け，食堂運営業者に対し予算内での日替わりメニューの提案を依頼し，更には営業時間の延長を実施した結果，現在ではより多くのメニューの提供が可能となり，学生の継続した食堂利用を支えている。令和６年度の朝食利用者数は，8,274 名であった（令和７年度は 11 月 30 日現在で 8,310 名）。

就職支援については，教学に関する基本方針に基づき，学生が主体的未来選択できるよう就職指導委員会が学部執行部と意見交換しながら，キャリア支援の充実を図っている。

令和６年度自己点検・評価報告書に記載のとおり，就職指導課員による学生面談の質向上の取組が功を奏し，学生の就職個別相談件数が，学部と大学院合わせて令和３年度 631 件，令和４年度 1,179 件，令和５年度 1,591 件，令和６年度 2,217 件と増えてきた。学生相談後のアンケートにおいて，令和５年度は大変良かった 91.0%，良かった 9.0%，普通以下 0%であったが，令和６年度は，大変良かった 96.9%，良かった 3.1%，普通以下が 0%であり，学生の悩み

解消と成長を導くことができている。

近年，有料職業紹介事業を営むエージェント会社が 20,000 社程度存在しており，学生と早期に接点を持ってしまうことから，学生の職業選択の自主性よりも各社が保有する求人に誘導して紹介料重視となってしまうことが問題になっていることが学生面談を通して確認されている旨，就職指導委員会から専任教員会において報告された。エージェント活用の功罪について就職ガイダンスや学生ポータルにおいても説明を行い，学生の職業選択におけるトラブルを回避する措置を講じた。

令和７年度に入り，より多くの学生との接点を増やし，自身のキャリアについて向き合う機会を提供したいことから，就職指導委員会において，新たに「出張就職指導課」を企画し，キャリアに関連する授業，サブゼミナール等において教職協働で学生と向き合い始めた。普段就職指導課を利用しない学生層にも自身のキャリアと向き合う機会とすることができ，その後の利用にもつながっている。

令和６年度は動画で保護者向けに就職ガイダンスを行ったが，需要が確認できたため，令和７年度には新たに対面形式にて実施している。

商学部では，公認会計士，税理士をはじめとした会計専門職を志す学生及び合格者数の向上を図っているが，その前提として，１年生の４月から課外講座である簿記３級講座受講をガイダンス等にて促し，令和６年度は 277 名の受講があった。しかし，令和７年度は 105 名まで減少した。学部長から，会計学科に会計専門職の志望者数及び合格者数を増やすための諮問があり，就職指導委員会，会計学科及び課外講座運営予備校により検証のため学生へのヒアリングを実施したところ，新カリキュラムの開始，90 分授業から 105 分授業への変化，学生の気質の変化等多様な環境の変化によるものと分析された。これを受けて，学部長判断の下，教授会まで説明し，例年実施していない 10 月開講の簿記３級講座を実施することとし，授業，ガイダンス等で再度簿記の魅力，必要性及び優位性を説明したところ，新たに 65 名の受講者が学んでいる。

続いて，大学院においては，教学に関する基本方針に基づき，大学院学生が主体的未来選択できるよう就職指導委員会が学部執行部と意見交換しながら，キャリア支援の充実を図っている。

令和６年度全学自己点検・評価報告書に記載したとおり，就職指導課員による学生面談の質向上の取組が功を奏し，学生の悩み解消と成長を導くことができている。

商学研究科においては，在籍者の９割以上が留学生という特徴があることから，令和６年度には大学院商学研究科課程検討委員会が計画し，商学部ＦＤ委員会と就職指導委員会で協働して，外国人留学生と大学院担当教員と就職指導委員会とで日本における就職と出身国における就職活動について意見交換し，お互いの状況について理解を深めた。これにより，日本における就職活動の相談，ビザ更新手続等について理解を深め，就職指導課との接点を増やすことができた。

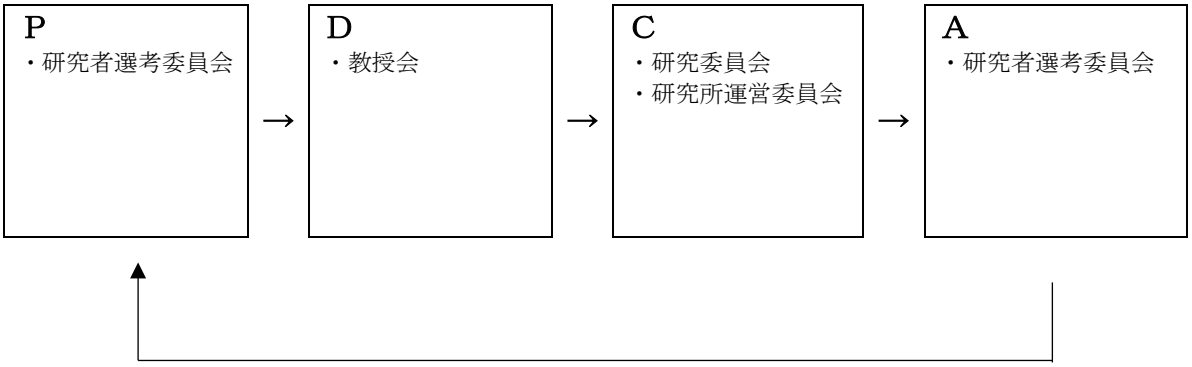
この内容は，商学部自己点検・評価委員会，商学部内部質保証推進委員会でも検証，確認され執行部が就職指導委員会と今後について検討していく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究費の給付額や共同研究の枠組みを研究委員会及び研究所運営委員会で点検・評価している。

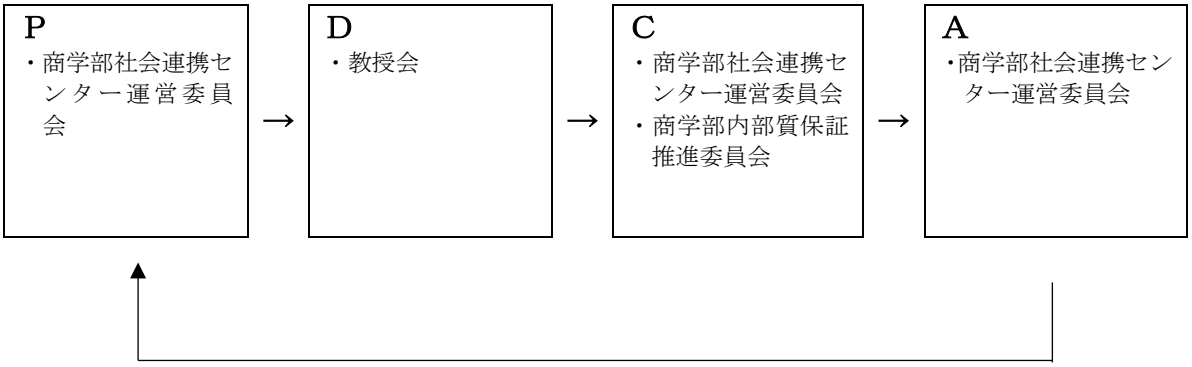
研究委員会及び研究所運営委員会で研究費を持ち寄り実施している特定・横断的プロジェクト共同研究について，近年，申請件数が少ないことから募集要項の見直しを図るとともに，将来的に外部資金獲得につながるよう検討を予定している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会は，教育活動の点検・評価に基づき，地域社会への貢献の在り方について点検・評価を行い，地域社会とのつながりを試みていることは好ましいと思われるが，地域社会にどのように周知し，広げていくかの検討が望まれるとのコメントを受けて，地域社会への周知及び拡大の課題が浮き彫りになった。

また，商学部社会連携センター運営委員会は，教職員の社会連携状況調査を実施し，その結果に基づき，個人ベースで実施していた社会連携活動（新潟ビジネス研究会での講演等）に対して，旅費等の経費を本学部から一部支給する必要性を認識した。そのため，砧祭（学園祭）で，本学部のゼミナールと企業等の連携企画として「砧マーケット」を実施し，地元企業にも出展いただき，地域社会との連携について周知・拡大に取り組んだ。また，教職員が社会連携活動について旅費等の支給を受けることにより，積極的に当該活動に参画することを目的として，社会連携活動における旅費等の支給に関する要項を制定し，必要となる旅費等の支給をすることにより，社会連携活動の推進につなげた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

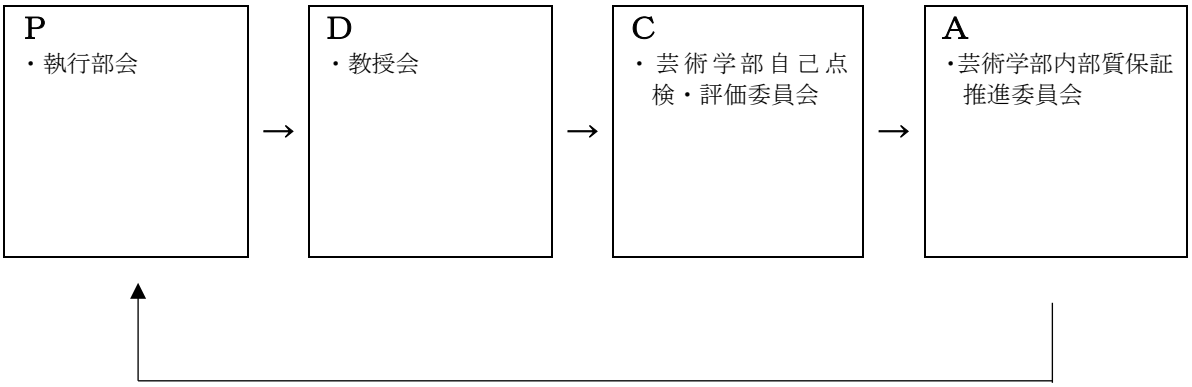
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　芸術学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教学については，日藝ＩＲ推進室が所管する入試戦略ワーキング・グループにおいて収集・分析した教学情報及び学部戦略ワーキング・グループによる施策提案を基盤とし，学部長から各所管委員会へ諮問し，学務委員会等で実施可能か検討し具体化させ，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会による統括的管理をする，「日本大学芸術学部及び大学院芸術学研究科内部質保証体制」に基づく，ＰＤＣＡサイクルを令和７年度は構築している。この仕組みにより，授業評価アンケートや学生からの改善提案を学部レベルで検討・公開し，外部評価も組み合わせて改善を実施している。

また，授業評価アンケートの結果に関しては，全専任教員・非常勤講師へ結果を共有し，学部で定める基準値に満たない教員に関しては，各学科主任・学務委員・ＦＤ委員等から改善に向けた面談を実施，報告書の提出を義務付けている。その成果として，授業評価アンケートにおける「総合的に評価して良い授業でしたか」の設問項目では，「強くそう思う」「そう思う」の合計値が，令和５年度は前期 86%，後期 88%，令和６年度は前期 88%，後期 89%と高い水準を計測している。

学外評価においては，練馬区生涯学習センター長による外部評価を毎年度行い，その結果を芸術学部内部質保証推進委員会に報告し，指摘事項を迅速に改善する仕組みを構築している。

総じて，芸術学部の内部質保証システムとしては，芸術学部内部質保証推進委員会を開催し，芸術学部での質保証のために各項目について，審議している。

執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後に繋げていく流れとなっている。

また，毎年実施する執行部研修会において，一部を芸術学部内部質保証推進委員会として実施し，各担当・事務四役から１年間を振り返り問題点改善点をまとめ，次年度に向けた対応策や新規案件について，報告・審議することとしている。

これらを続けた結果，これまでのカリキュラム，授業内容，学部イベント，施設等，点検・評価（検討・検証）し，令和８年度学則変更，各種委員会や案件に関する内規，基準，要項，取扱を改めて精査し改正や制定することになり，学内での事案に対する取り組みや体制の改善・向上が図られた。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

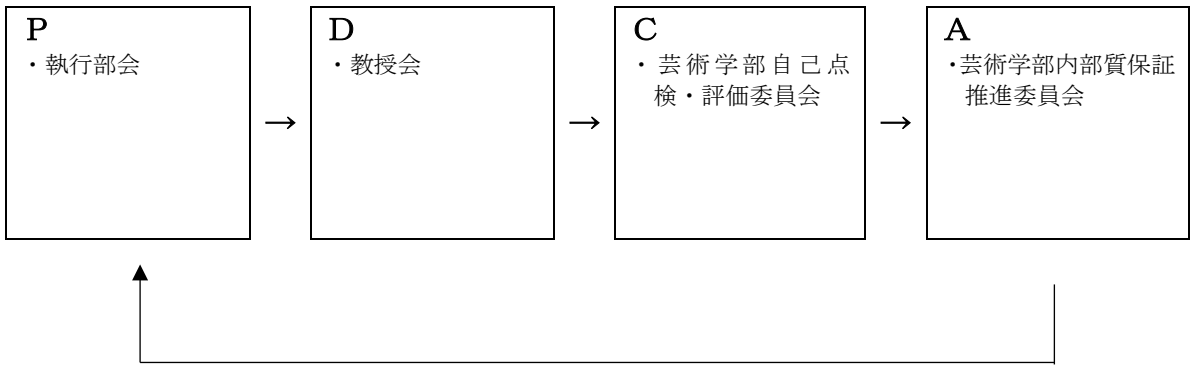
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握が『科目単位』にとどまっており，学位授与方針に示す学習成果の評価としては不十分である」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連するため，学習成果の測定・把握方法を点検・評価することが求められる。例えば，芸術学部内部質保証推進委員会が主導し，科目単位に限定されない多面的かつ総合的な学習成果の測定・評価の仕組みを検討・導入するよう改善が求められる。

全学的な対応の方向性を提示する必要があると思料されることから，現時点で本学部では検証を実施していない。

全学的な対応の方向性が示された後には，その方向性に沿って執行部会にて検討し，年次的な計画を立てて実行する。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学科や研究所の新設，学科の改組等及び教育研究組織の見直しについて進める場合，芸術学部では執行部会を中心に提起され，教学については日藝ＩＲ推進室（所管部署：教務課）が管轄する「入試戦略ワーキング・グループ」と「大学院教学戦略ワーキング・グループ」において，収集した各種教学情報の分析に基づく改善提案を学部長へ答申，これを受けた学部長がＦＤ委員会，ＳＤ委員会，芸術学部自己点検・評価委員会及びその他案件ごとに所管する委員会へ諮問することで，教学上の改善を進めている。諮問を受けた各所管委員会は，改善の結果について，執行部を中心とした芸術学部内部質保証推進委員会へ報告し，適正な改善・向上が成されているかを管理している。実施の決定については，最終的に教授会で決定される流れとなり，これらのサイクルで学則変更と合わせ数年単位で検討していく。研究組織については，芸術研究所運営委員会において学問の動向や社会要請等に対応した研究の発展に寄与すべく，学部研究費（個人・共同）等の適正な予算執行など，関連部署と連携を図りながら精査・検証を実施している。

総じて，芸術学部の教育研究組織の適切性については，執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れ

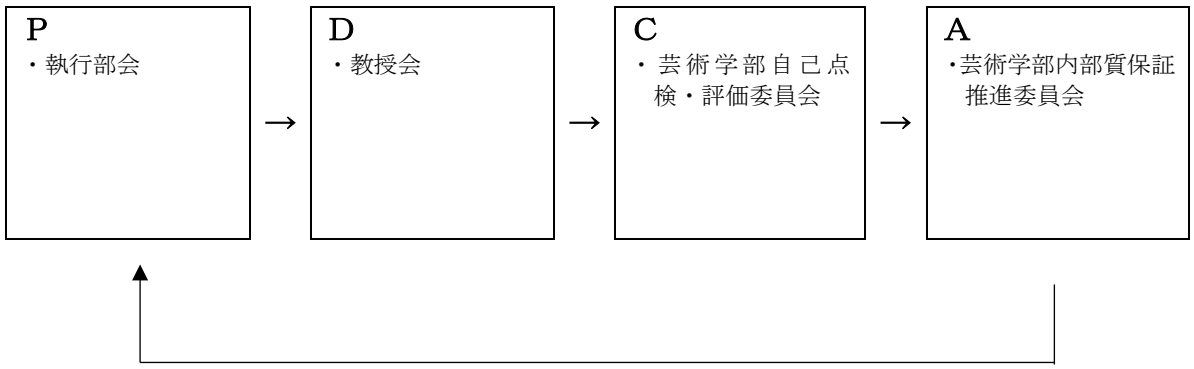
となっている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法については，学内においては執行部会で点検・評価の基準等を定め，学生からの意見を取り入れて教育の質の向上を図るために，ＦＤ委員会において質問項目の検討を行った上で，前期と後期にそれぞれ学生による授業評価アンケートを行い，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会で改善・計画を行うサイクルとなっている。

学外者からの評価においては，令和４年度より練馬区生涯学習センターから継続で点検・評価を受けている。対象となる項目は，芸術学部における教育活動（入学者選抜・カリキュラム内容・学修方法・学修支援，学修成果，施設・設備，社会・地域とのつながり等）に係る評価及び要望・所感・改善点等の総評とし，点検・評価を依頼した。実施した結果については，執行部会や芸術学部内部質保証推進委員会で改善・計画し，その後実務として学務委員会等で速やかに改善を図る体制を構築している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証に関するシステムの整備のために，入学前志願情報から，教学情報システムのＧＰＡ情報及び外部アセスメント・テスト（GPS-Academic）等との情報と紐付け，入学後の学修状況と複合した分析を実施する計画である。また，これらの情報を芸術学部内部質保証推進委員会，執行部会，学部運営協議会及び各種所管委員会にて，報告・検討の基盤として取り扱う。これにより教育の内部質保証の核となる，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の本質的な検証に向けた入試区分別での入学後の成績分布，更には科目履修情報との紐付けによる効果的な教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の評価，その先の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の検証などに資することが可能となる。入学時の情報管理から在学時，卒業時までの情報をつなぐことで，効果的なエンロールメント・マネジメントの実施が期待される。

令和５年に学部長より，学びの自由度を高めるためのカリキュラム編成を目的とした学則変更の方向性が示されたことを受けて，学務委員会において検討を重ね，令和８年度入学者からの学則変更を行うことを教授会で審議・決定した。主な変更内容は，以下のとおりである。

(1)　ゼミナールや卒業論文・卒業制作等含め，全ての科目を半期科目に変更する。

(2)　芸術教養課程の卒業要件単位数を，芸術教養科目は 14 単位以上から８単位以上に，外国語科目は１か国語４単位を含む８単位以上から４単位以上に，体育科目は３単位以上から１単位以上（実技のみ）に変更する。

(3)　音楽学科は，現在の６コース制を音楽芸術コース（９専攻）と情報音楽コースの２コース制に改編し，新専攻として音楽文化マネジメント専攻を加える。

(4)　演劇学科は，４コース（10 専攻）制を舞台構想コース，演技舞踊コース，デザイン技術コースの３コース（10 専攻）制に改編し，新専攻として衣裳専攻を加える。

(5)　学外の芸術分野における実践的な学びとして，芸術活動の最前線で活躍される学外の講師を招き講義形式で実施する「芸術総合講座」と企業・行政等と協力しプロジェクト方式で実施する「連携型プロジェクト」との連携強化を図るため，共通選択科目に科目を集約する。

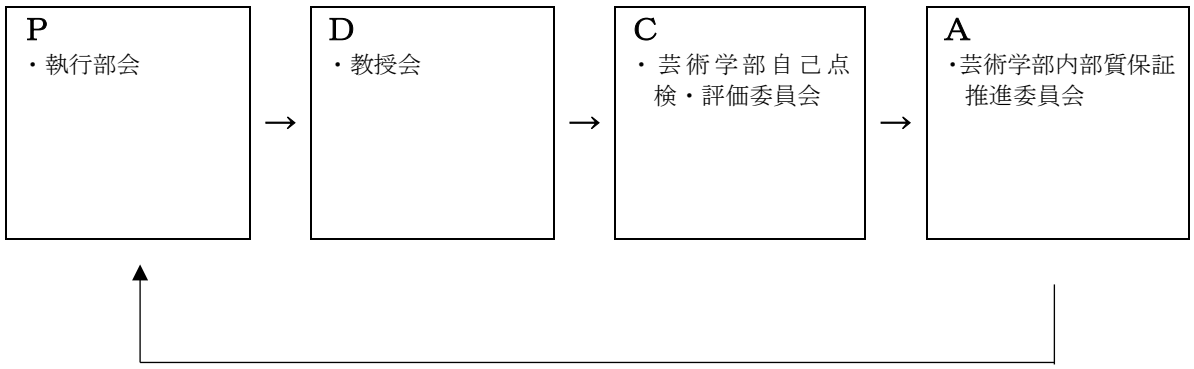
(6)　海外留学後の単位認定科目として，「海外基礎研究Ⅰ～Ⅵ」及び「海外発展研究Ⅰ～Ⅳ」を共通選択科目の「その他」に設定する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の内部質保証システムのサイクルに関しては，執行部会で計画を立て，教授会で決定・実行，芸術学部自己点検・評価委員会が評価・確認，芸術学部内部質保証推進委員会が改善・検討を行うことになっている。

入試広報に関しては，入試戦略ワーキング・グループを中心に徹底したデータ分析を行い，学部長宛てに短期・中期・長期の計画の答申をすることとしている。その実施結果を入試実務委員会や広報委員会で点検・評価の上，年ごとに大きく変化する受験市場に即応した対応を行い，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会による統括的管理をする仕組みを構築している。

総じて，芸術学部の内部質保証システムとしては，芸術学部内部質保証推進委員会を開催し，芸術学部での質保証のために各項目について，審議している。

執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

多様な受験者層の獲得のために，接触型・非接触型問わず，デジタルコンテンツ広報に努めている。志願者数は，令和６年度 4,437 名に対し，令和７年度は 4,237 名となり 200 名減少したが，過去５年間の志願者数については，令和３年度志願者数は 3,443 名だった志願者数から，

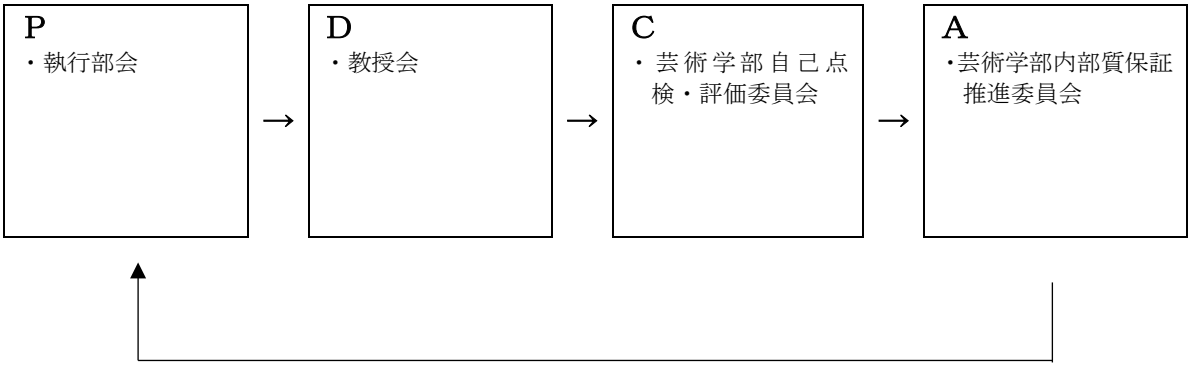
増減がありつつも令和７年度では 4,237 名と 794 名増加している。
　特に一般選抜の志願者合計数は令和３年度の 2,201 名から，654 名増加し 2,855 名となった。これは入試広報戦略として打ち出した「専門試験を課さない併願しやすい入試」という制度変更が前年度合格者数実績と相重なり受験生や予備校に定着した結果と考えている。
　一方で，一般選抜Ｎ全学統一方式（第１期）専門試験併用型（旧Ａ個別方式）においては，令和３年度の 1,227 名から 344 名減少し 883 名となった。本学部への入学を強く希望し，専門試験対策に時間をかける受験生を年内入試以降でいかに確保していくかが今後の課題である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の教員組織に関わる事項としては，定期的に教員人事委員会や執行部会，学部運営協議会を開催し，教員昇格・採用方法や基準等の見直しを諮り，毎年改善を図っている。

総じて，芸術学部の教員組織に関わる事項については，執行部会で検討し，その後各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

具体的には，採用候補者には業績審査後に学部長及び学部次長による面接を実施，教員昇格候補者には教員人事委員会において自身の教育及び研究構想についてのプレゼンテーションを実施してもらい，学部運営を担当する教員（教員人事委員会委員）向けに自身の教育及び研究構想並びに業績についてプレゼンテーションを実施すること，またそこでの質疑応答も含めて，教員間での互いの認識につながり，他学科間での関係性が薄い教員でも専門領域や研究内容を知る機会となり，結果的に学部内でのコミュニケーションの循環が可能となり，関係性の向上を図ることができている。更に採用試験等については，毎年教員人事委員会で議論を重ね，基準の確認，実施方法の改善を図り，芸術学部自己点検・評価委員会から芸術学部内部質保証推進委員会でもそれらの事象を上程・検討することで，次年度へとつなげるプロセスを確立させている。

その結果，助手・助教採用試験，教員昇格，特任教授，客員教授採用時の基準及び非常勤講

師の取扱を制定，改正，検討することで，教育の質の担保や教員組織構造の改善・向上を図ることになった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

直接声を掛けて採用候補者とする場合の選定過程の透明性や客観性の確保については，より明確な方針や手続の整備が今後の課題となり，改善が求められる。

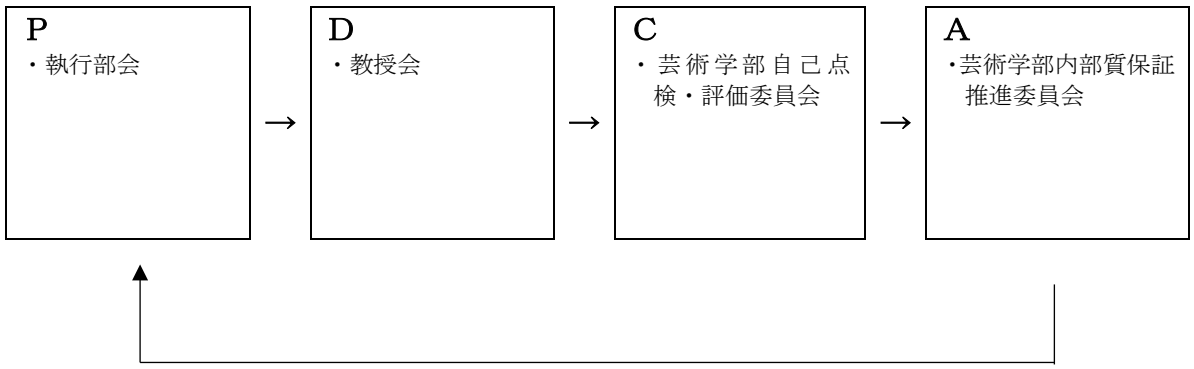
執行部会で明確な方針を定め，その方針に沿って選定過程の透明性や客観性を確保するため，以下の方法にて対応したい。

芸術学部の教員採用時の公募以外の選定方法について，学部・学科課程としての採用方針と手続方法が，どのように実施されるかを予め提示できるよう促すこととする。採用方針については，原則「３つのポリシー」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー及び学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）が示されているため，３つのポリシーに賛同し，実現できる教員の採用であることが前提となっている。

選定の方法については，教員人事委員会に諮る前の段階の学科・課程での選考方法を，採用申請書の様式に設定することにより，学科・課程内でどのような基準，方法，学科・課程会議での意見聴取内容を記載され，学科・課程内からの申請段階での選考方法を含めて審議することが可能となる。その後，採用候補者については，教授会に上程・審議され，学内者・学外者を含めた形での業績審査を経て，採用審議となる。それらの工程を芸術学部自己点検・評価委員会で評価し，総括的に芸術学部内部質保証推進委員会にて確認し，今後の改善に向けて対応することになる。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で学生支援の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

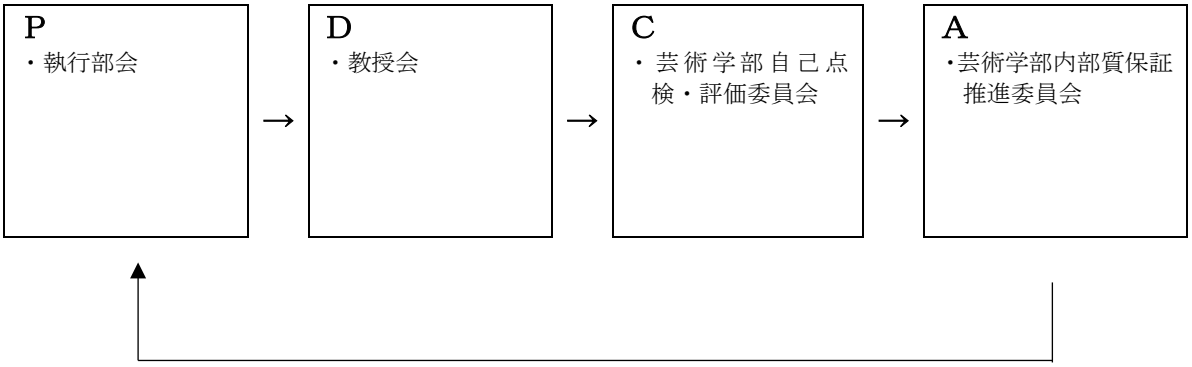
令和７年度は，「購買部，食堂等の運営業者選定に係る取扱要項」の制定に伴う計画として，学生生活委員会にて学生及び学科にアンケートを実施した。その結果を受け，年度中に学生食堂の券売機を増設し，令和８年度の学生応援ランチ増食を決定した。今後は芸術学部自己点検・評価委員会の評価・確認及び芸術学部内部質保証推進委員会の改善・検討を受け，次年度は改めて学生食堂及び購買部の運営業者を公募で選定する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で研究等環境の案件を検討し，その後各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

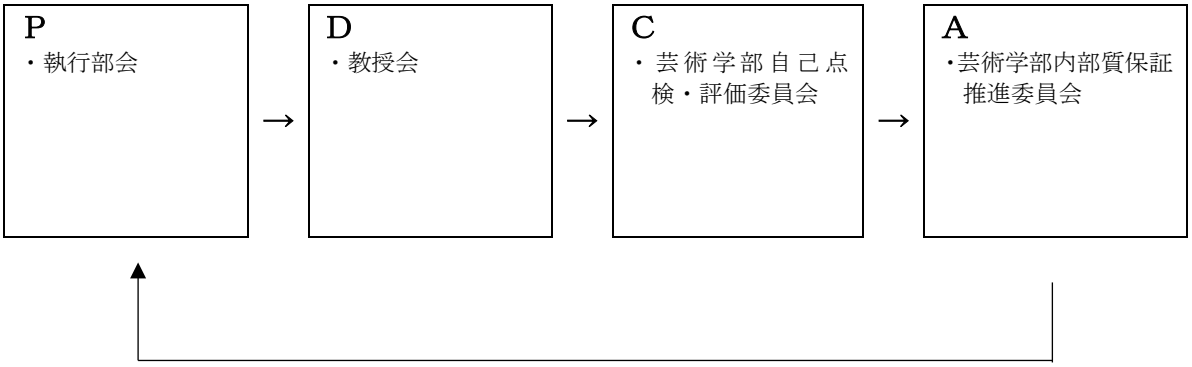
芸術研究所運営委員会において，学部研究費（個人・共同）及び本学部独自の川野希典研究費，杉浦仙之助・うめ研究費等に係わる諸事項の情報等を共有し確認している。研究事務課において，複数名で研究遂行のために提出書類の精査・検証を行い，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を実施し，サイクルを回している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の社会連携・社会貢献に関わる事項について，全体的な流れとして執行部会で社会連携・社会貢献に関わる案件を検討し，方向性を決める。その後，各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

学生と教職員，企業や自治体との産官学連携の連携プロジェクトの実施可否の検討や学内周知を目的とし，定期的に連携企画委員会や学務委員会，学部運営協議会を開催し，精査している。社会連携・貢献に関わる連携プロジェクトの実施後については，学部運営協議会においてプロジェクトの実施内容と所感，次回実施への改善点等を報告書にまとめ，報告し実施サイクルを回すためにも検証している。その後，芸術学部自己点検・評価委員会で確認し，芸術学部内部質保証推進委員会が改善・検討を図っている。

連携プロジェクトを通して社会連携・社会貢献に携わることで，学生が学んでいる領域がどれだけ社会と密接に関わっているか，影響を与えるのかを学生自身が学ぶ場となっている。参加した学生各々に意見を聞くと学科間横断のつながりを求めていることがわかり，大変好評である。また学生も教員も外部とのつながりを深めることで，学内ではなく社会へと意識を向け始めており，取組方法や広報活動を毎年度改善することで，参加する学生や教員も増加し，継

続案件や単発案件を含め，関係する企業や自治体から新たな依頼を受け，連携プロジェクト数が年々増加している傾向にある。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

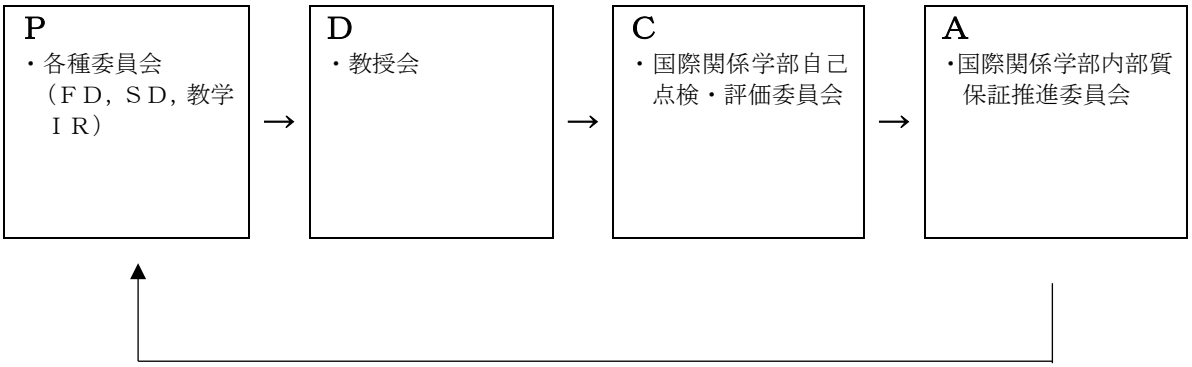
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　国際関係学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係学部は，全学的な「日本大学内部質保証に関する方針」に基づき，教育研究活動の継続的な改善・向上を推進している。これまでの活動として，令和５年度には教学ＩＲ委員会が中心となり，学生の退学傾向に関する詳細なデータ分析を実施した。特に，1年次必修科目である「自主創造の基礎」の単位未修得者と退学率の高い相関関係を特定し，その結果を活用し，令和６年度より対象学生に対する早期面談基準を具体的に見直して実施するなど，学生支援の改善に取り組んだ。また，カリキュラムの質保証を確実にするため，次期カリキュラム改正（令和９年度入学者から）に向けた教育の３つのポリシー及びアセスメント・ポリシーの策定検討も進めている。しかしながら，現状の課題として，これら各委員会（教学ＩＲ，ＦＤ，ＳＤ，自己点検・評価）の個別改善活動の成果が，国際関係学部内部質保証推進委員会による検証，支援，及び改善指示のプロセスを経て，次年度（令和７年度）の活動計画へ有機的に統合され，実効的なＰＤＣＡサイクルが機能しているとは言い難い状況である。特に，学習成果を多面的かつ総合的に測定・把握できる仕組みの構築や国際関係学部内部質保証推進委員会が主体となって改善を促す役割の明確化が求められている。今後の改善に向け，本学部は，国際関係学部

内部質保証推進委員会が検証，支援，改善指示に関する事項を主導する役割を明確化し，システムの有効性及び適切性の向上を確実に行う。特に，ＩＲ分析から得られた具体的な情報を活用し，教育の質保証の仕組みをより有効に機能させるため，データに基づく学習成果の測定・把握に関する具体的な指標を策定し，関連する各委員会と連携しながら，教育課程や学生支援における具体的な改善活動を計画的に実行・定着させるための進捗管理を徹底する。これにより，自己点検・評価の結果を教育研究活動の質的改善につなげるサイクルを確立することを目指す。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

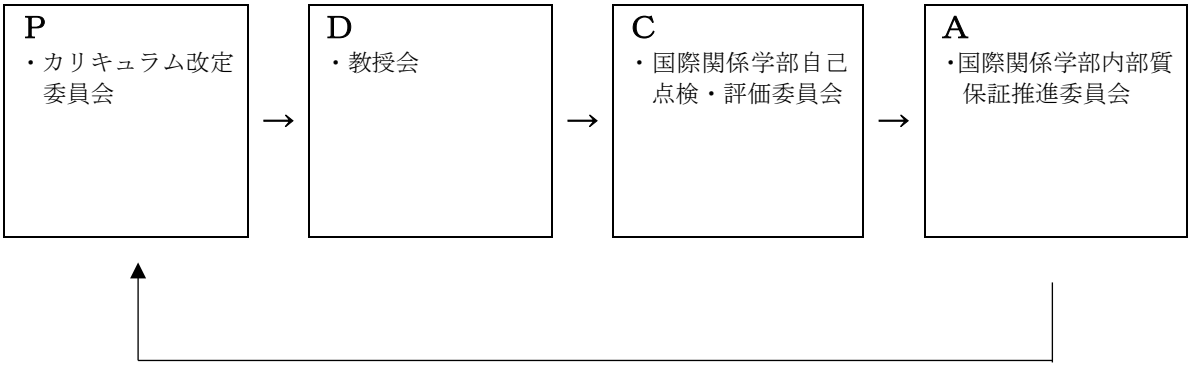
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握について，アセスメント・テストによる一部能力の測定にとどまっており，学位授与方針に示す学習成果の評価として不十分である」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連することから，例えば，国際関係学部内部質保証推進委員会が主導し，学務委員会や教学ＩＲ委員会と連携して，学習成果を多面的かつ総合的に測定・把握できる仕組みを構築するよう改善が求められる。

提言において，国際関係学部内部質保証推進委員会が，自己点検・評価活動に対する検証，支援及び改善指示を主導する役割と，各委員会との連携体制が不明確である点が指摘されていることから，今後は同推進委員会がＰＤＣＡサイクル全体を主導する役割を明確化し，実効性のある進捗管理体制を確立する。特に，教育・学習の基準（基準４）に関する提言にあるとおり，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した学習成果の測定・把握が不十分であるという課題に対応するため，学部として独自のアセスメント・プランを策定する。この計画に基づき，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に準拠した学習成果の測定目的，具体的な評価指標，及び測定方法（アセスメント・テストやルーブリックの活用など）を明確に定め，教育の質保証の仕組みを実質的に機能させることを目指す。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

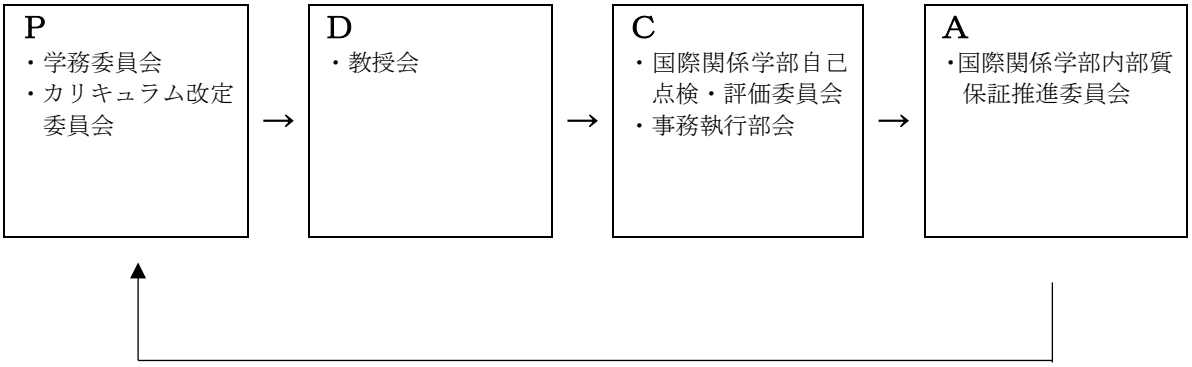
事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係学部では，教育課程及びその内容，方法の適切性について定期的に点検・評価をする仕組みがなく，学務委員会やカリキュラム改定委員会において教育課程（カリキュラム）改定の際に，教育課程及びその内容，方法を検証し，教育課程の改善・向上の参考にしているのが現状である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

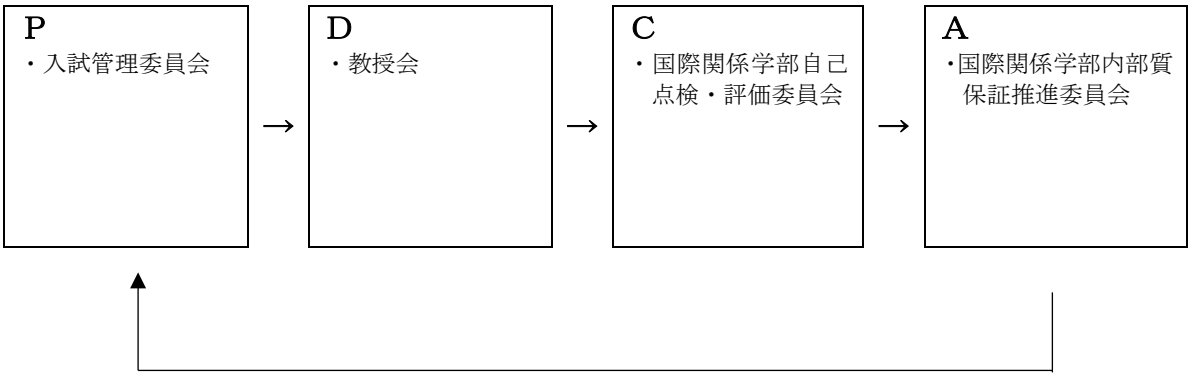
院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

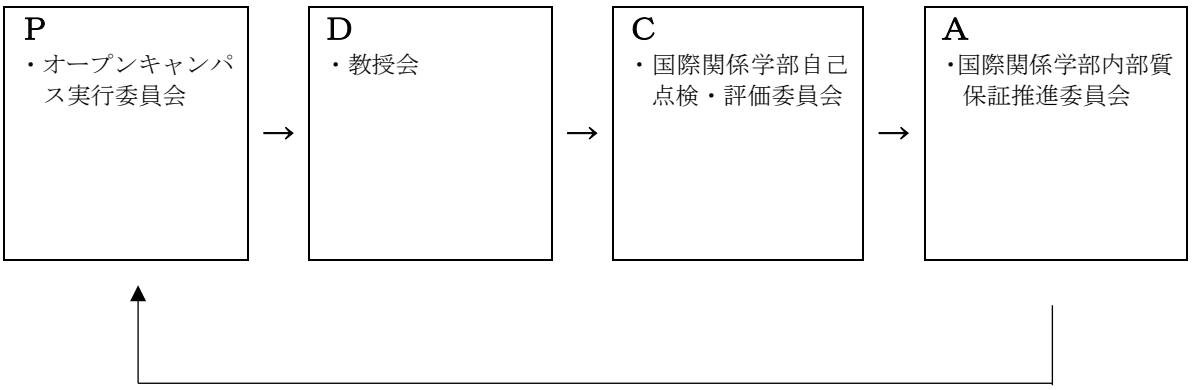
基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【入学者選抜計画，運営確認・入試広報】



【オープンキャンパス】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑲　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【入学者選抜・入試広報】

各年度入学者選抜及び入試広報を入試管理委員会において計画し，教授会に諮り実行，当該年度の入試結果等に基づく改善点・次年度計画等を検討している。

国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

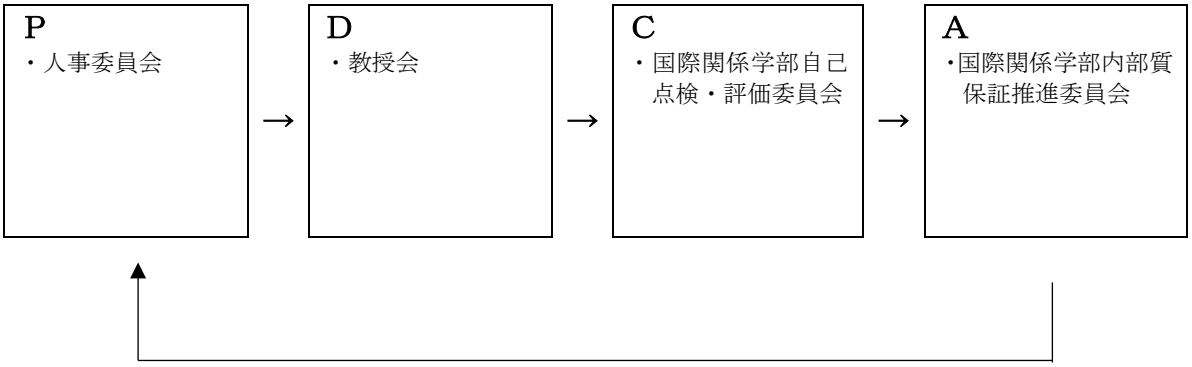
【オープンキャンパス】
　各年度オープンキャンパスをオープンキャンパス実行委員会において計画し，教授会に諮り実行，当該年度の来場者人数及びアンケート等内容について，アンケートについては，来場者アンケートと入学者アンケート及び教員アンケートの３点を実施し，その結果に基づき次年度計画・改善等行っている。また，令和７年度オープンキャンパスより，学生スタッフを新規導入し，学生を前面に出した運営を行ったことで，アンケートにも良い回答が得られている。令和７年度国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係学部では，教員組織の適正な維持を教育研究活動の基盤として位置付けている。人事委員会が，大学設置基準の充足に向けた採用計画の策定（Ｐ）及び公募活動（Ｄ）を行い，その結果について国際関係学部自己点検・評価委員会が点検・評価（Ｃ）を，さらに国際関係学部内部質保証推進委員会が検証・支援・改善指示（Ａ）を行う体制を整備している。しかしながら，令和６年４月１日現在の専任教員数 55 名（基準 56 名）に対し，令和７年４月１日現在では 53 名となり，不足数が拡大している現状が確認された。これは，採用辞退や年度途中の死亡退職という予期せぬ欠員発生要因に加え，人事委員会による公募活動が目標充足に十分な実効性を伴わなかったことを示しており，国際関係学部自己点検・評価委員会等による評価検証結果が次年度の改善に十分に生かされていない課題がある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

一部の学科において，大学設置基準上の教員数を満たしていないため，是正されたい。

【提言（改善課題）】

記述によれば，教職それぞれが「与えられた使命」に基づき協力しながら業務を遂行しており，役割分担については各委員会で一定程度決められているものの，責任の明確化という点では十分に体系化されていないため，改善が求められる。

問題発生時には関係する委員会や部署と連携して対処しているものの，平時の業務における教職間の責任範囲や役割分担が明確化されていないことは，業務の属人化や非効率の要因となる可能性がある。

ガイダンス内容は主に業務説明と注意喚起にとどまっており，教育支援者としての資質向上を図る体系的な研修（例：学生対応スキル，守秘義務，ハラスメント防止等）の実施に係る記述が確認できない。ＴＡ制度の質的向上を図る観点からは，研修の計画的実施や業務後のフィードバック体制の整備が今後の課題である，改善が求められる

令和６年度以降も大学設置基準が未充足の状態（令和７年４月１日現在，基準 56 名に対し専任教員数 53 名）にあり，採用活動が確実な充足につながっていない状況は，教員組織に関する事項の点検・評価の結果が改善・向上に十分に活用されていないという課題が継続していることを示している。この状況を改善するため，本学部は，人事委員会，教授会，国際関係学部自己点検・評価委員会及び国際関係学部内部質保証推進委員会が連携するＰＤＣＡサイクル図に基づき，教員組織の評価検証プロセスを強化する。

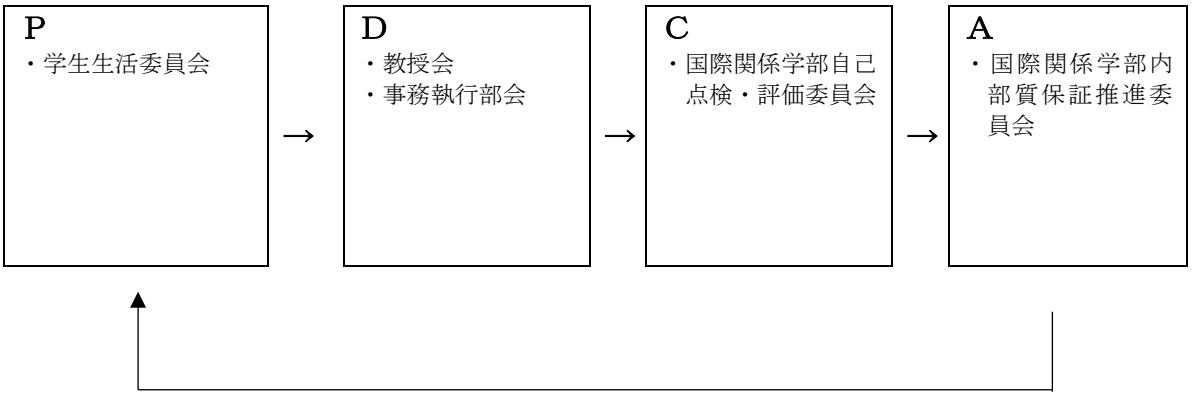
具体的には，人事委員会において採用辞退や欠員発生のリスクを考慮した迅速かつ多角的な公募戦略を策定（Ｐ）し，教授会の議を経て実行（Ｄ）するとともに，その採用活動の有効性について国際関係学部自己点検・評価委員会が定期的に点検・評価（Ｃ）を行い，その結果を国際関係学部内部質保証推進委員会が検証・指示（Ａ）することで，次年度の計画改善へと確実につなげる体制を確立する。また，教員組織の年齢構成や専門分野のバランスの是正に加え，特に提言されているジェンダーバランスの是正（女性教員の採用強化）を組織的な改善課題として明確に位置付け，数値目標の設定や採用プロセスにおける多様性の確保を推進する。

さらに，教員組織以外の改善課題についても同様のサイクルで取り組むこととし，教職それぞれの役割分担について，各委員会等における責任の所在を体系化することで，業務の属人化や判断の不統一による非効率を解消し，組織的な教育研究活動の継続性を確保する。あわせて，教育支援者の資質向上を図るため，従来の業務説明にとどまらず，学生対応スキルや守秘義務，ハラスメント防止等に関する体系的な研修プログラムを策定し，計画的に実施するとともに，ＴＡ制度については，事前の計画的研修の実施に加え業務後のフィードバック体制を整備することで，組織的な教育支援体制の質的向上を図る。これらの取組を通じて，教員組織に関する事項のＰＤＣＡサイクルを実質的に機能させ，教員設置基準の確実な充足と教員組織の質の継続的な改善を目指す。

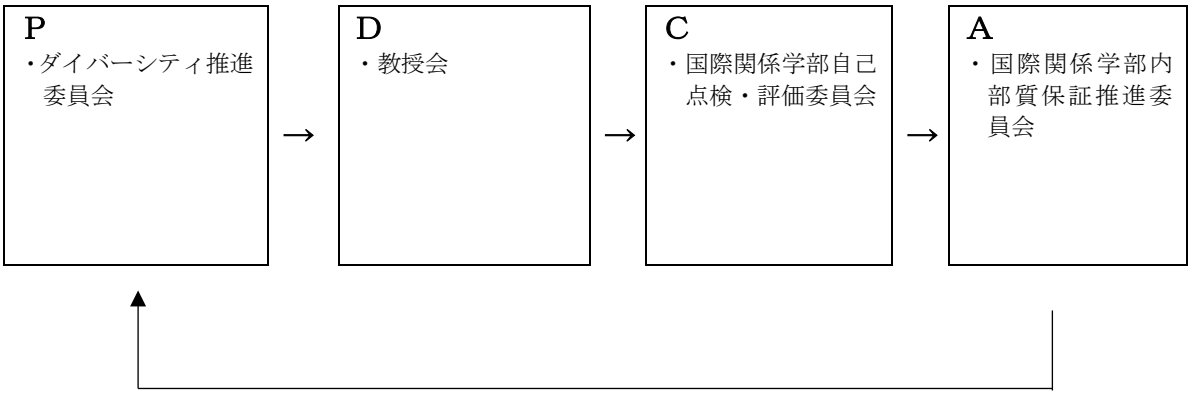
基準７ 学生支援

1　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

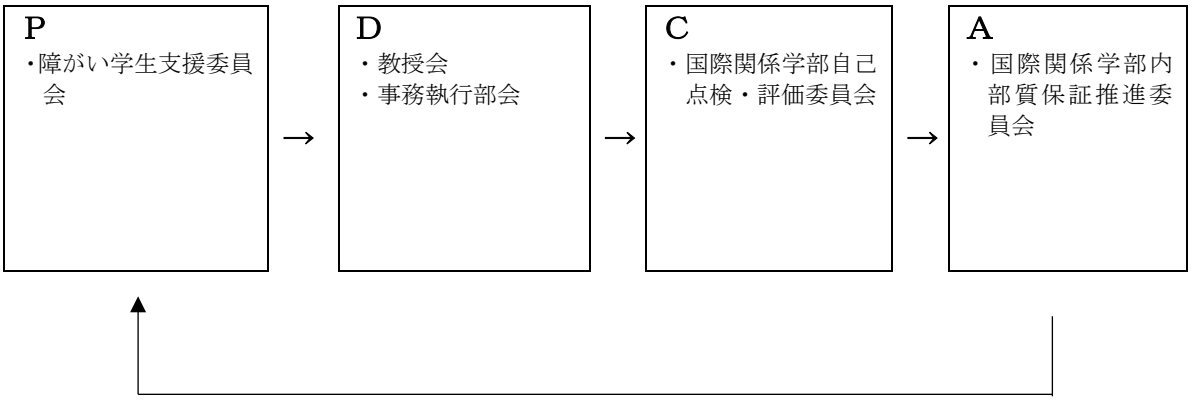
【学生の交流機会の確保，正課外における部活動及びボランティア活動の活性化】



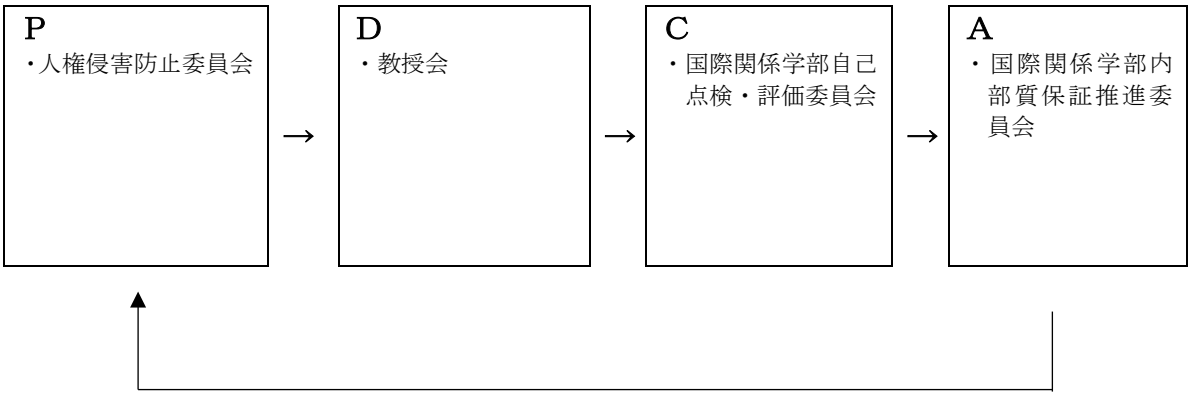
【学生に対する経済的支援（三島市による生理用品の支援)】



【障がいのある学生の基本的人権の保障】



【学生へのハラスメント防止，学生のプライバシー権の保障】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和６年 10 月４日に国際関係学部自己点検・評価委員会，令和６年 10 月 11 日に国際関係学部内部質保証推進委員会をそれぞれ開催し，学生支援に関わる事項について，点検・評価を実施した。

学生支援の向上を図った事例として，本学部では，令和７年度から「キャンパス活性化」というスローガンを掲げ，その一環として学生の正課外における部活動及びボランティア活動をバックアップする取組を開始している。具体的には，音楽活動や演劇活動を行う学生団体を支援する目的で，三島駅北口校舎の大教室用に，高性能の音響機器を導入した。また，ボランティア活動については，外部から募集が寄せられた際，本学部学生の派遣を依頼する内容のものについては，学生生活委員会で審議に諮り，その安全性や活動意義を精査した上で周知するようにし，学生に安心してボランティア参加してもらえるよう，募集受付から周知までの仕組みを見直した。

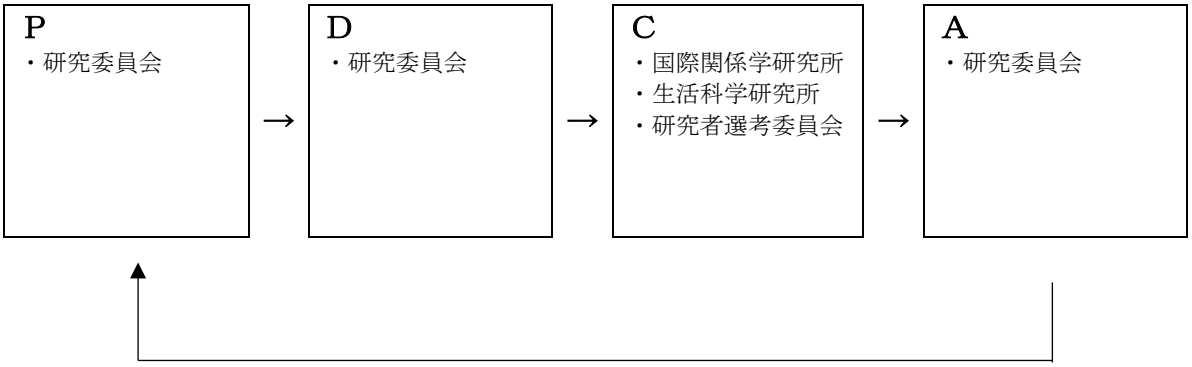
また，留学生と日本人学生の交流を目的として開催している異文化交流会について，以前は後学期に開催していたが，留学生の増加に伴い，学生同士が入学後早期に交流の機会を得られるよう，令和７年度は開催日程を前学期に変更した。その結果として，同時期に受け入れている海外提携校からの短期留学生も参加できるようになり，交流の幅が広がった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

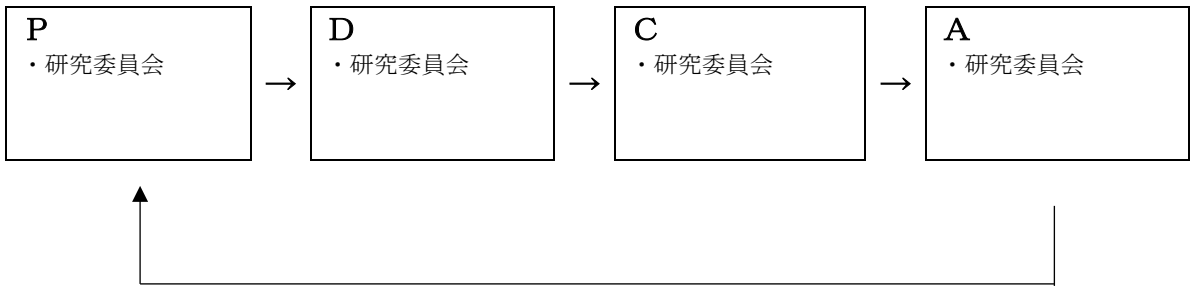
本学部研究者選考委員会で新年度の学部個人研究費申請書の内容を審議し，研究実施状況及び成果物については国際関係研究所・生活科学研究所において点検の上，本学部研究委員会で必要に応じて各研究所の点検結果にて検討が必要な事項や科研費採択時の懸案事項を検討し，改善策を計画し実行に移している。過去の事例としては，キャンパス内の共同研究を推進するために共同研究費を制定した上で，共同研究採択者に科学研究費助成事業への申請を義務付けることで改善を図った。また，個人研究費の給付額に傾斜配分を導入することでインセンティブを付した。当初はこの導入により，増額要件である科研費の申請件数に増加がみられ，今年度についても昨年度に比べ微弱ではあるが，申請件数が増加した。しかし，採択件数は昨年度より減少したため，採択件数増加の改善が必要と考える。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

地域社会への連携・貢献事業の開催内容については，研究委員会で点検・評価を実施している。点検・評価の対象となるものは，地域住民を対象とした「市民公開講座（前期・後期に各４回)」や「エクステンション講座（前期・後期に各講座５回)」であるが，次回以降の内容を充実させるため，毎回講座終了後には受講者へのアンケート調査を実施している。その結果を研究委員会で精査し，次回以降の講座の企画立案に反映させるように努めている。アンケートからスポーツ関連の技術向上を目的とした講座を開講してほしいとの要望を受けて，令和６年度より取り入れた「エクステンション講座」の「ゴルフ講座」は，受講者に好評で，次年度以降の開講と参加を希望する意見が多数出された。また，受講者からの要望や講座をお願いしている講師の提案に基づき，今年度後期は初級よりレベルアップした「エクステンション講座」を用意したが，受講者数が減少したため，研究委員会にて開講内容を精査し，より多くの参加者に興味を持ってもらい，参加していただけるような内容とすべく，改善・向上に努めることとする。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　危機管理学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

P		D		C		A
・執行部会議	→	・各種委員会	→	・三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会 ・三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会 （執行部会議）	→	・各種委員会 （執行部会議）

２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本部と連携をして，絞り込んだ項目を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会で集中的に点検・評価していたが，今年度からは，次期認証評価を見据え，全項目において点検・評価を執行部の指示の下，実施するよう改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

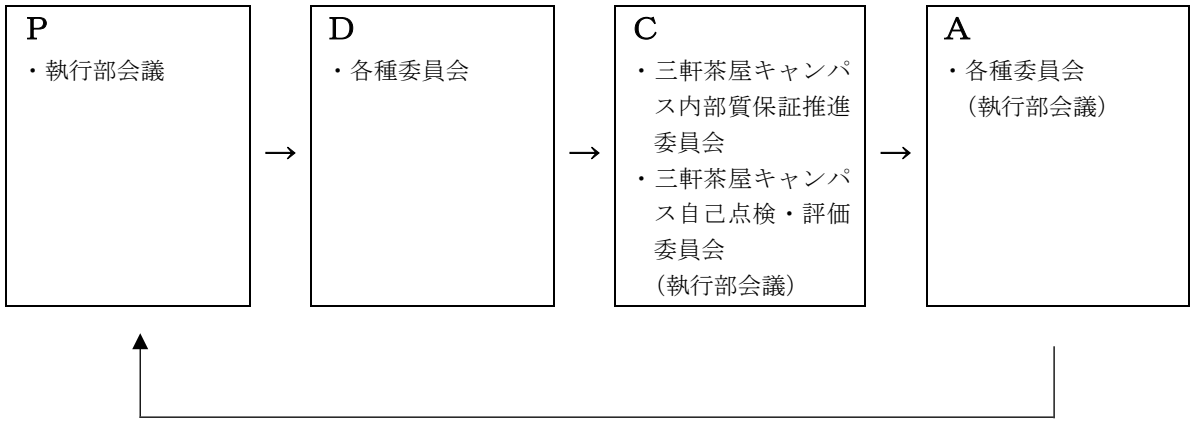
卒業・進学・就職等に関する教育情報が定期更新時の点検漏れにより未更新となっていた点については，更新体制を強化し，情報公開の適正性を確保するよう改善が求められ

る。

卒業・進学・就職等に関する教育情報が定期更新時の点検漏れにより未更新となっていた点については，執行部会議（P）から各種委員会（D）（今回企画広報委員会）に更新体制を強化するよう依頼し，情報公開の適正性を確保するよう改善を図った。具体的には，企画広報委員会（D）が改善に向けて検討を行い，令和８年２月に両学部長宛て（執行部会議（C））改善事項について答申予定である。執行部会議（C）は答申を受け，その内容を検証した上で，各種委員会（A）への改善・向上に向けた諮問を行うこととしている。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

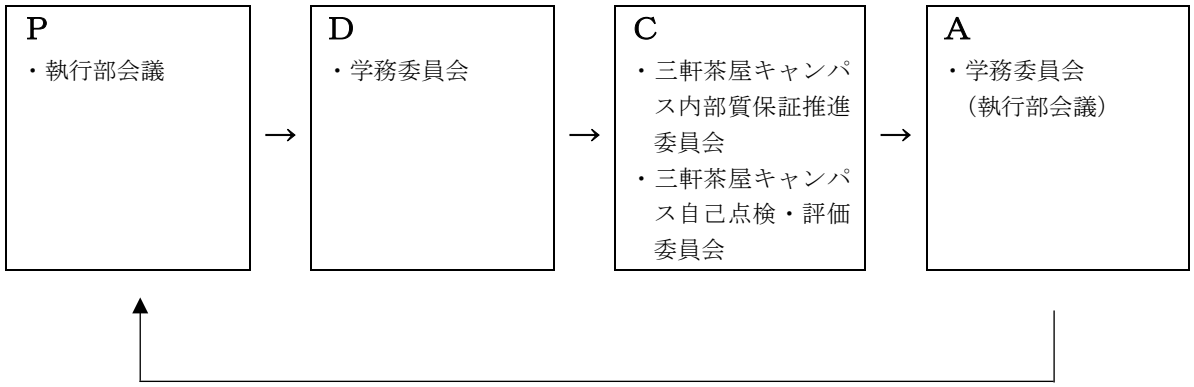
執行部会議（Ｐ）から各種委員会（Ａ）に対し意見を伺い，三軒茶屋キャンパスでは，ほとんどの委員会が両学部合同となっているが，各学部の専門性に即した教学運営に課題があることが判明した。そこで執行部会議（Ｃ）は，各学部の権限と責任に基づいた意思決定を可能とするため，各学部に委員会設置が可能となるよう規程改正の上，次年度から各種委員会（Ａ）の体制改善に向けて検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥
教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

執行部会議（Ｐ）から，各学期（前学期・後学期）における教育の内部質保証のための点検・改善について学務委員会（Ｄ）に提言し，学務委員会（Ｄ）は，各教員に対し学期ごとに授業改善計画書を作成させ，自身の授業について振り返る機会を設定している。また学期ごとに学生による授業評価アンケートも実施し，各教員に結果を配信の上，改善を促している。学務委員会（Ｄ）は，実施状況を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）に報告し，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）は，その報告内容を確認・評価した上で，学務委員会（Ａ）への改善・向上を促すこととしている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

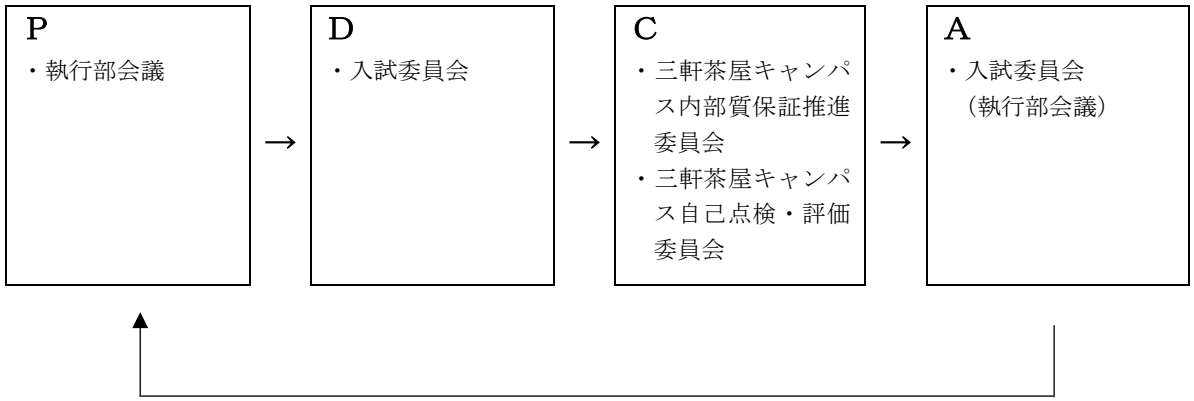
三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）による自己点検・評価結果を三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）で報告し，執行部会議（P）は，その報告内容を次年度の事業計画作成や学務委員会（D）への諮問に活用し，次年度の教育活動等の改善に反映，実行している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

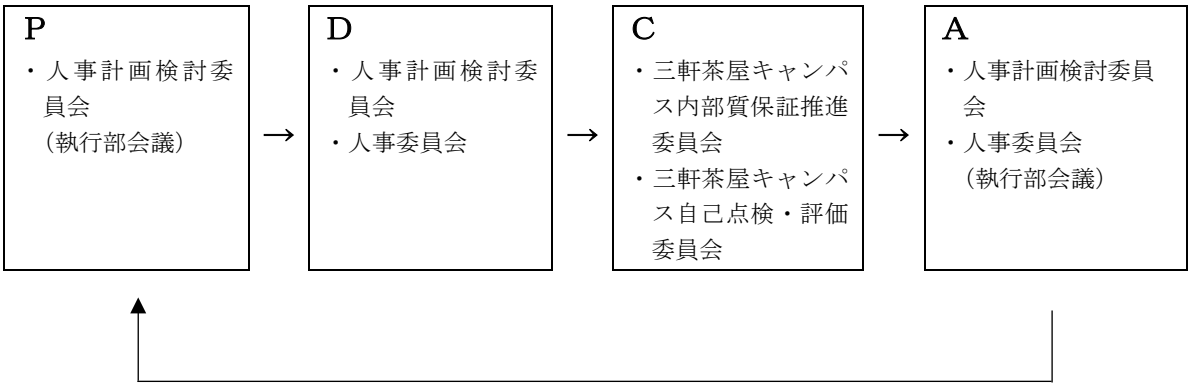
入学時アンケートの取得，入学者の属性分析等を実施して，入試制度の最適化に役立てている。具体的には，入試委員会（D）で入学者の属性分析等を実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）で入試制度の最適化の観点で点検・評価を行っている。その評価内容について入試委員会（A）で確認・検討を実施し，その改善方策（総合型選抜の種類増及び一般入学者選抜及び転部・編入学試験の日程検討等）を執行部会議（P）に提言している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④
教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

毎年度，自己点検・評価を行っている。各委員会の委員長が集まり，教授会の日に委員長懇談会を開いて意見交換を行っている。
特に今年度から学部執行部で毎週一定の項目を抽出して協議，改善に向けて取り組んでいる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
具体的な時間割編成方法や人員配置の根拠が示されておらず，実際に適切な授業負担が実現しているかを客観的に判断することが難しいため，改善が求められる。
紹介に依拠した採用方法のみでは，教員採用の公正性や透明性，多様性の確保という点に課題が残る。特に，外部への広報や公募の実施が確認できないことから，開かれた採用機

会の保障や広範な人材からの選抜機会の創出といった観点で不十分と言わざるを得ないため，改善が求められる。

実質的な取組の内容や成果（女性応募者の割合や採用実績，選考時の配慮等）については明記されておらず，今後の具体的施策や制度的な支援体制の強化が課題であり，改善が求められる。

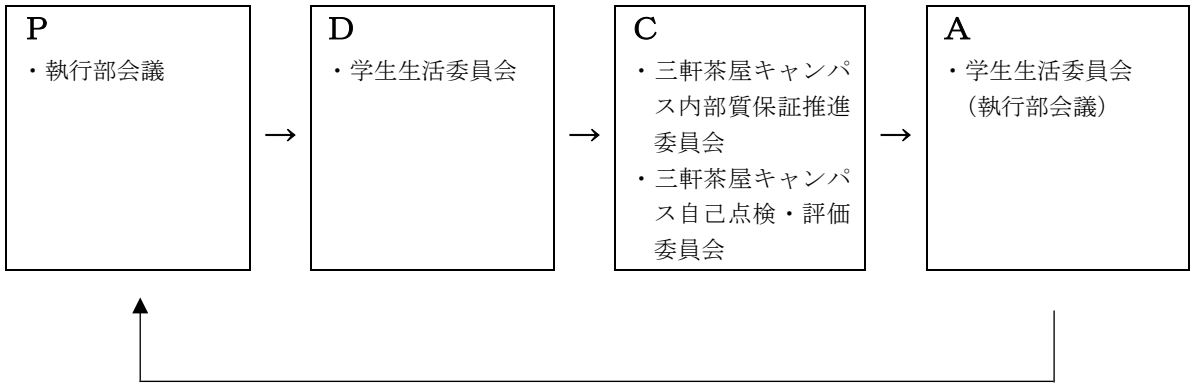
現状では評価方法や基準の具体性，成果のフィードバック方法についての記述が限定的であるため，改善が求められる。

学部等教員組織編制方針に基づき人員配置を行っているが，客観的に判断が可能となるよう担当コマ数による適切な授業負担を図るなど，執行部会議・人事計画検討委員会で改善を計画検討し，人事計画検討委員会・人事委員会で改善実行を図る。

採用方法については，危機管理学のオールハザードアプローチに基づいた４領域である①災害マネジメント領域，②パブリックセキュリティ領域，③グローバルセキュリティ領域，④情報セキュリティ領域及び新カリキュラムで展開するガバナンス・コンプライアンスなどの授業を担当できる専門家をバランスよく配置すること執行部会議・人事計画検討委員会で心掛けている。カリキュラムで必要な人材をリストアップされた候補者について，人事委員会で審査を行っている。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②
学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

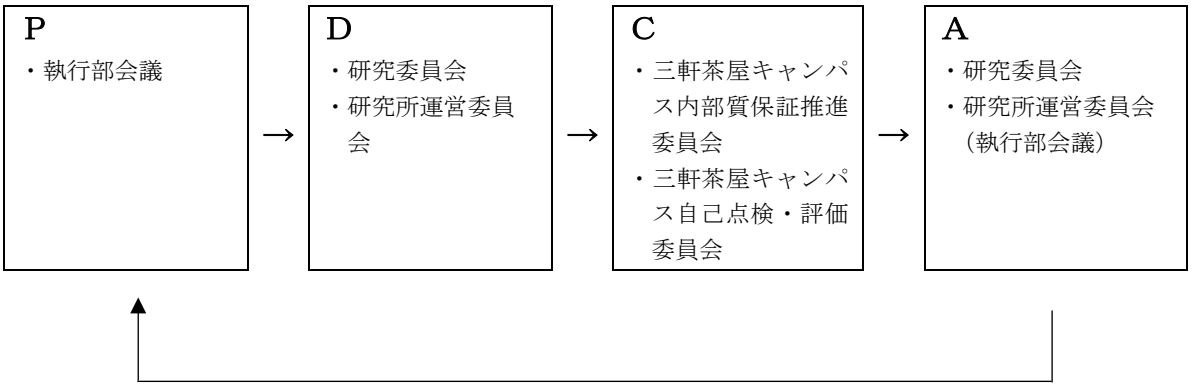
定期的に学生生活委員会及び学生支援委員会を開催し，課題の把握，改善に努めている。
学生支援に関わる事項を定期的に点検するために，学生生活委員会において，細かな担当制を設けて，責任もって一人一人の学生の伴走支援に取り組んでいる点は評価できる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

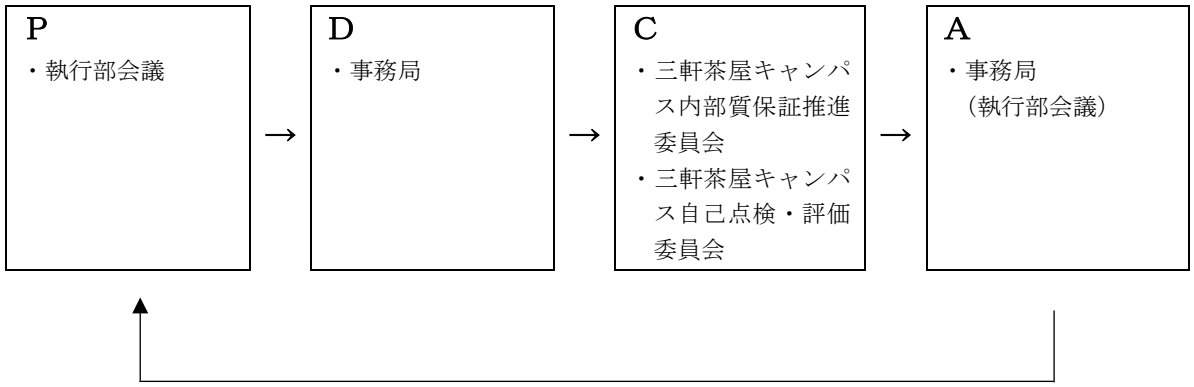
危機管理学部執行部及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会では，ＰＤＣＡサイクルを意識して，年次ごとに，前年に立てた事業計画（教育研究等環境に関わる状況含む）がどの程度達成されたかについて，「事業報告」の一環として自己点検評価を実施している。その結果，改善の余地がある事案に関して継続的にブラッシュアップし，効果的な取組へとつなげている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

危機管理学部では，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会において当該事項に関する点検・評価を定期的に実施し，執行部会及び三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会に報告している。今年度の三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）によって，組織体制の未確立が問題と指摘されたことから，執行部会議（A）・（P）において検討を行い，来年度は地域連携委員会（D）を設置予定としている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

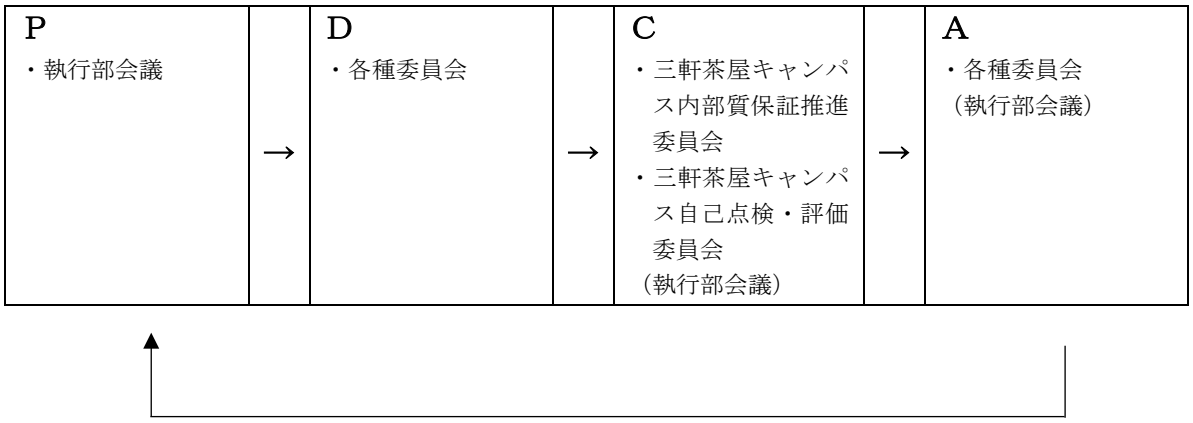
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　スポーツ科学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

点検・評価について，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会から三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会へ依頼，さらに学外評価先への点検・評価を踏まえた上で，しっかりとした自己点検・評価を進めている。

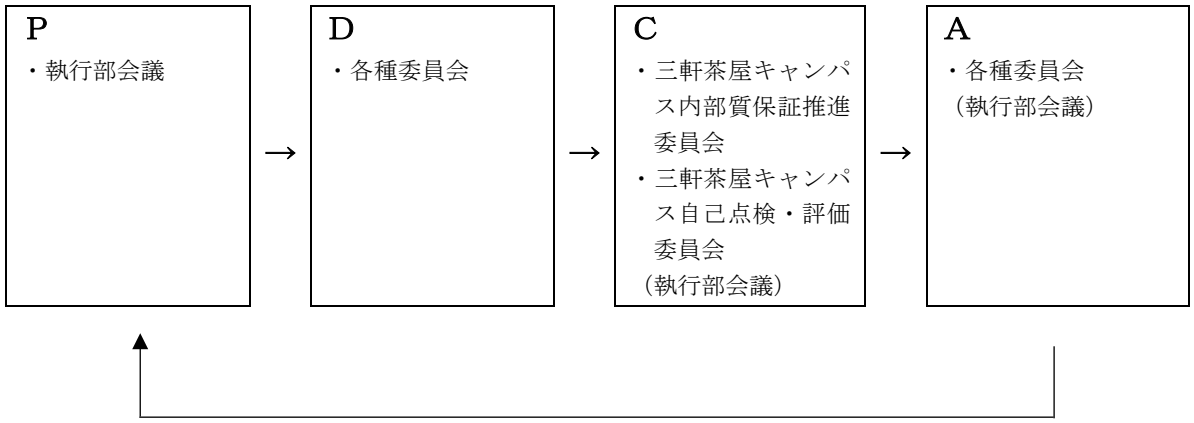
本部と連携をして，絞り込んだ項目を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会で集中的に点検・評価していたが，今年度からは，次期認証評価を見据え，全項目において点検・評価を執行部の指示の下，実施するよう改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

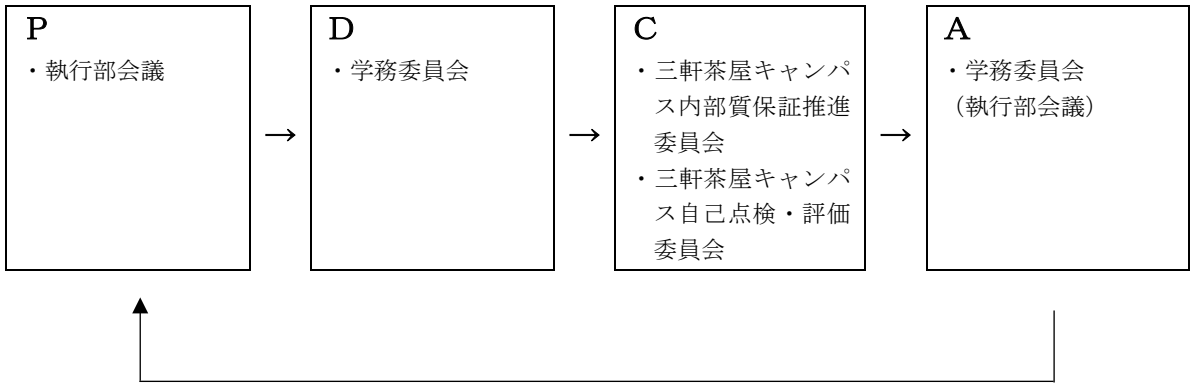
執行部会議（Ｐ）から各種委員会（Ａ）に対し意見を伺い，三軒茶屋キャンパスでは，ほとんどの委員会が両学部合同となっているが，各学部の専門性に即した教学運営に課題があることが判明した。そこで執行部会議（Ｃ）は，各学部の権限と責任に基づいた意思決定を可能とするため，各学部に委員会設置が可能となるよう規程改正の上，次年度から各種委員会（Ａ）の体制改善に向けて検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

執行部会議（Ｐ）から，各学期（前学期・後学期）における教育の内部質保証のための点検・改善について学務委員会（Ｄ）に提言し，学務委員会（Ｄ）は，各教員に対し学期ごとに授業改善計画書を作成させ，自身の授業について振り返る機会を設定している。また，学期ごとに学生による授業評価アンケートも実施し，各教員に結果を配信の上，改善を促している。学務委員会（Ｄ）は，実施状況を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）に報告し，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）は，その報告内容を確認・評価した上で，学務委員会（Ａ）への改善・向上を促すこととしている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

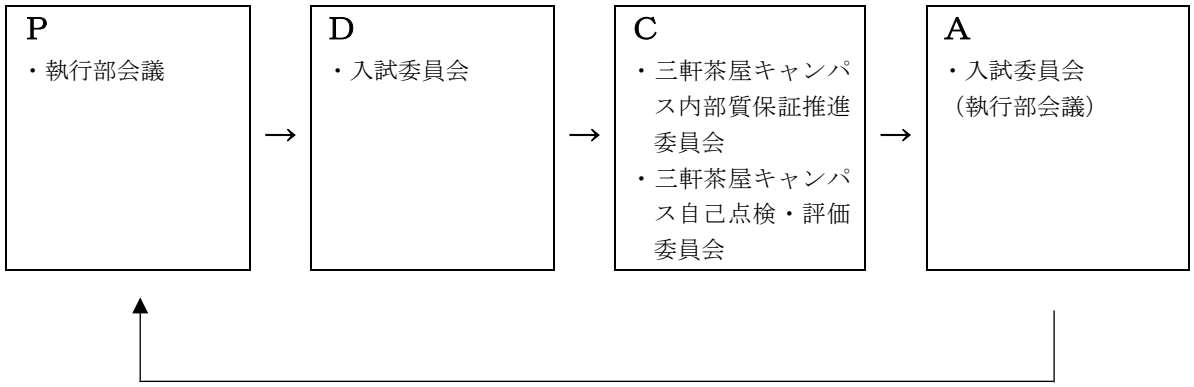
三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）による自己点検・評価結果を三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）に報告し，執行部会議（P）は，その報告内容を翌年度の事業計画作成や学務委員会（D）への諮問に活用し，次年度の教育活動等の改善に反映，実行している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

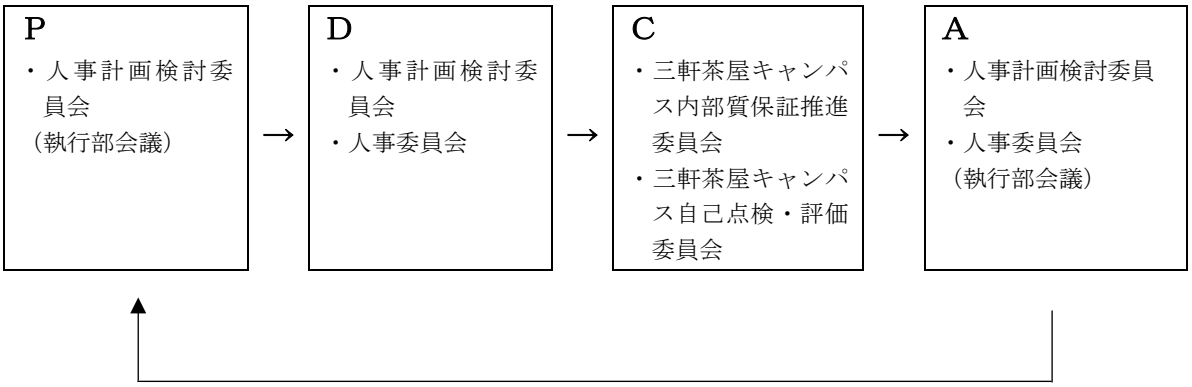
入試委員会（D）で入学者の属性分析等を実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）で入試制度の最適化の観点で点検・評価を行っている。その評価内容について入試委員会（A）で確認・検討を実施し，その改善方策（総合型選抜の種類増及び一般入学者選抜及び転部・編入学試験の日程検討等）を執行部会議（P）に提言している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会が，毎年度，自己点検・評価を行っている。結果の活用，改善・向上への取組については，努力が必要と思われる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

具体的な時間割編成方法や人員配置の根拠が示されておらず，実際に適切な授業負担が実現しているかを客観的に判断することが難しい。

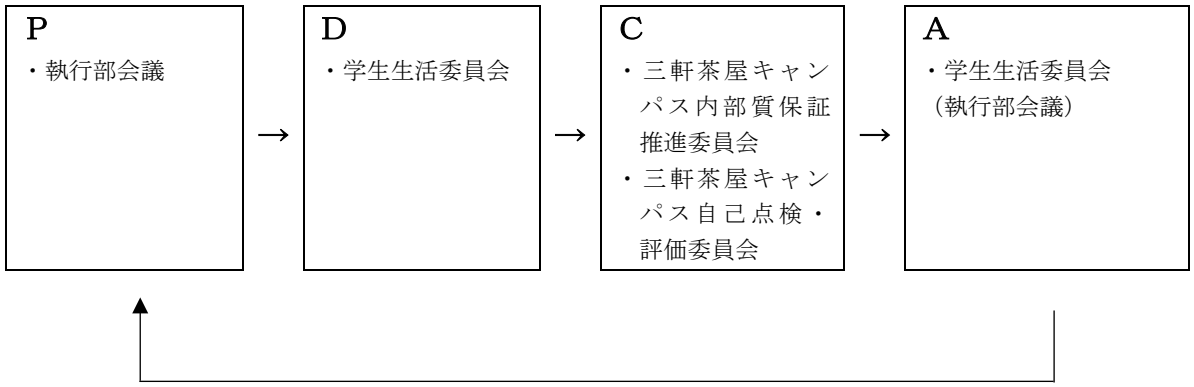
紹介に依拠した採用方法のみでは，教員採用の公正性や透明性，多様性の確保という点に課題が残る。特に，外部への広報や公募の実施が確認できないことから，開かれた採用機会の保障や広範な人材からの選抜機会の創出といった観点で不十分と言わざるを得ないため，改善が求められる。

実際の採用プロセスにおける具体的な取組（女性応募者の確保，選考方針の工夫，育成・支援制度の整備等）についての記述が確認できず，形式的な配慮にとどまっている印象が否めないため，改善が求められる。
現状では評価方法や基準の具体性，成果のフィードバック方法についての記述が限定的であるため，改善が求められる。

学部等教員組織編制方針に基づき人員配置を行っているが，客観的に判断が可能となるよう担当コマ数による適切な授業負担を図るなど，改善を図る。
教員採用の公正性や透明性，多様性の確保するため令和８年度採用としての助教採用において公募を実施したが，残念ながら今回は女性応募者がゼロであった。本学部は４人に１人が女性教員ではあるが，引き続き女性応募者の確保に努めていく。また，選考方針としては，スポーツ科学という分野の中で研究と実践のバランスを考慮している。育成・支援方針としては，教授退職後は助教等の若手を任用することとしている。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②
学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

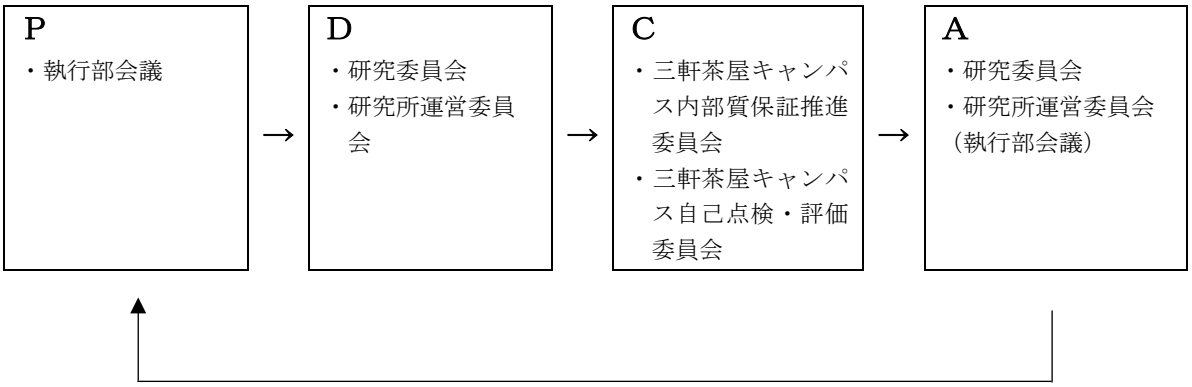
学生生活委員会及び就職委員会において担当教員を配置し，対応を協議しながら，本委員会にて審議して業務を行っている。その上でレビュー等反省を行いながら，次年度に生かしている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

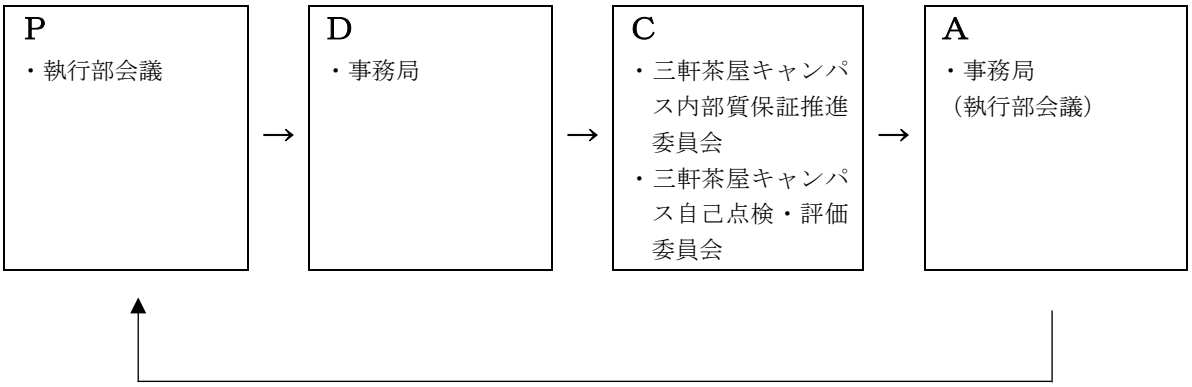
スポーツ科学部執行部及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会では，年度ごとの事業報告を通じた自己点検・評価というＰＤＣＡサイクルを運用し，教育研究等環境の改善を図っている。前年の計画達成度を検証し，その成果と課題を基に，継続的な改善を行うことにより，教育研究等環境の質的向上が見込める点は評価できる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯ 社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）において，当該事項に関する点検・評価を定期的に実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）に報告している。今年度の三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）によって，組織体制の未確立が問題と指摘されたことから，執行部会議（A）・（P）において検討を行い，次年度は地域連携委員会（D）を設置予定としている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

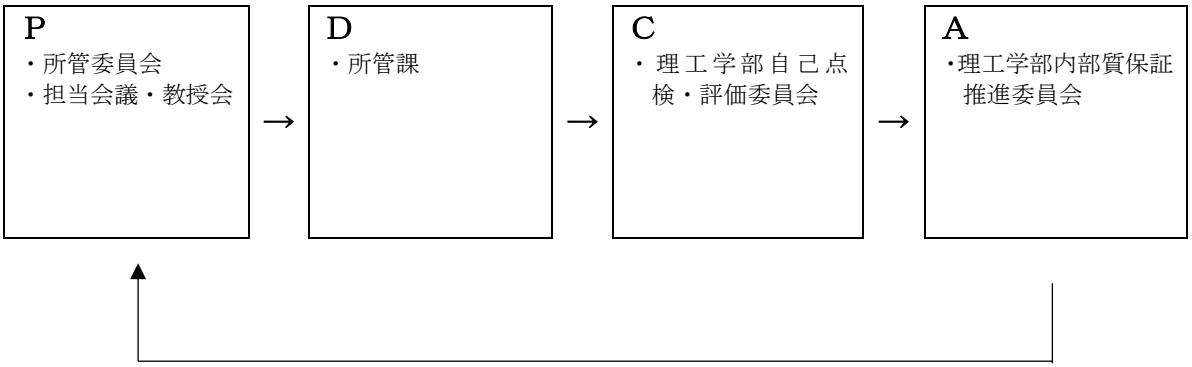
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　理工学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部では，理工学部自己点検・評価委員会（専門委員会含む）が関係部署（各委員会等）へ点検・評価の資料作成依頼を行い，取りまとめた点検・評価報告書等を理工学部内部質保証推進委員会へ報告を行い，本学部の課題等の抽出を行っている。課題として抽出された事項については，理工学部自己点検・評価委員会が関係部署へ改善計画の作成を指示し，改善に努めている。作成された改善計画は，担当会議（執行部会）において審議を行い，担当・主任会議及び教授会にて報告している。

また，本学部では，理工学部自己点検・評価委員会及び理工学部内部質保証推進委員会が中心となって教育活動に関する外部評価を実施しており，外部評価結果で意見等があった内容については，各部署において改善取組計画を作成し，理工学部内部質保証推進委員会で検証を行っている。理工学部内部質保証推進委員会で検証後，外部評価者へ改善取組状況の報告を行うとともに，併せて，教授会での報告，本学部ホームページへ掲載を行うこととしている。

自己点検・評価活動以外の取組としては，理工学部内部質保証推進委員会が理工学部情報統括委員会（ＩＲ委員会）の取組内容，ＳＤ研修会・ＦＤ研修会の開催結果等について報告を受

け，点検・評価を行っており，改善が必要な場合は改善指示を行っている。
　具体的な改善事例としては，大学評価（認証評価）等の指摘に基づき，学務委員会において「成績優秀者に対する履修登録単位数上限（キャップ制）の緩和」の検討を行い，令和９年度カリキュラム改正に向けた具体的な緩和条件の策定を進めている。また，教員組織においても，ＴＡ（ティーチング・アシスタント）の育成強化に向け，理工学部内部質保証推進委員会からの指示に基づき研修を制度化する等，点検・評価の結果を実効性のある制度改善へとつなげている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

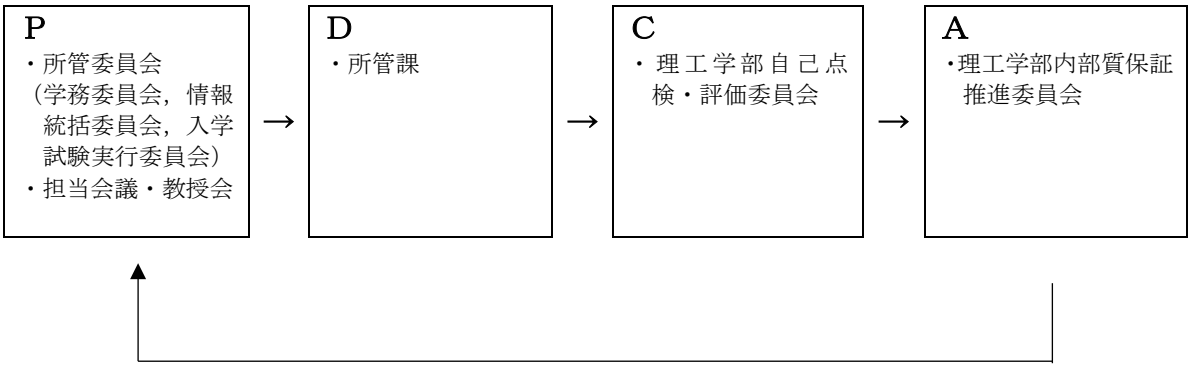
【提言（改善課題）】
　外部評価の結果に基づく改善取組の方針を各部署で検討しているものの，具体的な改善事例が明示されておらず，学部全体で成果を共有する仕組みが十分に機能していない。例えば，内部質保証推進委員会が主導し，外部評価に基づく改善実績を明確に示すとともに，その成果を学部全体に周知・共有するよう改善が求められる。

　教育活動に関する外部評価にて意見等があった内容については，各部署が改善取組計画を作成し，理工学部内部質保証推進委員会で検証を行っている。理工学部内部質保証推進委員会で検証後，外部評価者へ改善取組状況の報告を行うとともに，併せて，教授会での報告，本学部ホームページへ掲載を行うこととしている。令和６年度の外部評価結果に対する改善状況については，令和７年 12 月３日に外部評価協議会（意見交換会）を開催し，外部評価者へ報告を行った。今年度の外部評価結果を教授会にて報告後，同結果と併せて改善取組状況をホームページに掲載予定である。
　外部評価等による改善課題への対応については，理工学部内部質保証推進委員会が評価結果を検証し，改善に向けた方針を決定して各部署へ指示を行う。これを受けて，所管委員会・担当会議が具体的な改善取組計画を策定し，同計画に基づいて所管課が実務を遂行した結果を理工学部自己点検・評価委員会が点検・評価を実施し，同結果を理工学部内部質保証推進委員会へ行うこととしている。

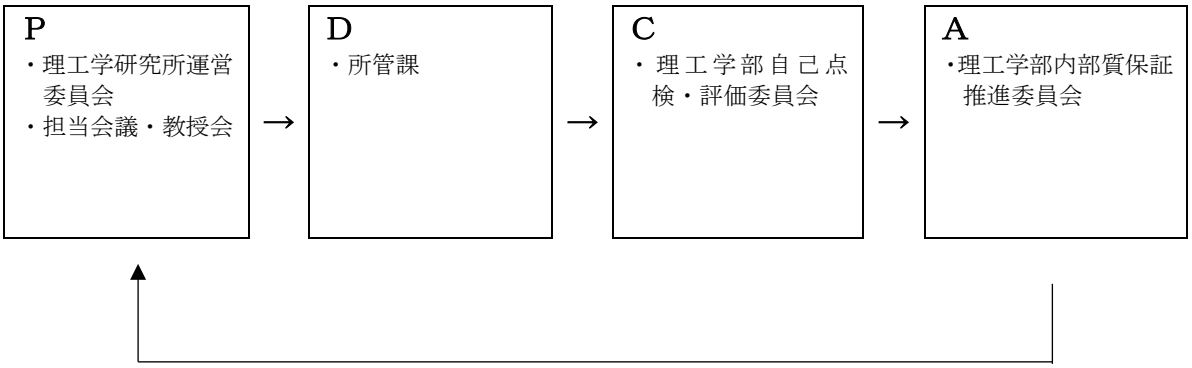
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学科の新設・改組等】



【研究所の新設・改組等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学科組織の適切性については，学務委員会，理工学部情報統括委員会（ＩＲ委員会），執行部及び入学試験実行委員会が中心となり，カリキュラムの検討及び入学定員充足率・収容定員に対しての学生充足率等の学科定員管理から検討を行い，計画の立案を行っている。

研究所の新設・改組等は，理工学研究所運営委員会が中心となり，学部全体の研究力向上と外部への認知度向上等を目的として計画立案を行っており，令和７年度に研究支援体制の整備

と機能強化を図るため，分野間連携を含む共通の研究目的を持つ複数の研究者の単位にユニット名称を付して組織的に活動することを学部の公式な位置付けとして扱う仕組み（研究ユニット制度）を制定した。

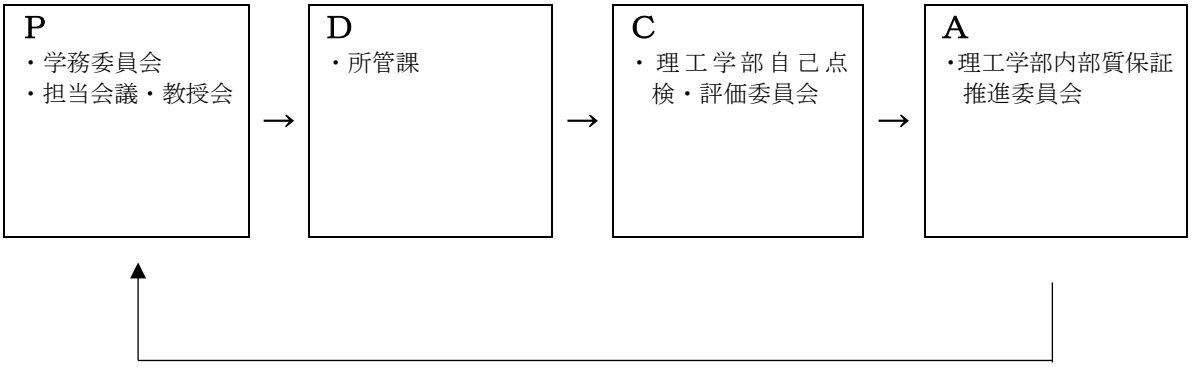
上述のとおり，学科組織及び研究所組織の適切性については，所管委員会等で計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議，教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

学務委員会が所管委員会となり，上記のＰＤＣＡサイクルで点検・評価を行っている。評価の基準は，日本大学教育憲章，各学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性を主たる指標としている。また，大学評価（認証評価）等で指摘された「単位の実質化」や「履修登録単位数上限（キャップ制）の緩和条件」等の項目についても，重要な評価指標として設定している。

周期については，４年に１度のカリキュラム完成年度に合わせた大規模な検証（現在は令和２年度に導入したカリキュラムを検証）を実施し，次期カリキュラム編成（令和９年度予定）への反映を行うこととしている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

カリキュラムの見直しは，学務委員会が自己点検・評価結果等に基づき，資格取得に係る変更以外は，完成年度までの各学科等における検証結果を基に，日本大学教育憲章，主に教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）並びに（人材養成その他）教育研究上の目的を踏まえた検証を行う教育課程の改善・見直し内容の立案を行っている。現在は，特に令和６年度大学評価（認証評価）結果において改善課題

と指摘されている「成績優秀者に対する履修登録単位数の上限を緩和する条件」について，令和９年度カリキュラムに合わせて見直すよう検討をしており，単位の実質化について対応を行っている。

所管委員会にて計画の立案を行った内容については，担当会議，担当・主任会議，教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価及び教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

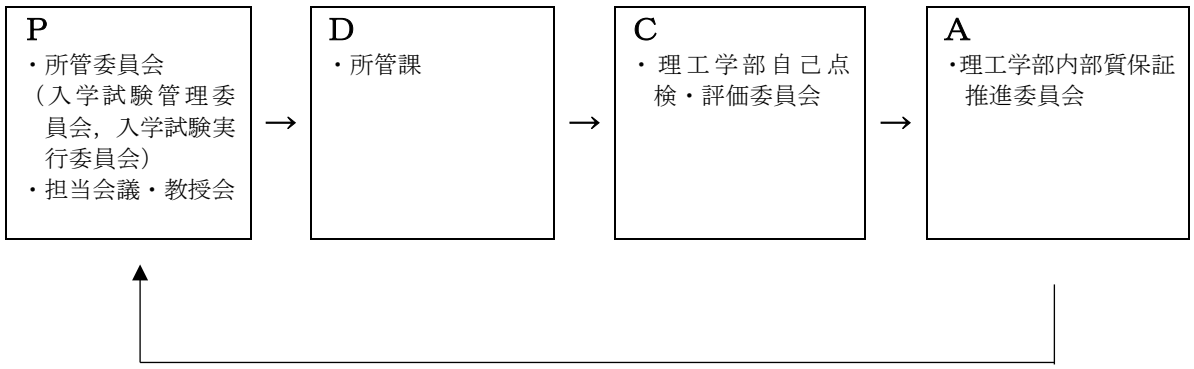
【提言（改善課題）】

学位授与方針とは別に学修・教育目標を設定しているが，両者の違いや関係性が学生に十分に分かりやすく説明されていないことが指摘されている。また，履修系統図が学修・教育目標にひも付けられている一方で，学位授与方針を含む三つの方針との関係性が不明瞭であり，学生への周知の在り方にも課題がある。さらに，緩和措置については条件を満たす学生の割合が高く，条件設定の適切性に問題があるとされている。くわえて，「総合演習」を卒業達成度評価科目と位置付けて記述試験による学習成果の把握を試みているものの，記述試験だけでは測定できない項目への対応が不十分であるとの指摘もある。これらはいずれも，内部質保証システムの点検・評価が十分に機能していないことを示すものであるため，例えば，理工学部内部質保証推進委員会が主導して，学位授与方針と学修・教育目標の関係性の明確化と周知方法の改善，履修系統図と方針の連動性の強化，緩和措置条件の妥当性の再検討，さらに，学習成果を多面的に把握できる評価方法の導入を進めるよう改善が求められる。

理工学部内部質保証推進委員会が主導となり，これまでの自己点検・評価等を通じて抽出した課題を学務委員会へフィードバックを行い，学務委員会が計画立案を行い，学位授与方針と学修・教育目標の関係性明確化，履修系統図との連動性強化，緩和措置条件の見直し，多面的な学修成果評価方法の導入を検討し，教育の質保証体制の改善を行う。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

入試実施に関わる業務を担う入学試験実行委員会において，入学試験結果報告書を作成している。また，入学者選抜の全般に関して検証を行い，各入試別の実施内容と改善内容について報告書の作成を行い，次年度に反映している。

適切な入学手続者数の確保については，同委員会で合格予定者の判定に関わる情報の処理作業を行い，合格者の手続率に関する詳細なデータの蓄積により，入学手続者の動向予測を行い，募集人員に対して適切な入学手続者数の確保を図っている。本予測方法の適切性及び公正性は，学部長・両校舎学部次長・事務局長により確認・承認され，入学試験判定委員会及び教授会（代表会議）で報告している。また，安定的な入学者確保のため，令和８年度以降の入学者選抜において新たな選抜方式を導入することを検討している。

志願者の募集については，広報委員会において，入試広報の在り方を協議し募集活動を行っている。

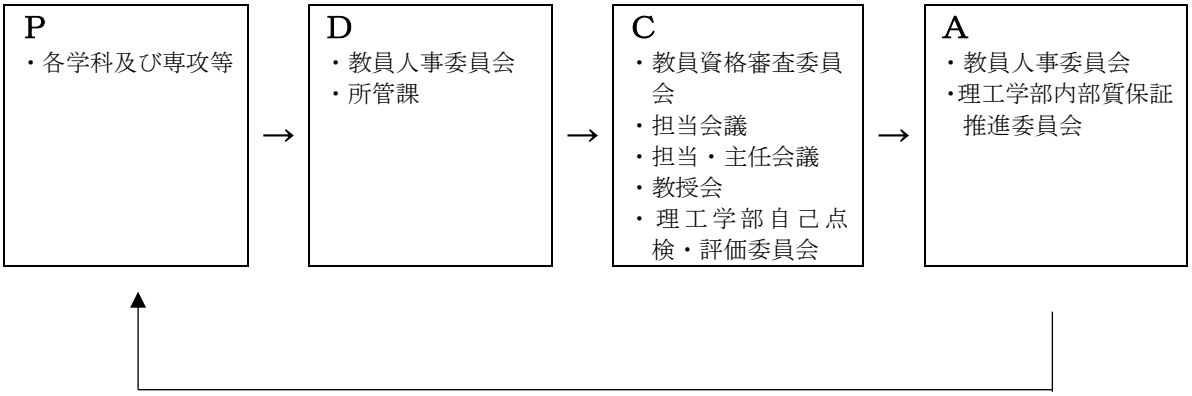
上述のとおり，学生の受け入れに関わる事項については，所管委員会等にて計画の立案を行い，担当会議，教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価，教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は所管委員会等にフィードバックを行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

各学科等から提出された次年度の教員人事計画を毎年６月開催の教員人事委員会において，各学科等における教員の組織構成や資格ごとのバランス及び年齢構成を含めその可否を検討している。検討結果については，各学科等に通知され，必要に応じて面談を行うこととしている。この結果を基に，学科等は規程及び基準等に照らして採用活動の実施及び昇格者を検討し，教員資格審査委員会，担当会議，担当・主任会議及び教授会における審査を経るものとしている。

教員人事委員会では，学校教育法等に基づき定められた「教員配置計画に係る基本方針」及び「教員組織編成方針」を踏襲し，理工学部における中・長期にわたる教員組織・人事計画「教員配置計画」に関する事項を審議し，学科等における年齢構成や資格ごとのバランスを考慮している。また，教員資格審査委員会，担当会議，担当・主任会議及び教授会では，新規採用等の申請があった者について，教員規程等に定められた資格の確認及び審査を行うことで，公平性及び公正性を担保している。

同取組と並行して，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて，大学設置基準に定める教員数の充足状況等から教員組織の適切性について検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は所管委員会等にフィードバックを行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

学科ごとに任されている運用のばらつきが，採用基準や選考過程の明確さ，透明性に差を生む可能性があるため，学部として共通の募集方針やガイドラインを整備・共有することが今後の課題であり，改善が求められる。

現状の対応は配布資料と専攻による個別説明にとどまっており，全学的・体系的な研修プログラムの有無や，継続的なフォローアップ（フィードバック，問題点の共有等）については記述が確認できず，ＴＡの授業補助力を更に高めるための取組としては課題であるため，改善が求められる。

学科等により取り扱う分野及び求める人材像等が異なることから，理工学部統一の教員評価基準「理工学部教員評価基準」を基に各学科等で評価基準を定めている。この評価基準については，教授会の審議を経て制定・改正することとしている。また，教員資格審査委員会及び教授会等において上記基準に沿って審査を実施していることから，採用基準及び審査の透明性は担保されているものと考える。今後，学科ごとの運用にばらつきが生じないよう，引き続き検証するものとする。

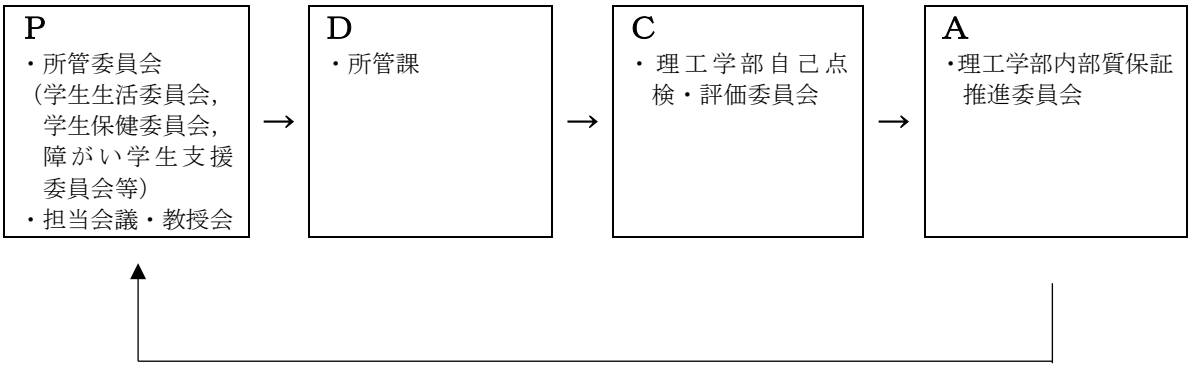
また，ＴＡに対する研修は，「日本大学理工学部ティーチング・アシスタントに関する内規」の改正を行い，次年度以降，研修を制度化する。体系的なプログラムと継続的フォローアップにより，ＴＡの授業補助力を組織的に向上させるよう取り組む。

両取組については，自己点検・評価等を通じて理工学部内部質保証推進委員会にて検証を行い，改善状況等の確認を行うこととする。

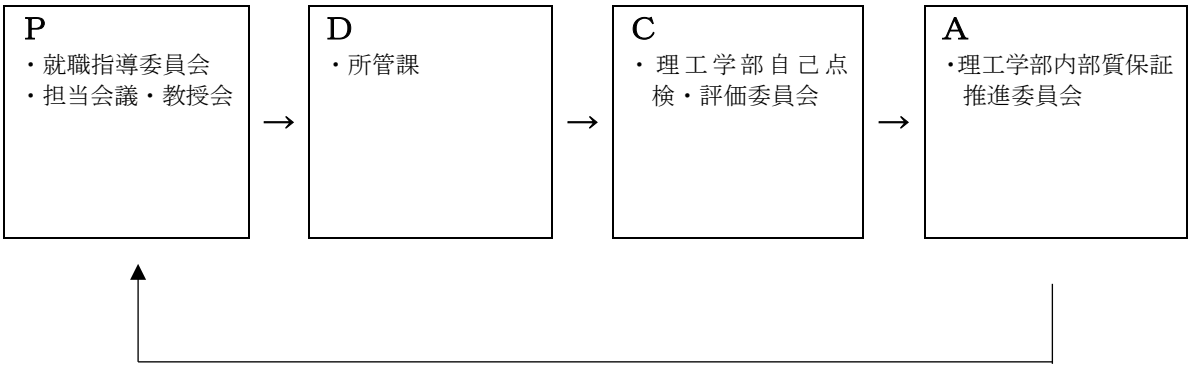
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活関係】



【就職関係】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活委員会においては，学生団体（サークル）の活動実績に応じ，昇格や降格，廃部，活動実績に応じた補助金支給額の審議を行っている。学部祭（桜理祭）の運営に当たっては，学生の実行委員会代表者と学生生活委員会による桜理祭協議会を校舎ごとに開催し，学部祭の企画内容の適切さや安全管理について確認し，審議の上，学生との協同に取り組んでいる。学部祭終了後には，同委員会においてその実施報告を精査し，所管課及び学部祭実行委員会とともに，次年度の取組への改善に活用している。学部祭終了後には，同委員会でその実施報告を精査し，所管課及び学部祭実行委員会と共に次年度の取組への改善に活用している。

学生保健委員会においては，学部内の学生傷害事故等調査委員会にて報告された実験中に発生した傷害事故における原因究明と対策案を審議検討して，対策案を学部内で共有し，実験装置の取扱い手順や方法の改善を図る等，学部内で改めての注意喚起を行う契機とし，再発事故の防止と更なる安全対策に向けての取組を行っている。毎年４月に実施する「日本大学メンタルヘルスチェック（K6)」においては，取得した結果に基づき，数値や分布傾向等を分析し，リスクが高いと思われる学生への対応については，面談での状況確認を経て，必要に応じて，カウンセリングや保健室との連携，合理的配慮の申請を行って円滑に学生生活が過ごせるよう取り組んでいる。本委員会で作成し，初年次教育授業において実施している「学生生活の安全・健康学」の講義においては，各学科にて実施された状況を確認して，受講後の理解度を測るための小テストの実施や講義を担当した教員へのアンケートを行い，委員会において次年度への改善内容等を検討し，次年度の編集時に反映している。

障がい学生支援委員会においては，決定した合理的配慮の実施状況を，支援対象者及び支援実施者と面談等を通してモニタリングを実施している。実施状況に問題がある場合や追加や削減の要望がある場合には，再度委員会に諮る等の対応を行い，適切な支援が実施できるよう体制を整えている。合理的配慮の提供に当たっては，各種研修や理工学部学生理解講座などの取組を行っているが，合理的配慮の提供内容や決定過程に不服等がある場合や万が一差別的な取扱いを受けてしまった場合に備えて，令和７年７月より学生支援室への相談，本部学生支援センターへの再相談，本部学生課への救済措置の申立て等の体制を整備している。

就職支援に関する年間計画等は就職指導委員会が中心となって策定し，学生の就職活動の動向や前年の支援実績，企業からのフィードバック等を踏まえ，ガイダンスや個別相談，求人開拓等の支援方針を定めている。具体的な支援活動の実施については就職指導課が担っており，就職支援計画の実行に当たっている。

上述のとおり，学生支援に関わる事項の適切性については，所管委員会で計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議及び教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価及び教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

これらにより，学生生活におけるより充実したサポート体制，就職活動の早期化に対応した低学年向けのキャリア形成支援プログラムを新たに開催する等効果的な取組につなげている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題)】

駿河台校舎の学生支援室について，カウンセリング及び合理的配慮の支援希望件数が増加している状況下において，相談希望者が気楽に訪れることが難しい環境にあることは改善が求められる。

本学部駿河台校舎学生支援室は，面談ブースの数などは船橋キャンパスと同様であるが，理想としては相談に至らずとも少なからぬ不安を持つ学生が予約なしで，気軽に訪れるための空間的な環境構築（フリースペース，サロン等の設置）が有効であるが，都市型キャンパスの故に空間的な問題があるため，その設置が困難な状況となっている。

相談予約については，相談を希望する学生が予約するためのハードルを低減するため，学生

保健委員会，所管課においてWWeb フォームによる予約体制を構築している。予約は継続者が優先であり，時期によっては新規予約が困難な場合があることから，校舎間の所管委員会及び事務局，大学本部の学生生活委員会及び学生課との連携により対応しているが，駿河台・船橋の各校舎学生支援室間や重複するカウンセラーが在籍していることもあり，大学本部の学生支援センターを紹介する対応も行っている。

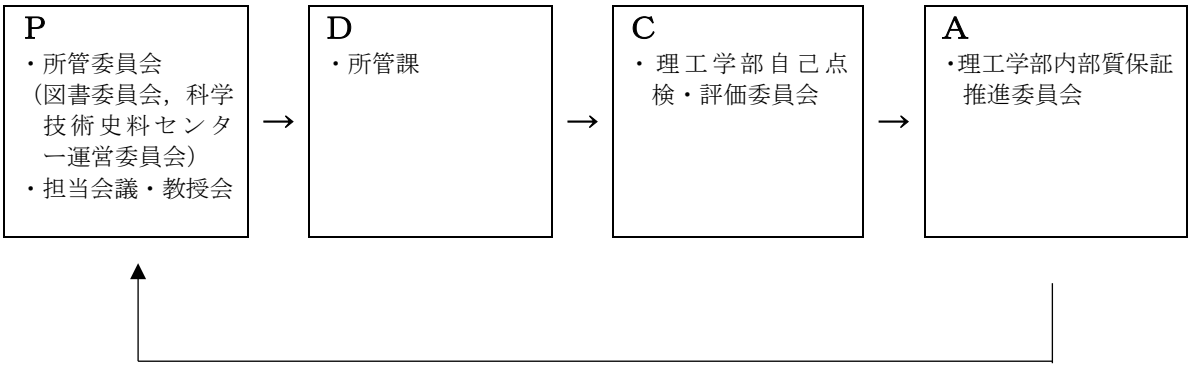
令和７年度から駿河台校舎では，所管委員会及び事務局で合理的配慮の申出に対して，学内及び学外の医療・福祉，行政機関とのコーディネーターとして，ソーシャルワークに関する有資格者（精神保健福祉士）を採用し，専門的知識と経験による質と効率の面でも改善を図り，多様な観点から，学生支援室を気軽に訪れ，抱えている悩みの早期解決に向けた契機となれるような環境を構築するよう改善を図っている。

本内容については，教育活動に関する外部評価においても外部評価者から「改善が期待される事項」として指摘を受けており，理工学部内部質保証推進委員会においても継続的に改善状況の検証を行う。

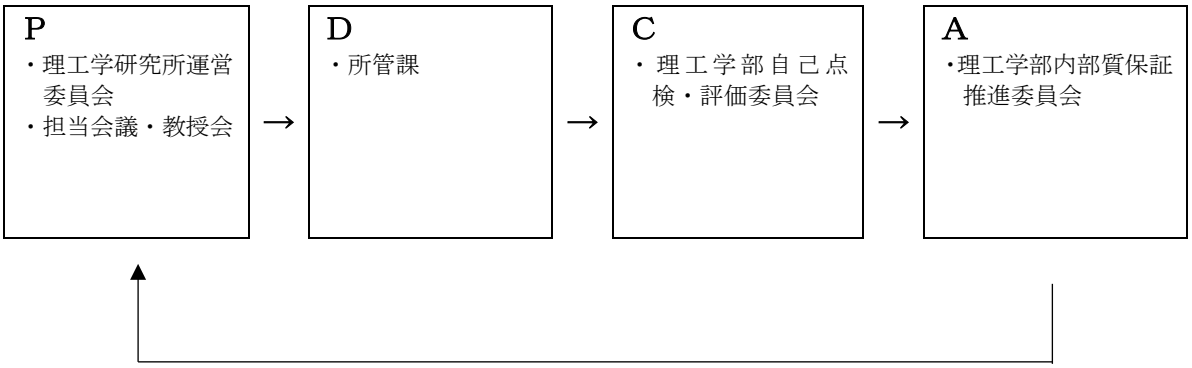
基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究所】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

図書委員会では，図書館業務全般の報告のほか，図書館における諸課題への対応策の検討等を行い，その結果を基に図書館事務課が具体的な対応策を策定し，図書館利用の促進及び所蔵資料のアクセス促進を図っている。

科学技術史料センター運営委員会では，科学技術資料センターに関する報告のほか，特別展の企画，受贈・寄贈品受入の検討を行い，その結果を基に図書館事務課が具体的な対応策を策

定し，センター利用の促進及び史料の充実を図っている。
　理工学研究所運営委員会では，学部が実施する助成金等に競争的資金をより獲得していくことを目指す各種支援を行っている。また，理工学研究所長から，特に科学研究費助成事業への積極的な応募を学部内で促し，外部資金獲得のための説明会の実施・参加に取り組んでいる。これらの各取組の実施については，研究事務課が担っている。
　上述のとおり，教育研究等環境に関わる事項については，所管委員会で計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議及び教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

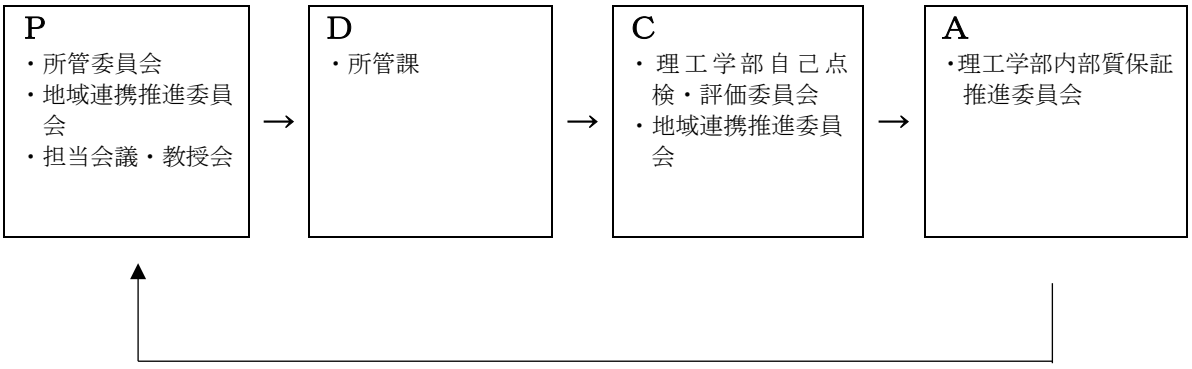
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

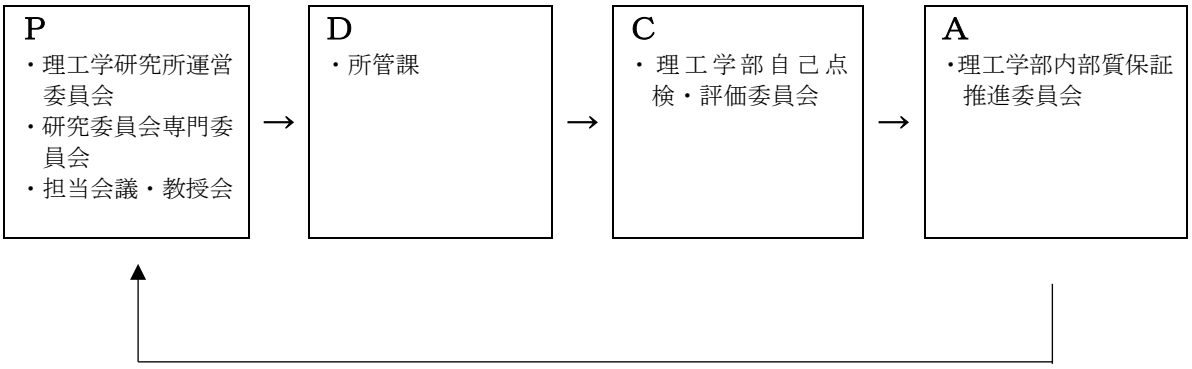
基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【公開講座等】



【研究関係】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

公開講座等の社会連携・社会貢献を目的としたイベントは，地域連携推進委員会及び各イベントを所管する各委員会にてそれぞれの特色を生かして計画を立案し，担当会議，担当・主任会議及び教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価，教育活動に関する外部評価等

を通じて検討・検証を行い，同結果は理工学部内部質保証推進委員会へ報告を経て，本学部の課題等を抽出している。

なお，検討・検証の段階では，地域連携推進委員会においても各イベントの実施状況等の確認を行い，ホームページを通して学外に広く発信しており，本学部全体の地域連携活動全体の改善・向上につながるよう計画の立案にも寄与している。

また，理工学研究所では，令和４年度から主に企業を対象とした研究所公開イベントを実施しており，同イベントは社会連携・社会貢献として果たす効果と同様に受託・共同研究に結び付くことを期待して，関連委員会において計画を立案し，担当会議，担当・主任会議及び教授会で報告等を行い，研究事務課等で実施している。同取組等についても，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価，教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ報告を経て，本学部の課題等を抽出している。同イベントについては，外部評価結果において社会から意見交換等を通して研究課題をもらい，それをフィードバックする良いサイクルになっているとの評価を受けており，毎年実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

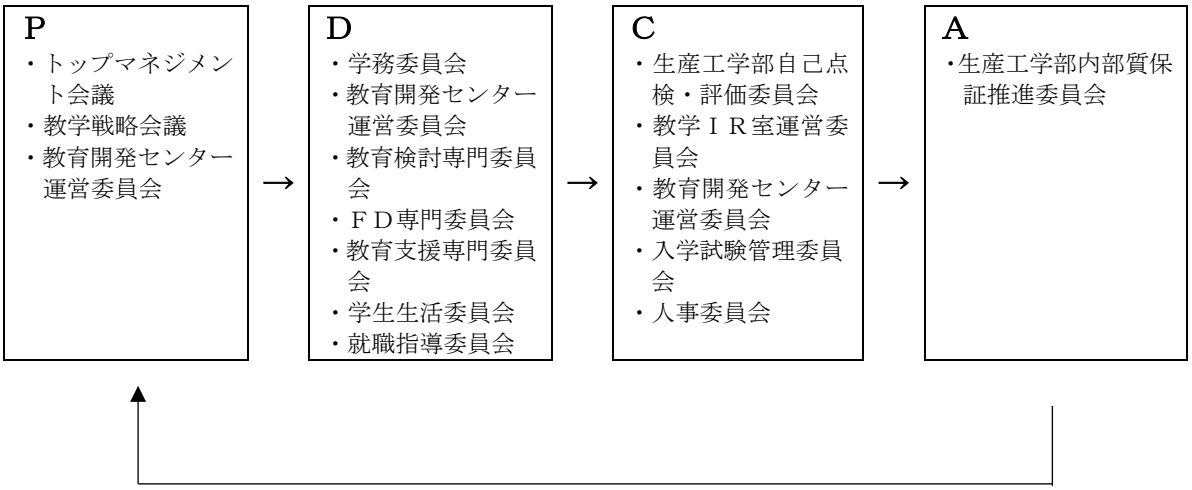
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　生産工学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，教学ＩＲ室運営委員会を設置し，教育・研究の改善・改革に生かすため，教学に関する情報，資料のデータ収集及び分析を行っている。この分析結果に基づき，教育・研究の改善・改革を実行するために設置されている教育開発センター運営委員会が，下部組織に当たる教育検討専門委員会，ＦＤ専門委員会，教育支援専門委員会等の各専門委員会に対して改善方策の助言等を行うことで，内部質保証システムを有効に機能させている。

直近では，令和７年度より開始した 100 分授業の効果について，授業担当教員全員及び在学生全員を対象としたアンケートを実施し，その分析結果を 100 分授業の授業日程，授業時間割の改善に取り入れる予定としている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

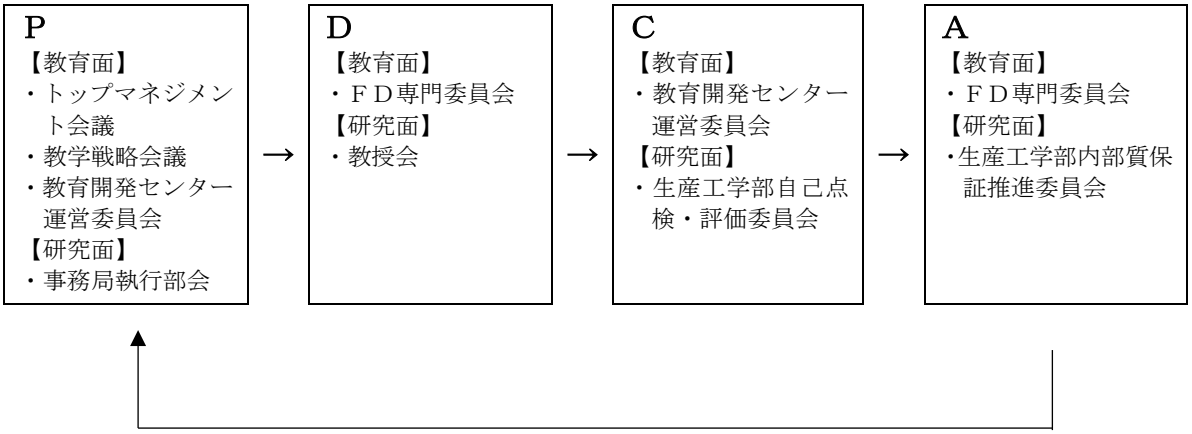
【提言（改善課題）】

三つの方針については，検証に取り組んでいるものの，現状では検証体制が整備途上にあり，その客観性や妥当性を高める工夫が十分でないので，例えば教育開発センターと教学ＩＲ室が連携し，三つの方針の検証方法を具体化するとともに，その客観性と妥当性を高める体制を構築するよう，改善が求められる。

全学で実施している外部アセスメントテスト（GPS-Academic）の結果データを教学ＩＲ室運営委員会にて，データ分析を行い，その結果を教学戦略会議にて確認し，教育開発センターへ改善を依頼する。教育開発センター運営委員会は，下部組織である教育検討専門委員会において，３つの方針の検証方法を検討し，学務委員会で検証結果に基づいた改善を実施する予定である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，教育面においては教育開発センター運営委員会にて，３つの方針の点検・評価を行い，社会的要請と照らし合わせて，学科の改組，新設，カリキュラム改定の必要性の検討を行っている。それに向けて，ＦＤ専門委員会にて，ＦＤ研修会を実施し，学問の動向や社会的要請の取組の把握を行っている。

研究面については，研究所運営委員会又は研究委員会が，研究組織の見直し等に関する計画を設定し，案件に応じて担当会議あるいは教授会で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は生産工学部内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。点検・評価の結果，改善・向上を図った事例は，現在，研究所の下に設置されている複数のリサーチ・センターについて，設置の必要性を検証することが挙げられる。

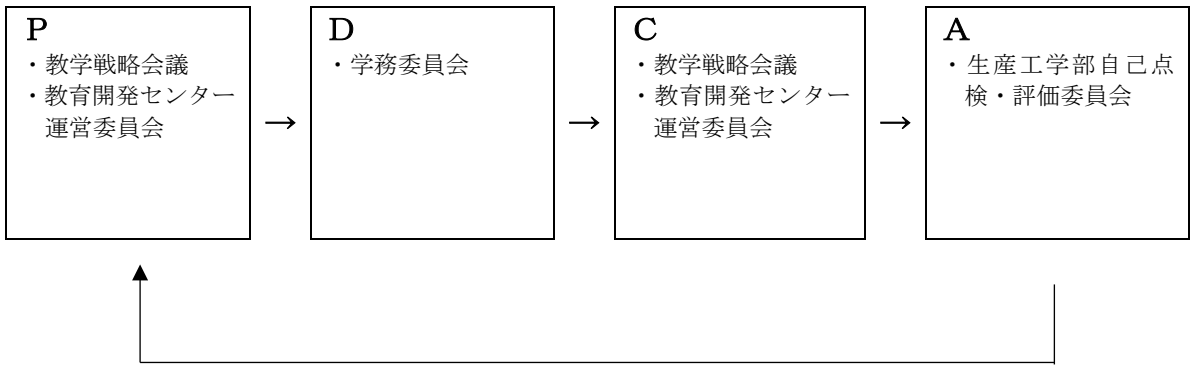
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

生産工学部では，教育内容・方法等の改善に向けた取組として，ＦＤ研修会，授業参観及び授業評価アンケートを実施し，教育効果についての研究，授業及び教育環境の改善，教育活動のレベルアップを図っている。また，教育成果，学修成果については，学務委員会，教育開発センター運営委員会，教育検討専門委員会及びＦＤ専門委員会が連携して検証を行い，その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結び付けている。

さらに，教育の意義の浸透として，教育業績等に関するティーチング・ポートフォリオの義務化及び教育貢献賞の導入を行い，教育に対する取組やその成果など教育活動についての記録から自己省察を通じて教育手法の改善を図っている。

上記の全ての取組について，毎年実施している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，自己点検・評価の結果を基に，教育開発センター運営委員会を中心として，ＦＤ研修会での改善テーマを確認している。その中で，教学ＩＲ室の分析及びフィードバック

を用いて，組織改善や教育改善を行うかをテーマにしたＦＤ研修会を実施し，教学ＩＲ室の活動の指針の一つを確認した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果の基準４の概評において，「学位授与方針とは別に学修・教育目標を設定しているが，学位授与方針との違いや関係性を学生に分かりやすく説明することが望まれる」と指摘されている。この点については，例えば，生産工学部内部質保証推進委員会などが中心となり，学位授与方針と学修・教育目標との関係性を整理し，学生への周知・説明方法を工夫するよう，改善が求められる。

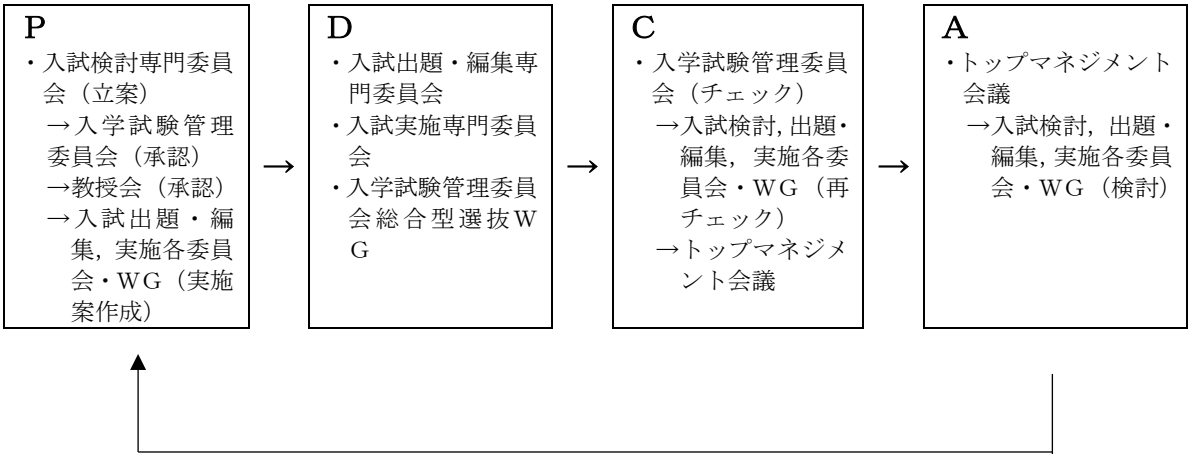
また，同じく基準４の概評において，「学習成果の把握がアセスメント・テスト中心であり，学位授与方針に定める成果を十分に評価できていない」と指摘されている。この点については，例えば，生産工学部内部質保証推進委員会や教育開発センターが連携し，学習成果の多面的かつ適切な把握方法を検討・導入するよう，改善が求められる。

「学位授与方針とは別に学修・教育目標を設定しているが，学位授与方針との違いや関係性を学生に分かりやすく説明することが望まれる」については，教学戦略会議を中心として，整理・検討を行う予定である。

「学習成果の把握がアセスメント・テスト中心であり，学位授与方針に定める成果を十分に評価できていない」については，現在取り組んでいる全学で実施している外部アセスメント・テスト（GPS-Academic）の結果データを教学ＩＲ室にて，データ分析を行い，その結果を基に，教育開発センター運営委員会の下部組織である教育検討専門委員会にて，検証方法を検討する予定である。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，学生の受け入れに関わる事項については，入試検討専門委員会が毎年の志願者・合格者・入学者の実績や入学時のアンケート結果，在学生の学業成績と入学者選抜の種類等を分析し，受入れの適切性の点検・評価と改善・向上策の検討を行っている。点検・評価結果とそれを踏まえた改善・向上策は，入学試験管理委員会で検討・審議され，さらに教授会に上程し審議されている。

改善・向上を図った事例として，入試検討専門委員会による総合型選抜の志願者動向等の検討結果に基づき，志願者との適切なマッチングや本学部への志望意欲の増進を目的として令和６年度入学者選抜から開始した「総合型選抜第１期フォローアップ」を，令和７年度入学者選抜ではオンラインでの質問対応など内容を拡充して入学試験管理委員会総合型選抜ＷＧが継続して実施し，令和６年度の志願者数 139 名，入学手続者 115 名に対し，令和７年度の志願者数 149 名，入学手続者数 121 名と，志願者数を 10 名，入学手続者数を６名増加させることにつながった。

令和８年度入学者選抜においては，更なる改善・向上を図るため，総合型選抜第１期に探究型を新設し志願者の選択の幅を広げるとともに，総合型選抜第２期を併願型に変更することで

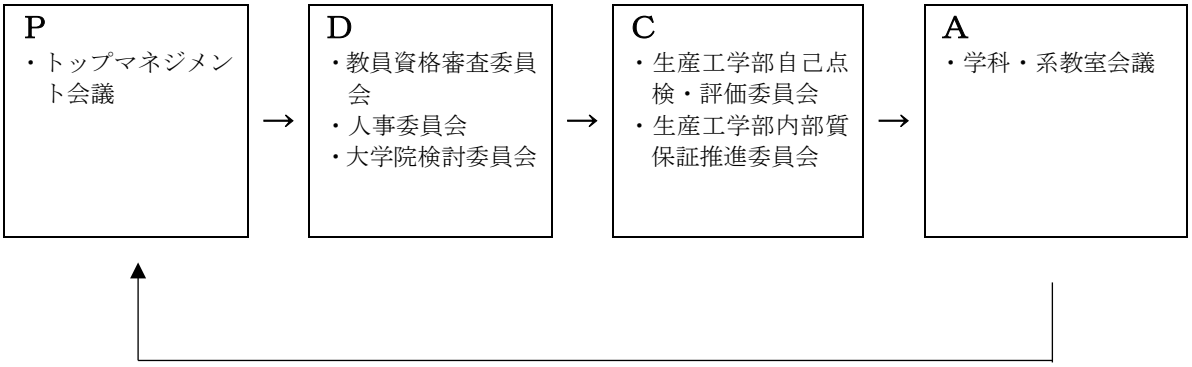
新たな志願者層の獲得を目指す取組を導入した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，毎年度教員採用や昇格を検討する際に，各学科・系主任が教員執行部に現場状況を踏まえた人事等の要望を説明した上で，教員組織編制方針に基づき教員人事計画及び教員配置計画の作成を行っており，その計画に基づき，教員資格審査委員会・人事委員会・教授会で採用等について実行に移している。今後は，教員人事計画及び教員配置計画の内容について，教員執行部や事務局執行部等で構成されるトップマネジメント会議において，人数・年齢・性別等のバランスも含め，各学科が継続的安定的に活動できる組織編制になっているかを確認した上で，採用を行うこととする。さらに，生産工学部自己点検・評価委員会において評価を行った上で，各学科・系主任へフィードバックすることにより次年度の改善へつなげていく。

改善・向上を図った事例として，非常勤講師及び大学設置基準の定める教員数に近づけるため，専任教員数の削減を行った。また，教員人事構成の適正化を行うため，各学科における人事計画について，教授数を学科教員数の 50～60%になることを目標にしたことに加え，本学出身者率 50%を目標として設定することとした。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

具体的な調整方法や基準，実際の授業負担状況など，実効性を示す具体的な根拠が確認できないため，その実施状況や有効性をより明確に検証する必要があり，改善が求められる。

推薦（紹介）による採用については，選考の透明性や客観性を担保する観点から，推薦理由や審査プロセスの明確化が今後の課題であり，改善が求められる。

本記述にはＴＡに対するガイダンスや研修の実施に関する具体的な記述が確認できなく，業務遂行に当たっての心構えや基本的なスキルの習得，また，倫理的配慮（守秘義務やハラスメント防止等）に関する教育の有無が確認できなかった。この点は，ＴＡ制度の質的保証という観点から今後の改善が求められる。

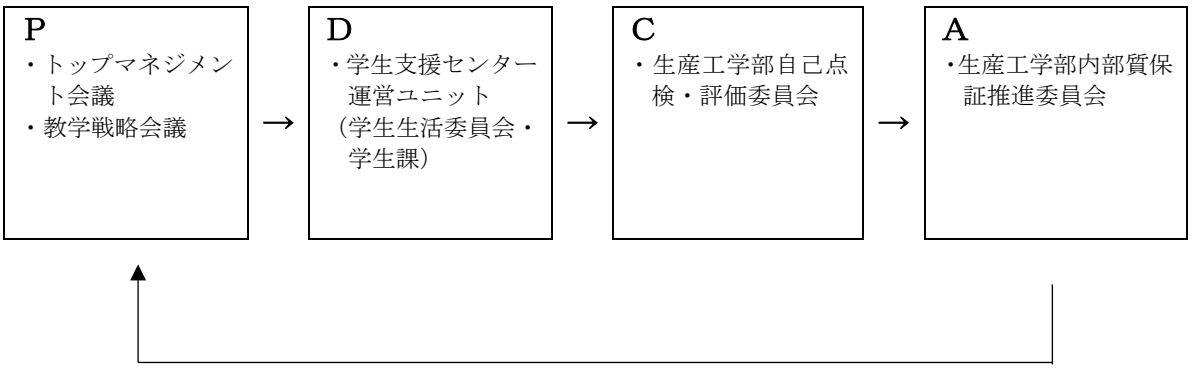
特定の教員に過度な授業負担が生じないようにする対策について，学科・系にて，時間割を検討するに際し，教員間で過度な負担等ならないよう担当授業数の調整を行っている。

教員の採用に関して，推薦（紹介）による採用も公募と同様の審査プロセスを踏んでおり，選考の透明性や客観性は確保できているものと考えるが，公募と推薦の使い分けの妥当性については，今後，教員資格審査委員会にて検討していく。

ＴＡに対するガイダンス及び研修について，大学院検討委員会にて整備し，令和７年度中に実施する予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

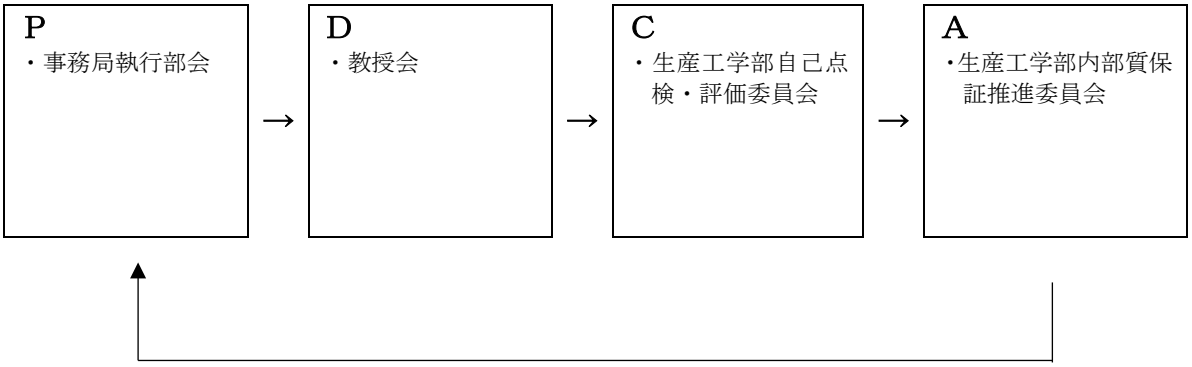
毎年度末，学生生活委員会幹事会にて，年度の取組の振り返りを行い，その結果を学部に報告している。それに基づき，学部から新たな課題を諮問されるとともに，学生生活委員会幹事会でも，新たな課題を設定している。例えば，今年度は，学生食堂の混雑緩和施策（券売機の導線整理，売店の弁当販売ブース拡大及びモバイルオーダーの導入等）のほか，学生の運動不足解消及びレクリエーションに寄与するものとして，利用率の低かった津田沼キャンパス多目的コートについて，令和８年度に向けて借用手続の簡便化や屋外用バスケットゴールを予算計上した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩４　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，研究所運営委員会あるいは研究委員会において，研究等環境に係る事項に関する計画を設定し，案件に応じて担当会議又は教授会で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は生産工学部内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

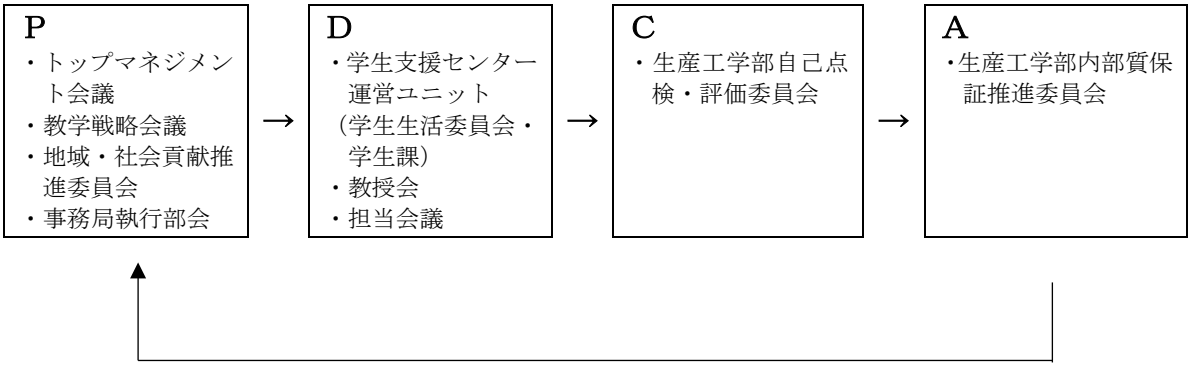
点検・評価の結果，改善・向上に向けた取組として，研究用施設である 32 号館，38 号館の研究環境について，部屋の利用方法や共用研究機器の整理について検証することが挙げられる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，地域・社会貢献推進委員会及び生産工学部自己点検・評価委員会を中心に点検・評価を行っており，「習志野市の地域防災力向上に関する覚書の締結」による習志野市への防災協力や「ふなばし市民まつり」への出展協力の内容の改善を図った。

学生の社会連携・社会貢献については，生産工学部と習志野市との包括的連携に関する協定に基づき，習志野市から本学部への要請による清掃活動等への参加学生募集や近隣の中学校へ運動施設貸出等を行っている。また，学生のボランティア活動については，日本大学本部のボランティア活動推進センター運営委員会と連携し，ボランティアサークル及び一般学生に適切なボランティアの紹介やボランティア活動に関する研修会の案内を行っている。ボランティアサークルには，参加したボランティア活動について，問題となる事例はなかったか等ヒアリングを行い，学生生活委員会と情報を共有する。特筆した事項があれば，学生生活委員会で業績を判断した上で，学部内の表彰候補として担当会議に諮るものとする。

研究面での社会連携・社会貢献については，研究所運営委員会において研究成果の社会への還元を目的としてアウトリーチ活動等の計画を設定し，案件に応じて担当会議で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は生産工学部内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

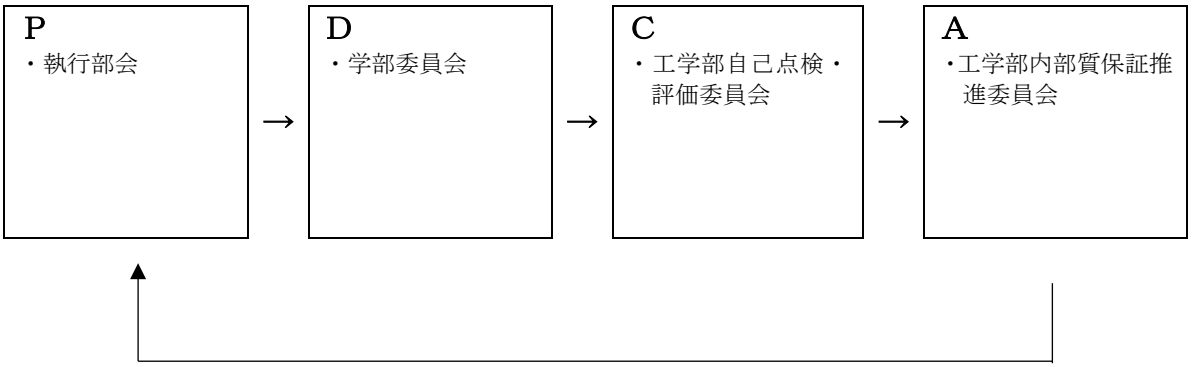
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　工学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

工学部内部質保証推進委員会では，学科や総合教育の自己点検・評価が適切に行われているか，そしてそれが効果的であるかを検証している。具体的な事例としては，「点検・評価報告書」を活用し，問題点の特定と改善事項の提案を行うことで，問題が顕在化する前に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で工学部は「学位授与方針とは別に学修・教育目標を設定していることから，学位授与方針との違いや関係性を学生に分かりやすく説明することが望まれる」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連するため，

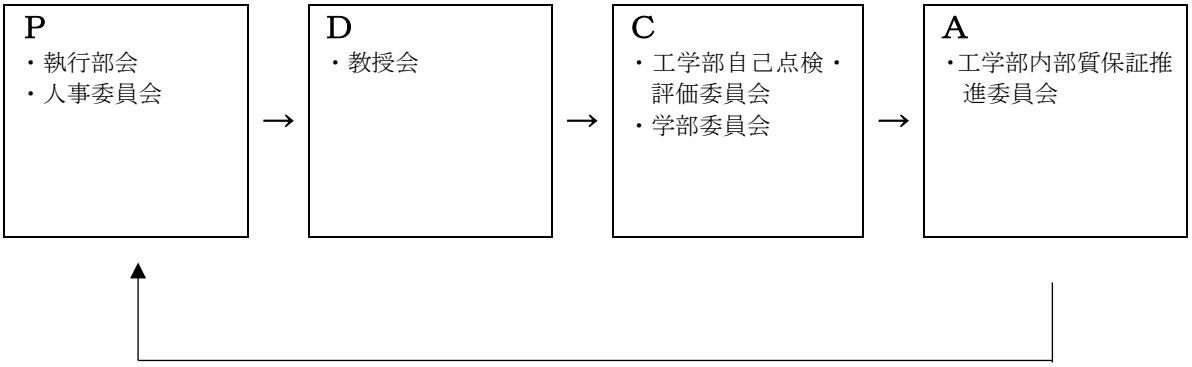
この内容を改善課題として位置付ける必要がある。例えば，工学部内部質保証推進委員会が主導し，学位授与方針と学修・教育目標の整合性や相違点を整理し，学生に明確に説明できる仕組みを構築するよう，改善が求められる。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と学修・教育目標は，どちらも学生が大学で学ぶ上で重要な指針となるものであることから，それぞれの違いや関係性について，学生が理解できるよう説明体制を整えている。具体的には，学部要覧の冒頭で日本大学教育憲章から始まり，続けてそれに基づく学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）について記載しており，体系的に学科ごと記載している。また，「教育目標」については，歴史的に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）策定の相当以前から定めており，学部要覧では各学科ページに記載している。初めに教育研究上の目的を，次に目的を達成するため目標として教育目標を記載し，続けてコース（系）の特徴，卒業要件，設置科目，履修系統図の順に記載しており，体系的に構成している。

上記に加えて，工学部内部質保証推進委員会の主導により，学務委員会に依頼し，入学時のオリエンテーションに新入生へ直接説明する機会を設けるとともに，教務課にて個別の相談に応じる体制を強化している。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

改善を図った一例として，本学部に設置されていた臨床工学技士課程の運営が，臨床工学技士受験条件の変更により，履修科目が増加し，課程の維持が難しくなったことから，将来を見据え，令和７年度末で臨床工学技士課程を廃止し，既存の課程の見直しや新たなコース設置も視野に入れた教員配置計画の変更が行われた。

学科組織の適切性については，人事委員会が中心となって，学務委員会や工学部自己点検・評価委員会と共に学科組織の適切性を確認している。また，人事委員会では，学科ごとの志願者動向を客観的な数値で分析し，問題点を整理した上で，改善策を検討している学科と密接に連携しながら学部全体で議論を進める体制が整えられている。

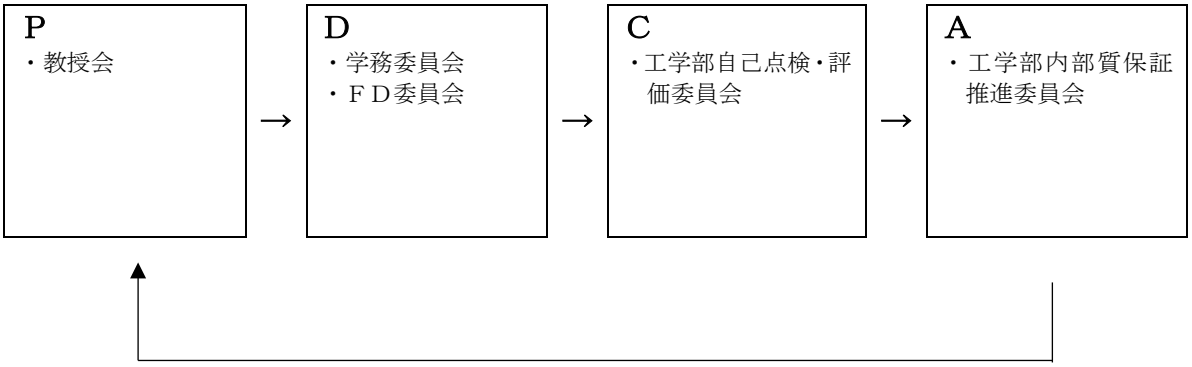
研究組織の適切性については，執行部会が中心となって，研究委員会が専門的な視点から定期的に活動を確認しており，学術・研究に関して確認を行っている。また，本学部は「ロハス工学」を教育・研究の柱としており，この理念に基づき，学科の枠を超えた研究や人材育成を推進するため，「ロハス工学センター」を設置し，このセンターを通じて，分野横断的な研究体制を整え，ロハス工学の知見を社会へと還元している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容については，学務委員会において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び教育課程の見直しを行っており，また教育方法については，ＦＤ委員会において授業評価アンケートを行っている。自己点検・評価等については，工学部自己点検・評価委員会において毎年度学期ごとに授業自己点検・評価を行い，学務・ＦＤ両委員会と共に工学部内部質保証推進委員会に報告している。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育課程及びその内容は，学務委員会において最大履修単位数を意識した履修状況や卒業率推移等について，また工学部自己点検・評価委員会において科目ごとに授業自己点検・評価を行っており，科目合格率推移や授業評価アンケートでの自由記述内容について学科ごとに検討し改善策を立案している。

改善・向上を図った事例として，授業評価アンケート結果の中で科目ごとに履修者が感想などを記載する「自由記述」部分の活用がある。自由記述部分には，履修者が本音を入力する傾

向があるため，双方の我儘な意見なのか，改善すべき意見なのかを確認するため，学科（総合教育）において科目担当者に確認（ヒアリングなど）を行った後，学科（総合教育）における対応策をまとめ，工学部自己点検・評価委員会で報告を行う。各対応策では，履修者の意見に基づき，授業内試験の試験時間の延長を行うとした事例がある。また，課題が過剰であるとの意見については，科目の教育目標達成のため，次期授業期間において，履修者に対して丁寧に説明を行うとした事例がある。

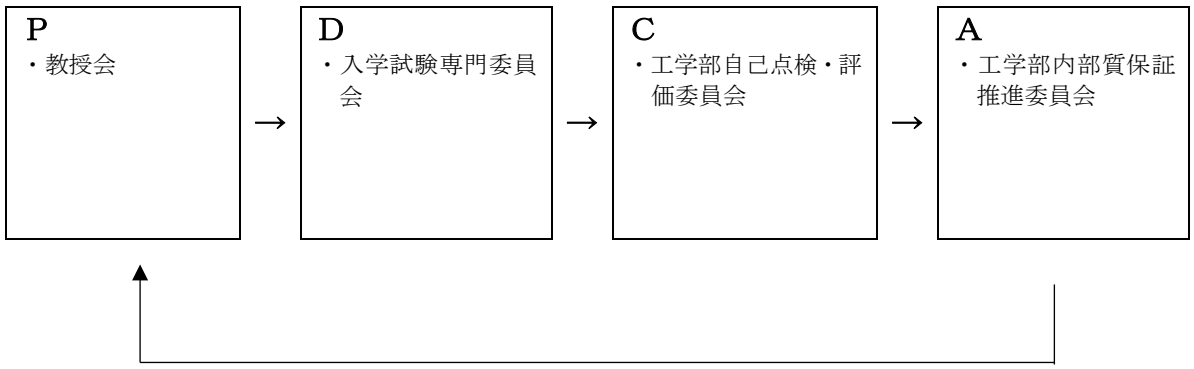
これらの実施報告が，工学部自己点検・評価委員会委員長から工学部内部質保証推進委員会に報告され，妥当であるとの回答があった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

受入れに係る入学者選抜については，入学試験専門委員会において点検・評価した後，教授会で審議し，その結果を次年度の入学者選抜方法に反映させている。令和７年度入学者選抜では，より多くの志願者を集めるため，得意科目を生かして受験しやすいようにＣ共通テスト利用方式（３教科型）を２教科型へと変更した結果，変更前の志願者数 669 名から 723 名へと増加した。他にも，令和８年度同入学者選抜では，総合型選抜第１期（プレゼン型）について，多くの優秀な生徒が受験しやすいよう従来の専願から併願可へと変更した結果，志願者数が昨年度の９名から 21 名へと増加しており，全体としては入学定員割れしているが，改善した結果が表れている。

以上により，受け入れた学生を工学部自己点検・評価委員会において，科目ごとに授業自己点検・評価を行い，科目合格率推移や授業評価アンケートでの自由記述内容を基に学生の理解度等の推移を把握することで，様々な入学者選抜を経て受け入れた学生の状況について検証を行い，工学部内部質保証推進委員会に報告している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，提言が付されているとおり，過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，機械工学科が 0.87，生命応用化学科が 0.75，収容定員に対する在籍学生数比率について，機械工学科が 0.84，生命応用化学科が 0.71 と低いため，定員管理を徹底するよう是正されたい。

過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，機械工学科が 0.87，生命応用化学科が 0.75，収容定員に対する在籍学生数比率について，機械工学科が 0.84，生命応用化学科が 0.71 と低いため，定員管理について是正勧告となっている。

なお，直近の令和７年度においては，過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について，機械工学科が 0.79（前年度比-0.08），生命応用化学科が 0.71（前年度比-0.04），収容定員に対する在籍学生数比率について，機械工学科が 0.75（前年度比-0.09），生命応用化学科が 0.66（前年度比-0.05）となっており，どの値も更に悪化している。

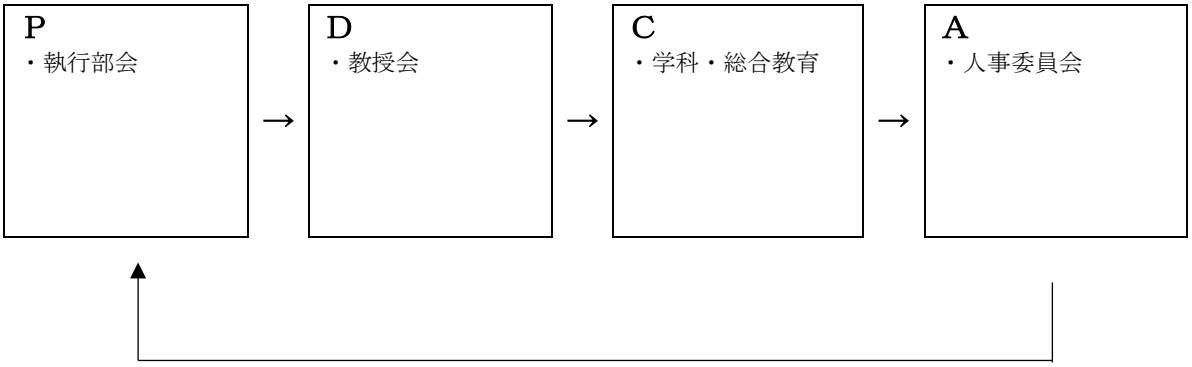
これを是正するべく，入試制度改革を入試専門委員会にて検討し，案を策定した後，工学部内部質保証推進委員会で審議を行い，承認後，機関決定を行っている。

改善・向上を図った主な事例としては，学校推薦型選抜（付属高等学校等）における出願条件において，「理系クラス」としていた条件を次年度では「文系クラス」も出願可能とし，対象の拡大を図ったほか，大学入学共通テストを利用した選抜において，高等学校において必修科目である「情報」を選抜対象科目の選択科目の一つとして追加した。

これらの提案について，工学部内部質保証推進委員会からは，妥当である旨の回答があり，機関決定に向け対応を行ったところである。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

工学部では，人事委員会において教育の質を保証するために，一貫したカリキュラム編成を目指し，教員組織における専任，非常勤の比率の適切性や担当コマ数の配分にも留意しながら，特定の専門領域の教員が不足することのないように，教育研究の継続性を図れるよう計画的に専任教員を配置することを念頭に教員配置計画を策定している。この計画は，毎年度，点検・検証され，継続的な教育研究ができるように努めている。また，各学科・総合教育からの要望を基に，教員採用や昇格について検討を行い，各学科・総合教育が継続的かつ安定的に活動できる組織になっているかを評価し，その情報を学部執行部で共有した上で指示している。一例としては，教員採用においては，学部全体の教員組織の状況や入学者数などの動向を考慮し，毎年採用計画を見直して調整を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述のみでは，具体的にどのような基準や手順に基づいて調整がなされているかが確認で

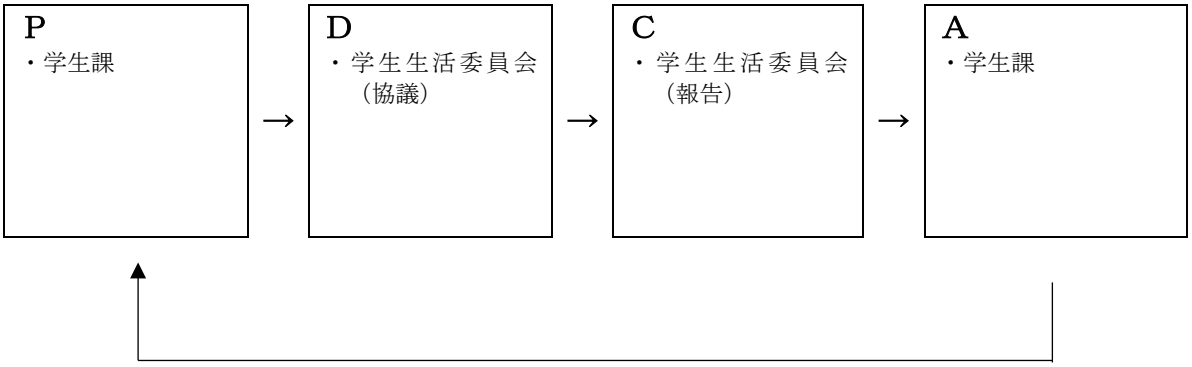
きず，実効性を判断することは難しいため，改善が求められる。
本記述からは，教職の「役割分担」や「責任の明確化」に関する具体的な取り決めや実施内容が十分には読み取れないため，改善が求められる。
教育研究活動の質と継続性を重視する姿勢自体は理解できるものの，男女比の偏りに対する具体的な対応がなされていない点については，教員組織の多様性確保という観点から改善の余地があり，改善が求められる。

執行部会では，学部運営全体の指針を策定し，人事委員会は教員配置計画において重要な役割を担っており，教授会において具体的な活動を決定している。決定された指針や計画に基づいて，各学科や総合教育が教員組織の状況に定期的にチェックを行い，評価で明らかになった課題に対して，人事委員会が各学科や総合教育と連携して改善策を実行している。

現在の教員組織は，多様性の確保に課題を抱えており，この課題を解決するには，ＰＤＣＡサイクルによる継続的な改善と，執行部会・人事委員会・教授会・各学科が一体となった具体的な行動が不可欠である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項について，学生課で立案し学生生活委員会で協議の上，実行している。実施後は学生生活委員会に報告し，実施目的の達成度の観点から点検・評価を行うとともに，委員から意見を聴取し，次回の改善につなげている。

改善・向上に取り組んだ一例として，新入生対象の学内研修を挙げる。この研修は，学生課で立案，学生生活委員会で協議の上，令和７年４月に新入生を対象に学内研修を実施した。実施後に参加者アンケートを行い，学科の学びに関連した研修を実施した学科の方が，満足度が高い傾向が見られた。令和８年度の実施に当たっては，委員会で協議し，アンケートを基に学科の学びに近い研修先を選び，令和８年度の研修を実施する予定である。

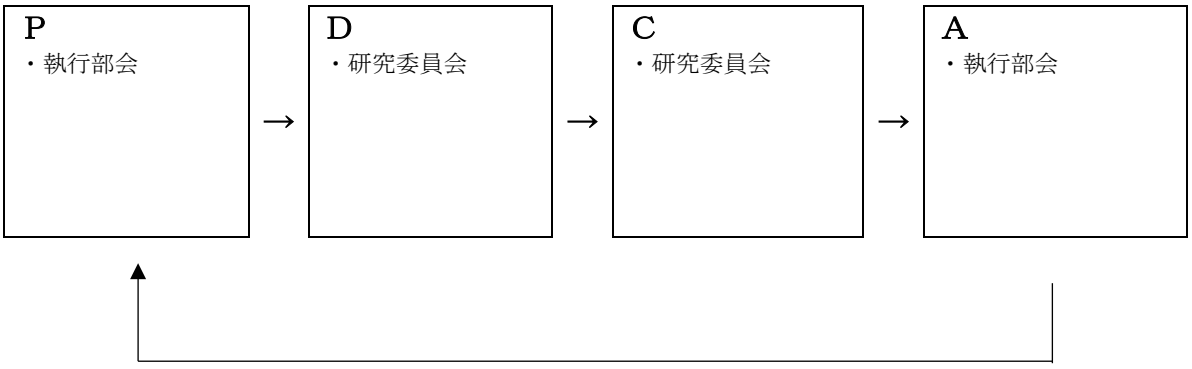
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

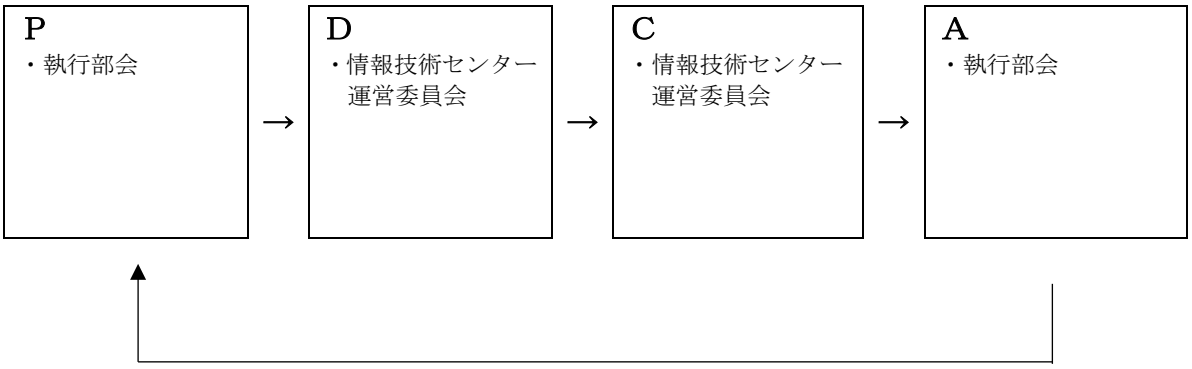
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究等環境】



【ＩＣＴ環境】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関する事項については，主に研究委員会及び情報技術センター運営委員会の二つの組織において，継続的な点検・評価（検討・検証）が行われている。その結果を踏まえ，研究活動の基盤となるインフラストラクチャの整備や研究活動自体の適正性の確保，さらには支援体制の改善・向上につながっている。

令和７年度においては，ＩＴ環境の安定性及び利便性の向上が図られた。セキュリティ面で

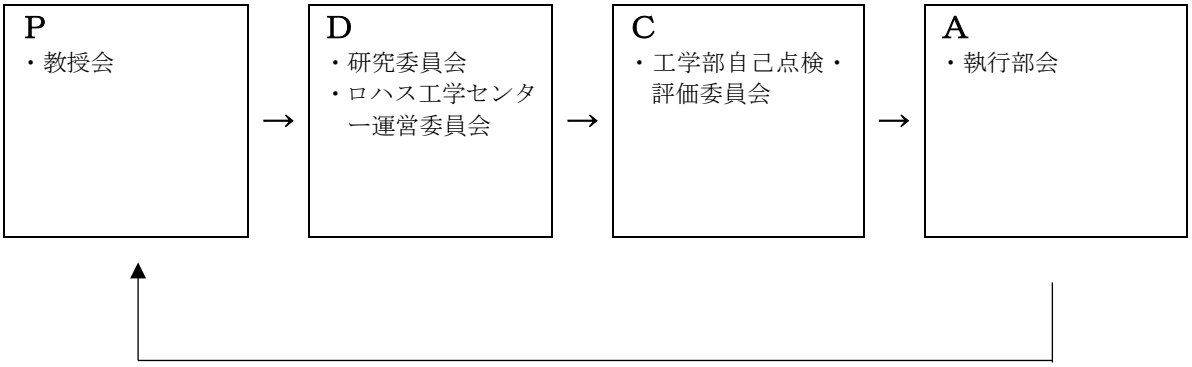
は，旧ＯＳバージョンに係る脆弱性への対応として，ＩＤ管理システム及び認証サーバの更新を実施した。また，利便性向上の取組として，無線ＬＡＮアクセスポイントを次世代規格（Ｗｉ－Ｆｉ６）へ更新した。
　なお，これらの評価結果に基づき，工学部内部質保証推進委員会において改善策等を報告する予定である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献に関わる事項について，年に１回の郡山市からの客観的視点による評価を受けて，地域連携等の意見に関しても，工学部自己点検・評価委員会に報告するなどをしている。しかし，地域連携に特化した学内に点検・評価する組織はなく，本学部におけるロハス工学に関する研究などの中枢を担う組織として設置しているロハス工学センターが研究面からの地域連携を検討し，実施している。また，令和４年２月にこおりやま広域連携中枢都市圏と各企業・団体等との間で締結した「公民協奏パートナーシップ協定」を締結し，その学部の窓口として庶務課が役割を担い，令和５年９月，本学部とマイクロモビリティサービス「BIRD」を日本で展開する BRJ 株式会社と福島県郡山市は，産学官連携による電動キックボード導入の社会実験の共同研究にかかる連携協定を締結した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

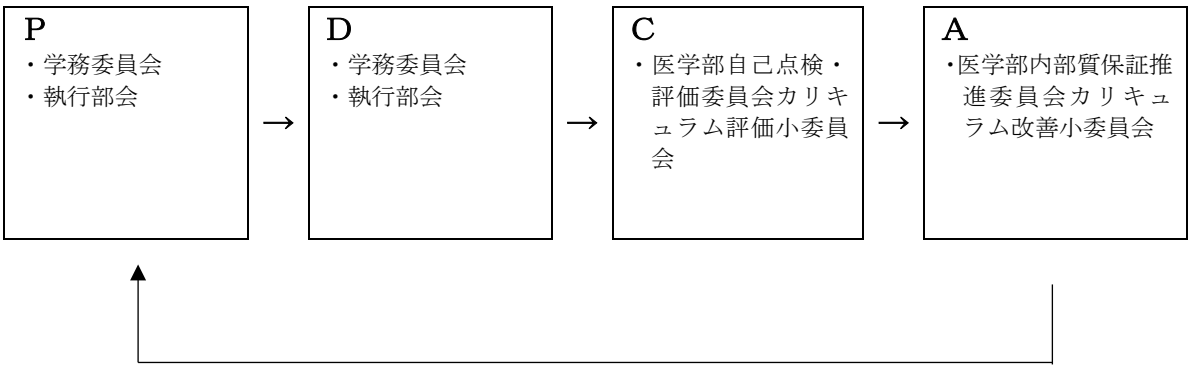
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　医学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

(1)　組織体制の確立と役割分担

基本的に，医学部内部質保証推進委員会が改善（A)を，医学部自己点検・評価委員会が評価（C）を，執行部や担当委員会が企画(P)と実行（D）を担当する。

特に教育プログラムに関しては，教学のリーダーシップの下，教育カリキュラムの案・実行に責任を持つ学務委員会（Plan/Do）から，評価機能を分離した。

カリキュラム評価小委員会を医学部自己点検・評価委員会内に設置し，評価（Check）を担当させ，カリキュラム改善小委員会を医学部内部質保証推進委員会内に設置し，改善（Action）を担当させる体制を整備した。

これらの委員会は，学生や行政機関の職員・他大学の医学教育専門家などの学外の視点を正式な委員として取り入れることで，評価の客観性や妥当性を高めている。

(2)　データに基づくモニタリング（ＩＲ活動）

組織的・継続的なプログラム評価をサポートするため，ＩＲ委員会とＩＲ室を整備した。ＩＲ室では，入学試験の成績・ＣＢＴ/ＯＳＣＥの結果・統一試験の結果など，学生の学習成果に関するデータを収集・解析するシステムの構築が進められている。

(3)　評価手法の多様化:

ＣＣ－ＥＰＯＣ（卒前学生医用オンライン臨床教育評価システム）を導入し，学生の臨床経験症例の記録やＭｉｎｉ‐ＣＥＸ（簡易版臨床能力評価）の実施を通じて，技能・態度評価を促進している。

また，知識評価に偏りがちであった従来の評価を見直し,「知識・技能」と「態度」を明確に分けて評価する新たなシステムを導入した。

点検・評価の結果，改善・向上を図った事例

上記の点検・評価体制及び学生・教職員からのフィードバックに基づき，以下のような改善・向上策が実行された。

(1)　教育プログラムの改善

・講義時間の大幅削減 : 学生の意見を受け，カリキュラムの過密を解消すると同時に，臨床実習期間を延長するため，６年間で 924 時間の講義時間を削減し，自主学習時間の確保を図った。

・早期研究体験の導入 : 全学生のリサーチマインド涵養のため，６年次に行っていた研究コースを４年次（自由選択医学研究１・２）に移行し, 全学生が研究活動を体験できる体制を整えた。

・臨床実習期間の延長とＥＢＭ教育の強化 : 臨床実習期間を 61 週から 72 週に延長した。また，臨床講義に「ＥＢＭ概論」を追加し，診療ガイドラインの利用指導を全診療科のシラバスに明記した。

・態度評価の明確化 : 知識・技能の評価とは別に態度評価を実施する新たなシステムを導入し，課題未提出や無断欠席を複数回した学生に対し，知識が合格点に達していても留年を判定する事例が発生した。

(2) 組織運営と資源配分の改善

・施設・設備環境の改善: 耐震性の問題により使用停止となった教室の代替として，図書館２階の閲覧スペースをラーニングコモンズ（ＰＢＬの授業等に使用）に改装し, 自主学習環境の確保とアクティブラーニングの促進を図った。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

自己点検・評価報告書の記述において，点検・評価の結果と改善・向上の取組との因果関係が十分に示されていない事例が見受けられる。これは，内部質保証体制における確認作業が不十分であることを示しているため，医学部内部質保証推進委員会や医学部自己点検・評価委員会が中心となり，点検・評価の結果と改善・向上との関連性を明確に示す仕組みを整備するよう，改善が求められる。

評価結果と改善策の因果関係の不明確さを解消するため，内部質保証体制（ＰＤＣＡサイクル）を再構築した。この改善は,「責任体制の明確化」と「データ分析の強化」によって推進している。

(1)　ＰＤＣＡサイクルの責任体制の明確化

教育プログラムの評価・改善機能を分離し，ＰＤＣＡサイクルにおける組織の役割を明確化した。

・Ｐ/Ｄ（企画・実行）：学務担当が委員長を務める学務委員会が担当する。

・Ｃ（評価・検証）：学部次長が委員長を務める医学部自己点検・評価委員会カリキュラム評価小委員会が客観的な評価を担う。

・Ａ（改善・対応）：学部長が委員長を務める医学部内部質保証推進委員会カリキュラム改善小委員会が評価結果に基づき，改善策の策定と実行指示を行う。特に，医学部長がカリキュラム改善小委員会の委員長を務め，評価結果を改善に確実につなげるリーダーシップ体制を確立した。

(2)　データ分析（ＩＲ活動）による客観的な根拠の強化

評価と改善の因果関係を客観的に示すため，ＩＲ委員会とＩＲ室を設置し，組織的なＩＲ活動を推進している。

・入学試験成績・ＣＢＴ・国家試験など，主要な学修成果データを系統的に収集・解析するシステムを構築中である。

・今後は，カリキュラム評価小委員会がＩＲデータに基づき客観的な評価を行い，その結果を改善小委員会が活用する「根拠（データ）に基づく評価と改善の連動」を実現する。

(3)　因果関係が示された改善事例

既にこの体制に基づき，評価と改善の因果関係が実証された事例がある。

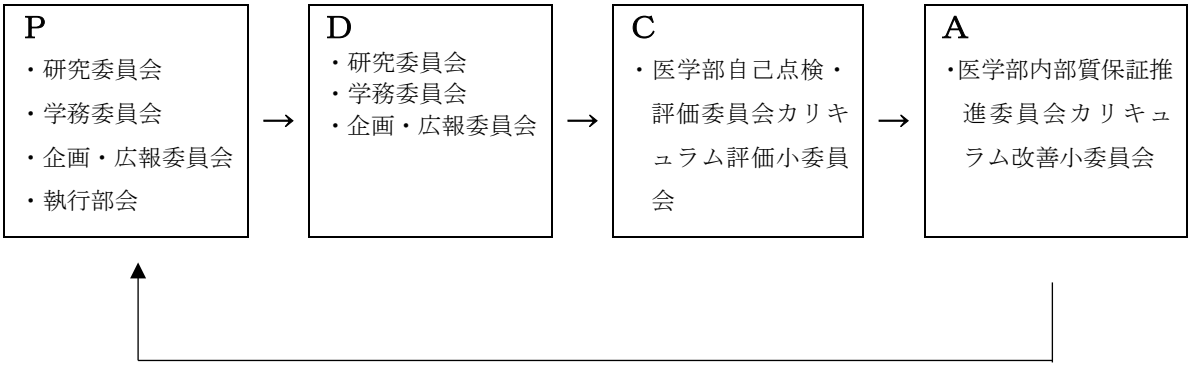
・課題と改善：学生フィードバックにより判明した「カリキュラムの過密」に対し，講義時間を６年間で 924 時間削減した。

・結果：１・２年次の留年者数が３分の１にまで激減し，過密解消が学修成果の改善に直結したことが実証された。

・その他の事例：学習態度の低下に対応するための「知識」と「態度」を分けた新評価システム導入や臨床技能評価不足に対応するためのＭｉｎｉ‐ＣＥＸの導入義務化なども実施し，機能していることを確認している。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

日本大学医学部総合医学研究所は，医学に関する学理・技術の総合的研究を行うことを目的に設置され，各専門分野における研究及び調査，学術研究助成金等に基づく研究プロジェクト，委託研究及び共同研究等を実施している。

教育研究組織が，社会からの要請に即応できる組織であるかの点検・評価やその活性化を図る方策の立案については，執行部会や企画・広報委員会を中心に学務委員会及び研究委員会等の関係委員会が対応している。また，組織の妥当性の検証に関連する個別の問題に対しては，医学部長から諮問がなされ，必要に応じて専門委員会を設置して検討を重ねた上で，学部の意思決定機関である教授会での審議を経て，答申に基づく施策が実行に移されている。

事例として，令和３年４月に医学部長から研究担当に対して，本学部の研究力をこれまで以上に世に発信すべく，付置研究所の設置等を含めた今後の在り方についての諮問がなされ，令和４年２月に医学部トランスレーショナルリサーチセンター設置の答申がなされ，同年３月に日本大学医学部トランスレーショナルリサーチセンターが設置された。

また，令和６年 12 月，医学部における研究支援基盤の形成，医学研究支援部門及び導入を検討しているＵＲＡ(University Research Administrator)の配置等を含め，今後の効果的な研究支援体制の在り方について，医学部長から研究委員会に諮問があり，当該委員会において審議を重ねた結果，令和７年 11 月，最終答申がなされ，総合医学研究所における専任教員の配置や

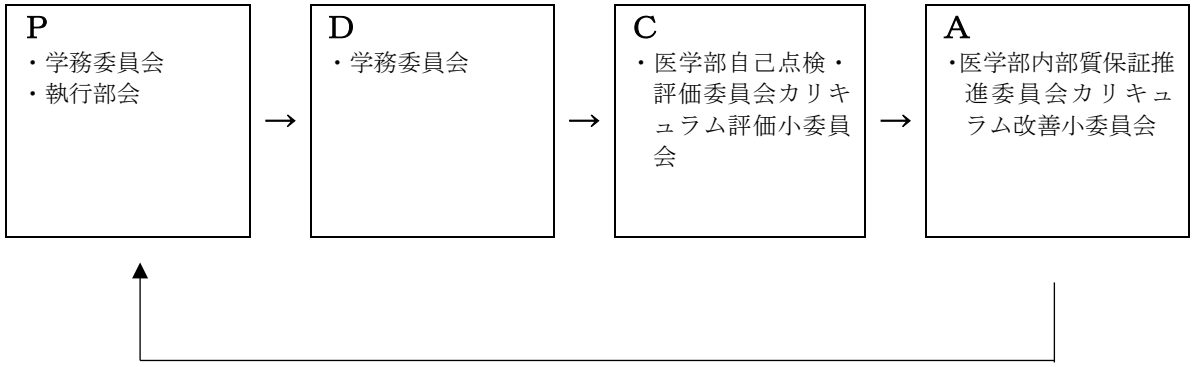
ＵＲＡの新規配置を含む研究支援体制の改組がなされた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

評価の基準は，大学の理念・目的及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき，医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を参考に行われる。学修成果の評価としてはＤＰに示された知識・技能・態度を含むコンピテンシーを測定することが求められている。また，態度評価の導入を行い，全科目において，評価を「知識・技能」と「態度」に分けて実施する新たなシステムが導入されており，レポート提出状況や出席状況などに基づき，厳正な態度評価が行われる。

プロセス（ＰＤＣＡサイクル）として，教育プログラムの改善は，以下の手順により実行される。

(1)　Check（評価）：カリキュラム評価小委員会がＩＲ室からのデータや各種フィードバックを基に教育プログラムを評価する。

(2)　Action（改善案策定）：カリキュラム改善小委員会が評価結果を受け，改善の方向性を審議・決定する。

(3)　Plan／Do（実行）：学務委員会が改善案をカリキュラムに反映させ，実行する。

(4)　承認：これらの改善案は教授会で審議され，最終的な承認を経て実施される。

これらを実施する周期としては以下のとおりとなる。

・カリキュラム改正：カリキュラムの大きな構造変更は，通常６年ごとのサイクルで検討される。

・自己点検・評価：全学的な自己点検・評価は，かつての３年周期から毎年度流動的に実施する方針に変更されている。

・分野別評価追加審査：令和５年度に３年間の期限付き認定を受けたため，令和７年度の 12 月に実地検証（現地調査）が行われ，これに向けて継続的な改善報告が行われた。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

評価の客観性を高め，根拠に基づいた改善（Action）を実行するため，ＩＲ（Institutional Research）活動と各種データが活用された。

・ＩＲ活動の推進：ＩＲ委員会とＩＲ室を設置し，入学試験成績・共用試験（ＣＢＴ・ＯＳＣＥ）成績・学内統一試験成績といった教学データを系統的に収集・分析し，カリキュラム評価の基礎データとした。

・学生からのフィードバック：学生から「授業の過密日程」が訴えられたことを受け，その要望が新カリキュラムに直接的に反映された。

自己点検・評価に基づく具体的な改善事例

・カリキュラムの過密（１・２年次）緩和を図った。

・講義時間数の削減（６年間で 924 時間）と自主学習時間を確保した。

・学生からの要望（フィードバック）に基づきカリキュラムの再構築を行った。

研究機会の不足（全学生）

４年次に必修の「自由選択医学研究１」（６週間）を新設し，全学生が研究を体験できる体制を構築した。医学研究への志向を育むという使命に基づき，カリキュラムを改正した。

技能・態度評価の不足（知識偏重）

知識・技能と態度を分けて評価する新システムを導入し，態度評価（出席状況・課題提出など）の結果によって留年判定を行う運用を開始した。評価の信頼性と公正性確保のため，態度評価の基準と手続を明確にした。

臨床技能評価の非標準化

臨床実習において，ＣＣ－ＥＰＯＣの導入とＭｉｎｉ－ＣＥＸ（簡易版臨床能力評価）の実施を義務化した。技能・態度評価の標準化と，形成的フィードバックの機会を増やすために活用された。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題)】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について,医学部医学科では，編成に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

また，同大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握が科目単位にとどまっている」と指摘されている。基準２は基準４と相互関係にあるため，学習成果をより多面的かつ総合的に把握する仕組みを整備することが求められる。例えば，医学部内部質保証推進委員会を中心に，学習成果の測定方法を多様化し，学位授与方針に示された能力との対応を明確に検証できる体制を整備するよう，改善が求められる。

(1)　教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の明確化（基準２）への対応

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に編成に関する基本的な考え方が示されていないとの指摘を重く受け止めてはいるが，現在の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は抽象度が高く，改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラム（ＭＣＣ）との整合性が不明瞭であるという課題を認識している。

・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）/教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）改正の推進：喫緊の課題として，医学部内部質保証推進委員会を中心に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の改正を急ぐ。改正に際しては，本学部の教育理念を明確に示し，令和４年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラム（ＭＣＣ）との整合性を確実に図り，編成に関する明確な理念を定めることを最優先とする。

(2)　学修成果の多面的・総合的な把握（基準４）への対応

学修成果の測定が科目単位にとどまっているとの指摘に対し，学部全体で多面的かつ総合的に学生の能力を検証する仕組みを既に構築・強化している。

・内部質保証体制の活用：教育プログラムの企画・実行（Plan／Do）を担う学務委員会から，評価（Check）を担うカリキュラム評価小委員会と改善（Action）を担うカリキュラム改善小委員会を分離し，客観的かつ継続的なＰＤＣＡサイクルを確立している。この体制には，学生，外部専門家及び行政の代表も参画している。

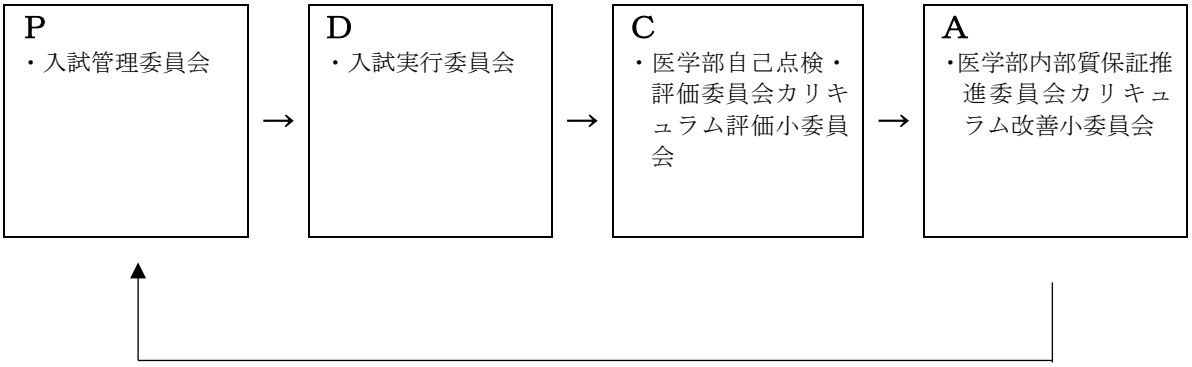
・技能・態度評価の多様化：知識偏重を是正するため，令和７年度から，評価を「知識・技能」と「態度」に明確に分離した新システムを導入し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示された態度面（誠実さ，プロフェッショナリズムなど）を確実な評価対象とした。

・臨床能力の測定強化：臨床実習において，Ｍｉｎｉ－ＣＥＸ（簡易版臨床能力評価）の実施を強化し，ＣＣ－ＥＰＯＣ（オンライン臨床教育評価システム）での経験症例記録を義務化した。これにより，技能や態度といった学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示される能力を実患者診療の現場で多面的に観察・把握している。

・教学ＩＲの推進：入学時成績と，共用試験（ＣＢＴ，ＯＳＣＥ），学内統一試験などの経時的な学修データを組織的に収集・分析するための教学ＩＲシステム構築を進めており，学位授与方針に示された能力の達成度を総合的に検証するためのデータ基盤を整備している。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

専門の委員会を中心に，データに基づいた公平かつ透明性の高い学生の受入れと改善活動を継続している。

(1)　点検・評価の体制と手法

・組織体制：入試管理委員会やＩＲ室等が中心となり，選抜の公正性や妥当性を検証している。

・多角的な検証：毎年の定例検証に加え，学修状況と入試区分の因果関係を分析する教学ＩＲや他大学の専門家・行政職員による外部評価を導入し，客観性を担保している。

(2)　主な改善・向上を図った事例

・透明性の確保：追加合格候補者への順位通知や不合格者への二次試験得点開示を導入し，入試の公正確保を徹底した。

・入試方式の最適化：「Ｎ全学統一方式」への一本化による利便性向上を図る一方，地域医療に貢献する「地域枠選抜」を拡大した。

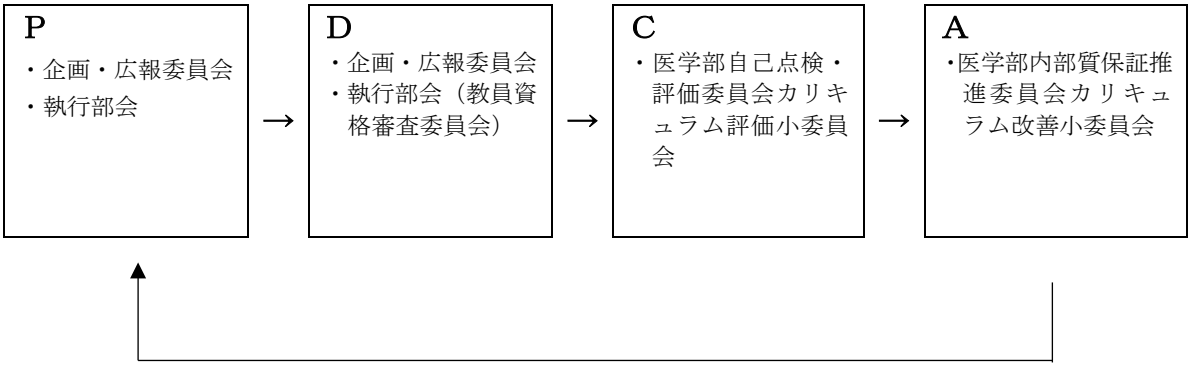
・判定基準の適正化：過去のデータ分析に基づき，一般選抜の面接配分を 60 点から 30 点へ変更し，学科試験とのバランスを調整した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員組織が，社会からの要請に即応できる組織であるかの点検・評価やその活性化を図る方策の立案については，執行部会や企画・広報委員会を中心に対応している。また，組織の妥当性の検証に関連する個別の問題に対しては，医学部長から諮問がなされ，企画・広報委員会が検討を重ねた上で，学部の意思決定機関である教授会での審議を経て，答申に基づく施策が実行に移されている。

事例としては，令和７年度に新設された「臨床教員」制度を挙げる。本学部では，専任教員が付属病院の経営安定化のため診療等に時間を割かざるを得ず，教育・研究時間の確保が困難な現状を課題としていた。この現状を改善するべく，「臨床教員」制度が新設されたが，本制度は，教員の質を担保するため，既存の教員資格と同様に，採用や再任時には教員資格審査委員会による厳格な資格審査を行い，教授会の承認を経て学長が任命する体制を構築している。

内規は，企画・広報委員会，執行部会及び教員資格審査委員会が各セクションにおいて慎重審議し制定に至った。本制度の導入により，既存の教員が本来の教育研究活動に専念できる環境を支援するとともに，病院の教育機能の充実と経営の安定化を図る。また，１期３年以内の任期制のため，再任審査を通じて組織の継続的な点検・評価と質の向上を可能にしている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に

対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

助教・助手の採用における選考理由の透明性確保や説明責任の担保については，改善が求められる。

本記述のみでは，エフォート調査が実際の授業負担の調整や改善にどのように活用されているかが具体的に示されていないため，その実効性を十分に確認することが難しいため，改善が求められる。

助教及び助手の採用については，「日本大学医学部助教・助手選考基準」に基づき，学位の有無，論文実績，専門医資格等の要件を充たしていることを前提としている。特徴的な取組として，一部の教員については，採用前に「専修医（臨床系）」又は「専修研究員（基礎系）」として一定期間雇用し，この期間を通じて，所属長が候補者の適性を事前に判断することで，個人の能力に合致した職位での採用を実現している。これにより，現場の教育・研究ニーズに即した柔軟かつ機動的な人材配置を可能としている。

この運用においては，執行部会が選考基準の運用実態を定期的に検証している。適切な範囲でプロセスを明示・開示することで，採用における客観性を担保しており，直近では令和４年３月に選考基準の見直しを実施した。再任時においては，勤務成績や業績について，教員資格審査委員会及び教授会による厳格な審査が行われる体制となっており，新規採用時においてもこれらに準じた公平な視点を取り入れ，説明責任を果たせる運用に努めている。

本学部では，教員が教育・診療・研究をバランスよく遂行できるよう，令和６年度より「教員活動到達目標評価システム」を稼働させている。本システムでは，各教員の職務種別ごとのエフォート率及び年度の到達目標を設定し，年度末から年度始めにかけて自己評価と所属長評価に基づく意見交換を実施している。これにより，教員と所属長が共通認識の下で職務状況を確認し，教育研究活動を安定的かつ効果的に推進する基盤となっている。

今後の更なる改善に向け，以下のサイクルを運用する。

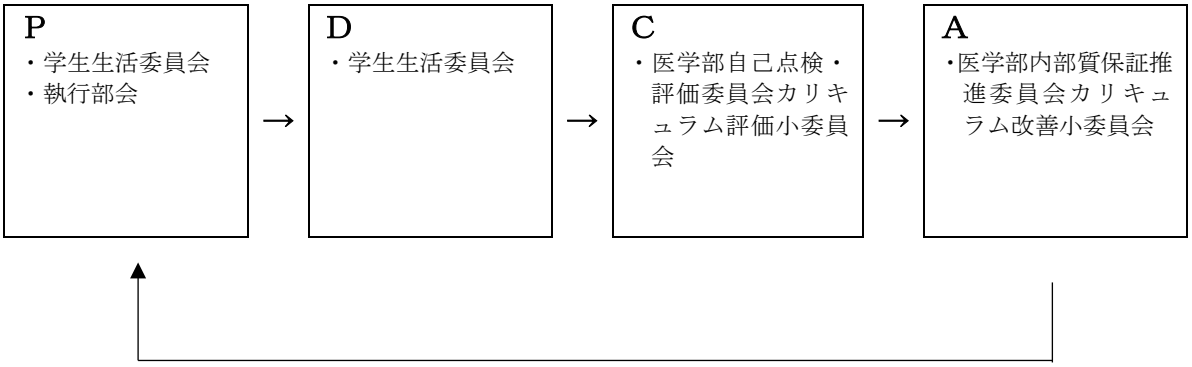
評価結果に基づき，分野ごとの平均授業時間と個々の教員のエフォート値を比較分析する。この検証は，医学部自己点検・評価委員会及びカリキュラム評価小委員会が中心となり，業務負担の偏りを客観的な数値として早期に発見する体制を構築する。

分析結果及び所属長との面談結果が，教員の安定的活動に寄与したかを次年度のシステム入力時に事後検証する。この結果を医学部内部質保証推進委員会及びカリキュラム改善小委員会において審議し，次年度の業務配分へと反映させることで，継続的な改善・向上に向けた措置を明確化する。

これらの評価プロセスや改善事例を適切に記録し，組織全体として説明責任を果たせるよう管理体制を整備していく。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項については，毎年実施される教職員学生懇談会や各学年に配置しているクラス委員によるクラス連絡小委員会を毎月開催し，学生の意見の聴取及び連絡事項の伝達を行うとともに，学生生活委員会，執行部会・教授会でも定期的に点検・評価している。

学生食堂が閉鎖されたことにより，学生が安価に昼食をとることが困難となった際，教職員学生懇談会において学生から改善課題として要望が出されたことを受け，学生生活委員会において病院職員食堂の学生利用について検討し，執行部会・教授会を通じて病院長に依頼した。

当初感染予防の観点から，院内実習を行う上級生のみ利用可能であった。しかし，その後のクラス委員による調査で，下級生からの利用希望も多数あることが判明した。学生からの検証結果を受け，学生生活委員会で再度検討し，学年制限撤廃を依頼した結果，全学生が利用可能となった。

以上のように，学生団体による点検・評価の結果を踏まえた改善を継続的に行い，学生支援の向上に努めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期

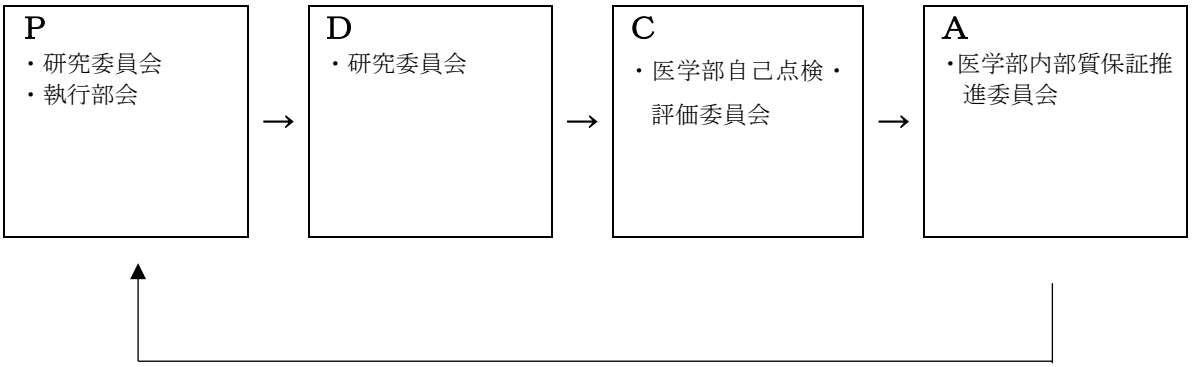
大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【最終答申書】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

医学部では，以下のＰＤＣＡサイクルをもって，研究支援部門の業務が，研究委員会や医学部執行部による管理・監督を受けることで，継続的な業務改善の体制を構築している。

(1)　研究委員会（研究担当）は，医学部長及び執行部会の意見を参考に医学部全体の研究に関する方向性や方針を策定する。また，付属機関（付置研究所）である総合医学研究所（総合医学研究所運営委員会）及び研究戦略推進部門（研究支援部門運営協議会）からの情報を執行部に報告する（Ｐ）。

(2)　総合医学研究所運営委員会及び研究支援部門運営協議会は，この方向性・方針に基づき支援部門（研究戦略支援部門及び研究サポート部門）の事業計画を策定し，支援部門が当該事業計画を実施する（Ｄ）。

(3)　支援分門は，事業計画について，総合医学研究所運営委員会に報告し，同運営委員会及び研究支援部門運営協議会から研究委員会に対して事業報告がされ，事業計画の実績，問題点について研究委員会が点検・評価する（Ｃ）。

(4)　上記の点検・評価で見つかった課題や問題点に対して，執行部で具体策・改善策を協議し，教授会において審議（実行）に移す（Ａ）。

事例として，効果的な研究支援体制の在り方について，令和６年 12 月，学部長から研究委員

会に諮問があり，医学部における研究支援基盤の形成，医学研究支援部門及び導入を検討しているＵＲＡ（University Research Administrator）の配置等について，研究委員会をはじめ，上記の関連委員会・組織において協議及び審議を重ねた結果，令和７年 11 月の最終答申により，研究支援体制の改組（統廃合・名称変更）が施され，さらに令和８年度からのＵＲＡ配置に向け公募が開始された。

また，研究環境整備に関する事例として，令和８年度事業計画・予算において，生物系電子顕微鏡の新規導入に向けた予算計上が行われた。はじめに，執行部会及び研究委員会は，学内の研究活動の現状や課題を踏まえ，研究活動の質向上に必要な研究用機器備品の選定を医学研究支援部門運営協議会に依頼した。これを受け，同協議会から複数の研究用機器備品の提案があり，研究委員会において各機器備品類の必要性や需要見込みについて検証が行われた。その結果，研究，臨床，教育に幅広い活用が可能であり，他学部の利用も広く期待できる点などから，生物系電子顕微鏡の導入が最も望ましいことが確認された。これらの検証結果を踏まえ，執行部会における令和８年度事業計画・予算折衝の中で，電子顕微鏡の新規導入を含む予算編成が進められた。最終的に電子顕微鏡導入計画が教授会において承認され，令和８年度予算として計上されるに至った。

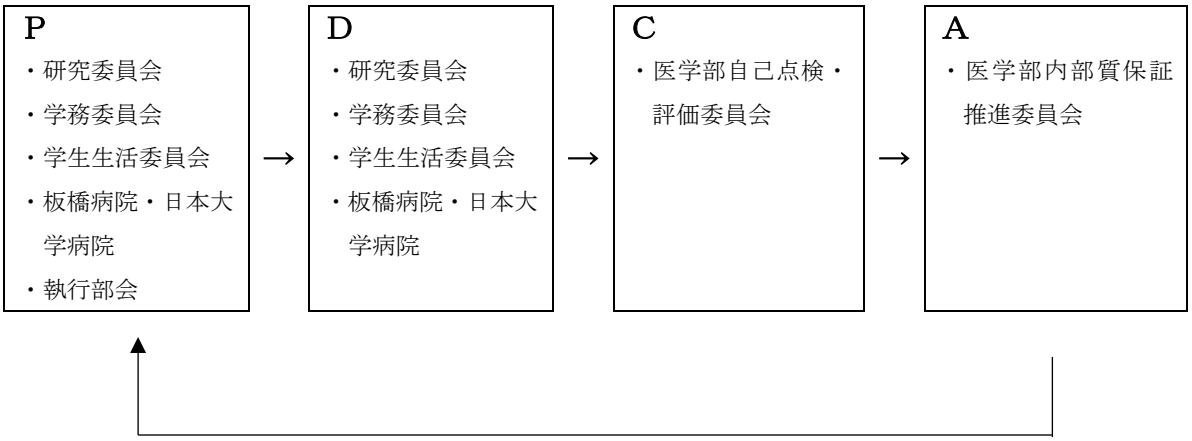
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【最終答申書】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究委員会及び産学連携研究推進委員会を設置し，各種施策，寄附講座の設置等について審査を行っており，学系・分野単位で支給される「教室研究費」の後期配分において，学外研究費の獲得に伴う間接経費／管理費の額を算定基準としている。また，継続した取組として，板橋病院事務局との連携による東京都医工連携ＨＵＢ機構及び板橋区産業振興公社と共催の医工連携交流会を実施している。これらの取組については，研究委員会で進捗等の報告がなされ，その結果に基づき，執行部会や医学部内部質保証推進委員会が次年度の施策や改善方針を策定することで，教育研究環境の質の向上を図っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

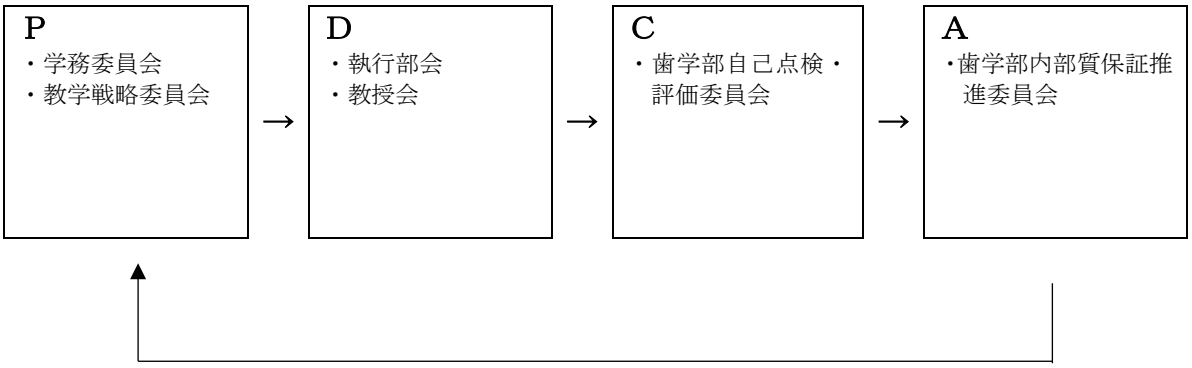
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　歯学部

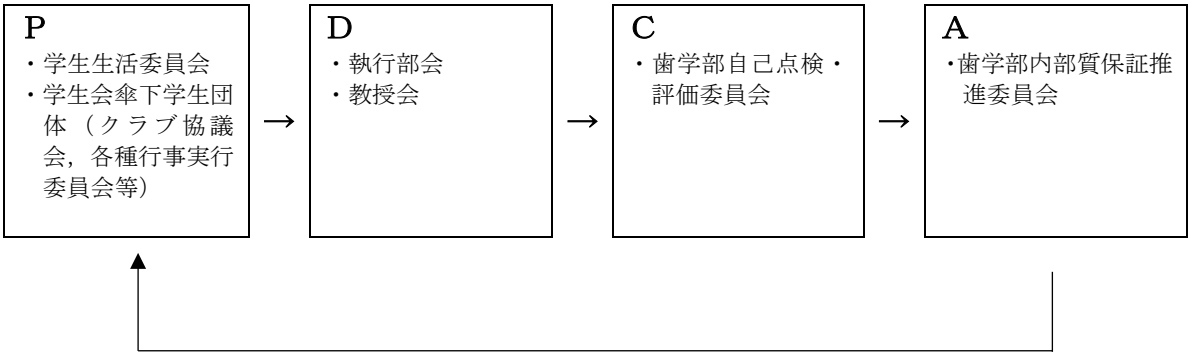
基準２ 内部質保証

1　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

【教務関係】



【学生関係】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

歯学部内部質保証推進委員会の指示の下，歯学部自己点検・評価委員会が中心となり，学務委員会，学生生活委員会，研究委員会など関係委員会が連携し，自己点検・評価を行っている。

評価結果は，歯学部内部質保証推進委員会の委員長・副委員長を含む執行部で共有され，学部全体で課題の抽出，改善策の検討・実施へとつなげている。また，教育の質の保証及び向上を目的として，学外の有識者による第三者からの意見を取り入れる環境を整えている。

前年度に引き続き，学生からの意見箱や学生会等の学生団体と連携し，日頃から学生の考えていることなどを把握しながら，学生生活委員会や学生課で学生支援や学生生活に関わる事項の検討・見直しを随時行っている。また，関連部署や教職員との情報共有を行い，それらを基に，内容に応じて関連部署や担当教職員で検討・検証を行っている。学生から上がった要望書や要望書に対する回答書などは，執行部会や教授会でも随時報告を行っている。

学生の教育に資する点で向上を図った事例として，休日の自己学習に伴う本館（新校舎）の利用をこれまで認めていなかったが，本システムの運用により，学生生活委員会や執行部会及び教授会で審議の結果，休日において自己学習に伴う本館の利用が認められた。

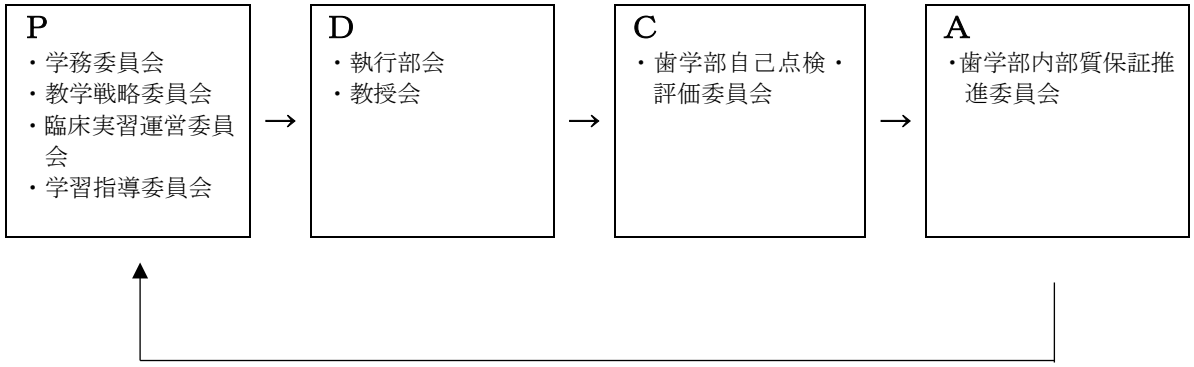
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

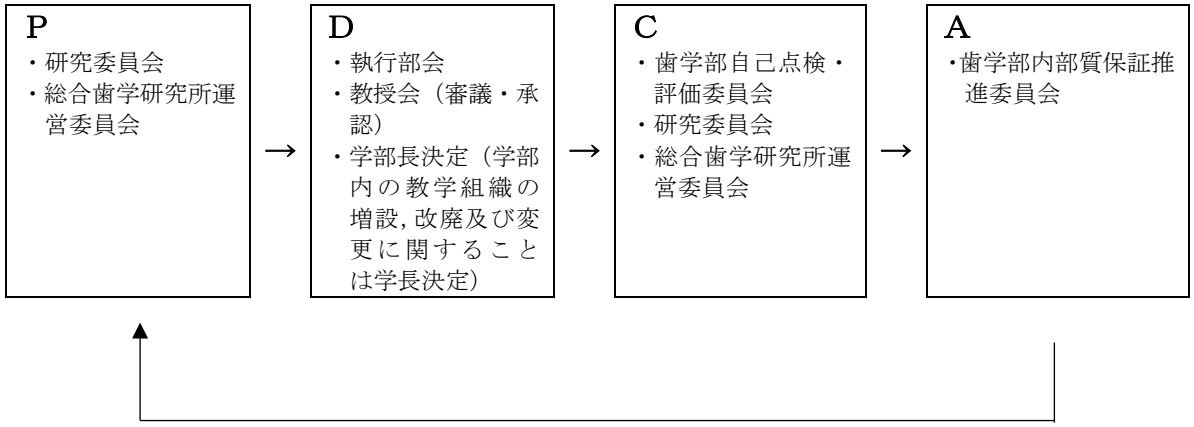
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務関係】



【研究所の新設及び見直し】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

歯学部執行部の指示を受け，総合歯学研究所運営委員会は研究所の方針（新設時は新設方針）を策定する。あわせて，研究担当主導の研究委員会と連携し，歯学部の研究戦略との整合性確

認及び活動内容の把握を行う。これらの案は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，学部長（研究所新設時は学長）の裁定により施行される。施行後は，総合歯学研究所運営委員会及び研究委員会が定期的に点検を行い，その結果を歯学部自己点検・評価委員会へ提出するものとする。さらに，同委員会の報告に基づき，歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。

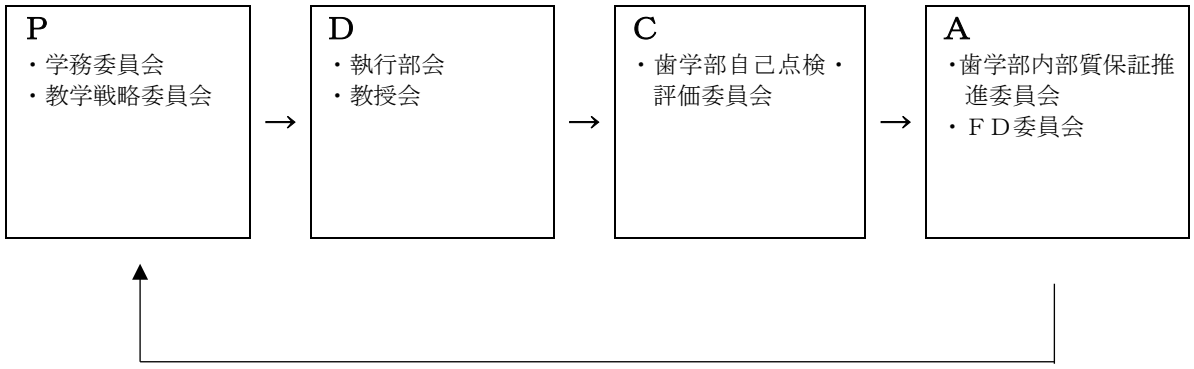
本サイクルを適用した実績は現時点では存在しないが，令和８年度新規事業計画である「実験動物用マイクロＣＴのリプレース」に伴う研究部門の新設を先行事例として推進予定である。総合歯学研究所には，管理運営を担う組織として現在９つの研究部門を設置しており，当該事業計画の立案に当たっては，これらに新たな研究部門の新設を視野に検討を重ねている。現在までに，執行部，研究委員会及び総合歯学研究所運営委員会が連携し，計画（Ｐ）から実行（Ｄ）に至るプロセスを段階的に進めている。今後は，歯学部自己点検・評価委員会による評価（Ｃ）及び歯学部内部質保証推進委員会による改善（Ａ）へとつなげ，歯学部内でのＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

アセスメント・ポリシーに基づき点検・評価及び改善・向上に向けて取り組んでいる。

①　教育課程（学部）レベルのアセスメント・ポリシーとして，次の４項目を設定して，学生に明示している。

(1)　日本大学歯学部が求める知識・技能及び態度が身についているか，それぞれに適した方法で多面的かつ総合的に検証・評価します。

(2)　臨床実習生（歯学）として患者診療を担当できる能力が身についているか，歯学生共用試験であるＣＢＴ（Computer Based Testing）及びＯＳＣＥ（Objective Structured Clinical Examination）を用いて総合的に検証・評価します。

(3)　臨床研修開始時に必要な臨床能力が身についているか，歯学生診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-ＣＣ　ＰＸ：Post-Clinical Clerkship Performance Examination）を用いて総合的に検証・評価します。

(4)　ディプロマ・ポリシーに掲げた能力が身についているか，成績評価，単位修得状況及び卒業要件達成状況等を用いて多面的かつ総合的に検証します。

② 科目レベルのアセスメント・ポリシーとして，次のとおり設定し，その内容を学生に明示している。

シラバスで提示された学修目標に対する評価や学生授業評価等の結果から，科目ごとの学修成果の達成状況を検証します。なお，科目の成績評価は，筆記試験，口頭試験，実技試験，レポート，ポートフォリオ，観察記録及びルーブリックなど，科目の特性や到達目標などを踏まえて，教員がシラバスに明示した方法に沿って行います。

③ 各ポリシーレベルの検証方法を設定しており，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）にのっとって学修が進められているかの検証については，教育課程レベルでは各科目の成績，統合試験の成績，振り返り講義試験の成績，修得単位，ＣＢＴ（Computer Based Testing）・ＯＳＣＥ（Objective Structured Clinical Examination），Post-ＣＣ ＰＸ，アセスメント・テスト，学生授業評価アンケート，退学率及び休学率といった項目ごとに点検・評価し，改善・向上に向けた計画を策定している。また，各科目レベルでは各科目の成績，学生授業評価アンケート，パフォーマンス評価といった項目ごとに点検・評価し，改善・向上に向けた計画を策定している。

④ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関する具体的な評価方法についても設定しており，教育課程レベルでの評価方法は，歯科医師国家試験合格率，学位授与率，Post-ＣＣＰＸ，ＣＢＴ（Computer Based Testing），ＯＳＣＥ（Objective Structured Clinical Examination），アセスメント・テスト，統合試験の成績，振り返り講義試験の成績，各科目の成績及び授業評価アンケートといった項目を設定しており，科目レベルでの評価方法は，各科目の成績や授業評価アンケートといった項目を設定している。

学務委員会及び教学戦略委員会が主体となり，上記各項目に基づいた教育改革・改善及び学生への学修支援に活用できるようにＰＤＣＡサイクルの連環を意識しており，毎年度対応を行っている。

㊸ 教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

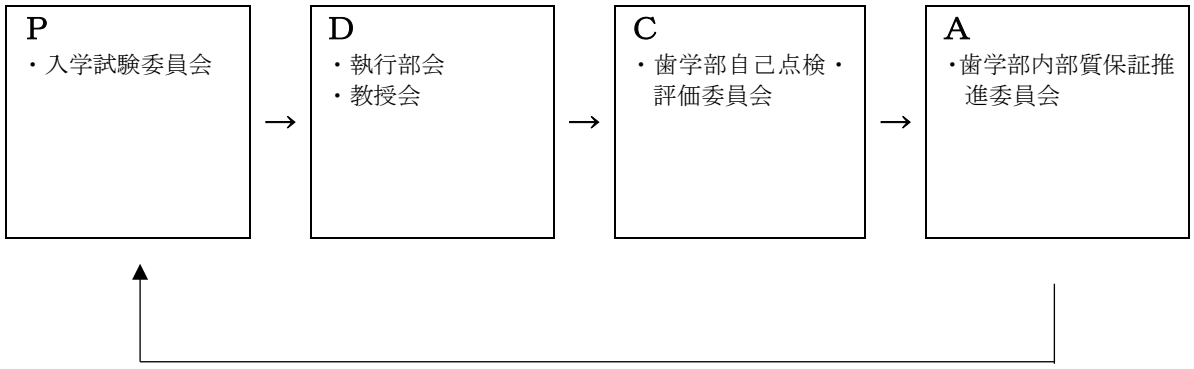
アセスメント・ポリシーで設定した項目等に基づき，学務委員会において点検・評価を行った結果に基づき，当該年度若しくは次年度での教育課程や教育方法改善を毎年度行うことによりＰＤＣＡサイクルの連環を継続している。令和５年度からスタートした新カリキュラム以前もパッチを適用させるような小規模なカリキュラムの改善を継続してきていたが，これまでになかった 18 歳人口の減少，歯科大学を選ぶ受験者数の減少，共用試験の公的化，国家試験合格者数の減少及び歯学教育評価の受審などへの対応といった環境の変化を乗り越えるためには，抜本的なカリキュラムの改善が必要であるということをこれまでの検証に基づき判断した結果，令和５年度からの新カリキュラム導入に至った。令和７年度は，第１・２・３学年が新カリキュラム適用の学年となり，前年度の点検・評価結果に基づいて更にアップデートされたカリキュラム運用を行っている。

3 上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑲　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

入学試験委員会において，各種入学者選抜に関する事項の審議・検討，入学者選抜の適正性に関する検証を定期的に行っている。

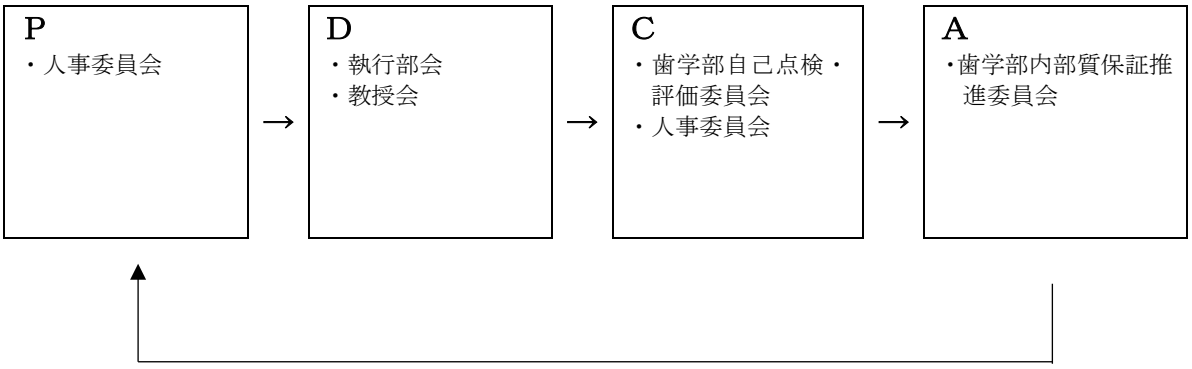
また，次年度以降の入学者選抜についても，上記委員会において前年度の状況及び結果検証し，各種入学者選抜における募集人員の見直し及び入学者選抜方式の拡充を図っており，令和７年度選抜からは学校推薦型選抜（指定校制）を導入した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学設置基準，教員配置計画及び歯学部教員定数に関する内規等を基に，各年度における充足が必要な教員数を確認し，教員配置状況を人事委員会において，点検・評価し適正な教員組織を維持している。

点検・評価の結果を踏まえ，教授以外の定年退職者に係る補充は，原則助教の採用としており，若手教員を育て将来的な昇格を見据えてモチベーション向上につながるよう取り組んでいる。また，助教の再任については，契約更新時に人事委員会において，任期中の教育業績，学生生活評価及び診療実績等を基に契約更新の審査を行い，再任後には今後に向けて面談を実施し，教員個々の質的向上を促している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，具体的な役割や責任の明確化の程度，協働の成果指標を可視化し，定期的に点検・評価を行うことが課題であり改善が求められる。この提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。

【提言（改善課題）】

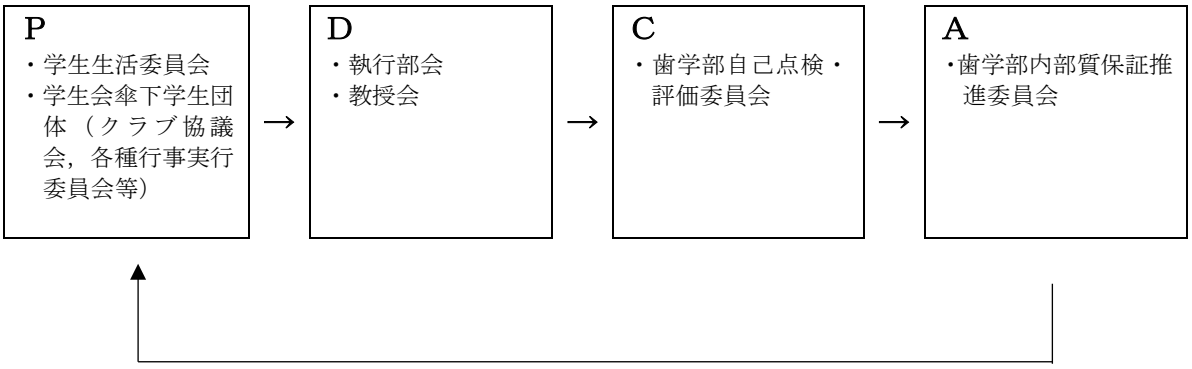
本配慮が実際に特定の教員への過重な負担を防ぐ上でどの程度機能しているかを明確に示すには，実際の講義担当時間の分布や業務割合（エフォート）に関するデータの収集・分析及び

その結果に基づく調整・改善の実績などが求められるため，改善が求められる。
現時点の記述では，具体的な役割や責任の明確化の程度，協働のプロセス及びその成果に関する記載が限定的であるため，今後は具体的な業務分担の基準や協働の成果指標を可視化し，定期的に点検・評価を行うことが課題であり，改善が求められる。
外部からの人材登用による多様性確保や透明性のある人事の整備といった観点から，助教の採用においても原則的に公募を行うことが今後の課題といえ，改善が求められる。

人事委員会において，専任教員を対象とした教員の業務割合（エフォート）に関するデータの収集・分析を行い，教育実態の数値化による把握を行う。人事委員会及び自己点検・評価委員会において，具体的な業務分担等を分析し，教員間の連携体制を図り，その結果に基づく改善の検討を定期的に行う。
歯学部における助教の採用は，大学が定める「助教規程」に基づき，学部・病院における教育研究，研究室運営及び臨床（医療収入含む）に即戦力として資することを前提とし，その年齢構成，男女比，学内・学外の適正なる比率を念頭に各講座（主任教授）が学部長に推薦している。その採用の可否については，外部からの人材登用による多様性確保等も踏まえ合議することにより公平，公正，透明性を担保，人事委員会，執行部会，教授会の議を経て行っている。令和８年度採用予定の助教は，本研究科修了者から３名，学外から５名（内２名本学部卒）が採用されている。俯瞰すると，助教の採用においては，学内からの採用者が比重を占めていることが認められるため，今後の課題となる外部からの人材登用（公募）による多様性の確保については，現時点での各講座における助教の業務遂行状況等を数値等により人事委員会にて確認し，その制度策定を検討していくこととしている。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

前年度に引き続き，学生からの意見箱や学生会等の学生団体と連携し，日頃から学生の考えていることなどを把握しながら，学生生活委員会や学生課で学生支援や学生生活に関わる事項の検討・見直しを随時行っている。また，関連部署や教職員との情報共有を行い，それらを基に，内容に応じて関連部署や担当教職員で検討・検証を行っている。学生から上がった要望書や要望書に対する回答書などは，執行部会や教授会でも随時報告を行っている。

今年度，学生の教育に資する点で向上を図った事例として，休日の自己学習に伴う本館（新校舎）の利用をこれまで認めていなかったが，学生会から要望があり，学生生活委員会や執行部会で審議の結果，休日において自己学習に伴う本館の利用が認められた。

ただし，前回検証所見で御指摘をいただいた，「歯学部内部質保証推進委員会がどのように連関して支援しているか，体制やプロセス等について記述が確認できないため，記述が望まれる。」という点については，歯学部内部質保証推進委員会からの点検・評価の実施をはじめ，同委員会からのアクションがあった場合は，速やかに改善を図りたい。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

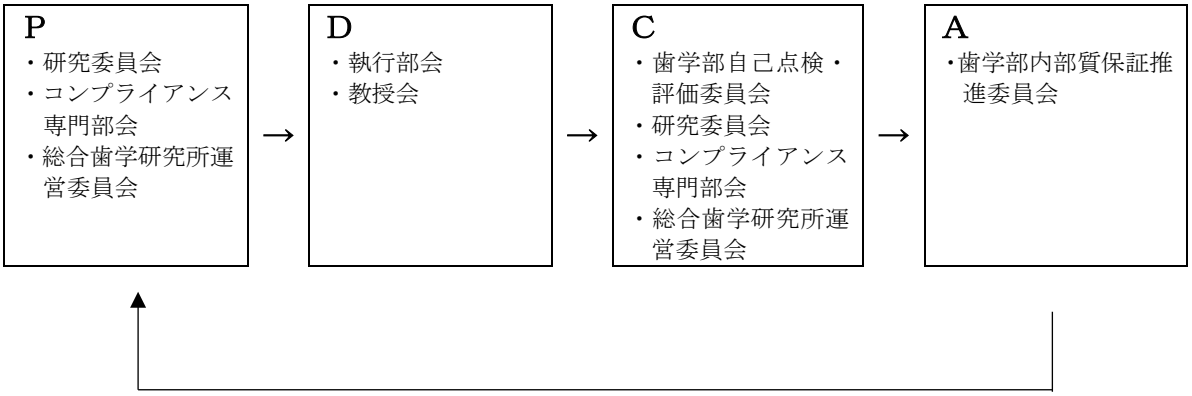
むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

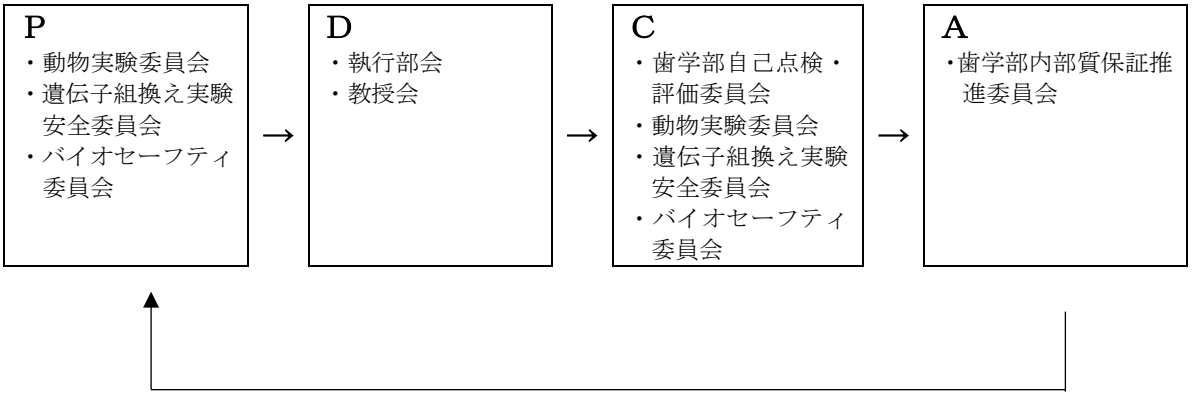
基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

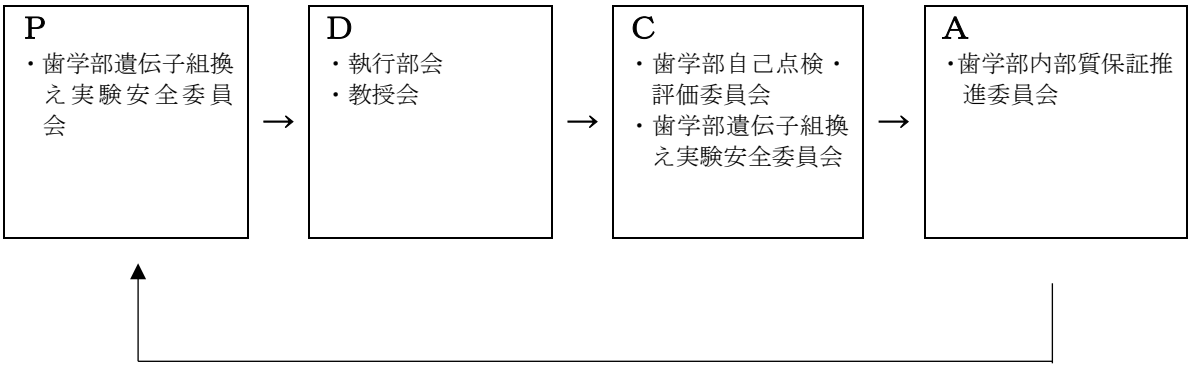
【学部全体の研究等環境】



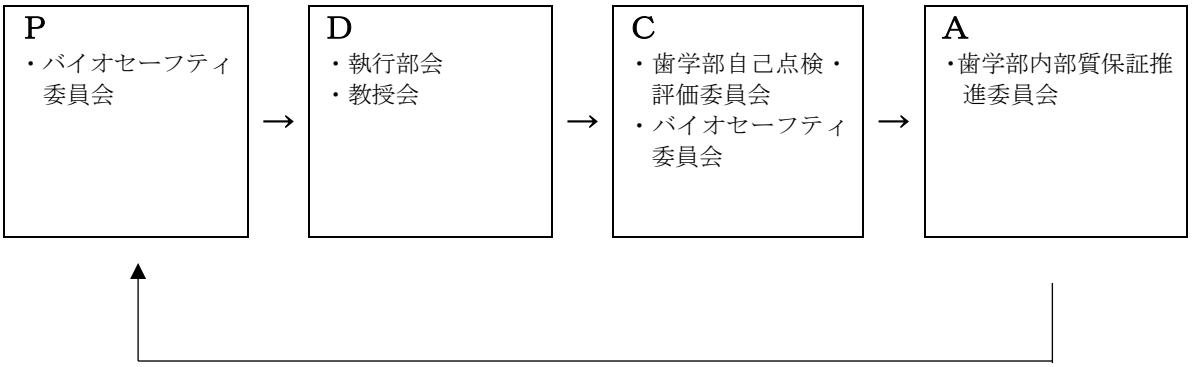
【動物を使用する研究】



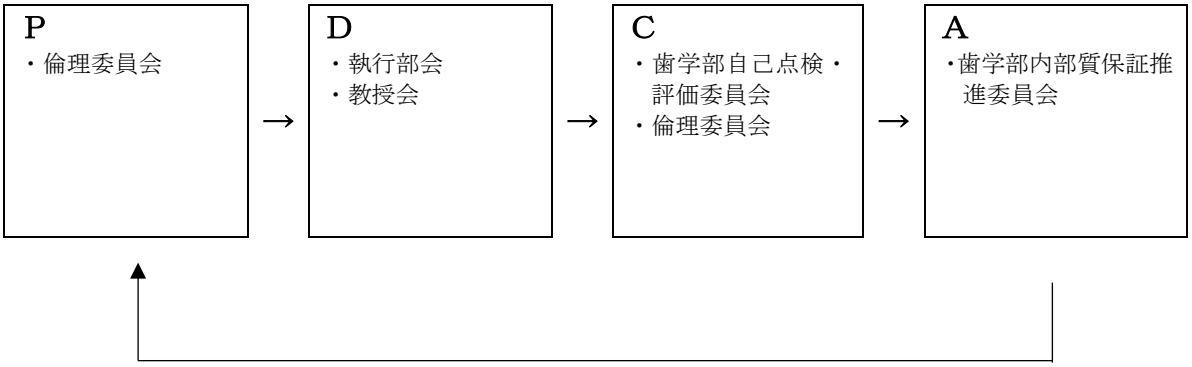
【遺伝子組換え生物を扱う研究】



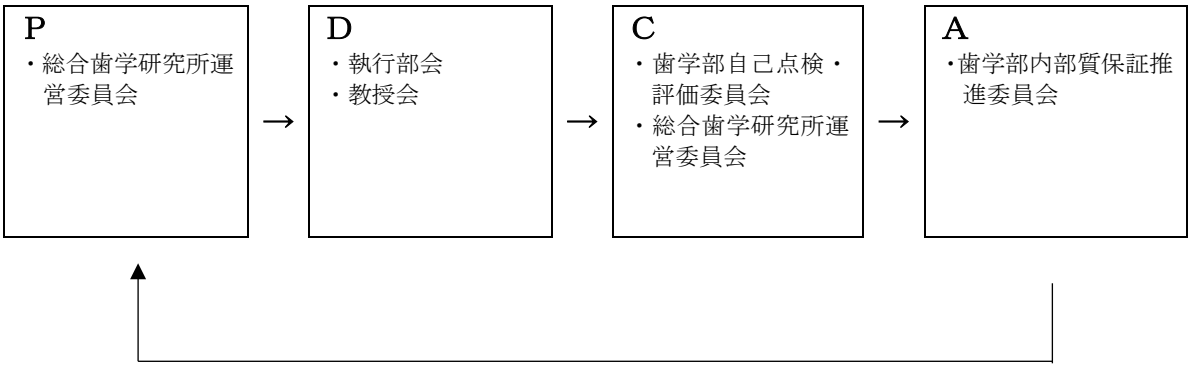
【病原性微生物等を取り扱う研究】



【ヒトを対象とする医学系実験に関する研究】



【総合歯学研究所全体の運営等】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

上記の研究環境に関する全ての委員会において，歯学部執行部の指示の下，各委員会が方針や事業内容を策定する。策定された方針等の実行は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，各研究者に通達される。各所管の委員会は，研究者の研究計画書等を確認することで点検・評価を行う。その評価結果は，歯学部自己点検・評価委員会へ提出され，同委員会の報告に基づき，最終的に歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。

本サイクルの適用実績は，現時点では途上にあるが，改善・向上につながる先行事例として次のとおり取り組んだ。まず，病原性微生物等を取り扱う研究において，バイオセーフティレベル（ＢＳＬ）の更新に適切に対応するため，令和６年度より年２回の保管状況確認及び変更届出の運用フローを構築した。また，歯周病原菌のＢＳＬ２への引き上げに伴い，既存施設での研究継続が困難となった事案では，研究担当である執行部の指示の下，動物・遺伝子・バイオセーフティの３委員会が合同で対応した。国立感染症研究所やＷＨＯ（World Health Organization）の指針を参照し，20 年以上未更新であった学内規程やマニュアルを刷新した。この結果，公私立大学実験動物施設協議会等共連携し，年度内にＢＳＬ２の承認取得及び学内規程等の整備を完了させた。今後は，歯学部自己点検・評価委員会による評価（Ｃ）と歯学部内部質保証推進委員会による改善指示（Ａ）を機能させ，歯学部内でのＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

なお，遺伝子組換え実験安全委員会における実験計画書の点検・評価については，「学部等単位の改善事項の進捗状況調査」に記載のとおりである。

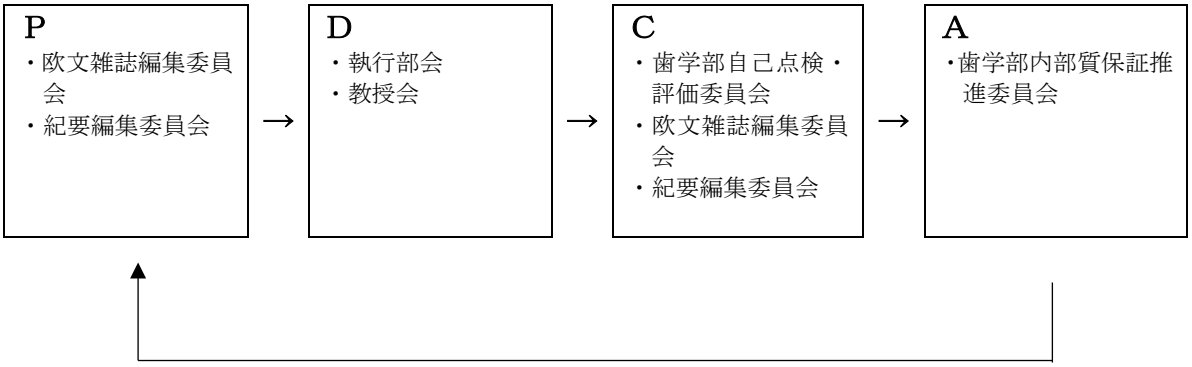
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

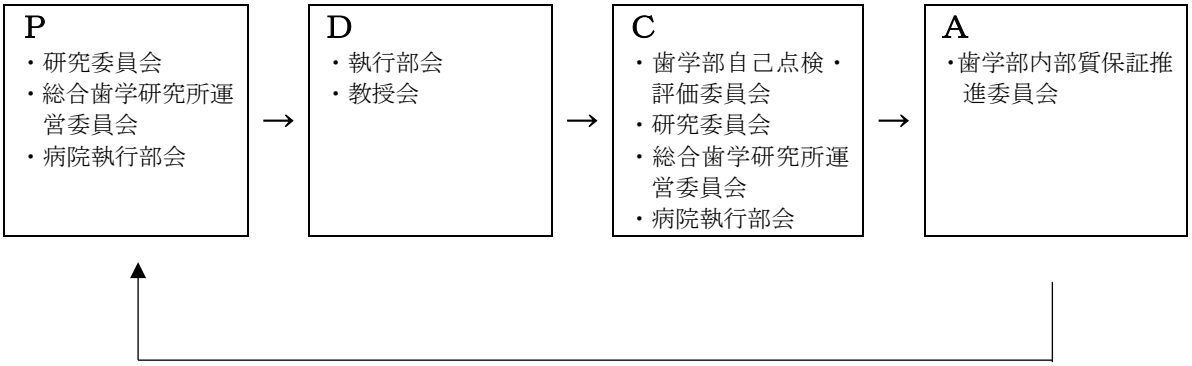
基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究成果の発信】



【産官学連携活動】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究成果の発信については，歯学部執行部の指示の下，欧文雑誌編集委員会及び紀要編集委員会が学術誌の投稿方針等を策定し，投稿論文の査読を含む編集実務を担う。投稿方針等が変更される際は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，各研究者に通達される。学術誌の刊行後は，各委員会が点検・評価を実施し，その結果を歯学部自己点検・評価委員会へ提出す

る。同委員会の報告に基づき，最終的に歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。

産官学連携活動については，歯学部執行部の指示の下，研究委員会及び総合歯学研究所運営委員会において，委託研究や共同研究等の契約締結を管轄する。医療機器開発等につながる臨床現場のニーズに基づく場合は，病院執行部会でも検討し案を策定する。委託研究や共同研究等の契約締結の方針が変更される際は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，各研究者に通達される。研究者は研究活動を遂行し，大学が有する研究成果・技術・人材を企業の製品開発や技術革新に活用するとともに，企業のニーズを大学の研究活動へフィードバックする。年度末には，総合歯学研究所運営委員会等へ実績報告を行い，研究委員会においても必要に応じて共同研究契約等に関する審議を行う。その後，各委員会が点検・評価を実施し，その結果を歯学部自己点検・評価委員会へ提出する。最終的には，同委員会の報告に基づき，最終的に歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。

本サイクルの適用実績は現時点では途上にあるが，改善・向上に繋がる先行事例として以下のとおり取り組んでいる。本学部では，オープンアクセス化された国際学術誌「Journal of Oral Science（ＪＯＳ）」を年４回発刊している。令和６年には，国内外から投稿された計 51 本の論文が掲載され，インパクトファクター（ＩＦ）は 1.7（2024 年発表値）を記録した。このように本学部の研究活動が国際水準にあることが第三者機関によって証明されているのは，欧文雑誌編集委員会が継続的に点検・評価を実施してきた成果といえる。令和８年度には，社会連携・社会貢献に関する情報のアクセシビリティ向上を目的として，ＪＯＳ公式 Web サイトの新設を計画している。本件は，既に執行部の承認を得て予算申請を行っており，令和８年度中の構築を目指している。今後は，本 Web サイトの運用を通じて歯学部自己点検・評価委員会による評価（C）と歯学部内部質保証推進委員会による改善指示（A）を実効的に機能させ，歯学部内でのＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

また，行政及び公的機関からの，委員会委員，講演会講師及び歯科医師試験委員等の様々な派遣依頼に対し，執行部会，教授会等で審議され，学部の承認を経て，出向している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

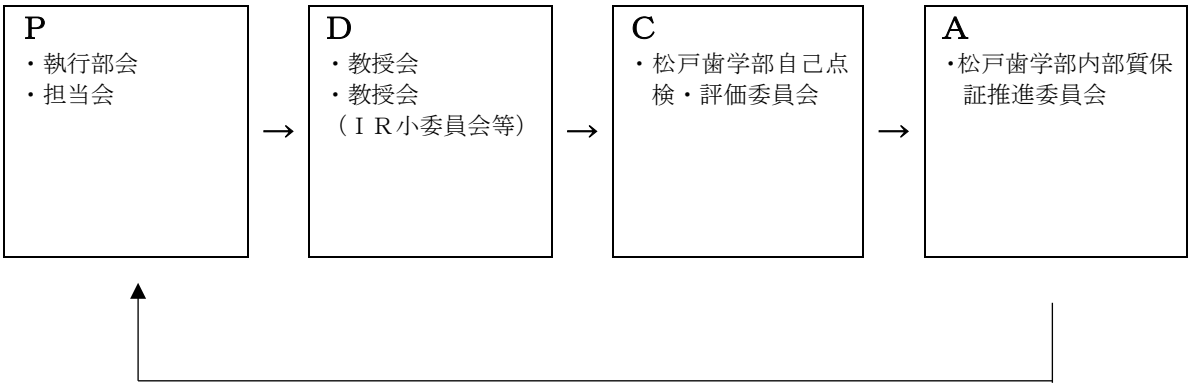
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　松戸歯学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証システムを有効的に機能させる組織として，松戸歯学部内部質保証推進委員会及び松戸歯学部自己点検・評価委員会を設置している。なお，両委員会は互いにけん制がきくよう極力構成員が重複しないような構成としている。基本的には，担当会で計画を行い（Plan），教授会に計画を上程し，必要に応じてＩＲ小委員会等と連携し，実施する（Do）。そして，松戸歯学部自己点検・評価委員会で評価を行い（Check），それに対して松戸歯学部内部質保証推進委員会から意見及び助言等を徴し，改善につなげている（Action）。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度日本大学に対する大学評価（認証評価）結果の基準４の概評において，「学習成果の測定・把握が科目単位にとどまっている」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連することから，学位授与方針に示す学習成果を多面的かつ体系的に把握できるよう，例えば，松戸歯学部内部質保証推進委員会が中心に学修効果検証小委員会やカリキュラム検証小委員会が連携して，測定方法の改善に取り組むよう改善が求められる。

また，点検事項(6)に関しては，教育・学修総合センターにおけるＩＲ分析を活用した内部改善の事例は示されているものの，「外部評価の結果に基づく改善・向上の取組」が記載されておらず，活動の実態を十分に確認することができない。外部評価の結果を踏まえた具体的な改善活動については，例えば，松戸歯学部内部質保証推進委員会が主体となって，関連委員会に検討を要請し，取組を明確化するよう改善が求められる。

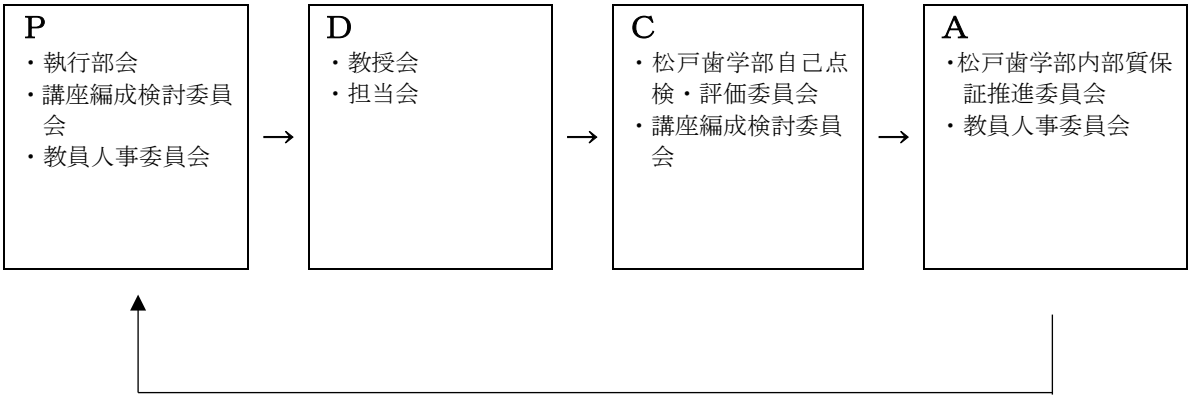
さらに，点検事項(6)の自己点検・評価報告書の記述は，設問が求める「外部評価に基づく改善事例」と直接結びついておらず，むしろ委員会による内部的な検証の説明にとどまっている。この点については，自己点検・評価委員会と内部質保証推進委員会が連携し，点検項目の趣旨に即した具体的な改善事例を記載するよう改善が求められる。

本学部は，組織自体が小さいため，ＰＤＣＡのそれぞれの役割を担う組織の構成員が重なりやすく互いにけん制がしにくいが，極力構成員が重ならないように配慮している。今後は，外部評価の積極活用をすることにより，客観的な評価を行えるような体制の構築を検討していく。

現行では，教育・学修総合センターにおけるＩＲ小委員会が学生の成績データを分析し，その結果を基に合格基準を設定するなど，内部の自己点検・評価結果に基づく改善を行っているといった形で，内部改善にとどまっているが，次年度については，学校関係者評価において，「教育の充実と学修成果の向上を図るために，内部質保証システムを整備し，適切に機能させていること」という点検・評価項目を設定し，評価結果を松戸歯学部自己点検・評価委員会に報告し，更にそれを松戸歯学部自己点検・評価委員会から松戸歯学部内部質保証推進委員会に報告し，ＰＤＣＡサイクルを機能させていく予定である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

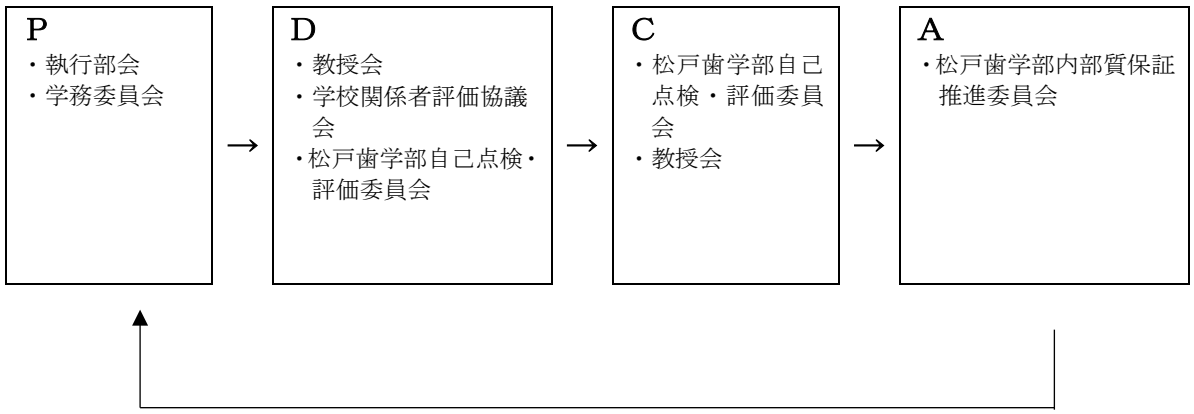
歯科医師の養成を目指す歯学科のみを置く学部であるため，学科の新設，学科の改組等は検討していない。歯科に関する学術分野は，変化が早いため，それに対応すべく，学部長の諮問機関として適宜設置される講座編成検討委員会にて組織案を策定し，その案に基づき，教員の人事等を担う常設の教員人事委員会において具体的な人員配置を検討する（Plan)。それを担当会及び教授会で資格審査等を行い，具体的な人員配置等を行っている（Do)。実際の運用開始後に必要に応じて講座編成検討委員会を再度設置した上で検証を行い（Check)，教員人事委員会で見直しの是非について検討している（Action)。このように時代に合った教育研究組織となるよう講座の見直しや将来を見据えた教員配置等の検討を行い，適宜，点検及び評価を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法については，学務委員会の学修効果検証ワーキンググループで検証し，実際の運用においては，個々の委員会がその責務において検討し，それらを総括する松戸歯学部自己点検・評価委員会を経て教授会に上程する流れであったが，次年度は，検証結果を学校関係者評価協議会において点検し，更に評価結果を松戸歯学部自己点検・評価委員会に報告し，教授会に報告後，必要であれば松戸歯学部内部質保証推進委員会において修正を行っていく予定である。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育・学修総合センターを開設し，そこで，学生個々の学校での成績はもとより，入試区分による留年率等をデータ化したものを分析している。結果は，学生個々の学修デザインの指導に利用し，学修成果を向上させている。自己点検・評価の結果については，年度末に行うＦＤ

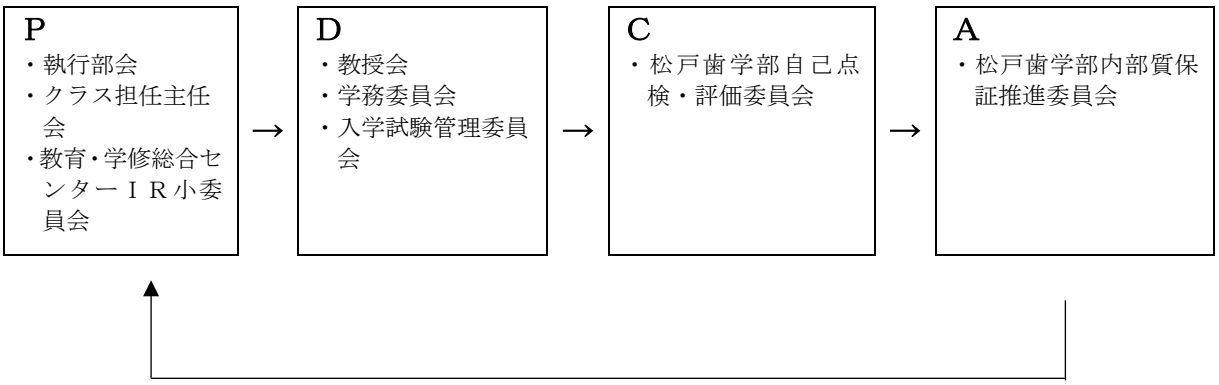
ワークショップに反映し，本学部の学生の理解が弱い項目の授業の進め方や国家試験の過去問題をどのように授業に取り込むかなどを学んでいる。
　また，学校関係者評価にて評価結果を提示し，学外評価者からも評価をいただいている。学外者の評価結果は，松戸歯学部内部質保証推進委員会において報告し，学務委員会及びＦＤ委員会で対策を検討・実施している。
　今年度は，自己点検・評価の結果を用いて，重回帰モデルを作成し，今年度（令和７年度）実施される共用試験ＣＢＴでのＩＲＴ標準スコアの平均値及び不合格者数を予測した。その予測を基に４年次生（共用試験ＣＢＴ受験学年）に対し，正規の補講とは別に自主参加型の特別補講を冬季休業中に実施する予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学務委員会が中心となり，教育学修総合センターＩＲ小委員会で分析されたデータを活用することで，入学者選抜の出願基準の設定が適切であるか等について点検・評価を行っている。

ＩＲ委員会による分析結果は，学務委員会や入試管理委員会等に報告され，検討されることで次年度の各種施策が検討される。

ＩＲ委員会による分析の一例として，高等学校卒業時の評定平均値と入学後の学修成績の間に一定の相関関係が認められた。この評価結果を参考に，次年度以降の学校推薦型選抜における推薦基準となる評定平均値を検討した。

今後は，それらを松戸歯学部自己点検・評価委員会で点検し，松戸歯学部内部質保証推進委員会で必要に応じて修正するという流れを作っていく予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題)】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，提言が付されているとおり，収容定員に対する在籍学生数比率について，歯学科が 1.01 と高いため，改善が求められる。

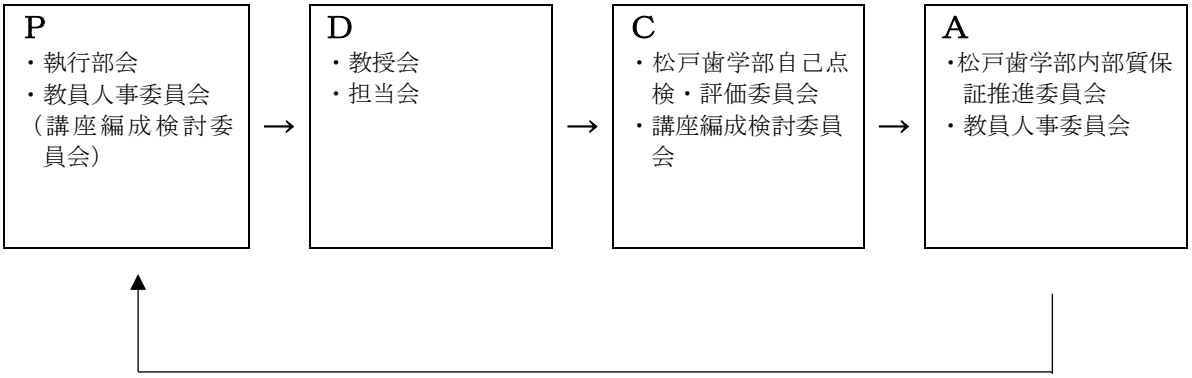
学務委員会が中心となり，次の(1)・(2)に取り組んでいる。

(1) 学科の質的向上を目指す施策として，クラス担任主任者会（Plan）により教育学修総合センターＩＲ小委員会で分析されたデータを活用し，従前の定期試験及び追再試験の問題の構成と判定方法の見直しを提案し，学務委員会（Do）で了承された。これにより，客観試験である定期試験の問題構成に一定の基準が設けられ，これまで以上に適切な問題設定が可能になった。また，追・再試験では受験対象となる母集団が少人数になるため，不適切な問題の除去ができない。そこで，過去に出題され適正な正答率と識別指数を有する良問のプールから問題を選択することにより，これまで以上に適正な成績評価が可能となる。今後はそれらを松戸歯学部自己点検・評価委員会（Check）で点検し，松戸歯学部内部質保証推進委員会（Action）で必要に応じて修正する。

(2) 昨年度から実施している欠席率 20％超えの学生情報のクラス担任主任宛てに自動でメールを送信しており，それはそのまま据え置きにし，今年度からは学生のモバイルによる出席確認をやめ，座席指定を行い，出席表を用いて出席確認を厳格化することにより，不正出席や成績不振者の数を減少させることが期待できる。これは，教育学修総合センター運営委員会ＩＲ小委員会（Plan）で分析したデータを活用し（同委員会の諮問機関である電子学修支援ワーキンググループによってプランが立てられ），学務委員会（Do）によって実行されている。今後はそれらを松戸歯学部自己点検・評価委員会（Check）で現状分析及び取組評価を行い，松戸歯学部内部質保証推進委員会（Action）で自己点検・評価結果の客観性・透明性を検証し，必要に応じて修正する。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

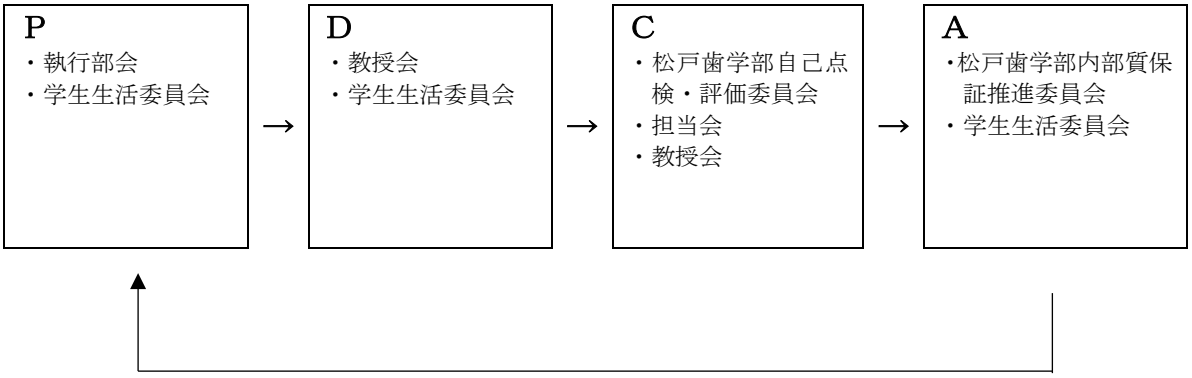
教員人事委員会において，専任教員の定年を見据えた 10 年後までの教員配置計画を基に各年度における充足が必要な教員数，特に大学設置基準に基づく教授人数を確認し，計画的な教員採用計画を策定している。また，助教等の任期制教員については，契約更新時に教員人事委員会において任期中の実績を基に契約更新の可否を含めた審査を実施することで教員の質の担保を行っている。大学設置基準を基にした配置を重視し，数年先までの教員配置計画を定期的に確認することで，専任教員が過度に不足しないよう注視している。また，点検・評価を行い，次回以降に向けて改善・向上を図っている。なお，作成した教員配置計画については，担当会や教授会でも諮り，学部全体で共有されている。また，教員人事委員会の下に適宜，講座編成検討員会を学部長の諮問機関として設置するが，構成員についてはその時の状況に応じて柔軟に人員配置を行っている。両委員会は，互いに連携して情報共有や今後の計画等の検討を行っており，学部としての方針にそごがでないよう軌道修正しながら立案及び検証等を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活委員会が全学的な統括組織として一元的に担っている。同委員会は，定例会議及び必要に応じた臨時会議を通じ，各種学生支援施策の運用状況の確認，評価及び改善策の決定を継続的に行っている。

(1)　学生相談対応の改善
　　相談窓口の一本化と対応記録の標準化により，対応品質と追跡性を向上した。

(2)　事故・トラブル時対応フローの整理
　　関係部署間の連絡手順と責任区分を明確化し，迅速性と客観性を強化した。

(3)　課外活動における安全管理強化
　　活動責任者の明確化，使用場所管理，危機管理の徹底をした。

(4)　支援制度の周知方法の改善
　　掲示物・メール配信・ガイダンス説明の多層的周知により，利用率の改善を確認した。

(5)　障がい学生等への個別配慮支援の強化
　　ヒアリングと個別支援策を体系化し，対応の質を向上した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してく

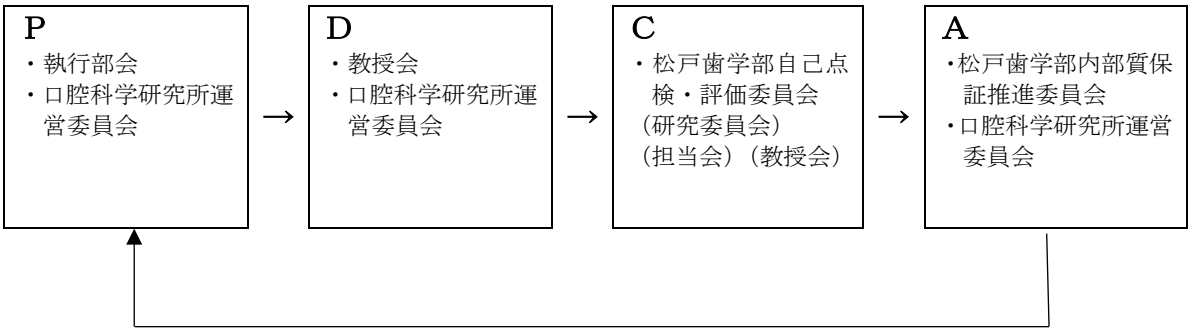
ださい。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

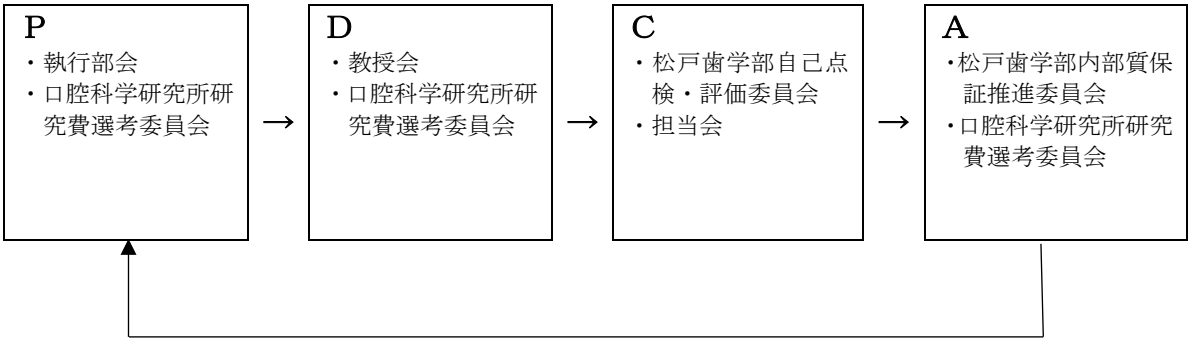
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

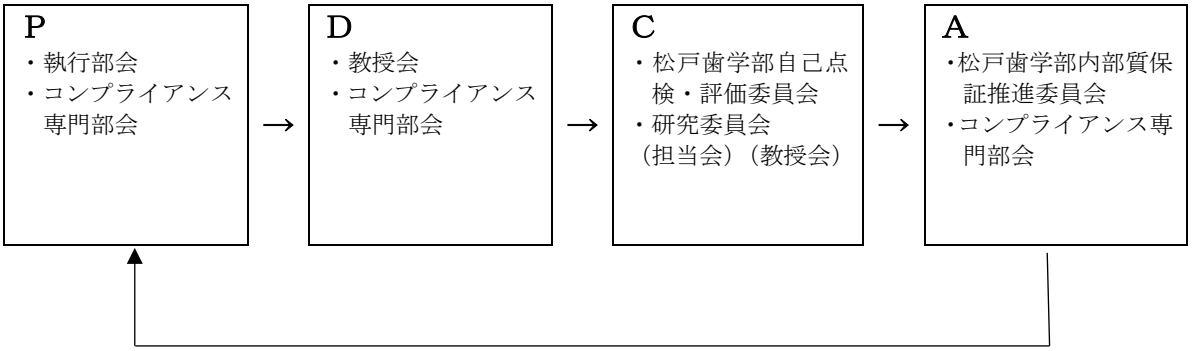
【口腔科学研究所の各種事業の管理・運営】



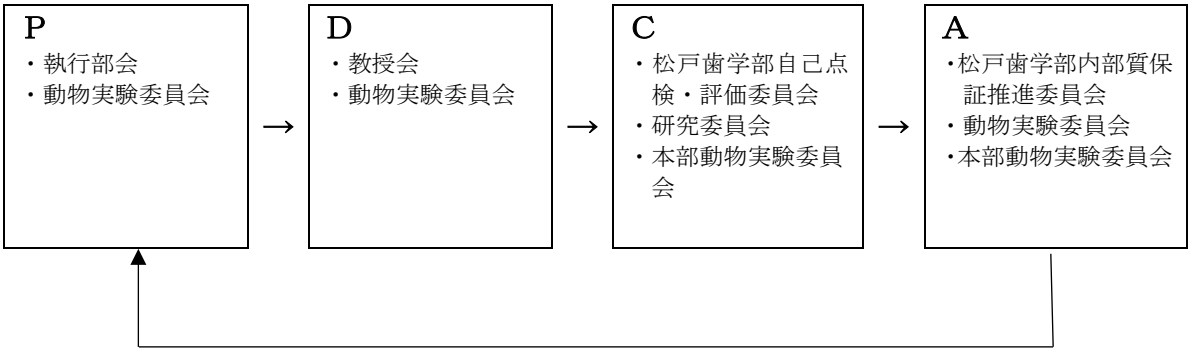
【学内研究費の配分についての適当性】



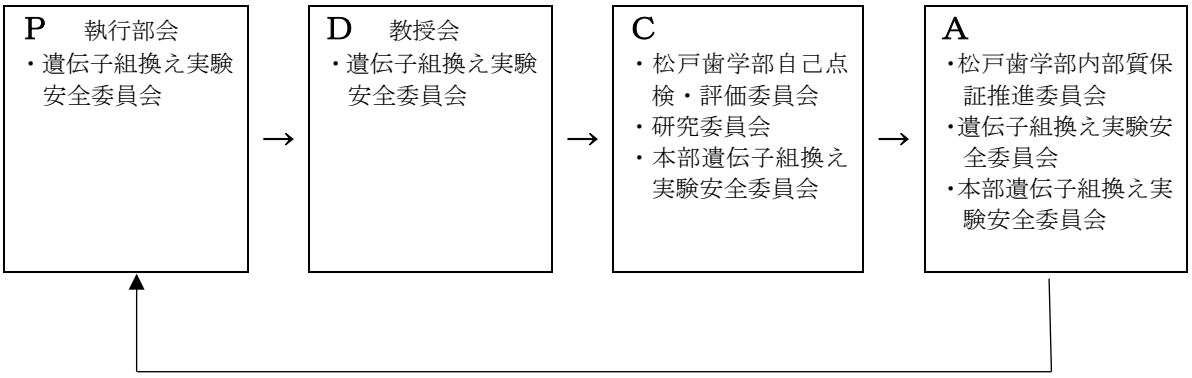
【研究費の不正使用防止】



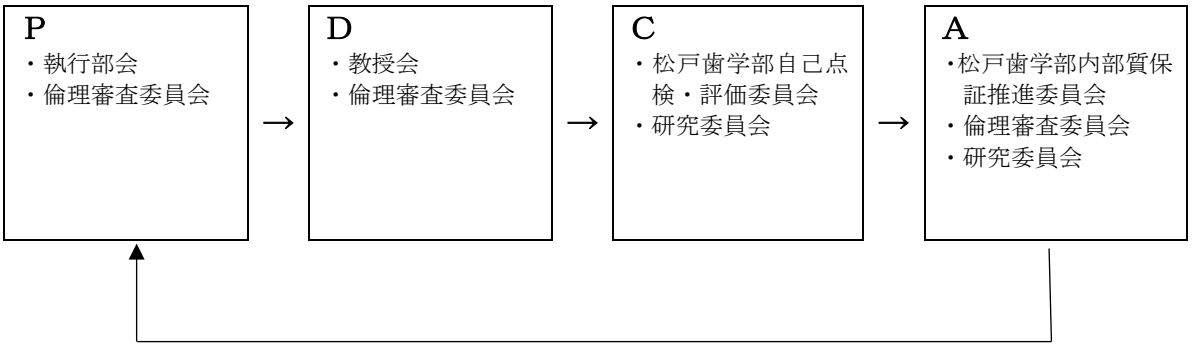
【本学部における動物実験等の適正な実施並びに実験動物の飼養及び保管】



【本学部における遺伝子組換え実験の安全かつ適切な実施】



【本学部における人を対象とする生命科学・医学系研究の適正な推進】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【口腔科学研究所の各種事業の管理・運営】

口腔科学研究所運営委員会では，日本大学松戸歯学部口腔科学研究所規程第３条に規定する事業を行っており，各種研究の受入・実施状況，所員等の構成員の受入・活動状況，研究施設の管理・運営状況を計画・実行している。委託研究等の利益相反等の適正性に関する確認や研究施設について，予算を含めて検討することで効率的で適切な活用を実現している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて，研究委員会，担当会及び教授会に点検・評価を求めている。

【学内研究費の配分についての適当性】

口腔科学研究所研究費選考委員会では，研究活動の活性化を図るため研究費を給付しており，より活発な研究成果の向上を目途に適切な配分を随時見直している。同委員会の目的の適切性については，定期的に担当会に点検・評価を求めている。

【研究費の不正使用防止】

コンプライアンス専門部会では，研究費の不正使用防止を目途としてその適正な執行状況や啓発活動を計画・実行しており，学部全体で研究費の適正な使用に向けての意識向上に寄与している。同専門部会の取り扱う活動は必要に応じて研究委員会，さらには担当会及び教授会に点検・評価を求めている。

【本学部における動物実験等の適正な実施並びに実験動物の飼養及び保管】

動物実験委員会では，本学部における動物実験等の適正な実施及び実験動物の飼養並びに保管に関して計画・実行しており，当該研究に伴う管理運営体制を常に監視・整備し，研究者相互が動物実験等を適正に実施するために意見を交換するとともに，指導している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて研究委員会，さらには本部動物実験委員会に点検・評価を求めている。

【本学部における遺伝子組換え実験の安全かつ適切な実施】

遺伝子組換え実験安全委員会では，本学部における遺伝子組換え実験の安全かつ適切な実施について計画・実行しており，当該研究に伴う管理運営体制を常に監視・整備し，研究者相互が遺伝子組換え実験を適正に実施するために意見を交換するとともに指導している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて研究委員会，さらには本部遺伝子組換え実験安全委員会に点検・評価を求めている。

【本学部における人を対象とする生命科学・医学系研究の適正な推進】

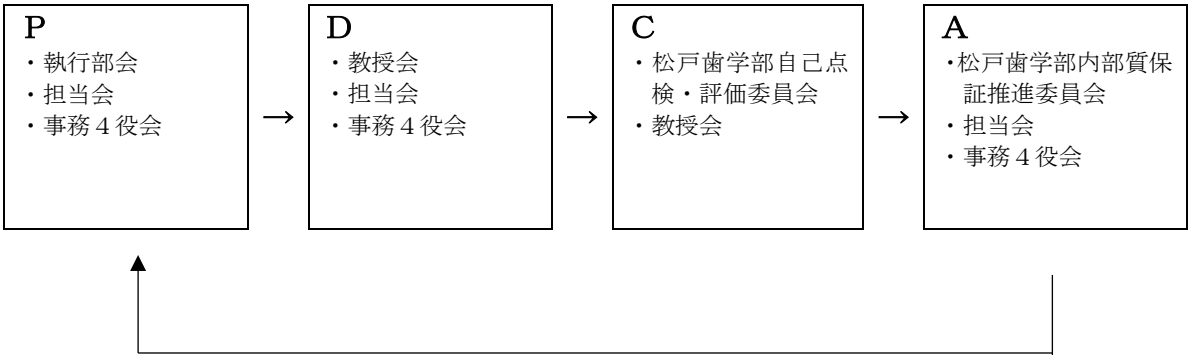
倫理審査委員会では，本学部における人を対象とする生命科学・医学系研究の適正な推進が図られるように，当該学部等の研究の進捗状況，結果の把握及び研究が適正に実施されていることの把握，研究が国の指針に適合していること，当該研究を実施等する際に必要な知識及び技術に関する教育・研修の措置等について，計画・実行しており，当該研究に伴う管理運営体制を常に監視・整備し，研究者相互が人を対象とする生命科学・医学系研究を適正に実施するために意見を交換するとともに指導している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて研究委員会に点検・評価を求めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・貢献に関わる事項については，案件により所管部署や委員会が異なるため，各部署が計画案を作成している。計画案を基に，事務４役会で検討若しくは担当会で審議し，計画を立て（Plan），実施（Do）している。また，計画立案及び実施の際は，教授会にその内容を報告し，構成員による意見を聴いている（Check)。そして，その意見を基に内容の改善や修正を行うようにしている（Action)。

本学部は，平成 30 年から松戸市との包括的な連携を行う協定を結んでおり，直近の社会貢献に関する事例の一つとして，シェアサイクルステーションの設置がある。設置に当たり，所管部署となる庶務課から事務４役会及び担当会に上程し，同会での検討・審議を経た設置案を，教授会で報告し，設置に至っている。設置して間もないため，本取組についての評価は現時点で行っていないが，ステーションの利用状況等を先方から共有してもらうこととしているため，その情報等を基に効果を検証し，改善等を行っていく予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

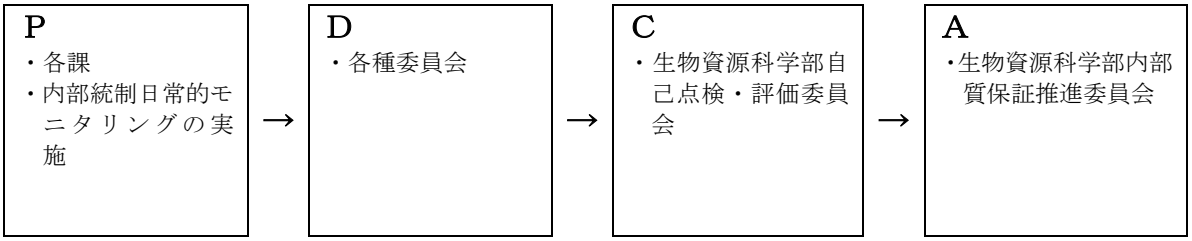
令和７年度全学自己点検・評価報告書

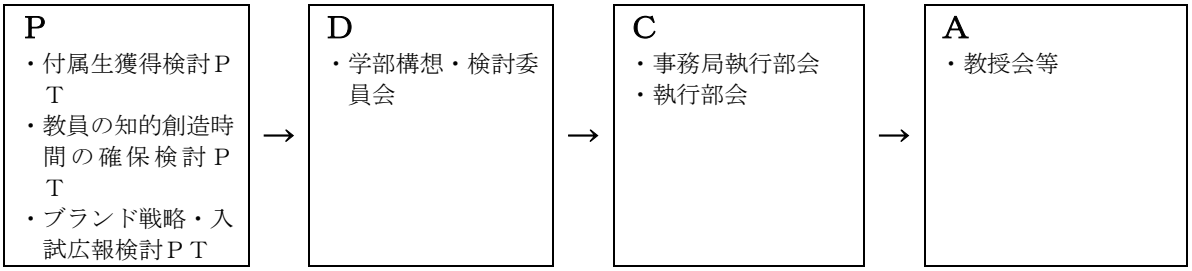
学部等名　　生物資源科学部

基準２ 内部質保証

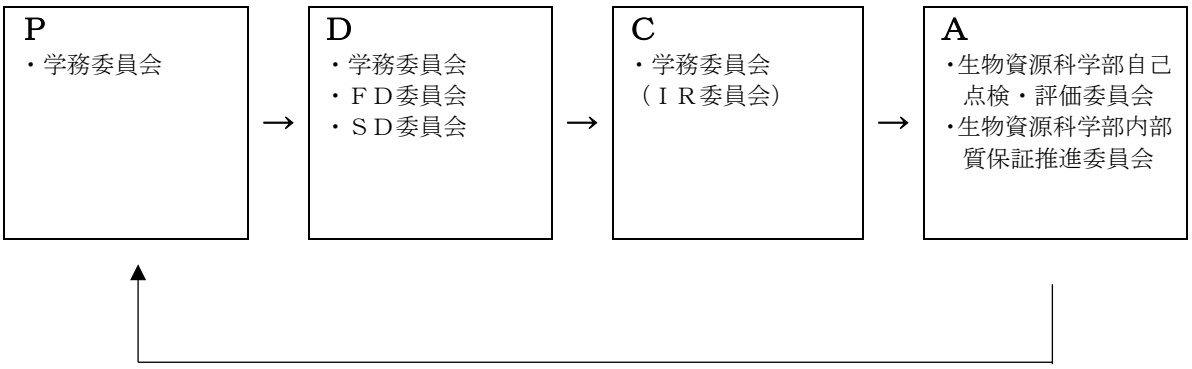
１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

【庶務】





【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等につ

いて記述してください。

【庶務】

点検・評価については，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，ＩＲ委員会，ＦＤ委員会，ＳＤ委員会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会等が生物資源科学部内部質保証推進委員会と連携することで，各研修でのテーマを提供する等して内部質保証体制を構築している。

改善・向上を図った事例としては，内部統制の日常的モニタリング「推進単位内項目／全課共通項目（教務課）」にもあるとおり，教育の質を保証する仕組みの一環であるＦＤ研修において毎年講演内容を変更することで全教職員の 100%受講を達成した。

内部質保証については，現状，各課のＰＤＣＡサイクルに全体的な統一性が見られないことから，内部質保証体制をより盤石なものとするため，各課及び各種委員会等の役割及びＰＤＣＡサイクルの本質を再検証しながら，課題となる点を抽出し，生物資源科学部内部質保証推進委員会において今後検討及び改善していく予定である。

【教務】

＜点検・評価（検討・検証）＞

内部質保証システムは，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，学務委員会，生物資源科学部自己点検・評価委員会，ＩＲ委員会及びＦＤ・ＳＤ委員会等が連携し，体制を構築している。本学部では，教育実務を統括する学務委員会がＰＤＣＡサイクルの実働主体となり，現場の課題に即応した改善活動を展開している。

具体的な運用は，学務委員会が中心となり教育改善計画を策定（Ｐ）し，必要に応じてＦＤ・ＳＤ委員会と連携して施策を実行（Ｄ）する。その後，学務委員会が教学情報を基に点検・分析（Ｃ）を行い，必要に応じてＩＲ委員会と連携して結果を補完する。これらの検証結果は，生物資源科学部内部質保証推進委員会へ自己点検結果と併せて報告（Ａ）される。同委員会が最終的な検証・承認を行うことで，組織的な質保証サイクルを完結させている。また，教務部門の改善活動は，実務を担う教務課による起案と学務委員会での審議・決定を密接に連携させることで，実効性を担保している。

＜改善・向上を図った事例＞

点検，評価の結果に基づく改善，向上事例として，以下の施策を実施した。

・原則，全開講科目の「授業評価アンケート」と「卒業時調査（旧学修満足度向上調査）」による学内評価を毎年実施している。
・外部機関（株式会社井出トマト農園，株式会社マルホ，株式会社シンテック及び新規に中央畜産会）と連携協力協定を締結し，「三つの方針」に対する客観的な評価を依頼し，教育活動の改善に活用している。
・成績評価の公正性の向上として，卒業研究の成績評価基準について，学部全体で統一したルーブリックのガイドラインを策定の上，導入した。
・学修支援の強化として，授業評価アンケートを教学システムによる実施に変更し，回答率の向上を図った。
・成績不振者への修学指導基準にＧＰＡを含めるなど，広範囲の学生を対象とすることで学習継続支援の質的向上を図った。

これら教務部門における改善活動は，実務を担う教務課が教学上の課題を自発的に抽出・起案し，教員組織である学務委員会との協議・決定を経て実行される体制を基本としている。具体的には，学務委員会を主軸として改善施策の方針を決定し，教務課が実務的な実施・運用を担った後，再び学務委員会においてその実施結果の検証と承認を受けるというサイクルを構築している。一連の組織間連携による改善実績は，年１回，生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告することで，組織的な内部質保証を完結させている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握について，アセスメント・テストによる一部能力の測定にとどまっており，学位授与方針に示す学習成果の評価として不十分である」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関係するため，学位授与方針に示された学習成果を多面的に把握できるよう測定方法の多様化を図る必要がある。この点については，例えば，生物資源科学部内部質保証推進委員会が主導して検討・改善を進めるよう，改善が求められる。

【教務】

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示される「自主創造」等の８つの能力（コンピテンシー）の達成度を測るため，先行的に「卒業研究（Ⅰ・Ⅱ）成績評価基準のガイドライン及びルーブリック活用モデル」を策定・導入した。このルーブリックは，最終成果物だけではなく，課題設定から問題解決に至る「研究の過程（プロセス）」を重視して評価するものとなる。

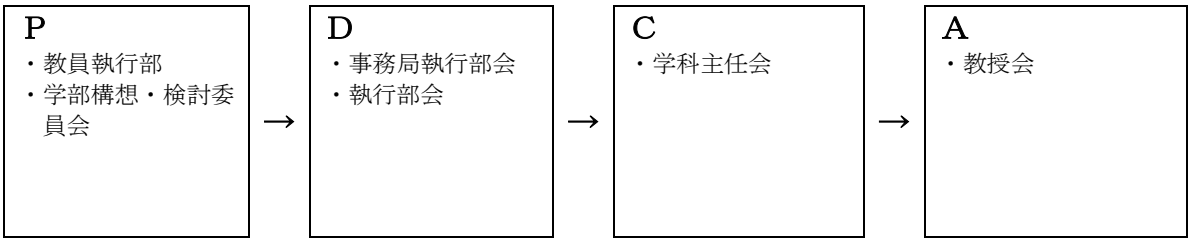
今後は，全学的なアセスメント・プランが決定されしだい，学部及び研究科ごとのアセスメント・プランを速やかに策定し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した学習成果の測定に当たって，卒業研究ルーブリックを主軸として適切に運用できるよう検討する。

本ガイドライン及びルーブリックの策定に当たっては，実務を担う教務課が各学科の評価実態を調査・集約し，その結果に基づき学務委員会において教学上の観点から審議・決定を行った。今後の運用については，学務委員会において策定した実施計画（Ｐ）に基づき，各学科及び指導教員がルーブリック評価を実践（Ｄ）する。その評価結果については，学務委員会が点検・分析（Ｃ）を行い，必要に応じて再度，有効性を検証する。一連の改善案は，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告（Ａ）し，組織的な承認を得ることで，アセスメント・プランの高度化に向けたサイクルを継続的に運用していく。

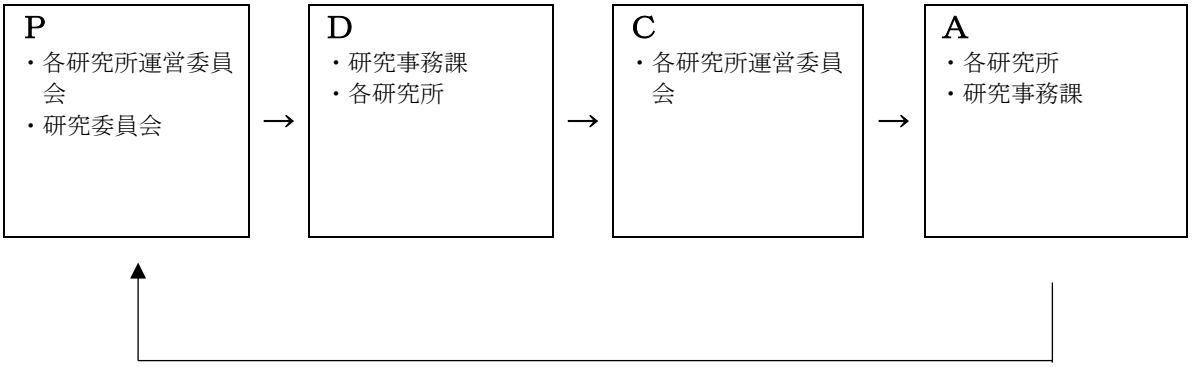
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



【研究事務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教育組織については，大学設置基準やＳＴ比の標準化を踏まえた上で，教員執行部及び学部構想・検討委員会が中心となり，学部の今後のカリキュラム編成や組織再編に向けてのプロセスを検討している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営

委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

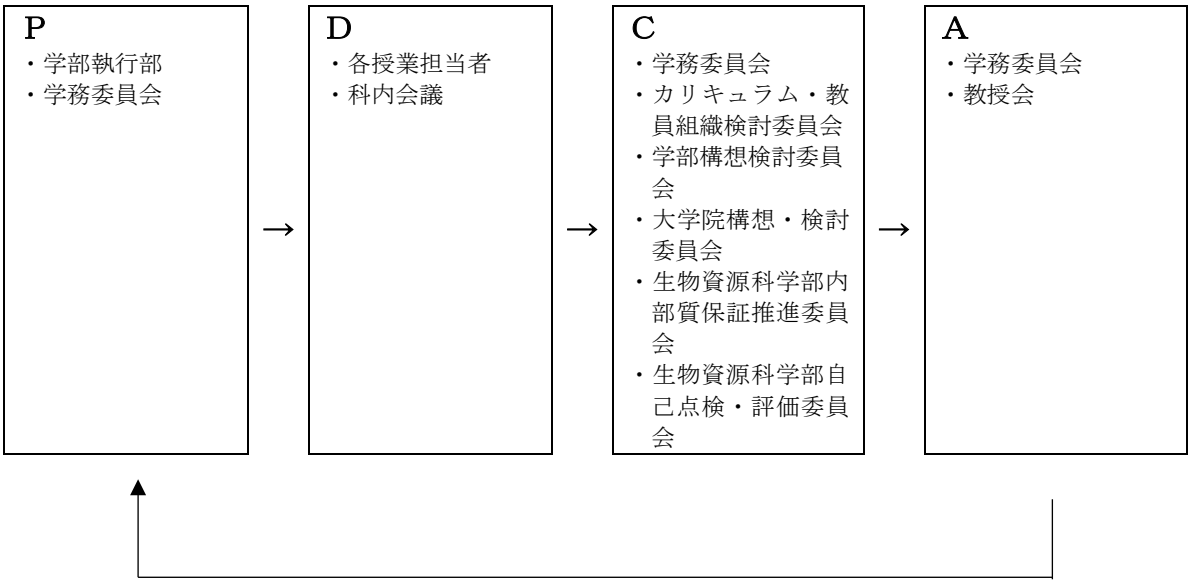
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

【教務】

＜基準・周期＞

教育課程及び教育方法に関する点検・評価は，教育方法については毎年度，教育課程については完成年度を考慮したおおむね７年周期で実施する（令和５年改正済み，令和 10 年度～令和 11 年度改正を検討中）。基準は特に設けていない。

＜体制・プロセス＞

体制は，執行部，学務委員会及びカリキュラム・教員組織検討委員会，学部構想検討委員会，大学院構想・検討委員会の各種検討委員会が中心となりＰＤＣＡを主導する。生物資源科学部内部質保証推進委員会へは，毎年の自己点検結果等の状況報告を行うことで連関する。

＜方法＞

原則全科目で授業評価アンケートを年２回実施し，その結果に基づき各教員が日々の授業改善に努める。

令和５年度の改組後の検証として，執行部，学務委員会及びカリキュラム・教員組織検討委員会等の各種委員会を設置し，検討を開始した（Ｐ）。この方針に基づき，教育現場である各学科等において教育を実践（Ｄ）している。今後の就職状況や学習成果状況に基づき，基礎科目の配置バランスや専門科目の接続性における問題点を学務委員会が洗い出し・検証（Ｃ）し，これらの検討結果を学務委員会及び教授会へ報告・承認（Ａ）することで，令和 10 年度以降の新カリキュラムへの反映に向けた組織的な検討を行っている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜活用と改善事例＞

教育方法の改善においては，原則全科目で毎年度実施する授業評価アンケートの結果を各教員にフィードバックし，各教員が教育方法の改善点を示した上で次年度の講義に反映させることで，日々の教育の質向上に活用している。

教育課程の改善においては，本部主催の報告会を通じて共有される GPS-Academic（外部業者分析）の結果を，執行部，ＩＲ委員会委員及び学科主任間で教学施策検討の参考情報として共有している。また，卒業時調査の結果は学部ホームページで広く情報提供されており，学科での分析用資料として要望があった際は，情報提供もしている。

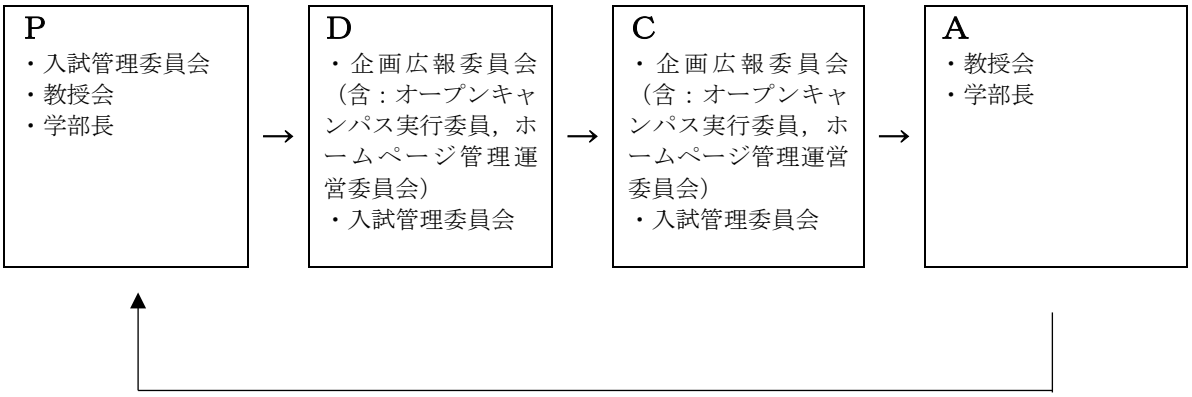
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学生の受け入れに関わる事項の検証は，入試管理委員会が主導する。委員会は，前年度の受験者数・入学者数等の動向や大手進学塾の分析結果を参照し，現状把握と入学者選抜制度の適合性を分析する。この検証結果に基づき，教授会の審議を経て学部長が次年度の制度改定を決定する。

＜改善・向上を図った事例＞

・広報活動の強化として，企画広報委員会は，検証結果を反映し，オープンキャンパスにおいて学生目線での情報発信を強化した。

・学生スタッフの増強など，イベントの工夫を企図した結果，アンケートでは多数の高評価・感想を獲得し，次回の参加者数増に寄与している。

・入試情報の発信として，入試制度の見直しに伴い，年内入試募集枠の増加に対応するため，総合型選抜・学校推薦型選抜の解説を手厚く実施している。

・総合型選抜の「合格体験記」動画を制作し，受験生への積極的な情報発信を図った。

＜今後の対応＞

現在の体制では，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘があるため，今後，入試管理委員会での検証結果を同委員会へ定期的に報告する体制の構築を図る。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

収容定員に対する在籍学生数比率について，生物環境工学科で0.87と低いため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

【教務課】

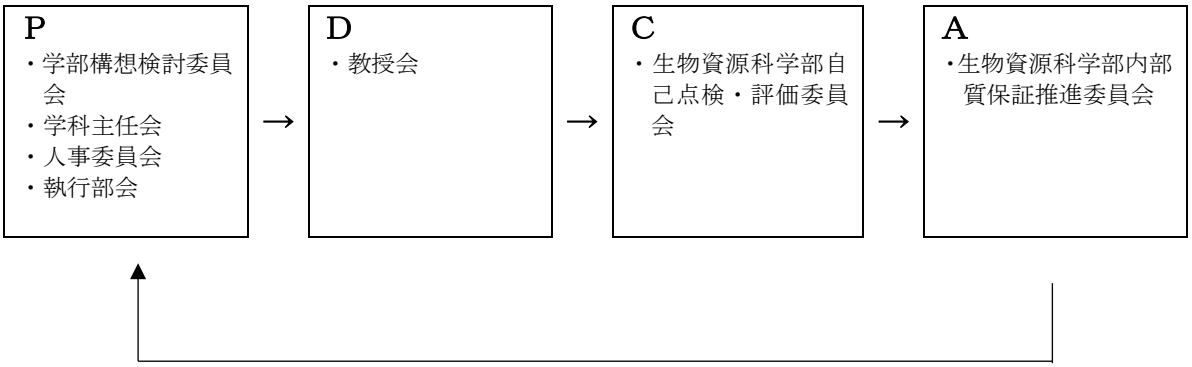
生物環境工学科が旧カリキュラムの最終学年（令和７年度４年次）のみが在籍する状況にあることを踏まえ，入試による定員充足は行わない。本課題への対応は，学科が廃止されるまでの間，在籍学生の維持管理をする。

なお，令和５年度の学部改組において，旧学科となる生物環境工学科の募集停止と，新学科への定員移行を策定（Ｐ）し，計画どおり募集停止を実行（Ｄ）した。充足率0.87という数値については，募集停止に伴う年次進行上の推移として，入試管理委員会において状況把握（Ｃ）している。これらは，卒業判定結果を教授会でも報告（Ａ）されており，本事案が計画的な定員移行に伴う一時的な数値であることを組織的に共有・確認した上で，廃止までの間は在籍学生の修学支援を継続して行うことを決定している。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教員の配置については，これまで「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」及び「教員配置及び教員配置数の上限」を基に，人事委員会にて点検・評価を行ってきたが，人事委員会での協議により，各学科のＳＴ比率（学生数と教員数の比率）を判断基準の一つとして加えることとなり，令和８年度教員の採用人数及び学科配置数に反映される予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

記述上は教職の役割分担と責任の所在が理念的に示されているものの，実際の運用における具体的な成果や改善事例の提示が乏しい点が課題であり，改善が求められる。年齢構成の偏りに対する対応として，具体的な年齢分布の分析や定期的な点検・評価の実施状況，年齢構成に関する中長期的な人事戦略の明文化等については記述が確認できず，今後の改善が求められる。現時点での男女比の具体的な数値や今後の是正に向けた数値目標，又は具体的な改善策につい

ての記述が確認できなかったため，実効性のある多様性確保の取組が行われているかどうかの確認が困難であり，改善が求められる。

【庶務】

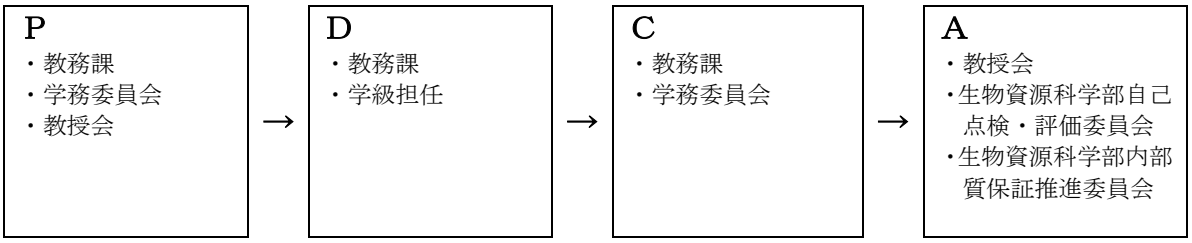
年齢構成の偏りに対する対応の一つとして，学部構想検討委員会からの提言を受け，令和９年度から令和 12 年度までの教員配置計画において若手教員採用促進を考慮することとした。

学部構想・検討委員会から人事委員会へ教員配置等に関する課題についての提言を受け，人事委員会で基本的な方向性を協議した。人事委員会での協議内容に基づき，学科主任会に対して依頼を行い，学科主任からの申請を人事委員会及び執行部会で内容を精査の上，協議した。その後，教授会での審議を経て決定した。

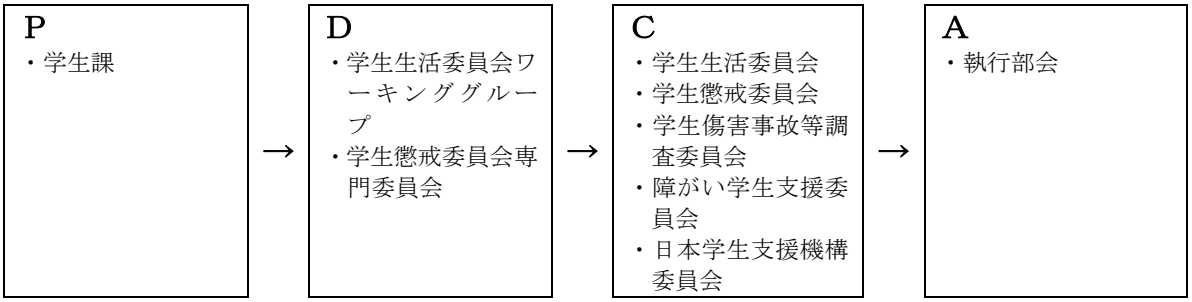
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

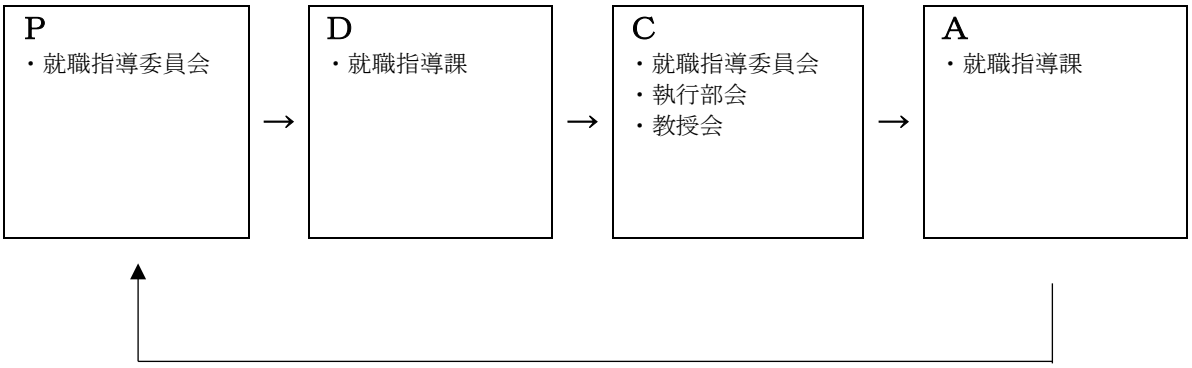
【教務】



【学生】



【就職指導】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学級担任や指導教員は，留年者・休学者に対し面談シートや対応記録を作成し，教職員間で共有することで，指導の適切性を検証している。検証による改善案は，教授会の審議を経て，次期方針に反映させる。

具体的には，実務を担う教務課が課題を抽出し，学務委員会及び教授会において承認された基本方針（P）に基づき，教務課及び学級担任が個別の面談や復学支援を実践（D）している。これらの活動状況については，教務課が面談シート等の記録を整理・集計し，それを受けて学務委員会が実務レベルでの評価（C）を行うことで，支援の適切性を検証している。その結果は，教授会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会・生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告・承認（A）される体制を構築している。この一連のサイクルを通じて，現場の支援実績が組織的な承認を得るとともに，次期の学生支援方針や学級担任制度の改善へと確実につなげられる仕組みとなっている。

＜改善・向上を図った事例＞

学習継続支援の強化としては，留年・休学学生の指導に関し，年度末に当該年度の学級担任が面談シートに所見を記載し，新年度の担任へ指導方針の引継ぎを実施する仕組みが構築されている。また，休学者に対しては，指導教員が復学から卒業までのロードマップを作成し，教職員が連携して復学支援を行う体制を整えている。

なお，今後の検討案としては，ＧＰＡによる修学指導の方法や学級担任制度の見直しについても検討し，改善を図る予定である。

＜今後の対応＞

学生支援に関わる点検・評価について，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘がある。今後は，学務委員会での検証結果を同委員会へ報告する体制の構築を図る。

【学生】

学生担当を学生生活に関わる支援検討する委員会の長として任命し，学生生活委員会，学生懲戒委員会専門委員会，学生傷害事故等調査委員会，障がい学生支援委員会，奨学生選考委員会及び日本学生支援機構委員会を設置し，各支援の検討や情報共有を行っている。

また，各委員会では，学生生活に係る事案について検討を行っている。学生生活委員会では，日々起こる学生生活に関する事案を調査・検討している。学生懲戒委員会専門委員会では，学生の本分に反する行為を行った学生に対して教育的な指導含めた処分案などを検討している。学生傷害事故等調査委員会では，正課・課外活動などで起きた事故などの内容に関して精査・検証し再発防止を含めた対策などを検討している。奨学生選考委員会や日本学生支援機構委員会では，奨学金に関する申請・推薦などを報告・協議・審議し，手続が正しく行われているか確認を行っている。障がい学生支援委員会では，月曜日から金曜日までの週５日，本部派遣カウンセラーと学部採用の臨床心理士を毎日２名体制で配置し，増加傾向にある学生相談に対応している。また，学生支援室の他に独立した障がい学生支援窓口を設け，社会福祉士の有資格者や日本大学インテーカーの資格取得者をコーディネーターとして配置し，障がい学生支援業務に当たっており，随時，学生からの相談を傾聴し，教員と連携を図り，可能な配慮を模索している。

また，令和７年度日本大学インテーカーの資格研修に当該資格未取得の専任職員３名が参加し，全学生課員がインテーカー資格を取得し，学生相談の業務に当たっている。また，相談で得た内容を学生課内で共有整理し，しかるべき委員会内に議題提案し，学生生活環境整備などを検討している。

【就職指導】
就職指導委員長を筆頭に就職指導課で近年の就職動向を見据え，学生からのアンケート結果を基に行事日程を作成している。また，支援行事案を就職指導委員会で承認した上で，教授会後に決裁を取り決定している（支援行事以外も同様)。また，学生の参加状況をみて次年度以降の検討を行っている。特に開催時期と内容を鑑みて令和６年度ではインターンシップと業界研究を統合した内容で講座を開催していたが，令和７年度では切り離し業界研究を全３回とし，インターンシップガイダンスは６月までに全５回のガイダンスを開催し，採用と直結するインターンシップ対応及び就職活動の早期化に対応をした。

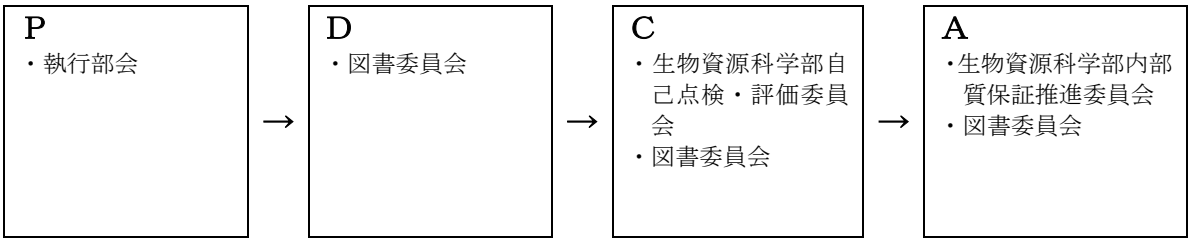
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

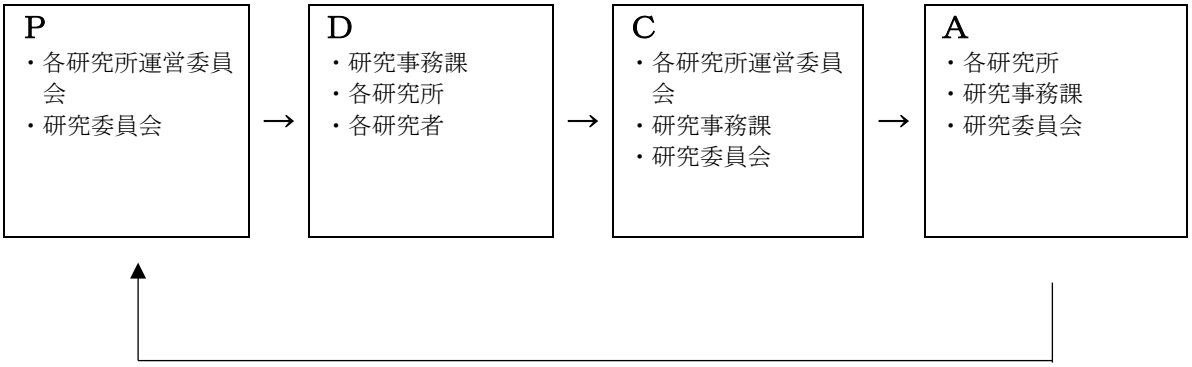
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【図書館】

計画，実行については，執行部，図書委員会が中心となり，図書館利用促進，電子資料，図書の充実等を進めている。特に利用促進については，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，日本大学図書館生物資源科学部分館の魅力を周知している。ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。また，閑散期においても，全学科学生が平均して利用している。その利用者数を月ごとに集計し，図書委員会で報告して評価している。図書の充実については，学科図書委員に最新の推薦本を紹介してもらい，所蔵本の改善を進めている。

【研究事務】
各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。
学部独自の研究費については，その予算配分方法について研究委員会で検討し，各研究者に配分する。各研究者の実績報告や使用上の意見等を基に，研究事務課及び研究委員会で次年度に向けた改善案を検討・策定し，実行している。その他，外部資金の獲得や研究成果の公表等，研究委員会や各研究所運営委員会で企画したイベントに参加した研究者の意見を，各研究所や研究委員会及び研究事務課で検討し，次年度の実施案に反映している。

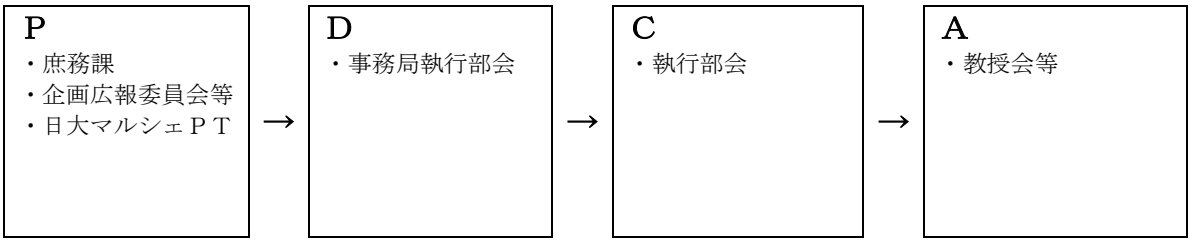
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

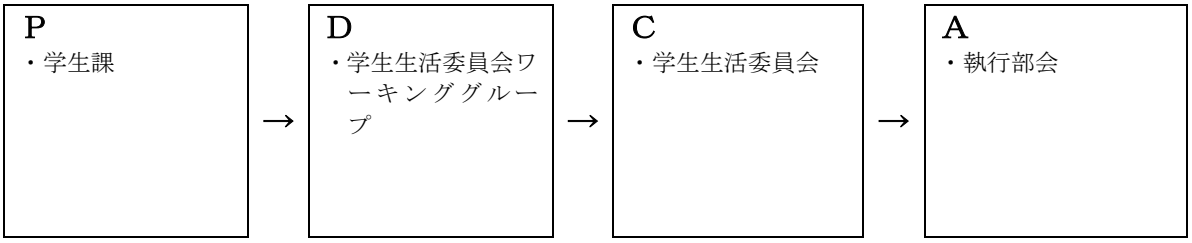
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

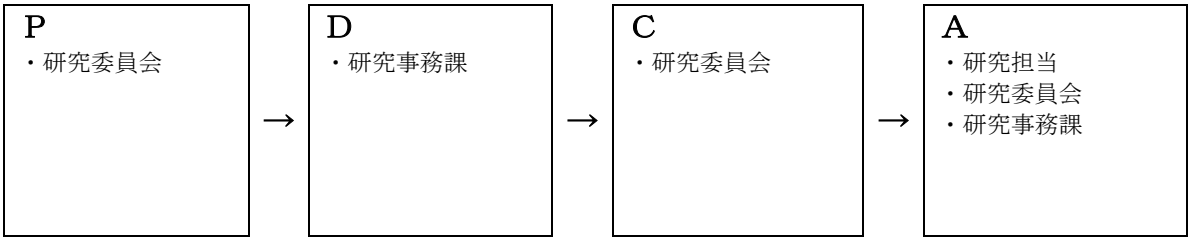
【庶務】



【学生】



【研究事務】





2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】
社会連携・社会貢献に関わる事項としては，日大マルシェＰＴ，庶務課及び企画広報委員会等で立案した企画について事務局執行部等が点検・評価をしている。事例としては，学部特産品の販売や研究室協力型のワークショップを兼ねた日大マルシェの実施等が挙げられる。今後は，各種委員会等で企画された内容を生物資源科学部内部質保証推進委員会でも共有し，学部全体として連携しながら取り組むことで，より高い相乗効果が期待できる組織作りを目指す。

【学生】
行政等からの依頼に対し，学生団体（学部祭実行委員会，学生団体連盟など）から地域貢献（ボランティア活動）の一環として，学生派遣を行っている。ただし，点検・評価（検討・検証）の実施はしていない。

【研究事務】
社会連携・社会貢献については，研究委員会を中心に社会連携・社会貢献の度合い等を検証している。毎年，藤沢市と連携し市民講座を開講しているが，受講者のアンケートを参考に，市民のニーズに応えるとともに，また一般市民や中高生に大学の研究成果を分かりやすく発表できるよう検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

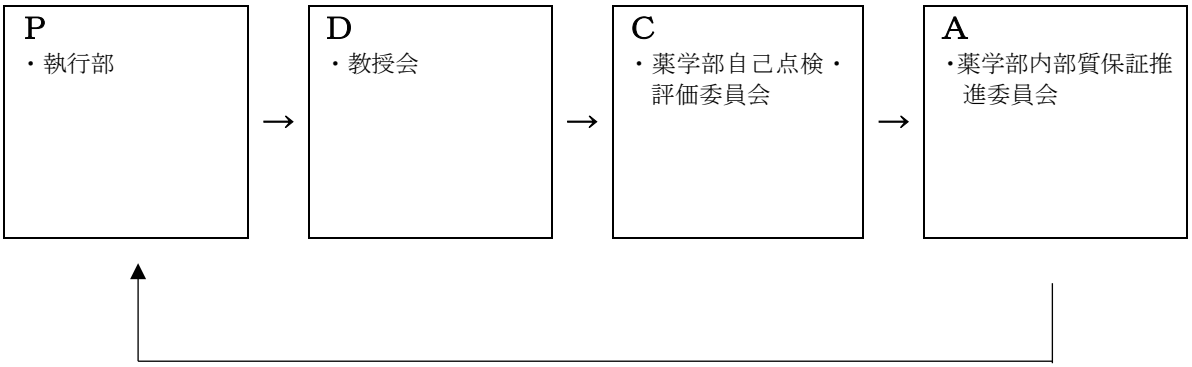
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　薬学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和７年２月 25 日開催の第２回薬学部内部質保証推進委員会において，薬学部自己点検・評価委員会からの報告に基づく提言として５項目を，ＩＲ委員会からの報告については２項目を提言として学部長及び執行部へ提案を行った。

提言の一つである「教育活動の検証」として，ＦＤ委員会では「学生による授業評価アンケート」結果の活用を検討した。従前から実施している「学生による授業評価アンケート」は，教員が自己の授業について客観的な評価を受ける機会を持つことにより，教育内容・方法の改善充実を図り，本学部教育の質的向上に資することを目的としているが，学生自らが授業改善を求める行動であり主体的な学びの動機付けとなる。このアンケート結果を受け，各教員は改善計画内容を「授業改善計画報告書」に記載する。令和６年度からは，授業評価結果の総合得点がＦＤ委員会で定める一定値以上を示した科目は模範講義と捉え，新任教員の研修に利用，一定値以下であった場合は「授業改善計画報告書」に記載された改善計画をＦＤ委員会が確認し，「教員による授業参観」の対象とすることとした。

教員は，これらの結果により自己振り返りを行い，ＦＤ委員会は各教員の改善に向けた取組

を支援する。一方で，授業方法や成績評価については，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める各能力の習得を客観的かつ適切に評価するために，平成 31 年度にアセスメント・ポリシーを制定し，さらに令和６年度からのカリキュラム改正に伴って現行のものへと改正した。しかし，現行のアセスメント・ポリシーでは，学修成果に対する到達度の確認及び評価が各科目レベルにとどまっている。今後は，このアセスメント・ポリシーに基づく学修成果の可視化を更に進め，ＦＤ委員会による各教員の改善結果とＩＲ委員会が検証する成績分布及び各段階でのアセスメント結果を学務委員会において集約・検証する体制の構築を目指している。薬学部自己点検・評価委員会では，それらの情報を精査し，改善が必要な事項を薬学部内部質保証推進委員会に提言する。このように，科目レベルの評価を積み上げ，学位プログラム全体としての有効性を組織的に点検・評価する仕組みを整えることで，教員レベルのＰＤＣＡサイクルを学位プログラムレベルのＰＤＣＡサイクルへと発展させ，本学部の教育活動を継続的に改善・推進していく方針である。また，ＩＲ委員会においては，執行部間の情報共有と速やかなデータ開示を図るため，各委員会が保有するデータを一つの Box に集約し，一元管理に向けた基盤整備を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

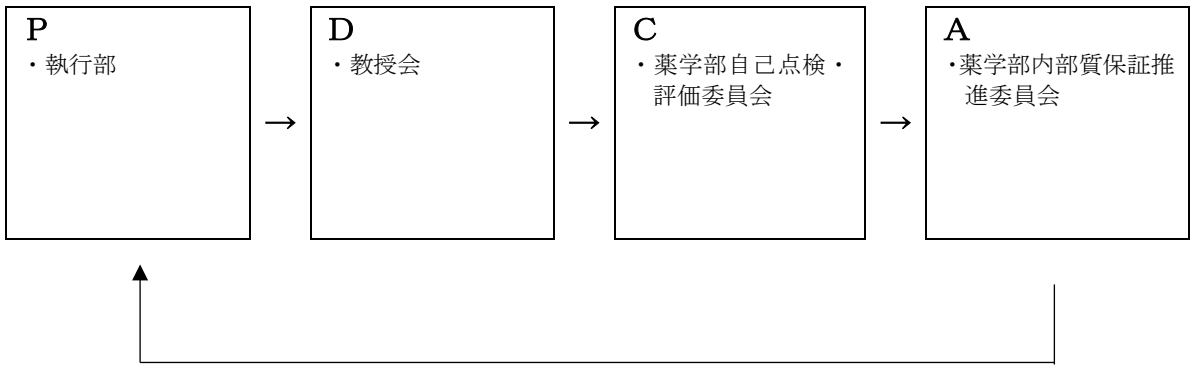
薬学部の内部質保証については，外部委員を委嘱するなど組織体制は整えられており，授業評価や授業参観を通じて教員個人レベルでの定期的な検証も行われ，授業改善計画報告書の提出により改善活動も実施されている。しかしながら，学部全体としての総合的な検証や，より効果的なＰＤＣＡサイクルの循環・活用については確認できない。例えば，薬学部内部質保証推進委員会が主体となり，他の関連委員会と連携しつつ，総合的な点検・評価を実施し，学部全体で改善状況を共有するよう改善が求められる。

基準２設問２に記載のとおり，薬学部内部質保証推進委員会が学部長及び執行部へ提言を行い，学部長からは適宜，各委員会へ諮問書が提出されている。各委員長は，諮問内容を精査し，委員会での議論を経て答申書として学部長に回答を行うとともに，答申内容に基づき各種取組を実行している。

今後は，取組の結果だけでなく，改善指示，検証内容，改善に向けた取組の進捗等，これら一連の状況を所管委員会に属さない教職員も把握できるよう検討する。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部では，教育研究組織の適切性について，学問の動向，社会的要請及び学生の収容定員充足率等の観点から，以下の枠組みで定期的に点検・評価を実施している。薬学部自己点検・評価委員会が，庶務課・教務課・学生課・研究事務課等から提供される上記指標に基づき，現行の１学部１学科（６年制）体制が適切に機能しているかを令和５年度及び令和６年度に点検し，課題を抽出した。点検結果は，薬学部内部質保証推進委員会に報告され，組織編成の妥当性について検証が行われた。令和７年度の外部評価実施に向け，その結果に基づき，組織改編や定員変更が必要と判断された場合は，執行部において具体的な計画を策定する体制を整えており，これらを定期的な自己点検・評価活動の一環として実施している。

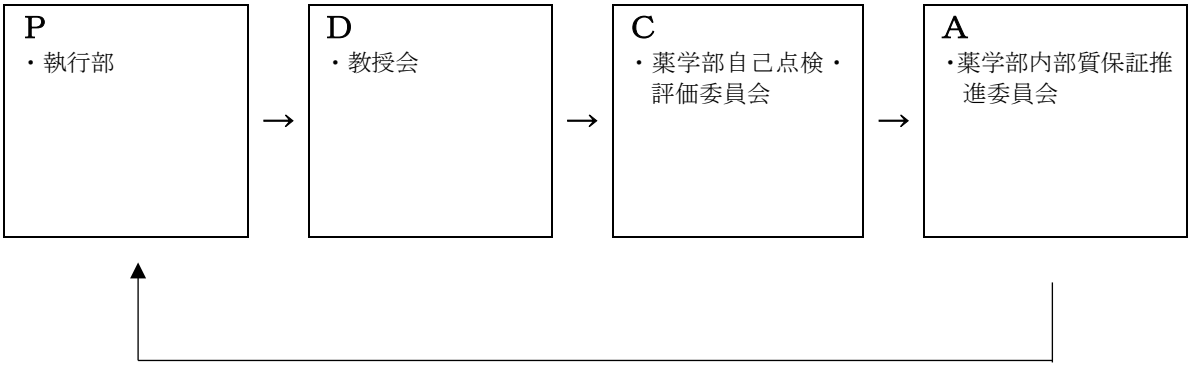
現状において，本学部は薬学を包括的に学び研究することを理念・目的とした単一学部・学科（薬学科）として，安定した教育・研究環境を維持している。令和６年度の自己点検・評価において，定員充足率が良好に推移していること及び本学部の卒業生が地域医療において継続的に求められていることを確認しており，現時点では学科の新設や改組の必要性はないと判断している。組織の大枠に変更はないものの，内部組織の質的向上を図るため，自己点検・評価の結果を受けた薬学部内部質保証推進委員会の提言に基づき，執行部が中心となって研究室間の教員配置の最適化や実務実習支援体制を強化するための組織内での役割分担の見直しを適宜実施しており，教育研究活動の活性化につなげている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

本学部では，教育課程の適切性及び教育方法の有効性について，学部の教育目的や学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の達成状況を検証するため，以下の枠組みで定期的な点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，アセスメント・ポリシーに基づき，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果の達成度を基準とする。そのため，令和７年度にアセスメント・ポリシーの見直しを実施した。具体的には，薬学共用試験ＣＢＴ・ＯＳＣＥの合格率，薬剤師国家試験合格率，各年次のＧＰＡ分布及び学生による授業評価アンケートの結果を主要な指標として設定した。点検の体制は，薬学部自己点検・評価委員会を核とし，実務レベルでのデータ収集・分析を担う学務委員会，ＦＤ委員会及びＩＲ委員会が有機的に連携する体制を構築している。点検のプロセスは，まずＩＲ委員会が，学年末実力試験やＧＰＡや国家試験結果等の相関分析を行い，教育課程の課題を抽出する。薬学部自己点検・評価委員会はこれらを総括し，令和５年度及び令和６年度に「点検・評価報告書」を作成した。これを受け，薬学部内部質保証推進委員会が当該報告書を検証し，教育課程の質向上に向けた具体的な改善を執行部に提言する体制としている。なお，令和７年度は外部評価機関（薬学教育評価機構）による分野別評価を受審した。

現在，ＦＤ委員会及びＩＲ委員会が中心となり，成績分布や授業評価結果，教員による授業参観結果及び卒業判定と国家試験結果の相関等について，データに基づく多角的な検証を開始している。一方で，これらの検証結果に基づく個別授業科目の見直しについては，現状では科目責任者の判断に委ねられている側面が強く，組織的な改善プロセスの確立が今後の重要な課題である。そのため，薬学部内部質保証推進委員会では，学務委員会がＦＤ・ＩＲ委員会の検証データを活用し，教育課程の質向上に向けた具体的な見直し（ＰＤＣＡの実行）を組織的に指導・統括する体制を整えるよう，学部長及び執行部に対して提言を行う。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

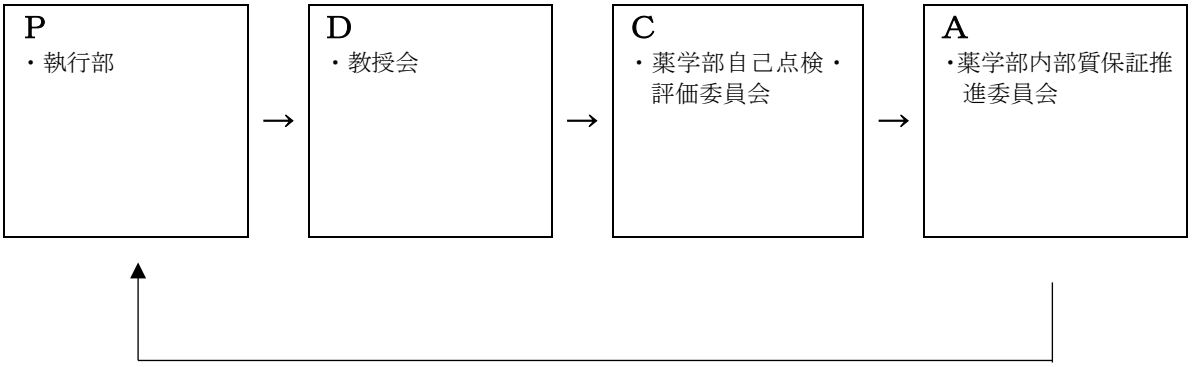
自己点検・評価の結果を教育課程の質向上に結び付けた具体的な事例は，以下のとおりである。ＩＲ委員会によるデータ検証の結果，２年次終了時のＧＰＡ値と４年次の薬学共用試験（ＣＢＴ）の合否に強い相関があることが判明した。これを受け，ＧＰＡ値に基づき早期に成績不振学生を抽出し，クラス担任による個別面談を強化する学修支援体制を構築した。上記検証結果を踏まえ，学修意欲の維持・向上と適切な学力担保を図るため，学務委員会での検討を経て，令和６年度より一定のＧＰＡ値を反映させた進級条件を導入した。令和６年 11 月のＩＲ委員会において，１・２年次の主要科目の成績評価分布を検証した結果，一部科目において到達目標の再調整が必要であると判断された。この結果は授業内容の高度化やアクティブ・ラーニングの導入など，教育方法の改善を促す指導体制を確立するように学務委員会に報告した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

毎年，ＩＲ委員会において解析されたデータとともに，入学試験管理委員会において過去６年間の志願者数・受験者数・合格者数・入学者数を検証し，社会のニーズや受験生の動向を踏まえ，入学者選抜の実施方法や定員の見直しを行っている。

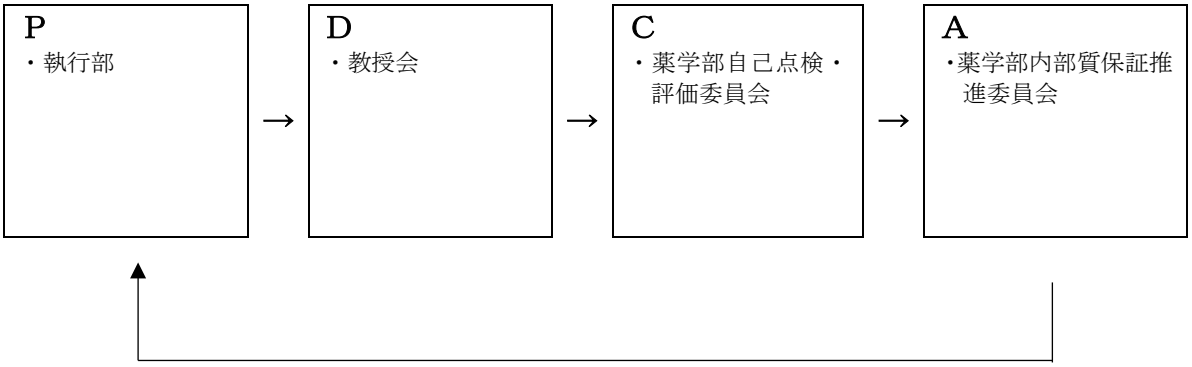
本学部を志望する層の受験生のニーズが年内入試にシフトしているため，令和８年度入学者選抜においては「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜（付属高等学校等）付属特別選抜」を導入し，本学の教育理念と本学部の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に即した意欲ある入学予定者を確保した。同時に，入学者の学力が低下することの無いよう入学前教育の強化を図ることを目的に，年内入試による入学予定者に対し，入学前の学力確認試験を導入した。今後，導入した入試種別を含め入学予定者の学力を定期的に評価し，選抜方法の検討を継続する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部では，教育研究活動を適切に推進するため，毎年「学部等教員組織編成方針」に基づき，以下の体制で教員組織の点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，「教員組織編制方針」への適合性，教員の年齢構成・職位構成のバランス，男女比及び教員一人当たりの学生数等を指標としている。教育研究活動の実施に必要な教員組織の編成方針として「学部等教員組織編制方針」（令和３年 10 月制定）を定め，学部長及び執行部がジェンダーや年齢の偏りにも配慮した教員配置計画を作成している。策定した計画に基づき，適切な教員の配置を行っている。薬学部自己点検・評価委員会は，専任教員の数，専任教員の年齢構成及び男女構成，専任教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）や採用・昇格実績に基づき，組織の適切性を点検・評価し，課題を抽出する。薬学部内部質保証推進委員会が点検・評価結果を検証し，次期教員配置計画や公募方針等について執行部へ改善の提言を行うことで改善・向上に努めている。また，一般社団法人薬学評価機構が実施する分野別評価（第三者評価）を定期的に受審することで，提言された内容を検証し改善を図ることで薬学教育プログラムの質保証に努めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ＴＡに対する体系的な研修が実施されていないことから，教育支援者としての基礎的な能力や倫理的配慮等を学ぶ機会が限定されており，教育の質の担保や学生支援の効果という観点では課題であり，改善が求められる。

公募以外の選考（推薦・招へい・昇格）においては，選考理由や基準の透明性及び選考過程の公正性をどのように担保するかが今後の課題であり，改善が求められる。

年齢構成の偏りに対する配慮は記述されているものの，具体的な年齢分布の把握状況や偏りを是正するための数値的目標・分析に基づく改善施策については言及がなく，今後の課題であり，改善が求められる。

実際の男女比の現状や過去の採用における具体的な対応実績，又は今後の改善方針についての記述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不足しているため，課題であり，改善が求められる。

教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われている点は，組織的な評価体制の構築に向けた第一歩として期待できる。しかし，現時点では具体的な評価方法や基準が確立されておらず，教育活動・研究活動・社会活動等の活性化に直結する仕組みとしては十分に機能していないため，改善が求められる。

令和７年度から，大学院生へのＦＤ活動の一環として，大学院学務委員会所管の下，ＴＡの事前研修として「授業補助業務実施に当たっての日本大学の教育について」の動画視聴及び「ＦＤガイドブック」の確認を実施し，教育支援者としての能力の向上を図った。

教員の採用及び昇任は，「日本大学薬学部教員資格審査基準」及び「日本大学薬学部教員候補者選考申合せ」に基づき行われている。研究実績，専門知識，教育能力等を多面的に審査した後，人事教授会構成員の投票により厳正に選出されている。教授，准教授，講師及び助教の人数のバランスに著しい偏りは見られず，教育研究活動を支える体制が構築されている。准教授以上の採用・昇格に当たっては，選考委員会を設置し，「日本大学薬学部教員資格審査基準」により定められた各分野における審査基準に基づき書類審査を行い，教授会においてプレゼンテーションを実施し選考結果を報告した上で，投票により決定していることから公募以外の選考方法においても，透明性及び公平性は保たれていると考える。

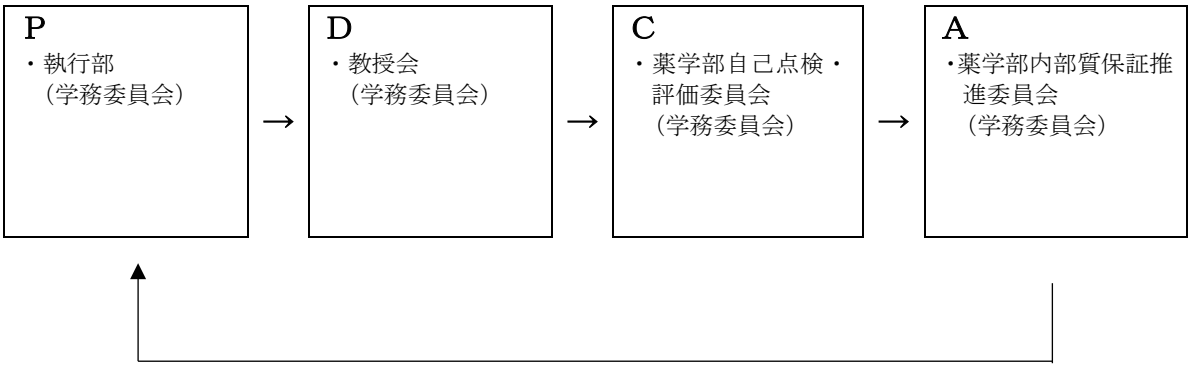
教員の年齢構成については，偏りに配慮した教員配置計画に基づき実施していることから，ほぼ均衡している。女性教員数の割合は教員全体で 20.6％であり，特に教授職では 7.1％にとどまっており，女性教員の絶対数が少ないこともあり難しい課題ではあるが，執行部，教授会，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会が連携し，現状を検証することで，改善に努めたい。

教育活動・研究活動・社会活動等への活性化を促す目的で，教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われ，学部長へと提言した。その後，学部長より改めて，より具体的な評価案の検討が求められており，関係各委員会との情報共有によりその検討を行っている。

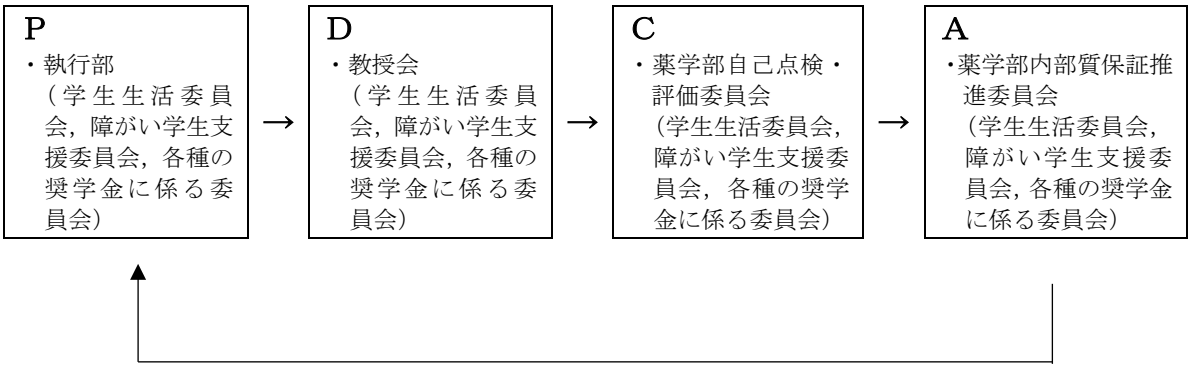
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

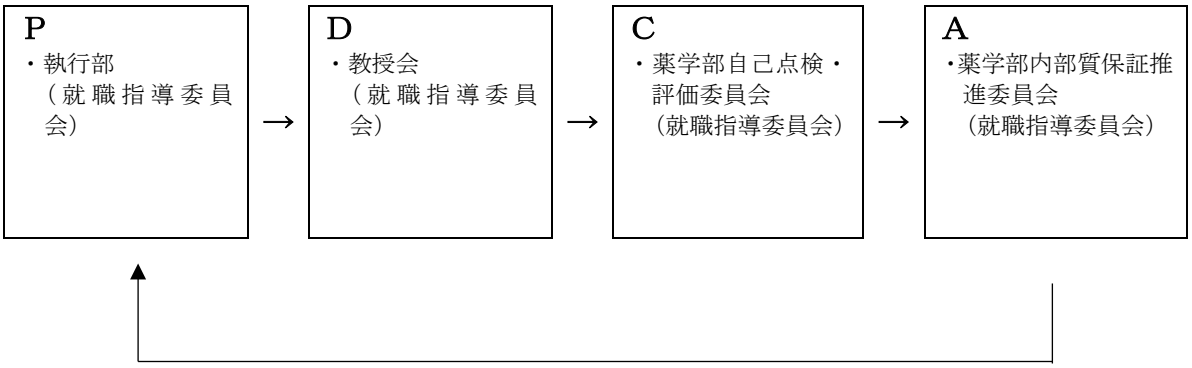
【学習面】



【生活面・経済面】



【進路面】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項については，学習面では学務委員会，生活面・経済面については基本的には総じて学生生活委員会（障がい学生に係る場合は障がい学生支援委員会，奨学金に係る場合は，各種の奨学金に係る委員会），進路面については就職指導委員会等の各委員会が，それぞれの担当分野における学生支援の状況を日常的にモニタリングしている。事案により，上記の各委員会が連携して検討・対応をしている。これら各委員会の活動報告に基づき，薬学部自己点検・評価委員会が，学生支援全体の適切性を総括的に点検し，その結果を薬学部内部質保証推進委員会が検証する体制を整えている。

改善・向上を図った事例では，学生の意見箱による学習面，生活面・経済面及び進路面など多岐にわたる学生の意見を受けて，学生生活委員会で対応等を検討し，学生支援環境を恒常的に改善できるようにしている。

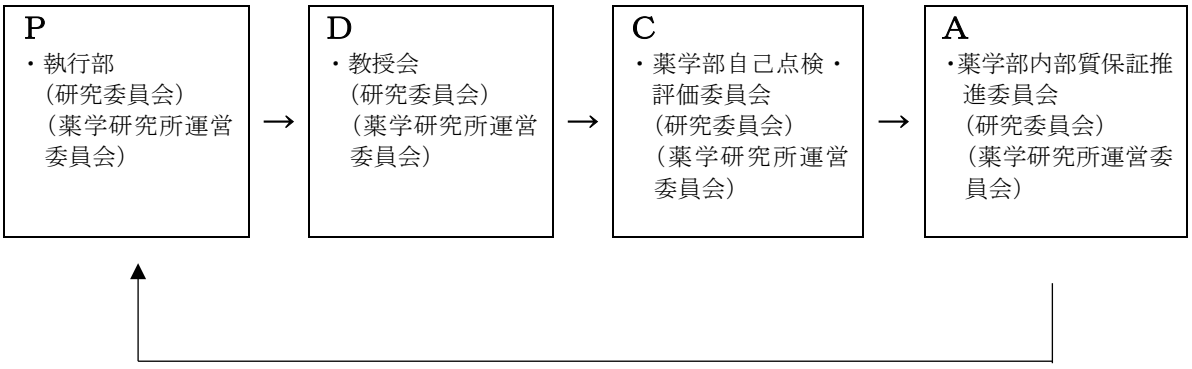
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

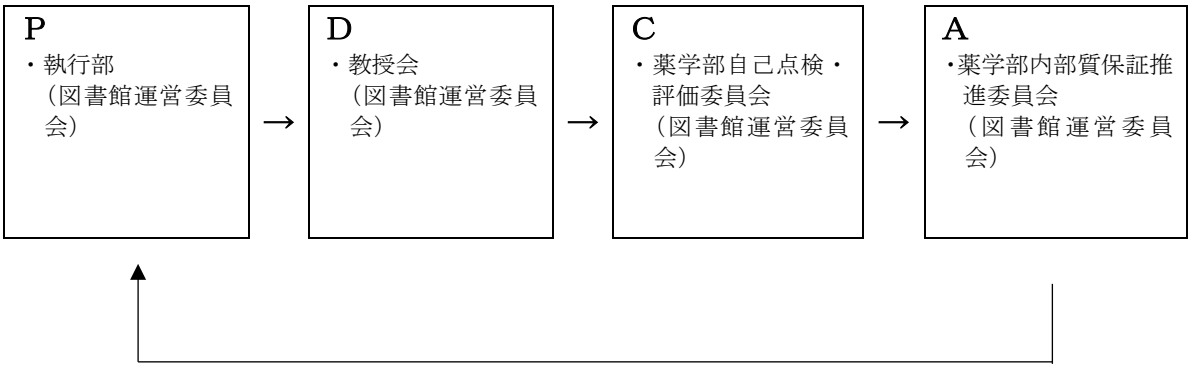
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【施設・設備】



【図書】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究活動を支える施設・設備，図書等の適切性について，薬学部では以下の枠組みにより定期的な点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，「研究設備・機器の稼働率及び老朽化状況」「図書資料の充足率」等の客観的指標に加え，利用者アンケート等による利便性の評価を基準としている。点検の体制は，研究委員会，薬学研究所運営委員会及び図書運営委員会が各担当分野の点検を行い，その結果を薬学部自己点検・評価委員会が総括する。各委員会が

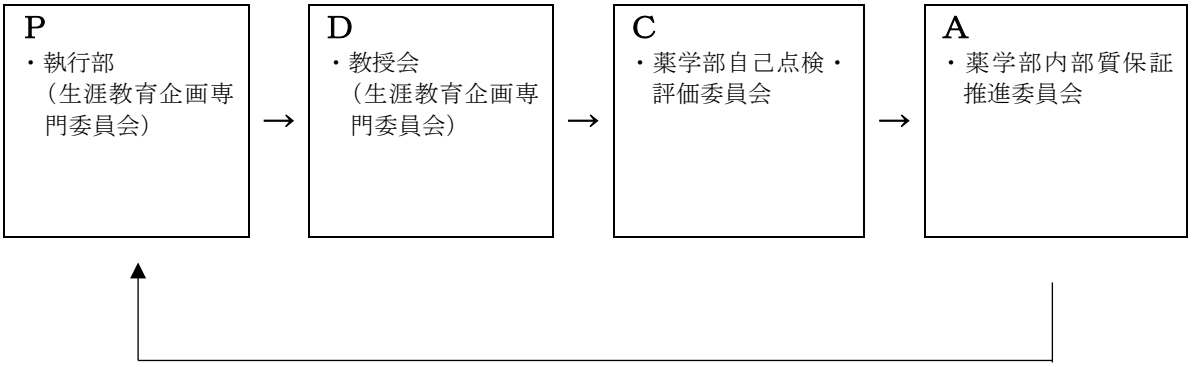
作成した点検結果に基づき，薬学部自己点検・評価委員会が現状と課題を整理した「自己点検・評価報告書」を作成する。これを受け，薬学部内部質保証推進委員会が内容を検証し，改善が必要な事項を執行部に提言する。執行部（各委員会）はこれに基づき次年度の整備計画を策定する。上記枠組みに基づき，研究環境の改善を図った事例として，令和５年度に実施した共同利用研究機器の再整備が挙げられる。令和５年度，研究委員会において共同利用研究機器の利用状況に関する再調査を実施し，利便性を加味した配置換え及び廃棄を決定，教授会での承認を受け整理を実施した。また，研究施設に関しては，高性能な研究装置等を備えた分子薬学研究センター（７号館）における共同利用実験室の利用について，令和６年度から保安・安全を加味した利便性向上のため，研究委員会及び薬学研究所運営委員会が主体となって対応を検討し，教授会における承認の上，一部，開放型の実験室管理及び利用者を限定した開錠管理型の電子錠システム導入に至った。引き続き，今後必要とされる機器の更新や研究施設の利便性向上について，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会との情報共有により，検討及び検証を行い，研究時間の確保や最新の研究活動を維持するよう図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部の社会連携・社会貢献として，地域住民の健康支援を目的とした公開講座を年１回，本学部において開催している。令和７年度の参加者は，41 名（令和７年 10 月 26 日（日）開催）であった。また，薬草を通して薬への関心を深めることを目的とした薬草教室を年２回開催し，外部講師による講演会と併せて薬用植物園の一般公開を行っている。令和７年度の実績は延べ 170 名（第１回[令和７年５月 10 日（土）開催]40 名，第２回[令和７年 10 月 26 日（日）開催]130 名）であった。

このほか，船橋市と共同して地域住民の健康維持・向上を図る講演会を実施している。また，小・中学生を対象とした科学実験教室を船橋市内で開催し，理科教育への興味喚起と将来の科学者育成に寄与している。

これらの取組は，主として広報委員会が中心となって企画し，毎年度演題や開催場所，日程等を検討している。企画ごとに参加人数の推移や参加者属性，参加者アンケート結果などを分析し，次年度以降の内容や広報方法の見直しにつなげることで，継続的な改善・向上を図っている。これらの結果は，教授会に報告され，企画の妥当性や社会的効果について検証が行われている。また，地域への継続的な貢献として，学校薬剤師を務める教員が９名おり，学校環境衛生の維持・向上に加えて，オーバードーズの危険性など薬の適正使用に関する講話も行うことで，児童・生徒及び保護者への啓発に貢献している。

現役の薬剤師に対する貢献としては,「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」を本学部で開催し，会場の提供に加えてタスクフォースとして教員を派遣している。これらは，千葉県薬剤師会，千葉県病院薬剤師会及び関東地区調整機構との共同開催であり，過去３年間では，実務実習指導薬剤師養成ワークショップを令和３年度及び令和６年度に，アドバンストワークショップを令和５年度に本学部で開催し，それぞれ２名の教員をタスクフォースとして派遣することで，実務実習教育の充実に寄与している。

一方，日本大学薬学生涯教育講座は，地域医療を担う薬剤師の質保証向上を目的として，薬剤師認定制度認証機構の生涯研修プロバイダーの認定を受けて実施している。同講座は，５つのプログラムから構成され，一定時間数の受講に応じて認定シールを発行し，認定薬剤師の育成に努めている。これらの取組状況は逐次，生涯教育企画専門委員会に報告され，その後，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会にも情報共有されている。令和６年度の実績では,「最近のトピック」を年４回開催し延べ 146 名,「ファーマシューティカルケアの最前線」を年４回開催し延べ 60 名,「ブラッシュアップセミナー」を年１回開催し 25 名の参加があった（「薬剤師実践セミナー」は中止,「大学院講義受講コース」への参加はなし)。

これら共有された情報を基に，薬学部自己点検・評価委員会において点検し，薬学部内部質保証推進委員会において本学部が生涯教育のプロバイダーを取得している点は評価できるものの，受講者数及び認定薬剤師の発行数が十分とはいえないと評価を行った。そして，令和６年度の薬学部内部質保証推進委員会において，執行部に対して周知方法等の工夫が必要である旨の提言を行った。

その結果を受け，本学部公式ＳＮＳを活用した開催案内の発信など広報活動の充実を図り，受講者数の増加に向けた改善策を講じている。しかし，令和６年４月～12 月の延べ受講者数が 206 名であったのに対し，令和７年４月から 12 月 10 日現在では 166 名にとどまり，昨年度同時期と比較して約２割の減少となっている。以上のことから，現行の取組のみでは十分とはいえず，生涯教育企画専門委員会において，テーマ設定や開催形態，周知方法等について検討を行う計画を立てている。テーマについては，引き続き薬学的及び医学的ニュースやトピックなど社会的関心の高い内容での開催を行う。また，現在は日曜日の午後開催である「ファーマシューティカルケアの最前線」において，一定期間のオンデマンド配信により視聴確認を実施しながら受講者が受講しやすい時間帯での参加を促す予定である。さらに周知方法について，年度内の開催予定を当該年度の 4 月には公開することにより参加者が参加予定を立てやすくするなどの工夫を行い，引き続き検討・改善を進めることが課題である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

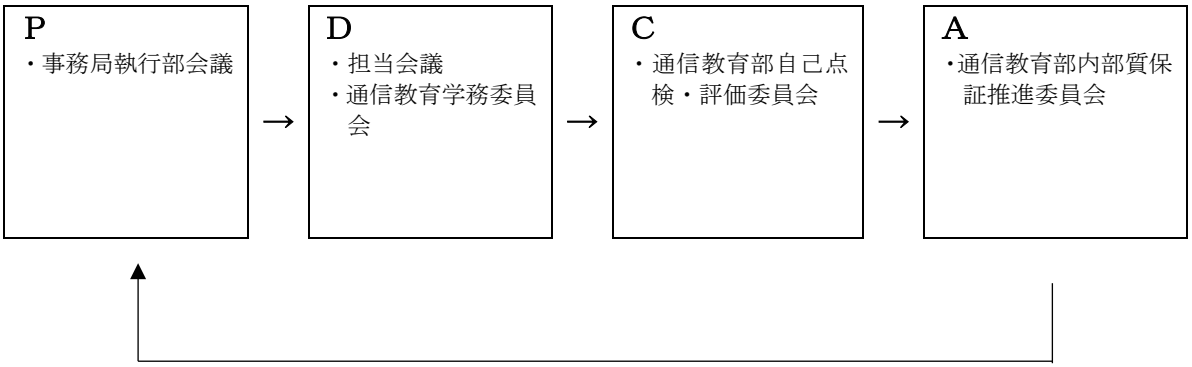
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　通信教育部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部自己点検・評価委員会を設置し，内部質保証システムの適切性について検証し，改善・向上に取り組むこととしている。さらに，ＦＤ活動で実施内容の共有を行っている。

事例として，令和３年度大学評価（認証評価）追評価結果における提言として，法学部（通信教育課程）及び商学部（通信教育課程）の教育課程の編成と実施に関する考えが不明確であるとの指摘を受けたことに伴い，通信教育部内部質保証推進委員会を開催し，法学部（通信教育課程）及び商学部（通信教育課程）の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を改正した。

改正に当たっては，法学部及び商学部の通学課程における本方針の策定完了後，本通信教育部における学務委員会にて内容の共有を図った後，本方針の見直し及び検討を行い，諸会議で承認を得た。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

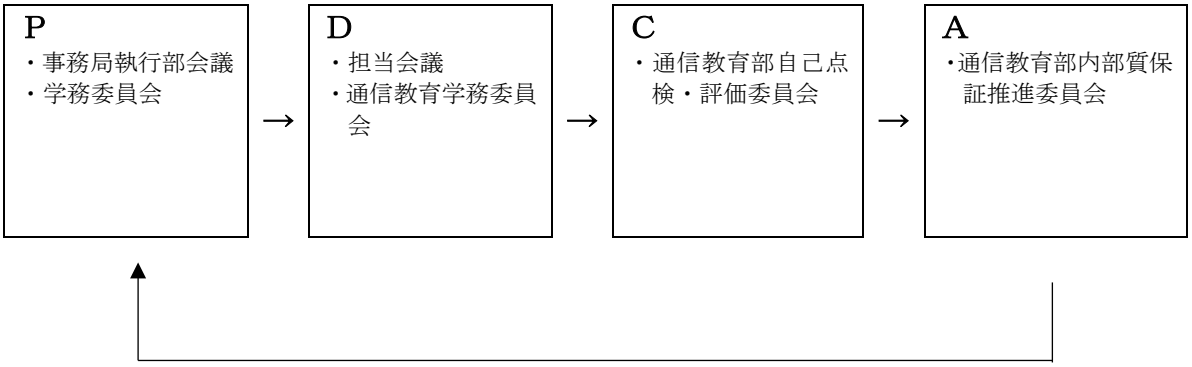
令和６年度大学評価（認証評価）結果，基準２の概評において「収容定員増加に伴う学則変更の際，未充足が発生し遵守事項の指摘を受けた」とされている。この点については，今後，同様の事態が生じないよう，例えば，通信教育部内部質保証推進委員会を中心に，点検・評価時の確認体制を強化するよう改善が求められる。さらに，通信教育部においては，外部評価を定期的に実施していない。外部の専門的視点を取り入れることは，自己点検・評価の客観性や妥当性を高めるために不可欠であることから，例えば，通信教育部内部質保証推進委員会を中心に，外部評価を計画的に実施する仕組みを構築するよう検討することが望まれる。

引き続き諸会議・委員会で検討を行っていく。

事務局執行部会議及び担当会議・通信教育学務委員会において，協議・審議を行い，改善を行っていくとともに，通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会で実施した改善の検証に取り組んでいく。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部では，教育研究組織に係る学科の新設や改組等について，事務局執行部会議及び学務委員会等で計画を立案，その後担当会議及び関係４学部の学部長や学務委員が加わった，教授会に相当する通信教育学務委員会で審議を行っている。

その後，必要に応じて通信教育部自己点検・評価委員会や通信教育部内部質保証推進委員会において検証を行い，組織運営の改善・向上につなげている。

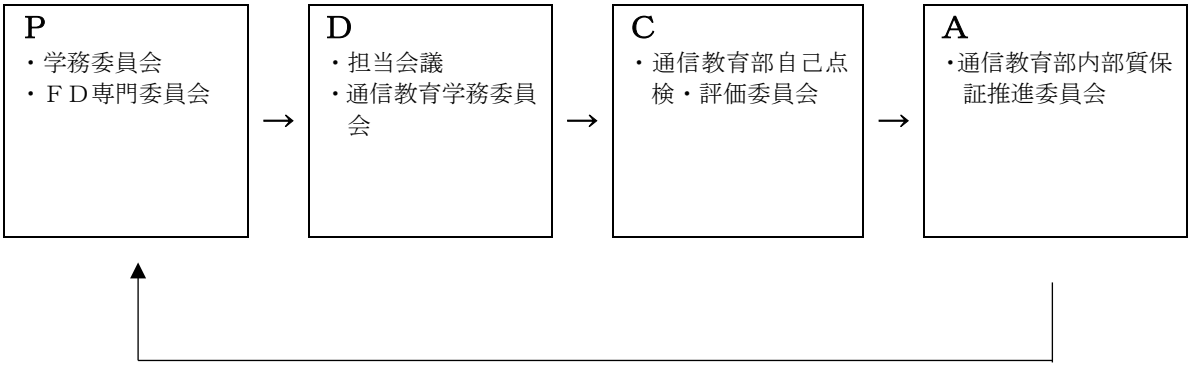
また，教育組織の見直しを直接担う組織ではないが，ＦＤ専門委員会による，授業評価アンケートの内容確認，教員へのフィードバック，シラバスの第三者チェックによる授業内容の適切性の確認及び教員相互の授業参観等により，教育組織の見直しの必要性を検討するための現状及び改善点等の確認を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

通信教育部では，教育課程及びその内容，教育方法の適切性を確保するため，明確な基準と組織体制に基づき，定期的な自己点検・評価を実施している。点検・評価は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性，教育課程の体系性・水準，授業方法の妥当性及び学生の学修効果との整合性を主な基準とし，ＦＤ専門委員会が中心となって実施している。授業評価アンケート，履修状況や成績分布，課題提出状況及びメディア授業の視聴履歴など学修行動データに加え，資格取得状況や進路状況等の情報を活用し，多面的に点検を行っている。

通信教育部では，教育課程及びその内容，教育方法の適切性を確保するため，大学基準協会が定める大学基準，大学通信教育設置基準，本学の内部質保証に関する方針及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を基準として，明確な組織体制の下，定期的な自己点検・評価を実施している。

点検・評価は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性，教育課程の体系性・水準，授業方法の妥当性及び学生の学修成果との整合性を主な観点とし，ＦＤ専門委員会を中心に毎年度実施している。加えて，授業評価アンケートは各スクーリング終了後に実施し，その結果を踏まえた検証を年度内に行っている。

授業評価アンケート結果，履修状況や成績分布，課題提出状況及びメディア授業の視聴履歴等の学修行動データに加え，資格取得状況や進路状況等の情報を活用し，多面的に点検を行っている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の履修状況等から，対面授業の科目重複や受講機会不足が明らかとなったことを受け，スクーリングの開講期を拡充し，社会人・遠隔地学生の学修機会を拡大した。また，履修動向や資格取得状況を踏まえ，一部科目の新設を行うなど，教育課程の体系性強化にも取り組んでいる。

教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たっては，上記１のＰＤＣＡサイクルに基づき取り組んでいる。

まず，Ｐ（計画）段階において，学務委員会及びＦＤ専門委員会が教育課程の点検方針及び重点課題を設定する。

次に，Ｄ（実行）段階として，担当会議及び通信教育学務委員会において授業運営や履修状況の実態把握を行う。

Ｃ（点検・評価）段階では，通信教育部自己点検・評価委員会が各種データを基に検証を行い，課題を整理する。

Ａ（改善）段階において，通信教育部内部質保証推進委員会が改善方針を決定し，各委員会へ改善指示を行う。

例えば，学生の履修状況等の分析から対面授業の科目重複や受講機会不足が課題として把握されたことを受け，Ａ段階の決定に基づきスクーリング開講期の拡充を実施し，社会人・遠隔地学生の学修機会を拡大した。また，履修動向や資格取得状況を踏まえ，一部科目の新設を行い，教育課程の体系性の強化を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，概評で「通信教育部では，履修系統図が教育研究上の目的に紐づいているため，学位授与方針や教育課程の編成・実施方針に基づいた科目系列の配置を明確にすることが望まれる」と指摘されていることから，対応が求められる。

令和６年度全学自己点検・評価結果において，通信教育部の履修系統図と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との対応関係が十分に明確化されていないとの指摘を受け，教育課程の体系性と透明性を一層高める取組を進める。学生にとって，到達目標との関係がより理解しやすくなるよう，シラバス作成時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との関連を必ず記載する項目を新設し，全科目で明確化を図る。さらに，ＦＤ専門委員会・学務委員会を中心に，履修系統図・科目系列・シラバスの点検を定期的に行い，教育課程の編成と運用が学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）と一貫して機能するようＰＤＣＡサイクルを強化する。

また，これらを踏まえ，Ｐ（計画）段階として，学務委員会及びＦＤ専門委員会において，履修系統図と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）との対応関係を明確化する方針を策定した。

Ｄ（実行）段階では，担当会議及び通信教育学務委員会において，履修系統図の再整理及びシラバスへの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）・教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）関連項目の明示化を進めている。

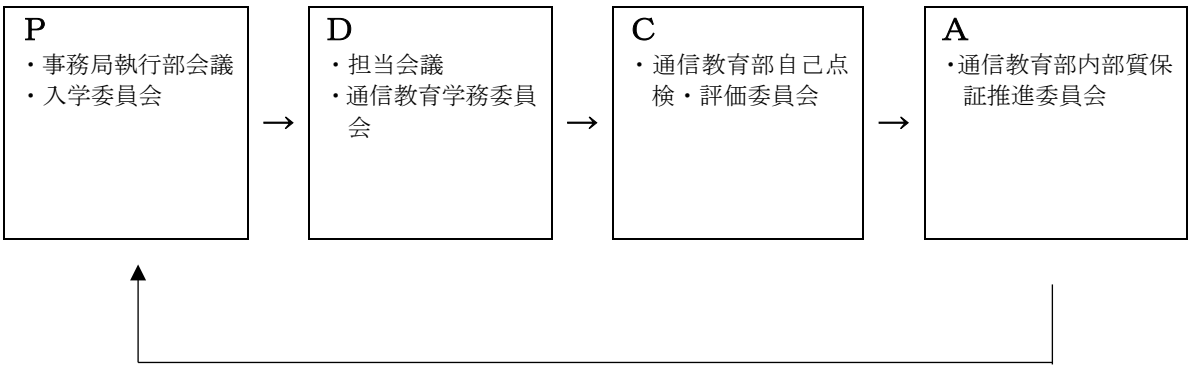
Ｃ（点検・評価）段階においては，通信教育部自己点検・評価委員会が整理状況を確認し，対応関係の妥当性を検証する。

Ａ（改善）段階では，通信教育部内部質保証推進委員会が検証結果を踏まえ，履修系統図の改正及び公表方法の改善について最終的な改善方針を決定する。

このように，履修系統図・科目系列・シラバスの整合性をＰＤＣＡサイクルに基づき段階的に整理し，教育課程の体系性及び透明性の向上を図る。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部では，入学試験を実施していない分，出願書類を入学課職員（３名）で確認後，専任教員（１名）により書類審査を行っている。書類等に不備や問題がない場合は，学長からの入学許可を得るために，担当会議及び通信教育学務委員会で入学区分ごとの入学者受入れについて審議した上で，本部内申を行っている。

しかし，出願書類の１つである「志望理由書」については，出願方法として Web 出願が導入された現在も，手書きで記入することを必須としているため，志願者の字の乱れや書かれた志望理由に個人の思想や偏見などが散見する場合，学務担当による審査の上，再提出を義務付けている。さらに，再提出された志望理由書の内容に改善が見られず，本部の定める学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に反する場合は，学務担当の判断により入学委員会や事務局執行部会議に上程し，担当・通信教育学務委員会まで審議することで，最終的な入学の許可又は不許可を決定している。

上記のように学生の受入れに関しては，入学委員会及び事務局執行部会議が中心となり，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づいた学生募集計画や受入れ基準の策定（Plan）を行っている。これに基づき，実際の運用（Do）としては，入学課職員及び専任教員による書類審査を経て，担当会議及び通信教育学務委員会において入学区分ごとの審議と学長への内申を実施している。

この運用実態に対し，通信教育部自己点検・評価委員会が入学者推移のデータや編入学生の

単位認定の適格性及び配慮を要する学生への対応状況などを定期的に点検・検証（Check）を行い，その点検結果を受け，通信教育部内部質保証推進委員会において，学生募集活動の有効性や入学審査体制の妥当性を評価し，具体的な改善策の策定（Action）を行う。

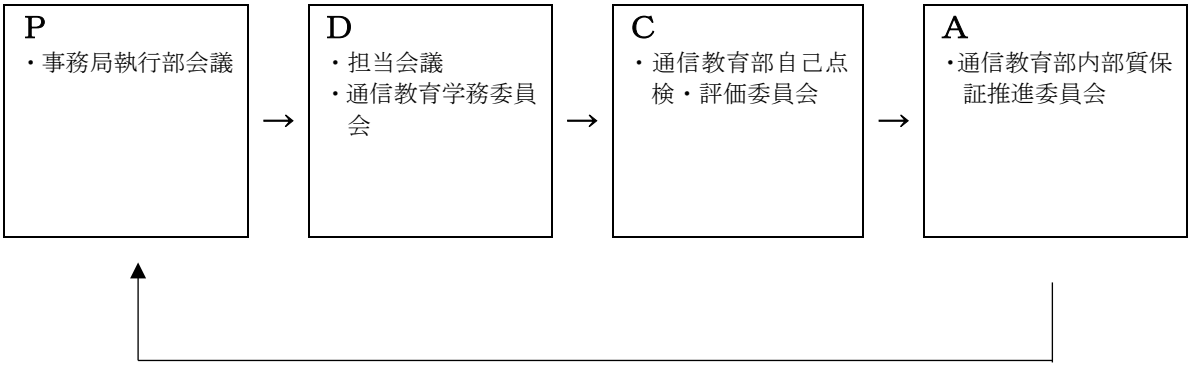
この評価結果と改善案は，再び入学委員会や事務局執行部会議へとフィードバックされることで，次年度の学生募集に対する戦略や入学審査基準の更新に活用するとともに，各組織がそれぞれの役割において改善・向上に取り組むことで，学生の受入れに関するＰＤＣＡサイクルを自律的に機能させ，効果的な入学者獲得と教育の質保証へとつなげている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織の適切性の検証は，自己点検・評価の対象となるが，関係４学部の学部長や学務委員が加わった，教授会に相当する通信教育学務委員会をはじめ，担当会議や学務委員会で検証している。また，前述のとおり，学務委員会の基にＦＤ専門委員会を組織し，教学活動のＰＤＣＡサイクルの一環として，報告，検証及び改善を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述では教職間の連携方法や協働の具体的成果（外部資金の採択実績，成果発信の改善例等）についての記述が確認できなかったため，改善が求められる。

外部からの幅広い人材登用や多様性確保の観点では，公募の実施や候補者選定プロセスの透明性確保が課題であり，改善が求められる。

年齢構成の具体的な数値や分布状況及び過去の採用実績の傾向が示されておらず，取組の効果や改善状況を定量的に検証することは難しいため，課題であり，改善が求められる。

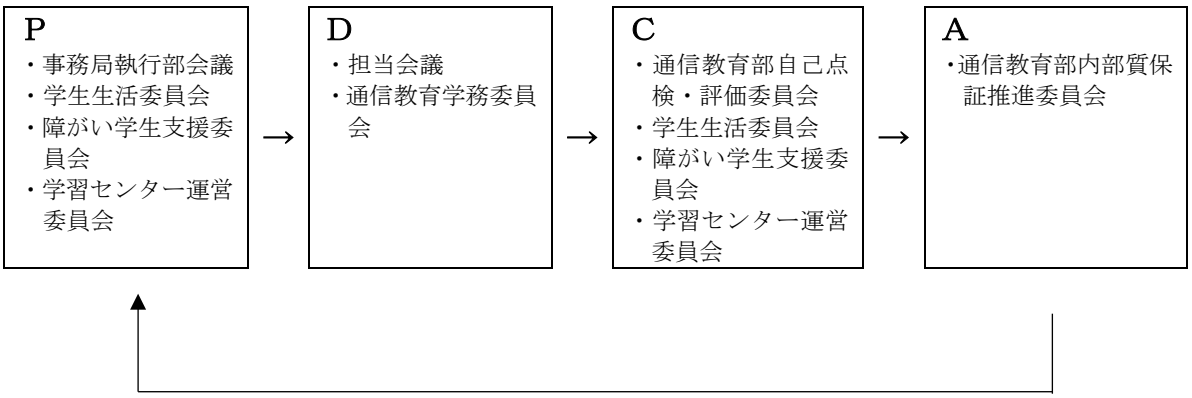
具体的な男女比の現状データや過去の採用実績，偏り是正に向けた具体的手段についての記

述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不十分であるため，改善が求められる。

通信教育部における教員人事に当たっては関係４学部との連携が必須となることから，関係４学部に依頼する際，通信教育部内の専任教員のバランス等を考慮した人材を推薦いただくよう，より関係４学部と連携を密に図っていく。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

＜合理的配慮対応＞

学修の支援を含む学生支援については，令和７年２月に「学生・学修支援センター」を新設したことで，学生支援体制（学修相談，生活相談等）の充実を図っている。これにより，従前入学課が行っていた学修センター業務と学生課で行っている学生相談，学生支援室を一本化することが可能となり，目的や年齢の異なる学生，居住地や多様な生活スタイルを持つ学生に対し，それぞれのニーズに合わせた学生支援体制が改善された。

障がい学生支援委員会において，合理的配慮希望学生に対する支援内容を決定し，学生生活委員会においても，当該決定内容やその他の支援・対応が必要な学生の情報を共有することに加え，非常勤講師も含めた全教員にも共通認識を持ってもらうため，年々増加している配慮申請数や配慮相談数等の各種情報を講師控室にグラフとして掲出し，可視化することで更なる学生支援体制の充実を図っている。

また，学習センター運営委員会においては，９年ぶりとなる指導員研修会実施の検討がなされ，同年３月に実現することができたことにより，教職員との連携を深めるなどの改善がされた。

引き続き，各課，学生・学修支援センター，学習センターが連携することで，多様な背景を持つ学生や複雑な学修形態等により学修継続が困難な学生を含めた全ての学生に対し「教育の質の保証」及び「学修を受ける権利の確保」を行い，安定して授業を受けることができるよう環境を整えると同時に，社会や学生の生活環境の変化に伴う学生支援体制の強化を行うことで，「学生・学修支援センター」を中心に，更なる志願者数や卒業生数の増加，退学者数の削減を

目指し，学事，注意喚起，個別相談の実施情報等を発信しながら，窓口やオンライン，メール等による相談体制の充実を図る。

＜学生団体活動・学生イベント＞

学生団体活動や学生イベントに関する学生支援については，学生生活委員会，事務局執行部会議において，学生課内で点検した学生団体等が企画した活動や交流会及び部祭等のイベントに関する内容について検討をしている。その際，アンケート調査を実施するなど改善点を洗い出し，次年度に向けた企画・運営に活用している。

一例として，通信教育部祭（集夏祭）の実施については，学修環境の特殊性からも学生主体での運営が難しく，学生・職員のアンケート調査の結果，令和８年度から学生代表と各課職員にてワーキンググループを発足し，学生や教職員の負担を軽減するとともに，部祭実行委員を支える体制づくりに変更するなどの改善を行う予定である。

Ｐに記載の諸会議・委員会にて学生支援に係る事項の計画を行い，Ｄに記載の諸会議・委員会にて審議承認し，実施している。実施した施策について，通信教育部自己点検・評価委員会で検証（Check）及び通信教育部内部質保証推進委員会で改善（Action）に取り組んでいるが，通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会だけではなく，複合的な検証を行うために，学生生活委員会・障がい学生支援委員会・学習センター運営委員会においても検証を行う諸会議・委員会として機能を果たしている（Ｃに記載）。

学修の支援を含む学生支援については，令和７年２月に「学生・学修支援センター」を新設したことで，学生支援体制（学修相談，生活相談等）の充実を図っている。これにより，従前入学課が行っていた学修センター業務と学生課で行っている学生相談，学生支援室を一本化することが可能となり，目的や年齢の異なる学生，居住地や多様な生活スタイルを持つ学生に対し，それぞれのニーズに合わせた学生支援体制が改善された。また，学習センター運営委員会においては，９年ぶりとなる指導員研修会実施の検討がなされ，同年３月に実現することができたことにより，教職員と学習センター指導員との連携を深めるなどの改善がされた。また，現在は仮想空間（メタバース）等も試験的に導入し，学生対応の幅を拡大している。このような環境整備も同時に行っている。

＜合理的配慮対応＞

障がい学生支援委員会において，合理的配慮希望学生に対する支援内容を決定し，学生生活委員会においても，当該決定内容やその他の支援・対応が必要な学生の情報を共有することに加え，非常勤講師も含めた全教員にも共通認識を持ってもらうため，年々増加している配慮申請数や配慮相談数等の各種情報を講師控室にグラフとして掲出し，可視化することで更なる学生支援体制の充実を図っている。

今後も，各課，学生・学修支援センター及び学習センターが連携することで，多様な背景を持つ学生や複雑な学修形態等により学修継続が困難な学生を含めた全ての学生に対し「教育の質の保証」及び「学修を受ける権利の確保」を行い，安定して授業を受けることができるよう環境を整えると同時に，社会や学生の生活環境の変化に伴う学生支援体制の強化を行うことで，「学生・学修支援センター」を中心に，更なる志願者数や卒業生数の増加，退学者数の削減を目指し，学事，注意喚起及び個別相談の実施情報等を発信しながら，窓口やオンライン，メール等による相談体制の充実を図る。

＜学生団体活動・学生イベント＞

学生団体活動や学生イベントに関する学生支援については，学生生活委員会及び事務局執行部会議において，学生課内で点検した学生団体等が企画した活動や交流会，部祭等のイベントに関する内容について検討をしている。その際，アンケート調査を実施するなど改善点を洗い出し，次年度に向けた企画・運営に活用している。

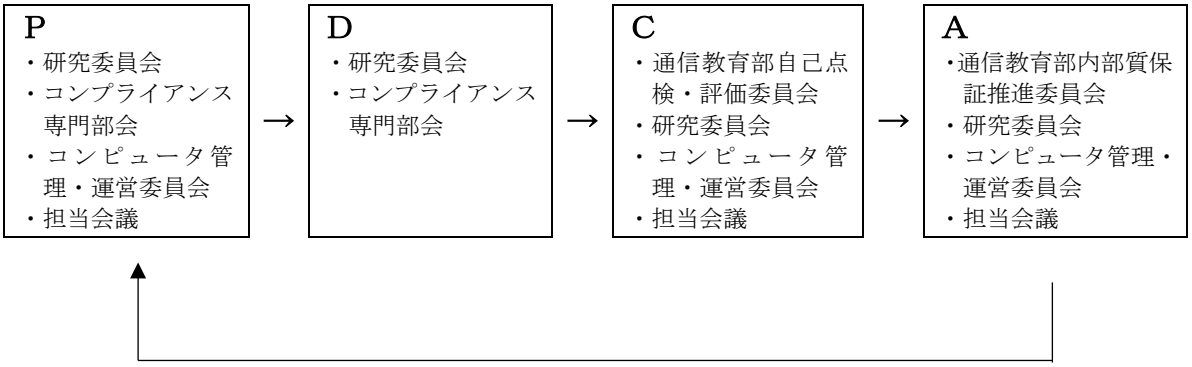
一例として，通信教育部祭（集夏祭）の実施については，学修環境の特殊性からも学生主体での運営が難しく，学生・職員のアンケート調査の結果，令和８年度から学生代表と各課職員にてワーキンググループを発足し，学生や教職員の負担を軽減するとともに部祭実行委員を支える体制づくりに変更するなどの改善を行う予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭ 研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関わる事項については，「教育研究等環境整備に関する方針」に基づき，研究委員会，研究委員会コンプライアンス専門部会，コンピュータ管理・運営委員会及び担当会議等が，随時，審議・計画・実行・点検を行っている。また，定期的に，通信教育部自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に通信教育部内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

これまで通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，各委員会組織が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，コンピュータ管理・運営委員会では，各組織の共用パソコンの利用状況に鑑み，適切な情報管理及び情報倫理の遵守の視点から，個人情報保護や事故防止対策を強化する必要があると判断し，共用ＰＣに環境復元ソフト「V-Recover」を導入し，セキュリティを強化した。

また，研究委員会では，従来の個人研究費による研究活動支援に加えて，更なる支援の可能性を検討し，その結果，「通信教育部教育研究特別奨励金」を創設して，研究活動の充実を図った。

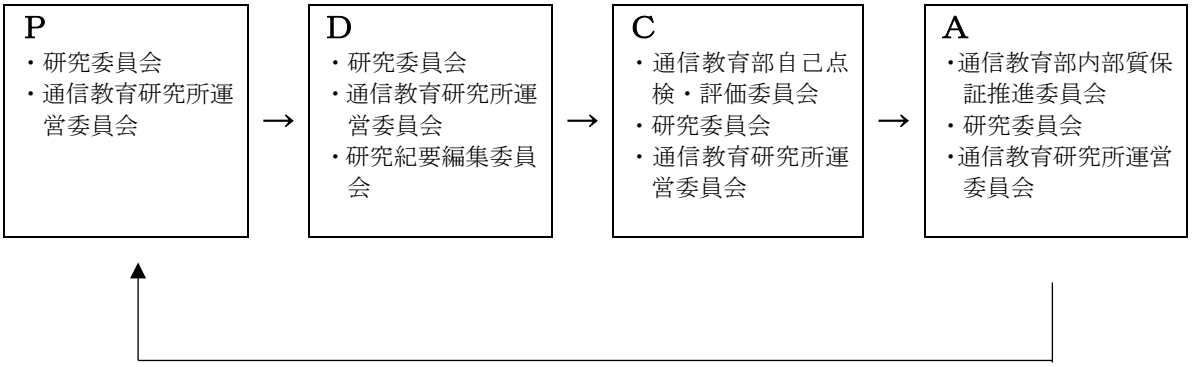
このように，各組織が計画と実行を繰り返しながら，定期的に点検・評価を行い，継続的な改善と向上に努めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献活動の一環として，大学の教育・研究成果を広く社会に開放し，地域社会の生涯学習の振興に貢献することを目的として，通信教育部研究紀要を年に１回発行し，ホームページに広く公開している。

この発行に当たっては，通信教育研究所運営委員会による計画，研究紀要編集委員会による原稿取りまとめ及び編集作業を行い，通信教育研究所運営委員会では完成原稿の点検・評価，必要に応じて研究紀要の執筆要領等の各要領の見直し，改善等を行っている。

また，定期的に，通信教育部自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に通信教育部内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

なお，これまで通信教育部自己点検・評価委員会及び通信教育部内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，通信教育研究所運営委員会が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，通信教育研究所運営委員会では，令和６年度に執筆要領等の各要領を点検し，見直しを行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

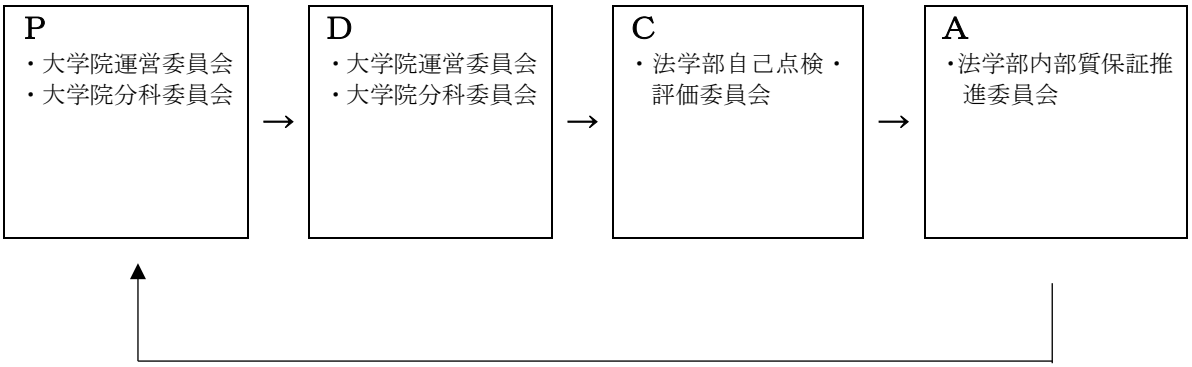
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院法学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価委員会からの指示に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，法学部，法学研究科及び新聞学研究科の点検を行い，法学部内部質保証推進委員会に点検結果の報告を行う。法学部内部質保証推進委員会は必要に応じて，各委員会に改善等の指示を行い，改善結果は執行部会議，大学院運営委員会及び大学院分科委員会の議を経て，ポリシー（学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等），規程改正及び教育組織等の見直しをするなどして課題の改善に取り組んでいる。

法学部内部質保証推進委員会からの検討・指示を経て，大学院ＦＤ委員会が中心となり見直しを行い，令和７年度にアドミッション・ポリシーの一部改正が行われた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

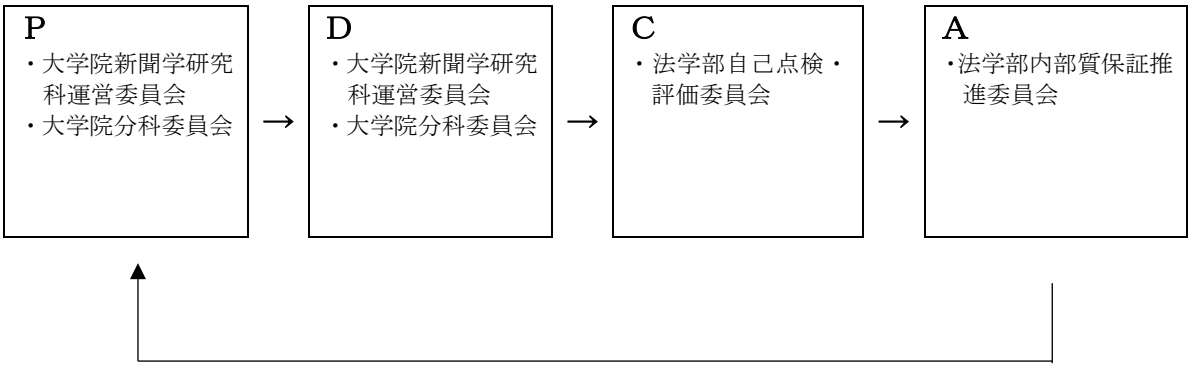
内部質保証体制は構築しているものの，令和６年度大学評価（認証評価）結果において付された提言のとおり，授与する学位ごとに学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を設定していない研究科・課程がある。また，定期的な点検・評価は実施しているものの，その結果の活用が限定的であり，三つの方針やカリキュラム構成の見直しに十分に反映されていないことから，改善が求められる。

学術の学位を授与した実績がないことや授与する体制が整っていないため，大学院ＦＤ委員会が中心となり，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）から，学術の学位に関する記載を削除することを検討し，大学院分科委員会において審議し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を改正した。

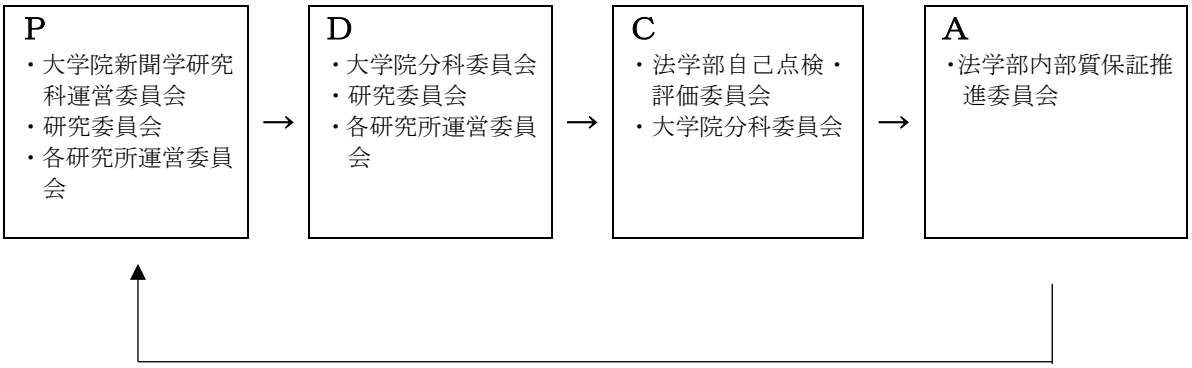
基準３ 教育研究組織

1　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【専攻の改組等】



【研究所の新設】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及ぶ関係部署等に改善の指示を行い，研究所の新設について，今後の社会情勢の変化などの推移を注視しつつ，社会のニーズに幅広く応えることができるよう，執行部会議，教

授会等にて検討していく。事例として，平成 19 年に新聞学研究所及び国際知的財産研究所を新設した。

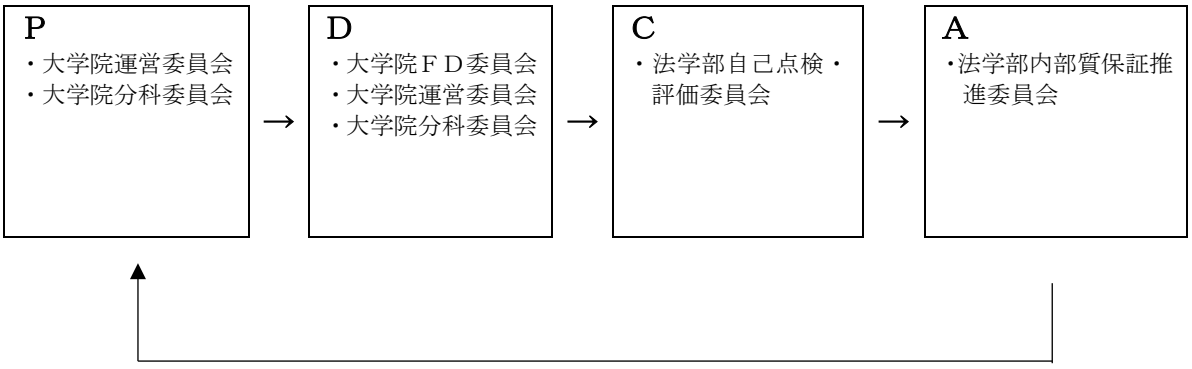
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育課程及びその内容，教育方法等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

令和６年度カリキュラム改正の際に，大学院ＦＤ委員会が中心となり，令和３年度に実施したカリキュラムの点検・評価として，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）について，日本大学教育憲章で示される８つの能力（８項目）に対応する見直しを踏まえ，博士前期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）について，科目ごとに振り分けたものを基に，再度点検を行った。

また，令和６年度に大学院ＦＤ委員会が中心となり実施した外部評価では，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準拠して，点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会に報告をした。

教育課程の改正が必要な場合には，大学院運営委員会が中心となって，改定案を協議し，大学院分科委員会の議を経て，これを実行している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

自己点検・評価の結果に基づき，令和６年度にカリキュラム改正をし，大学院法学研究科の博士後期課程にコースワーク科目の設置を行った。

また，外部評価の指摘により，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）において，「求められる学修歴について記載が望まれる」，「入学者に求める資質や能力と入学者選抜の方法等の関係性について記載がない」との意見が付されたことを受けて，大学院ＦＤ委員会，大学院運営委員会及び大学院分科委員会において，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しを行い，一部改正をした。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

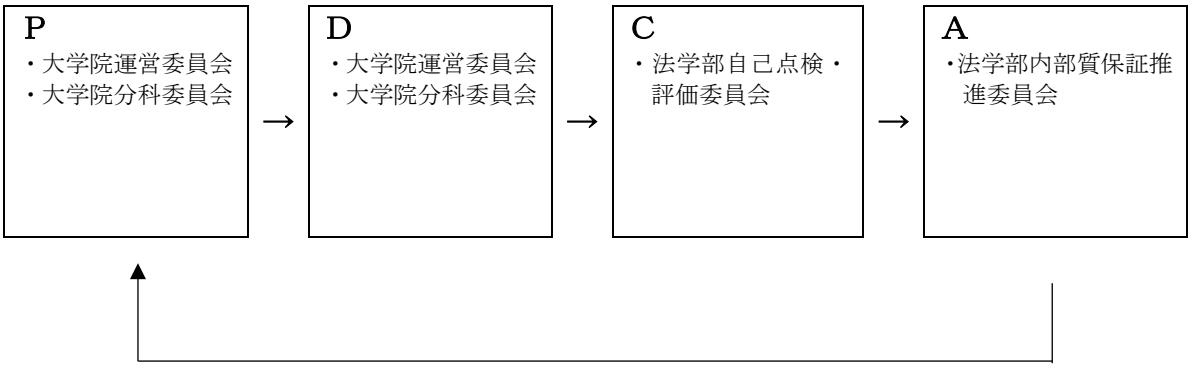
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「学位授与方針について，法学研究科博士前期課程，同博士後期課程では，授与する学位ごとに同方針を設定していない。また，教育課程の編成・実施方針について，法学研究科博士前期課程，同博士後期課程では，授与する学位ごとに同方針を設定していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

学術の学位を授与した実績がないことや授与する体制が整っていないため，大学院ＦＤ委員会が中心となり，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）から，学術の学位に関する記載を削除することを検討し，大学院分科委員会において審議し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を改正した。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【収容定員等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，大学院運営委員会及び大学院分科委員会が，学生の受け入れに関わる事項について，改善・向上に向けて取り組んでいる。入学試験実施の都度，合格判定等の原案作成から合格予定者決定に至るまでを審議している。

改善・向上を図った事例として，博士後期課程入学試験に不合格となった受験者が，従前同日に実施していた研究生入学試験や科目等履修生入学試験の受験を可能とするため試験期日の調整に関する要望が大学院運営委員会で挙がったことから，大学院分科委員会において審議して，試験期日について調整を行った。

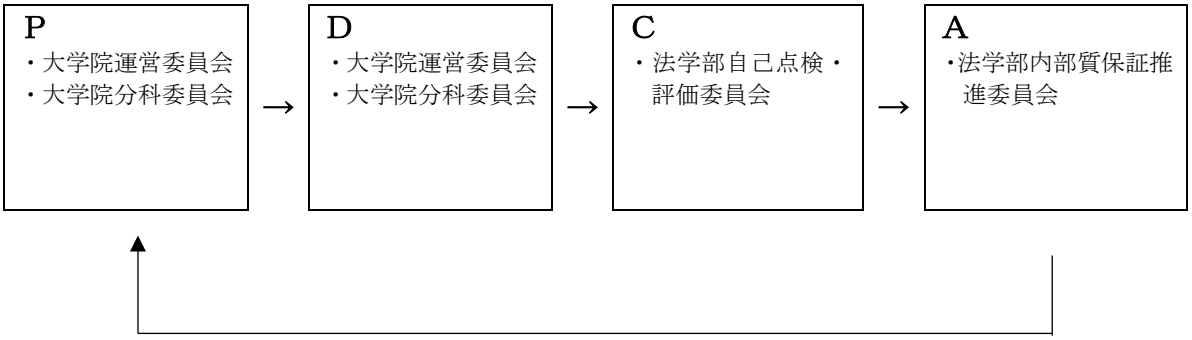
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教員組織】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員配置については，大学院運営委員会が大学院設置基準に定める教員数を満たしているか確認を行っている。また，大学院分科委員会委嘱については，「日本大学大学院法学研究科教員資格等に関する内規」等にのっとり公平に行われているか確認し，全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行い，大学院運営委員会・大学院分科委員会が候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を確認するよう取り組んでいる。

改善・向上に取り組んだ事例については，法学部においての教員の採用枠のうち，若手研究者養成を目的として，日本大学大学院法学研究科又は同大学院新聞学研究科の博士後期課程在学者対象として，専任教員（助教）の任用の制度を設け，大学院博士後期課程の活性化及び不足しがちな若手専任研究者の採用を行うことにより，長期的に将来の大学院法学研究科教員及び新聞学研究科教員となるような人材の教員育成を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

公募を行わない場合においても，候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を説明できる仕組みの整備の改善が求められる。

ガイダンス内容は個別対応が中心であり，ＴＡ同士の情報交換や課題共有の場，また，ハラスメント防止・守秘義務等を含む体系的な研修の実施については確認ができなく，改善が求められる。

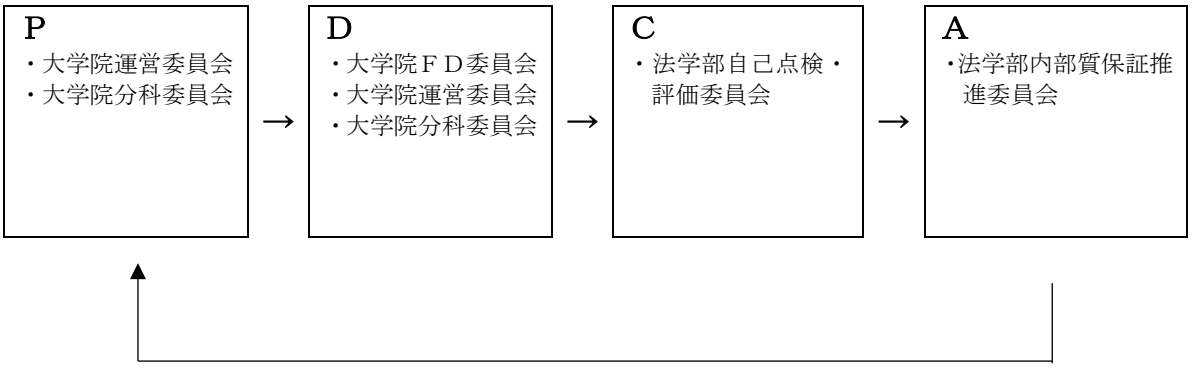
大学院分科委員会委嘱については，法学部専任教員に対して「日本大学大学院法学研究科教員資格等に関する内規」等に基づき，公平に行われているか確認し，全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行い，大学院運営委員会・大学院分科委員会が候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を確認するよう取り組んでいる。

ＴＡの育成と教育支援の質向上に向けた取組として，個別指導と併行して，本部学務委員会より案内のあった新規採用教員における研修プログラム動画の視聴を義務付けているが，ＴＡ同士の情報交換や課題共有の場，また，ハラスメント防止・守秘義務等を含む体系的な研修の実施はしていない現状である。法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，実施するように努める。

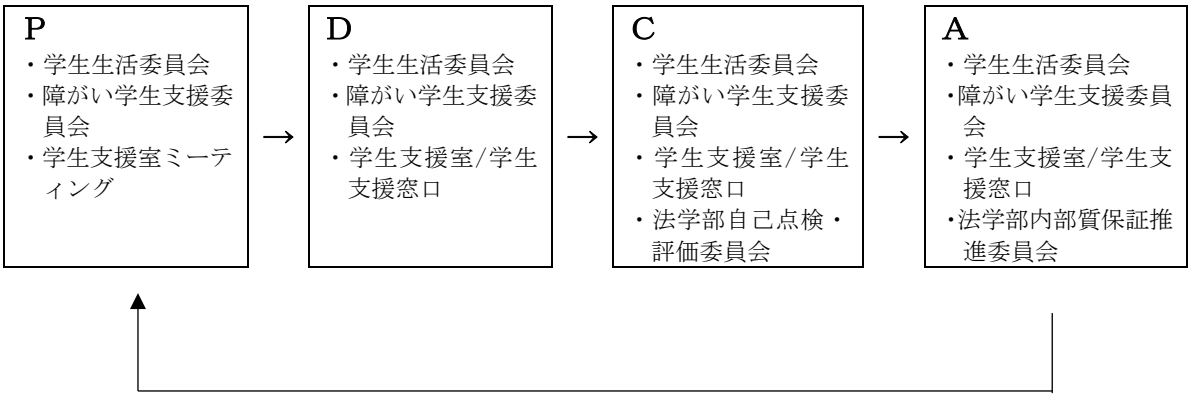
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教学的な学生支援】



【学生支援】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

・学部専従カウンセラーの配置により，学生支援室ミーティングを定期開催できるようになった。同ミーティングで，学生支援室・支援窓口の対応件数集計や年次推移の報告，事例に基づいた防音の必要性，学生の傾向や重篤なケースの共有，広報の仕方等，本部派遣カウンセラーの意見も反映した，実際の学生支援に即した意見交換をしている。
・令和６年度の学生支援室/支援窓口の対応件数は，年度末の学生生活委員会に報告する。
・ミーティングより，広報としてカウンセリング利用学生へのアンケートを実施し，今後，ホームページへの掲載等を検討している。学生支援室・支援窓口の広報と共に，利用に対する

心理的なハードルを下げる効果が期待できる。また，学生が気軽に手に取れる名刺サイズの二次元バーコード付きの学生支援室/支援窓口の案内カードを作成し，保健室，就職指導課等に設置した。

・学生支援センター企画のメンタルヘルスチェック（精神保健スクリーニングテスト）を，学生課，学生支援室/支援窓口が主体となり，全学生・大学院生に実施した。健康診断の１項目とした結果，受検率が大きく向上した（93.7%）。また，本学独自の基準に基づき，リスクの高い学生には，カウンセラーの呼び出し面談を実施した。前期に面談ができなかった学生のうち，最もリスクの高い学生（満点）には，年度内にもう一度連絡を取っている。面談で継続カウンセリングとなった学生や後に精神的危機状態になった際に，思い出して来室するケースがあることから，学生のメンタルヘルスの重篤化を回避，予防することに役立っていると思われる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようにサポートしていないため，大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含め検討するよう改善が求められる。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行う。

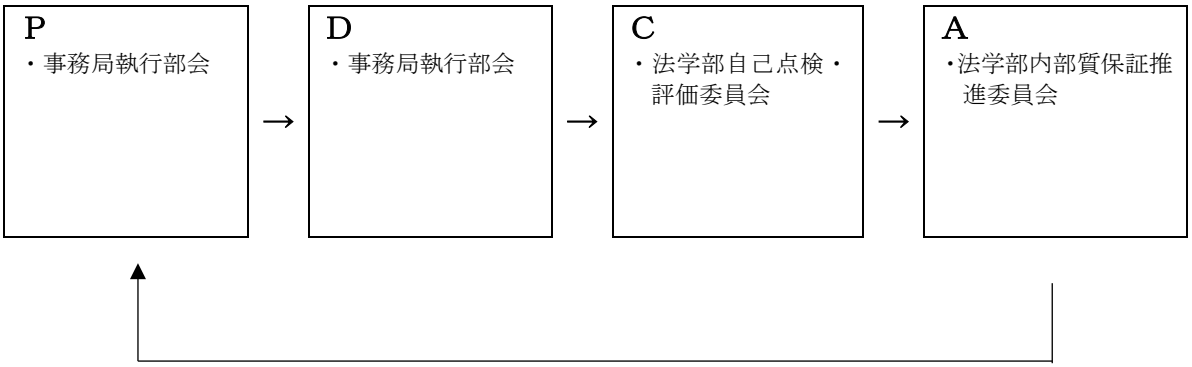
大学院生の学習サポートとして，大学院生の自習スペースが，自由に利用できる共同研究室内に，共用の机・パソコン・プリンターと個人専用ロッカーが設置されている。また，大学院ＦＤ委員会が大学院教育改善活動の一環として，修学環境に関する学生と教員の懇談会を開催している。本懇談会は，大学院生からの修学環境に関する要望や意見等を聞く機会としており，自律的に学習を進められる支援の一助となっている。

また，大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援として，大学院運営委員会及び大学院分科委員会が策定した，学位論文に係る評価に当たっての基準に示しているが，研究指導体制としては，主査（研究指導教員）と副査の２名体制となっており，各大学院生の能力に応じた指導ができる体制をとっている。

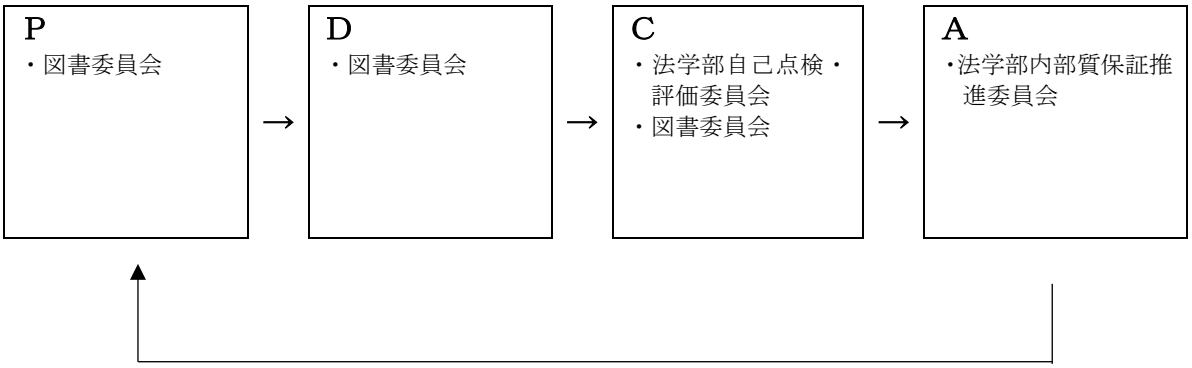
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

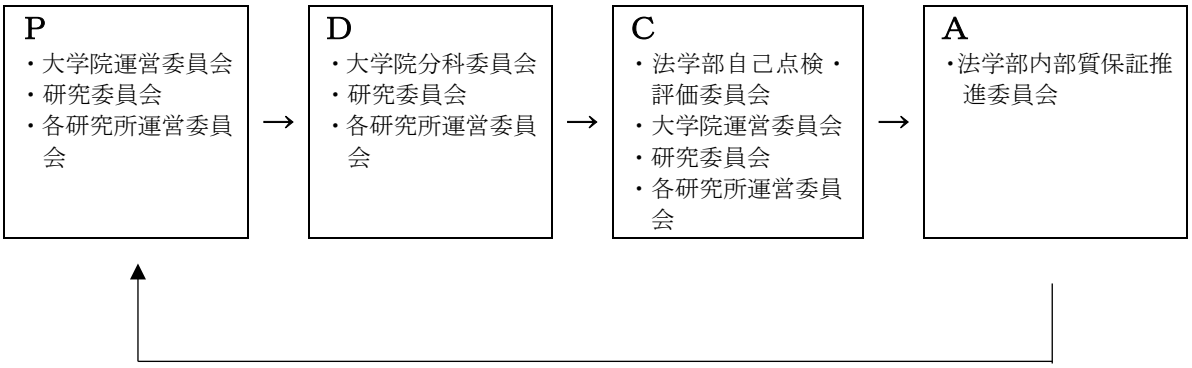
【設備関係等】



【図書館施設】



【研究関係等】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な

取組へとつなげているか。

⑩４ 研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【設備関係等】

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及ぶ関係部署等に改善の指示を行い，事務局執行部会が教育研究等環境に関わる施設・設備等の維持について，関係法令にのっとった点検を行うとともに，自主検査としても建物状況や消防設備を点検し，記録している。管財課が点検を行い，防火管理者や関係部署へ報告し，不備があれば修繕に向けた検討を事務局執行部会にて行っている。

また，バリアフリー環境の整備として，視覚に障がい害（弱視）のある学生対応として，学生の意見を確認し，階段の端部に色を付ける工事を実施している。階段については，照明を明るいＬＥＤ照明器具への変更を行い，室名サインについては視認し難い仕様であったため，色彩に加え，設置場所を見直し，付け替えを行っている。全ての施設の整備は完了しておらず，今後バリアフリー整備は計画的に推進を図ることを，事務局執行部において協議し確認した。

【図書館施設】

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

また，図書委員会も図書館の利用方針，収書方針，ホームページでの広報（貴重書類のの所蔵の公開等）及び蔵書管理について定期的に点検・評価を行っており，法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，図書委員会において以下のとおり改善事項を報告している。

日本大学図書館法学部分館では，授業期間中の開館時間について，平日 8:45～21:45，土曜日を 8:45～20:45 とするほか，日曜日の開館を特定日に実施（開館時間 10:00～17:00）し，利用者にとって学習しやすい環境を整備している。年度ごとに図書委員会で計画した開館日程は，機関決定を通して実施している。

図書館の利用については，日本大学図書館法学部分館のホームページで紹介するとともに，図書館利用案内(冊子)を配布して周知に努めている。また，年度始めに在学生を対象とした図書館の利用ガイダンスを実施して，利用の促進を図っている。「日本大学図書館法学部分館利用内規」に基づき実施されている。

蔵書については，図書委員が小委員会で選書した図書をリスト化して，図書委員会で報告して発注を行い購入する。納品された資料は，ＯＰＡＣで利用できるように配架される。

電子資料の購入は，図書委員会協議で承認され，決定される。ホームページに利用可能な電子資料の一覧を掲載し，法学関連の研究・教育環境に適した学術情報サービスを提供している。

図書館ホームページは，内容及びデザインの立案についてワーキンググループを設け，企画・広報委員会にて協議，法学部ホームページのデザインに合わせた，見やすいレイアウトに変更された。従前の内容を引き継ぎつつ，展示会及び学生協働に関する項目を新規に設けコンテンツを充実させている。

所蔵する貴重書類は，現在ホームページで書誌・所蔵データの公開を進めており，Web 上で誌面全体を閲覧できる資料もある。内容の追加・変更は，ワーキンググループでの協議の上，図書委員会の承認をもって実施される。平成 28 年には日本大学法学部創設 125 周年記念行事とし

て特別展示会を開催し，発行された図録は全ページをホームページに掲載している。
　蔵書管理については，図書委員会において年度始めに蔵書点検計画，年度末に蔵書点検結果を報告しており，蔵書の不在状況を確認することで，資産管理の周知や収書計画における効率化が改善されている。今後も資料の電子化や図書館活動等の情報発信を進め，本学の教育・研究環境の充実を図っていく。

【研究関係等】
　研究委員会及び各研究所の運営委員会が定期的に委員会を開催し，点検・評価を行っている。方法として研究委員会では，教員へ３月に個人研究費に係る実績報告書の提出を依頼し，当該年度に実施した研究成果・業績等を確認することにより行っている。各研究所の運営委員会では，４月に活動状況の報告，共同研究の「実績報告書」及び次年度の「研究計画」を報告することにより行っている。必要な場合は，執行部会議及び教授会に上程している。改善・向上を図った事例として，博士論文を出版する若手研究者に対して，出版助成費を給付する制度を制定した。また，法学部研究費（学術研究費（個人研究・共同研究））の各支出費目の給付額について給付限度額を設けていたが，その内規について給付限度額を設けないように改正し，研究費を執行しやすいように改善した。

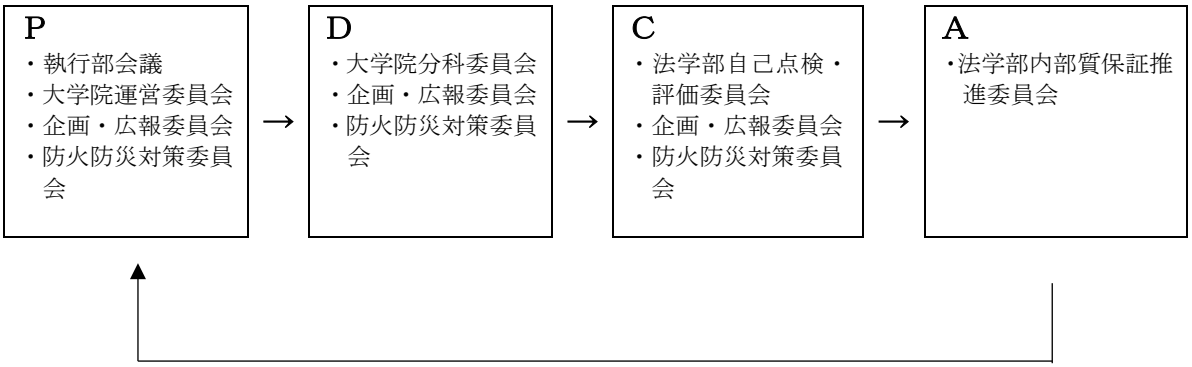
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

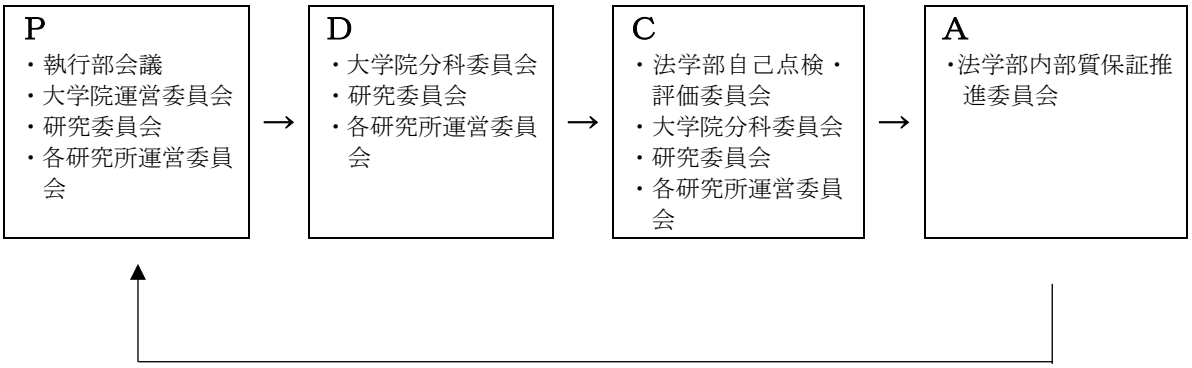
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【防災関係，社会連携等】



【定期無料法律相談等】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

防火・防災関係についての社会連携については，防火防災対策委員会が法学部自己点検・評価委員会からの指示の下で点検・評価を行っている。

研究委員会及び各研究所の運営委員会が，定期的に委員会を開催して点検・評価を行っている。「定期無料法律相談会」は，法学研究所運営委員会の法律相談部門，「行政なんでも相談」は，政経研究所運営委員会の行政相談部門において，相談実績及び相談内容等を確認し，社会

貢献として有効な活動かどうかという観点から点検・評価を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

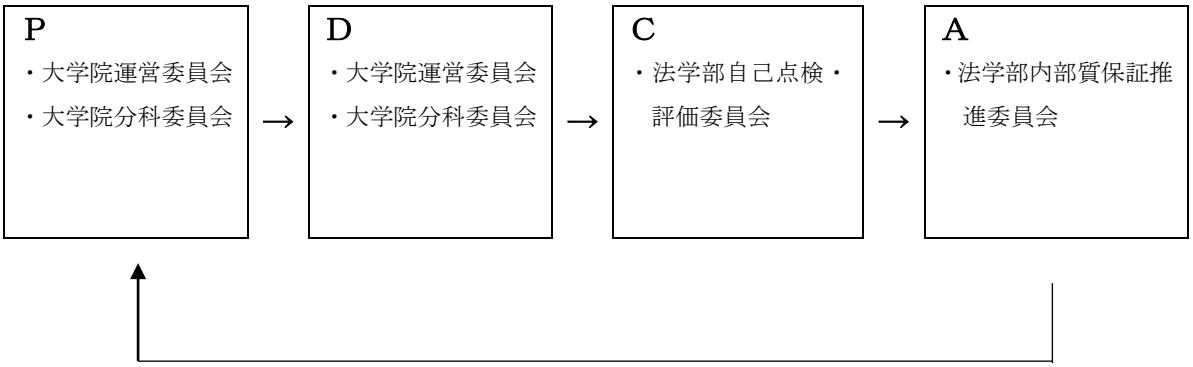
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院新聞学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。
＜評価の視点＞
・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価委員会からの指示に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，法学部，法学研究科及び新聞学研究科の点検を行い，法学部内部質保証推進委員会に点検結果の報告を行う。法学部内部質保証推進委員会は必要に応じて，各委員会に改善等の指示を行い，改善結果は執行部会議，大学院運営委員会及び大学院分科委員会の議を経て，ポリシー（学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等），規程改正及び教育組織等の見直しをするなどして課題の改善に取り組んでいる。
法学部内部質保証推進委員会からの検討・指示を経て，大学院ＦＤ委員会が中心となり見直しを行い，令和７年度にアドミッション・ポリシーの一部改正が行われた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院

研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

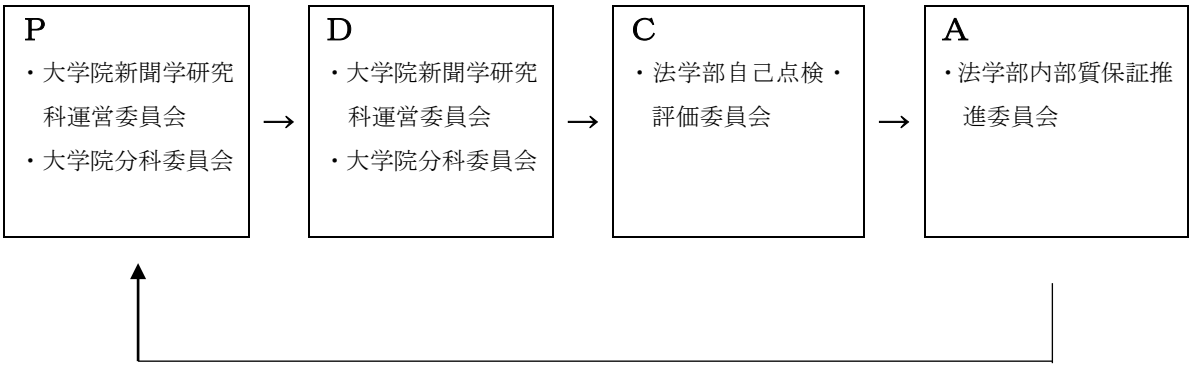
内部質保証体制は構築しているものの，令和６年度大学評価（認証評価）結果において付された提言のとおり，授与する学位ごとに学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を設定していない研究科・課程があり，検証・改善が十分に行われていない。また，定期的に点検・評価を実施しているものの，その評価結果を踏まえた改善や方針策定のプロセスが十分に機能していないことから，機能させるよう改善が求められる。

学術の学位を授与した実績がないことや授与する体制が整っていないため，大学院ＦＤ委員会が中心となり，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）から，学術の学位に関する記載を削除することを検討し，大学院分科委員会において審議し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を改正した。

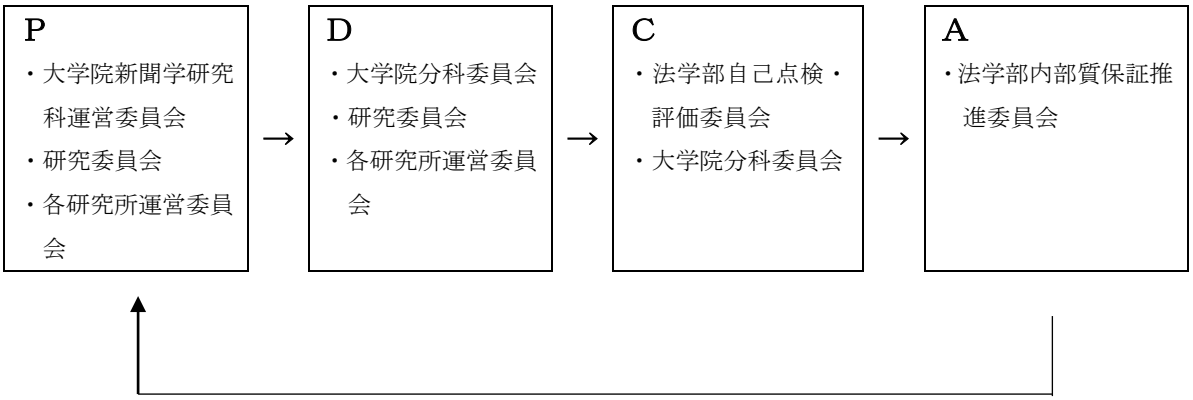
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【専攻の改組等】



【研究所の新設】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及ぶ関係部署等に改善の指示を行い，研究所の新設については，今後の社会情勢の

変化などの推移を注視しつつ，社会のニーズに幅広く応えることができるよう，執行部会議，教授会等にて検討していく。事例として，平成 19 年に新聞学研究所及び国際知的財産研究所を新設した。

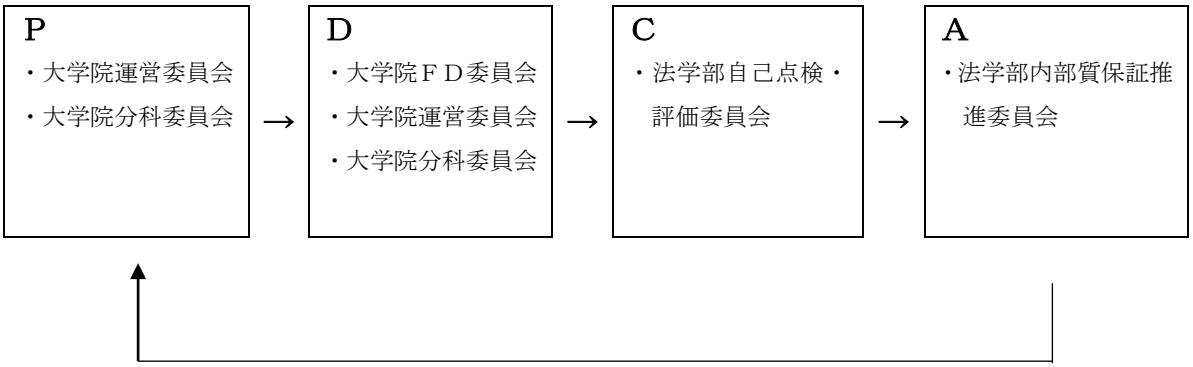
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育課程及びその内容，教育方法等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

令和６年度カリキュラム改正の際に，大学院ＦＤ委員会が中心となり，令和３年度に実施したカリキュラムの点検・評価として，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）について，日本大学教育憲章で示される８つの能力（８項目）に対応する見直しを踏まえ，博士前期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）について，科目ごとに振り分けたものを基に，再度点検を行った。

また，令和６年度に大学院ＦＤ委員会が中心となり実施した外部評価では，大学基準協会の定める大学基及び点検・評価項目に準拠して，点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会に報告をした。

教育課程の改正が必要な場合には，大学院運営委員会が中心となって，改定案を協議し，大学院分科委員会の議を経て，これを実行している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

外部評価の指摘により，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）において，「求められる学修歴について記載が望まれる」，「入学者に求める資質や能力と入学者選抜の方法等の関係性について記載がない」との意見が付されたことを受けて，大学院ＦＤ委員会，大学院運営委員会及び大学院分科委員会において，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しを行い，一部改正をした。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

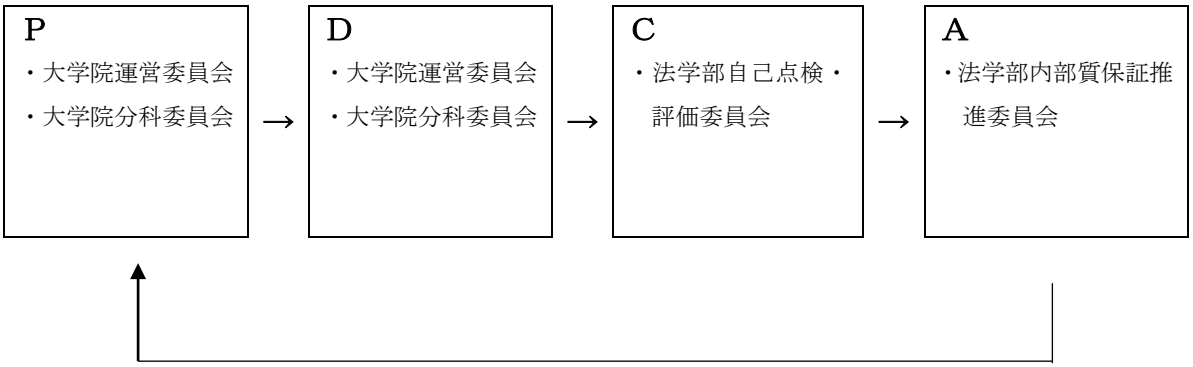
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「学位授与方針について，新聞学研究科博士前期課程では，授与する学位ごとに同方針を設定していない。また，教育課程の編成・実施方針について，新聞学研究科博士前期課程では，授与する学位ごとに同方針を設定していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

学術の学位を授与した実績がないことや授与する体制が整っていないため，大学院ＦＤ委員会が中心となり，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）から，学術の学位に関する記載を削除することを検討し，大学院分科委員会において審議し，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を改正した。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【収容定員等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，大学院運営委員会及び大学院分科委員会が，学生の受け入れに関わる事項について，改善・向上に向けて取り組んでいる。入学試験実施の都度，合格判定等の原案作成から合格予定者決定に至るまでを審議している。

改善・向上を図った事例として，博士後期課程入学試験に不合格となった受験者が，従前同日に実施していた研究生入学試験や科目等履修生入学試験の受験を可能とするため試験期日の調整に関する要望が大学院運営委員会で挙がったことから，大学院分科委員会において審議して，試験期日について調整を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

博士後期課程の収容定員に対する在籍学生数比率が 0.22 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。

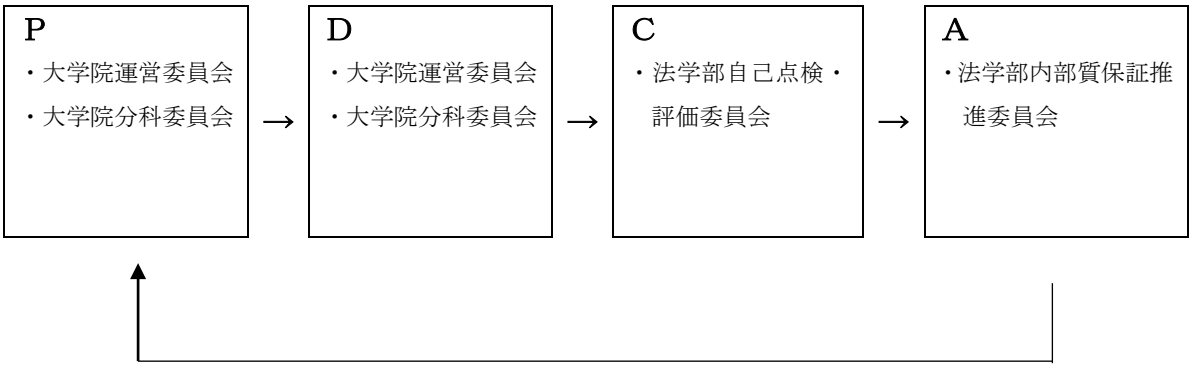
全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，大学院運営委員会及び大学院分科委員会が，学生の受け入れに関わる事項について，改善・向上に向けて取り組んでいる。

大学院運営委員会及び大学院分科委員会が，博士後期課程の在籍学生数比率が 0.22 と低いことを改善すべく，令和８年度にカリキュラム改正を予定している。旧カリキュラムにおいては，主にジャーナリズム関連のテーマごとに授業科目が編成されているが，新聞学を構成する分野，テーマを広くカバーするものとなっていなかった。ジャーナリズムとメディアの二つを柱に授業科目を整理，編成し直すことによって，「優れた研究・開発能力を持つ研究者，教員および高度な専門的知識・実践能力を持つ高度専門職業人を養成する」という研究科の設置目的に照らし，より体系的かつ専門的な教育を実践することが可能となる。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教員組織】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員配置については，大学院運営委員会が大学院設置基準に定める教員数を満たしているか確認を行っている。また，大学院分科委員会委嘱については，「日本大学大学院新聞学研究科教員資格等に関する内規」等にのっとり公平に行われているか確認し，全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行い，大学院運営委員会・大学院分科委員会が候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を確認するよう取り組んでいる。

改善・向上に取り組んだ事例については，法学部においての教員の採用枠のうち，若手研究者養成を目的として，日本大学大学院法学研究科又は同大学院新聞学研究科の博士後期課程在学者対象として，専任教員（助教）の任用の制度を設け，大学院博士後期課程の活性化及び不足しがちな若手専任研究者の採用を行うことにより，長期的に将来の大学院法学研究科教員及び新聞学研究科教員となるような人材の教員育成を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大

学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

公募を行わない場合においても，候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を説明できる仕組みの整備の改善が求められる。

ガイダンス内容は個別対応が中心であり，ＴＡ同士の情報交換や課題共有の場，また，ハラスメント防止・守秘義務等を含む体系的な研修の実施については確認ができなく，改善が求められる。

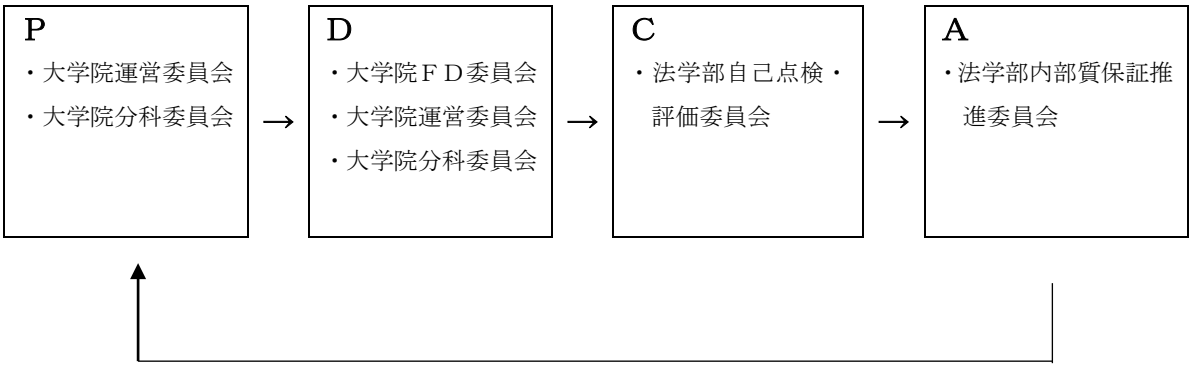
大学院分科委員会委嘱については，法学部専任教員に対して「日本大学大学院新聞学研究科教員資格等に関する内規」等に基づき，公平に行われているか確認し，全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行い，大学院運営委員会・大学院分科委員会が候補者選定の透明性や選考過程の妥当性を確認するよう取り組んでいる。

ＴＡの育成と教育支援の質向上に向けた取組として，個別指導と併行して，本部学務委員会より案内のあった新規採用教員における研修プログラム動画の視聴を義務付けているが，ＴＡ同士の情報交換や課題共有の場，また，ハラスメント防止・守秘義務等を含む体系的な研修の実施はしていない現状である。法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，実施するように努める。

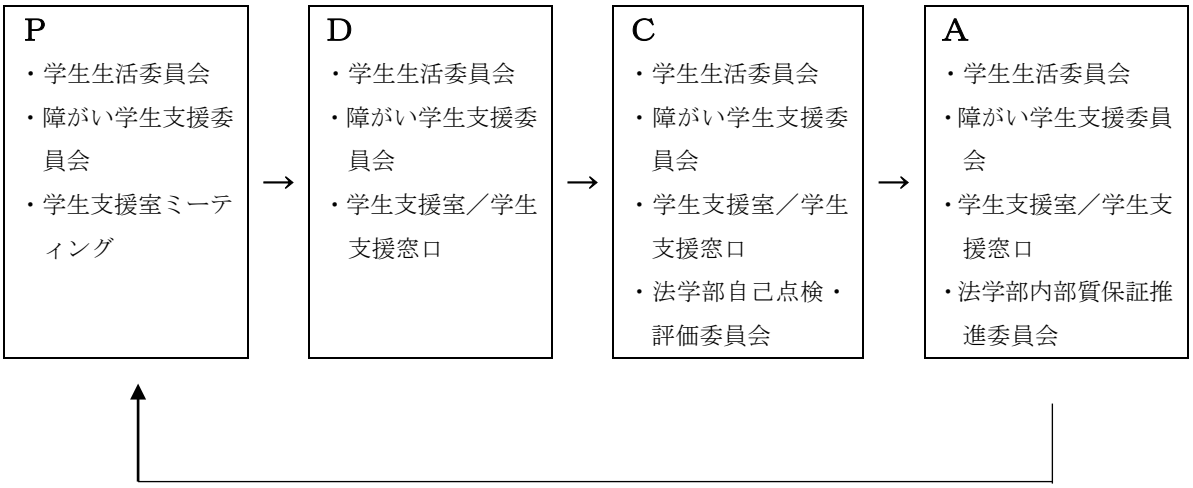
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教学的な学生支援】



【学生支援】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

・学部専従カウンセラーの配置により，学生支援室ミーティングを定期開催できるようになった。同ミーティングで，学生支援室・支援窓口の対応件数集計や年次推移の報告，事例に基づいた防音の必要性，学生の傾向や重篤なケースの共有，広報の仕方等，本部派遣カウンセラーの意見も反映した，実際の学生支援に即した意見交換をしている。

・令和６年度の学生支援室/支援窓口の対応件数は，年度末の学生生活委員会に報告する。
・ミーティングより，広報としてカウンセリング利用学生へのアンケートを実施，今後，ホームページへの掲載等を検討している。学生支援室・支援窓口の広報と共に，利用に対する心理的なハードルを下げる効果が期待できる。また学生が気軽に手に取れる名刺サイズの二次元バーコード付きの学生支援室/支援窓口の案内カードを作成し，保健室，就職指導課等に設置。
・学生支援センター企画のメンタルヘルスチェック（精神保健スクリーニングテスト）を，学生課，学生支援室/支援窓口が主体となり，全学生・大学院生に実施した。健康診断の１項目とした結果，受検率が大きく向上した（93.7%）。また，本学独自の基準に基づき，リスクの高い学生には，カウンセラーの呼び出し面談を実施した。前期に面談できなかった学生のうち，最もリスクの高い学生（満点）には，年度内にもう一度連絡を取っている。面談で継続カウンセリングとなった学生や，後に精神的危機状態になった際に，思い出して来室するケースがあることから，学生のメンタルヘルスの重篤化を回避，予防することに役立っていると思われる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようにサポートしていないため，大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含め検討するよう改善が求められる。

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施し，法学部内部質保証推進委員会は点検・評価報告を受け，改善の指示を行う。

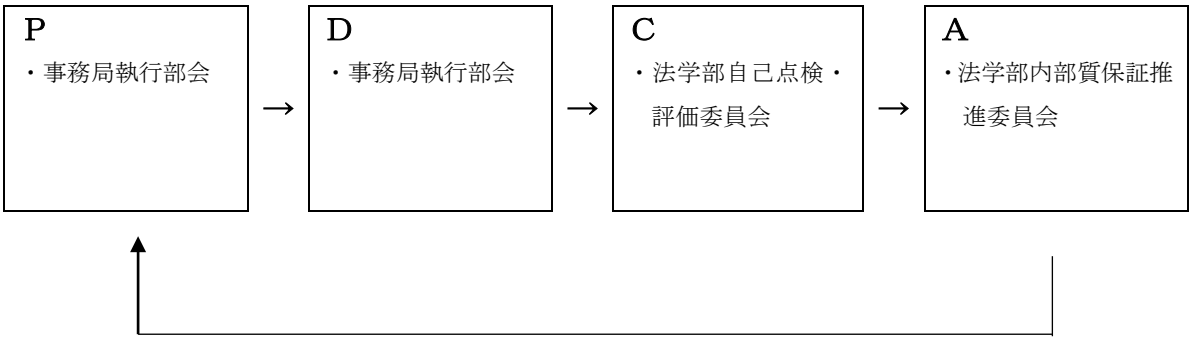
大学院生の学習サポートとして，大学院生の自習スペースが，自由に利用できる共同研究室内に，共用の机・パソコン・プリンターと，個人専用ロッカーが設置されている。また，大学院ＦＤ委員会が大学院教育改善活動の一環として，修学環境に関する学生と教員の懇談会を開催している。本懇談会は，大学院生からの修学環境に関する要望や意見等を聞く機会としており，自律的に学習を進められる支援の一助となっている。

また，大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援として，大学院運営委員会及び大学院分科委員会が策定した，学位論文に係る評価に当たっての基準に示しているが，研究指導体制としては，研究指導教員を含む大学院分科委員会委員３名体制となっており，各大学院生の能力に応じた指導ができる体制をとっている。

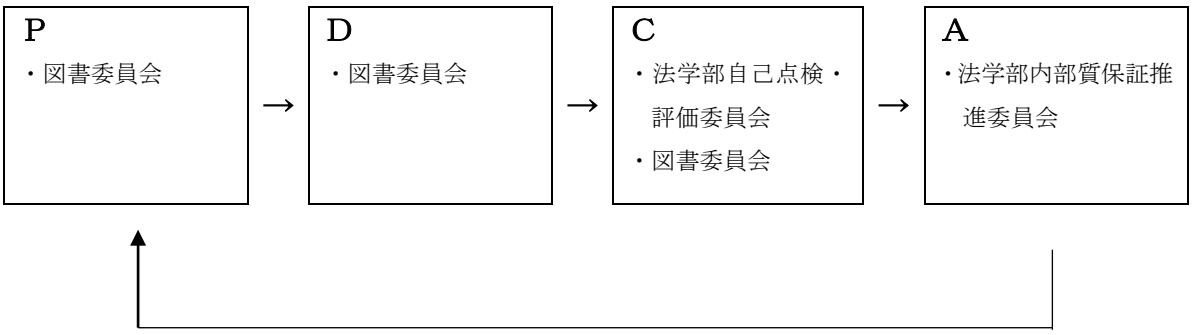
基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

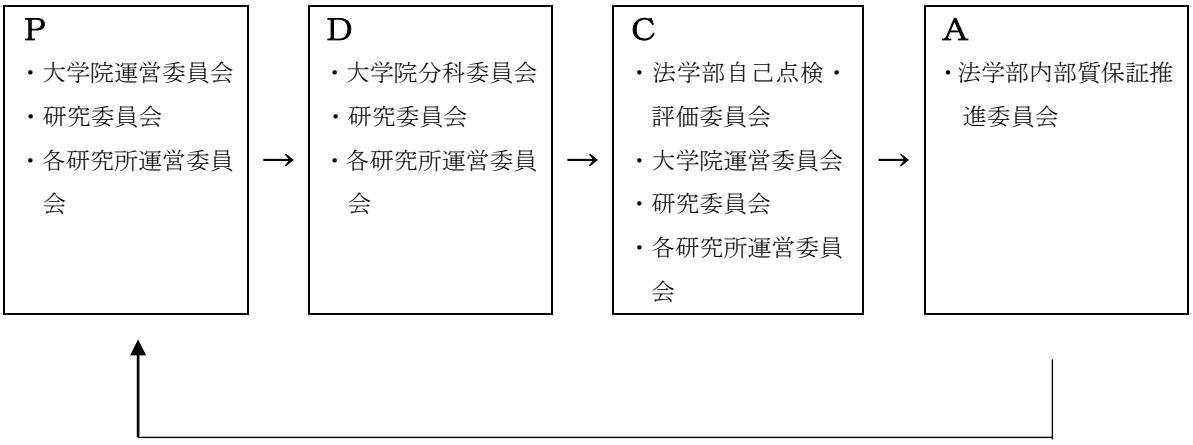
【設備関係等】



【図書館施設】



【研究関係等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的

な取組へとつなげているか。

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【設備関係等】

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及ぶ関係部署等に改善の指示を行い，事務局執行部会が教育研究等環境に関わる施設・設備等の維持について，関係法令にのっとった点検を行うとともに，自主検査としても建物状況や消防設備を点検し，記録している。管財課が点検を行い，防火管理者や関係部署へ報告し，不備があれば修繕に向けた検討を事務局執行部会にて行っている。

また，バリアフリー環境の整備として，視覚に障がい（弱視）のある学生対応として，学生の意見を確認し，階段の端部に色を付ける工事を実施している。階段については，照明を明るいＬＥＤ照明器具への変更を行い，室名サインについては視認し難い仕様であったため，色彩に加え，設置場所を見直し，付け替えを行っている。全ての施設の整備は完了しておらず，今後バリアフリー整備は計画的に推進を図ることを，事務局執行部において協議し確認した。

【図書館施設】

全学自己点検・評価（大学・短期大学部）の実施に基づき，法学部自己点検・評価委員会が，大学基準協会の定める大学基準及び点検・評価項目に準じた点検・評価を実施している。

また，図書委員会も図書館の利用方針，収書方針，ホームページでの広報（貴重書類のの所蔵の公開等）及び蔵書管理について定期的に点検・評価を行っており，法学部内部質保証推進委員会は，法学部自己点検・評価委員会からの点検・評価報告を受け，関係委員会及び関係部署等に改善の指示を行い，図書委員会において以下のとおり改善事項を報告している。

日本大学図書館法学部分館では，授業期間中の開館時間について，平日 8:45～21:45，土曜日を 8:45～20:45 とするほか，日曜日の開館を特定日に実施（開館時間 10:00～17:00）し，利用者にとって学習しやすい環境を整備している。年度ごとに図書委員会で計画した開館日程は，機関決定を通して実施している。

図書館の利用については，日本大学図書館法学部分館のホームページで紹介するとともに，図書館利用案内(冊子)を配布して周知に努めている。また，年度始めに在学生を対象とした図書館の利用ガイダンスを実施して，利用の促進を図っている。「日本大学図書館法学部分館利用内規」に基づき実施されている。

蔵書については，図書委員が小委員会で選書した図書をリスト化して，図書委員会で報告して発注を行い購入する。納品された資料は，ＯＰＡＣで利用できるように配架される。

電子資料の購入は，図書委員会協議で承認され，決定される。ホームページに利用可能な電子資料の一覧を掲載し，法学関連の研究・教育環境に適した学術情報サービスを提供している。

図書館ホームページは，内容及びデザインの立案についてワーキンググループを設け，企画・広報委員会にて協議，法学部ホームページのデザインに合わせた，見やすいレイアウトに変更された。従前の内容を引き継ぎつつ，展示会及び学生協働に関する項目を新規に設けコンテンツを充実させている。

所蔵する貴重書類は，現在ホームページで書誌・所蔵データの公開を進めており，Web 上で誌面全体を閲覧できる資料もある。内容の追加・変更は，ワーキンググループでの協議の上，図書委員会の承認をもって実施される。平成 28 年には日本大学法学部創設 125 周年記念行事として特別展示会を開催し，発行された図録は全ページをホームページに掲載している。

蔵書管理については，図書委員会において年度始めに蔵書点検計画，年度末に蔵書点検結果

を報告しており，蔵書の不在状況を確認することで，資産管理の周知や収書計画における効率化が改善されている。今後も資料の電子化や図書館活動等の情報発信を進め，本学の教育・研究環境の充実を図っていく。

【研究関係等】

研究委員会及び各研究所の運営委員会が定期的に委員会を開催し，点検・評価を行っている。方法として研究委員会では，教員へ３月に個人研究費に係る実績報告書の提出を依頼し，当該年度に実施した研究成果・業績等を確認することにより行っている。各研究所の運営委員会では，４月に活動状況の報告，共同研究の「実績報告書」及び次年度の「研究計画」を報告することにより行っている。必要な場合は，執行部会議及び教授会に上程している。改善・向上を図った事例として，博士論文を出版する若手研究者に対して，出版助成費を給付する制度を制定した。また，法学部研究費（学術研究費（個人研究・共同研究））の各支出費目の給付額について給付限度額を設けていたが，その内規について給付限度額を設けないように改正し，研究費を執行しやすいように改善した。

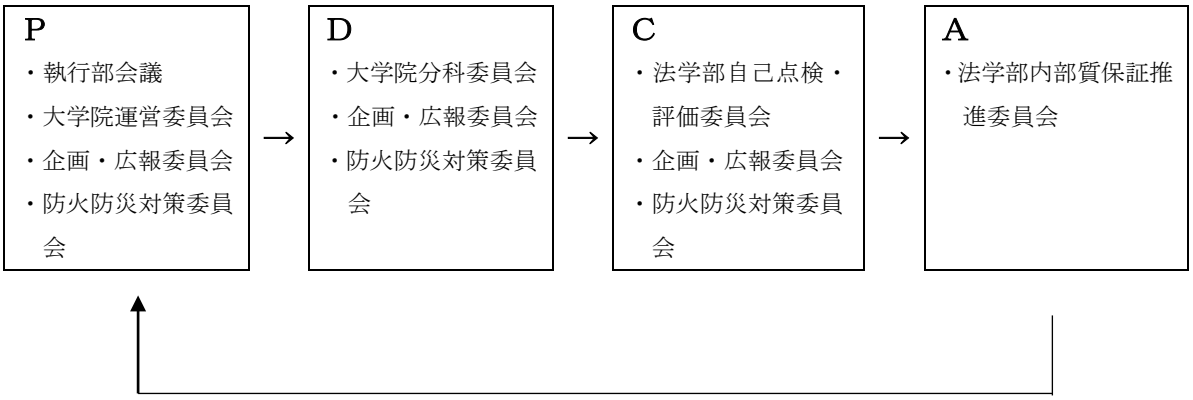
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

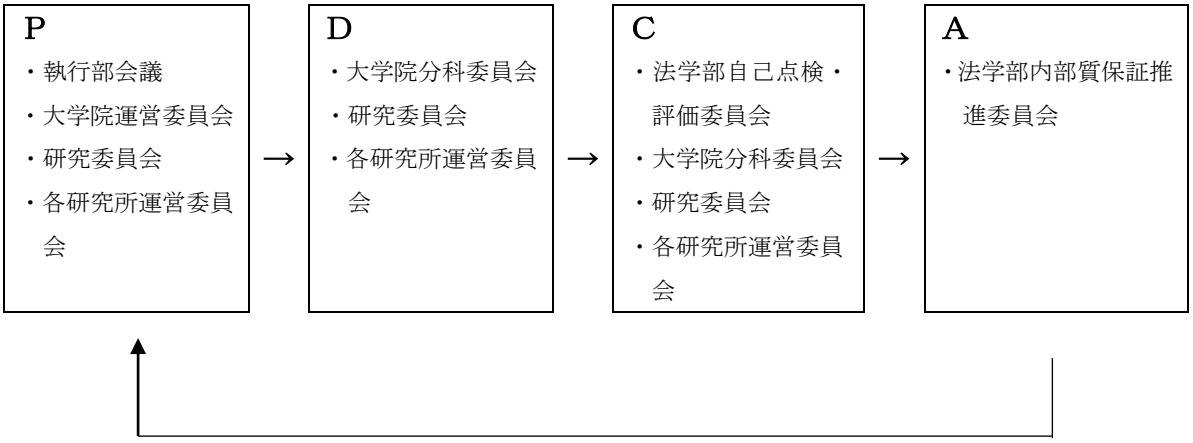
基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【防災関係，社会連携等】



【定期無料法律相談等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

防火・防災関係についての社会連携については，防火防災対策委員会が法学部自己点検・評価委員会からの指示の下で点検・評価を行っている。

研究委員会及び各研究所の運営委員会が，定期的に委員会を開催して点検・評価を行ってい

る。「定期無料法律相談会」は，法学研究所運営委員会の法律相談部門，「行政なんでも相談」は，政経研究所運営委員会の行政相談部門において，相談実績及び相談内容等を確認し，社会貢献として有効な活動かどうかという観点から点検・評価を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

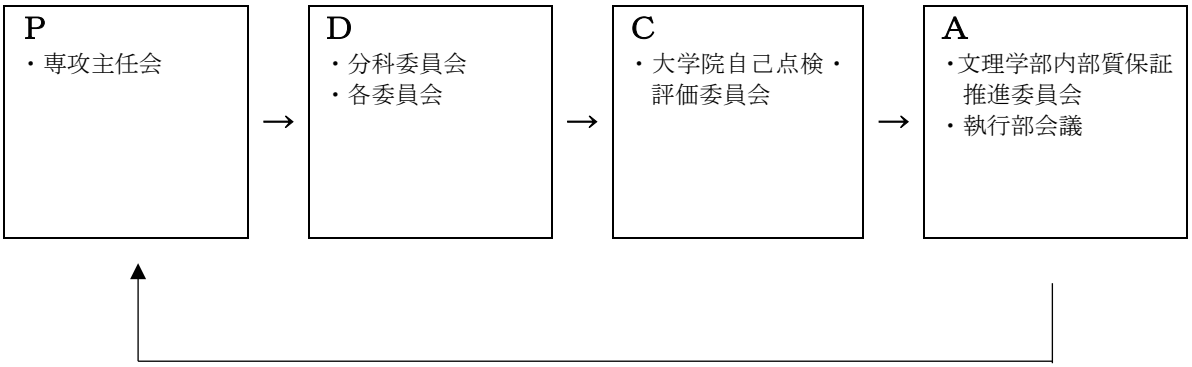
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院文学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。
＜評価の視点＞
・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部内部質保証推進委員会を開催し，内部質保証を支える基盤となる４委員会（大学院自己点検・評価委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院ＦＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会）の委員会での報告・審議事項等を点検・評価し，問題点を明確にしている。これらを基に４委員会に対し，文理学部内部質保証推進委員会から指示を与えている。また，その他の委員会についても，研究科の抱える諸問題の検討・解決を諮問事項として落とし込み全学部的に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

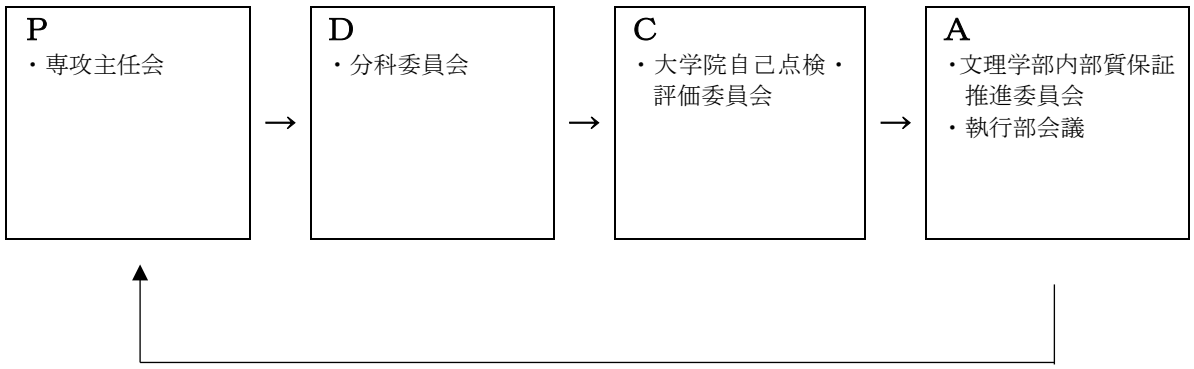
【提言（改善課題）】

内部質保証体制は構築しているものの，博士前期課程・博士後期課程など課程別の点検・評価については確認できず，改善策も適切に分化されていることは確認できなかった。また，改善実施状況として定期的な点検・評価は行っていることは確認できたものの，令和６年度大学評価（認証評価）結果において付された提言のとおり，三つの方針についても適切に点検・評価しているとはいえないことから，適切に点検・評価するよう改善が求められる。

改善課題の「三つの方針についても適切に点検・評価」については，各専攻において点検・評価を行い，分科委員会において情報共有された。次年度以降も定期的な点検を実施していく予定である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育面については，月に１回又は２回開催している専攻主任会において，研究科専攻組織の適切性について必要に応じて点検・評価を行っている。諸問題が生じた際は，学部執行部と連携し対応に当たっている。また，文理学部内部質保証推進委員会から必要に応じて大学院教学ＩＲ推進委員会に対し，専攻主任会と連携し教学ＩＲを適切に機能させている。

研究面については，文理学部では研究委員会だけでなく人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所にそれぞれ運営委員会が設置されており，研究委員会と付置研究所運営委員会が連携し審議している。また，毎年度末には全教員を対象としたモニタリング調査を実施しているほか，随時，研究委員会委員長（研究担当），研究委員会副委員長及び研究事務課で点検及び一定の評価を行っている。

なお，研究科や研究所の新設，専攻の改組等については，執行部で検討されており，より多角的な視点で専攻や研究所の新設，専攻の改組等について意見集約に努める段階である。

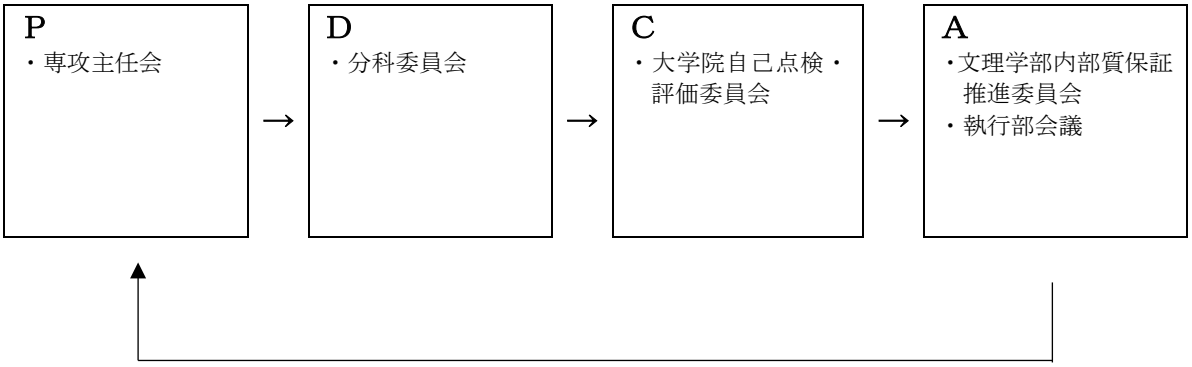
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

専攻主任会において，大学教育を取り巻く環境の変化等により必要に応じ，教育課程の改善・見直しを行っている。

現在，今後の教育課程の改善・見直しに向けて，情報を収集している段階である。今後，得られた情報を大学院教学ＩＲ推進委員会や大学院自己点検・評価委員会等と共有し，改善・見直しに向けて活用していく予定である。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院独自のＰＤＣＡサイクル確立に向けて，令和６年度後期に，大学院ＦＤ委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会及び大学院自己点検・評価委員会を設置した。

今後，大学院自己点検・評価の評価結果を共有し，専攻主任会において教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上を図りたい。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「国文学専攻の教育課程の編成・実施方針について，博士前期課程及び博士後期課程で１つの方針を設定しているため，学位課程ごとにこれを定めるよう是正されたい」と提言（是正勧告）が付されているため，是正されたい。

【提言（改善課題）】

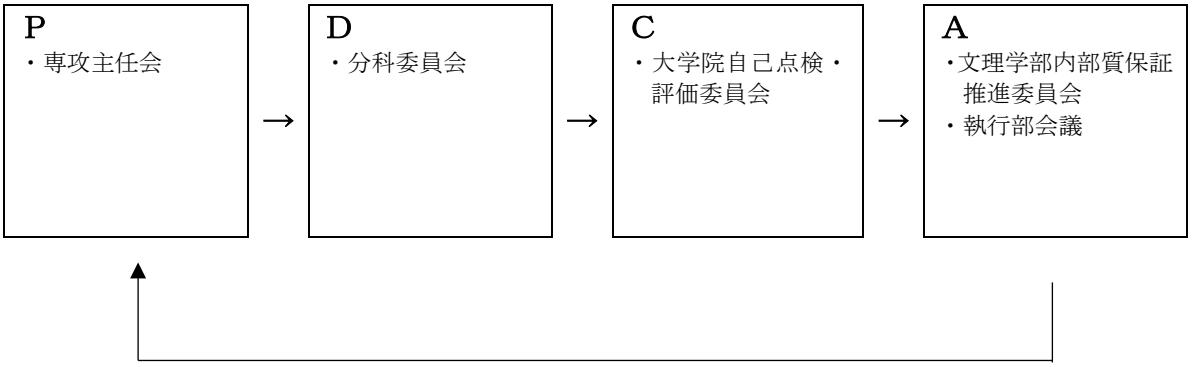
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，文学研究科国文学専攻博士後期課程，同社会学専攻社会学コース博士後期課程，同社会学専攻社会福祉学コース博士後期課程では，編成に関する基本的な考え方を，文学研究科社会学専攻社会福祉学コース博士前期課程，同心理学専攻博士後期課程では，実施に関する基本的な考え方をそれぞれ示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

いずれも，令和７年度前学期に開催された文学・理工学研究科専攻主任会において情報を共有し，該当する専攻についてはもちろんのこと，該当しない専攻においても再度確認し，必要に応じて改定をした。

また，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関して，学術の学位に関する方針が記載されていないことから，現在改定に向けて準備を進めているところである。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院文学・理工学研究科専攻主任会において，学生の受け入れに係る事項について改善・見直しを行っている。

自己点検・評価結果及び全学自己点検・評価結果において，改善・向上すべき事項がある場合は速やかに関連委員会と共有し，改善・向上に向けて検討を進めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「博士前期課程及び博士後期課程で１つの方針を設定している専攻があるため，学位課程ごとにこれを定めるよう是正されたい。」との提言（是正勧告）が付されているため，是正されたい。

【提言（改善課題）】

博士後期課程の収容定員に対する在籍学生数比率が 0.30 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。

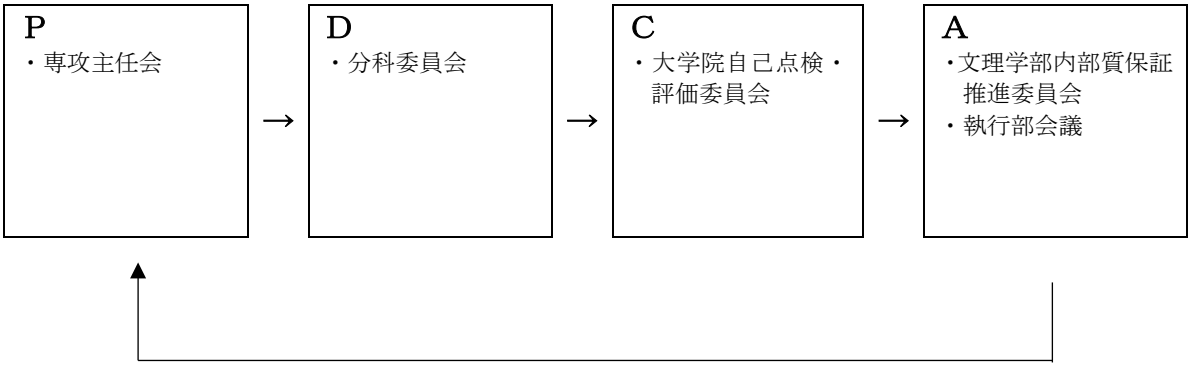
大学院文学・理工学研究科分科委員会において，広報内容や入試種類の見直しについて検討を行い，研究科の教育研究の特色や研究成果を分かりやすく発信できる体制の構築を目指す。具体的には，既存の学内選考制度及び大学院科目の早期履修制度について，学生及び学部教員への周知方法を見直し，制度の活用促進を図る。

さらに，社会人入試については，他大学の取組事例等も参考にしながら，受験しやすい制度設計や募集方法の在り方について検討を行い，中長期的な視点で段階的に改善を進めていく。

専攻主任会の企画立案を分科委員会が実行し，大学院自己点検・評価委員会が点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討する。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

法人が定める「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」に基づき，毎年度，学部独自に各職位の人数・年齢及び性別構成等を含む多様性に考慮し，教員配置計画（学科・専攻）を作成し，執行部会議において，将来にわたり大学院設置基準等を下回ることのないよう，かつ人件費を抑制することの両立を目指し人事計画を定めている。なお，その際に，計画どおりに人事計画が進行しないことも発生するが，その状況が複数年継続することのないよう，執行部会議にておいて確認を行っている。また，現在法人において検討されている特別教授制度（仮称）及び基幹教員制度の動向に注視し取り組んでいる。

なお，文理学部においては，各専門領域における 18 学科を設置しているが，絶えず変化と改革を促すことが必要であることから，学科に属さない総合文化研究室を設置し，教員を目指す学生のための支援や留学生・留学希望者・外国語学習者への支援のため各センター（教職センター，グローバル教育研究センター）に専任教員を配置するなどの取組を行っている。

令和７年度においては，組織のスリム化及び教員の負担減のため，国際交流委員会の機能をグローバル教育研究センターに統合できないか検討を行うなど，可能な部分から改善・向上を行っている。

大学院自己点検・評価委員会が令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

特定の教員に過度な授業負担が生じないようにするための具体的な方策や基準が示されておらず，「特になし」としていることは，教育研究活動を安定的かつ十全に展開するための教員組織の適正管理という観点から課題であり，改善が求められる。授業負担の偏在は，教育の質や研究活動への影響，更には教員の心身の健康にも直結するため，組織的な配慮と制度的な仕組みが不可欠である。今後は，授業担当数や業務内容の実態を把握した上で，負担の上限・下限を定めた基準や調整ルールを策定し，定期的に点検・評価を行う体制を整えることが求められる。

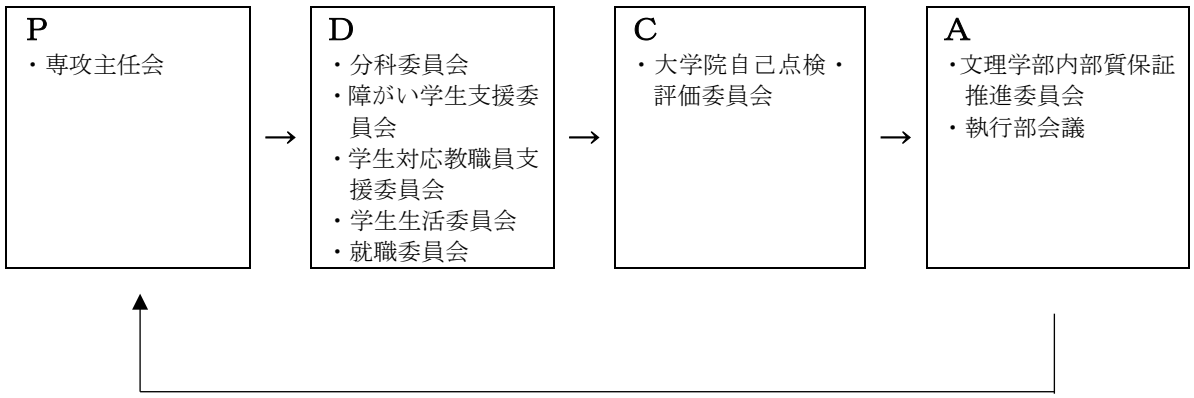
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「大学院固有のＦＤ活動を行っていないため，適切にこれを実施するよう改善が求められる」と提言が付されているため，改善が求められる。

改善課題である「授業負担の偏在への方策」は，学校法人基礎調査での教員別の授業持ちコマ数一覧を，労務管理している部署に共有することにより「見える化」に努めた。また，全教員対象のストレスチェックの職位毎の結果を安全衛生委員会で情報共有した。今後は，参考になるデータを収集しながら，授業持ちコマ数やストレスチェック結果のデータと実際の教員の負担にどれくらい相関があるのかなど，慎重に分析を行っていく予定である。

また，「大学院固有のＦＤ活動」について，法人本部主導で推進している状況のため，分科委員会が本部と連携しながら適切に対応していく予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部長の諮問機関として学生生活委員会を設置し，学生生活及び支援に関する事項について協議している。学生生活委員会では，学部行事・サークル活動及び奨学金等全般について協議等を行っている。また，前学期・後学期に１回ずつ学生生活に関する講演会を実施し，学生全体への注意喚起を行っている。

合理的配慮を求める学生からの申出は，「学生支援室窓口」が窓口となっている。

コーディネーターが調整役として，学生のニーズを聞き取り，必要に応じて臨床心理士によるカウンセラーに意見を求め，申出のあった学生の支援者を集めての関係者カンファレンスの開催，「障がい学生支援委員会」で審議の後，合理的配慮の提供が開始される。

合理的配慮の実施状況は学生にモニタリングを行い，その結果適切に配慮されていない場合は「障がい学生支援委員会」に報告し，対応及び調整が行われる仕組みを確立している。

また，合理的配慮を実施した教職員及び関係者にもモニタリングを行っている。

令和６年度の課題であった後学期の合理的配慮の決定（支援開始）のずれ込みは，後学期授業が始まる前（夏季休業期間）から受け付けができるように変更し，後学期授業開始第１回目から支援が開始できるように改善を行った。

また，全学科の教員が委員に属する学生生活委員会で，その他の学生支援の関係する委員会の課題等を集約できないか検討をしている。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成

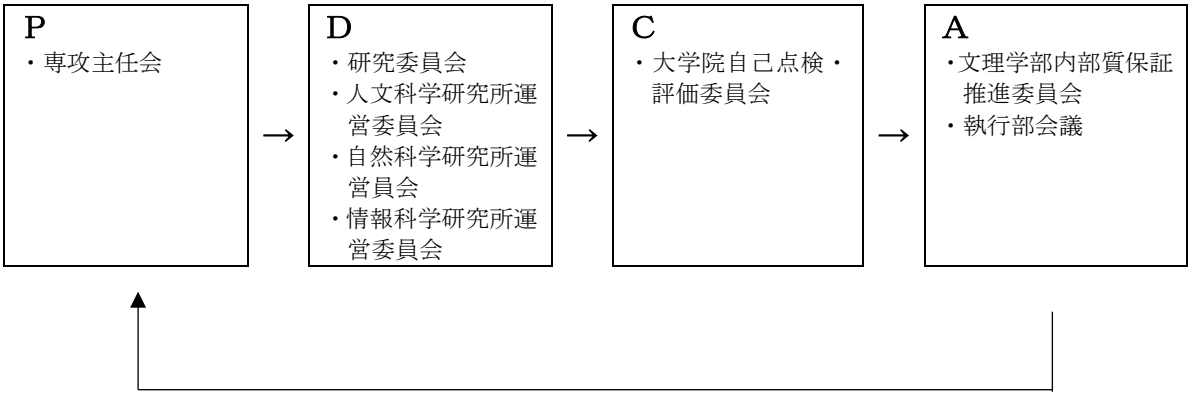
できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部は，研究委員会を設置し，「研究支援・促進体制の整備充実並びに高度化その他学術研究に関する重要事項を審議する」ことが規定の任務の一つとされている。

また，文理学部は，人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所の三つの研究所に運営委員会を設置し，各運営委員会が事業計画や研究費の審議を行うことが既定の任務の一つとされている。

そのため，研究等環境に関わる事項は，研究委員会のみならず，三研究所の運営委員会においても発議され，審議される体制となっている。

これにより，文系学科と理系学科が併設される文理学部にあっては，各委員会がそれぞれの分野での問題点等を発議することによって，検討がなされ，改善を図っている。

令和７年度は，科学研究費助成事業の機関管理に関する改正を行った。これまで前任の研究機関で科研費の研究代表者であった研究者が，当該研究の研究期間の途中で本学の研究員等となった場合，日本大学大学院文学研究科，総合基礎科学研究科及び理工学研究科地理学専攻を修了又は満期退学した者でなくても当該科研費の移管及び本学部在職期間における機関管理をできるように改正した。これにより，本学部の研究活動を更に活性化させるとともに，優秀な若手研究者の確保及び育成できるよう改善している。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成

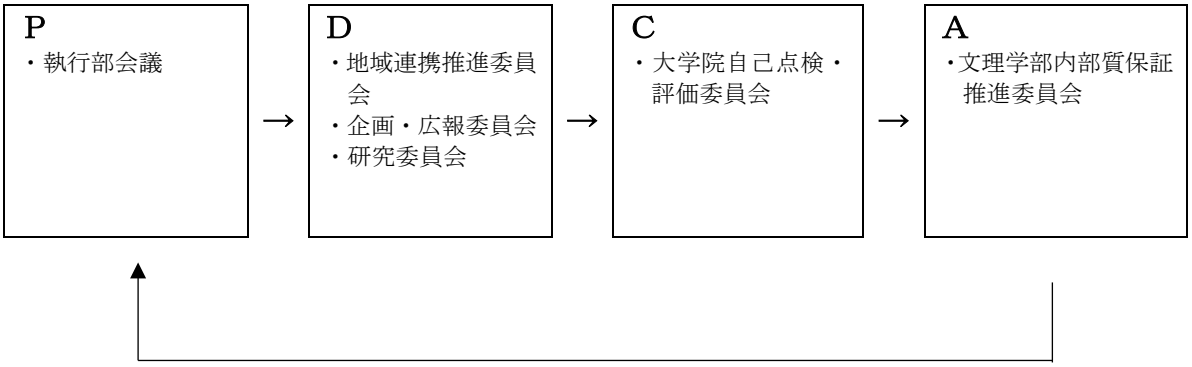
できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

課題として，教職員が行っている様々な社会連携・社会貢献活動の情報集約する場がなかったため，その機能を果たすため地域連携推進委員会の諮問事項として落とし込みを行った。また，企画・広報委員会が，教職員から集まる活動成果を学部ホームページ等で発信し，アクセス数などから社会から需要に応えられているか確認している。

令和７年度は，地域の小中学生向けに，大学の教育研究活動の社会還元を目的とした「体験フェア～キッズチャレンジ～」を学園祭期間に初めて実施し，より積極的な社会貢献活動を行った。上記イベントのアンケート結果を学科主任会でも共有し，未参加の学科にも次年度以降参加を促し改善を予定している。様々な活動を学部執行部に十分に共有できていなかったので，本年度の事業が終了した段階で，会議上程し，情報共有及び活動への理解を促進して，ブラッシュアップしていく。

また，次年度は学部ホームページ更新時期のため，教員のメディア出演情報・プレスリリースなど更新頻度が少なく他の情報に埋もれがちな社会連携・社会貢献活動の好事例を Top ページで発信できるよう改善を予定している。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

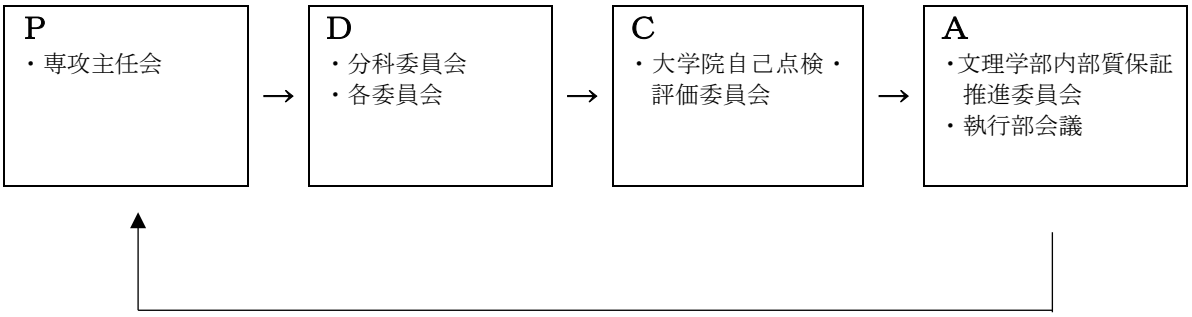
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院総合基礎科学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。
＜評価の視点＞
・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

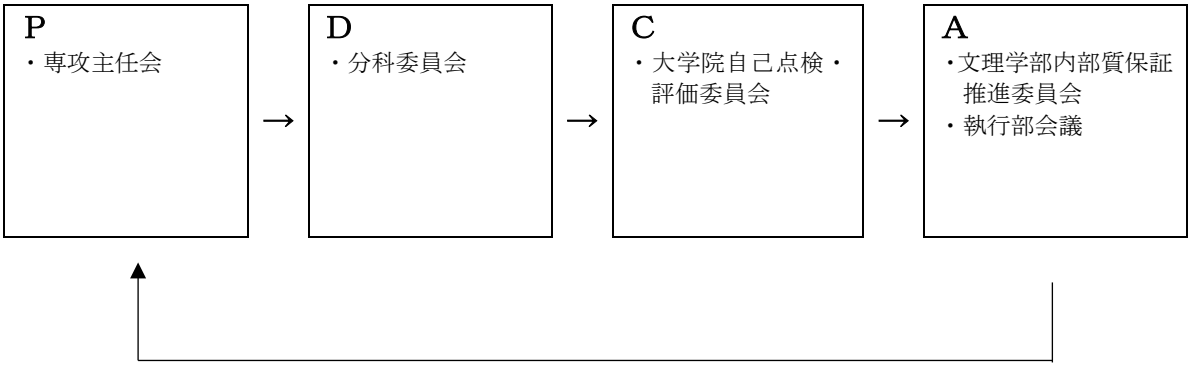
文理学部内部質保証推進委員会を開催し，内部質保証を支える基盤となる４委員会（大学院自己点検・評価委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院ＦＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会）の委員会での報告・審議事項等を点検・評価し，問題点を明確にしている。これらを基に４委員会に対し，文理学部内部質保証推進委員会から指示を与えている。また，その他の委員会についても，研究科の抱える諸問題の検討・解決を諮問事項として落とし込み全学部的に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育面については，月に１回又は２回開催している専攻主任会において，研究科専攻組織の必要に応じて点検・評価を行っている。諸問題が生じた際は，学部執行部と連携し対応に当たっている。また，文理学部内部質保証推進委員会から必要に応じて教学ＩＲ推進委員会に対し，専攻主任会と連携し教学ＩＲを適切に機能させている。

研究面については，文理学部では研究委員会だけでなく人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所にそれぞれ運営委員会が設置されており，研究委員会と付置研究所運営委員会が連携し審議している。また，毎年度末には全教員を対象としたモニタリング調査を実施しているほか，随時，研究委員会委員長（研究担当），研究委員会副委員長及び研究事務課で点検及び一定の評価を行っている。

なお，専攻や研究所の新設，専攻の改組等については，執行部で検討されており，より多角的な視点で専攻や研究所の新設，専攻の改組等について意見集約に努める段階である。

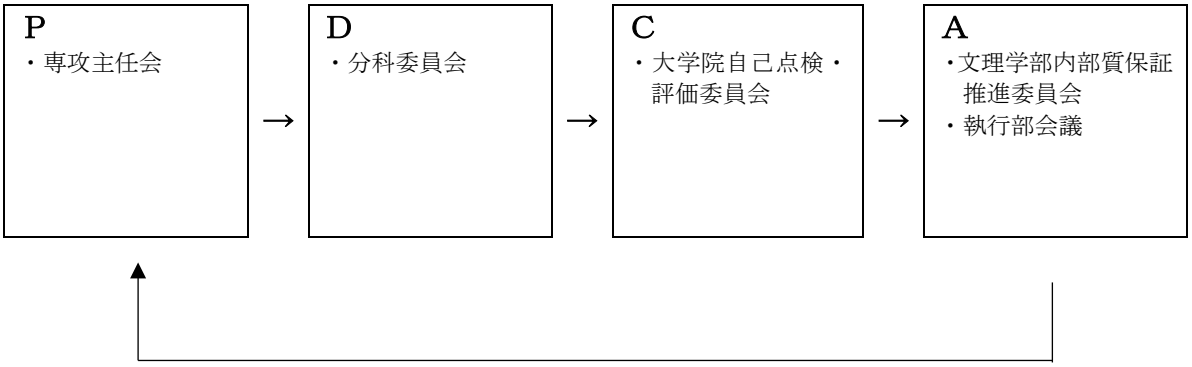
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

専攻主任会において，大学教育を取り巻く環境の変化等により必要に応じ，教育課程の改善・見直しを行っている。

教育職員免許状（専修免許状）を取得し，教員採用試験合格を目指す学生が毎年度一定数入学してきていること，また，いわゆる教員不足解消のため日本学生支援機構第一種奨学金返還免除に教員採用者が追加されたことを受け，令和７年度より必要となる科目を設置した。令和７年度学則変更により新設された科目の実施状況について，大学院自己点検・評価委員会において評価を行う予定である。

現在，今後の教育課程の改善・見直しに向けて，情報を収集している段階である。今後，得られた情報を大学院教学ＩＲ推進委員会や大学院自己点検・評価委員会等と共有し，改善・見直しに向けて活用していく予定である。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院独自のＰＤＣＡサイクル確立に向けて，令和６年度後期に，大学院ＦＤ委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会及び大学院自己点検・評価委員会を設置した。

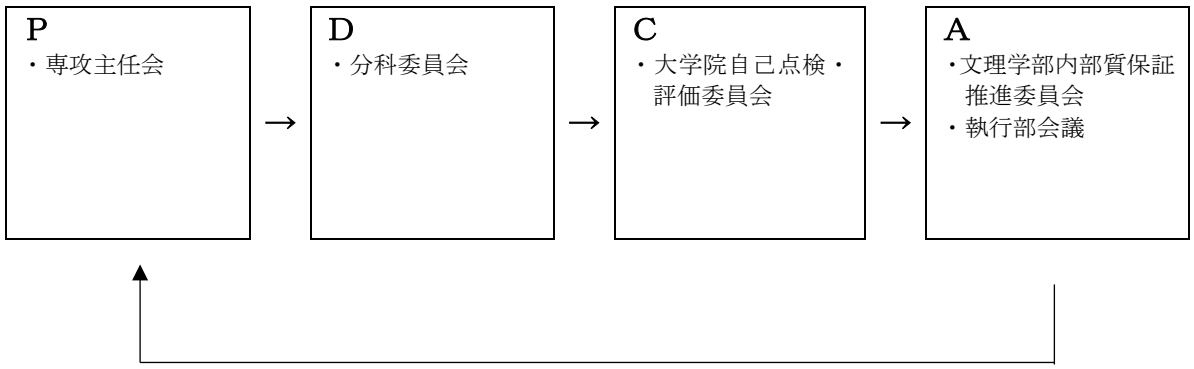
今後，大学院自己点検・評価の評価結果を共有し，専攻主任会にて教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上を図りたい。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院文学・理工学研究科専攻主任会において，学生の受け入れに係る事項について改善・見直しを行っている。

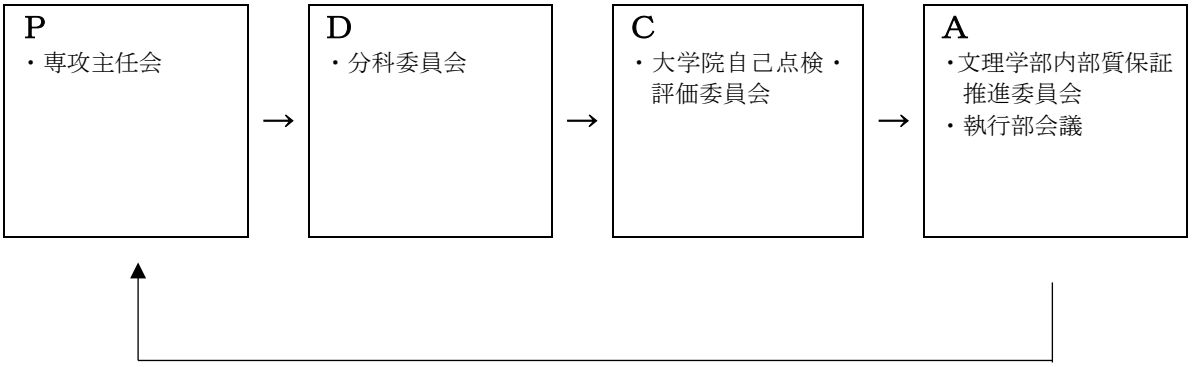
自己点検・評価結果及び全学自己点検・評価結果において，改善・向上すべき事項がある場合は速やかに関連委員会と共有し，改善・向上に向けて検討を進めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

法人が定める「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」に基づき，毎年度，学部独自に各職位の人数・年齢及び性別構成等を含む多様性に考慮し，教員配置計画（学科・専攻）を作成し，執行部会議において，将来にわたり大学院設置基準等を下回ることのないよう，かつ人件費を抑制することの両立を目指し人事計画を定めている。なお，その際に，計画どおりに人事計画が進行しないことも発生するが，その状況が複数年継続することのないよう，執行部会議にておいて確認を行っている。また，現在法人において検討されている特別教授制度（仮称）及び基幹教員制度の動向に注視し取り組んでいる。

なお，文理学部においては，各専門領域における 18 学科を設置しているが，絶えず変化と改革を促すことが必要であることから，学科に属さない総合文化研究室を設置し，教員を目指す学生のための支援や留学生・留学希望者・外国語学習者への支援のため各センター（教職センター，グローバル教育研究センター）に専任教員を配置するなどの取組を行っている。

令和７年度においては，組織のスリム化及び教員の負担減のため，国際交流委員会の機能をグローバル教育研究センターに統合できないか検討を行うなど，可能な部分から改善・向上を行っている。

大学院自己点検・評価委員会が令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

特定の教員に過度な授業負担が生じないようにするための具体的な方策や基準が示されておらず，「特になし」としていることは，教育研究活動を安定的かつ十全に展開するための教員組織の適正管理という観点から課題であり，改善が求められる。授業負担の偏在は，教育の質や研究活動への影響，更には教員の心身の健康にも直結するため，組織的な配慮と制度的な仕組みが不可欠である。今後は，授業担当数や業務内容の実態を把握した上で，負担の上限・下限を定めた基準や調整ルールを策定し，定期的に点検・評価を行う体制を整えることが求められる。

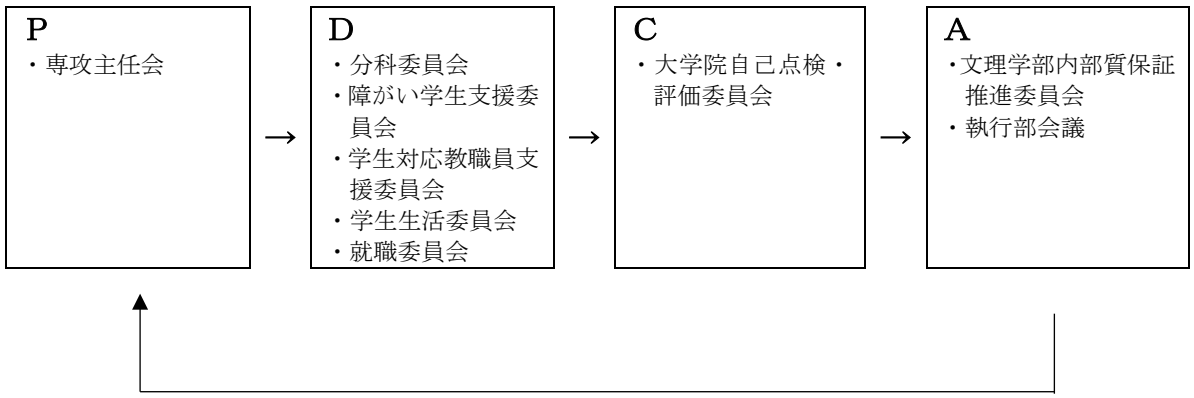
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「大学院固有のＦＤ活動を行っていないため，適切にこれを実施するよう改善が求められる」と提言が付されているため，改善が求められる。

改善課題である「授業負担の偏在への方策」は，学校法人基礎調査での教員別の授業持ちコマ数一覧を，労務管理している部署に共有することにより「見える化」に努めた。また，全教員対象のストレスチェックの職位毎の結果を安全衛生委員会で情報共有した。今後は，参考になるデータを収集しながら，授業持ちコマ数やストレスチェック結果のデータと実際の教員の負担にどれくらい相関があるのかなど，慎重に分析を行っていく予定である。

また，「大学院固有のＦＤ活動」について，法人本部主導で推進している状況のため，分科委員会が本部と連携しながら適切に対応していく予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部長の諮問機関として学生生活委員会を設置し，学生生活及び支援に関する事項について協議している。学生生活委員会では，学部行事・サークル活動及び奨学金等全般について協議等を行っている。また，前学期・後学期に１回ずつ学生生活に関する講演会を実施し，学生全体への注意喚起を行っている。

合理的配慮を求める学生からの申出は，「学生支援室窓口」が窓口となっている。

コーディネーターが調整役として，学生のニーズを聞き取り，必要に応じて臨床心理士によるカウンセラーに意見を求め，申出のあった学生の支援者を集めての関係者カンファレンスの開催，「障がい学生支援委員会」で審議の後，合理的配慮の提供が開始される。

合理的配慮の実施状況は学生にモニタリングを行い，その結果適切に配慮されていない場合は「障がい学生支援委員会」に報告し，対応及び調整が行われる仕組みを確立している。

また，合理的配慮を実施した教職員及び関係者にもモニタリングを行っている。

令和６年度の課題であった後学期の合理的配慮の決定（支援開始）のずれ込みは，後学期授業が始まる前（夏季休業）から受け付けができるように変更し，後学期授業開始第１回目から支援が開始できるように改善を行った。

また，全学科の教員が委員に属する学生生活委員会で，その他の学生支援の関係する委員会の課題等を集約できないか検討をしている。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成

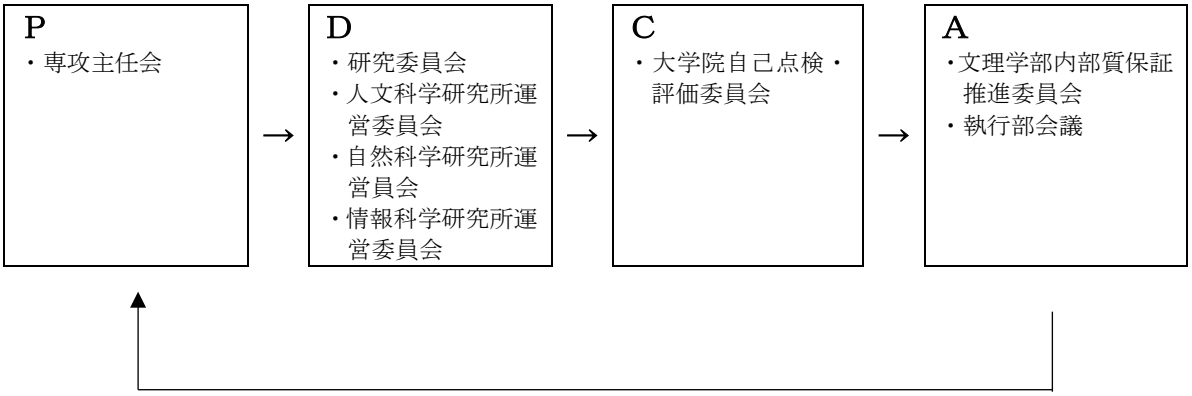
できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部は，研究委員会を設置し，「研究支援・促進体制の整備充実並びに高度化その他学術研究に関する重要事項を審議する」ことが規定の任務の一つとされている。

また，文理学部は，人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所の三つの研究所に運営委員会を設置し，各運営委員会が事業計画や研究費の審議を行うことが既定の任務の一つとされている。

そのため，研究等環境に関わる事項は，研究委員会のみならず，三研究所の運営委員会においても発議され，審議される体制となっている。

これにより，文系学科と理系学科が併設される文理学部にあっては，各委員会がそれぞれの分野での問題点等を発議することによって，検討がなされ，改善を図っている。

令和７年度は，科学研究費助成事業の機関管理に関する改正を行った。これまで前任の研究機関で科研費の研究代表者であった研究者が，当該研究の研究期間の途中で本学の研究員等となった場合，日本大学大学院文学研究科，総合基礎科学研究科及び理工学研究科地理学専攻を修了又は満期退学した者でなくても当該科研費の移管及び本学部在職期間における機関管理をできるように改正した。これにより，本学部の研究活動を更に活性化させるとともに，優秀な若手研究者の確保及び育成できるよう改善している。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成

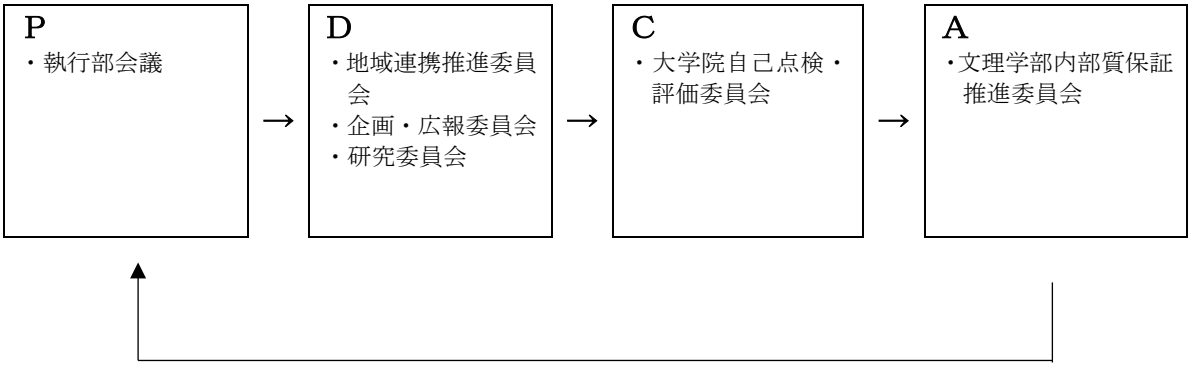
できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

課題として，教職員が行っている様々な社会連携・社会貢献活動の情報集約する場がなかったため，その機能を果たすため地域連携推進委員会の諮問事項として落とし込みを行った。また，企画・広報委員会が，教職員から集まる活動成果を学部ホームページ等で発信し，アクセス数などから社会から需要に応えられているか確認している。

令和７年度は，地域の小中学生向けに，大学の教育研究活動の社会還元を目的とした「体験フェア～キッズチャレンジ～」を学園祭期間に初めて実施し，より積極的な社会貢献活動を行った。上記イベントのアンケート結果を学科主任会でも共有し，未参加の学科にも次年度以降参加を促し改善を予定している。様々な活動を学部執行部に十分に共有できていなかったので，本年度の事業が終了した段階で，会議上程し，情報共有及び活動への理解を促進して，ブラッシュアップしていく。

また，次年度は学部ホームページ更新時期のため，教員のメディア出演情報・プレスリリースなど更新頻度が少なく他の情報に埋もれがちな社会連携・社会貢献活動の好事例を Top ページで発信できるよう改善を予定している。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

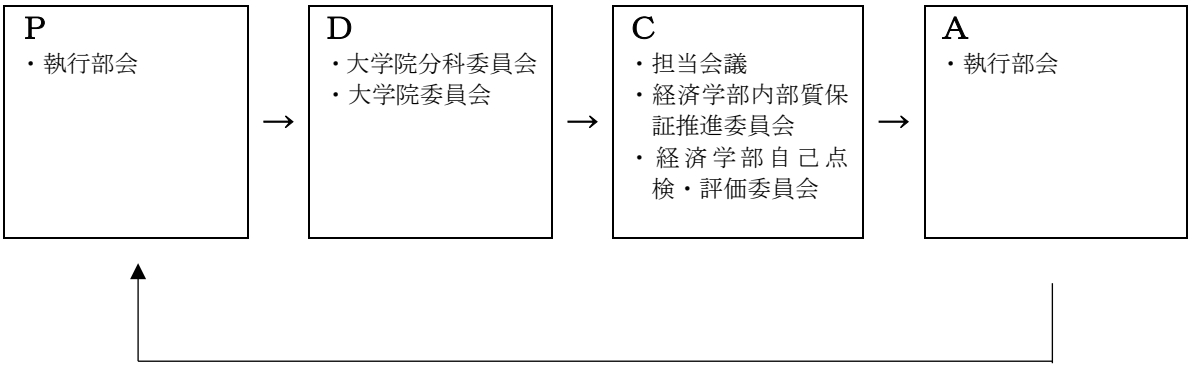
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院経済学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証体制として，学部の運営方針や改善計画を執行部会にて立案する（Plan）。その方針に基づき，大学院分科委員会における審議・決定を経て，各種委員会等が具体的な教育研究活動や業務を遂行する（Do）。これらの活動状況については，担当会議で各種委員会の運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な改善事例として，外部評価結果への対応が挙げられる。外部評価者が作成した外部評価報告書を，経済学部内部質保証推進委員会において点検・評価した際，大学院に関する課題が指摘された。これを受け，経済学部内部質保証推進委員会から大学院担当（大学院委員会）へ改善策の検討を指示した。その後，各委員会から提出された改善案が執行部会に諮られ，本研究科としての具体的な対策が決定・実行された。

その一例として，教育課程における教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）

及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正が挙げられる。外部評価報告書において，大学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の表現に関する見直しが指摘され，自己点検・評価等においても同様の課題が指摘されていた。これを受け，本研究科の教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を実態に即した内容へ変更すべく，大学院委員会で具体的な検討を行った。従来の教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）については，研究科全体に関する内容のみで，コースごとのポリシーが策定されていなかったため，教育課程の体系や授業形態等を整理し，各ポリシーに対応する内容を可視化するよう見直しを図り，コース別の具体的な改正案を策定した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

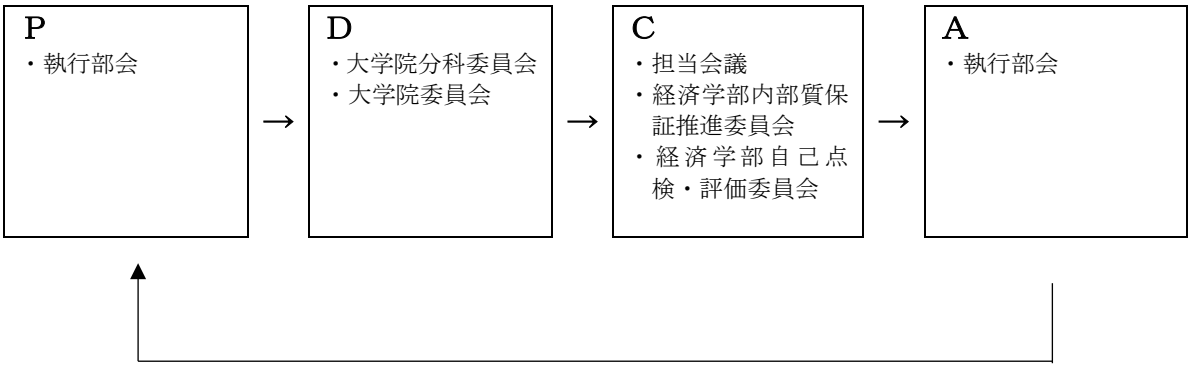
令和６年度の時点では，大学院における三つの方針の検証を，会議体において体系的に実施する取組は行われていない。そのため，研究科における点検・評価や改善にかかる活動が行われていない状況である。今後は，経済学部内部質保証推進委員会や大学院委員会等の既存組織を活用し，三つの方針の達成度や適切性を定期的に検証し，必要に応じて改善につなげる体制を早急に構築し，運用するよう是正されたい。

「令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果」で付された提言（是正勧告，改善課題）への対応について，経済学部内部質保証推進委員会において，指摘内容の事実確認及び検討を行った。その検証結果に基づき，経済学部内部質保証推進委員会名をもって，指摘事項に関連する大学院担当（大学院委員会）に対し，提言（是正勧告，改善課題）と検証所見に係る現状の課題分析及び具体的な改善策の策定を指示した。今後は，各担当部署から提出される改善計画に基づき，ＰＤＣＡサイクルを回しながら改善・向上を図っていく予定である。

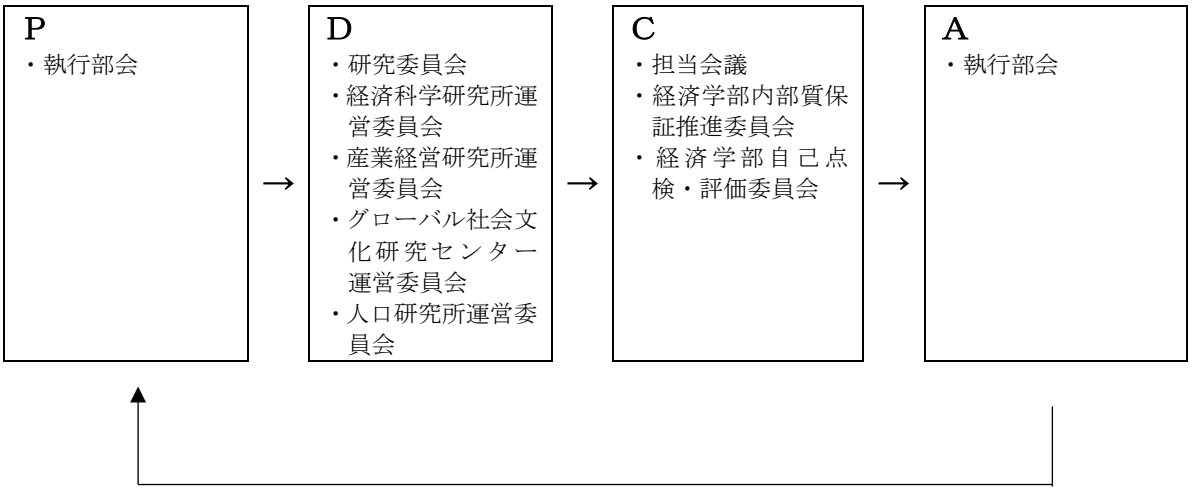
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育組織に関する事案】



【研究組織に関する事案】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

経済学研究科の組織改編については，執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき大学院分科委員会の審議・決定を経て，大学院委員会で社会のニーズを踏まえつつ現在の教育組織がう

まく機能しているか検証し，必要な検討を行っている（Do)。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行い(Check)，その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる教育組織の適正化に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる(Action)体制を整えている。

教育研究上の目的に照らして，現行の教育組織はおおむね適切に機能していると判断しており，組織改編を要する状況には至っていない。

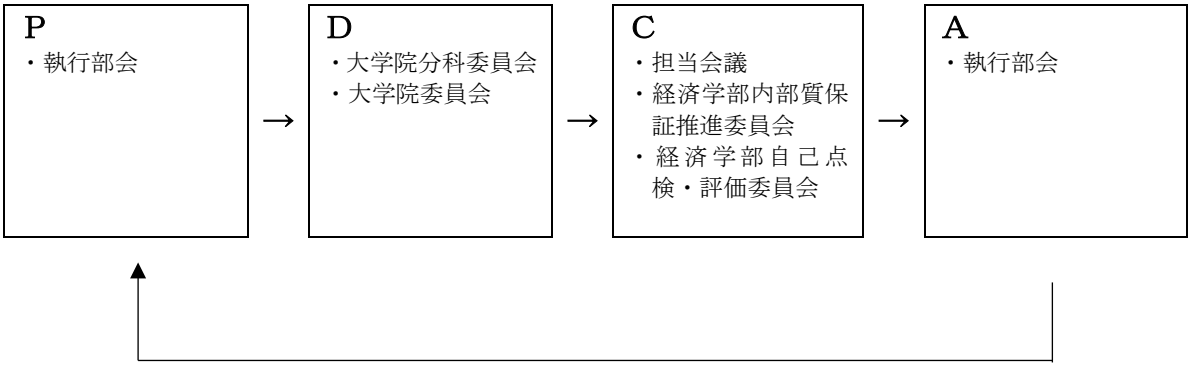
研究組織に関する事案については，執行部会を中心に，現状の問題点，課題を抽出の上，運営方針を立案し（Plan)，研究委員会，各研究所・研究センター運営委員会を経て，計画を具体化・実行している（Do)。また，これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価した（check）上で，執行部会が改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法については，執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき，大学院分科委員会の審議・決定を経て，大学院委員会で計画を具体化している（Do）。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている(Check)。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や教育課程の改定等について，改善策を策定し，次の計画へと反映させる(Action)体制を整えている。

令和２年度には，博士前期課程において同一名称科目の改廃・再配置を実施するとともに，博士後期課程では，研究指導科目を新たに単位化するとともに，論文指導に特化した科目を新設した。これにより，講義科目と研究指導科目を適切に関連付け，体系的な教育課程へと再構築した。

令和７年度においても，定期的な検証・評価を行い，また，外部評価の結果及び経済学部内部質保証推進委員会からの指摘事項を踏まえて，大学院委員会で改善に向けた検討及びカリキュラムの改正手続を行っている。

また，毎年，半期ごとに行っている学生による授業アンケートの結果を基に，教員が「授業改善計画報告書」を作成し，その後の授業運営の改善につなげている。なお，この報告書は，学生からのフィードバックを反映し，授業運営方法の改善を図るために活用している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

自己点検・評価の結果及び外部評価の結果を踏まえて，大学院委員会で教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に向けて，改正案を策定した。令和４年度自己点検・評価結果に対する検証では，従来の「学びの内容に応じた関連科目を示した履修モデル」に加え，学生に身につけさせる知識・能力と授業科目との対応関係を明確にし，体系的な履修を促すことを目的として，履修系統図を策定した。

また，令和７年度には，自己点検・評価及び大学評価（認証評価）等における指摘事項を基に，大学基準協会の参考資料を踏まえ，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合を図りつつ，教育課程の体系や授業形態等の整理を行い，コースごとのポリシーを策定し，各ポリシーに対応する内容が可視化できるように教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

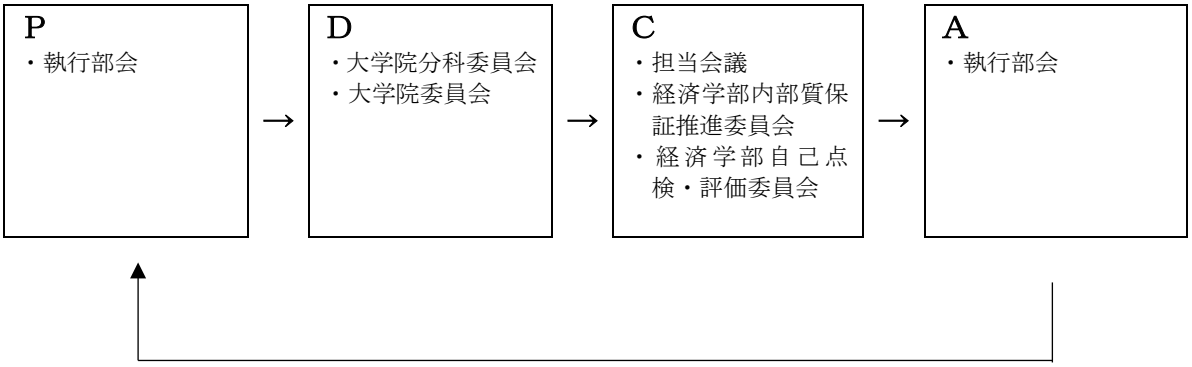
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，経済学研究科博士前期課程では，編成及び実施に関する基本的な考え方を示していないと指摘されているため，改善が求められる。

「令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果」で付された提言（是正勧告，改善課題）への対応について，経済学部内部質保証推進委員会において，指摘内容の事実確認及び検討を行った。その検証結果に基づき，経済学部内部質保証推進委員会名をもって，指摘事項に関連する大学院担当（大学院委員会）に対し，提言（改善課題）と検証所見に係る現状の課題分析及び具体的な改善策の策定を指示した。大学院委員会において指摘内容の事実確認及び検討を行い，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のコースごとの具体的な改正案を作成し，担当会議及び大学院分科委員会の審議・決定を経て，改善を図った。今後もＰＤＣＡサイクルを回しながら改善・向上を図っていく予定である。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れ方針については，執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき，大学院委員会が志願者の動向等を踏まえて，選抜方法・判定基準等の検証を行っている（Do）。

また，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において，定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる適正化に向けた改善策を策定し，次年度以降の入学試験（制度）改革に反映させる（Action）体制を整えている。

改善・向上を図った事例等について特筆すべきものとしては，以下のとおりである。

(1)　令和６年度入学試験から，博士前期課程の税法コースを除く一般入学試験及び外国人留学生入学試験の選考方法を変更し，筆記試験に専門科目を課すことで，より正確な専門性に関する基礎学力の確認を行い，入学後の指導方針等に役立てることとした。

(2)　令和８年度入学試験から，志願者数及び在籍学生数の増加並びに実務経験を通じ専門領域のより深い知識の習得及び研究活動の活発化を目指し，博士後期課程社会人（実務経験者）入試を導入した。

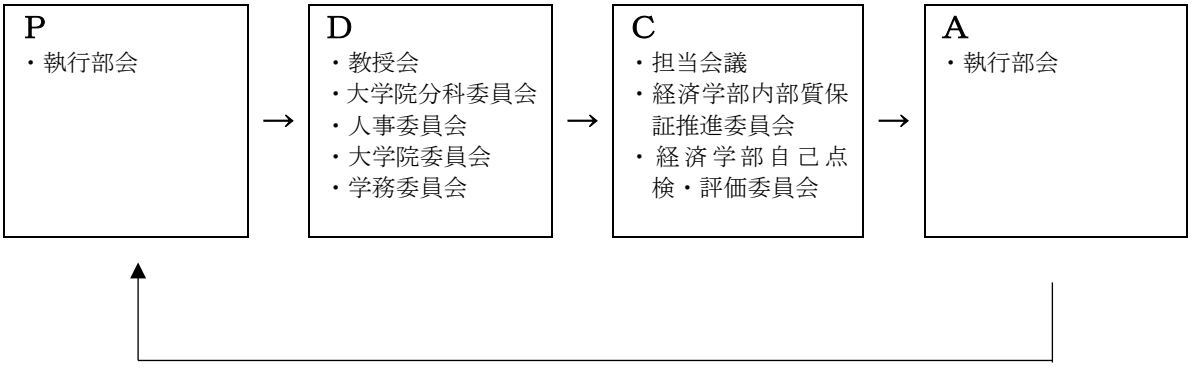
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院設置基準や長期的な人事計画に基づき，学部等教員組織編成方針及び教員配置計画を執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき大学院委員会に意見聴取をしつつ学務委員会及び人事委員会で計画を具体化し，教授会等で審議・決定を経ている（Do）。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる教員組織の適正化に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

改善・向上を図った事例として，経済学部人事関連内規等の改正が挙げられる。従来の内規等が実態に即したものではない点や「教員資格審査規程」を満たしていない点等の指摘があり，人事委員会が現行に即した専任教員採用の審査プロセスの整理，採用と昇格・再任の分化，「教員資格審査規程」第３条の導入及び審査基準の改善を行った改正案を作成した。担当会議及び執行部会を経て，教授会で審議・決定し，令和６年度から運用を開始した。これにより，人事手続の透明性・公正性の向上を実現している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ガイダンスが個別説明のみにとどまっているため，授業補助者としての資質向上や業務の質的統一性という観点からは，体系的研修の未実施が課題であり，改善が求められる。また，ハラスメント防止や個人情報保護，学生対応スキル等，教育支援業務に必要な基本的事項の周知についても，全体的な共有機会が不足している。以上より，規程に基づいたＴＡ制度が運用され，個別の業務説明により一定の役割理解は図られているが，業務の質保証と資質向上を目的とした体系的なガイダンスや研修体制の整備が，今後の課題であり，改善が求められる。

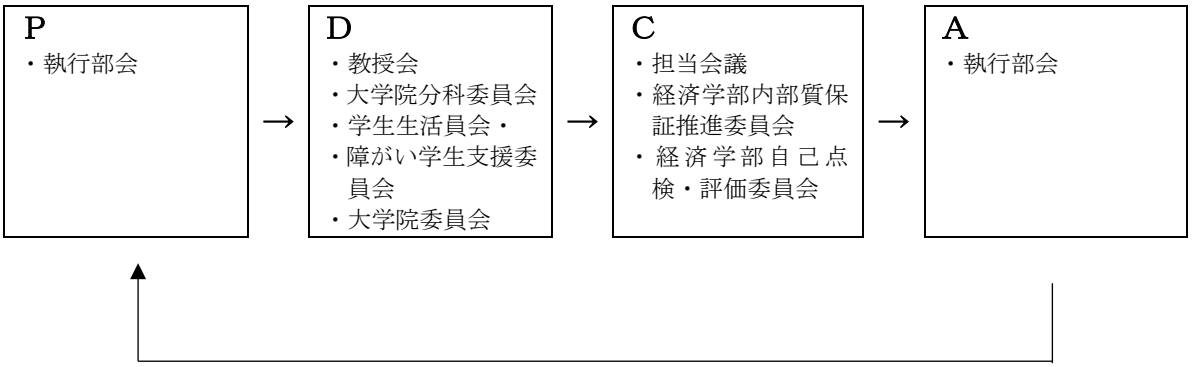
ＳＡに対する体系的なガイダンスや研修は実施されておらず，業務に必要な基本的な心構えや教育補助者としての役割理解，ハラスメント防止や守秘義務等に関する共通理解の機会が不足している点は改善が求められる。

「令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果」で付された提言（改善課題）に対しては，まず自己点検・評価において抽出された課題を踏まえ（Check），執行部会において具体的な改善方策の検討・決定を行っている（Act）。その決定内容（Plan）に基づき，大学院委員会において研修実施方針及び内容を審議・共有した上で実行に移し（Do），教務課員がＴＡに対して個別に業務内容・役割や守秘義務等の対面指導を行っている。さらに令和７年度からは，新任教員が視聴する研修動画と同様の内容をＴＡにも視聴させ，理解度確認アンケートを提出させる運用を開始した。加えて，研修内容の体系化と質的向上を図るため，執行部会での改善方針の決定（Action）を踏まえ，大学院委員会を中心として研修動画の更新や補助資料の整備を進めており，ＴＡとして求められる基本的な知識・技能（授業補助の基礎，ハラスメント防止，情報セキュリティ，学習者支援等）を網羅できるよう内容の改善に取り組んでいる。研修受講状況及び受講後のアンケート結果は，経済学部自己点検・評価委員会等において検証し（Check），その結果を執行部会での改善策の検討（Action）へとつなげている。

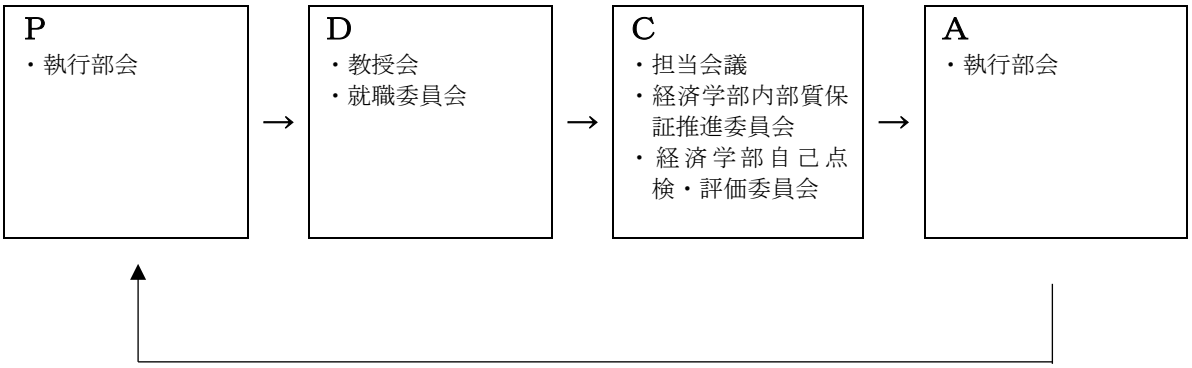
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活に関する事案】



【進路選択に関する事案】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活に関する事案については，方針を執行部会で立案し（Plan），その方針に基づき，各種奨学金及び学生生活全般における各種支援を学生生活委員会，合理的配慮の提供や障がいのある学生への支援を障がい学生支援委員会で計画を具体化し，教授会及び大学院分科委員会で審議・決定を経ている（Do）。これらの取組状況については，担当会議で運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会

で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な改善・向上を図った事例として，外部評価結果への対応が挙げられる。学外者による外部評価報告書で指摘を受けた事項に基づき，経済学部内部質保証推進委員会では，改善事項として「部活動・サークル活動支援の姿勢」及び「学生を対等な教育パートナーと捉えた支援の在り方」が示された。これらの指摘事項に対し，学生生活委員会では，学生サービスの質向上を目的とし,「学生のニーズや期待に寄り添った窓口対応や親しみやすい案内や明確な手順を提供する」及び「学内イベント等で学生が主体的に意見を述べることができる環境や意思決定に関与できる環境を整える」等の改善案を提示し，執行部会に諮られ，経済学研究科としての改善に向けた取組方針が示された。

また，障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供義務化を受け，執行部による体制強化の指示に基づき，令和６年度から学生支援窓口の拡充を行った。具体的には，学生支援窓口に社会福祉士２名・看護師１名の計３名による有資格者体制を整備し，合理的配慮の円滑な提供及び入学から卒業まで，きめ細やかで一貫した支援が可能となった。

進路選択に関する事案については，学部及び大学院研究科で支援内容に差異はないため執行部会で立案された（Plan）学部運営方針に基づき就職委員会で計画を具体化し，教授会で審議・決定を経ている（Do）。これらの取組状況については，担当会議で運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

改善・向上に取り組んだ事例としては，障害者差別解消法の改正に伴う合理的配慮の提供義務化を受け導入した「修学上の合理的配慮が必要な学生のキャリア相談」が挙げられる。これは，就職指導課と学生支援室（学生支援窓口）が連携し就職支援を行う学部の方針を就職委員会で具体化したものである。相談には，キャリアコンサルタント及びメンタルヘルス系の有資格者，障がい者支援業務経験のあるカウンセラーを配置し，学生支援窓口と連携して一人一人の状況に応じたきめ細やかな就職支援体制を整えた。

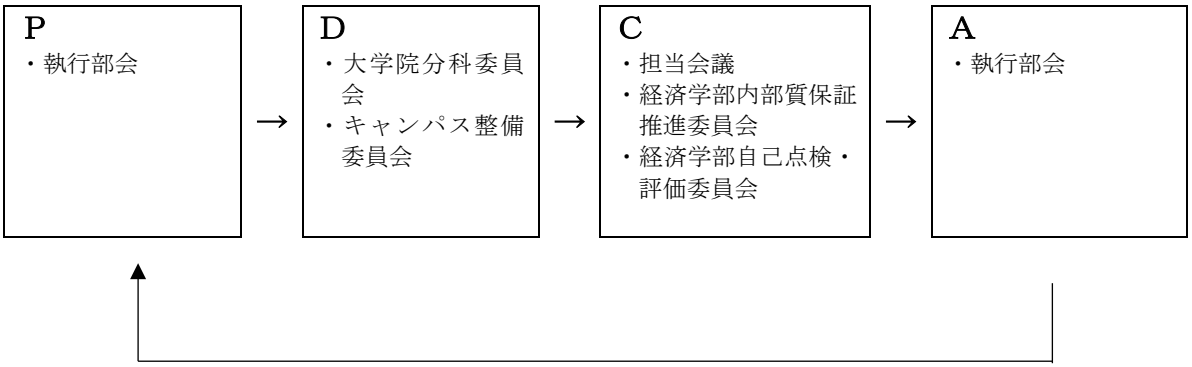
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

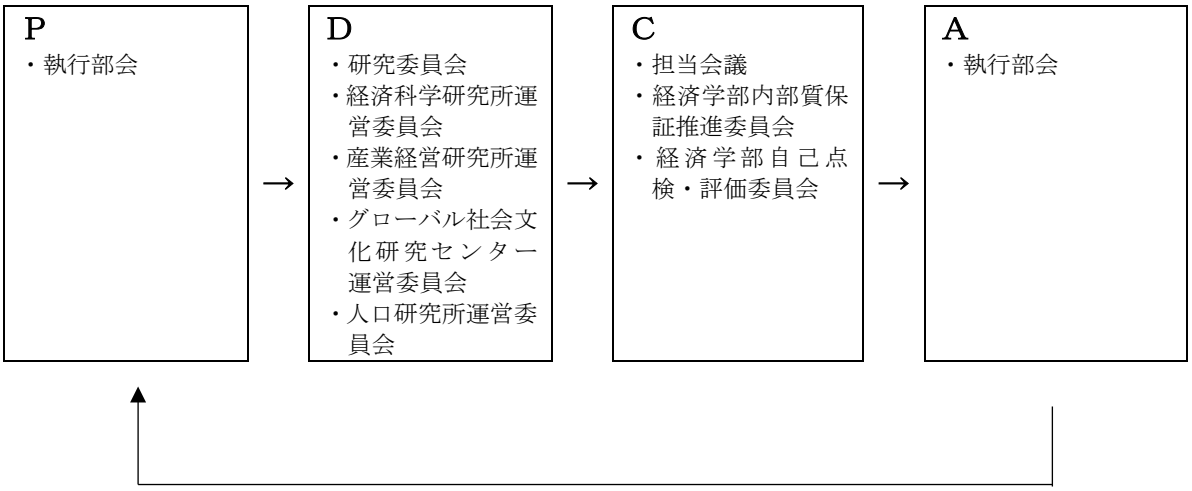
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究室等の施設・設備に関する事案】



【研究費等に関する事案】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩4　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境のうち，研究室等の施設・設備について，運営方針を執行部会で立案（Plan）し，その方針に基づき大学院分科委員会における審議・決定を経て，キャンパス整備委員会で計画

を具体化・実行している（Do）。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決や更なる環境向上に向けた改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

令和７年９月に竣工した本学部２号館の事例を挙げると，当初の計画では，各教員の研究室への洗面台の設置は検討されていなかったが，設計段階における検討・検証の過程で，コロナ禍を経て定着した新しい衛生基準や社会情勢の変化を踏まえ，個室内での手洗い・うがい等，衛生環境の確保が必要との意見があった。これを受け，執行部会及びキャンパス整備委員会で計画の見直しを行い，全研究室への洗面台の設置を決定・実行した。この変更により，感染症対策が強化されるとともに，研究活動における教員の安心・安全が確保され，より研究に専念できる環境の構築につながっている。

研究費等に関する事案については，研究する上での現状の問題点，課題を抽出の上，執行部会を中心に運営方針を立案している(Plan)。研究委員会，各研究所・研究センター運営委員会を経て，計画を具体化・実行している（Do）。これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価した（Check）上で，執行部会が改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Act）体制を整えている。

具体的事例として，研究を充実させるために専任教員には申請に基づき研究費を支給し，過去２年度内に業績がある場合は上乗せして支給する。特任教授にも，研究奨励費という形で研究費を支給し，研究に専念できる環境を整えるよう努めている。

また，リサーチ・ラボを開設するに当たり，当初，利用管理システムの導入は検討されていなかったが，検討・検証の過程で，利便性の点から研究委員会で見直しを行い，導入を決定・実行した。この変更により，研究者の利用に際し，場所の予約が誰でも確認でき，希望に応じた使用に対応しやすくなり,研究活動を活発にできる環境の構築につながっている。

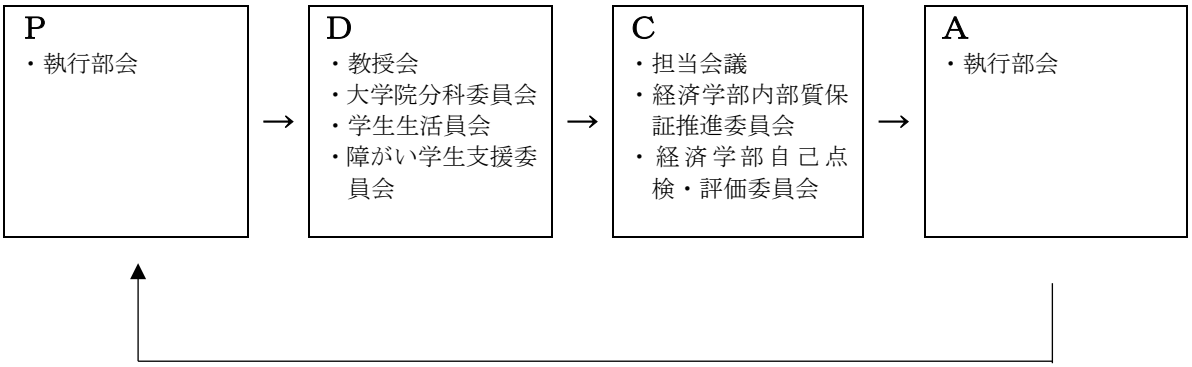
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

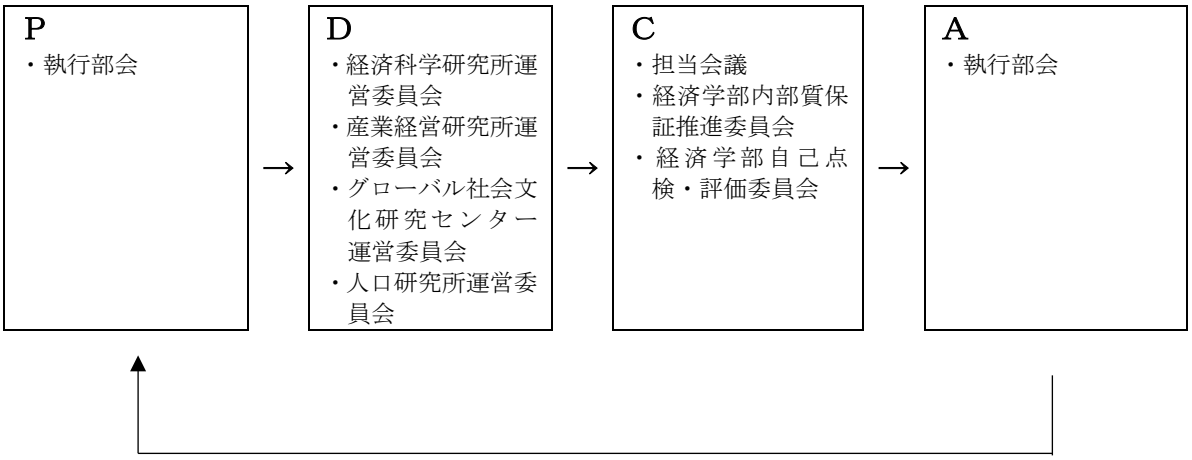
基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活に関する事案】



【研究に関する事案】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献において学生に関わる事項については，学部の方針を執行部会で立案し(Plan)，その方針に基づき学生生活委員会や障がい学生支援委員会で計画を具体化し，教授会及び大学院分科委員会で審議・決定を経ている。その上で，学生課又は学生支援窓口が，千代

田区や千代田区社会福祉協議会，ＮＰＯ法人，神田警察署等と連携し，ボランティア活動を含む社会貢献活動や地域連携を遂行している。これらの活動状況については，担当会議で運営内容等を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価を行っている（Check）。その評価結果に基づき，執行部会で課題解決に向けた改善策を策定し，次年度の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な改善・向上を図った事例として，学部長が定めた「社会課題解決型学部実現に向けた方針」への対応が挙げられる。この方針を受け，学生生活委員会では，社会課題を解決するＳＤＧｓ等への取組を行う学生の課外活動への支援として，「社会課題解決型学生プロジェクト」を令和７年度に設立した。

研究に関する事案については，現状の問題点，課題を抽出の上，執行部会を中心に運営方針を立案し（Plan），研究委員会，各研究所・研究センター運営委員会を経て，計画を具体化・実行している（Do）。また，これらの活動状況については，担当会議で進捗状況を常時確認（モニタリング）するとともに，経済学部自己点検・評価委員会及び経済学部内部質保証推進委員会において定期的な検証・評価した（check）上で，執行部会が改善策を策定し，次の計画へと反映させる（Action）体制を整えている。

具体的な事例として，各研究所・研究センターでは，学外の研究者や実務家を招いて講演会を開催し，地域住民を含む一般社会人にも公開している。講演会終了後には，参加者アンケートを実施し，寄せられた評価や改善要望について，各運営委員会で運用面を含めた協議を行っている。その改善策の一環として，周知強化のために千代田区内にポスターを掲示するなど改善・向上に努めている。また，運営委員会では，各教員から申請された研究プロジェクトについて，その成果が社会へ還元可能かという観点も含めて検討を行っている。これらの活動を通じ，大学の研究能力と企業・団体のノウハウを連携させた受託研究・共同研究へと発展させることを目指している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

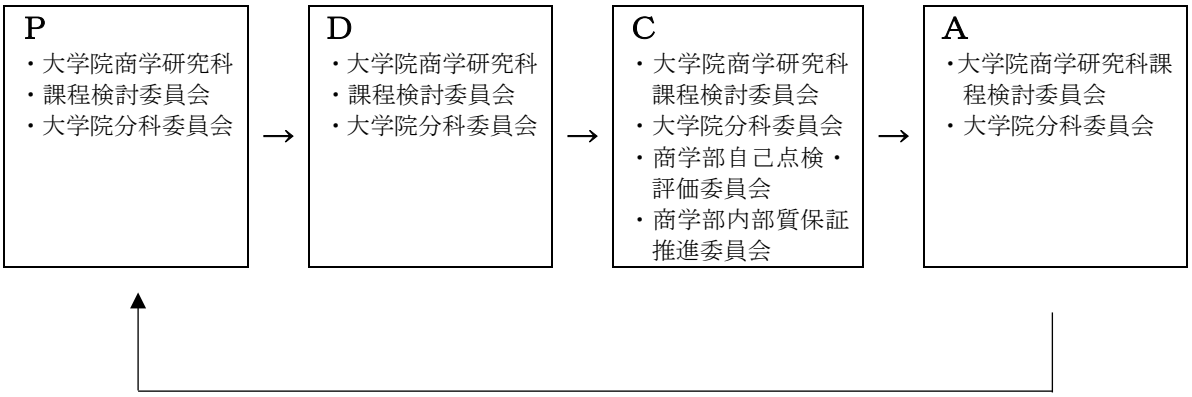
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院商学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

(1)　点検・評価の体制

内部質保証システムの有効性及び適切性に関して，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証の充実を図るため，商学部内部質保証推進委員会が中心となって，商学部自己点検・評価委員会はじめとした関係委員会と協力しつつ，本研究科の教育・学修等が理念・目的をはじめ，本研究科における３つのポリシーなどに照らして，教育の質を保証できるよう対応している。

(2)　改善事項への対応

自己点検・評価，監事監査，商学部独自で行っている商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価の結果を，商学部内部質保証推進委員会で総合的に検証した上で，学務事項など大学院教育の質保証を図るため，大学院課程検討委員会及び大学院分科委員会にて検討・立案し，研究科長への意見具申できる体制を構築している。

(3)　点検・評価における外部評価の仕組み

本研究科では，「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，商学部内部質保証推進委員会が中心となり，内部評価者と外部評価者が，点検・評価を実施している。この点検・評価は，内部評価者７名と外部評価者３名が，以下のような項目などにおいて実施している。なお，外部評価者へは，点検・評価を実施する前にヒアリングを行い，その内容を点検・評価票へ反映させている。

ア　入学者選抜（学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえると，適切に設定されているか等）

イ　カリキュラムの内容（教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえると，授業科目群の構成，授業科目の位置づけ〔必修・選択等〕及びバランスは適切であるか等）

ウ　学修成果（授業科目ごとに，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示された８つの能力のうちどの能力に該当しているか等）

(4)　結果の共有と改善促進

対応の結果を商学部内部質保証推進委員会で報告している。特に重要な改善事項については，大学院商学研究科課程検討委員会や大学院分科委員会で報告，必要に応じて対応を図るなど，改善活動を行っている。

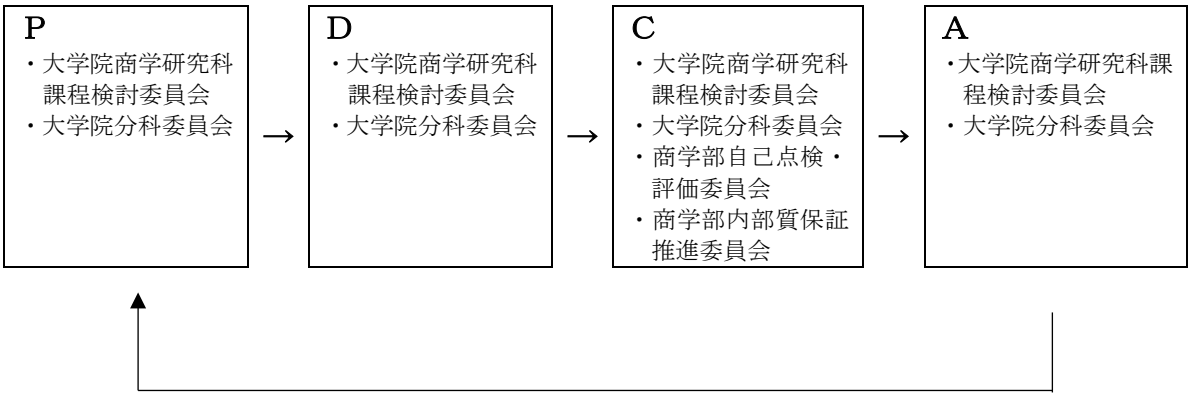
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

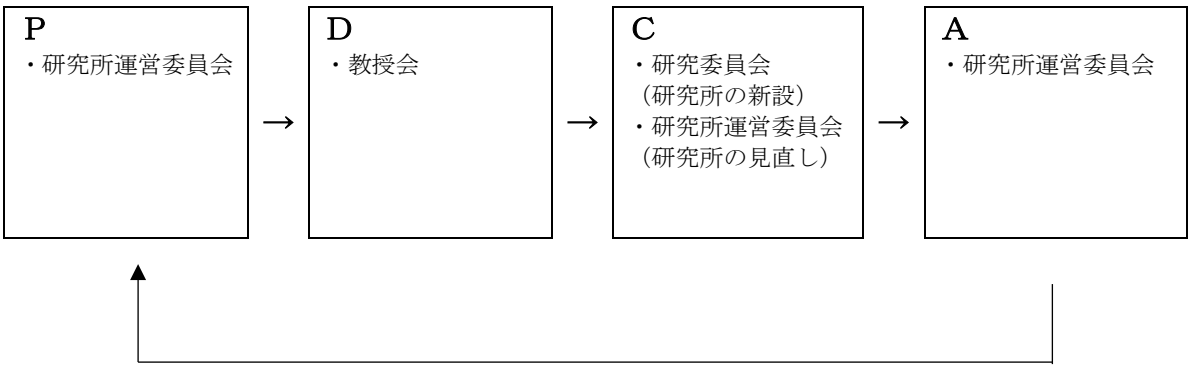
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教育組織に関する事項】



【研究組織に関する事項】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織に関して，商学部内部質保証推進委員会が中心となり，本研究科における教育活動の取組等に関し，３つのポリシーを踏まえた適切性に係る点検・評価を行い，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証を図ることを目的にしている「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，毎年度点検・評価を行っている。

なお，令和６年度大学評価（認証評価）結果における収容定員に対する在籍学生数比率の是正についての提言を踏まえ，大学院課程検討委員会が中心となって定員充足に向けた改善を行っている。また，近年の志願者動向や社会的ニーズを踏まえ，本研究科の定員充足を踏まえた組織の適切性の議論を継続していく。

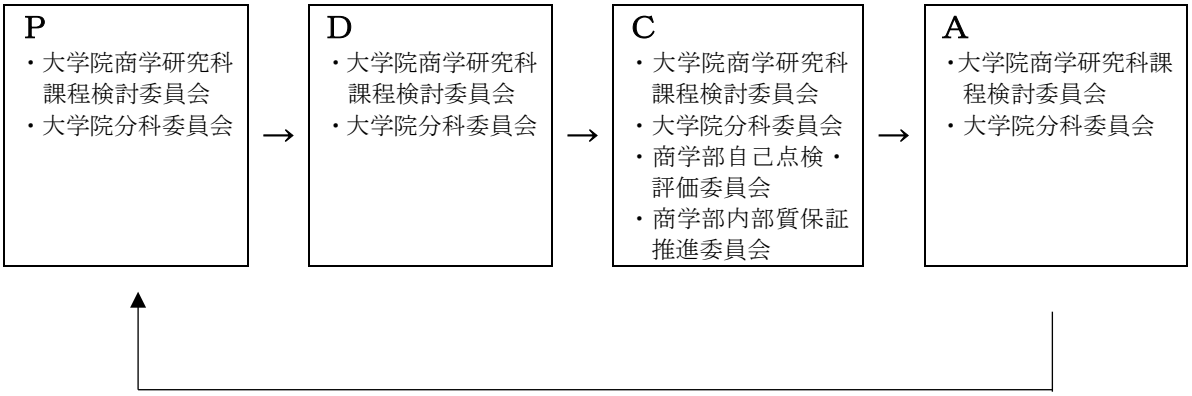
研究所の新設については，研究委員会が点検・評価を実施し，研究所の見直しについては，研究所運営委員会が点検・評価を実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

商学部内部質保証推進委員会が中心となり，本研究科における教育活動の取組等に関し，３つのポリシーを踏まえた適切性にかかる点検・評価を行い，教育活動のＰＤＣＡサイクル及び質保証を図ることを目的にしている「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，内部評価者７名と外部評価者３名による点検・評価を年１回実施し，検証を行っている。また，３つのポリシー，カリキュラム及び学位論文審査基準等の検討や見直し等大学院教育の質保証を図るため，大学院課程検討委員会や大学院分科委員にて検討，立案し，研究科長へ具申できる体制を整えており，その結果を商学部内部質保証推進委員会で検証している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

自己点検・評価結果において，商学部内部質保証推進委員会を中心にして，教育課程及びその内容や教育改善・向上に関して大学院商学研究科課程検討委員会にて具体的に検証し，改善の必要がある場合は対応を行っている。

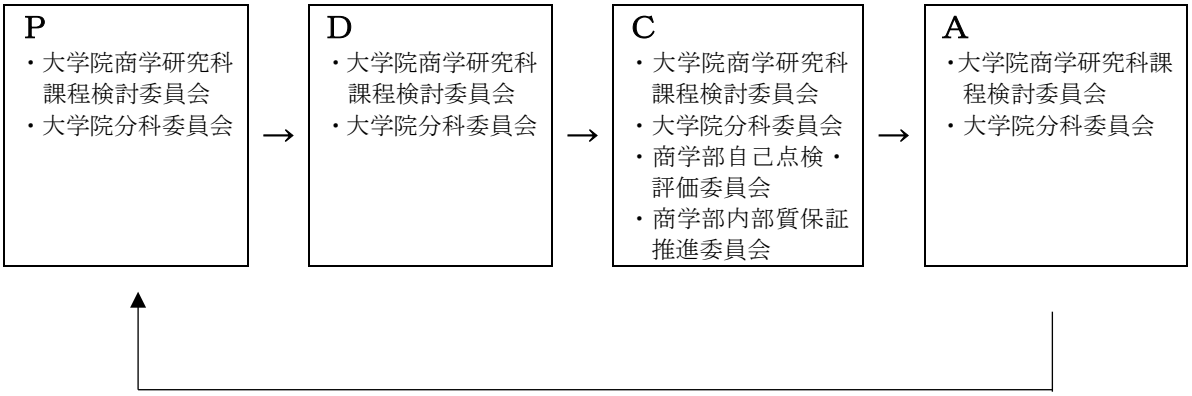
令和７年度は，全学自己点検・評価結果の改善事項に基づき，博士前期課程及び博士後期課程における教育フロー及び履修系統図の策定を行い，体系的な履修を促していくための改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科の学生の受け入れに関わる事項は，主として大学院課程検討委員会が定期的に入学者選抜の出願者数や合格者数等の実施状況から取組を検証し，点検及び評価を行っている。また，研究指導体制の充足状況等を入学者の研究指導体制等の確認を踏まえ，点検及び評価を行っている。学部教育との連携から内部進学を促すとともに，オープンキャンパスや日本語学校及び塾への訪問などを行い，入学志願状況の動向を捉えた上で，最終的には大学院分科委員会にて検証を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

博士前期課程の収容定員に対する在籍学生数比率が 0.34，また，博士後期課程の同比率が 0.13 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「収容定員

に対する在籍学生数比率について，商学研究科博士前期課程で 0.23，同博士後期課程で 0.10 と低くなっているため，大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる」との提言が付されているため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で収容定員に対する在籍学生数比率についての提言を踏まえ，大学院課程検討委員会において入学者選抜の実施状況等を検証し，それに基づいた改善策の計画を立案し，大学院分科委員会で審議決定し，以下の取組を実施している。

(1)　大学院科目早期履修制度の導入

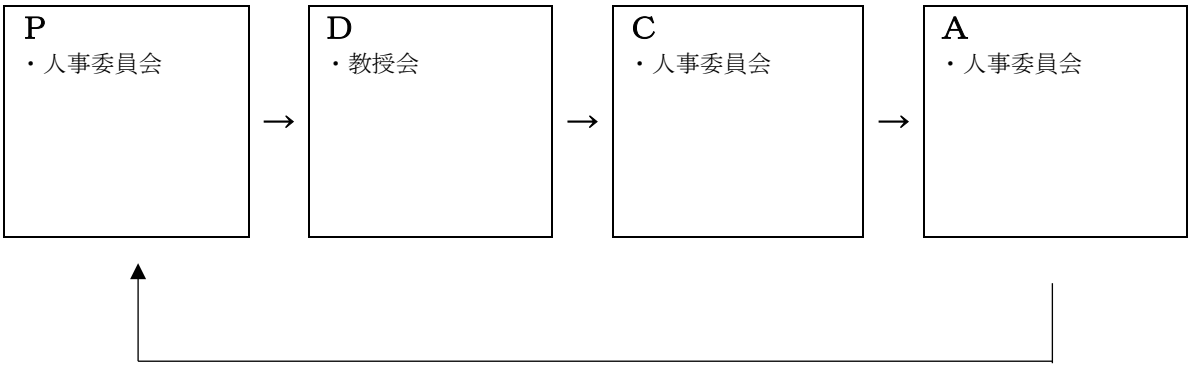
(2)　外国人留学生入学試験（第２期）を導入及び広報活動の充実

以上を実施し，令和８年度入学試験においても，第１期入学試験では，前年度入学試験と同水準が受験しており，定員割れ解消に向けた改善策が奏功している。今後も継続して取り組み，大学院課程検討委員会において引き続き動向を注視する必要がある。

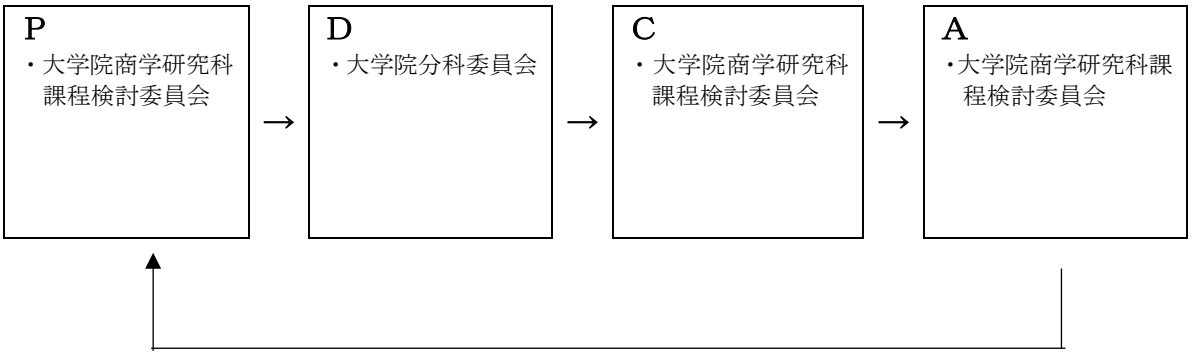
基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教員採用・昇格人事に関する事項】



【大学院科目担当教員の資格認定に関する事項】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

商学研究科では，学部の教員採用に併せて，教員組織を維持するための人員を確保するために，人事委員会において教員の昇格・採用を含む中・長期にわたる教員組織・人事計画を行っている。教員人事については，「商学部教員採用の取扱いに関する要項」に基づき，人事委員会で教員の新規採用に係る募集要項（採用科目等）や採用に係る教育研究業績に関する事項，「商学部教員昇格の取扱いに関する要項」に基づく昇格に関する事項，その他特任教授の委嘱や非常勤講師の新規採用等について審議し，教授会に上程している。特に，新規教員採用人事案件に関しては，人事委員会で募集要項（採用科目等）を精査し，人事委員会から教授会に募集要

項（採用科目等）を上程している。教授会は，人事委員会案の妥当性・適正性を審議の上，公募を開始している。採用候補者の審査過程の透明化を図るため，人事委員会案の専門小委員，業績審査員を教授会で公表し，その妥当性・適正性を教授会で審議している。教授会の審議を受けて，次年度の教員採用等の教員人事案件を人事委員会において検討を行い，次回以降の採用計画に反映させるなど，教員組織の充実を図っている。

また，大学院担当教員の任用については，大学院設置基準に定める研究指導教員数及び研究指導補助教員数を充足させるため，大学院商学研究科課程検討委員会において，「大学院商学研究科教員の資格認定及び審査手続に関する内規」に基づき，大学院博士前期課程及び大学院博士後期課程の教員任用に係る資格確認，科目検討等を行い，大学院商学研究科課程検討委員会の審議を経て，大学院分科委員会に上程し審議を行っている。

なお，点検・検証の結果，改善・向上を図った事例としては次のものが挙げられる。一つは，年齢構成の歪みを改善するために，助教，専任講師及び准教授を中心に新規採用人事を進め，若手教員を増員した。もう一つは，専門科目の充実・強化を図るため，過去 20 年間において専任教員が担当した科目の洗い出しを行った。その結果，直近の退職者の科目を中心とした補充人事だけではなく，専門科目を充実・強化するための新規採用人事を進めた。

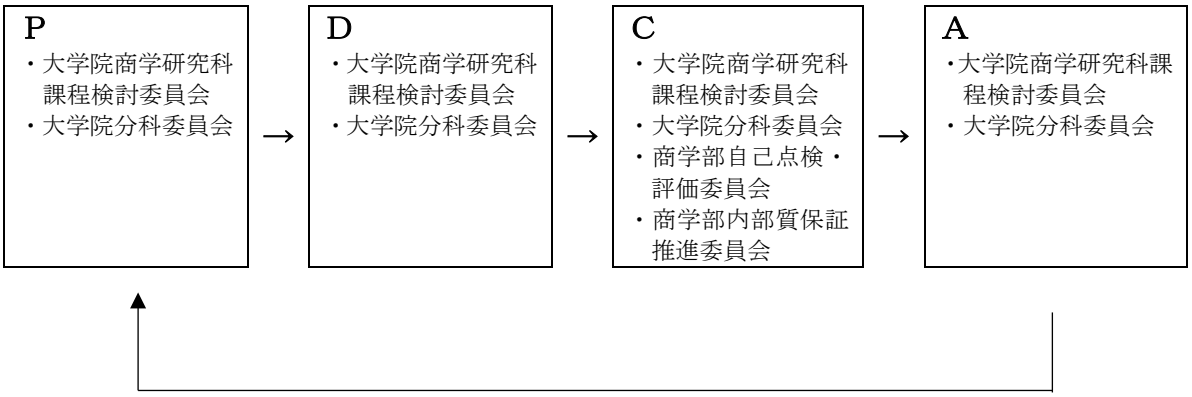
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

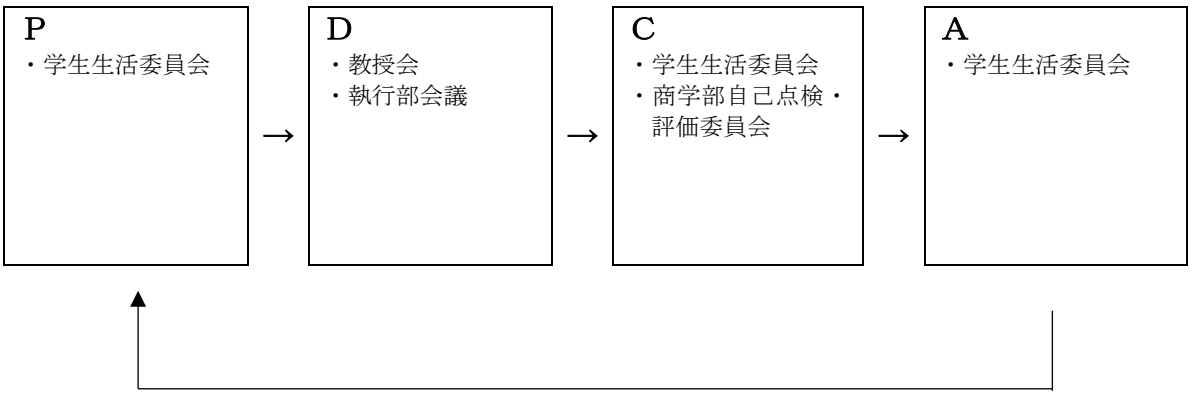
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

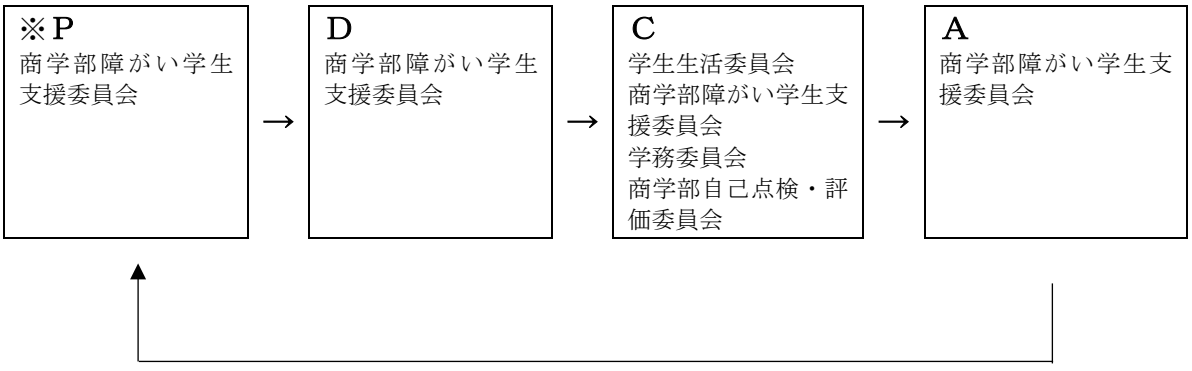
【修学支援に関する事項】



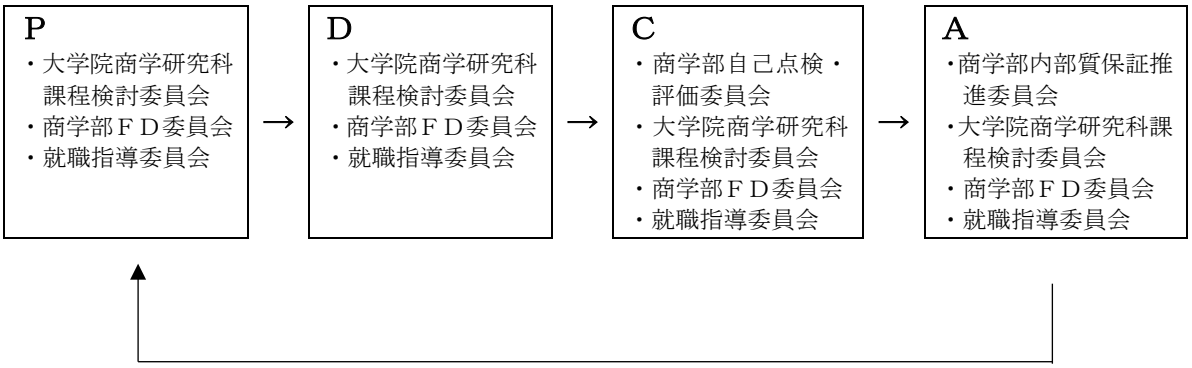
【学生支援に関する事項】



【障がい学生支援に関する事項】



【就職支援に関する事項】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【修学支援に関する事項】

商学部内部質保証推進委員会において「日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検・評価について」に基づき，以下の「学修方法・学修支援」の項目について点検評価を実施している。

(1)　シラバスの内容（授業の目的と概要，到達目標，授業内容，授業時間外の学修方法，成績評価の方法）は，総じて適切であるか。

(2)　学生が教員にコンタクトとれるように，オフィスアワーの記載が時間帯のみならず，場所・アクセス方法等，総じて具体的に明記されているか。

(3)　授業時間割は，学生の学修機会を確保する観点から，偏りなく配置されているか。

(4)　授業方法は，総じて適切であるか。

【学生支援に関する事項・障がい学生に関する事項】

学生支援に関わる事項について，学生生活委員会及び商学部障がい学生支援委員会が点検・評価を行っている。学生生活の充実と安全を目的とし，学生生活での問題点を踏まえてしかるべき措置を点検・評価している。

学生生活委員会では，コロナ禍により，活動が縮小・減少してきていた学生団体の活性化を図るべく，改善策として，従来の内規では一定期間活動を休止していた団体は廃部とする内容であったところ，コロナ禍の休止期間を猶予期間として除外し，かつ各学生団体がどのような位置付けであるのかを再確認するため，令和５年度内に「日本大学商学部学生団体に関する内規」を改正し，令和６年度から施行した。また，団体活動補助費についても，申請方法を知らない団体があったことを踏まえ，年度当初に説明会を実施した。その結果，令和６年度の公認学生団体は 24 団体となり，学生団体に所属する学生は徐々に増えているものの，団体補助費の申請数は多くなく，今後の検討課題である。

また，学生の健康維持，体力増進及びストレス解消を目的として，トレーニングルームを管理運営している。各機器については，安全性を保つことを重視し，老朽化が危惧されたものについては，管財課と連携し令和６年度から３か年計画で機器の入れ替え，学生が安全，安心して利用できるようにしており，今後も学生の健康維持の観点から点検・評価を継続していく。

また，障がい学生に対する支援については，障がい学生への合理的配慮が義務化されたことにより，本学部でも商学部障がい学生支援委員会において，合理的配慮の提供や決定，点検・評価を行っている。特に修学における合理的配慮については，商学部障がい学生支援委員会において，個々の支援内容を徐々に構築することができており，各学期末の合理的配慮を受けた学生からのモニタリング満足度では高い評価を受けている。全ての希望に対して対応するのは困難であるものの，可能な限り対応し，より 100%に近づけることが今後の検討課題である。更には，年々，合理的配慮希望者は増加しており，学生と大学側の配慮における内容の認識差異が生じることもあり，各授業担当者へのオンライン授業やレポート提出による措置等の依頼により，教員の負担が増えていることから，商学部障がい学生支援委員会と学務委員会が協力し合い，障がい学生を取り巻く環境においても今後は改善に向けて効果的に点検・評価を行っていく。

前回の概評で「学生に対して，経済的支援（授業料減免，学内外の奨学金を通じた支援を除く）が未実施又は記述していない学部が散見される」とされた点について，商学部では，学生の負担軽減を図るとともに健康促進を目的として，学生に対して 100 円にて朝食を提供している。これまでは，１日に２～３メニューで常に同じメニューであったが，利用学生からの声を受け，食堂運営業者に対し予算内での日替わりメニューの提案を依頼し，更には営業時間の延長を実施した結果，現在ではより多くのメニューの提供が可能となり，学生の継続した食堂利用を支えている。令和６年度の朝食利用者数は，8,274 名であった（令和７年度は 11 月 30 日現在で 8,310 名）。

商学研究科学生の約９割が外国人留学生であることから，国際交流委員会が主催する外国人留学生と日本人学生との交流会において，学生生活委員会も参画し，外国人留学生と情報交換を行い，親睦を深めた。これにより日本での生活（留学ビザ，住まい等）について，理解してもらうことができるとともに，学生生活上の悩みなどについても共有することができた。

【就職支援に関する事項】

教学に関する基本方針に基づき，大学院生が主体的未来選択できるよう就職指導委員会が学部執行部と意見交換しながら，キャリア支援の充実を図っている。

令和６年度全学自己点検・評価報告書に記載したとおり，就職指導課員による学生面談の質向上の取組が功を奏し，学生の就職個別相談件数が，学部と大学院合わせて令和３年度 631 件，令和４年度 1,179 件，令和５年度 1,591 件，令和６年度 2,217 件と増えてきた。個別相談後のアンケートにおいて，令和５年度は大変良かった 91%，良かった９%，普通以下０%であったが，令和６年度は，大変良かった 96.9%，良かった 3.1%，普通以下が０%であり，学生の悩み解消と成長を導くことができている。

商学研究科においては，在籍者の９割以上が留学生という特徴があることから，令和６年度には大学院商学研究科課程検討委員会が計画し，商学部ＦＤ委員会と就職指導委員会で協働して，大学院留学生と大学院担当教員と就職指導委員会とで日本における就職と出身国における就職活動について意見交換し，お互いの状況について理解を深めた。これにより，日本における就職活動の相談，ビザ更新手続等について理解を深め，就職指導課との接点を増やすことができた。

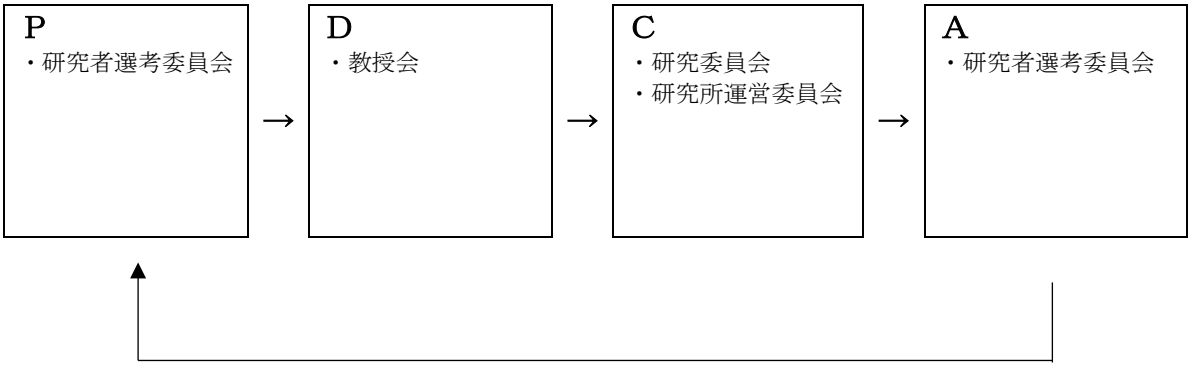
この内容は，商学部自己点検・評価委員会，商学部内部質保証推進委員会でも検証，確認され執行部が就職指導委員会と今後について検討していく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究費の給付額や共同研究の枠組みを研究委員会及び研究所運営委員会で点検・評価している。

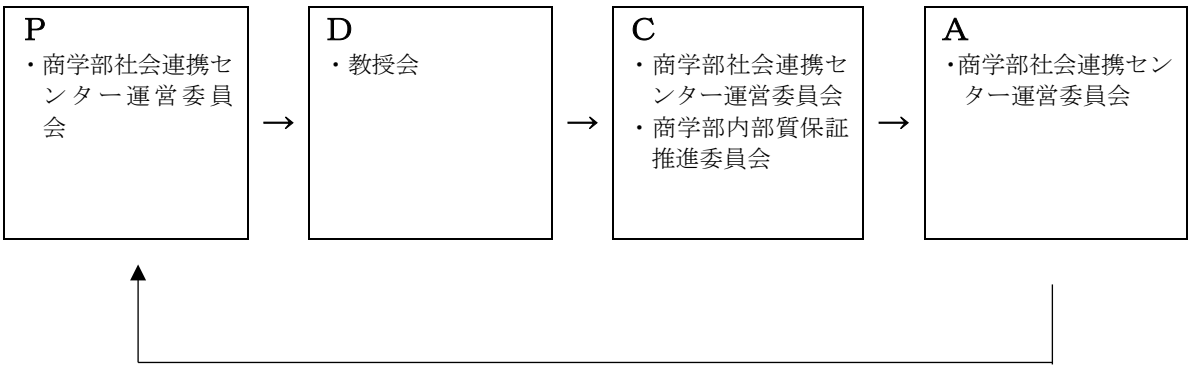
研究委員会及び研究所運営委員会で研究費を持ち寄り実施している特定・横断的プロジェクト共同研究について，近年，申請件数が少ないことから募集要項の見直しを図るとともに，将来的に外部資金獲得につながるよう検討を予定している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

日本大学商学部及び大学院商学研究科における教育活動の点検結果報告書に,「社会連携センター，あきない塾の運営により，地域社会とのつながりを試みていることは好ましいと思われるが，地域社会にどのように周知し，拡げさせていくか検討が望まれる」との意見等が記載されたことから，その結果を受けて，砧祭（学園祭）で，本学部のゼミナールと企業等の連携による「砧マーケット」という企画を社会連携センター運営委員会において立ち上げ，地元企業にも出店いただき，地域社会との連携について周知・拡大に取り組んだ。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

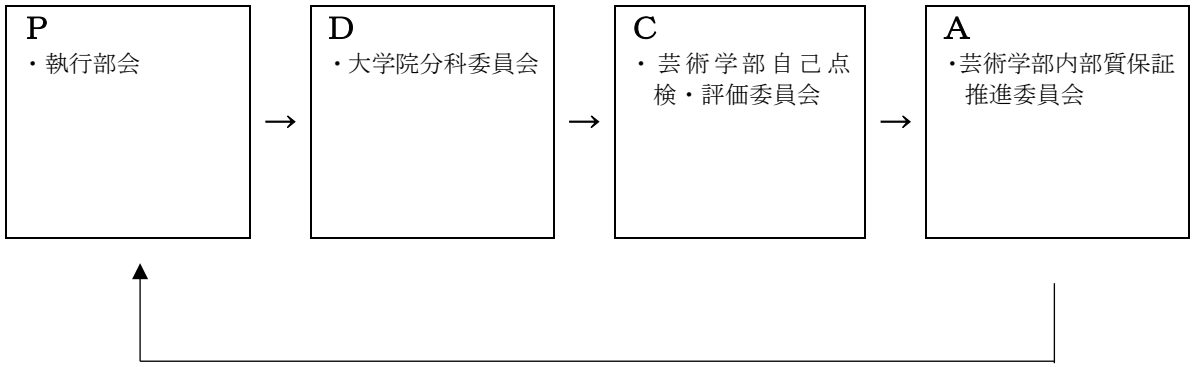
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院芸術学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教学について，大学院教学戦略ワーキング・グループを中心として，各種教学情報を分析し，研究科長への答申，各種所管委員会での検討，改善策の実施及び芸術学部自己点検・評価委員会にて点検・評価，芸術学部内部質保証推進委員会での管理という「日本大学芸術学部及び大学院芸術学研究科内部質保証体制」に基づく，一連のＰＤＣＡサイクルを組織的に運用している。

教育活動の点検・評価については，学部と同様に年に２回，大学院生による授業評価アンケート及び修了生へのインタビュー調査などを実施し，学生・修了生の意見を積極的に取り入れた改善への取組を行っている。また，学外者による教育活動の点検・評価を導入し，客観的指標に基づく改善を速やかに実施する体制を整備している。

執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や大学院分科委員会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，芸術学研究科博士前期課程の研究指導計画

の研究方法の明示が希薄であると指摘されたため，研究指導内容の記載をより充実させるよう大学院専攻主任会議が中心となり，現行の研究指導計画の確認を行い，令和７年度入学者用の大学院要覧及び芸術学部ホームページにその内容の掲載を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

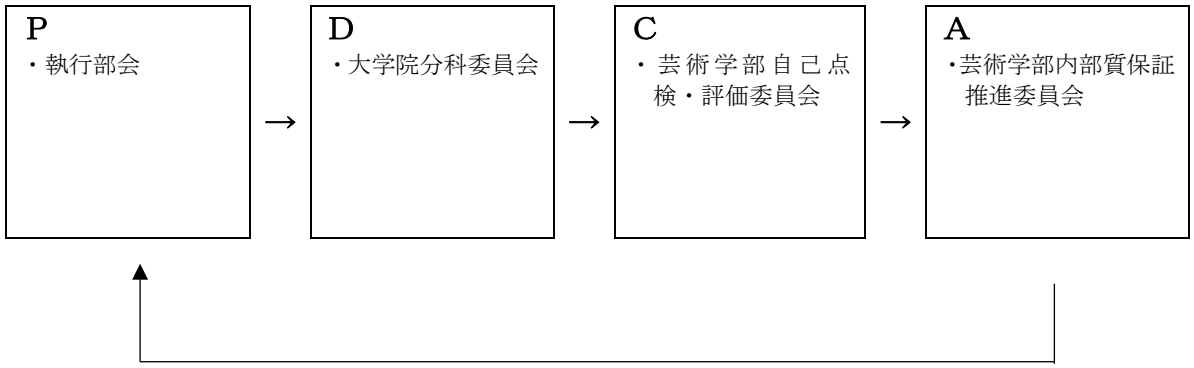
【提言（改善課題）】

芸術学研究科博士前期課程の研究指導計画について，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，研究方法の明示が希薄であると指摘されたため，研究指導内容の記載をより充実させるよう改善が望まれている。この改善に当たっては，内部質保証体制を機能させ，改善していくことが求められる。例えば，芸術学部内部質保証推進委員会の下，既存の大学院委員会及び大学院専攻主任会議が中心となり，現行の研究指導計画の点検・評価を行い，研究方法や指導方針を具体的かつ明確に示す内容へと改善するよう求められる。

芸術学研究科博士前期課程の研究指導計画について，研究方法の明示が希薄であると指摘があったが既に解決済みである。執行部（大学院担当）の提言に基づき，所管部署の教務課で，より内容の充実した草案を作成し，専攻主任を通して各専攻内で確認を行い，芸術学部内部質保証推進委員会において確認・検討を行った。そして修正版の研究指導計画を大学院要覧及び大学院ホームページに掲載した。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

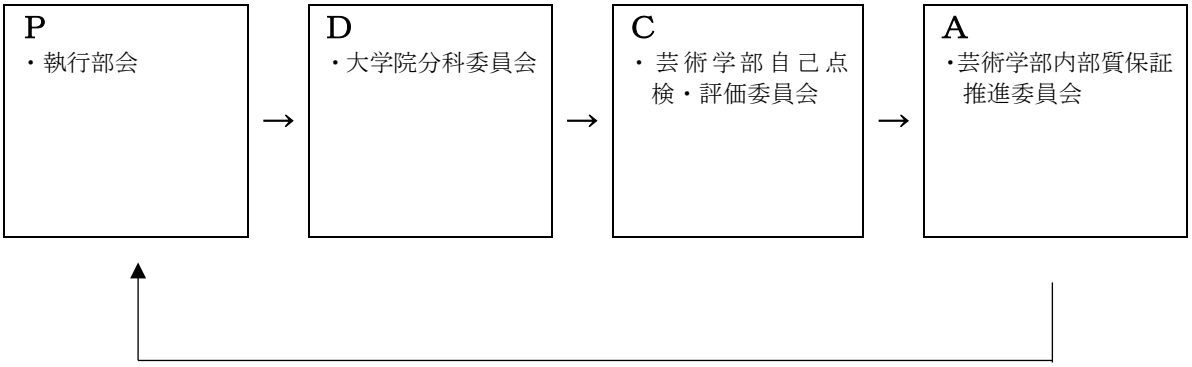
大学院専攻の改組や教育研究組織の適切性の見直しについては，執行部会を中心に提起され，大学院教学戦略ワーキング・グループが各種データを検討・分析する。その結果を大学院委員会等で実施可能か検討し，具体化させた上で，大学院分科委員会での実行，芸術学部自己点検・評価委員会による点検・評価，及び芸術学部内部質保証推進委員会による改善・計画へとつなげるサイクルとなっている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法については，学内においては学部と同様に執行部会で点検・評価の基準等を定め，学生からの意見を取り入れて教育の質の向上を図るために，ＦＤ委員会において質問項目の検討を行った上で，前期と後期それぞれ１回，大学院学生による授業評価アンケートを行い，大学院分科委員会で実施報告，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会に改善・計画を行うサイクルを構築している。学外者からの評価においては，令和５年度からライオン企画株式会社と「日本大学芸術学部とライオン企画株式会社との連携協力に関する協定」を結び，年に１回，教育活動の点検評価を実施した。令和７年度に関しては，学部と同様に練馬区生涯学習センターに点検・評価を依頼した。実施した結果については，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会で改善・計画し，実務として各種委員会で改善を図る体制を構築している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

時代に即した学びができる大学院へと進化し,学部内進学者を含めた多くの優秀な学生を獲得し選ばれる大学院としていくため，令和２年度から大学院教学戦略ワーキング・グループを中心に現状のカリキュラムや「教育研究上の目的」,「三つの方針」等の確認を行った結果，令和８年度入学者から学則を変更することとなった。主な変更内容は，以下のとおりである。

(1)　ＭＦＡ（Master of Fine Art）学位の新設

(2)　２年間継続履修としている主指導教員による指導科目の単年度開講科目への変更

(3)　前期課程における講義科目の半期化

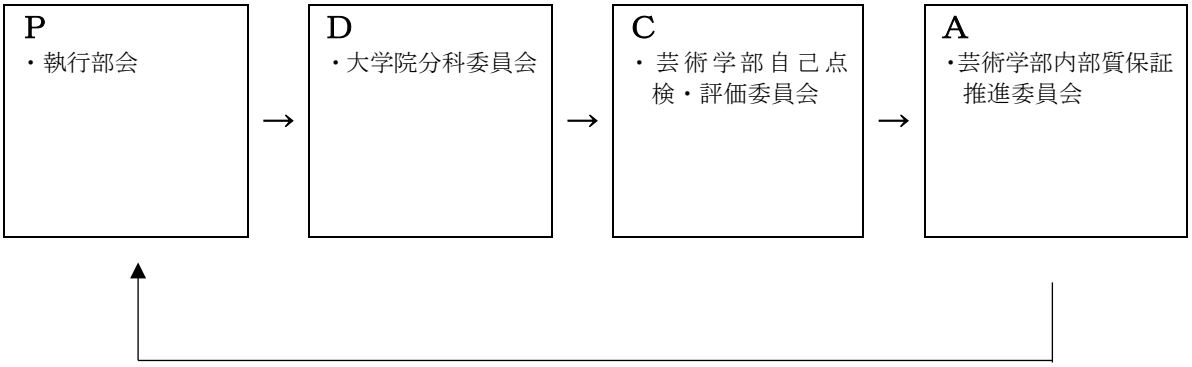
特にＭＦＡ学位の必要性が社会的に高まることを想定し，日本国内の芸術系大学での事例を収集したり,米国のＭＦＡプログラムを修了した本研究科修了生にインタビューするなどして,ＭＦＡ学位プログラム内容の検討を重ね，実施に至った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れに関わる事項については，執行部会を中心に提起され，大学院教学戦略ワーキング・グループが中心となってデータ収集・分析を行い，大学院委員会及び大学院専攻主任会議において検討を行い大学院分科委員会で決定している。また，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会において改善・計画し，統括的管理をする仕組みを構築している。

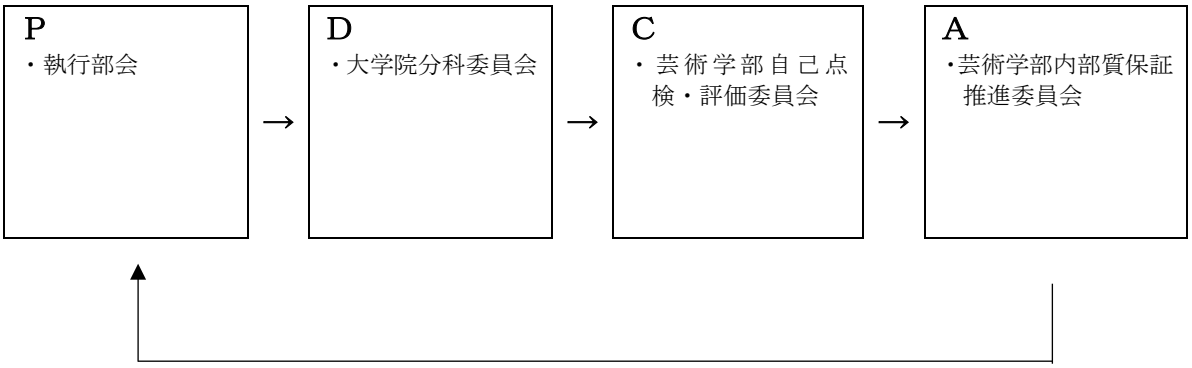
令和６年度入学試験から外国人留学生入試，一般入試及び社会人入試において，選抜方法を１次試験・２次試験の２段階試験方式に変更したところ，令和６年度入学試験では志願者数が 473 名と前年比 3.4 倍近くの増加となり，令和７年度入学試験では令和６年度に比べると 141 名減となったが，試験方式変更前と比較すると大幅に増加している。今後は，学部と大学院の連携を強めて学部の低学年の内から大学院進学を意識させ，また魅力のある大学院の教育内容を見直していくことが必要であると考えられる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㉘　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員組織に関わる事項については，総じて芸術学研究科の教員組織に関わる事項については，執行部会で検討し，その後各種委員会や教授会・大学院分科委員会において実行に移す。実行された事項について，毎年，芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で，次年度や未来に向けた改善計画等を立案して今後に繋げていく流れとなっている。

細部については，執行部で各専攻の教育・組織運用状況を把握し，問題点や今後の在り方などの確認を行い，各所管委員会において検討，審議等を行っている。

教員の教育･研究実績については，全教員に対して科学技術振興機構が運営する research map に研究成果を登録するよう，周知徹底を図っている。大学院専攻主任会議において，登録された研究実績を裏付けとし，大学院担当教員としての修士及び博士指導教授の資格を得るための「大学院芸術学研究科博士前期・博士後期課程の教員資格認定基準」に基づき，研究業績審査を実施している。

また，教員昇格についても，昇格基準を満たした教員の researchmap 登録研究業績を基に業績一覧を作成，教員人事委員会に上程後，学内及び学外審査委員より代表業績が昇格基準に照らして，ふさわしいか否かにつき審査報告書の提出をもって判断する昇格審査を実施している。

これは，大学院の科目を担当するには准教授以上であることという条件を設けていることから，大学院担当教員になるためには，教員昇格審査と密接な関係があり，これらを審査するツールとして全世界からアクセス・評価される researchmap への情報入力を，毎年度定期的に更

新する必要があり，常に研究実績等の評価が行われていると捉える。
　学部内での取組としては，教育面における評価として，毎年実施している授業評価アンケートの結果，評価の高い教員やＩＣＴの活用を含む学部の教育方針に合致した優れた授業実践等を行っている教員については ，学部として表彰を行い，基準に満たない教員に対しては面談を行い改善に向けて指導を行っている。また，引き続き，大学院固有のＦＤ活動を行い学部ＦＤでは十分に対応できない，大学院教育の特性に即した質保証・改善に努めていく。

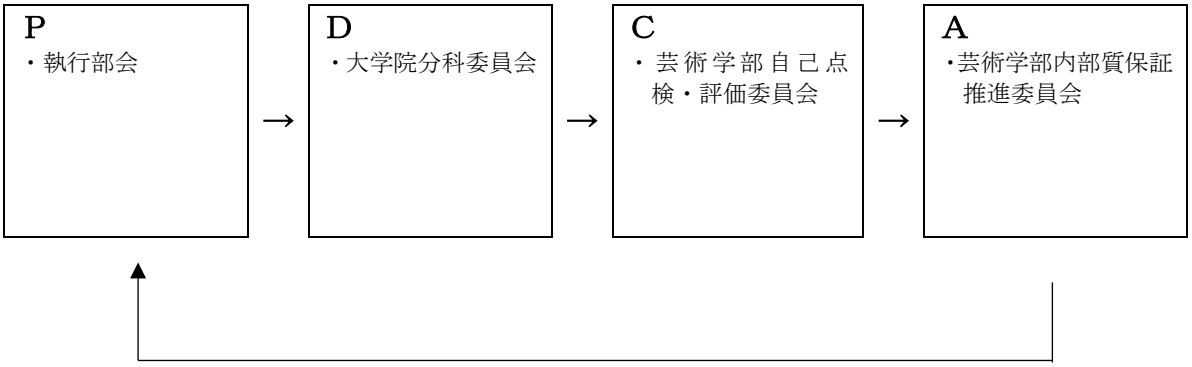
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
　研究科全体としての共通方針や基本的な業務マニュアルがないため，専攻間での指導内容や業務水準に差が生じる可能性があることは課題であり，改善が求められる。
その他は，学部を参照いただきたい。

　芸術学研究科では，研究科全体としての共通方針や基本的な業務マニュアルがないため，専攻間での指導内容や業務水準に差が生じる可能性があり，改善が求められる旨の改善課題に対し，令和６年度大学評価（認証評価）結果において「博士前期課程の研究指導計画について，研究方法の明示が希薄である」と指摘があったことから，まずは各専攻における学生指導の流れを確認し，令和７年度入学者用の大学院要覧及び芸術学部ホームページにその内容の掲載することとした。今後は，研究科として最低限共有すべき指導方針及び業務運用に関する共通事項を整理する。あわせて，各所管委員会を中心に定期的な点検・見直しを実施し，研究科全体として指導内容及び業務水準の均質化と質の向上を図る。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で，学生支援の様々な案件を検討し，その後各種委員会や大学院分科委員会で実行に移す。実行された事項について，毎年，芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案して今後につなげていく流れとなっている。

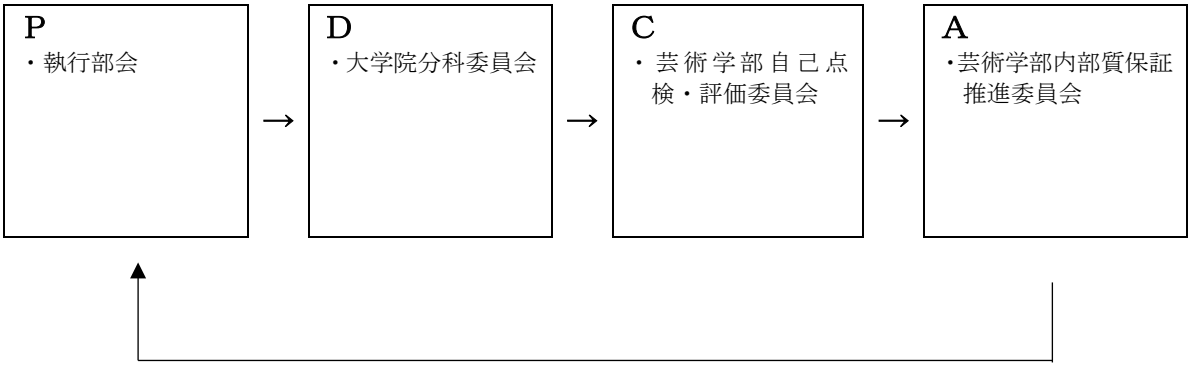
令和７年度は，「購買部,食堂等の運営業者選定に係る取扱要項」の制定に伴う計画として，学生生活委員会において学生及び学科にアンケートを実施した。その結果を受け，年度中に学生食堂の券売機を増設し，令和８年度の学生応援ランチ増食を決定した。今後は，芸術学部自己点検・評価委員会の評価・確認及び芸術学部内部質保証推進委員会の改善・検討を受け，次年度は改めて学生食堂及び購買部の運営業者を公募で選定する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で研究等環境の案件を検討し，その後各種委員会や大学院分科委員会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

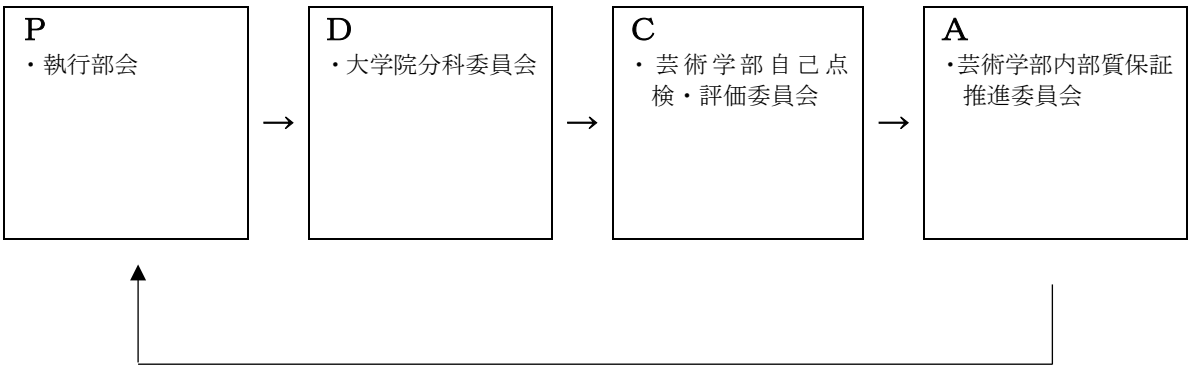
芸術研究所運営委員会において，学部研究費（個人・共同）及び本学部独自の川野希典研究費，杉浦仙之助・うめ研究費等に係わる諸事項の情報等を共有し確認している。研究事務課において，複数名で研究遂行のために提出書類の精査・検証を行い，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を実施し，サイクルを回している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の社会連携・社会貢献に関わる事項について，全体的な流れとして執行部会で社会連携・社会貢献に関わる案件を検討し，方向性を決める。その後各種委員会や教授会・大学院分科委員会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

学生と教職員，企業や自治体との産官学連携の連携プロジェクトの実施可否の検討や学内周知を目的とし，定期的に連携企画委員会や学務委員会，学部運営協議会を開催し，精査している。社会連携・貢献に関わる連携プロジェクトの実施後については，学部運営協議会においてプロジェクトの実施内容と所感，次回実施への改善点等を報告書にまとめ，報告し実施サイクルを回すためにも検証している。その後，芸術学部自己点検・評価委員会で確認し，芸術学部内部質保証推進委員会が改善・検討を図っている。

連携プロジェクトを通して社会連携・社会貢献に携わることで，学生が学んでいる領域がどれだけ社会と密接に関わっているか，影響を与えるのかを学生自身が学ぶ場となっている。また，学生も教員も外部とのつながりを深めることで，学内ではなく社会へと意識を向け始めており，取組方法や広報活動を毎年度改善することで，参加する学生や教員も増加し，継続案件や単発案件を含め，関係する企業や自治体から新たな依頼を受け，連携プロジェクト数が年々増加している傾向にある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

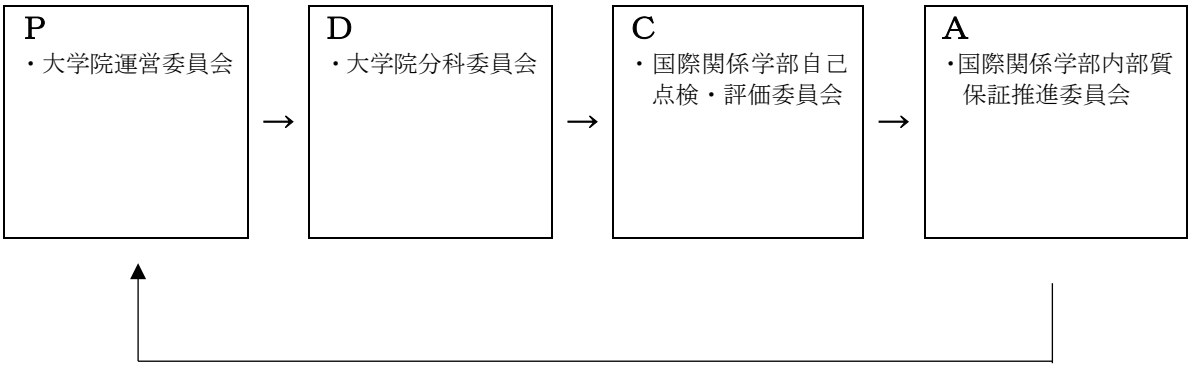
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院国際関係研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係研究科では，大学院独自で教育の内部質保証システムの構築が困難なため，大学院国際関係研究科運営委員会と国際関係学部の学務委員会，ＦＤ委員会，国際関係学部自己点検・評価委員会等と連携し，教育の内部質保証システムの構築に努めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

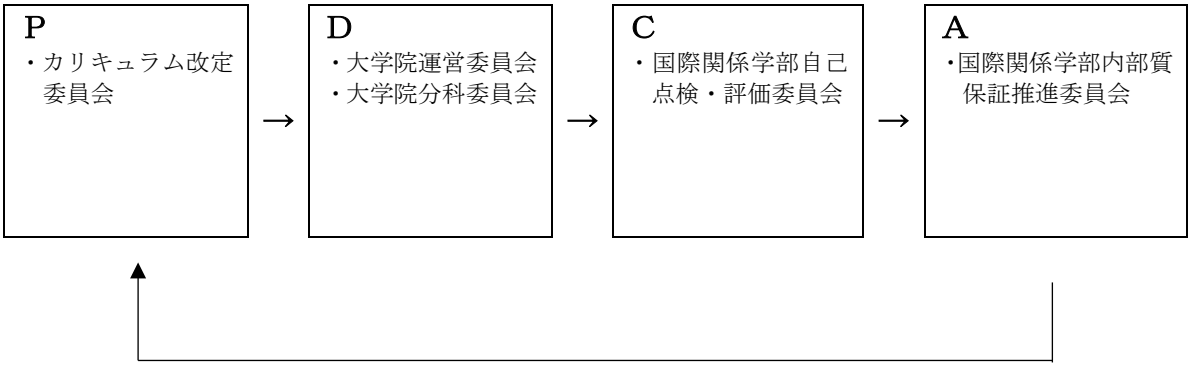
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，博士前期課程では，教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していない，博士後期課程では，編成及び実施に関する基本的な考え方を示していないとの提言が付されている。そのため，教育課程の編成・実施方針を適切に定め

るよう，内部質保証体制を機能させ，改善することが求められる。

「教育課程の編成・実施方針」については，大学院運営委員会及び大学院分科委員会において改善策を検討し，令和７年度中に改善を行うべく，現在見直しを行っている。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

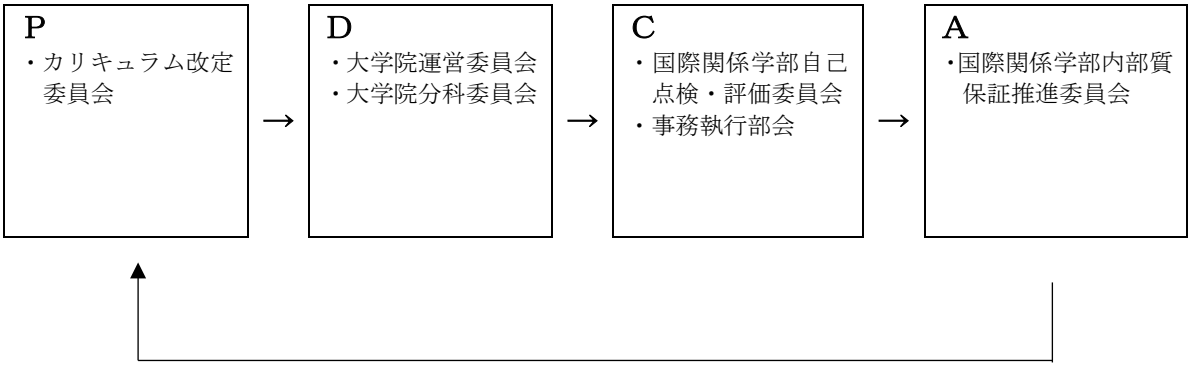
事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていない。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会，国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係研究科では，教育課程及びその内容，方法の適切性について定期的に点検・評価をする仕組みがなく，学務委員会やカリキュラム改定委員会において教育課程（カリキュラム）改定の際に，教育課程及びその内容，方法を検証し，教育課程の改善・向上の参考にしているのが現状である。

また，教育の内部質保証のために，大学院生の学修状況を把握するための調査等を毎年度実施し，調査等によって得た情報は，研究の進捗状況との関連性の確認を行い，学修状況の改善を図る。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

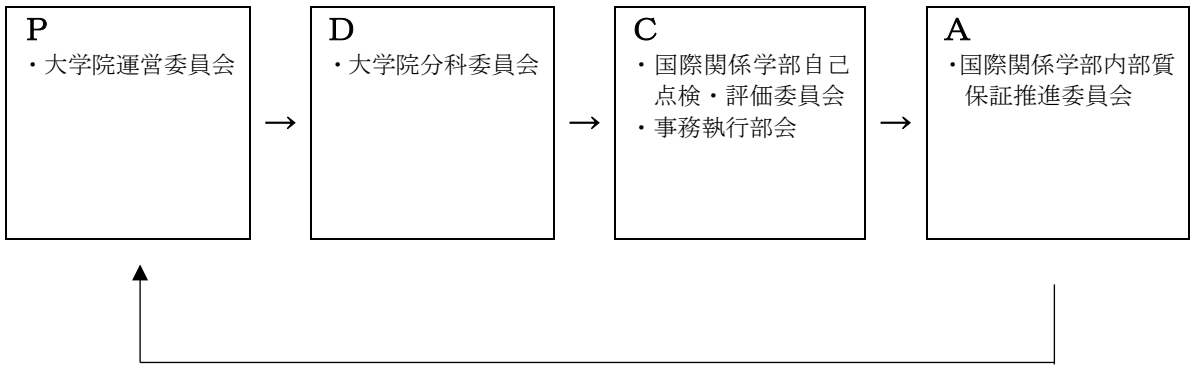
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について。国際関係研究科博士前期課程では，実施に関する基本的な考え方を，国際関係研究科博士後期課程では，編成及び実施に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

「教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）」については，大学院運営委員会及び大学院分科委員会において改善策を検討し，令和７年度中に改善を行うべく，現在見直しを行っている。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係研究科では，大学院運営委員会で対策を検討し，国際関係学部からの志願者数を増やすことを焦点に，大学院進学説明会等への学部生参加をポータルサイトや学内掲示で周知している。その結果，若干ではあるが以前に比べ参加者数が増え，特に学部２年生や３年生の参加者数が多くなった。また，博士前期課程標準コースにおいて，学内推薦入学試験を導入し，成績の基準を満たしていれば，国際関係学部をはじめとする他学部からも学内推薦入学試験を受験できるようにした。

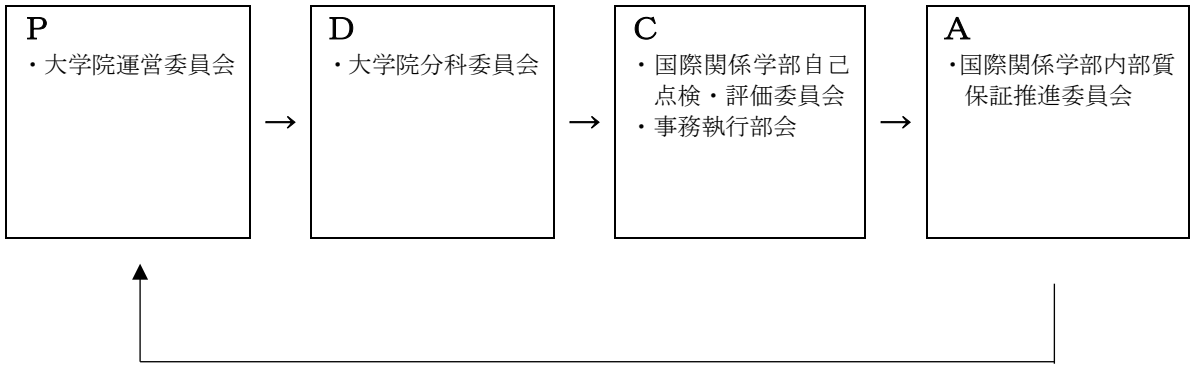
事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会及び国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

国際関係研究科では，教員及び教育の質を維持・向上させるため，自身の研究内容等を発表する「学際研究会」を実施している。従来は主に新任教員が発表を行っていたが，令和７年度からは新任教員に関わらず，新任教員以外の教員も発表を行った。意見交換を活発に行い，自身の研究内容の促進及び改善等に役立てている。

事務執行部会，国際関係学部自己点検・評価委員会及び国際関係学部内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

記述によれば，教職それぞれが「与えられた使命」に基づき協力しながら業務を遂行しており，役割分担については各委員会で一定程度決められているものの，責任の明確化という点では十分に体系化されていないため，改善が求められる。

問題発生時には関係する委員会や部署と連携して対処しているものの，平時の業務における教職間の責任範囲や役割分担が明確化されていないことは，業務の属人化や非効率の要因となる可能性がある。

ガイダンス内容は主に業務説明と注意喚起にとどまっており，教育支援者としての資質向上を図る体系的な研修（例：学生対応スキル，守秘義務，ハラスメント防止等）の実施に係る記述が確認できない。ＴＡ制度の質的向上を図る観点からは，研修の計画的実施や業務後のフィードバック体制の整備が今後の課題である，改善が求められる

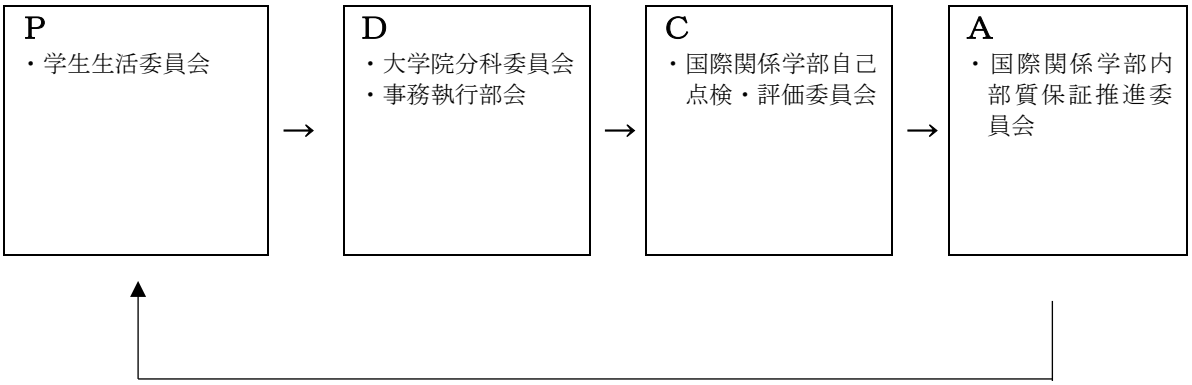
大学院運営委員会からの提言により，大学院担当教員を対象に年度末に活動状況報告を実施し，教育・研究の振り返りを行い，次年度以降の大学院運営の改善を目指す。

ＴＡのガイダンスにおいては，日本大学行動規範を配布し，内容の確認を行っている。学生に対する言動等のハラスメントの注意喚起，学生の出席・成績情報及びレポートの採点情報等の知り得た情報についての守秘義務を徹底するよう周知している。今後は，教育支援者としての資質向上を図るべく，本部作成の教学運営方針・自主創造の基礎動画等の受講を推進していきたいと考える。

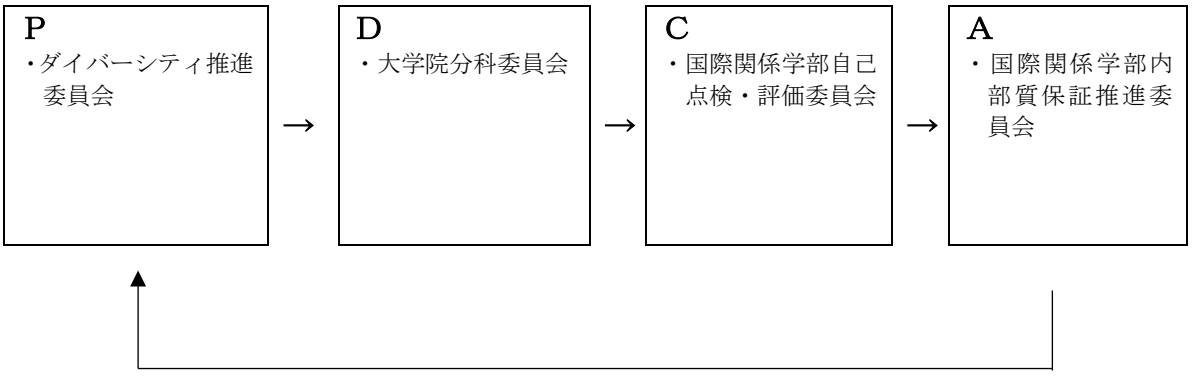
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

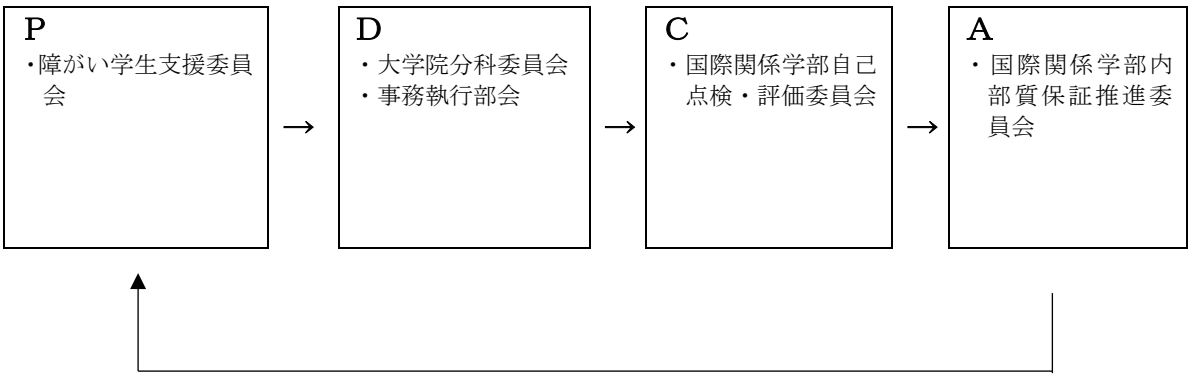
【学生の交流機会の確保，正課外における部活動及びボランティア活動の活性化】



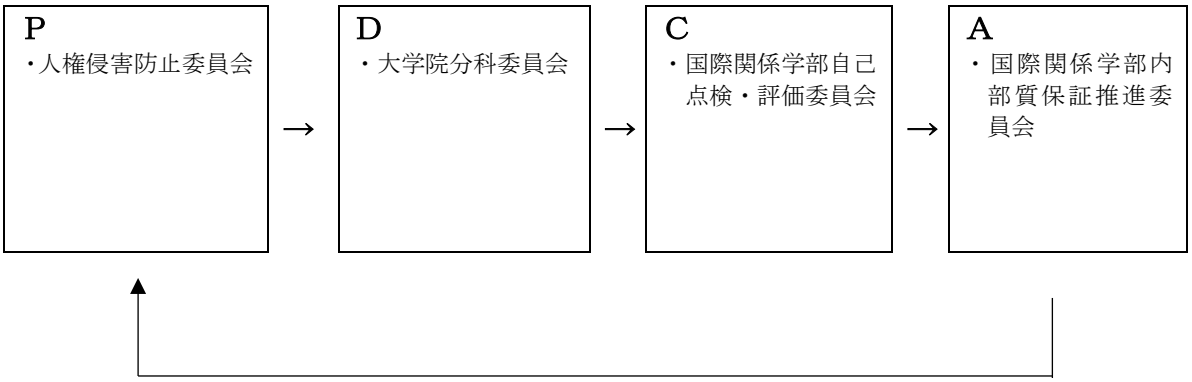
【学生に対する経済的支援（三島市による生理用品の支援）】



【障がいのある学生の基本的人権の保障】



【学生へのハラスメント防止，学生のプライバシー権の保障】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和６年 10 月４日に国際関係学部自己点検・評価委員会，令和６年 10 月 11 日に国際関係学部内部質保証推進委員会をそれぞれ開催し，学生支援に関わる事項について，点検・評価を実施した。

学生支援の向上を図った事例として，本学部では，令和７年度から「キャンパス活性化」というスローガンを掲げ，その一環として学生の正課外における部活動及びボランティア活動をバックアップする取組を開始している。具体的には，音楽活動や演劇活動を行う学生団体を支援する目的で，三島駅北口校舎の大教室用に，高性能の音響機器を導入した。また，ボランティア活動については，外部から募集が寄せられた際，本学部学生の派遣を依頼する内容のものについては，学生生活委員会で審議に諮り，その安全性や活動意義を精査した上で周知するようにし，学生に安心してボランティア参加してもらえるよう，募集受付から周知までの仕組みを見直した。

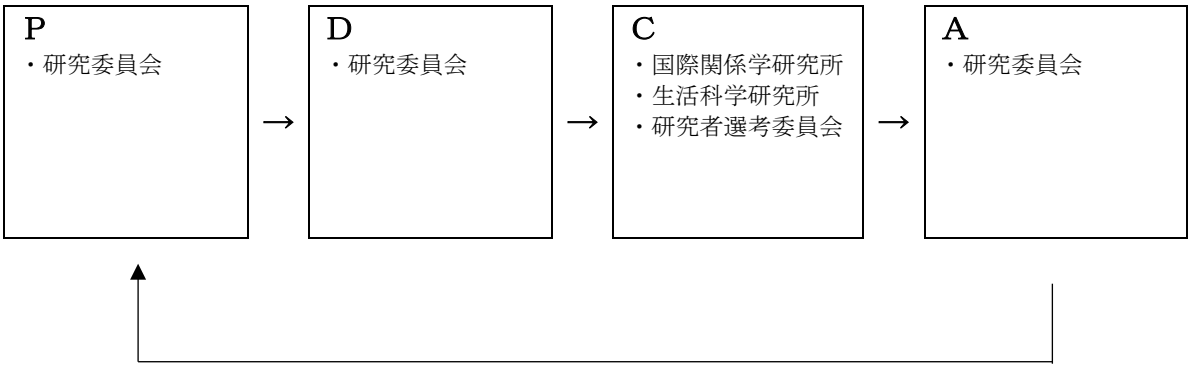
また，留学生と日本人学生の交流を目的として開催している異文化交流会について，以前は後学期に開催していたが，留学生の増加に伴い，学生同士が入学後早期に交流の機会を得られるよう，令和７年度は開催日程を前学期に変更した。その結果として，同時期に受け入れている海外提携校からの短期留学生も参加できるようになり，交流の幅が広がった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

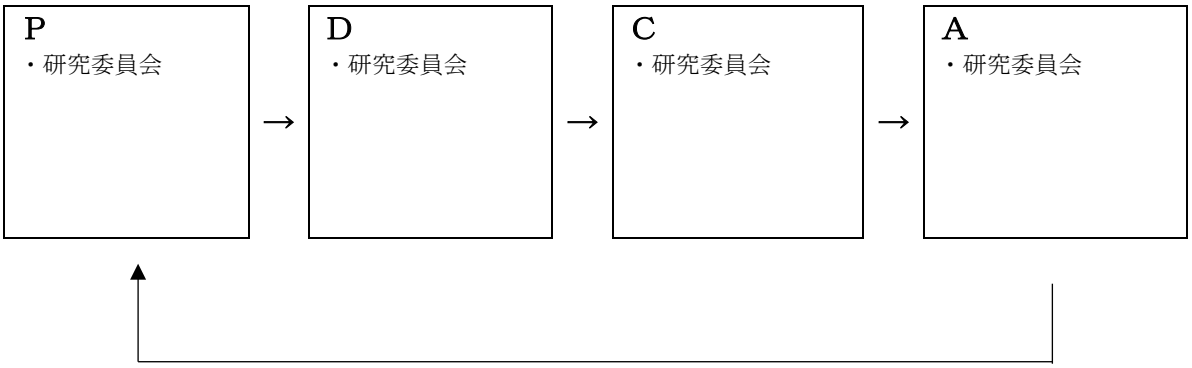
本学部研究者選考委員会で新年度の学部個人研究費申請書の内容を審議し，研究実施状況及び成果物については国際関係研究所・生活科学研究所において点検の上，本学部研究委員会で必要に応じて各研究所の点検結果にて検討が必要な事項や科研費採択時の懸案事項を検討し，改善策を計画し実行に移している。過去の事例としては，キャンパス内の共同研究を推進するために共同研究費を制定した上で，共同研究採択者に科学研究費助成事業への申請を義務付けることで改善を図った。また，個人研究費の給付額に傾斜配分を導入することでインセンティブを付した。当初はこの導入により，増額要件である科研費の申請件数に増加がみられ，今年度についても昨年度に比べ微弱ではあるが，申請件数が増加した。しかし，採択件数は昨年度より減少したため，採択件数増加の改善が必要と考える。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

地域社会への連携・貢献事業の開催内容については，研究委員会で点検・評価を実施している。点検・評価の対象となるものは，地域住民を対象とした「市民公開講座（前期・後期に各４回)」や「エクステンション講座（前期・後期に各講座５回)」であるが，次回以降の内容を充実させるため，毎回講座終了後には受講者へのアンケート調査を実施している。その結果を研究委員会で精査し，次回以降の講座の企画立案に反映させるように努めている。アンケートからスポーツ関連の技術向上を目的とした講座を開講してほしいとの要望を受けて，令和６年度より取り入れた「エクステンション講座」の「ゴルフ講座」は，受講者に好評で，次年度以降の開講と参加を希望する意見が多数出された。また，受講者からの要望や講座をお願いしている講師の提案に基づき，今年度後期は初級よりレベルアップした「エクステンション講座」を用意したが，受講者数が減少したため，研究委員会にて開講内容を精査し，より多くの参加者に興味を持ってもらい，参加していただけるような内容とすべく，改善・向上に努めることとする。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院危機管理学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

P		D		C		A
・執行部会議 （大学院分科委員会）	→	・各種委員会	→	・三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会 ・三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会 （執行部会議）	→	・各種委員会 （執行部会議） （大学院分科委員会）



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本部と連携をして，絞り込んだ項目を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会で集中的に点検・評価していたが，今年度からは，次期認証評価を見据え，全項目において点検・評価を執行部の指示の下，実施するよう改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

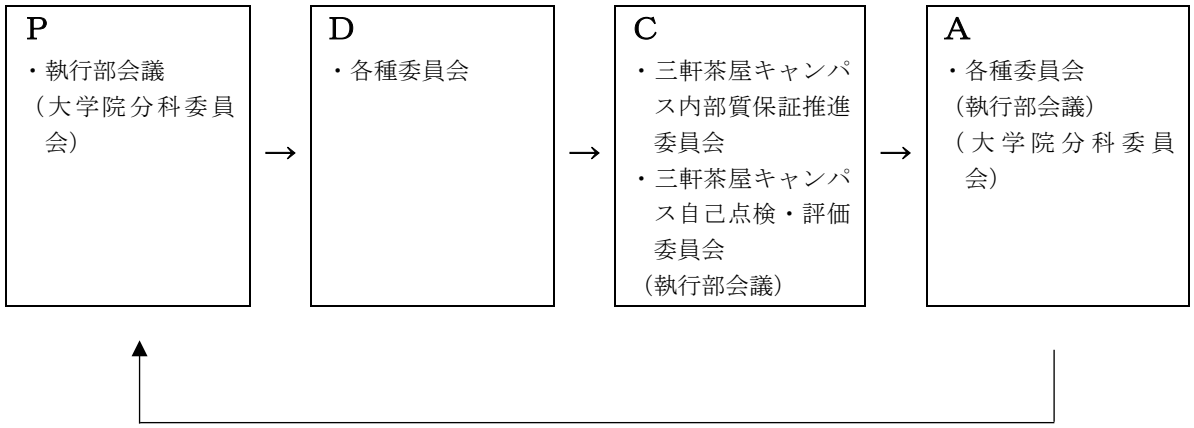
研究科のＰＤＣＡサイクルは，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会の検討結果を踏まえて大学院委員会及び大学院分科委員会での点検・評価を経て執行部会に報告し，運

営改善に活用されているが，その機能を客観的に示す内部質保証体制や活動記録，ＰＤＣＡサイクル図等の文書が確認できなかったため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）において，修士課程では，教育課程の編成に関する基本的な考え方を示していないとの提言が付されている。そのため，内部質保証体制を機能させ，自ら定めた体制の下，教育課程の編成・実施方針を適切に定めるよう改善が求められる。

令和８年度改正に向けて大学院委員会（Ｄ）において修正案を作成し，執行部会議（Ｃ）で点検・評価の上，大学院分科委員会（Ａ）において検証を行った。既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。本部の方針が出た際には，その方針を踏まえ大学院委員会（Ｄ）において，再度修正案を作成し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（Ｃ）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）において点検・評価の上，大学院分科委員会（Ａ）の決定を踏まえ本部への改正手続きを行う予定としている。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

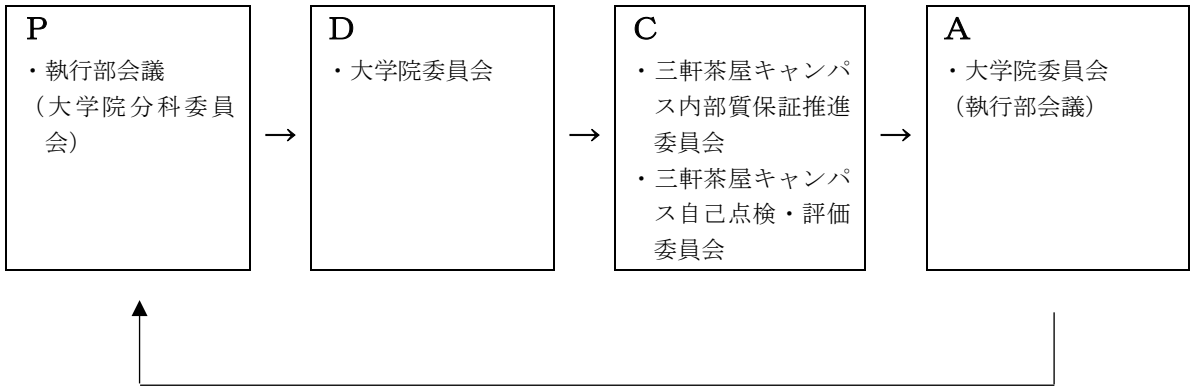
本研究科では，教育研究組織の見直し等について，まず専攻主任が所管する大学院委員会（D）において検討・発議し，その内容を三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）で点検・評価の上，研究科長が所管する大学院分科委員会（A）に付議して最終的な審議・承認を行うという体制の下，組織的な点検・評価を実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

執行部会議（Ｐ）から，各学期（前学期・後学期）における教育の内部質保証のための点検・改善について大学院委員会（Ｄ）に提言し，大学院委員会（Ｄ）は，各教員に対し学期ごとに授業改善計画書を作成させ，自身の授業について振り返る機会を設定している。また学期ごとに学生による授業評価アンケートも実施し，各教員に結果を配信の上，改善を促している。大学院委員会（Ｄ）は，実施状況を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）に報告し，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）は，その報告内容を確認・評価した上で，大学院委員会（Ａ）への改善・向上を促すこととしている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）による自己点検・評価結果を三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）に報告し，執行部会議（P）は，その報告内容を次年度の事業計画作成や学務委員会（D）への諮問に活用し，次年度の教育活動等の改善に反映，実行している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

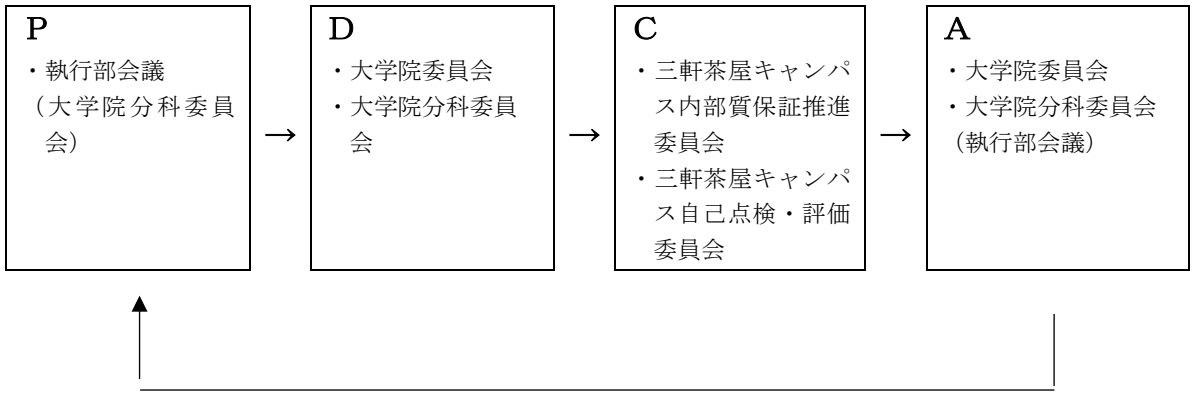
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，危機管理学研究科修士課程では，編成に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

令和８年度改正に向けて大学院委員会（D）において修正案を作成し，執行部会議（C）で点検・評価の上，大学院分科委員会（A）において検証を行った。既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。本部の方針が出た際には，その方針を踏まえ大学院委員会（D）において，再度修正案を作成し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）において点検・評価の上，大学院分科委員会（A）の決定を踏まえ本部への改正手続を行う予定としている。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

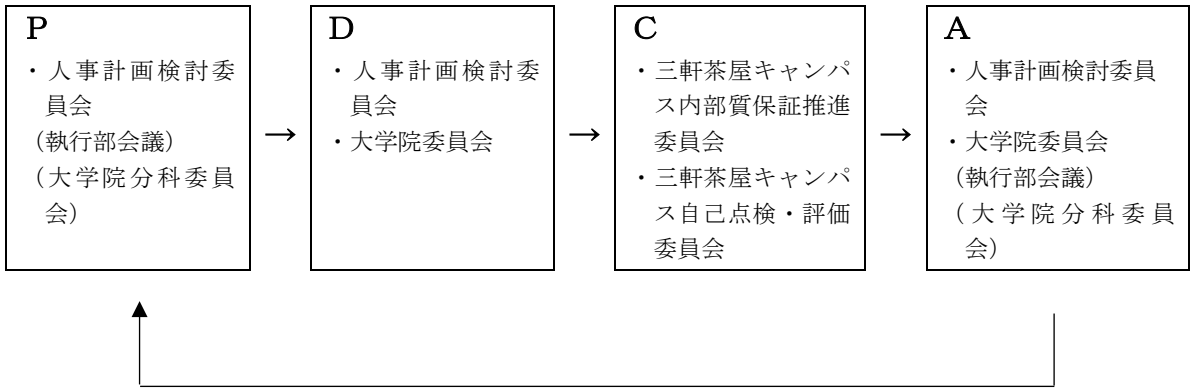
大学院委員会（D）で入学者の属性分析等を実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）で入試制度の最適化の観点で点検・評価を行っている。その評価内容について大学院委員会（A）で確認・検討を実施し，その改善方策（留学生選抜導入検討，博士後期課程の社会人獲得に向けた検討等）を大学院分科委員会（P）に提言している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会が，毎年度，自己点検・評価を行っている。

また，各委員会の委員長が集まり，大学院分科委員会開催日に委員長懇談会を開いて意見交換を行っている。

特に今年度から執行部で毎週一定の項目を抽出して協議，改善に向けて取り組んでいる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

具体的な時間割編成方法や人員配置の根拠が示されておらず，実際に適切な授業負担が実現しているかを客観的に判断することが難しいため，改善が求められる。

紹介に依拠した採用方法のみでは，教員採用の公正性や透明性，多様性の確保という点に課

題が残る。特に，外部への広報や公募の実施が確認できないことから，開かれた採用機会の保障や広範な人材からの選抜機会の創出といった観点で不十分と言わざるを得ないため，改善が求められる。

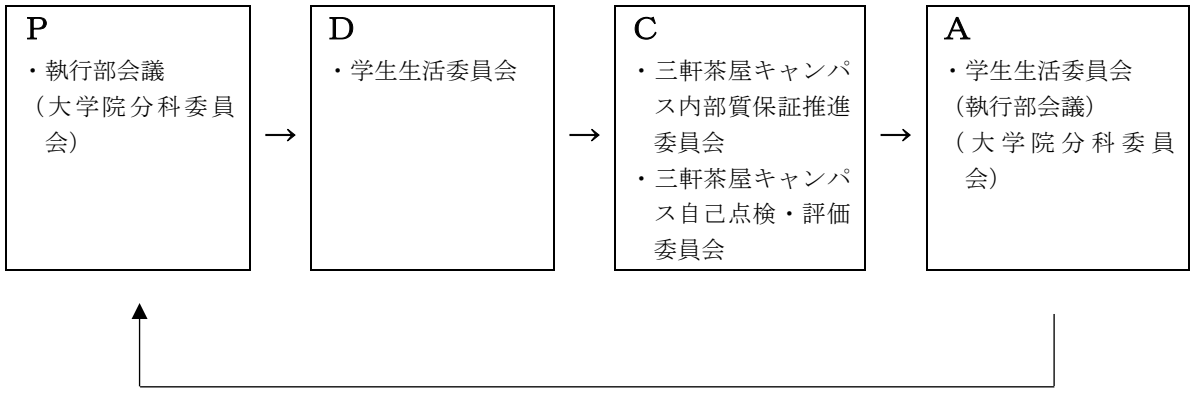
実質的な取組の内容や成果（女性応募者の割合や採用実績，選考時の配慮等）については明記されておらず，今後の具体的施策や制度的な支援体制の強化が課題であり，改善が求められる。

現状では，評価方法や基準の具体性，成果のフィードバック方法についての記述が限定的であるため，改善が求められる。学部等教員組織編制方針に基づき人員配置を行っているが，客観的に判断が可能となるよう担当コマ数による適切な授業負担を図るなど，執行部会議・人事計画検討委員会で改善を計画検討し，人事計画検討委員会・人事委員会において改善実行を図る。

採用方法については，危機管理学のオールハザードアプローチに基づいた４領域である①災害マネジメント領域，②パブリックセキュリティ領域，③グローバルセキュリティ領域，④情報セキュリティ領域及び新カリキュラムで展開するガバナンス・コンプライアンスなどの授業を担当できる専門家をバランスよく配置すること執行部会議・人事計画検討委員会で心掛けている。カリキュラムで必要な人材をリストアップされた候補者について，人事委員会で審査を行っている。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②
学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

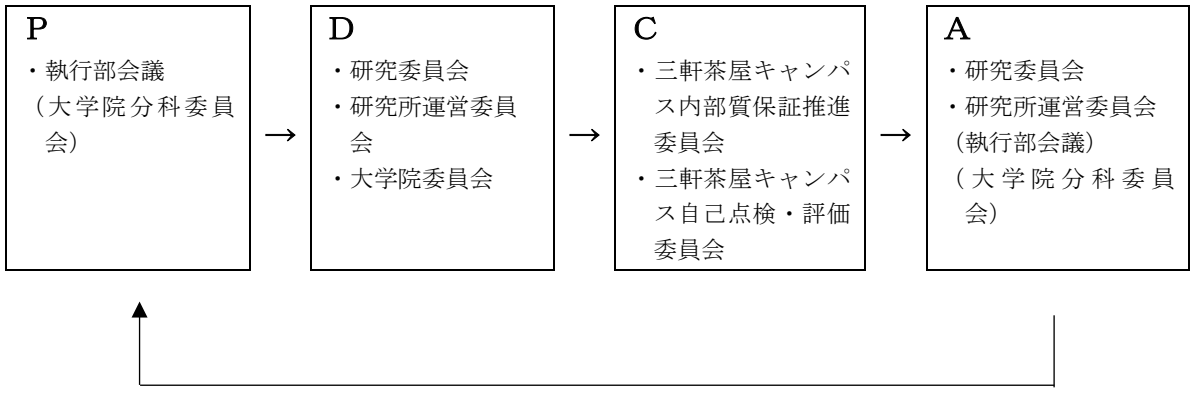
定期的に委員会を開催し，課題の把握，改善に努めている。
学生支援に関わる事項を定期的に点検するために，研究指導教員が責任もって一人一人の学生の支援に取り組んでいる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④
教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

危機管理学研究科では，ＰＤＣＡサイクルを意識して，年次ごとに，前年に立てた事業計画（教育研究等環境に関わる状況含む）がどの程度達成されたかについて，「事業報告」の一環として自己点検・評価を実施している。その結果，改善の余地がある事案に関して継続的にブラッシュアップし，効果的な取組へとつなげている。

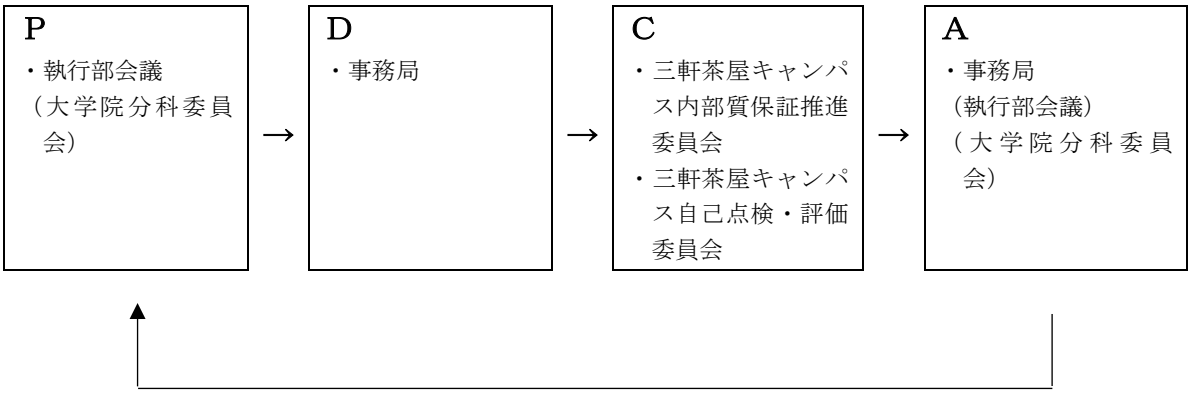
また，大学院生の研究等環境の維持向上のため，図書館内の一部教室を大学院生向けの学修スペースとして開放し，大学院生の教育・研究に資するため，学外講師による大学院特別講義を定期的に開催している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②
社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

危機管理学研究科では，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）において，当該事項に関する点検・評価を定期的に実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）に報告している。執行部会議（A）はその報告を踏まえ，改善内容を大学院分科委員会（P）に報告し，大学院分科委員会（P）は次年度に向けた計画を立てている。

事例としては，大学院特別講義の一部の回を一般公開とするとともに，アーカイブ配信を行い，大学院の研究教育活動を積極的に社会に還元している。さらに，大学院ホームページでそれらの社会貢献活動について積極的に広報している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院スポーツ科学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

P		D		C		A
・執行部会議 （大学院分科委員会）	→	・各種委員会	→	・三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会 ・三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会 （執行部会議）	→	・各種委員会 （執行部会議） （大学院分科委員会）



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

点検・評価について，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会から三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会へ依頼し自己点検・評価を進めている。

本部と連携をして，絞り込んだ項目を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会で集中的に点検・評価していたが，今年度からは，次期認証評価を見据え，全項目において点検・評価を執行部の指示のもと実施するよう改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

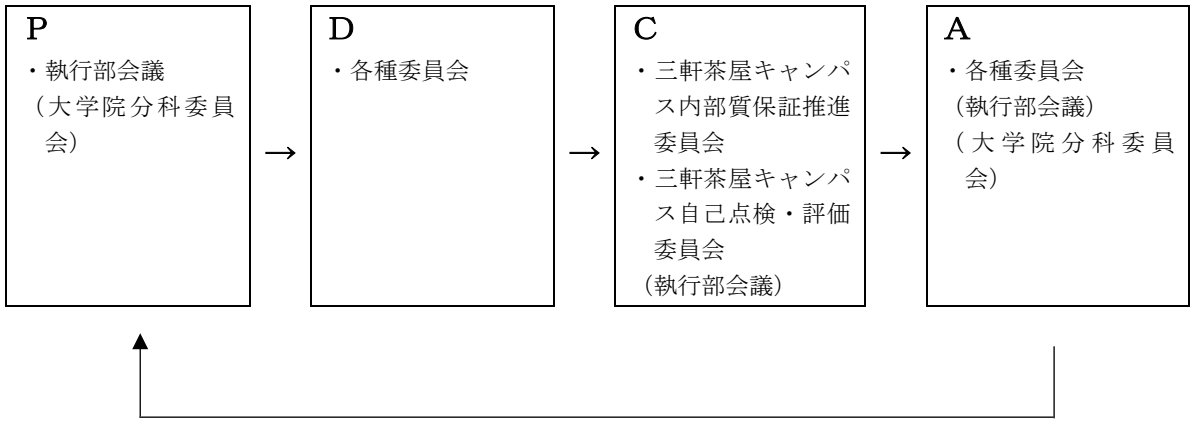
【提言（改善課題）】

ＰＤＣＡサイクルは，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会の検討結果を踏まえて大学院委員会及び大学院分科委員会での点検・評価を経て執行部会に報告し，運営改善に活用されているが，その機能を客観的に示す内部質保証体制や活動記録及びＰＤＣＡサイクル図等の文書が確認できなかったため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）において，修士課程では，教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないとの提言が付されている。そのため，内部質保証体制を機能させ，大学院委員会及び大学院分科委員会が主導することにより，教育課程の編成・実施方針を適切に定めるよう改善が求められる。

ＰＤＣＡサイクルについては,三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会の検討結果を踏まえた上で，大学院委員会及び大学院分科委員会において点検・評価を行った上で執行部会に報告し，運営改善に活用するものである。また，令和６年度大学評価（認証評価）において，修士課程では，教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていないとの提言については，既に大学院委員会で修正案を作成の上,本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

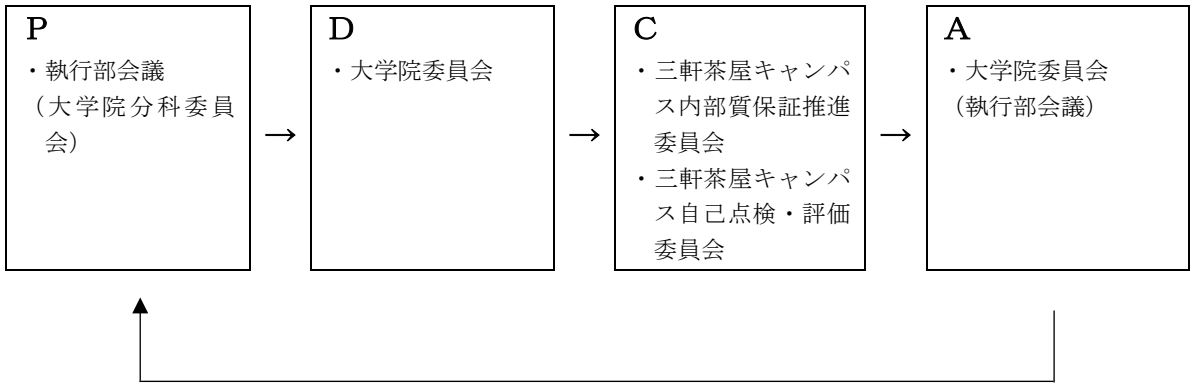
本研究科では，教育研究組織の見直し等について，まず専攻主任が所管する大学院委員会（D）において検討・発議し，その内容を三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）で点検・評価の上，研究科長が所管する大学院分科委員会（A）に付議して最終的な審議・承認を行うという体制の下，組織的な点検・評価を実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥
教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

執行部会議（Ｐ）から，各学期（前学期・後学期）における教育の内部質保証のための点検・改善について大学院委員会（Ｄ）に提言し，大学院委員会（Ｄ）は，各教員に対し学期ごとに授業改善計画書を作成させ，自身の授業について振り返る機会を設定している。また学期ごとに学生による授業評価アンケートも実施し，各教員に結果を配信の上，改善を促している。大学院委員会（Ｄ）は，実施状況を三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）に報告し，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（Ｃ）は，その報告内容を確認・評価した上で，大学院委員会（Ａ）への改善・向上を促すこととしている。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）による自己点検・評価結果を三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）で報告し，執行部会議（P）は，その報告内容を翌年度の事業計画作成や大学院委員会（D）への諮問に活用し，次年度の教育活動等の改善に反映，実行している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

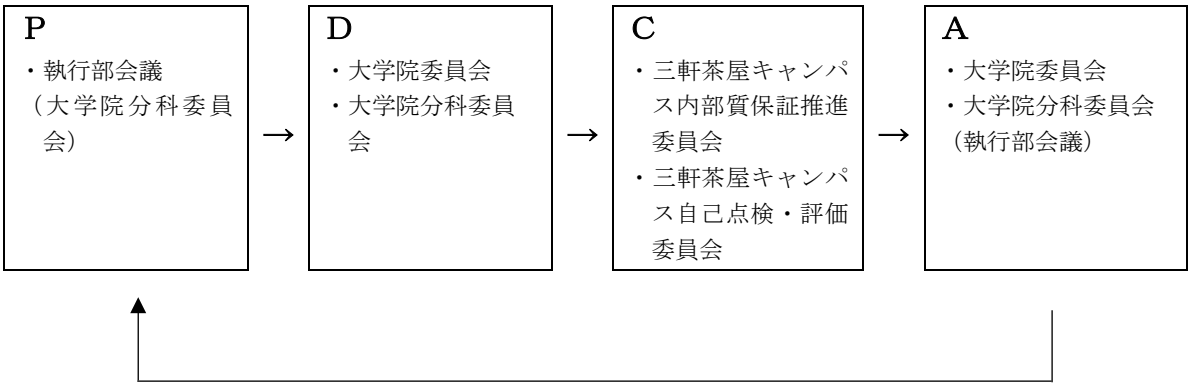
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，スポーツ科学研究科修士課程では，実施に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

令和８年度改正に向けて大学院委員会（D）において修正案を作成し，執行部会議（C）で点検・評価の上，大学院分科委員会（A）において検証を行った。既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。本部の方針が出た際には，その方針を踏まえ大学院委員会（D）において，再度修正案を作成し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）において点検・評価の上，大学院分科委員会（A）の決定を踏まえ本部への改正手続を行う予定としている。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

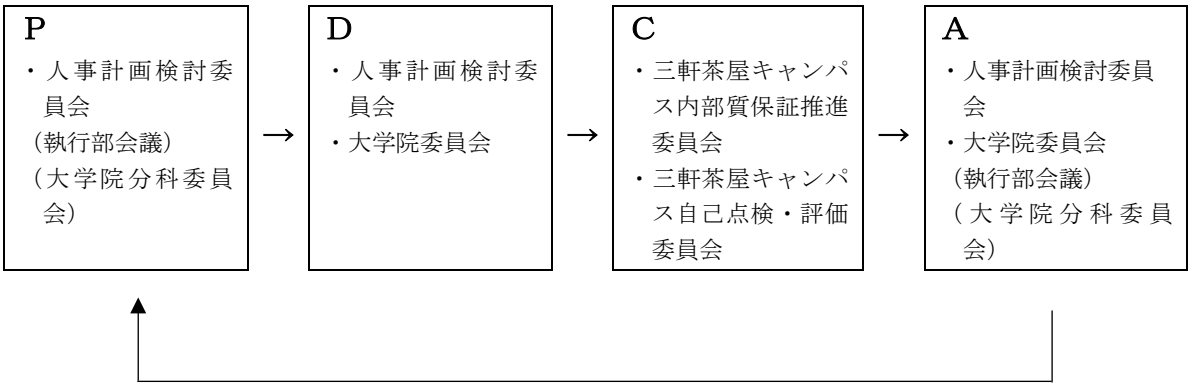
大学院委員会（D）で入学者の属性分析等を実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）で入試制度の最適化の観点で点検・評価を行っている。その評価内容について大学院委員会（A）で確認・検討を実施し，その改善方策（留学生選抜導入検討，博士後期課程の社会人獲得に向けた検討等）を大学院分科委員会（P）に提言している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会が毎年度，自己点検・評価を行っている。結果の活用，改善・向上への取組については努力が必要と思われる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

具体的な時間割編成方法や人員配置の根拠が示されておらず，実際に適切な授業負担が実現しているかを客観的に判断することが難しい。

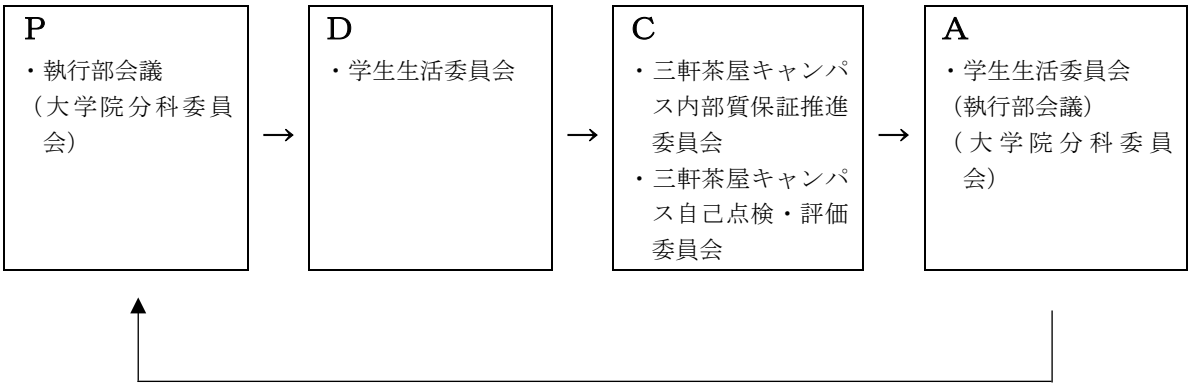
紹介に依拠した採用方法のみでは，教員採用の公正性や透明性，多様性の確保という点に課題が残る。特に，外部への広報や公募の実施が確認できないことから，開かれた採用機会の保障や広範な人材からの選抜機会の創出といった観点で不十分と言わざるを得ないため，改善が求められる。

実際の採用プロセスにおける具体的な取組（女性応募者の確保，選考方針の工夫，育成・支援制度の整備等）についての記述が確認できず，形式的な配慮にとどまっている印象が否めないため，改善が求められる。
現状では評価方法や基準の具体性，成果のフィードバック方法についての記述が限定的であるため，改善が求められる。

学部等教員組織編制方針に基づき人員配置を行っているが，客観的に判断が可能となるよう担当コマ数による適切な授業負担を図るなど，改善を図る。
教員採用の公正性や透明性，多様性の確保するため令和８年度採用としての助教採用において公募を実施したが，残念ながら今回は女性応募者がゼロであった。本学部は４人に１人が女性教員ではあるが，引き続き女性応募者の確保に努めていく。また，選考方針としては，スポーツ科学という分野の中で研究と実践のバランスを考慮している。育成・支援方針としては，教授退職後は助教等の若手を任用することとしている。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②
学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

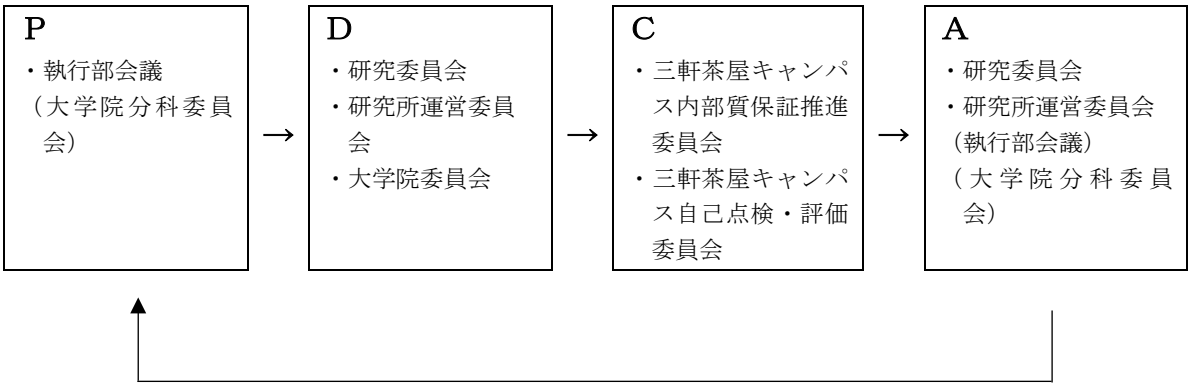
本研究科では，学生支援にかかわる事項について，まず専攻主任が所管する大学院委員会において検討・発議し，その内容を研究科長が所管する大学院分科委員会に付議して最終的な審議・承認を行う体制の下，組織的な点検・評価を実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④
教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。
＜評価の視点＞
・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

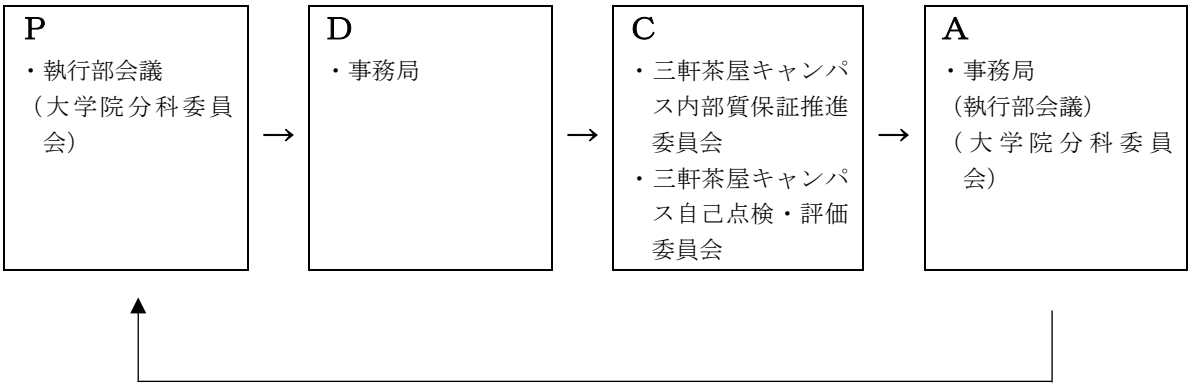
スポーツ科学研究科では，年度ごとの事業報告を通じた自己点検・評価というＰＤＣＡサイクルを運用し，教育研究等環境の改善を図っている。前年の計画達成度を検証し，その成果と課題を基に継続的な改善を行うことにより，教育研究等環境の質的向上が見込める点は評価できる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

スポーツ科学研究科では，三軒茶屋キャンパス自己点検・評価委員会（C）において当該事項に関する点検・評価を定期的に実施し，三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会（C）及び執行部会議（A）に報告している。執行部会議（A）はその報告を踏まえ，改善内容を大学院分科委員会（P）に報告し，大学院分科委員会（P）は次年度に向けた計画を立てている。

事例としては，大学院特別講義の一部の回を一般公開とするとともに，アーカイブ配信を行い，大学院の研究教育活動を積極的に社会に還元している。さらに，大学院HPでそれらの社会貢献活動について積極的に広報している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

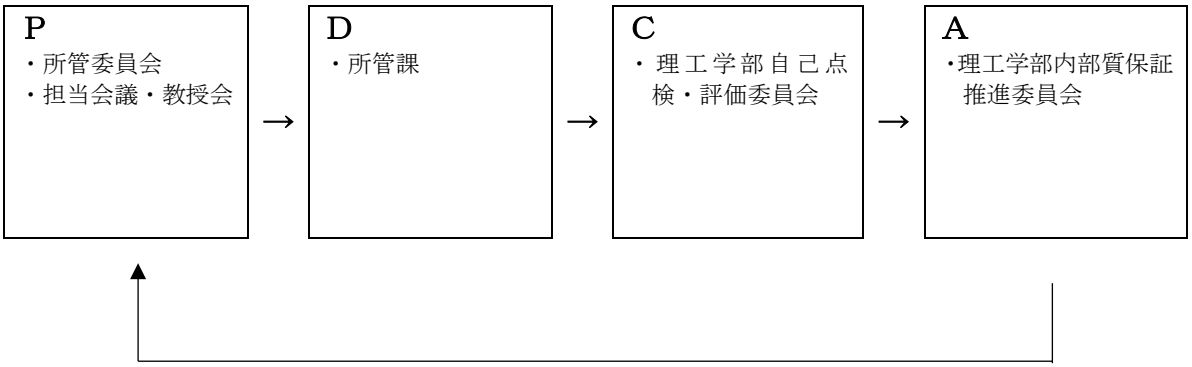
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院理工学研究科（地理学専攻除く）

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，理工学部自己点検・評価委員会（専門委員会含む）が関係部署（各委員会等）へ点検・評価の資料作成依頼を行い，取りまとめた点検・評価報告書等を理工学部内部質保証推進委員会へ報告を行い，本学部の課題等の抽出を行っている。課題として抽出された事項については，理工学部自己点検・評価委員会が関係部署へ改善計画の作成を指示し，改善に努めている。作成された改善計画は担当会議（執行部会）において審議を行い，担当・主任会議及び教授会にて報告している。

また，本研究科では，理工学部自己点検・評価委員会及び理工学部内部質保証推進委員会が中心となって教育活動に関する外部評価を実施しており，外部評価結果で意見等があった内容については，各部署において改善取組計画を作成し，理工学部内部質保証推進委員会で検証を行っている。理工学部内部質保証推進委員会で検証後，外部評価者へ改善取組状況の報告を行うとともに，併せて，教授会での報告，本学部ホームページへ掲載を行うこととしている。

自己点検・評価活動以外の取組としては，理工学部内部質保証推進委員会が理工学部情報統括委員会（ＩＲ委員会）の取組内容，ＳＤ研修会・ＦＤ研修会の開催結果等について報告を受

け，点検・評価を行っており，改善が必要な場合は改善指示を行っている。
　具体的な改善事例としては，大学評価（認証評価）等の指摘に基づき，大学院委員会ではカリキュラム改正の準備を行っており，令和８年度は共通英語教育の拡充及びアントレプレナーシップ科目の新設を実施し，令和９年度には各専攻のカリキュラム改正を行うこととしている。また，教員組織においても，ＴＡ（ティーチング・アシスタント）の育成強化に向け，理工学部内部質保証推進委員会からの指示に基づき研修を制度化する等，点検・評価の結果を実効性のある制度改善へとつなげている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

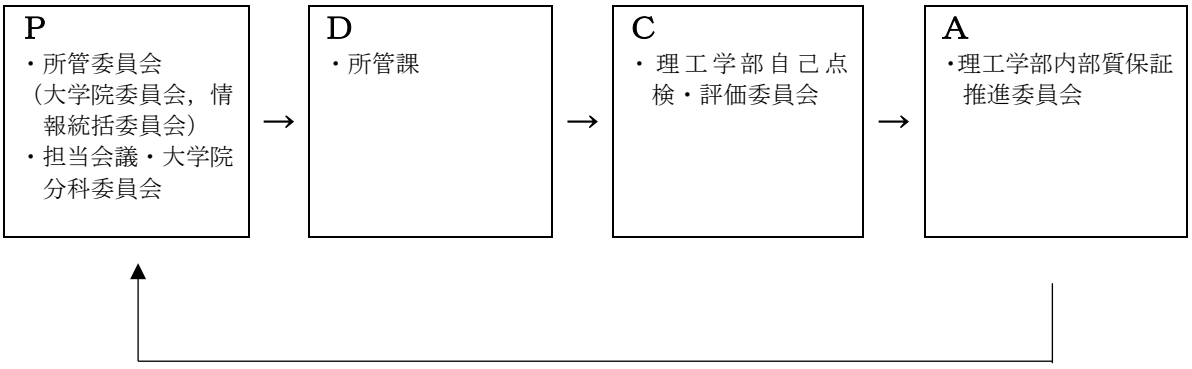
【提言（改善課題）】
　令和６年度大学評価（認証評価）結果において，博士前期・後期課程の複数専攻で授与する学位ごとに学位授与方針を設定していない，また，博士後期課程の教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的な考え方が示されていないとの提言が付されていることから，内部質保証体制を機能させ，授与する学位ごとに学位授与方針を策定し，また，博士後期課程の教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方を明示するよう改善が求められる。

　現在，大学院委員会では，令和８年度カリキュラム改正の準備を行っている。カリキュラム改正は，段階的に実施する計画であり，令和８年度は共通英語教育の拡充及びアントレプレナーシップ科目の新設を実施し，令和９年度には各専攻のカリキュラム改正を行う。最終的には，一連のカリキュラム改正の総仕上げとして３つのポリシーの見直し（授与する学位ごとに学位授与方針を定めていない専攻は，学位ごとに授与方針を定めることを含む）を実施する予定である。
　同取組については，自己点検・評価等通じて理工学部内部質保証推進委員会において検証を行い，改善状況等の確認を行うことする。

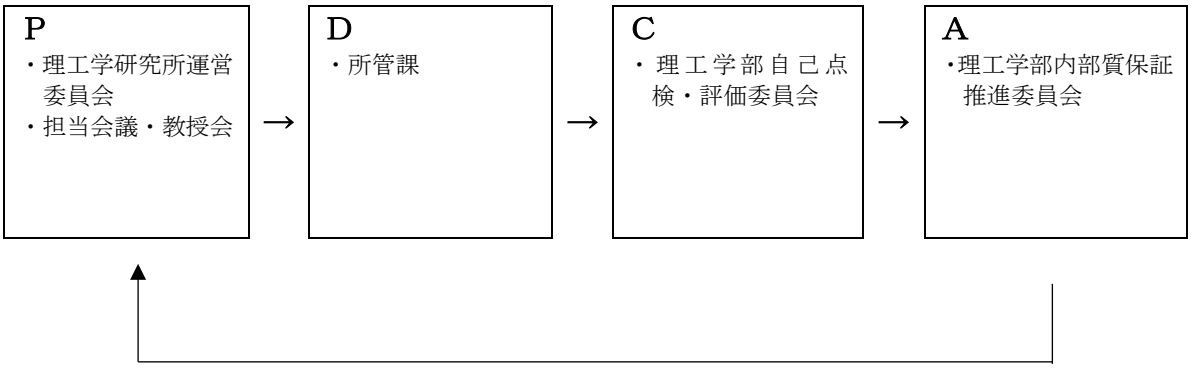
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【専攻の新設・改組等】



【研究所の新設・改組等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

専攻組織の適切性については，大学院委員会，理工学部情報統括委員会（ＩＲ委員会），執行部が中心となり，カリキュラムの検討及び入学定員充足率・収容定員に対しての学生充足率等の専攻定員管理から検討を行い，計画の立案を行っている。

研究所の新設・改組等は，理工学研究所運営委員会が中心となり，学部全体の研究力向上と外部への認知度向上等を目的として計画立案を行っており，令和７年度に研究支援体制の整備

と機能強化を図るため，分野間連携を含む共通の研究目的を持つ複数の研究者の単位にユニット名称を付して組織的に活動することを学部の公式な位置付けとして扱う仕組み（研究ユニット制度）を制定した。

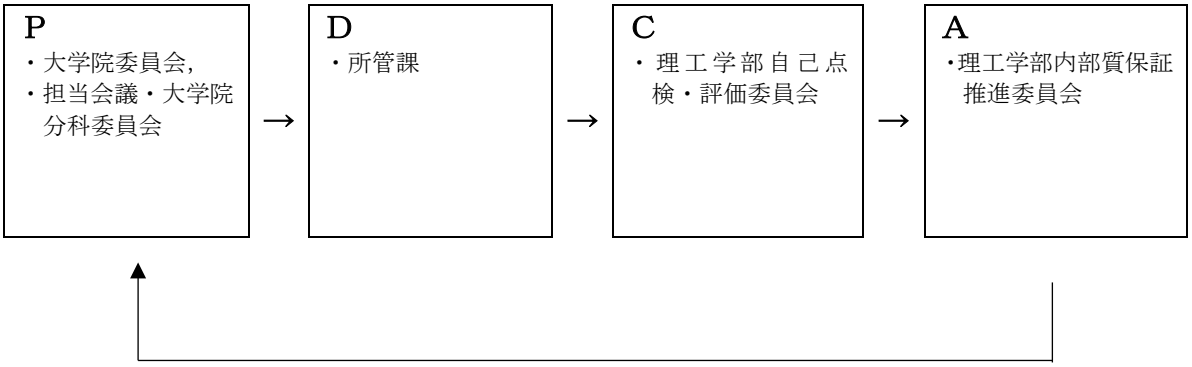
上述のとおり，専攻組織及び研究所組織の適切性については，所管委員会等で計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議，教授会・大学院分科委員会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

大学院委員会が所管委員会となり，上記のＰＤＣＡサイクルで点検・評価を行っている。評価の基準は，日本大学教育憲章，各専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性を主たる指標としている。また，大学評価（認証評価）等で指摘された「授与する学位ごとの学習成果を明示した方針を適切に定める」等の項目についても，重要な評価指標として設定している。

周期については，カリキュラム完成年度に合わせて検証を行っており，令和５年度にカリキュラムの改正（一部専攻は令和６年度）を行った。現在は，令和９年度に向けてカリキュラム編成方針を見直す予定としており，大学院委員会において準備を進めている。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

カリキュラムの見直しは，大学院委員会が自己点検・評価の結果等に基づき，当該カリキュラム完成年度までの各専攻等における検証結果を基に，日本大学教育憲章，主に教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）並びに（人材養成その他）教育研究上の目的を踏まえた検証を行う教育課程の改善・見直し内容の立

案を行っている。令和５年度にはカリキュラム改正を行い，リサーチワークのみであった博士後期課程のカリキュラムにコースワークを設置した。令和８年度においては，共通英語教育の拡充及びアントレプレナーシップ科目の新設を実施する予定である。
　所管委員会にて計画の立案を行った内容については，担当会議，担当・主任会議，大学院分科委員会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価及び教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

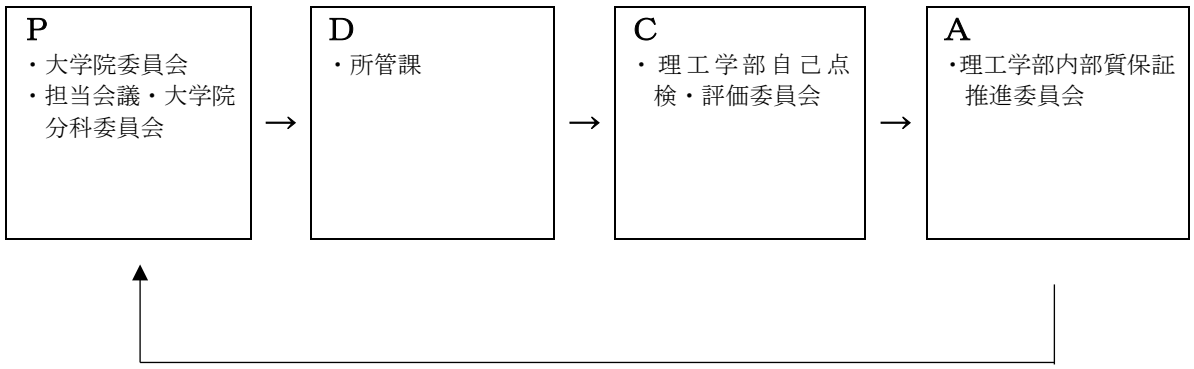
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
　令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「学位授与方針について，理工学研究科情報科学専攻博士前期課程，同博士後期課程，同物質応用化学専攻博士前期課程，同博士後期課程，同量子理工学専攻博士前期課程及び同博士後期課程では，授与する学位ごとに同方針を設定していない。また，教育課程の編成・実施方針について，理工学研究科情報科学専攻博士前期課程，同博士後期課程，同物質応用化学専攻博士前期課程，同博士後期課程，同量子理工学専攻博士前期課程及び同博士後期課程では，授与する学位ごとに設定していない。さらに，理工学研究科博士後期課程では，実施に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

　現在，大学院委員会が，令和８年度カリキュラム改正の準備を行っている。カリキュラム改正は，段階的に実施する計画であり，令和８年度は共通英語教育の拡充及びアントレプレナーシップ科目の新設を実施し，令和９年度には各専攻のカリキュラム改正を行う。最終的には，一連のカリキュラム改正の総仕上げとして３つのポリシーの見直し（授与する学位ごとに学位授与方針を定めていない専攻は，学位ごとに授与方針を定めることを含む）を実施する予定である。
　同取組については，自己点検・評価等通じて理工学部内部質保証推進委員会において検証を行い，改善状況等の確認を行うことする。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院委員会が，各入試別の実施内容が適切であるか，また，適正な定員管理が行われているかの点検・評価を行っている。また，大学院委員会が中心となり，試験実施や入学定員管理が適切に行われるように，改善案を大学院分科委員会に諮り，改善・向上を図っている。

上述のとおり，学生の受け入れに関わる事項については，所管委員会等にて計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議，大学院分科委員会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価，教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.20 と低く，大学基準協会が定め

る「基礎要件に係る評価の指針（大学)」に抵触しているため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「収容定員に対する在籍学生数比率について，理工学研究科博士後期課程で 0.23 と低くなっているため，大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる」との提言が付されているため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

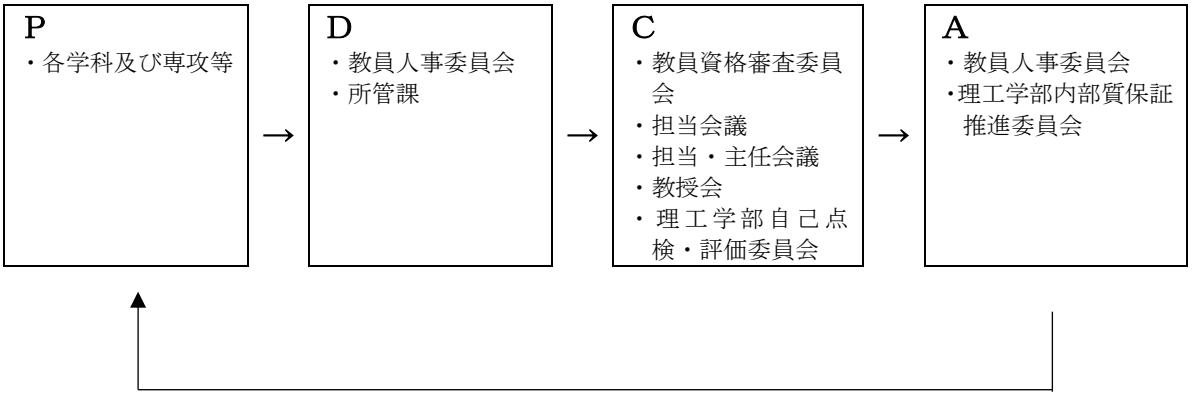
広報・周知の取組としては，社会人大学院生の受け入れをアピールするために，新たに「社会人大学院生への誘い」というリーフレットを作成し，企業が訪問した際に必要に応じて配布するとともに，卒業生が参加するホームカミングデーでも配布を行った。これらの取組は，本学部と企業との関係強化にもつなげることができ，共同研究やインターンシップの受入れ先にもなる等，好循環を生むことが期待される。

また，広報・周知以外の取組は，進学の実質的障壁（経済的負担等）への対応として研究奨励費（授業料相当額）の給付制度の導入を行う予定である。

両取組については，自己点検・評価等通じて理工学部内部質保証推進委員会にて検証を行い，改善状況等の確認を行うことする。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

各学科等から提出された次年度の教員人事計画を毎年６月開催の教員人事委員会において，各学科等における教員の組織構成や資格ごとのバランス及び年齢構成を含めその可否を検討している。検討結果については，各学科等に通知され，必要に応じて面談を行うこととしている。この結果を基に，学科等は規程及び基準等に照らして採用活動の実施及び昇格者を検討し，教員資格審査委員会，担当会議，担当・主任会議及び教授会における審査を経るものとしている。

教員人事委員会では，学校教育法等に基づき定められた「教員配置計画に係る基本方針」及び「教員組織編成方針」を踏襲し，理工学部における中・長期にわたる教員組織・人事計画「教員配置計画」に関する事項を審議し，学科等における年齢構成や資格ごとのバランスを考慮している。また，教員資格審査委員会，担当会議，担当・主任会議及び教授会では，新規採用等の申請があった者について，教員規程等に定められた資格の確認及び審査を行うことで，公平性及び公正性を担保している。

同取組と並行して，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて，大学院設置基準に定める教員数の充足状況等から教員組織の適切性について検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は所管委員会等にフィードバックを行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

学科ごとに任されている運用のばらつきが，採用基準や選考過程の明確さ，透明性に差を生む可能性があるため，学部として共通の募集方針やガイドラインを整備・共有することが今後の課題であり，改善が求められる。

現状の対応は配布資料と専攻による個別説明にとどまっており，全学的・体系的な研修プログラムの有無や，継続的なフォローアップ（フィードバック，問題点の共有等）については記述が確認できず，ＴＡの授業補助力を更に高めるための取組としては課題であるため，改善が求められる。

学科等により取り扱う分野及び求める人材像等が異なることから，理工学部統一の教員評価基準「理工学部教員評価基準」を基に各学科等で評価基準を定めている。この評価基準については，教授会の審議を経て制定・改正することとしている。また，教員資格審査委員会及び教授会等において上記基準に沿って審査を実施していることから，採用基準及び審査の透明性は担保されているものと考える。今後，学科ごとの運用にばらつきが生じないよう，引き続き検証するものとする。

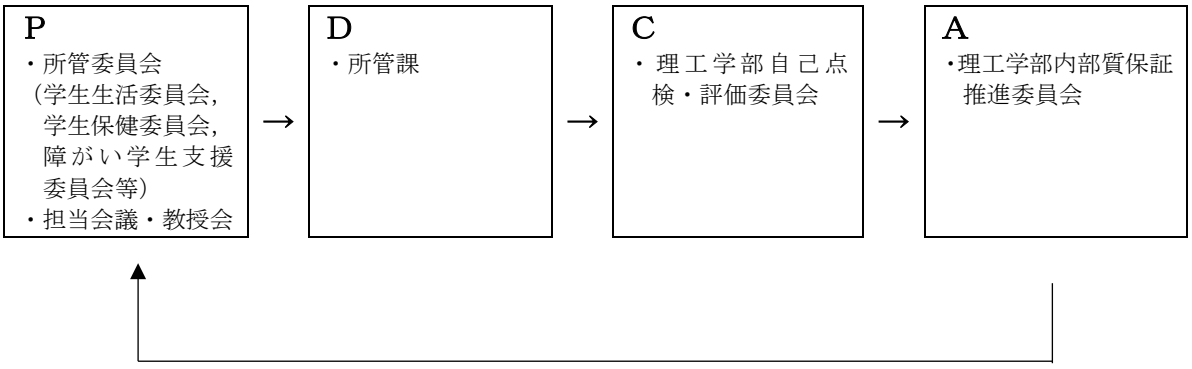
また，ＴＡに対する研修は，日本大学理工学部ティーチング・アシスタントに関する内規の改正を行い，次年度以降，研修を制度化する。体系的なプログラムと継続的フォローアップにより，ＴＡの授業補助力を組織的に向上させるよう取り組む。

両取組については，自己点検・評価等を通じて理工学部内部質保証推進委員会にて検証を行い，改善状況等の確認を行うこととする。

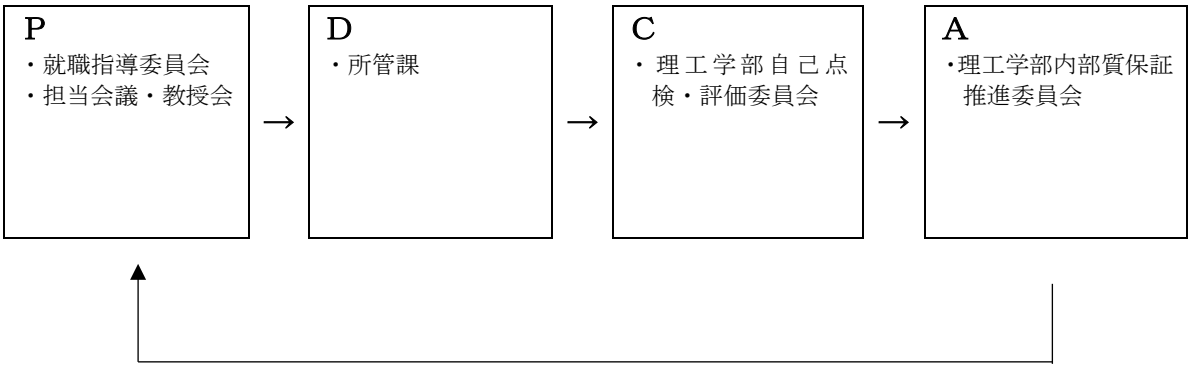
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活関係】



【就職関係】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活委員会においては，学生団体（サークル）の活動実績に応じ，昇格や降格，廃部，活動実績に応じた補助金支給額の審議を行っている。学部祭（桜理祭）の運営に当たっては，学生の実行委員会代表者と学生生活委員会による桜理祭協議会を校舎ごとに開催し，学部祭の企画内容の適切さや安全管理について確認し，審議の上，学生との協同に取り組んでいる。学部祭終了後には，同委員会においてその実施報告を精査し，所管課及び学部祭実行委員会とともに，次年度の取組への改善に活用している。

学生保健委員会においては，学部内の学生傷害事故等調査委員会にて報告された実験中に発

生した傷害事故における原因究明と対策案を審議検討して，対策案を学部内で共有し，実験装置の取扱い手順や方法の改善を図る等，学部内で改めての注意喚起を行う契機とし，再発事故の防止と更なる安全対策に向けての取組を行っている。毎年４月に実施する「日本大学メンタルヘルスチェック（K6)」においては，取得した結果に基づき，数値や分布傾向等を分析し，リスクが高いと思われる学生への対応については，面談での状況確認を経て，必要に応じて，カウンセリングや保健室との連携，合理的配慮の申請を行って円滑に学生生活が過ごせるよう取り組んでいる。本委員会で作成し，初年次教育授業において実施している「学生生活の安全・健康学」の講義においては，各学科にて実施された状況を確認して，受講後の理解度を測るための小テストの実施や講義を担当した教員へのアンケートを行い，委員会において次年度への改善内容等を検討し，次年度の編集時に反映している。

障がい学生支援委員会においては，決定した合理的配慮の実施状況を，支援対象者及び支援実施者と面談等を通してモニタリングを実施している。実施状況に問題がある場合や追加や削減の要望がある場合には，再度委員会に諮る等の対応を行い，適切な支援が実施できるよう体制を整えている。合理的配慮の提供に当たっては，各種研修や理工学部学生理解講座などの取組を行っているが，合理的配慮の提供内容や決定過程に不服等がある場合や，万が一差別的な取扱いを受けてしまった場合に備えて，令和７年７月より学生支援室への相談，本部学生支援センターへの再相談，本部学生課への救済措置の申立て等の体制を整備している。

就職支援に関する年間計画等は就職指導委員会が中心となって策定し，学生の就職活動の動向や前年の支援実績，企業からのフィードバック等を踏まえ，ガイダンスや個別相談，求人開拓等の支援方針を定めている。具体的な支援活動の実施については就職指導課が担っており，就職支援計画の実行に当たっている。

上述のとおり，学生支援に関わる事項の適切性については，所管委員会で計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議及び教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価及び教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

これらにより，学生生活におけるより充実したサポート体制，就職活動の早期化に対応した低学年向けのキャリア形成支援プログラムを新たに開催する等効果的な取組につなげている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題)】

駿河台校舎の学生支援室について，カウンセリング及び合理的配慮の支援希望件数が増加している状況下において，相談希望者が気楽に訪れることが難しい環境にあることは改善が求められる。

本学部駿河台校舎学生支援室は，面談ブースの数などは船橋キャンパスと同様であるが，理想としては相談に至らずとも少なからぬ不安を持つ学生が予約なしで，気軽に訪れるための空間的な環境構築（フリースペース，サロン等の設置）が有効であるが，都市型キャンパス故に空間的な問題があるため，その設置が困難な状況となっている。

相談予約については，相談を希望する学生が予約するためのハードルを低減するため，学生保健委員会，所管課において Web フォームによる予約体制を構築している。予約は継続者が優

先であり，時期によっては新規予約が困難な場合があることから，校舎間の所管委員会及び事務局，大学本部の学生生活委員会及び学生課との連携により対応しているが，駿河台・船橋の各校舎学生支援室間や重複するカウンセラーが在籍していることもあり，大学本部の学生支援センターを紹介する対応も行っている。

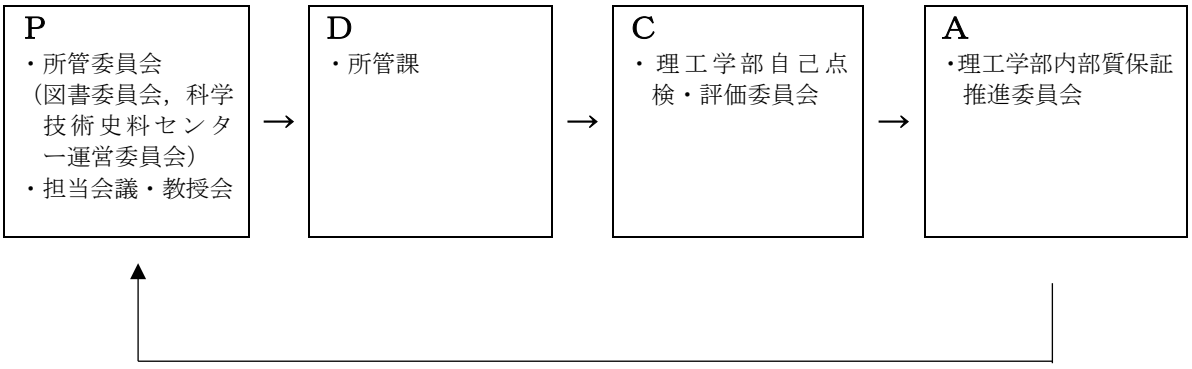
令和７年度から駿河台校舎では，所管委員会及び事務局で合理的配慮の申出に対して，学内及び学外の医療・福祉，行政機関とのコーディネーターとして，ソーシャルワークに関する有資格者（精神保健福祉士）を採用し，専門的知識と経験による質と効率の面でも改善を図り，多様な観点から，学生支援室を気軽に訪れ，抱えている悩みの早期解決に向けた契機となれるような環境を構築するよう改善を図っている。

本内容については，教育活動に関する外部評価においても外部評価者から「改善が期待される事項」として指摘を受けており，理工学部内部質保証推進委員会においても継続的に改善状況の検証を行う。

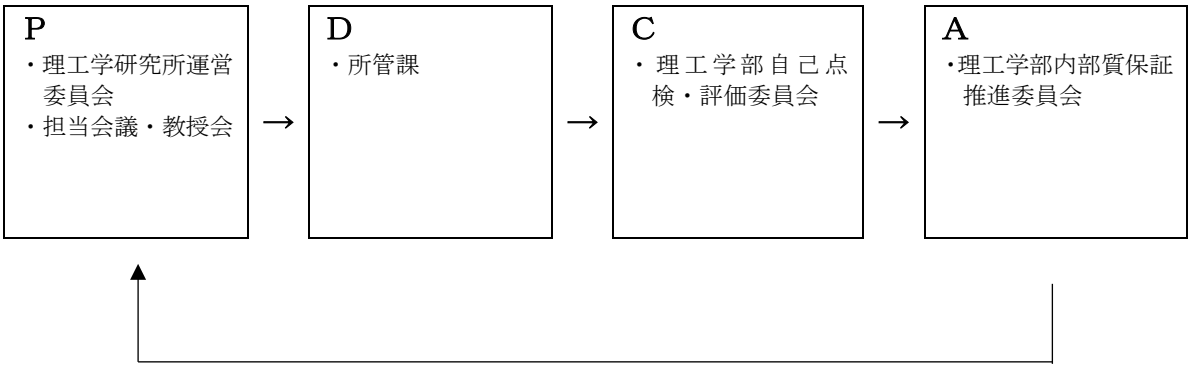
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究所】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

図書委員会では，図書館業務全般の報告のほか，図書館における諸課題への対応策の検討等を行い，その結果を基に図書館事務課が具体的な対応策を策定し，図書館利用の促進及び所蔵資料のアクセス促進を図っている。

科学技術史料センター運営委員会では，科学技術資料センターに関する報告のほか，特別展の企画，受贈・寄贈品受入の検討を行い，その結果を基に図書館事務課が具体的な対応策を策

定し，センター利用の促進及び史料の充実を図っている。
　理工学研究所運営委員会では，学部が実施する助成金等に競争的資金をより獲得していくことを目指す各種支援を行っている。また，理工学研究所長から，特に科学研究費助成事業への積極的な応募を学部内で促し，外部資金獲得のための説明会の実施・参加に取り組んでいる。これらの各取組の実施については，研究事務課が担っている。
　上述のとおり，教育研究等環境に関わる事項については，所管委員会で計画の立案を行い，担当会議，担当・主任会議及び教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

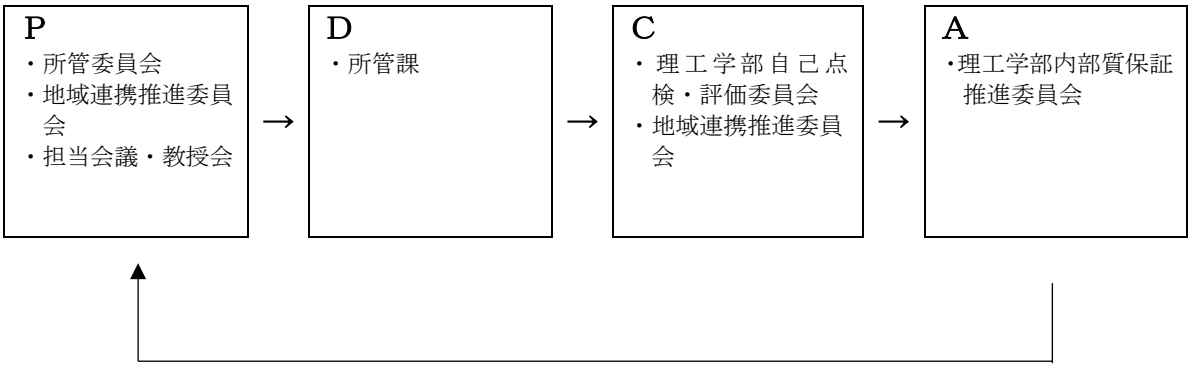
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

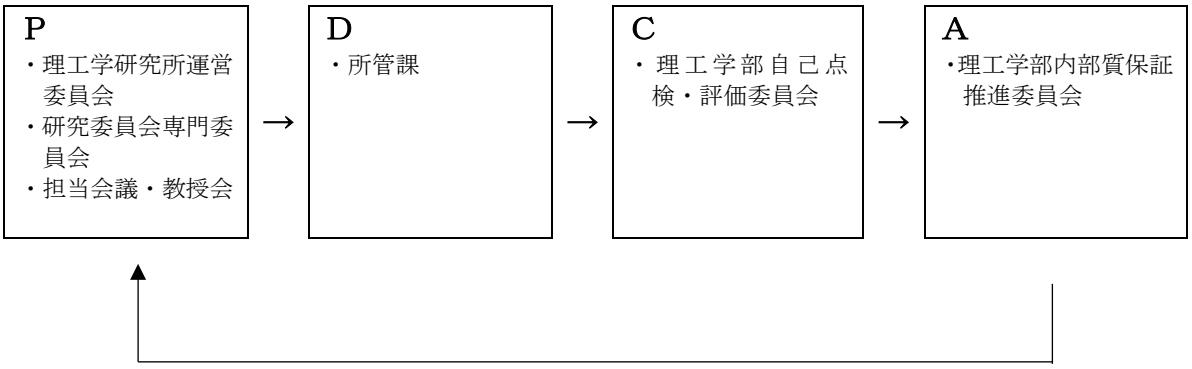
基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【公開講座等】



【研究関係】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

公開講座等の社会連携・社会貢献を目的としたイベントは，地域連携推進委員会及び各イベントを所管する各委員会にてそれぞれの特色を生かして計画を立案し，担当会議，担当・主任会議及び教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価，教育活動に関する外部評価等

を通じて検討・検証を行い，同結果は理工学部内部質保証推進委員会へ報告を経て，本学部の課題等を抽出している。

なお，検討・検証の段階では，地域連携推進委員会においても各イベントの実施状況等の確認を行い，ホームページを通して学外に広く発信しており，本学部全体の地域連携活動全体の改善・向上につながるよう計画の立案にも寄与している。

また，理工学研究所では，令和４年度から主に企業を対象とした研究所公開イベントを実施しており，同イベントは社会連携・社会貢献として果たす効果と同様に受託・共同研究に結び付くことを期待して，関連委員会において計画を立案し，担当会議，担当・主任会議及び教授会で報告等を行い，研究事務課等で実施している。同取組等についても，理工学部自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価，教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，理工学部内部質保証推進委員会へ報告を経て，本学部の課題等を抽出している。同イベントについては，外部評価結果において社会から意見交換等を通して研究課題をもらい，それをフィードバックする良いサイクルになっているとの評価を受けており，毎年実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

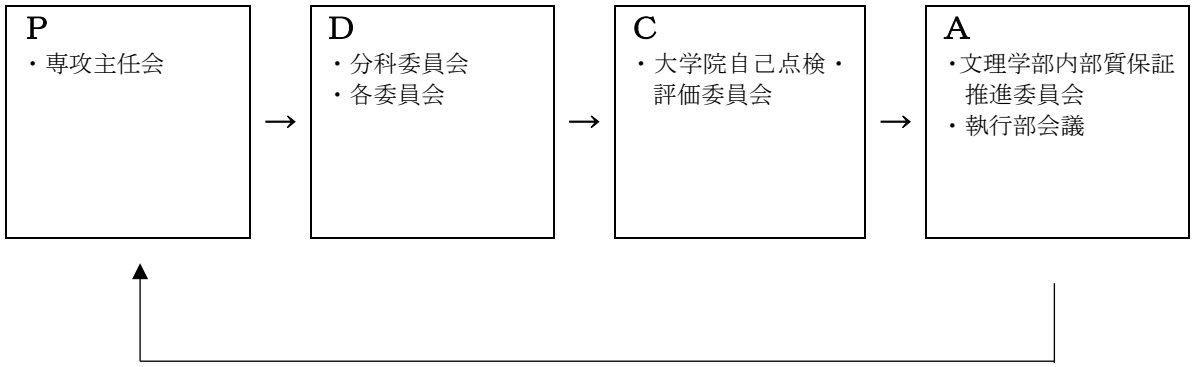
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院理工学研究科（地理学専攻）

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。
＜評価の視点＞
・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

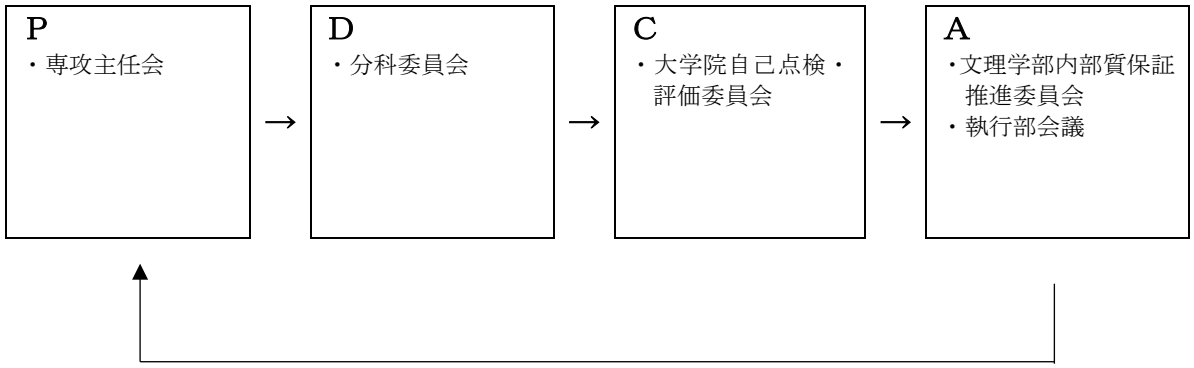
文理学部内部質保証推進委員会を開催し，内部質保証を支える基盤となる４委員会（大学院自己点検・評価委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院ＦＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会）の委員会での報告・審議事項等を点検・評価し，問題点を明確にしている。これらを基に４委員会に対し，文理学部内部質保証推進委員会から指示を与えている。また，その他の委員会についても，研究科の抱える諸問題の検討・解決を諮問事項として落とし込み全学部的に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育面については，月に１回又は２回開催している専攻主任会において，研究科専攻組織の適切性について必要に応じて点検・評価を行っている。問題が生じた際は，学部執行部と連携し対応に当たっている。また，文理学部内部質保証推進委員会から必要に応じて大学院教学ＩＲ推進委員会に対し，専攻主任会と連携し教学ＩＲを適切に機能させている。

研究面については，文理学部では研究委員会だけでなく人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所にそれぞれ運営委員会が設置されており，研究委員会と付置研究所運営委員会が連携し審議している。また，毎年度末には全教員を対象としたモニタリング調査を実施しているほか，随時，研究委員会委員長（研究担当），研究委員会副委員長及び研究事務課で点検及び一定の評価を行っている。

なお，専攻や研究所の新設，専攻の改組等については，執行部で検討されており，より多角的な視点で専攻や研究所の新設，専攻の改組等について意見集約に努める段階である。

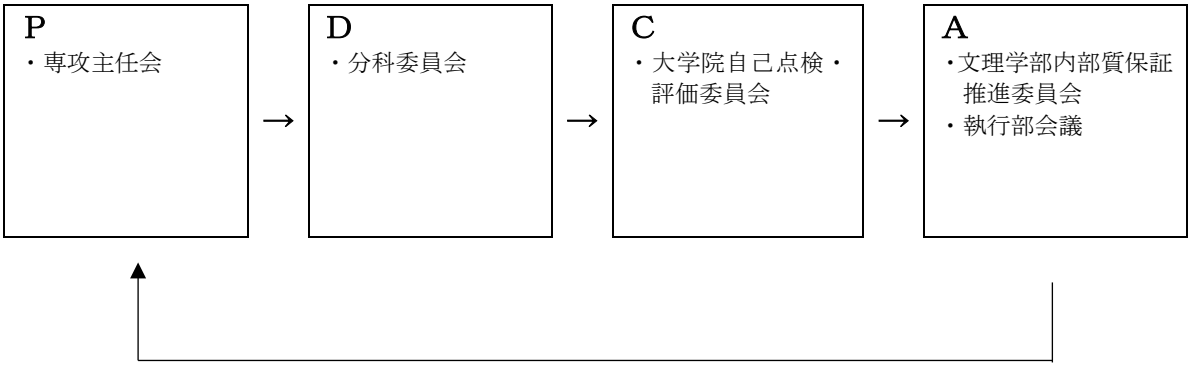
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

専攻主任会において，大学教育を取り巻く環境の変化等により必要に応じ，教育課程の改善・見直しを行っている。

現在，今後の教育課程の改善・見直しに向けて，情報を収集している段階である。今後，得られた情報を大学院教学ＩＲ推進委員会や大学院自己点検・評価委員会等と共有し，改善・見直しに向けて活用していく予定である。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院独自のＰＤＣＡサイクル確立に向けて，令和６年度後期に，大学院ＦＤ委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会及び大学院自己点検・評価委員会を設置した。

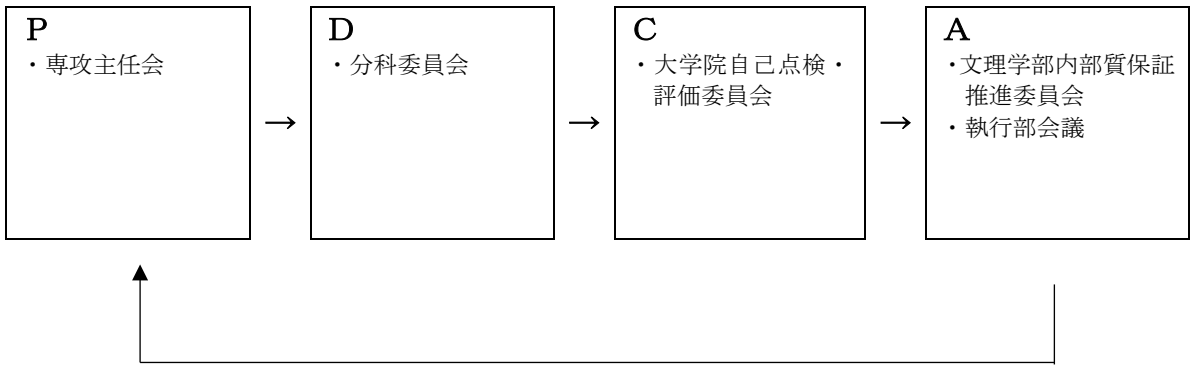
今後，大学院自己点検・評価の評価結果を共有し，専攻主任会にて教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上を図りたい。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院文学・理工学研究科専攻主任会において，学生の受け入れに係る事項について改善・見直しを行っている。

自己点検・評価結果及び全学自己点検・評価結果において，改善・向上すべき事項がある場合は速やかに関連委員会と共有し，改善・向上に向けて検討を進めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

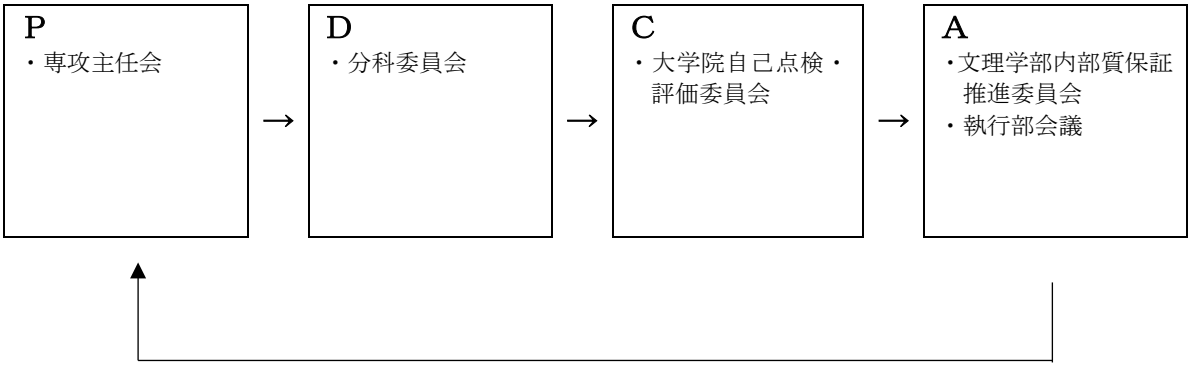
博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.20 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「収容定員に対する在籍学生数比率について，理工学研究科博士後期課程で 0.23 と低くなっているため，大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる」との提言が付されているため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

大学院文学・理工学研究科分科委員会において，広報内容や入試種類の見直しについて検討を行い，研究科の教育研究の特色や研究成果を分かりやすく発信できる体制の構築を目指す。具体的には，既存の学内選考制度及び大学院科目の早期履修制度について，学生及び学部教員への周知方法を見直し，制度の活用促進を図る。

さらに，社会人入試については，他大学の取組事例等も参考にしながら，受験しやすい制度設計や募集方法の在り方について検討を行い，中長期的な視点で段階的に改善を進めていく。専攻主任会の企画立案を分科委員会が実行し，大学院自己点検・評価委員会が点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討する。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

法人が定める「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」に基づき，毎年度，学部独自に各職位の人数・年齢及び性別構成等を含む多様性に考慮し，教員配置計画（学科・専攻）を作成し，執行部会議において，将来にわたり大学院設置基準等を下回ることのないよう，かつ人件費を抑制することの両立を目指し人事計画を定めている。なお，その際に，計画どおりに人事計画が進行しないことも発生するが，その状況が複数年継続することのないよう，執行部会議にておいて確認を行っている。また，現在法人において検討されている特別教授制度（仮称）及び基幹教員制度の動向に注視し取り組んでいる。

なお，文理学部においては，各専門領域における 18 学科を設置しているが，絶えず変化と改革を促すことが必要であることから，学科に属さない総合文化研究室を設置し，教員を目指す学生のための支援や留学生・留学希望者・外国語学習者への支援のため各センター（教職センター，グローバル教育研究センター）に専任教員を配置するなどの取組を行っている。

令和７年度においては，組織のスリム化及び教員の負担減のため，国際交流委員会の機能をグローバル教育研究センターに統合できないか検討を行うなど，可能な部分から改善・向上を行っている。

大学院自己点検評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

特定の教員に過度な授業負担が生じないようにするための具体的な方策や基準が示されておらず，「特になし」としていることは，教育研究活動を安定的かつ十全に展開するための教員組織の適正管理という観点から課題であり，改善が求められる。授業負担の偏在は，教育の質や研究活動への影響，更には教員の心身の健康にも直結するため，組織的な配慮と制度的な仕組みが不可欠である。今後は，授業担当数や業務内容の実態を把握した上で，負担の上限・下限を定めた基準や調整ルールを策定し，定期的に点検・評価を行う体制を整えることが求められる。

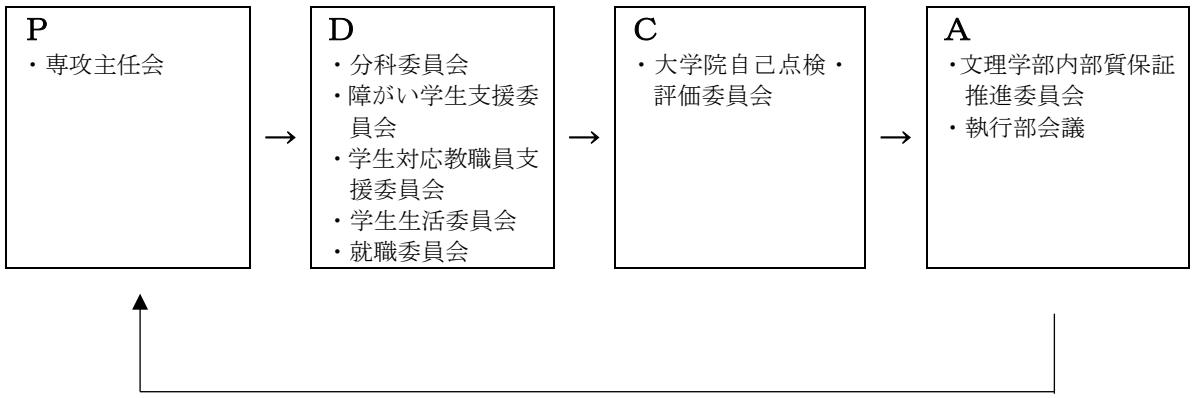
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「大学院固有のＦＤ活動を行っていないため，適切にこれを実施するよう改善が求められる」と提言が付されているため，改善が求められる。その他は，学部を参照いただきたい。

改善課題である「授業負担の偏在への方策」は，学校法人基礎調査での教員別の授業持ちコマ数一覧を，労務管理している部署に共有することにより「見える化」に努めた。また，全教員対象のストレスチェックの職位毎の結果を安全衛生委員会で情報共有した。今後は，参考になるデータを収集しながら，授業持ちコマ数やストレスチェック結果のデータと実際の教員の負担にどれくらい相関があるのかなど，慎重に分析を行っていく予定である。

また，「大学院固有のＦＤ活動」について，法人本部主導で推進している状況のため，分科委員会が本部と連携しながら適切に対応していく予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部長の諮問機関として学生生活委員会を設置し，学生生活及び支援に関する事項について協議している。学生生活委員会では，学部行事・サークル活動及び奨学金等全般について協議等を行っている。また，前学期・後学期に１回ずつ学生生活に関する講演会を実施し，学生全体への注意喚起を行っている。

合理的配慮を求める学生からの申出は，「学生支援室窓口」が窓口となっている。
コーディネーターが調整役として，学生のニーズを聞き取り，必要に応じて臨床心理士によるカウンセラーに意見を求め，申出のあった学生の支援者を集めての関係者カンファレンスの開催，「障がい学生支援委員会」で審議の後，合理的配慮の提供が開始される。

合理的配慮の実施状況は学生にモニタリングを行い，その結果適切に配慮されていない場合は「障がい学生支援委員会」に報告し，対応及び調整が行われる仕組みを確立している。

また，合理的配慮を実施した教職員及び関係者にもモニタリングを行っている。

令和６年度の課題であった後学期の合理的配慮の決定（支援開始）のずれ込みは，後学期授業が始まる前（夏季休業期間）から受け付けできるように変更し，後学期授業開始第１回目から支援が開始できるように改善を行った。
また，全学科の教員が委員に属する学生生活委員会で，その他の学生支援の関係する委員会の課題等を集約できないか検討をしている。
大学院自己点検評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成でき

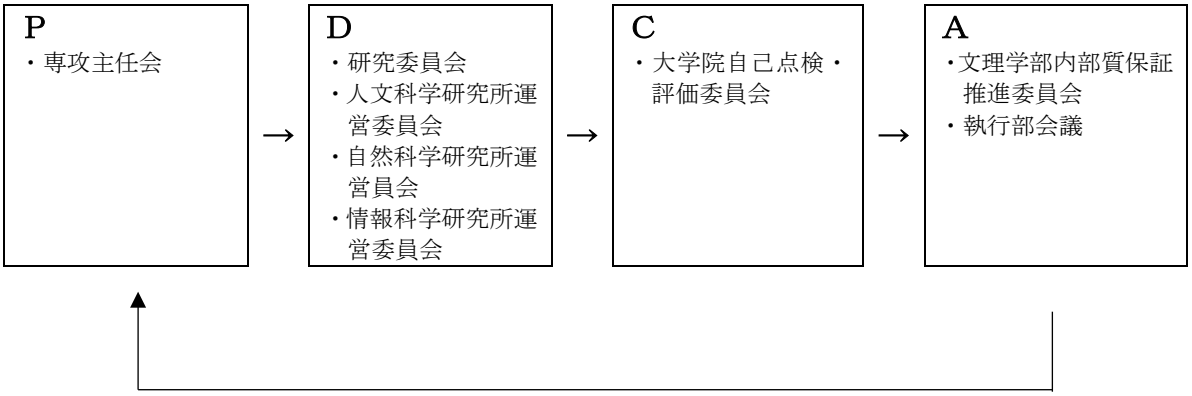
ているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部は，研究委員会を設置し，「研究支援・促進体制の整備充実並びに高度化その他学術研究に関する重要事項を審議する」ことが規定の任務の一つとされている。
また，文理学部は，人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所の三つの研究所に運営委員会を設置し，各運営委員会が事業計画や研究費の審議を行うことが既定の任務の一つとされている。

そのため，研究等環境に関わる事項は，研究委員会のみならず，三研究所の運営委員会においても発議され，審議される体制となっている。

これにより，文系学科と理系学科が併設される文理学部にあっては，各委員会がそれぞれの分野での問題点等を発議することによって，検討がなされ，改善を図っている。
令和７年度は，科学研究費助成事業の機関管理に関する改正を行った。これまで前任の研究機関で科研費の研究代表者であった研究者が，当該研究の研究期間の途中で本学の研究員等となった場合，日本大学大学院文学研究科，総合基礎科学研究科及び理工学研究科地理学専攻を修了又は満期退学した者でなくても当該科研費の移管及び本学部在職期間における機関管理をできるように改正した。これにより，本学部の研究活動を更に活性化させるとともに，優秀な若手研究者の確保及び育成できるよう改善している。
大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成で

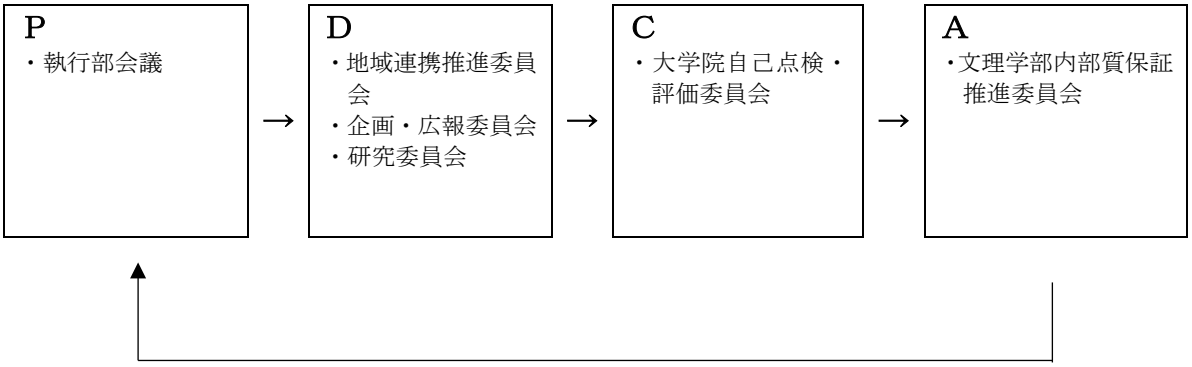
きているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

課題として，教職員が行っている様々な社会連携・社会貢献活動の情報集約する場がなかったため，その機能を果たすため地域連携推進委員会の諮問事項として落とし込みを行った。また，企画・広報委員会が，教職員から集まる活動成果を学部ホームページ等で発信し，アクセス数などから社会から需要に応えられているか確認している。

令和７年度は，地域の小中学生向けに，大学の教育研究活動の社会還元を目的とした「体験フェア～キッズチャレンジ～」を学園祭期間に初めて実施し，より積極的な社会貢献活動を行った。上記イベントのアンケート結果を学科主任会でも共有し，未参加の学科にも次年度以降参加を促し改善を予定している。様々な活動を学部執行部に十分に共有できていなかったので，本年度の事業が終了した段階で，会議上程し，情報共有及び活動への理解を促進して，ブラッシュアップしていく。

また，次年度は学部ホームページ更新時期のため，教員のメディア出演情報・プレスリリースなど更新頻度が少なく他の情報に埋もれがちな社会連携・社会貢献活動の好事例を Top ページで発信できるよう改善を予定している。

大学院自己点検評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

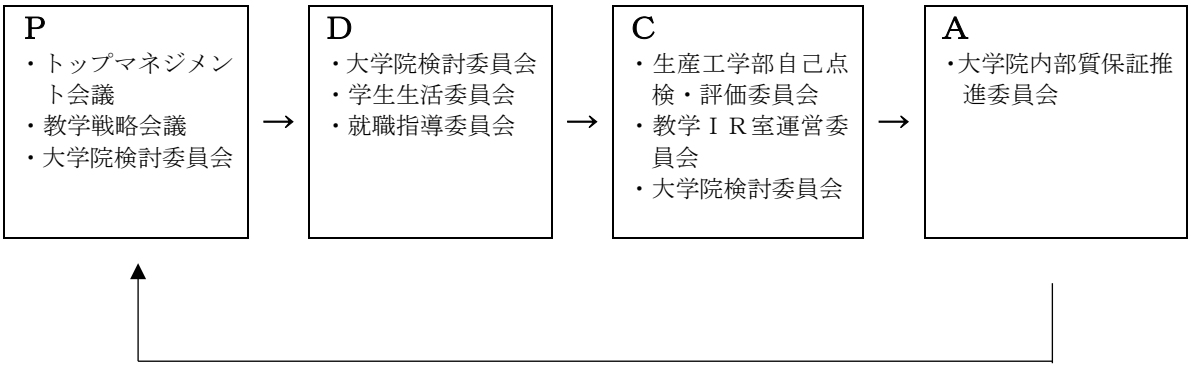
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院生産工学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科の内部質保証体制は，大学院内部質保証推進委員会が，生産工学部自己点検・評価委員会及び大学院検討委員会からの報告を受けて活動内容を把握し，自己点検・評価及び認証評価結果を中心に改善・改革すべき事項について検証・改善・改革を促し，その結果を専攻主任会議，大学院分科委員会へ報告する体制となっている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

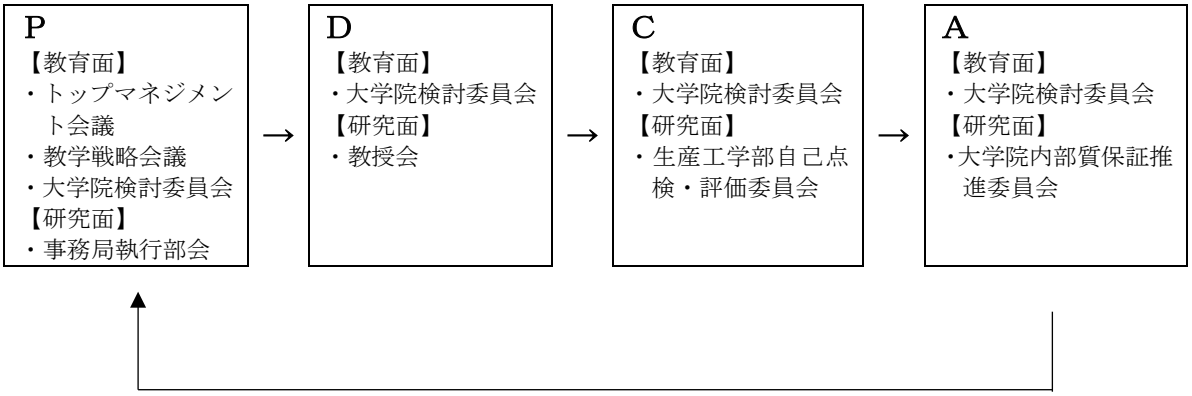
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，博士前期・博士後期課程において教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方が示されていないとの提言が付されている。ま

た，建築工学専攻博士前期課程において特定課題研究の審査基準が未設定であるとの提言（是正勧告）が付されている。これらは教育課程の適切な運営と学習成果の質保証に関わる重要事項であり，基準２とも密接に関連するため，例えば，大学院生産工学研究科内部質保証推進委員会が主導し，教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方を明示し，また，特定課題研究の審査基準の設定するよう，改善が求められる。

「博士前期・博士後期課程において教育課程の編成・実施方針に実施に関する基本的考え方が示されていない」については，大学院検討委員会で現状についての把握を行った。大学院検討委員会内のワーキングにて，改善案を検討して，大学院検討委員会及び大学院分科委員会にて，令和７年度中に改善予定である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科では，大学院検討委員会において３つの方針の点検・評価を行い，社会的要請と照らし合わせて，学科の改組，新設及びカリキュラム改正の必要性の検討を行っている。それに向けて，大学院検討委員会にて，大学院生産工学研究科ＦＤ研修会を実施し，学問の動向や社会的要請の取組の把握を行っている。

研究面については，研究所運営委員会又は研究委員会が，研究組織の見直し等に関する計画を設定し，案件に応じて担当会議あるいは教授会で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は大学院内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

点検・評価の結果，改善・向上を図った事例は，現在，研究所の下に設置されている複数のリサーチ・センターについて，設置の必要性を検証することが挙げられる。

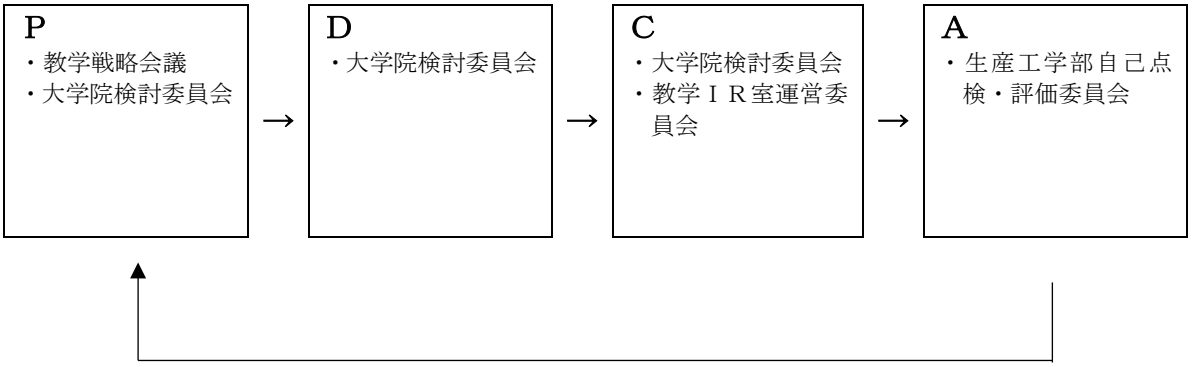
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

生産工学研究科では，教学ＩＲ室運営委員会を設置し，教育・研究の改善・改革に生かすため，教学に関する情報，資料のデータ収集及び分析を行っている。この分析結果に基づき，教育・研究の改善・改革を実行するために設置されている大学院検討委員会において，大学院生産工学研究科ＦＤ研修会での改善テーマを確認し，改善方策を検討することにより，内部質保証システムを有効に機能させている。

上記の全ての取組について，毎年実施している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科では，自己点検・評価の結果を基に，大学院検討委員会を中心として，大学院生産工学研究科ＦＤ研修会での改善テーマを確認している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「学位論文の審査基準について，生産工学研究科建築工学専攻博士前期課程では，特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができることを学則で定めているものの，特定課題研究の審査基準を定めていないため，これを定めるよう是正されたい」と提言（是正勧告）が付されているため，是正されたい。

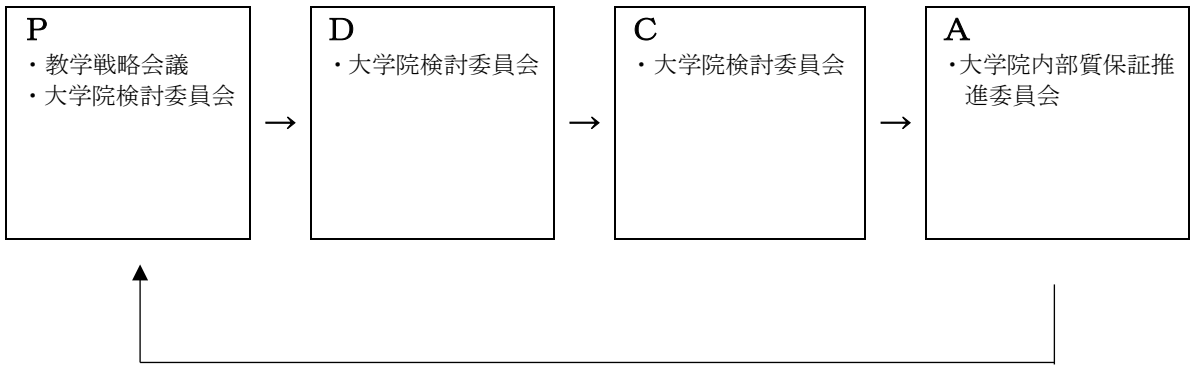
【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，生産工学研究科博士前期課程及び同博士後期課程では，実施に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

「学位論文の審査基準について，生産工学研究科建築工学専攻博士前期課程では，特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができることを学則で定めているものの，特定課題研究の審査基準を定めていないため，これを定めるよう是正されたい」については，大学院検討委員会において報告し，大学院検討委員会内のワーキングにて，検討の上，大学院検討委員会で改善案をまとめ，令和７年度中に改善予定である。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学研究科では，学生募集及び入学者選抜の適切性の検証及び改善・向上については，大学院検討委員会が中心となり，委員会に設置している大学院入学試験検討ワーキングなどでの検討を経て，専攻主任会議で常時検討・審議され，さらに大学院分科委員会に上程し審議している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

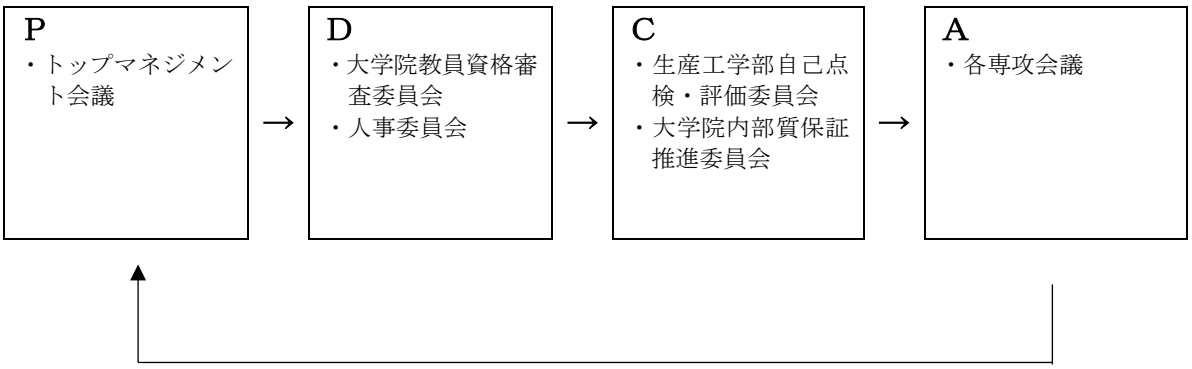
博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.29 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。

「博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.29 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。」については，現状，博士後期課程はほとんどが社会人特別選抜での入学者であることから，教学戦略

会議において，大学院の入学者増に向けたアクションプランを作成し，大学院検討委員会にて，博士前期課程からの進学者及び外国人留学生の受入れ増についての広報戦略の見直しを図るとともに，社会人特別選抜についても本学部卒業生，博士前期課程修了生の再入学の促進を図る施策を検討し，改善を行う。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

毎年度教員採用や昇格を検討する際に，各専攻主任が教員執行部に現場状況を踏まえた人事等の要望を説明した上で，教員組織編制方針に基づき教員人事計画及び教員配置計画の作成を行っており，その計画に基づき，大学院教員資格審査委員会・人事委員会・教授会で採用等について実行に移している。今後は，教員人事計画及び教員配置計画の内容について，教員執行部や事務局執行部等で構成されるトップマネジメント会議において，人数・年齢・性別等のバランスも含め，各専攻が継続的安定的に活動できる組織編制になっているかを確認した上で，採用を行うこととする。さらに，生産工学部自己点検・評価委員会において評価を行った上で，各専攻主任へフィードバックすることにより次年度の改善へつなげていく。

改善・向上を図った事例としては，非常勤講師数の削減を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

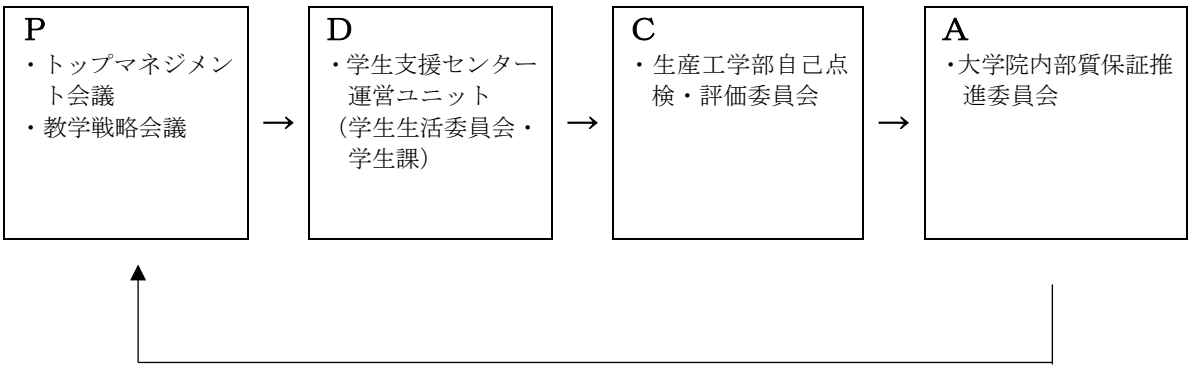
現状では専攻ごとに指導が行われているものの，全学的なガイダンスや統一的な研修制度がないため，業務の質や指導内容に専攻間で差異が生じる可能性があることは課題であり，改善

が求められる。
　その他は，学部を参照いただきたい。

　ＴＡに対するガイダンス及び研修について，令和７年度中に大学院検討委員会にて整備し，実施する予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

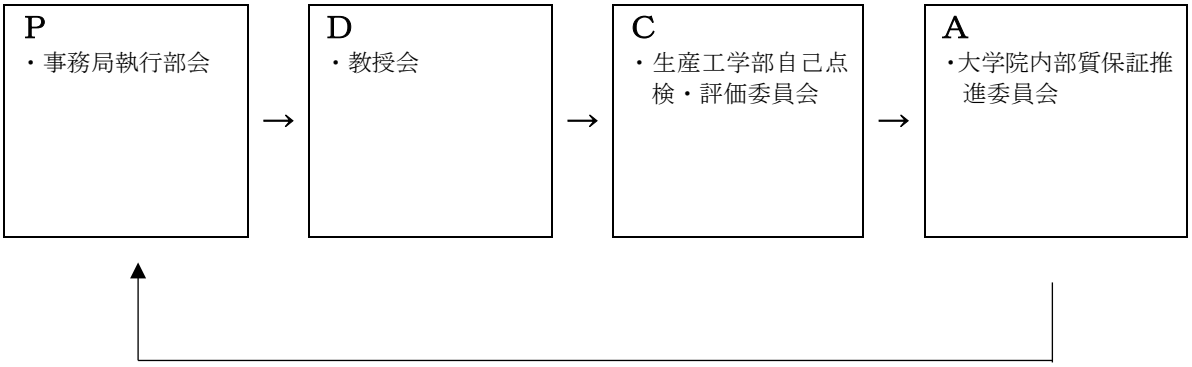
毎年度末，学生生活委員会幹事会にて，年度の取組の振り返りを行い，その結果を学部に報告している。それに基づき，学部から新たな課題を諮問されるとともに，学生生活委員会幹事会でも，新たな課題を設定している。例えば，今年度は，学生食堂の混雑緩和施策（券売機の導線整理，売店の弁当販売ブース拡大及びモバイルオーダーの導入等）のほか，学生の運動不足解消及びレクリエーションに寄与するものとして，利用率の低かった津田沼キャンパス多目的コートについて，令和８年度に向けて借用手続の簡便化や屋外用バスケットゴールを予算計上した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，研究所運営委員会あるいは研究委員会において，研究等環境に係る事項に関する計画を設定し，案件に応じて担当会議又は教授会で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は大学院内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

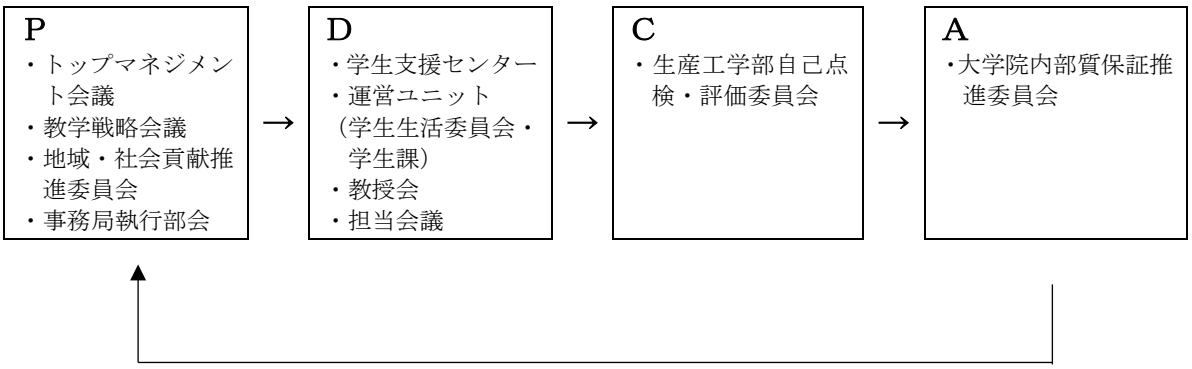
点検・評価の結果，改善・向上に向けた取組として，研究用施設である 32 号館，38 号館の研究環境について，部屋の利用方法や共用研究機器の整理について検証することが挙げられる。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

生産工学部では，地域・社会貢献推進委員会及び生産工学部自己点検・評価委員会を中心に点検・評価を行っており，「習志野市の地域防災力向上に関する覚書の締結」による習志野市への防災協力や「ふなばし市民まつり」への出展協力の内容の改善を図った。

学生の社会連携・社会貢献については，生産工学部と習志野市との包括的連携に関する協定に基づき，習志野市から本学部への要請による清掃活動等への参加学生募集や近隣の中学校へ運動施設貸出等を行っている。また，学生のボランティア活動については，日本大学本部のボランティア活動推進センター運営委員会と連携し，ボランティアサークル及び一般学生に適切なボランティアの紹介やボランティア活動に関する研修会の案内を行っている。ボランティアサークルには参加したボランティア活動について，問題となる事例はなかったか等ヒアリングを行い，学生生活委員会と情報を共有する。特筆した事項があれば，学生生活委員会で業績を判断した上で，学部内の表彰候補として担当会議に諮るものとする。

研究面での社会連携・社会貢献については，研究所運営委員会において研究成果の社会への還元を目的としてアウトリーチ活動等の計画を設定し，案件に応じて担当会議で実行を決定している。その後，実行した結果を生産工学部自己点検・評価委員会で評価した後，評価結果に基づき，改善すべき点がある場合は大学院内部質保証推進委員会で改善策を立案して，次の計画に反映させる形で改善・向上に取り組んでいる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

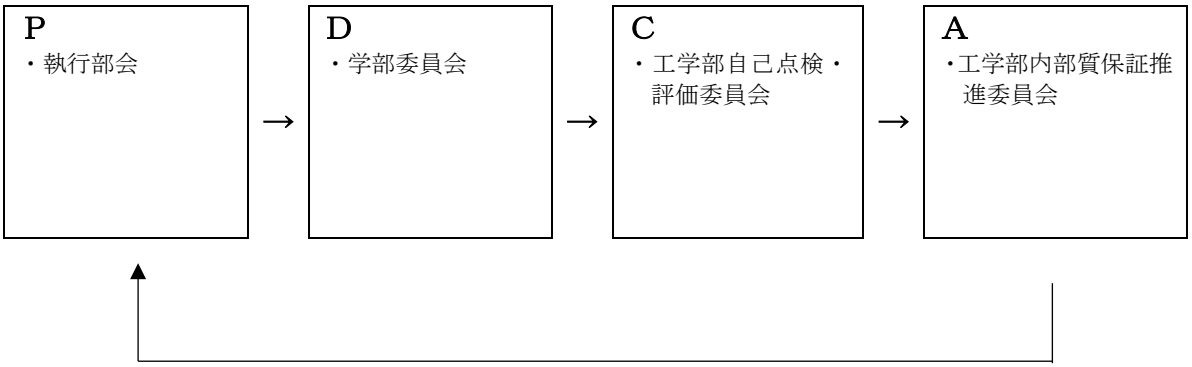
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　工学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

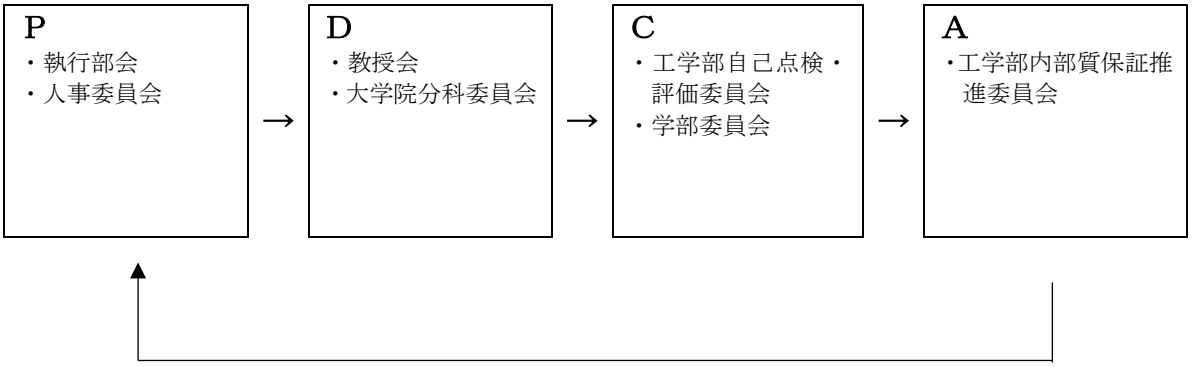
工学部内部質保証推進委員会では，各専攻（学科や総合教育を含む）の自己点検・評価が適切に行われているか，そしてそれが効果的であるかを検証している。具体的な事例としては，「点検・評価報告書」を活用し，問題点の特定と改善事項の提案を行うことで，問題が顕在化する前に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

専攻（学科等を含む）組織の適切性については，人事委員会が中心となって，学務委員会や工学部自己点検・評価委員会と共に専攻組織の適切性を確認している。また，人事委員会では，専攻ごとの問題点を整理した上で，改善策を検討している専攻と密接に連携しながら工学研究科（工学部）全体で議論を進める体制が整えられている。

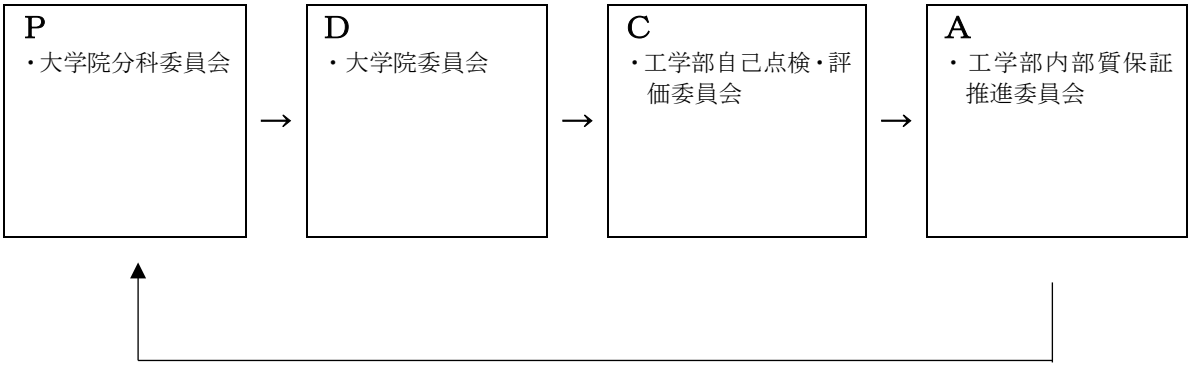
研究組織の適切性については，執行部会が中心となって，研究委員会が専門的な視点から定期的に活動を確認しており，学術・研究に関して確認を行っている。また，本研究科は，「ロハス工学」を教育・研究の柱としており，この理念に基づき専攻の枠を超えた研究や人材育成を推進するため，「ロハス工学センター」を設置し，このセンターを通じて分野横断的な研究体制を整え，ロハス工学の知見を社会へと還元している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容については，大学院委員会において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）を含めた教育課程の見直しを行い，また教育方法については，ＦＤ委員会において授業評価アンケートを行っている。自己点検・評価等については，工学部自己点検・評価委員会において毎年度学期ごとに授業自己点検・評価を行い，大学院・ＦＤ両委員会と共に工学部内部質保証推進委員会に報告している。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育課程及びその内容については，履修状況や科目合格率推移等について，工学部自己点検・評価委員会において授業科目ごとに授業自己点検を行っている。また，修了予定者を対象に修了時満足度調査を行っており，アンケート結果や自由記述にて出された意見を参考に改善策を立案して，その内容を工学部自己点検・評価委員会で確認している。直近では，共通科目の「ロハス工学特論」のグループ課題において，グループごとに成績が一律に評価されてしまうこと

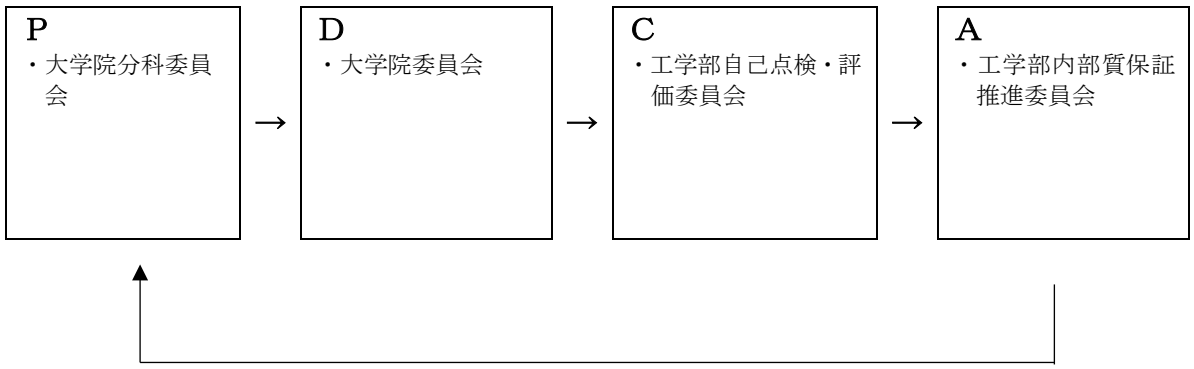
に不満の意見が見られたため，課題レポートの作成にグループ討議は必須にせず，個人ごとに評価されることが分かりやすいよう変更した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

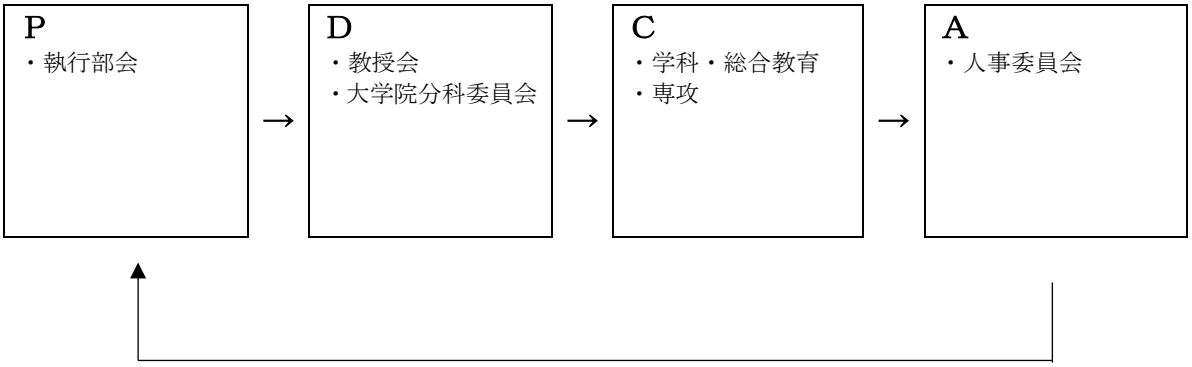
大学院入試については，大学院委員会において点検・評価した後，大学院分科委員会で審議し，その結果を次年度の入試方法に反映させているが，現状の内容で十分と考えており直近で入試方法は変更していない。また，受け入れた学生を工学部自己点検・評価委員会において，科目ごとに授業自己点検・評価を行い，科目合格率推移や授業評価アンケートでの自由記述内容を基に学生の理解度等の推移を把握することで，受け入れた学生の状況について検証を行い，工学部内部質保証推進委員会に報告している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

工学部では，人事委員会において教育の質を保証するために，一貫したカリキュラム編成を目指し，教員組織における専任，非常勤の比率の適切性や担当コマ数の配分にも留意しながら，特定の専門領域の教員が不足することのないように，教育研究の継続性を図れるよう計画的に専任教員を配置することを念頭に教員配置計画を策定している。この計画は，毎年度，点検・検証され，継続的な教育研究ができるように努めている。また，各専攻（学科等を含む）からの要望を基に，教員採用や昇格について検討を行い，各専攻が継続的かつ安定的に活動できる組織になっているかを評価し，その情報を学部執行部で共有した上で指示している。一例としては，教員採用においては，工学研究科（工学部）全体の教員組織の状況や入学者数などの動向を考慮し，毎年採用計画を見直して調整を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

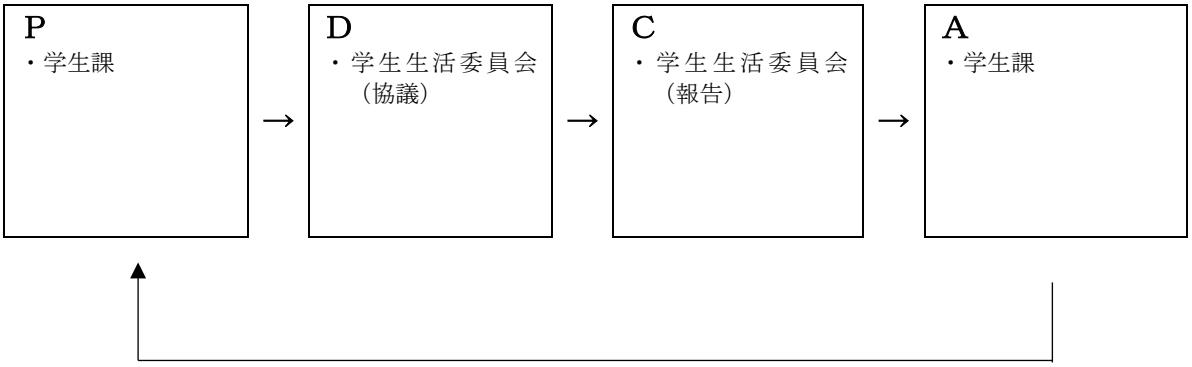
本記述のみでは，具体的にどのような基準や手順に基づいて調整がなされているかが確認で

きず，実効性を判断することは難しいため，改善が求められる。
本記述からは教職の「役割分担」や「責任の明確化」に関する具体的な取り決めや実施内容が十分には読み取れないため，改善が求められる。
教育研究活動の質と継続性を重視する姿勢自体は理解できるものの，男女比の偏りに対する具体的な対応がなされていない点については，教員組織の多様性確保という観点から改善の余地があり，改善が求められる。

執行部会では，学部運営全体の指針を策定し，人事委員会は教員配置計画において重要な役割を担っており，教授会において具体的な活動を決定している。決定された指針や計画に基づいて，各学科や総合教育が教員組織の状況に定期的にチェックを行い，評価で明らかになった課題に対して，人事委員会が各学科や総合教育と連携して改善策を実行している。
現在の教員組織は，多様性の確保に課題を抱えており，この課題を解決するには，ＰＤＣＡサイクルによる継続的な改善と，執行部会・人事委員会・教授会・各学科が一体となった具体的な行動が不可欠である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項について，学生課で立案して学生生活委員会で協議の上，実行している。実施後は学生生活委員会に報告し，実施目的の達成度の観点から点検・評価を行うとともに，委員から意見を聴取し，次回の改善につなげている。

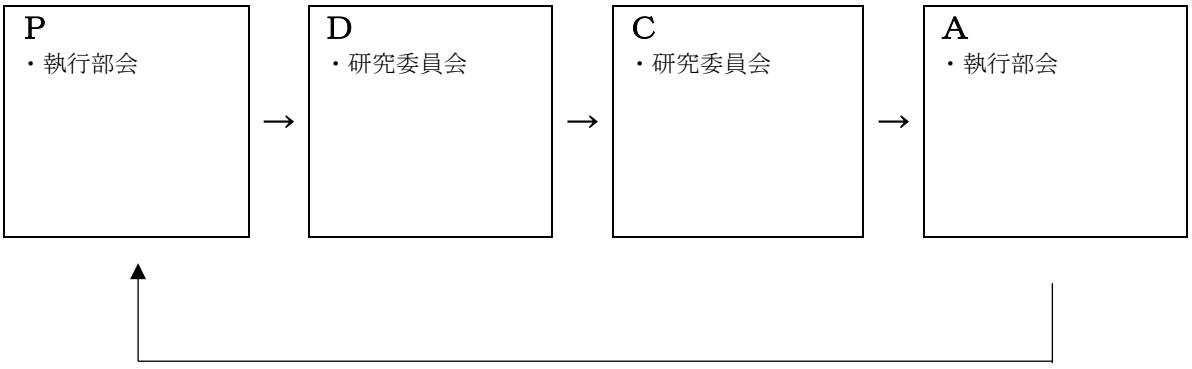
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

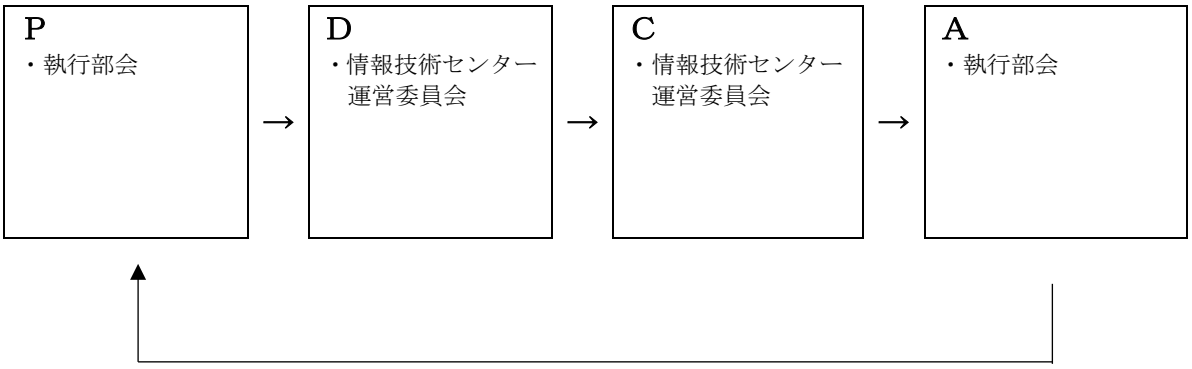
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究等環境】



【ＩＣＴ環境】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関する事項については，主に研究委員会及び情報技術センター運営委員会の二つの組織において，継続的な点検・評価（検討・検証）が行われている。その結果を踏まえ，研究活動の基盤となるインフラストラクチャの整備や研究活動自体の適正性の確保，さらには支援体制の改善・向上につながっている。

令和７年度においては，ＩＴ環境の安定性及び利便性の向上が図られた。セキュリティ面で

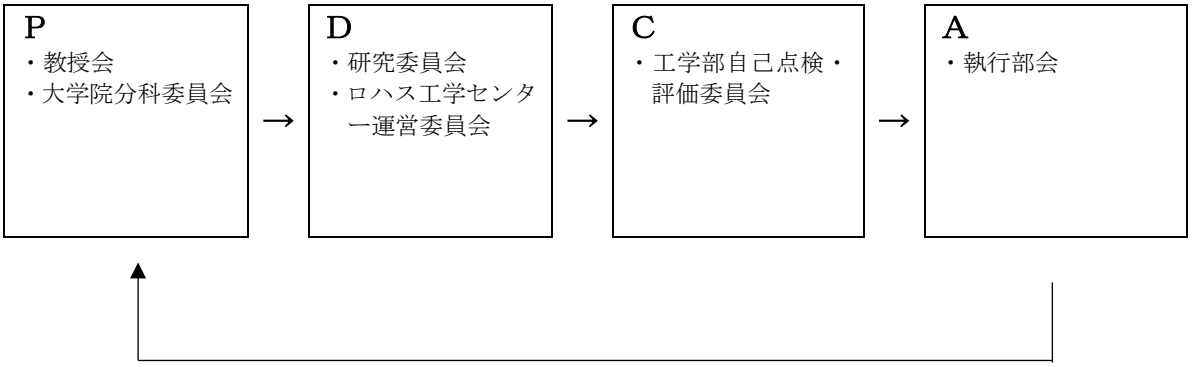
は，旧ＯＳバージョンに係る脆弱性への対応として，ＩＤ管理システム及び認証サーバの更新を実施した。また，利便性向上の取組として，無線ＬＡＮアクセスポイントを次世代規格（Ｗｉ－Ｆｉ６）へ更新した。
　なお，これらの評価結果に基づき，工学部内部質保証推進委員会において改善策等を報告する予定である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・社会貢献に関わる事項について，年に１回の郡山市からの客観的視点による評価を受けて，地域連携等の意見に関しても，工学部自己点検・評価委員会に報告するなどをしている。しかし，地域連携に特化した学内に点検・評価する組織はなく，本学部におけるロハス工学に関する研究などの中枢を担う組織として設置しているロハス工学センターが研究面からの地域連携を検討し，実施している。また，令和７年 11 月 18 日に，「第 24 回 産・学・官連携フォーラム」を開催し，公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構と工学研究科の連携により，対面と YouTube 配信を併用したハイブリッド形式で実施され，多くの産業界・学術界・行政関係者が参加し，東日本大震災からまもなく 15 年を迎えようとする中，被災の経験をいかに技術革新や地域防災へと昇華させてきたか，産学官それぞれの視点から貴重な講演が行われた。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

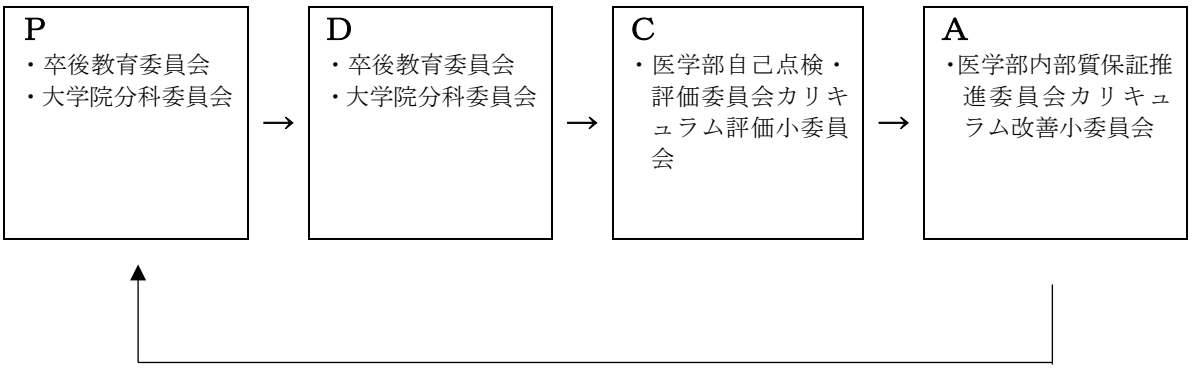
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院医学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院における内部質保証は，卒後教育委員会及び大学院分科委員会が中心となり，教学のＰＤＣＡサイクルを運用している。博士課程特有の取組としては，大学院中間発表会をシンポジウム形式で実施し，学生の意見や外部視点を取り入れた研究指導の改善につなげている。また，修了時の授業評価アンケートや研究指導評価を組織的に分析し，指導体制の適切性を定期的に検証している。

(1)　教育プログラムの改善

本研究科における近年の志願者数減少を重く受け止め，教育プログラムの柔軟性を大幅に強化することや入試制度について検討する。具体的には，多忙な臨床医や社会人学生が研究に着手しやすいような環境や入試制度を導入し，入学後速やかに指導教員とのマッチングと研究テーマの選定が行える体制を整備する。また，学位審査プロセスのマイルストーンを明確化し，最短期間での学位取得を支援することなどを検討中である。

(2)　組織運営と資源配分の改善

本研究科では，現在進行中のキャンパス再開発及び新学部棟建設を，組織運営の抜本的な

合理化・近代化の契機と位置付けている。具体的には，新棟建設に伴う各講座・研究室の物理的再配置に合わせ，これまでの運営体制の見直しを検討し，講座間の壁を越えた迅速な意思決定と若手研究者の育成を支える横断的なガバナンス体制の構築を目指している。現在はその移行期として，全学的な建設委員会と研究科内のワーキンググループが密に連携し，将来の運用設計に注力している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告)】

ＰＤＣＡサイクルを機能させる内部質保証体制が整備されていないことを確認した。一方で，自己点検・評価報告書の【長所・特色・問題点】では，「令和４年度において，学務委員会を教育カリキュラムの改善計画（Plan）と実行（Do）の機能に限定し，評価（Check）の役割を担うべく医学部自己点検・評価委員会の下にカリキュラム評価小委員会を，改善（Action）の役割を担うべく医学部内部質保証推進委員会の下にカリキュラム改善小委員会を設置したため，現時点ではＰＤＣＡサイクルを担う組織がようやく整備された」との報告があるものの，令和４年度からの上記体制の下，研究科のカリキュラムの改善計画（Plan）と実行（Do）をどのように行っているかの活動内容の報告はなく，組織的かつ継続的な改善活動の仕組みが明確ではないことから，内部質保証体制におけるそれぞれの役割を明確にし，継続的な改善・向上に向けて着実に取り組むよう是正されたい。

評価結果と改善策の因果関係の不明確さを解消するため，内部質保証体制（ＰＤＣＡサイクル）を再構築した。この改善は，「責任体制の明確化」と「データ分析の強化」によって推進している。

(1)　ＰＤＣＡサイクルの責任体制の明確化

教育プログラムの評価・改善機能を分離し，ＰＤＣＡサイクルにおける組織の役割を明確化した。

・Ｐ/Ｄ（企画・実行）：卒後教育担当が，委員長を務める卒後教育委員会が担当する。
・Ｃ（評価・検証）：学部次長が委員長を務める医学部自己点検・評価委員会カリキュラム評価小委員会が客観的な評価を担う。
・Ａ（改善・対応）：学部長が委員長を務める医学部内部質保証推進委員会カリキュラム改善小委員会が評価結果に基づき，改善策の策定と実行指示を行う。特に，医学部長がカリキュラム改善小委員会の委員長を務め，評価結果を改善に確実つなげるリーダーシップ体制を確立した。

(2)　データ分析（ＩＲ活動）による客観的な根拠の強化

評価と改善の因果関係を客観的に示すため，ＩＲ委員会とＩＲ室を設置し，組織的なＩＲ活動を推進している。

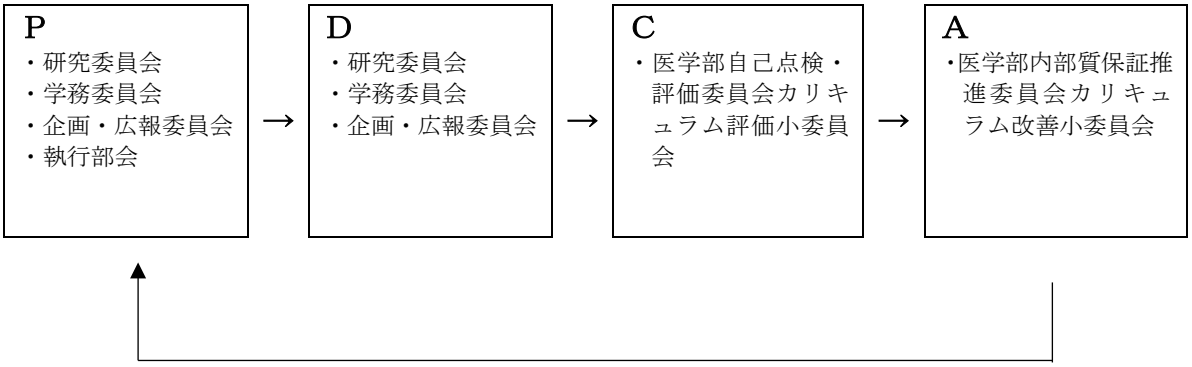
・今後は，カリキュラム評価小委員会が，ＩＲデータに基づき客観的な評価を行い，その結果を改善小委員会が活用する「根拠（データ）に基づく評価と改善の連動」を実現する。

(3)　因果関係が示された改善事例

医学研究科においてはまだ事例がなく，今後もデータ収集と解析を継続する。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

日本大学医学部総合医学研究所は，医学に関する学理・技術の総合的研究を行うことを目的に設置され，各専門分野における研究及び調査，学術研究助成金等に基づく研究プロジェクト，委託研究及び共同研究等を実施している。

教育研究組織が，社会からの要請に即応できる組織であるかの点検・評価やその活性化を図る方策の立案については，執行部会や企画・広報委員会を中心に学務委員会，研究委員会等の関係委員会が対応している。また，組織の妥当性の検証に関連する個別の問題に対しては，医学部長から諮問がなされ，必要に応じて専門委員会を設置して検討を重ねた上で，学部の意思決定機関である教授会での審議を経て，答申に基づく施策が実行に移されている。

事例として，令和３年４月に医学部長から研究担当に対して，本学部の研究力をこれまで以上に世に発信すべく，付置研究所の設置等を含めた今後の在り方についての諮問がなされ，令和４年２月に医学部トランスレーショナルリサーチセンター設置の答申がなされ，同年３月に日本大学医学部トランスレーショナルリサーチセンターが設置された。

また，令和６年 12 月，医学部における研究支援基盤の形成，医学研究支援部門及び導入を検討しているＵＲＡ(University Research Administrator)の配置等を含め，今後の効果的な研究支援体制の在り方について，医学部長から研究委員会に諮問があり，当該委員会において審議を重ねた結果，令和７年 11 月，最終答申がなされ，総合医学研究所における専任教員の配置や

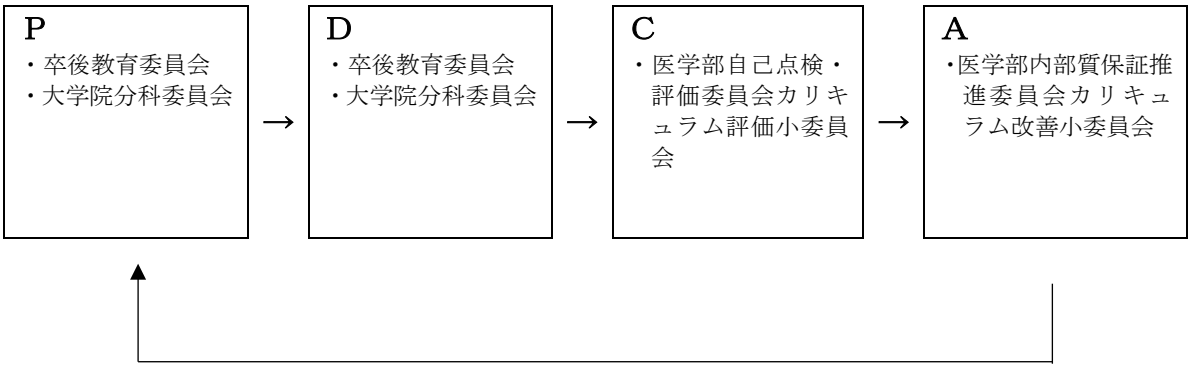
ＵＲＡ(University Research Administrator)の新規配置を含む研究支援体制の改組がなされた。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸ 教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

大学院医学研究科における教育課程等の自己点検・評価は，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の遵守や学位論文審査基準を評価軸とし，卒後教育委員会等が中心となって学部の質保証体制と連携しながら，修了時アンケートや中間発表会を通じた学修成果の確認・改善プロセスを定期的に実施していますが，今後は学位論文審査が基準どおりに遂行されているかを検証する具体的仕様の構築を課題としている。

⑸ 教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院医学研究科では，アンケート結果や中間発表会，外部学術誌への掲載推奨等を質保証サイクルに活用し，過去の指摘に基づく教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の改正，リハビリテーション医学等の新設，医師資格を有しない者への門戸開放及び教員評価シートの導入といった具体的改善を継続する中で，学位論文審査についても，予備審査・本審査の厳正な実施に加え，令和７年度から学位申請時のジャーナルアクセプトを必須化し国際水

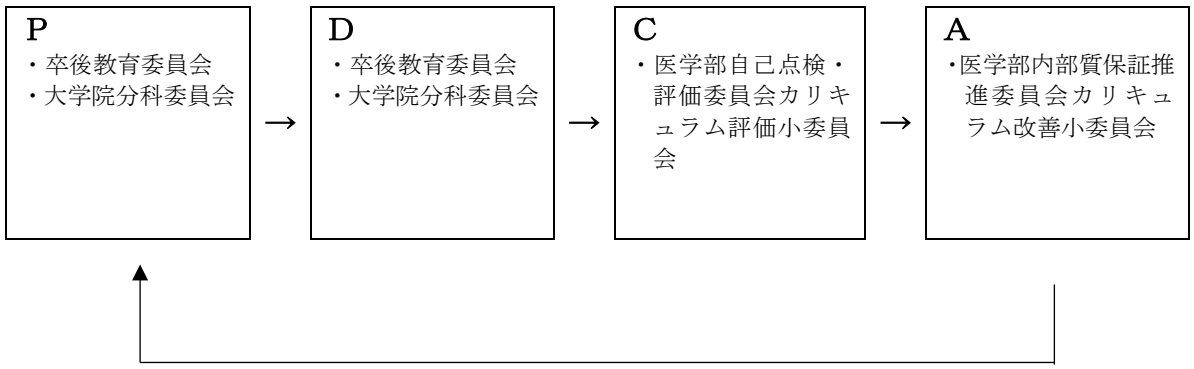
準の質保証を強化しているが，今後は審査が基準どおり厳格に遂行されているかを検証する手法の構築を課題としている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

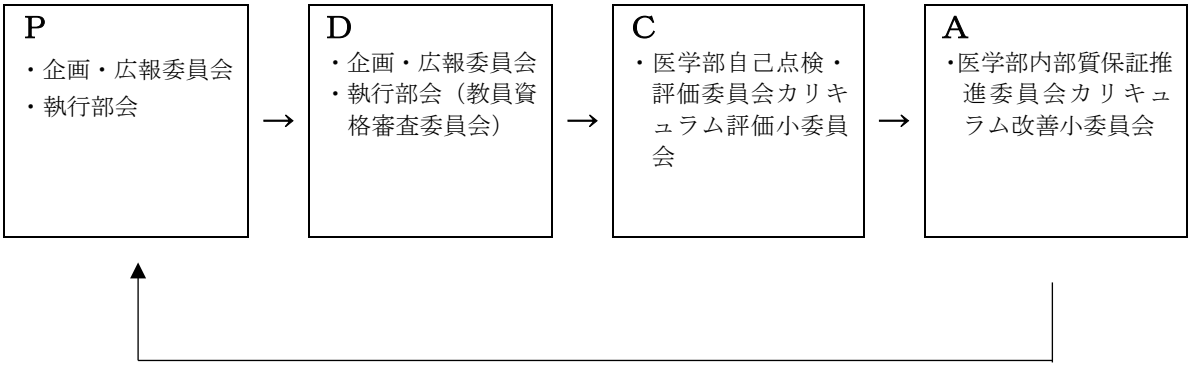
大学院医学研究科では，特定の入試委員会を置かず，大学院分科委員会，卒後教育委員会，及び教務課が緊密に連携して入試の運営と点検・評価を担っており，研究科長からの諮問に基づき制度の見直しを行う体制を構築し，試験の匿名性確保による公平性の担保や定員充足率のモニタリングを継続しているが，充足率向上と多様な人材確保に向け，令和６年度からの医師免許を有しない者に対する臨床系への門戸開放や６年制学部への出願対象拡大，社会人・留学生入試の実施などの改善を積極的に進めるとともに，指導教員１名当たりの大学院生数制限（最大２名）を厳守することで，教育・指導の質と受入れ体制の適正化を両立させている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員組織が，社会からの要請に即応できる組織であるかの点検・評価やその活性化を図る方策の立案については，執行部会や企画・広報委員会を中心に対応している。また，組織の妥当性の検証に関連する個別の問題に対しては，医学部長から諮問がなされ，企画・広報委員会が検討を重ねた上で，学部の意思決定機関である教授会での審議を経て，答申に基づく施策が実行に移されている。

事例としては，令和７年度に新設された「臨床教員」制度を挙げる。本学部では，専任教員が付属病院の経営安定化のため診療等に時間を割かざるを得ず，教育・研究時間の確保が困難な現状を課題としていた。この現状を改善するべく，「臨床教員」制度が新設されたが，本制度は，教員の質を担保するため，既存の教員資格と同様に，採用や再任時には教員資格審査委員会による厳格な資格審査を行い，教授会の承認を経て学長が任命する体制を構築している。

内規は，企画・広報委員会，執行部会及び教員資格審査委員会が各セクションにおいて慎重審議し制定に至った。本制度の導入により，既存の教員が本来の教育研究活動に専念できる環境を支援するとともに，病院の教育機能の充実と経営の安定化を図る。また，１期３年以内の任期制のため，再任審査を通じて組織の継続的な点検・評価と質の向上を可能にしている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

助教・助手の採用における選考理由の透明性確保や説明責任の担保については，改善が求められる。

本記述のみでは，エフォート調査が実際の授業負担の調整や改善にどのように活用されているかが具体的に示されていないため，その実効性を十分に確認することが難しいため，改善が求められる。

助教及び助手の採用については，「日本大学医学部助教・助手選考基準」に基づき，学位の有無，論文実績，専門医資格等の要件を充たしていることを前提としている。特徴的な取組として，一部の教員については，採用前に「専修医（臨床系）」又は「専修研究員（基礎系）」として一定期間雇用し，この期間を通じて，所属長が候補者の適性を事前に判断することで，個人の能力に合致した職位での採用を実現している。これにより，現場の教育・研究ニーズに即した柔軟かつ機動的な人材配置を可能としている。

この運用においては，執行部会が選考基準の運用実態を定期的に検証している。適切な範囲でプロセスを明示・開示することで，採用における客観性を担保しており，直近では令和４年３月に選考基準の見直しを実施した。再任時においては，勤務成績や業績について，教員資格審査委員会及び教授会による厳格な審査が行われる体制となっており，新規採用時においてもこれらに準じた公平な視点を取り入れ，説明責任を果たせる運用に努めている。

本学部では，教員が教育・診療・研究をバランスよく遂行できるよう，令和６年度より「教員活動到達目標評価システム」を稼働させている。本システムでは，各教員の職務種別ごとのエフォート率及び年度の到達目標を設定し，年度末から年度始めにかけて自己評価と所属長評価に基づく意見交換を実施している。これにより，教員と所属長が共通認識の下で職務状況を確認し，教育研究活動を安定的かつ効果的に推進する基盤となっている。

今後の更なる改善に向け，以下のサイクルを運用する。

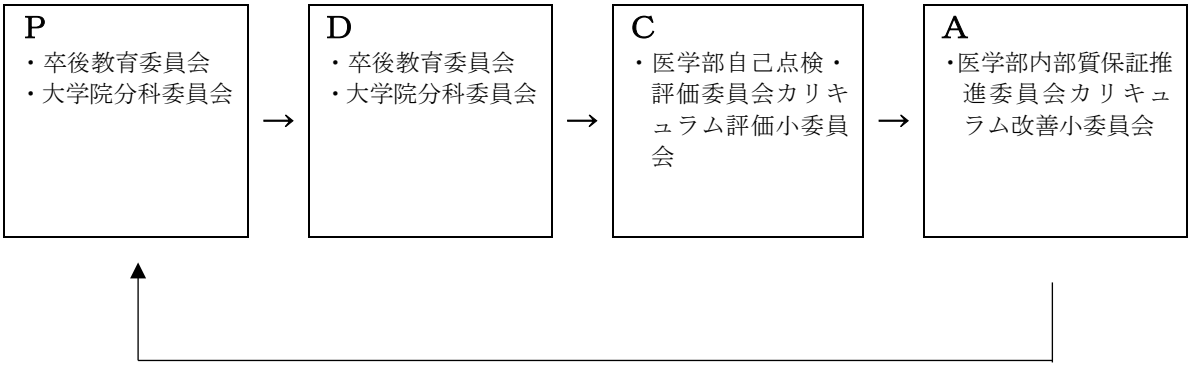
評価結果に基づき，分野ごとの平均授業時間と個々の教員のエフォート値を比較分析する。この検証は，医学部自己点検・評価委員会及びカリキュラム評価小委員会が中心となり，業務負担の偏りを客観的な数値として早期に発見する体制を構築する。

分析結果及び所属長との面談結果が，教員の安定的活動に寄与したかを次年度のシステム入力時に事後検証する。この結果を医学部内部質保証推進委員会及びカリキュラム改善小委員会において審議し，次年度の業務配分へと反映させることで，継続的な改善・向上に向けた措置を明確化する。

これらの評価プロセスや改善事例を適切に記録し，組織全体として説明責任を果たせるよう管理体制を整備していく。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院医学研究科では，医学部の支援システムを基盤に，卒後教育委員会や専門スタッフを擁する学生支援室，指導教員及びＩＲ室等が連携して多角的なサポート体制を構築しており，修了時の授業・研究指導アンケートやオンライン投書箱，全学的な学修満足度調査を通じて学生の声を収集・分析している。それらの結果に基づき，研究指導アンケートの導入や中間発表会のシンポジウム化によるフィードバックの活性化，社会人学生への支援拡充，全教室でのＷｉ−Ｆｉ整備及びＬＭＳ（Canvas）導入による学習環境のデジタル化，さらにハラスメント防止の周知徹底といった具体的な環境改善を継続的に実行している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

学生支援に関わる事項について，点検・評価（検討・検証）する組織について，体制を整備し，対応していくよう是正されたい。

【提言（改善課題）】

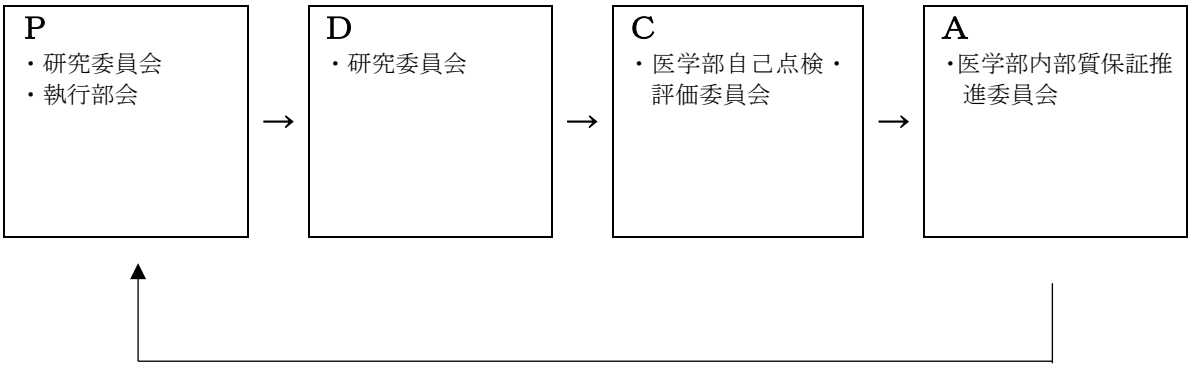
大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含めて検討するよう改善が求められる。

大学院医学研究科（大学院分科委員会）では，日本大学全体の内部質保証システムに基づき，大学院分科委員会がCheck（点検・評価）を担い，卒後教育委員会や学部執行部会と連携したＰＤＣＡサイクルを運用しており，学位論文審査の客観性検証に向けた組織化や令和７年度からのジャーナルアクセプト必須化による厳格化，さらには医師資格を有しない者や他学部への門戸開放による定員充足率の向上，ＵＲＡ(University Research Administrator)配置を軸とした総合医学研究所への研究支援機能移転，アンケートや中間発表会を通じた学生フィードバックの活用を組織的に推進するとともに，今後は他学部との連携による研究支援体制の更なる強化を次年度計画へ反映させる方針である。

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【最終答申書】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

医学部では，以下のＰＤＣＡサイクルをもって，研究支援部門の業務が，研究委員会や医学部執行部による管理・監督を受けることで，継続的な業務改善の体制を構築している。

(1)　研究委員会（研究担当）は，医学部長及び執行部会の意見を参考に医学部全体の研究に関する方向性や方針を策定する。また，付属機関（付置研究所）である総合医学研究所（総合医学研究所運営委員会）及び研究戦略推進部門（研究支援部門運営協議会）からの情報を執行部に報告する（Ｐ）。

(2)　総合医学研究所運営委員会及び研究支援部門運営協議会は，この方向性・方針に基づき支援部門（研究戦略支援部門及び研究サポート部門）の事業計画を策定し，支援部門が当該事業計画を実施する（Ｄ）。

(3)　支援分門は，事業計画について，総合医学研究所運営委員会に報告し，同運営委員会及び研究支援部門運営協議会から研究委員会に対して事業報告がされ，事業計画の実績，問題点について研究委員会が点検・評価する（Ｃ）。

(4)　上記の点検・評価で見つかった課題や問題点に対して，執行部で具体策・改善策を協議し，教授会において審議（実行）に移す（Ａ）。

事例として，効果的な研究支援体制の在り方について，令和６年 12 月，学部長から研究委員

会に諮問があり，医学部における研究支援基盤の形成，医学研究支援部門及び導入を検討しているＵＲＡ（University Research Administrator）の配置等について，研究委員会をはじめ，上記の関連委員会・組織において協議及び審議を重ねた結果，令和７年 11 月の最終答申により，研究支援体制の改組（統廃合・名称変更）が施され，さらに令和８年度からのＵＲＡ(University Research Administrator)配置に向け公募が開始された。

また，研究環境整備に関する事例として，令和８年度事業計画・予算において，生物系電子顕微鏡の新規導入に向けた予算計上が行われた。はじめに，執行部会及び研究委員会は，学内の研究活動の現状や課題を踏まえ，研究活動の質向上に必要な研究用機器備品の選定を医学研究支援部門運営協議会に依頼した。これを受け，同協議会から複数の研究用機器備品の提案があり，研究委員会において各機器備品類の必要性や需要見込みについて検証が行われた。その結果，研究，臨床，教育に幅広い活用が可能であり，他学部の利用も広く期待できる点などから，生物系電子顕微鏡の導入が最も望ましいことが確認された。これらの検証結果を踏まえ，執行部会における令和８年度事業計画・予算折衝の中で，電子顕微鏡の新規導入を含む予算編成が進められた。最終的に電子顕微鏡導入計画が教授会において承認され，令和８年度予算として計上されるに至った。

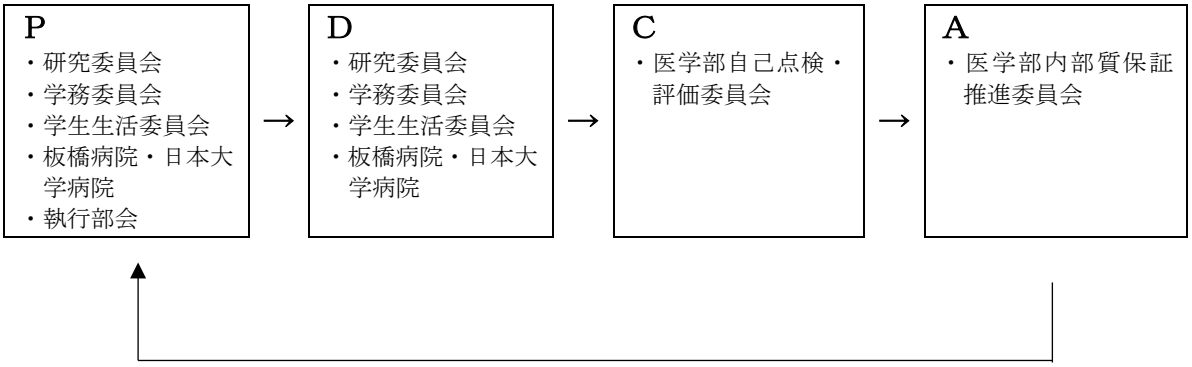
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【最終答申書】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究委員会及び産学連携研究推進委員会を設置し，各種施策，寄附講座の設置等について審査を行っており，学系・分野単位で支給される「教室研究費」の後期配分において，学外研究費の獲得に伴う間接経費／管理費の額を算定基準としている。また，継続した取組として，板橋病院事務局との連携による東京都医工連携ＨＵＢ機構及び板橋区産業振興公社と共催の医工連携交流会を実施している。これらの取組については，研究委員会で進捗等の報告がなされ，その結果に基づき，執行部会や医学部内部質保証推進委員会が次年度の施策や改善方針を策定することで，教育研究環境の質の向上を図っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

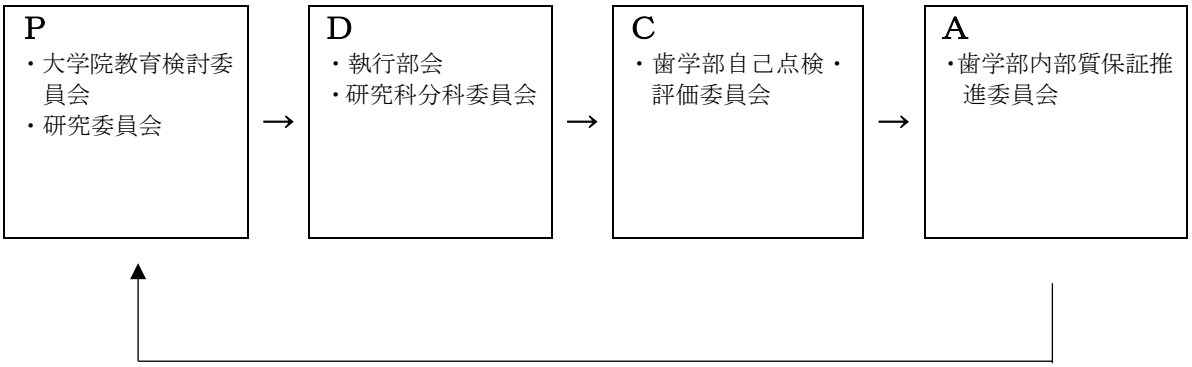
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　歯学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証を推進する組織として，令和３年度から「歯学部内部質保証推進委員会」を設置発足し，自己点検・評価報告書を基に改善事項を抽出し，改善項目ごとに学部内組織である研究委員会及び大学院教育検討委員会などに改善指示を出して，ＰＤＣＡサイクルが有機的に連関するシステムを構築し，今後更なる内部質保証体制の改善を図っていく予定である。

大学院の履修系統図は整備が遅れていたが，研究科長の指示に基づき，原案を研究担当及び教務課で作成の上，研究科分科委員会で検討・審議した。その上で令和７年度授業計画（大学院要覧）から掲載を始め，改善を図った。

今後は，上記関連委員会と連携し，ＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

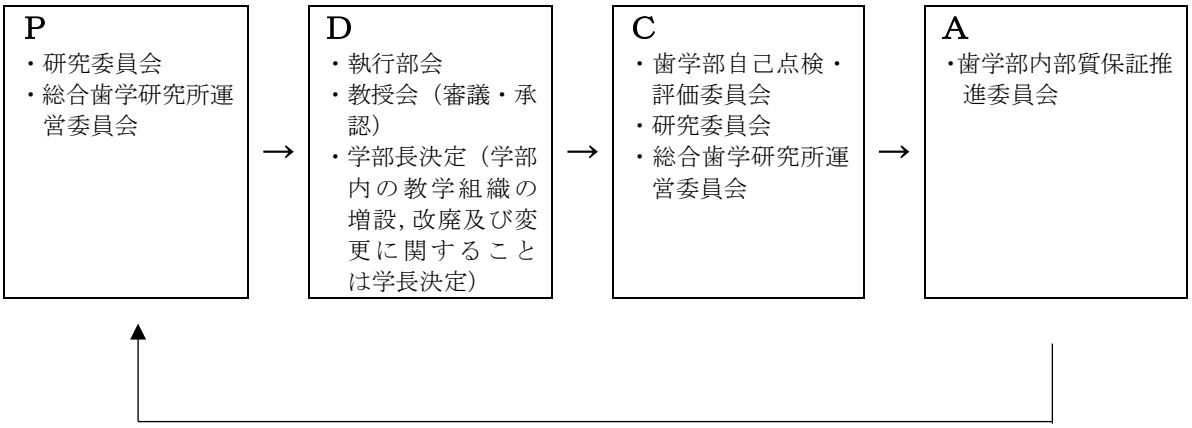
院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

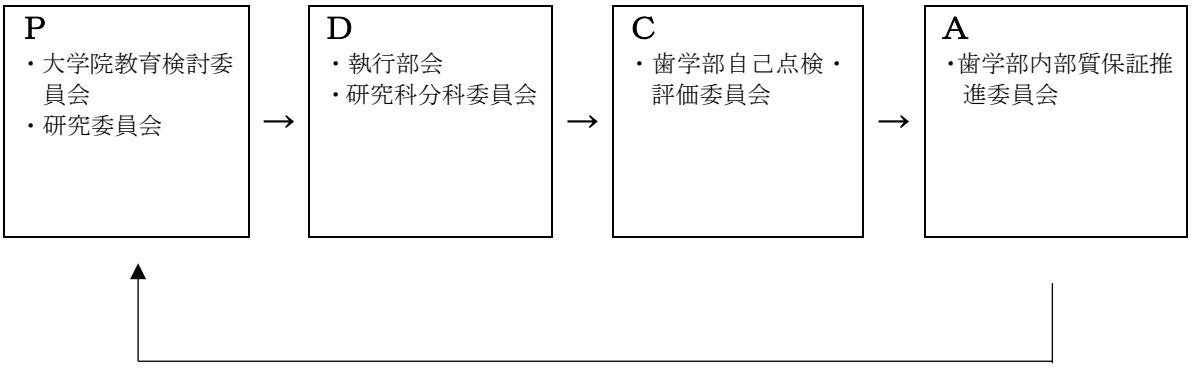
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究所の新設及び見直し】



【教育組織】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

歯学部執行部の指示を受け，総合歯学研究所運営委員会は研究所の方針（新設時は新設方針）を策定する。あわせて，研究担当主導の研究委員会と連携し，歯学部の研究戦略との整合性確認及び活動内容の把握を行う。これらの案は執行部会及び教授会での審議・承認を経て，学部

長（研究所新設時は学長）の裁定により施行される。施行後は，総合歯学研究所運営委員会及び研究委員会が定期的に点検を行い，その結果を歯学部自己点検・評価委員会へ提出するものとする。さらに，同委員会の報告に基づき，歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。

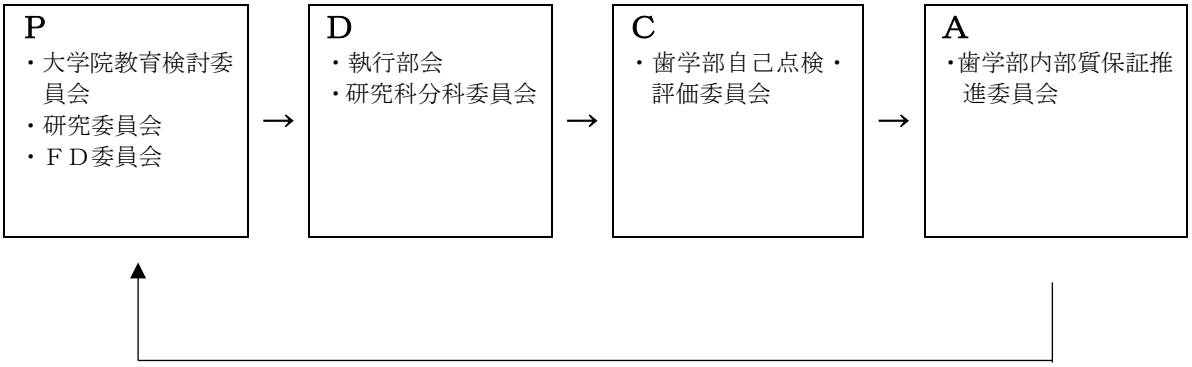
本サイクルを適用した実績は現時点では存在しないが，令和８年度新規事業計画である「実験動物用マイクロＣＴのリプレース」に伴う研究部門の新設を先行事例として推進予定である。総合歯学研究所には，管理運営を担う組織として現在９つの研究部門を設置しており，当該事業計画の立案に当たっては，これらに新たな研究部門の新設を視野に検討を重ねている。現在までに，執行部，研究委員会及び総合歯学研究所運営委員会が連携し，計画（Ｐ）から実行（Ｄ）に至るプロセスを段階的に進めている。今後は，歯学部自己点検・評価委員会による評価（Ｃ）及び歯学部内部質保証推進委員会による改善（Ａ）へとつなげ，歯学部内でのＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

現状は，教育課程及びその内容等について見直しを図る必要が生じた際に研究担当を委員長とする大学院教育検討委員会において，点検を行い改善に取り組んでいる。

教育課程を変更する場合は，大学院教育検討委員会，執行部会及び大学院研究科分科委員会の順に審議が進められる体制となっており，歯学部自己点検・評価委員会が点検を担い，歯学部内部質保証推進委員会にて変更内容について検証・評価を行い，大学院教育検討委員会及び大学院研究科分科委員会にフィードバックを行う体制の整備を進めている。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

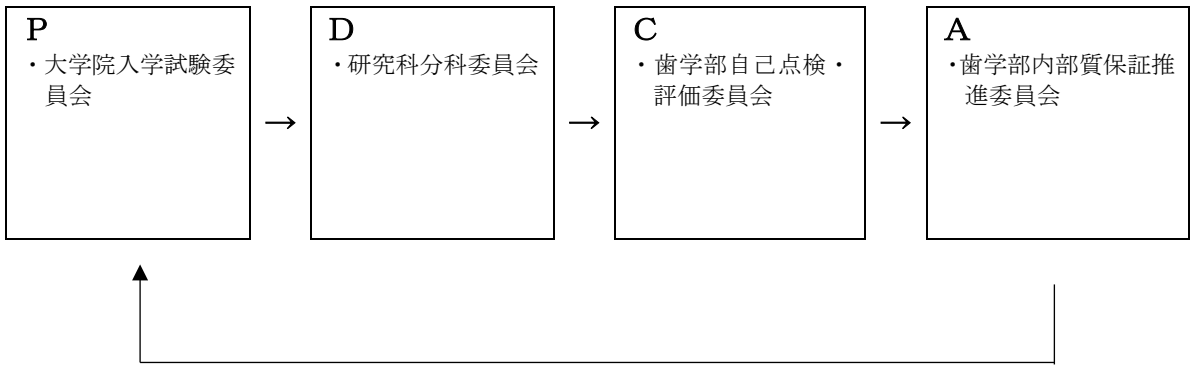
大学院教育検討委員会において，大学院歯学研究科の３つのポリシーに関し，見直しの必要性について検討を行った。現状では見直しを図る必要が生じてはいないが，今後も定期的に点検・見直しを行う予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院入学試験委員会において，各種入試に関する事項の審議・検討を行っている。

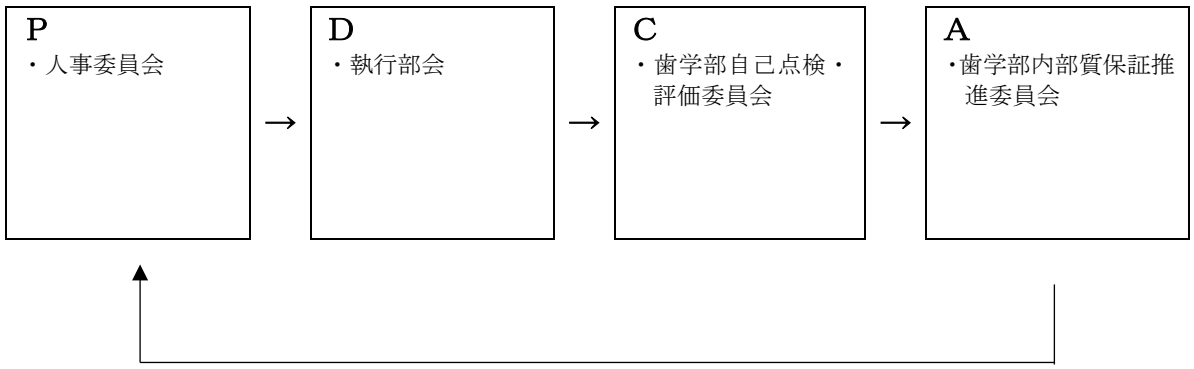
次年度以降の入学試験についても，前年度の入学試験状況及び講座の受け入れ態勢に鑑み検証を行い，研究科分科委員会に上程し，歯学部自己点検・評価委員会が点検を担い，歯学部内部質保証推進委員会にて検証・評価の上，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上につなげる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院設置基準，教員配置計画及び歯学部教員定数に関する内規等を基に，各年度における充足が必要な教員数を確認し，教員配置状況を歯学部自己点検・評価委員会において点検・検証し，適正な教員組織を維持している。

点検・評価の結果を踏まえ，教授以外の定年退職者に係る補充は，原則助教の採用としており，若手教員を育て将来的な昇格を見据えてモチベーション向上につながるよう取り組んでいる。また，助教の再任については，契約更新時に人事委員会において，任期中の教育業績，学生生活評価及び診療実績等を基に契約更新の審査を行い，再任後には今後に向けて面談を実施し，教員個々の質的向上を促している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

教員の教育能力向上や教育課程・授業方法改善に関する組織的な取組を「特になし」と記述されているが，教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる取組が重要であるため，実施するよう改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）

結果において,「大学院固有のＦＤ活動を行っていないため，適切にこれを実施するよう改善が求められる」と提言が付されているため，改善が求められる。

本配慮が実際に特定の教員への過重な負担を防ぐ上でどの程度機能しているかを明確に示すには，実際の講義担当時間の分布や業務割合（エフォート）に関するデータの収集・分析及びその結果に基づく調整・改善の実績などが求められるため，改善が求められる。

現時点の記述では，具体的な役割や責任の明確化の程度，協働のプロセス及びその成果に関する記載が限定的であるため，今後は具体的な業務分担の基準や協働の成果指標を可視化し，定期的に点検・評価を行うことが課題であり，改善が求められる。

外部からの人材登用による多様性確保や透明性のある人事の整備といった観点から，助教の採用においても原則的に公募を行うことが今後の課題といえ，改善が求められる。

人事委員会において，専任教員を対象とした教員の業務割合（エフォート）に関するデータの収集・分析を行い，教育実態の数値化による把握を行う。人事委員会及び自己点検・評価委員会において，具体的な業務分担等を分析し，教員間の連携体制を図り，その結果に基づく改善の検討を定期的に行う。

教員の教育能力向上や教育課程・授業方法改善に関する組織的な取組として，大学院教育に係る研修会を令和２年度から実施しており，研究科分科委員会にて実施及び開催結果を報告している。

なお，令和７年度は本部学務部学務課が主導となり作成した大学院教員を対象としたＦＤ動画及び資料を活用したＦＤ講習会を実施し，教員の教育能力向上を図った。

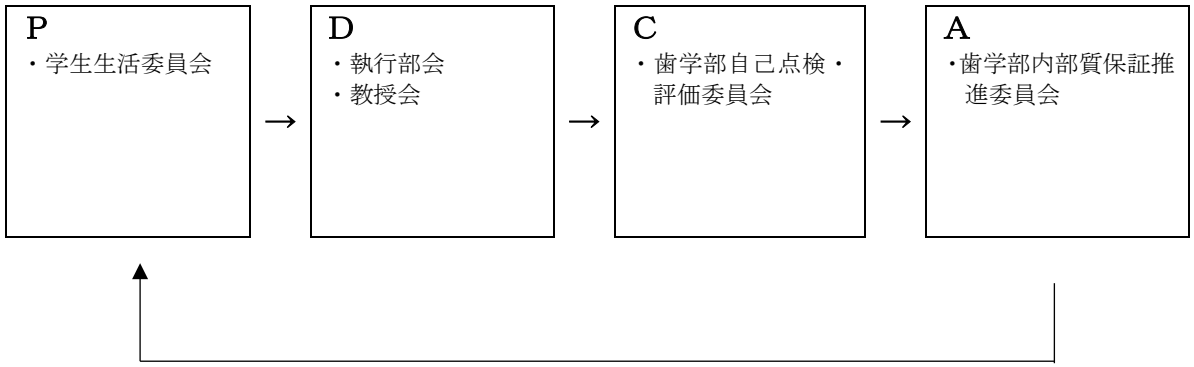
今後は人事委員会とも連携し，執行部会に報告，自己点検・評価委員会にて点検した上で，内部質保証推進委員会からの検証・評価の結果，同委員会からアクションがあった場合は速やかに改善を図りたい。

人事委員会等において，専任教員を対象とした教員の業務割合（エフォート）に関するデータの収集・分析を行い，教育実態の数値化による把握を行う。自己点検・評価委員会において，具体的な業務分担等を分析し，教員間の連携体制を図り，その結果に基づく改善の検討を定期的に点検・評価を行う。

歯学研究科は，歯学部の教員が兼ねているため，歯学研究科に限定した教員の採用は実施していない。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

日頃から学生の考えていることなどを把握しながら，学生生活委員会や学生課で学生支援や学生生活に関わる事項の検討・見直しを随時行っている。また，関連部署や教職員との情報共有を行い，それらを基に，内容に応じて関連部署や担当教職員で検討・検証を行っている。

「歯学部内部質保証推進委員会がどのように連関して支援しているか，体制やプロセス等について記述が確認できないため，記述が望まれる。」という点については，歯学部内部質保証推進委員会からの点検・評価の実施をはじめ，同委員会からのアクションがあった場合は，速やかに改善を図りたい。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようにサポートしていないため，大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含めて検討するよう改善が求め

られる。

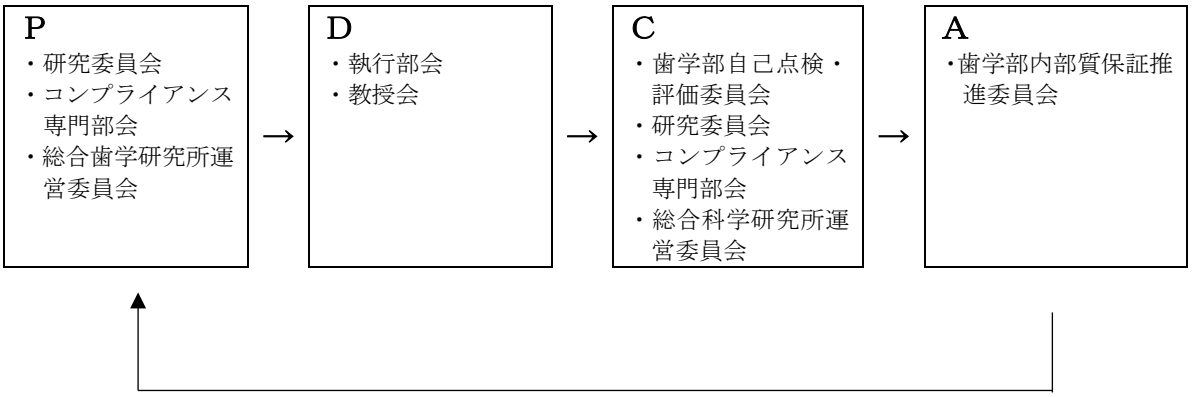
研究指導の方法・スケジュール及び履修系統図について，研究科長の指示に基づき，原案を研究担当及び教務課で作成の上，研究科分科委員会で検討，審議した。その上で大学院授業計画に記載し，これに基づき大学院生が計画的且つ体系的に研究活動を進められるよう明示すると共に，随時研究指導教員，科目担当教員及び研究指導アドバイザーによるサポートを受けることのできる体制を整備している。

また，在学中の３年次において研究中間報告会を実施する等，早い時期からの研究に対する意識向上と研究内容のレベルアップを図るため大学院生が自律的に研究活動を進められるように研究発表の機会を設けている。今後は，学生生活委員会とも連携し，上記ＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

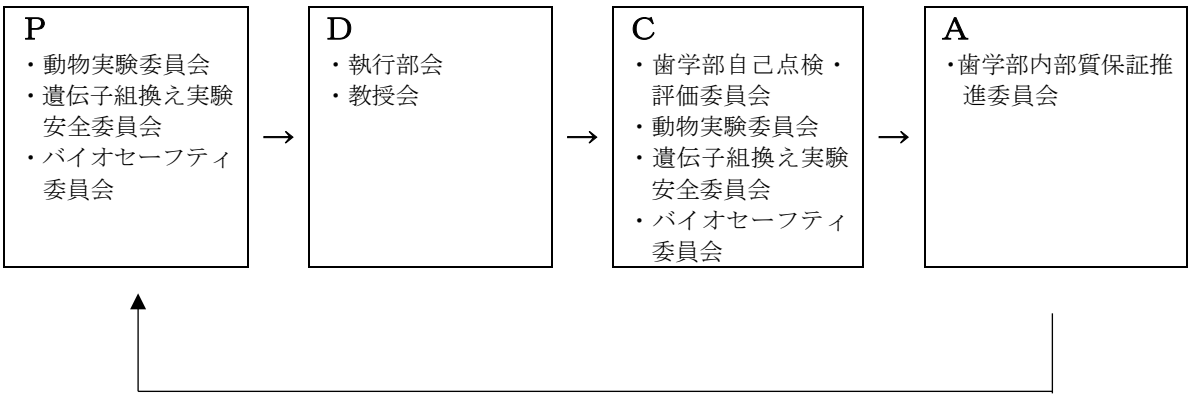
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

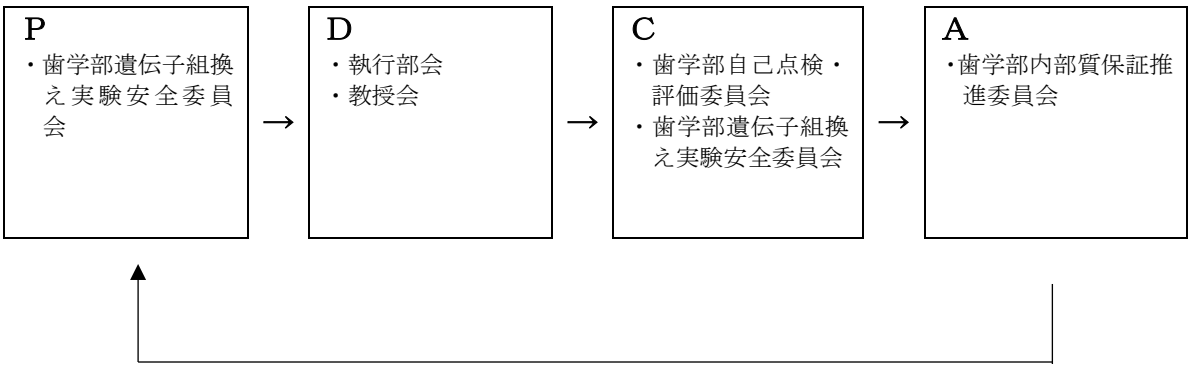
【学部全体の研究等環境】



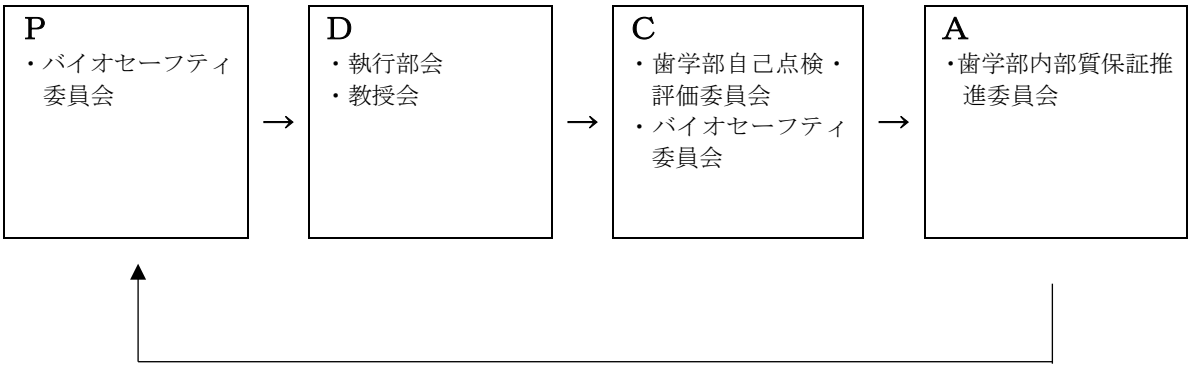
【動物を使用する研究】



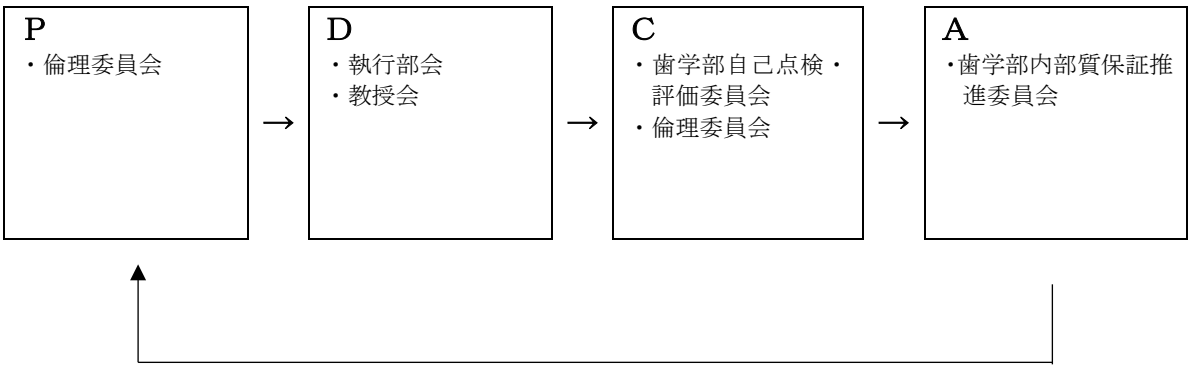
【遺伝子組換え生物を扱う研究】



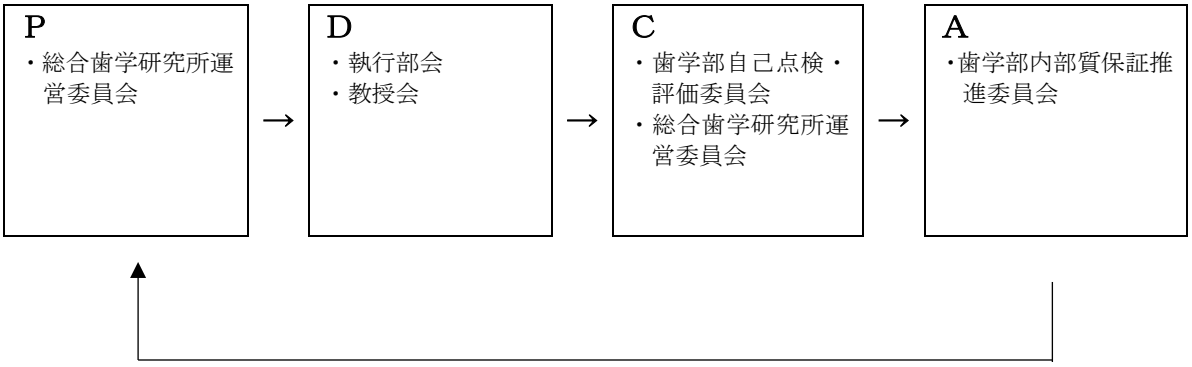
【病原性微生物等を取り扱う研究】



【ヒトを対象とする医学系実験に関する研究】



【総合歯学研究所全体の運営等】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

上記の研究環境に関する全ての委員会において，歯学部執行部の指示の下，各委員会が方針

や事業内容を策定する。策定された方針等の実行は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，各研究者に通達される。各所管の委員会は，研究者の研究計画書等を確認することで点検・評価を行う。その評価結果は，歯学部自己点検・評価委員会へ提出され，同委員会の報告に基づき，最終的に歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。

本サイクルの適用実績は現時点では途上にあるが，改善・向上につながる先行事例として次のとおり取り組んだ。まず，病原性微生物等を取り扱う研究において，バイオセーフティレベル（ＢＳＬ）の更新に適切に対応するため，令和６年度より年２回の保管状況確認及び変更届出の運用フローを構築した。また，歯周病原菌のＢＳＬ２への引き上げに伴い，既存施設での研究継続が困難となった事案では，研究担当である執行部の指示の下，動物・遺伝子・バイオセーフティの３委員会が合同で対応した。国立感染症研究所やＷＨＯ（World Health Organization）の指針を参照し，20 年以上未更新であった学内規程やマニュアルを刷新した。この結果，公私立大学実験動物施設協議会等とも連携し，年度内にＢＳＬ２の承認取得及び学内規程等の整備を完了させた。今後は，歯学部自己点検・評価委員会による評価（Ｃ）と歯学部内部質保証推進委員会による改善指示（Ａ）を機能させ，歯学部内でのＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。

なお，遺伝子組換え実験安全委員会における実験計画書の点検・評価については，「学部等単位の改善事項の進捗状況調査」に記載のとおりである。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

学生に対する情報倫理を遵守させるための取組がなされていないことから，学生に対し情報倫理を遵守させるため，取り組むよう是正されたい。

情報倫理については，研究科分科委員会にて次年度シラバス作成時に検討，授業案を作策定する中で，大学院１年次の必修科目として開講されている総合特別講義において，研究活動における大学図書館の活用方法及び論文等情報検索等データベースの活用といった情報リテラシーに関連する講義を含め，実施している。

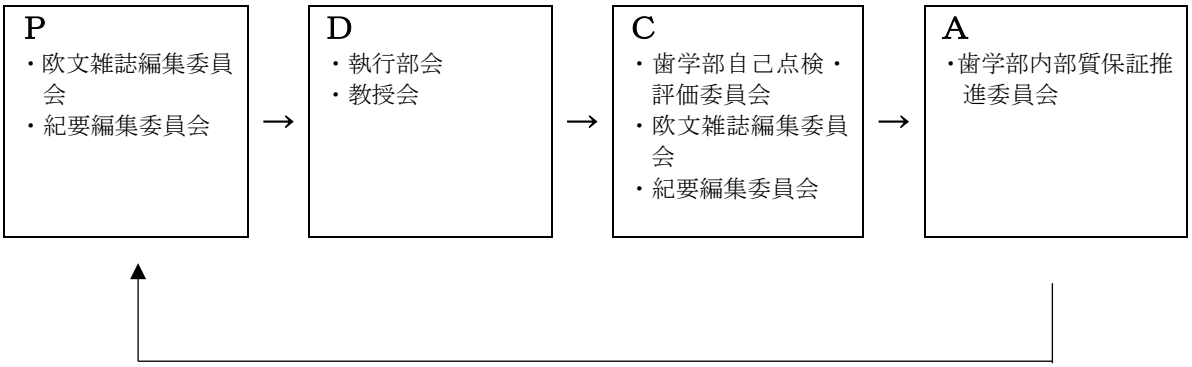
今後は，新年度以降大学院入学時に実施されるガイダンス内においても情報倫理についての説明機会を設け，学生に対し情報倫理を遵守させるよう注意喚起を行うこととする。

ＰＤＣＡサイクルの運用については，今後関連員会と連携した上で，歯学部内部質保証推進委員会からの検証・評価の実施をはじめ，同委員会からのアクションがあった場合は，速やかに改善を図りたい。

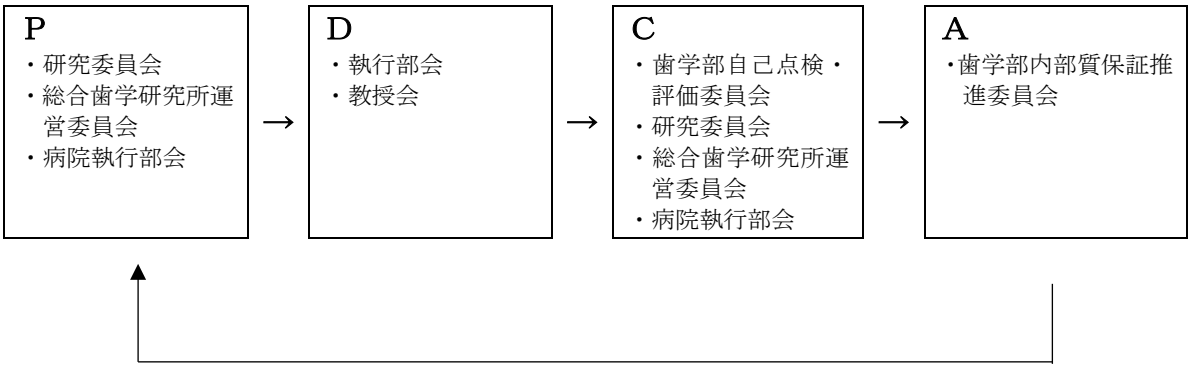
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【研究成果の発信】



【産官学連携活動】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究成果の発信については，歯学部執行部の指示の下，欧文雑誌編集委員会及び紀要編集委員会が学術誌の投稿方針等を策定し，投稿論文の査読を含む編集実務を担う。投稿方針等が変更される際は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，各研究者に通達される。学術誌の刊行後は，各委員会が点検・評価を実施し，その結果を歯学部自己点検・評価委員会へ提出する。同委員会の報告に基づき，最終的に歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行

う。
　産官学連携活動については，歯学部執行部の指示の下，研究委員会及び総合歯学研究所運営委員会において，委託研究や共同研究等の契約締結を管轄する。医療機器開発等につながる臨床現場のニーズに基づく場合は，病院執行部会でも検討し案を策定する。委託研究や共同研究等の契約締結の方針が変更される際は，執行部会及び教授会での審議・承認を経て，各研究者に通達される。研究者は研究活動を遂行し，大学が有する研究成果・技術・人材を企業の製品開発や技術革新に活用するとともに，企業のニーズを大学の研究活動へフィードバックする。年度末には総合歯学研究所運営委員会等へ実績報告を行い，研究委員会においても必要に応じて共同研究契約等に関する審議を行う。その後，各委員会が点検・評価を実施し，その結果を歯学部自己点検・評価委員会へ提出する。最終的には，同委員会の報告に基づき，最終的に歯学部内部質保証推進委員会が検証及び改善指示を行う。
　本サイクルの適用実績は現時点では途上にあるが，改善・向上につながる先行事例として以下のとおり取り組んでいる。本学部では，オープンアクセス化された国際学術誌「Journal of Oral Science（ＪＯＳ)」を年４回発刊している。令和６年には，国内外から投稿された計 51 本の論文が掲載され，インパクトファクター（ＩＦ）は 1.7（2024 年発表値）を記録した。このように本学部の研究活動が国際水準にあることが第三者機関によって証明されているのは，欧文雑誌編集委員会が継続的に点検・評価を実施してきた成果といえる。令和８年度には，社会連携・社会貢献に関する情報のアクセシビリティ向上を目的として，ＪＯＳ公式 Web サイトの新設を計画している。本件は，既に執行部の承認を得て予算申請を行っており，令和８年度中の構築を目指している。今後は，本 Web サイトの運用を通じて自己点検・評価委員会による評価（C）と内部質保証推進委員会による改善指示（A）を実効的に機能させ，歯学部内でのＰＤＣＡサイクルを確立させる方針である。
また，行政及び公的機関からの，委員会委員，講演会講師及び歯科医師試験委員等の様々な派遣依頼に対し，執行部会，教授会等で審議され，学部の承認を経て，出向している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

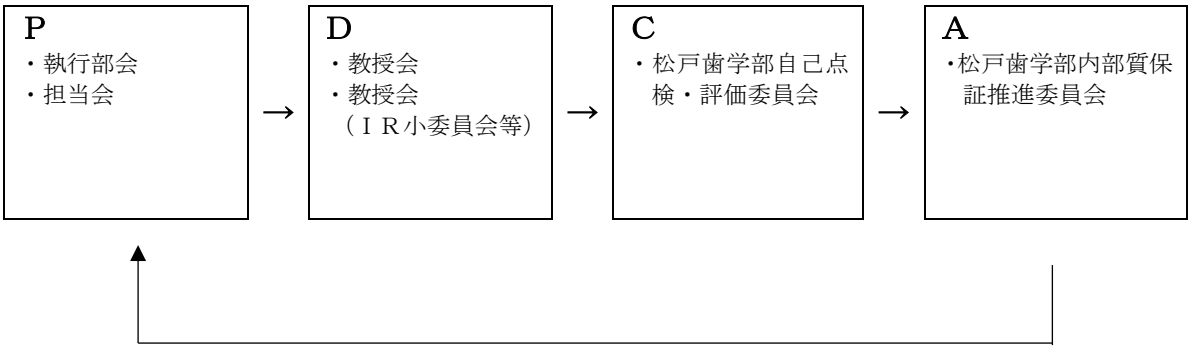
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院松戸歯学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

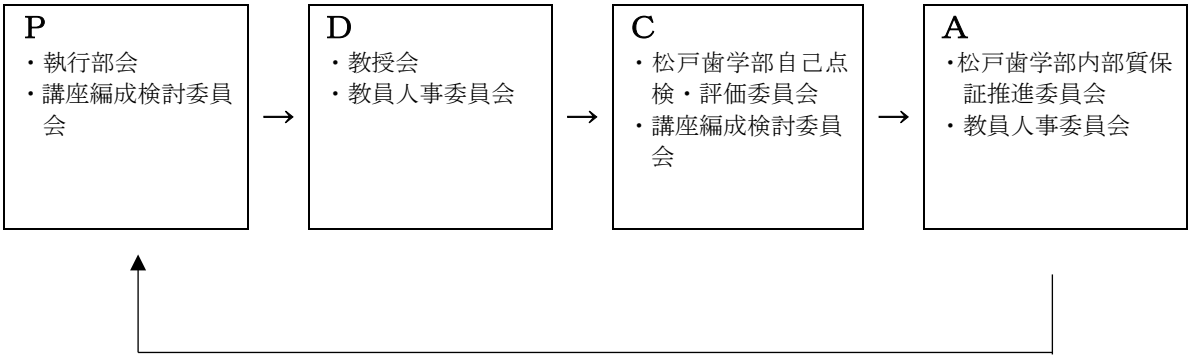
内部質保証システムを有効的に機能させる組織として，松戸歯学部内部質保証推進委員会及び松戸歯学部自己点検・評価委員会を設置している。なお，両委員会は互いにけん制がきくよう極力構成員が重複しないような構成としている。基本的には担当会で計画を行い（Plan），教授会に計画を上程し，必要に応じてＩＲ小委員会等と連携し，実施する（Do）。そして，松戸歯学部自己点検・評価委員会で評価を行い（Check），それに対して松戸歯学部内部質保証推進委員会から意見及び助言等を徴し，改善につなげている（Action）。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

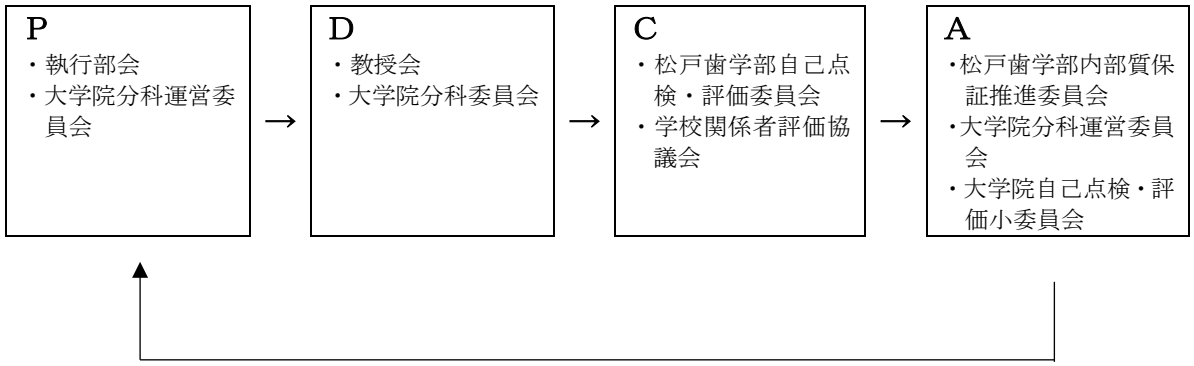
歯科医師の養成を目指す歯学研究科のみを置く大学院であるため，研究科の新設，改組等は検討していない。なお，歯科に関する学術分野は，変化が早いため，それに対応すべく，学部長の諮問機関として適宜設置される講座編成検討委員会にて組織案を策定している（Plan)。その案に基づき,教員の人事等を担う教員人事委員会において具体的な人員配置を検討する(Do)。それを担当会及び教授会で資格審査等を行っている。実際の運用開始後に必要に応じて講座編成検討委員会を再度設置した上で検証を行い（Check)，教員人事委員会で見直しの是非について検討している（Action)。このように時代に合った教育研究組織となるよう講座の見直しや将来を見据えた教員配置等の検討を行い，適宜，点検及び評価を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

令和６年度から教育課程及びその内容，教育方法については，学校関係者評価協議会において点検・評価を実施している。評価項目は，大学院分科委員会にて設定し，学校関係者評価協議会の点検・評価結果については，評価結果を大学院分科運営委員会及び大学院分科委員会で共有し，次年度への対応を実施している。学校関係者評価協議会は，毎年実施し，教育方法の改善に努める。

また，大学院特別講義や共通科目等においては，内容等についてアンケートを実施し，大学院分科運営委員会及び大学院分科委員会において報告，改善事項については次年度以降対応を検討している。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

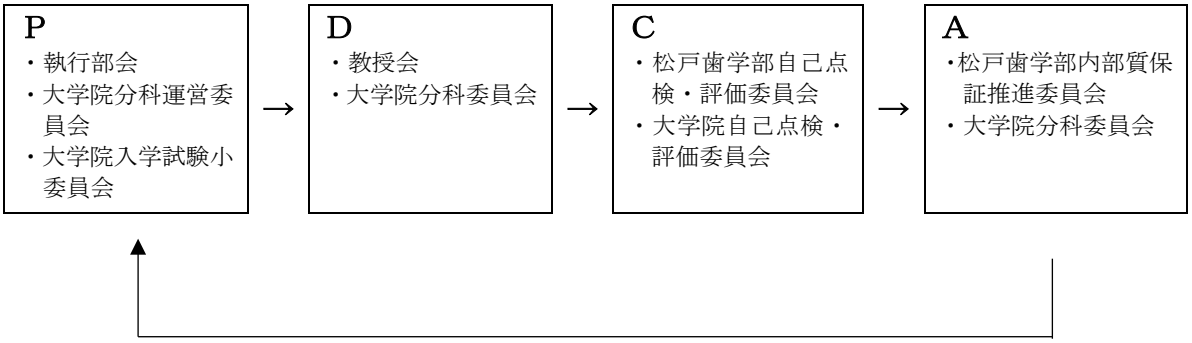
各種アンケートにおいて，時間的制約のある社会人大学院生が修了要件の一つである共通科目（対面）及び特別講義（対面）への出席ができず，修了要件を満たすことが難しいとの意見があり，大学院分科委員会で検討し，オンライン参加可能な講義を設定した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑲　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院分科運営委員会及び大学院分科委員会において，これまでの広報活動（臨床研修歯科医師及び専修医・専修研究員向け説明会の開催，同窓会誌への案内）の実施時期や実施方法を検討している。検討結果において，本研究科の在籍者は約７割が松戸歯学部卒業生であり，学外への周知不足が挙げられた。そのため，学外に本研究科のまずは学外の歯学部生に本研究科を知っていただくことを目的として大学院募集ポスターを作成し，全国の他大学歯学部へ送付した。

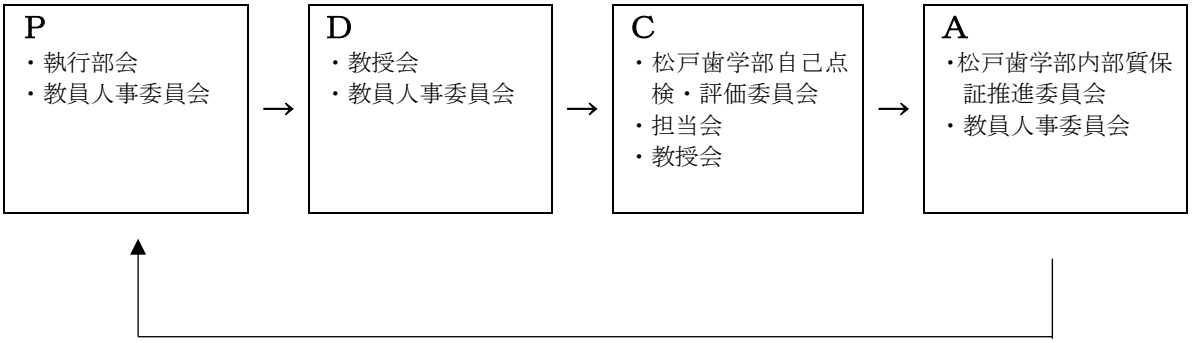
これらは，大学院分科運営委員会（大学院入学試験委員会）で企画し，大学院分科委員会で実施している。その後，大学院自己点検・評価委員会で現状分析及び取組評価を行い，大学院分科委員会で自己点検・評価結果の客観性・透明性を松戸歯学部内部質保証推進委員会で検証し，必要に応じて修正している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㉘　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

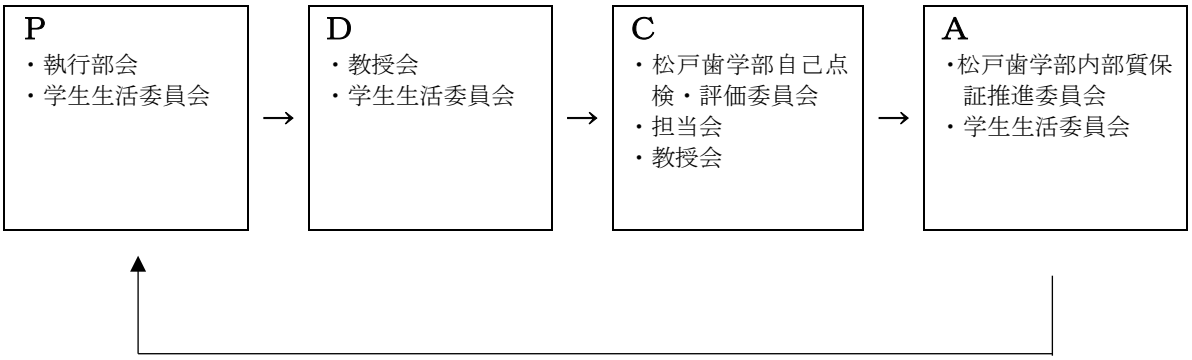
教員人事委員会において，専任教員の定年を見据えた 10 年後までの教員配置計画を基に各年度における充足が必要な教員数，特に大学院設置基準に基づく教授人数を確認し，計画的な教員採用計画を策定している。また，助教等の任期制教員については契約更新時に教員人事委員会において任期中の実績を基に契約更新の可否を含めた審査を実施することで教員の質の担保を行っている。大学院設置基準を基にした配置を重視し，数年先までの教員配置計画を定期的に確認することで，専任教員が過度に不足しないよう注視している。また，点検・評価を行い，次回以降に向けて改善・向上を図っている。なお，作成した教員配置計画については，担当会や教授会でも諮り，学部全体で共有されている。また，教員人事委員会の下に適宜，講座編成検討員会を学部長の諮問機関として設置するが，構成員についてはその時の状況に応じて柔軟に人員配置を行っている。両委員会は，互いに連携して情報共有や今後の計画等の検討を行っており，学部としての方針にそごがでないよう軌道修正しながら立案及び検証等を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活委員会が主となり学生支援に関わる事項を担当している。同委員会において，支援事項の案を策定（Plan）・実行（Do）し，その進捗状況を担当会や教授会に上程し，幅広く意見を求めている（Check）。そして，担当会や教授会を経て得られた改善点等を同委員会に還元（Action）し継続的にプロセスを実行している。

＜具体例＞

(1)　学生相談対応の改善
　　相談窓口の一本化と対応記録の標準化により，対応品質と追跡性を向上した。

(2)　事故・トラブル時対応フローの整理
　　関係部署間の連絡手順と責任区分を明確化し，迅速性と客観性を強化した。

(3)　課外活動における安全管理強化
　　活動責任者の明確化，使用場所管理，危機管理の徹底をした。

(4)　支援制度の周知方法の改善
　　掲示物・メール配信・ガイダンス説明の多層的周知により，利用率の改善を確認した。

(5)　障がい学生等への個別配慮支援の強化
　　ヒアリングと個別支援策を体系化し，対応の質を向上した。

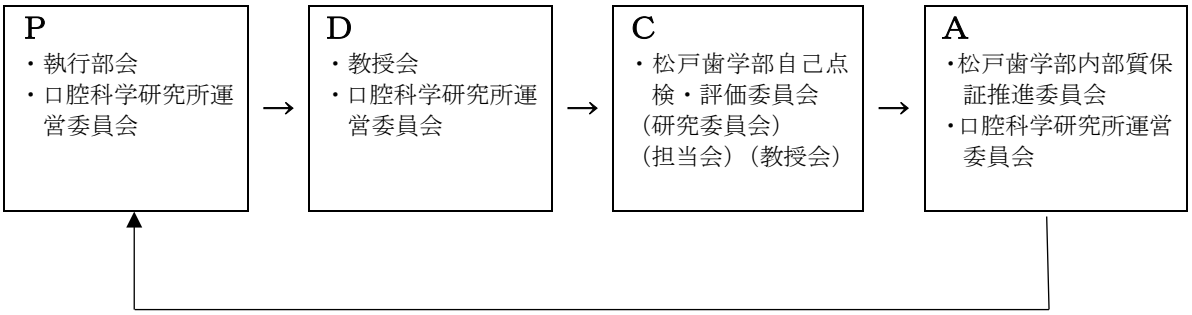
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

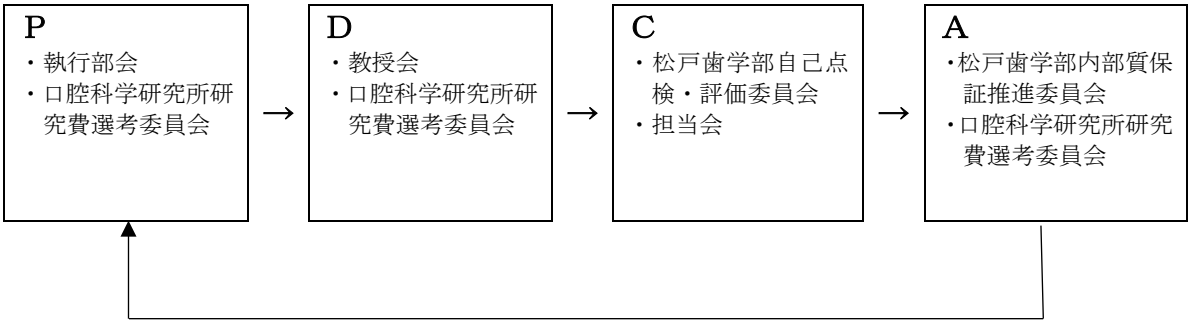
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

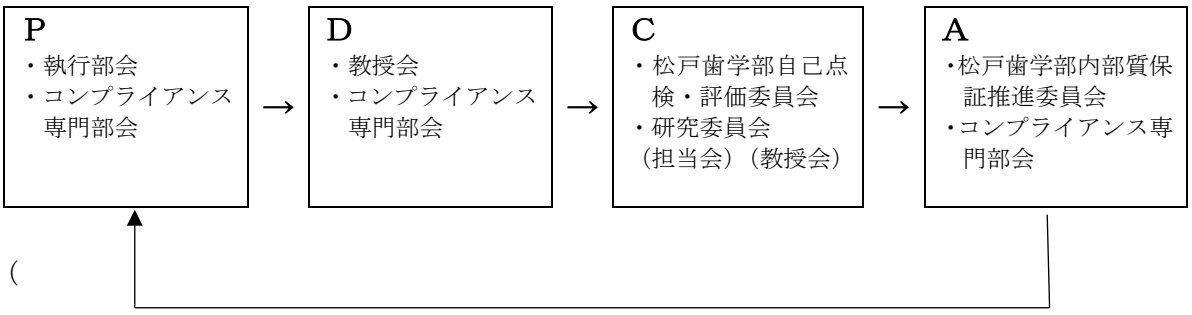
【口腔科学研究所の各種事業の管理・運営】



【学内研究費の配分についての適当性】

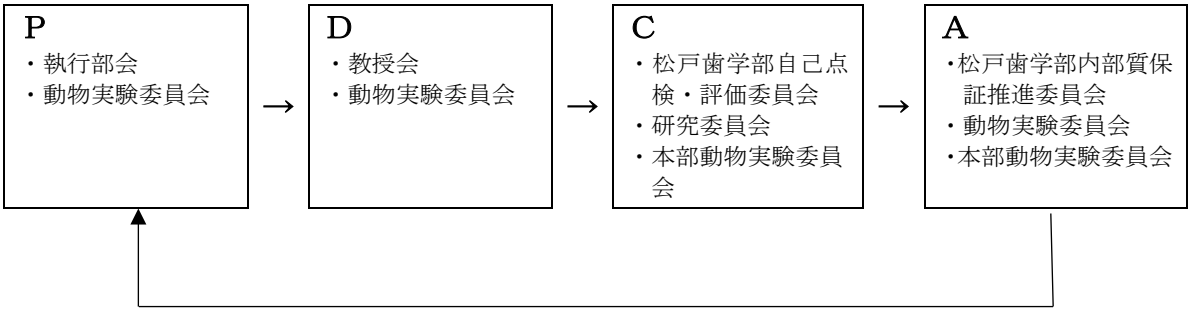


【研究費の不正使用防止】

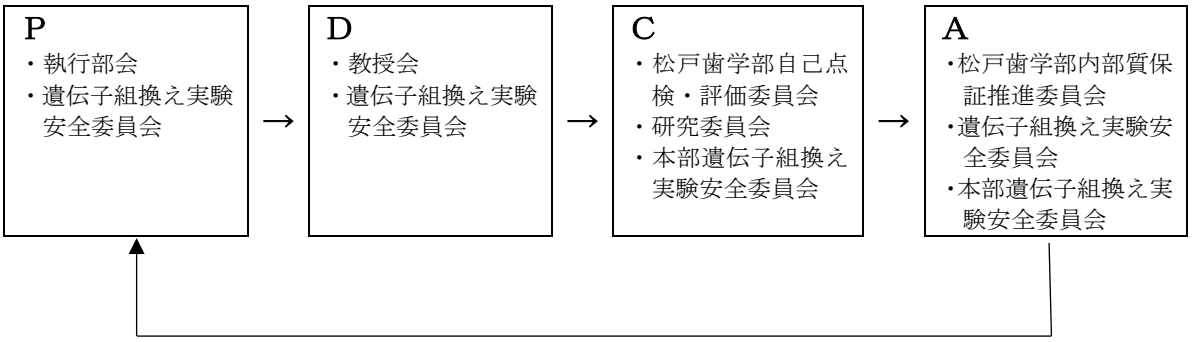


（

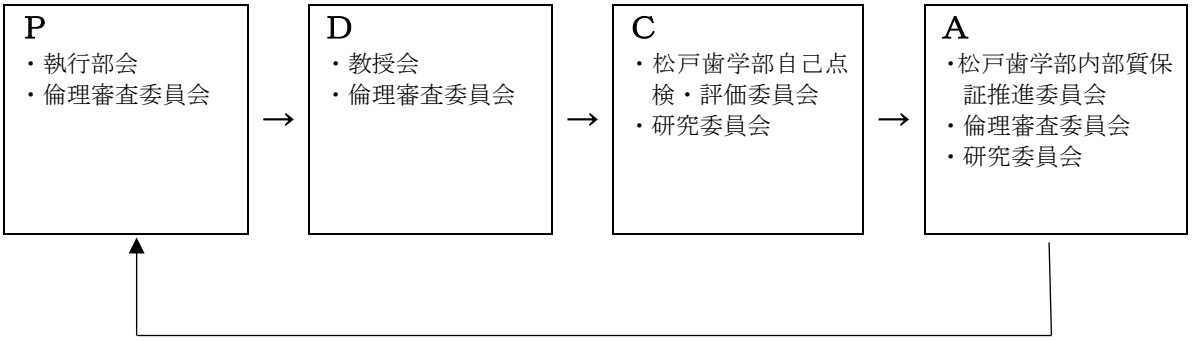
【本学部における動物実験等の適正な実施並びに実験動物の飼養及び保管】



【本学部における遺伝子組換え実験の安全かつ適切な実施】



【本学部における人を対象とする生命科学・医学系研究の適正な推進】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【口腔科学研究所の各種事業の管理・運営】

口腔科学研究所運営委員会では，日本大学松戸歯学部口腔科学研究所規程第３条に規定する事業を行っており，各種研究の受入・実施状況，所員等の構成員の受入・活動状況，研究施設の管理・運営状況を計画・実行している。委託研究等の利益相反等の適正性に関する確認や研究施設について予算を含めて検討することで効率的で適切な活用を実現している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて，研究委員会，担当会及び教授会に点検・評価を求めている。

【学内研究費の配分についての適当性】

口腔科学研究所研究費選考委員会では，研究活動の活性化を図るため研究費を給付しており，より活発な研究成果の向上を目途に適切な配分を随時見直している。同委員会の目的の適切性については，定期的に担当会に点検・評価を求めている。

【研究費の不正使用防止】
コンプライアンス専門部会では，研究費の不正使用防止を目途としてその適正な執行状況や啓発活動を計画・実行しており，学部全体で研究費の適正な使用に向けての意識向上に寄与している。同専門部会の取り扱う活動は必要に応じて研究委員会，さらには担当会及び教授会に点検・評価を求めている。

【本学部における動物実験等の適正な実施並びに実験動物の飼養及び保管】
動物実験委員会では，本学部における動物実験等の適正な実施及び実験動物の飼養並びに保管に関して計画・実行しており，当該研究に伴う管理運営体制を常に監視・整備し，研究者相互が動物実験等を適正に実施するために意見を交換するとともに，指導している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて研究委員会，さらには本部動物実験委員会に点検・評価を求めている。

【本学部における遺伝子組換え実験の安全かつ適切な実施】
遺伝子組換え実験安全委員会では，本学部における遺伝子組換え実験の安全かつ適切な実施について計画・実行しており，当該研究に伴う管理運営体制を常に監視・整備し，研究者相互が遺伝子組換え実験を適正に実施するために意見を交換するとともに指導している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて研究委員会，さらには本部遺伝子組換え実験安全委員会に点検・評価を求めている。

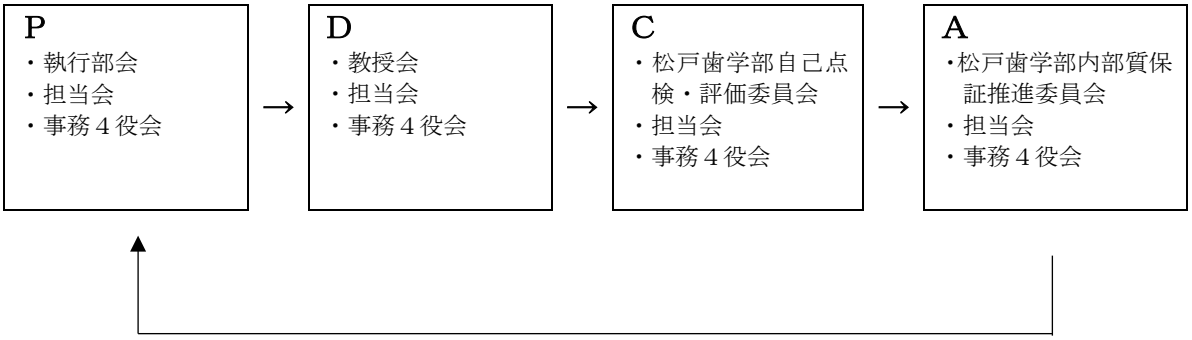
【本学部における人を対象とする生命科学・医学系研究の適正な推進】
倫理審査委員会では，本学部における人を対象とする生命科学・医学系研究の適正な推進が図られるように，当該学部等の研究の進捗状況，結果の把握及び研究が適正に実施されていることの把握，研究が国の指針に適合していること，当該研究を実施等する際に必要な知識及び技術に関する教育・研修の措置等について，計画・実行しており，当該研究に伴う管理運営体制を常に監視・整備し，研究者相互が人を対象とする生命科学・医学系研究を適正に実施するために意見を交換するとともに指導している。重大な事案が生じた場合は，必要に応じて研究委員会に点検・評価を求めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

社会連携・貢献に関わる事項については，案件により所管部署や委員会が異なるため，各部署が計画案を作成している。計画案を基に，事務４役会で検討若しくは担当会で審議し，計画を立て（Plan），実施（Do）している。また，計画立案及び実施の際は，教授会にその内容を報告し，構成員による意見を聴いている（Check）。そして，その意見を基に内容の改善や修正を行うようにしている（Action）。

本学部は，平成 30 年から，松戸市との包括的な連携を行う協定を結んでおり，直近の社会貢献に関する事例の一つとして，シェアサイクルステーションの設置がある。設置に当たり，所管部署となる庶務課から事務４役会及び担当会に上程し，同会での検討・審議を経た設置案を，教授会で報告し，設置に至っている。設置して間もないため，本取組についての評価は現時点で行っていないが，ステーションの利用状況等を先方から共有してもらうこととしているため，その情報等を基に効果を検証し，改善等を行っていく予定である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

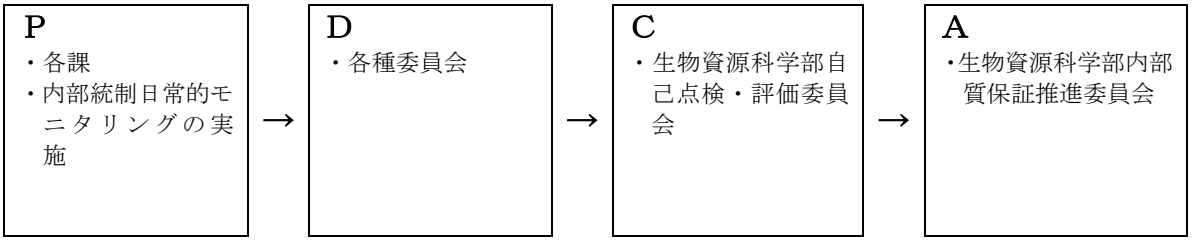
令和７年度全学自己点検・評価報告書

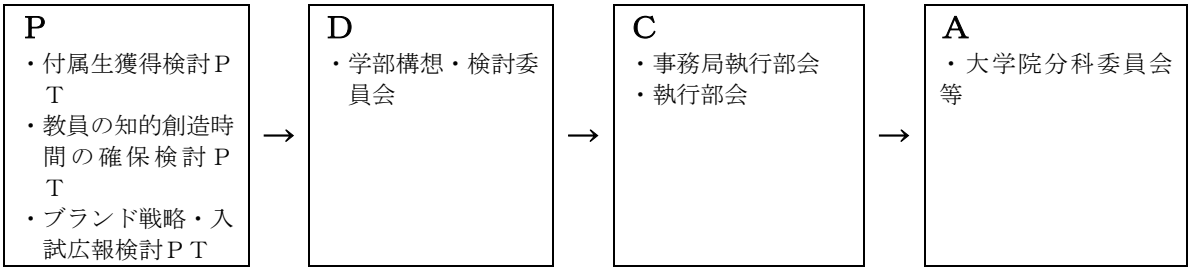
学部等名　　大学院生物資源科学研究科

基準２ 内部質保証

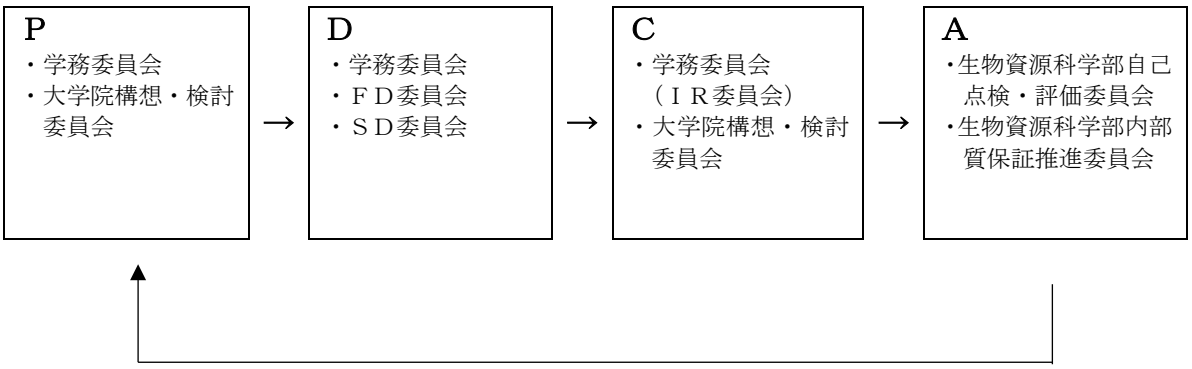
１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

【庶務】





【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等につ

いて記述してください。

【庶務】

点検・評価については，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，ＩＲ委員会，ＦＤ委員会，ＳＤ委員会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会等が生物資源科学部内部質保証推進委員会と連携することで，各研修でのテーマを提供する等して内部質保証体制を構築している。

改善・向上を図った事例としては，内部統制の日常的モニタリング「推進単位内項目／全課共通項目（教務課）」にもあるとおり，教育の質を保証する仕組みの一環であるＦＤ研修において毎年講演内容を変更することで全教職員の 100%受講を達成した。

内部質保証については，現状，各課のＰＤＣＡサイクルに全体的な統一性が見られないことから，内部質保証体制をより盤石なものとするため，各課及び各種委員会等の役割及びＰＤＣＡサイクルの本質を再検証しながら，課題となる点を抽出し，生物資源科学部内部質保証推進委員会において今後検討及び改善していく予定である。

【教務】

＜点検・評価（検討・検証）＞

内部質保証システムは，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，学務委員会等が密接に連携し，体制を構築している。本研究科では，実務を担う委員会と評価組織の役割を明確に分担している。

具体的な運用プロセスとしては，まず学務委員会及び大学院構想・検討委員会において，研究科の教育方針や改善計画を策定（Ｐ）する。これに基づき，学務委員会が必要に応じてＦＤ・ＳＤ委員会等と連携して施策を実施（Ｄ）する。その後，学務委員会や大学院構想・検討委員会が，教学データを用いて点検・検証（Ｃ）を行い，必要に応じてＩＲ委員会と連携し，結果を補完する。これらの検証結果は，生物資源科学部自己点検・評価委員会による評価を経て，最終的に生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告・承認（Ａ）することで，組織的な質保証サイクルを完結させている。

＜改善・向上を図った事例＞

大学院教育の活性化を目的として，大学院構想・検討委員会での起案に基づき，学部教育と大学院教育を接続する「早期履修制度」を導入した。本制度の導入に際しては，同委員会が現状分析と制度設計（Ｐ）を行い，学務委員会での審議（Ｃ）を経て，組織的な運用体制を構築した。この組織間連携により，優秀な内部学生の早期確保及び学修意欲向上に資する改善を行っている。

他にも，安全配慮の観点から庶務課が起点となり，夜間の施設利用申請（午後９時以降）の仕組みを導入した。学務委員会においても，本運用が研究活動を支援するものであるとの認識を継承し，組織運営を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，博士後期課程では，専攻ごとの学位授与方針が未設定であり，また，授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を設定していないとの提言が付されている。このことは，教育課程の体系性や学位授与の適切性を検証する上で重要な課題である。したがって，内部質保証体制を機能させ，研究科内の委員会が主導し，博士

後期課程の専攻ごとの学位授与方針を早急に策定するとともに，授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を設定するよう，改善が求められる。

【教務】

本研究科に付された改善課題（博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）に関するもの）に対し，以下のとおり取り組む。当該課題は，全研究科で授与可能な「博士（学術）」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に記載されていなかったことに起因する。

まずは，「博士（学術）」の運用方針について，本部学務課と連携して検討する。全学的な取扱いが令和８年度中に決定される見込みであることを踏まえ，本研究科における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正による改善達成時期を令和９年度中とする。

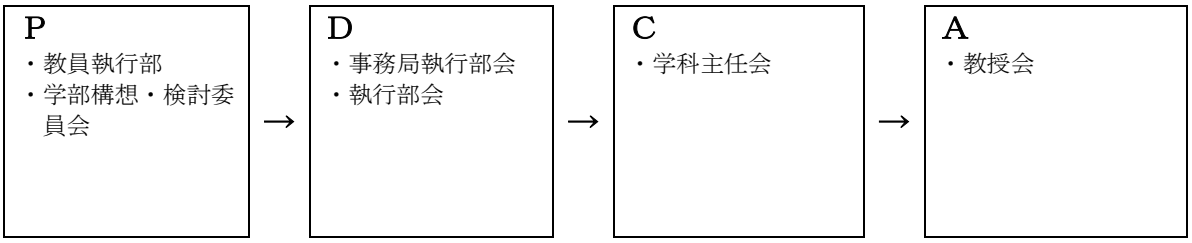
本課題の解決に向けた組織的な取組については，まず，大学院構想・検討委員会が主体となり，全学的な「博士（学術）」の運用方針との整合性を図りつつ，本研究科の各専攻における学位授与要件の再定義を起案（Ｐ）する。この起案に基づき，学務委員会において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）・教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の素案を各専攻の教育実態に即して検証（Ｄ）し，全学方針の決定後に速やかに方針を確定させ，大学院要覧等の公表媒体へ反映させる。

運用開始後は，主に学務委員会及び大学院構想・検討委員会において，新方針が提言の趣旨に沿ったものとなっているか，また学位授与の適切性を検証する基準として有効に機能しているかを点検（Ｃ）する。これら一連の策定プロセス及び点検結果は，生物資源科学部自己点検・評価委員会を経て，最終的に生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告（Ａ）し，執行部による組織的な承認を得ることで，研究科全体での内部質保証を完結させる。

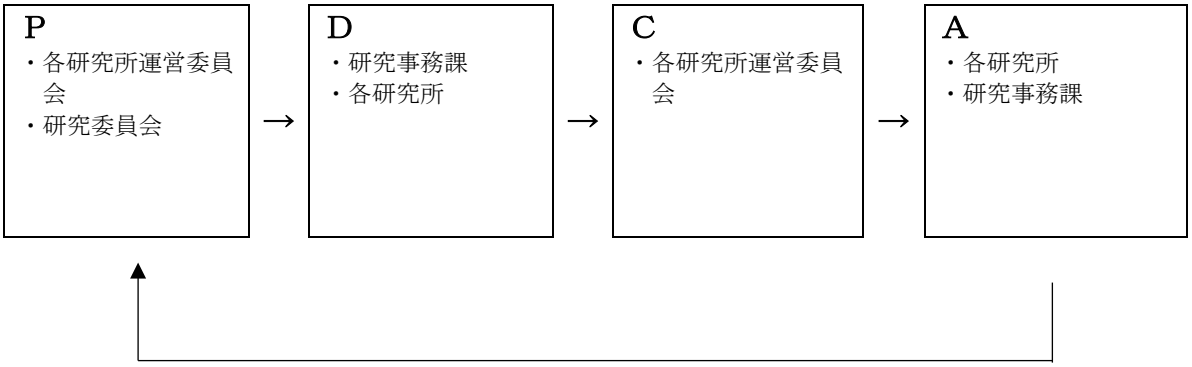
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



【研究事務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教育組織については，大学院設置基準やＳＴ比の標準化を踏まえた上で，教員執行部及び学部構想・検討委員会が中心となり，学部の今後のカリキュラム編成や組織再編に向けてのプロセスを検討している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営

委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

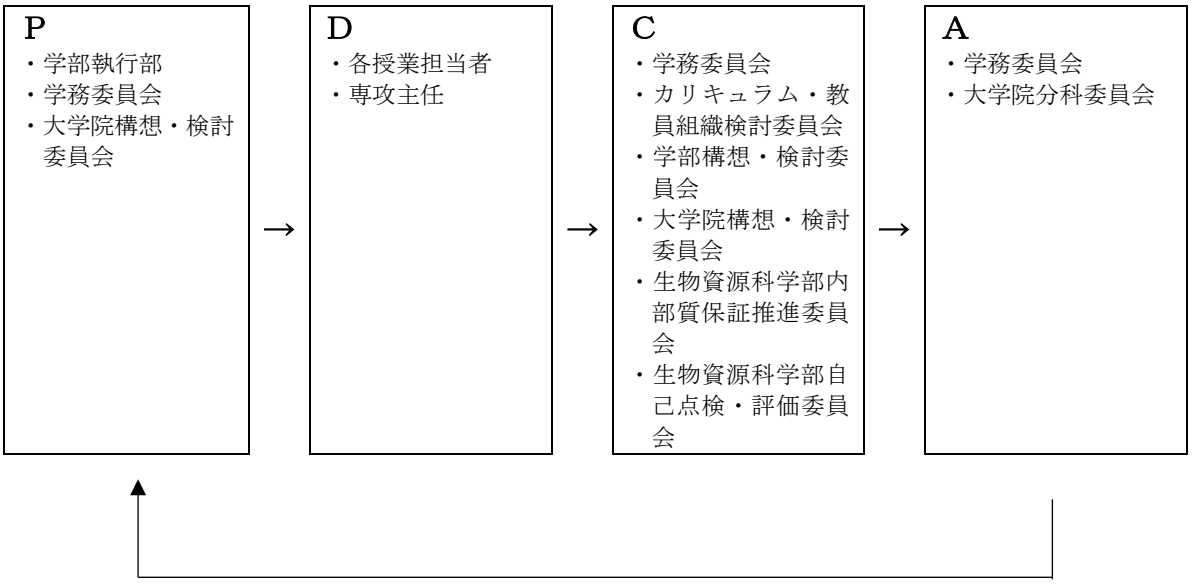
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

【教務】

＜基準・周期＞

教育方法については，毎年度実施する。教育課程については，平成 12 年度からカリキュラムの骨子は大きく変更されずに現在に至っているが，令和９年度の獣医保健看護学専攻の新設に合わせて，大学院・構想検討委員会が中心となり，カリキュラム改正の検討に着手する。

＜体制・プロセス＞

執行部，学務委員会，カリキュラム・教員組織検討委員会，学部構想検討委員会及び大学院構想・検討委員会の各種検討委員会が中心となりＰＤＣＡを主導する。生物資源科学部内部質保証推進委員会へは，毎年の自己点検・結果等の状況報告を行うことで連関する。

＜方法＞
履修人数が小規模な科目を除き，授業評価アンケートを年２回実施し，その結果に基づき各教員が日々の授業改善に努める。
具体的な運用は，学部執行部，学務委員会，大学院構想・検討委員会による基本計画の策定（Ｐ）に基づき，各授業担当者の実践及び専攻主任による実務検討（Ｄ）を行う体制としている。実施状況については，学務委員会や大学院構想・検討委員会等の各委員会が，教学データ等を用いて多角的に点検・評価（Ｃ）を行う。その結果は，学務委員会及び大学院分科委員会での審議・承認（Ａ）を経て組織的に決定・反映される。この一連のサイクルにより，令和９年度の新専攻設置に伴う改正など，教育の質の継続的な向上を担保する。

㊸ 教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】
＜活用と改善事例＞
教育方法の改善として，毎年度実施する授業評価アンケートの結果を各教員にフィードバックし，各教員が次年度の講義で改善点を反映させることで，日々の教育の質向上に活用している。また，教育課程の改善として，次期カリキュラム改正に備え，大学院構想・検討委員会等の各種検討委員会が設置されており，これまでに共有された授業アンケートデータを背景情報として，議論の創出につなげている。
組織的な改善については，教務課が取りまとめた自己点検・評価の結果（Ｃ）を，学務委員会や大学院構想・検討委員会等の関係委員会へ共有し，活用する体制を整備している。
現時点において，特筆すべき具体的な改善指摘事項はないものの，今後，自己点検において課題が抽出された際には，大学院構想・検討委員会等が主体となって改善案を策定（Ｐ）し，学務委員会及び大学院分科委員会での審議・承認（Ａ）を経て，速やかに教育課程等へ反映させる運用プロセスを確立する。なお，学務委員会や大学院構想・検討委員会等が自ら点検（Ｃ）した結果に基づき，改善を起案（Ｐ）し，上位組織の承認（Ａ）を得る質保証のルートを機能させることで，研究科独自の教育改善を継続的に推進していく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
令和６年度大学評価（認証評価）において，「学位授与方針について，生物資源科学研究科博士後期課程では，授与する学位ごとに設定していない。また，教育課程の編成・実施方針について，生物資源科学研究科博士後期課程では，授与する学位ごとに設定していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

【教務】
博士後期課程の「博士（学術）」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）等に関する課題は，全研究科で授与可能な「博士（学術）」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確でなかったことに起因する。
改善の目安としては，本部の方針決定後（令和８年度中の目途）を待って対応する方針とし，

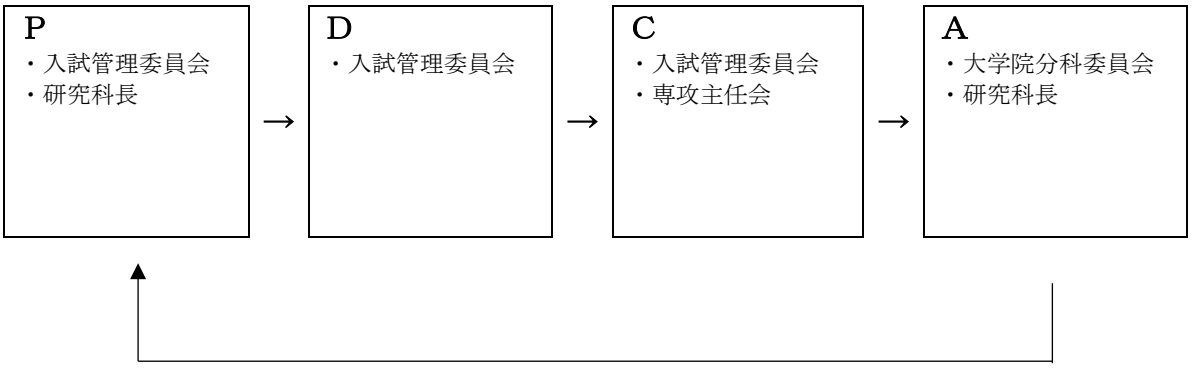
本研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正による改善達成時期を令和９年度中と想定する。

具体的方策としては，本部方針決定に備え，大学院・構想検討委員会において，提言された学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の要件と本研究科の研究領域の適合性に関する情報整理を実施し，大学院分科委員会の承認を経て大学院要覧に反映させ，改善完了とする。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学生の受け入れに関わる事項の検証は，入試管理委員会が主導する。委員会は，前年度の受験者数・入学者数等の動向や大手進学塾の分析結果を参照し，現状把握と入学者選抜制度の適合性を分析する。この検証結果に基づき，大学院分科委員会の審議を経て研究科長が次年度の制度改定を決定する。

＜改善・向上を図った事例＞

定員増加に向けた誘致策の一環として，大学院説明会を年２回開催し，学部生への働き掛けを強化している。今年度は特に，現役大学院生を招き，実際の研究活動や就職活動・インターンシップ等のキャリア形成事例を紹介するプレゼンテーションを実施し，大学院進学の具体的なメリットを明確化した。

＜今後の対応＞

現在の体制では，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘があるため，今後，入試管理委員会での検証結果を同委員会へ定期的に報告する体制の構築を図る。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

博士後期課程における収容定員に対する在籍学生数比率が 0.24 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。くわえて，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「収容定員に対する在籍学生数比率について，生物資源科学研究科博士後期課程で 0.19 と低くなっているため，大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる」との提言が付されているため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

【教務】

博士後期課程の定員管理の徹底は，少子化及び情報発信不足が低充足率の要因であると認識している。

具体的方策として，令和６年度から発足した大学院構想・検討委員会において，将来的な研究科新設の動向及びカリキュラム改正と並行して入学定員及び収容定員の適正化の方向性を検討している。まずは，大学院の受入れ人数を増やすために，その母体となる博士前期課程との接続性を強化し，大学院科目早期履修制度の導入検討を推進する。また，キャリアパスの情報発信強化や特別研究生制度の拡充などの研究環境整備も図る。

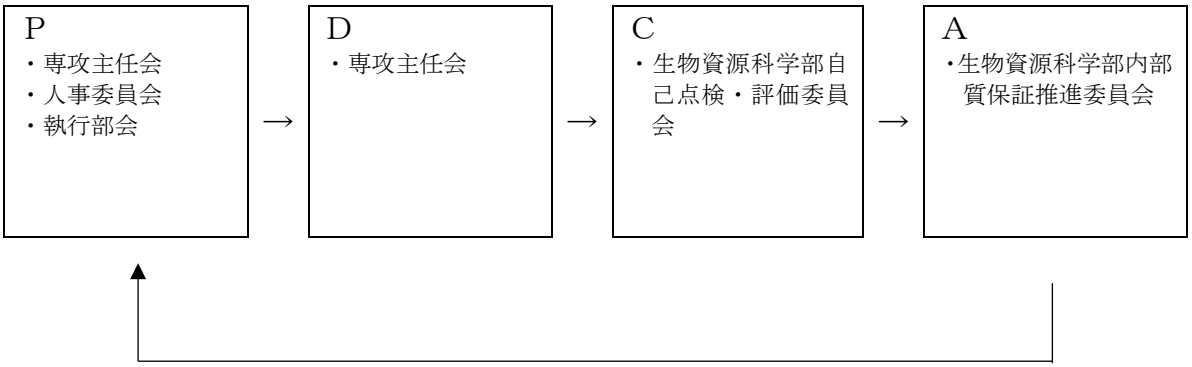
プロセスとしては，入試管理委員会が中心となり，志願動向や充足率の推移を詳細に分析・点検（Ｃ）している。この分析に基づき，同委員会が主体となって広報戦略の強化や収容定員の適正化といった改善策を策定（Ｐ）し，具体的な募集要項の作成や広報活動を実装（Ｄ）している。

これら一連の施策や定員に関する方針については，大学院分科委員会での審議を経て，最終的に研究科長が承認（Ａ）することで，組織的な決定を行っている。

基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教員の配置については，「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」及び「教員配置及び教員配置数の上限」を基に，人事委員会にて，点検・評価を行っている。

令和７年度より，大学院研究科担当教員の教育・研究実績等評価体制を整備し，評価を実践する計画である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

記述上は教職の役割分担と責任の所在が理念的に示されているものの，実際の運用における具体的な成果や改善事例の提示が乏しい点が課題であり，改善が求められる。年齢構成の偏りに対する対応として，具体的な年齢分布の分析や定期的な点検・評価の実施状況，年齢構成に関する中長期的な人事戦略の明文化等については記述が確認できず，今後の改善が求められる。現時点での男女比の具体的な数値や今後の是正に向けた数値目標，又は具体的な改善策につい

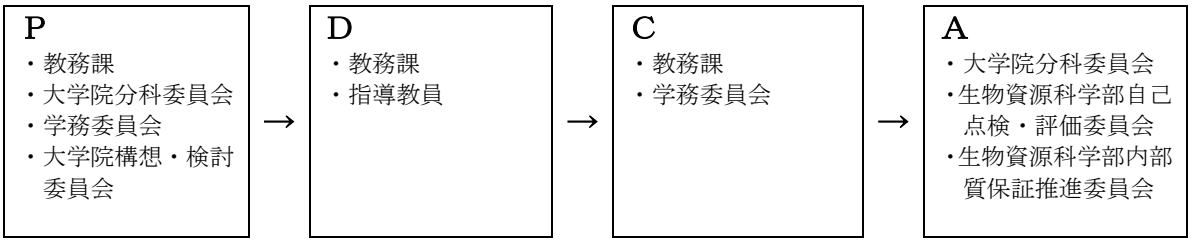
ての記述が確認できなかったため，実効性のある多様性確保の取組が行われているかどうかの確認が困難であり，改善が求められる。

【庶務】
大学院研究科担当教員については，指導資格の有無が重要視されるため，年齢構成の偏りに対する対応及び男女比の具体的な数値目標等については，限られたものになると考えられる。
専攻主任会，人事委員会及び執行部会において横断的に議論を重ねた上，人事委員会により具体的な数値目標及び改善策を策定・協議した後，専攻主任会の審議・決定となる。

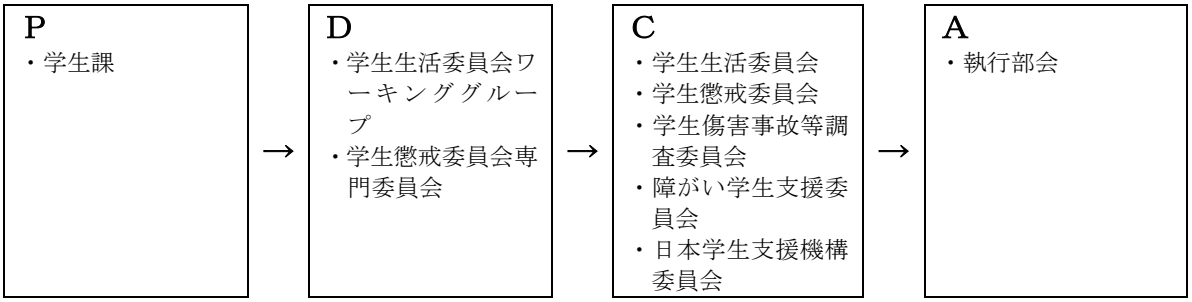
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

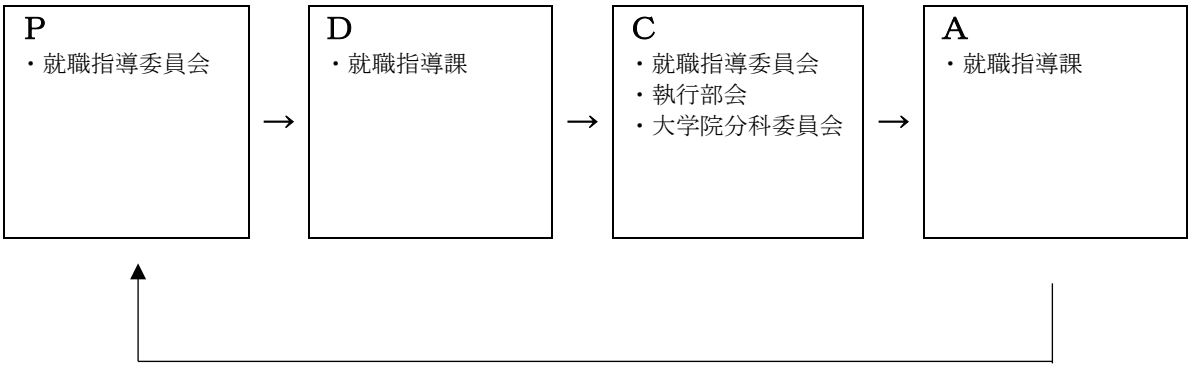
【教務】



【学生】



【就職指導】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

教務課は，留年・休学・退学希望者に対し，指導教員作成の「対応記録」や「休学申出者対応シート」を収集・管理し，学生の修学状況を把握している。これらの修学状況の点検結果を基に，教員と事務が連携した指導の質の検証と改善を図っている。

具体的な運用プロセスとして，まずは教務課及び学務委員会が，収集したデータを基に修学支援の有効性を点検・評価（C）している。この結果を受け，教務課，大学院分科委員会，学務委員会及び大学院構想・検討委員会が連携して改善策を立案（P）し，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会への報告・承認（A）を経て組織的に決定される。このサイクルに基づき，教務課や指導教員が具体的な個別支援（D）を実践することで，支援の質の継続的な向上を担保している。

＜改善・向上を図った事例＞

学習継続に困難を抱える学生に対し，指導教員と連携し復学までのロードマップ作成などの個別指導を実施している。

また，本部検証所見で課題とされた自律的学習サポートを改善するため，大学院科目早期履修制度の導入を大学院・構想検討委員会等と連携して検討し，修学指導の質の向上につなげる。

＜今後の対応＞

学生支援に関わる点検・評価について，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘がある。今後は，学務委員会での検証結果を同委員会へ報告する体制の構築を図る。

【学生】

学生担当を学生生活に関わる支援検討する委員会の長として任命し，学生生活委員会，学生懲戒委員会専門委員会，学生傷害事故等調査委員会，障がい学生支援委員会，奨学生選考委員会及び日本学生支援機構委員会を設置し，各支援の検討や情報共有を行っている。

また，各委員会では，学生生活に係る事案について検討を行っている。学生生活委員会では日々起こる学生生活に関する事案を調査・検討している。学生懲戒委員会専門委員会では学生の本分に反する行為を行った学生に対して教育的な指導含めた処分案などを検討している。学生傷害事故等調査委員会では，正課・課外活動などで起きた事故などの内容に関して精査・検証し再発防止を含めた対策などを検討している。奨学生選考委員会や日本学生支援機構委員会では，奨学金に関する申請・推薦などを報告・協議・審議し，手続が正しく行われているか確認を行っている。

障がい学生支援委員会では月曜日から金曜日までの週５日，本部派遣カウンセラーと学部採用の臨床心理士を毎日２名体制で配置し，増加傾向にある学生相談に対応している。また，学生支援室の他に独立した障がい学生支援窓口を設け，社会福祉士の有資格者や日本大学インテーカーの資格取得者をコーディネーターとして配置し，障がい学生支援業務に当たっており，随時，学生からの相談を傾聴し，教員と連携を図り，可能な配慮を模索している。

また，令和７年度日本大学インテーカーの資格研修に当該資格未取得の専任職員３名が参加し，全学生課員がインテーカー資格を取得し，学生相談の業務に当たっている。また，相談で得た内容を学生課内で共有整理し，しかるべき委員会内に議題提案し，学生生活環境整備などを検討している。

【就職指導】

就職指導委員長を筆頭に就職指導課で近年の就職動向を見据え，学生からのアンケート結果を基に行事日程を作成している。また，支援行事案を就職指導委員会で承認した上で，大学院分科委員会後に決裁を取り決定している（支援行事以外も同様）。また，学生の参加状況をみて

次年度以降の検討を行っている。特に開催時期と内容に鑑みて令和６年度ではインターンシップと業界研究を統合した内容で講座を開催していたが，令和７年度では切り離し業界研究を全３回とし，インターンシップガイダンスは６月までに全５回のガイダンスを開催し，採用と直結するインターンシップ対応及び就職活動の早期化に対応をした。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含め検討するよう改善が求められる。

【教務】

大学院生の能力に応じた自律的な学習支援についての方針策定が求められたことを踏まえ，その具体的な方策として，大学院科目早期履修制度の導入を推進する。この導入により，意欲ある学部学生が早期に大学院の専門科目を履修することを可能とし，学生の自律的な学習意欲を早期に喚起する仕組みとして機能させる。本研究科では，大学院・構想検討委員会を中心に令和９年度の導入を目指し，制度の設計とカリキュラムとの連携について検討を進める。

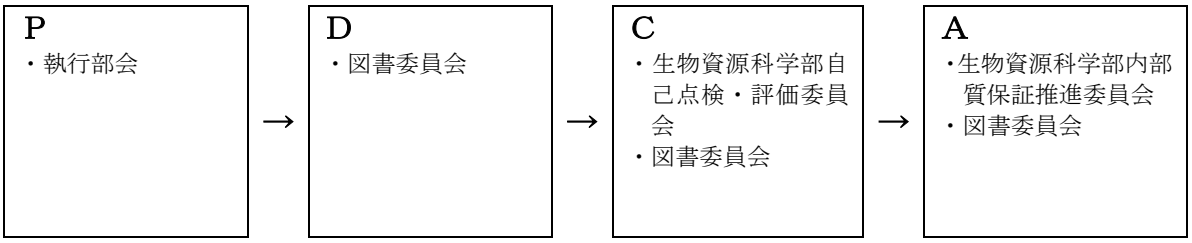
なお，本課題に対する組織的な取組については，まず，教務課，大学院分科委員会，学務委員会及び大学院構想・検討委員会が連携し，早期履修制度の設計やＴＡ（ティーチング・アシスタント）を自律的学習の場として再定義する運用指針を策定（Ｐ）する。これに基づき，教務課及び指導教員が制度の試行や実務的な運用（Ｄ）を担う。

運用状況については，教務課及び学務委員会において，学生の履修動向や教育的効果を点検・評価（Ｃ）する。その検証結果は，大学院分科委員会，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会への報告・承認（Ａ）を経て，次年度の方針へ反映させる。

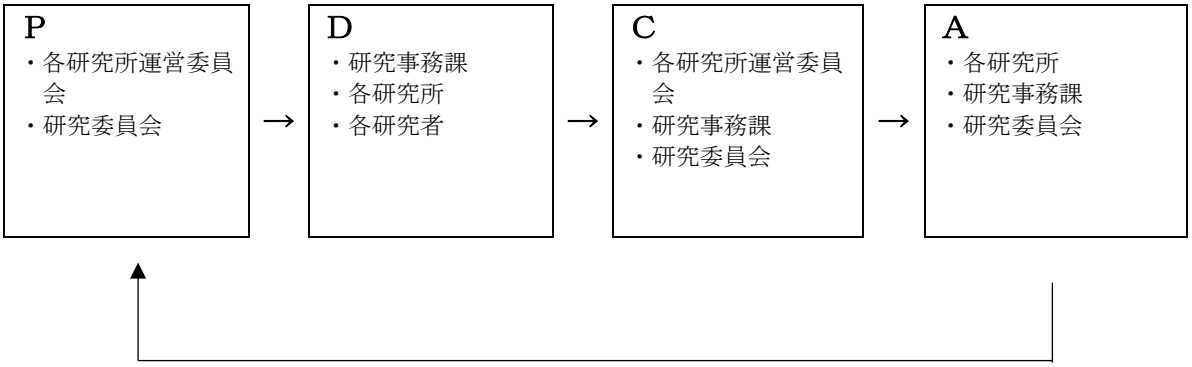
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【図書館】

計画，実行については，執行部，図書委員会が中心となり，図書館利用促進，電子資料，図書の充実等を進めている。特に利用促進については，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，日本大学図書館生物資源科学部分館の魅力を周知している。ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。また，閑散期においても，各専攻院生が平均して利用している。その利用者数を月ごとに集計し，図書委員会で報告し評価している。図書の充実については，専攻主任に最新の推薦本を紹介してもらい，所蔵本の改善を進めている。

図書館利用促進のために，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，生物資源科学部分館の魅力を周知している。その結果，ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

学部独自の研究費については，その予算配分方法について研究委員会で検討し，各研究者に配分する。各研究者の実績報告や使用上の意見等を基に，研究事務課及び研究委員会で次年度に向けた改善案を検討・策定し，実行している。その他外部資金の獲得や研究成果の公表等，研究委員会や各研究所運営委員会で企画したイベントに参加した研究者の意見を，各研究所や研究委員会及び研究事務課で検討し，次年度の実施案に反映している。

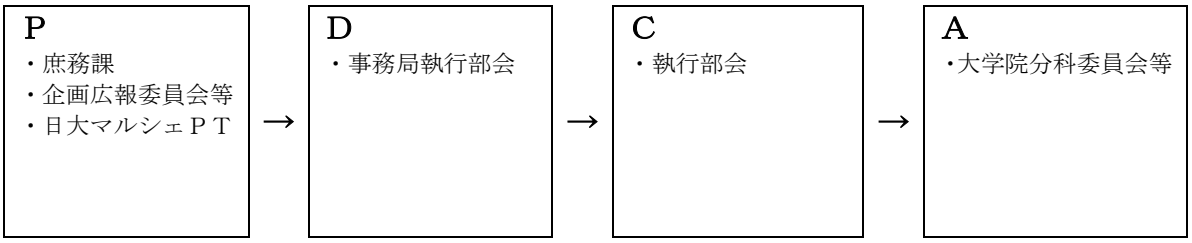
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

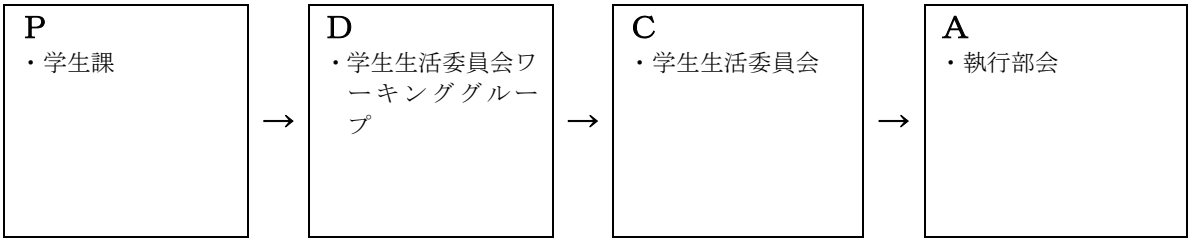
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

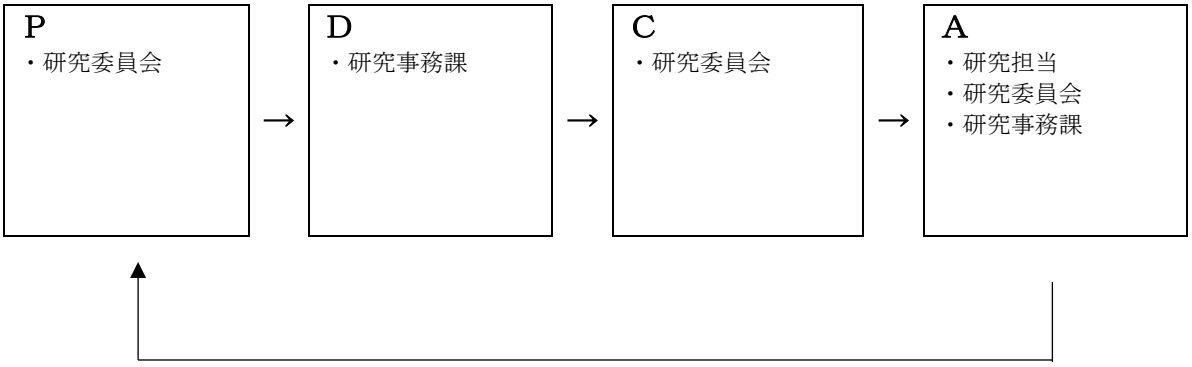
【庶務】



【学生】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】
社会連携・社会貢献に関わる事項としては，日大マルシェＰＴ，庶務課及び企画広報委員会等で立案した企画について事務局執行部等が点検・評価をしている。事例としては，学部特産品の販売や研究室協力型のワークショップを兼ねた日大マルシェの実施等が挙げられる。今後は，各種委員会等で企画された内容を生物資源科学部内部質保証推進委員会でも共有し，学部全体として連携しながら取り組むことで，より高い相乗効果が期待できる組織作りを目指す。

【学生】
行政等からの依頼に対し，学生団体（学部祭実行委員会，学生団体連盟など）から地域貢献（ボランティア活動）の一環として，学生派遣を行っている。ただし，点検・評価（検討・検証）の実施はしていない。

【研究事務】
社会連携・社会貢献については，研究委員会を中心に社会連携・社会貢献の度合い等を検証している。毎年，藤沢市と連携し市民講座を開講しているが，受講者のアンケートを参考に，市民のニーズに応えるとともに，また一般市民や中高生に大学の研究成果を分かりやすく発表できるよう検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

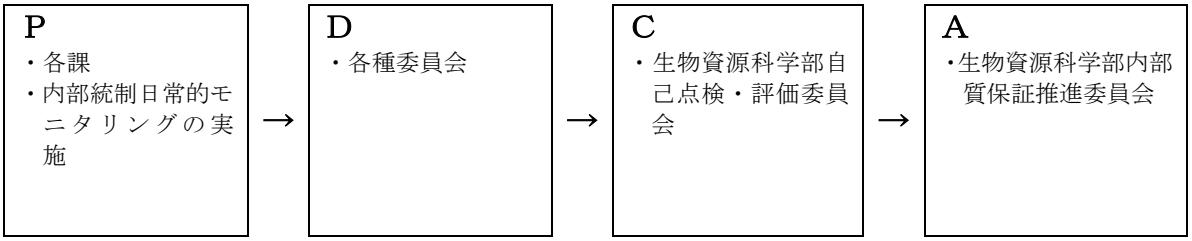
令和７年度全学自己点検・評価報告書

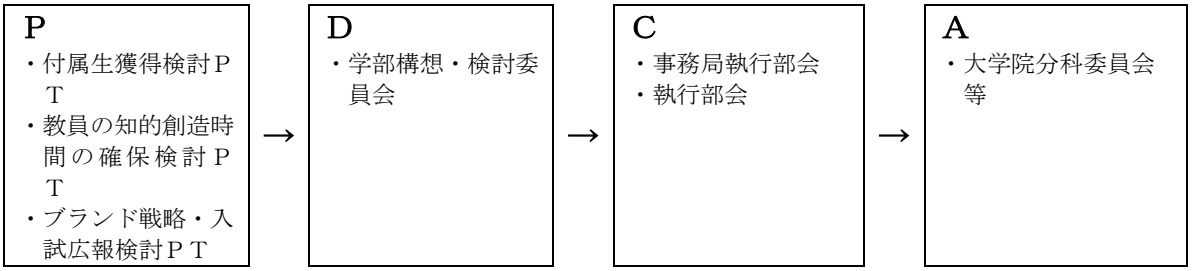
学部等名　　大学院獣医学研究科

基準２ 内部質保証

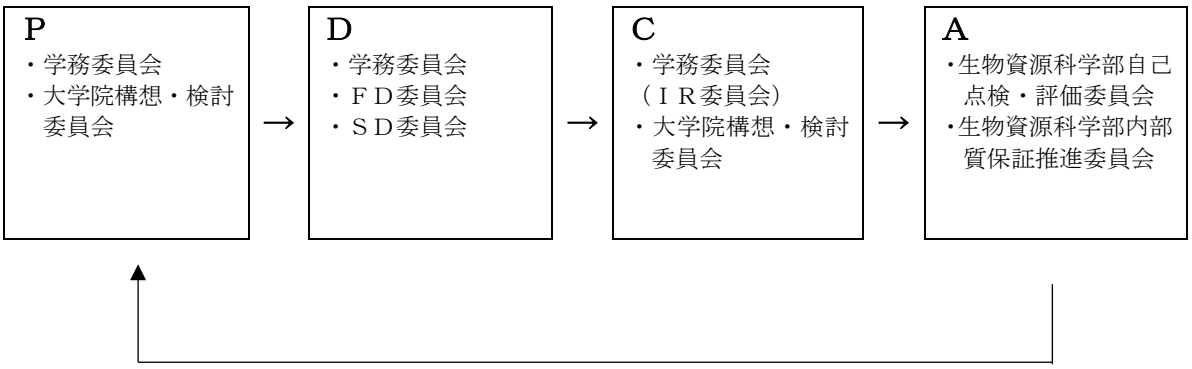
１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。

【庶務】





【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等につ

いて記述してください。

【庶務】
点検・評価については，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，ＩＲ委員会，ＦＤ委員会，ＳＤ委員会及び生物資源科学部自己点検・評価委員会等が生物資源科学部内部質保証推進委員会と連携することで，各研修でのテーマを提供する等して内部質保証体制を構築している。
改善・向上を図った事例としては，内部統制の日常的モニタリング「推進単位内項目／全課共通項目（教務課）」にもあるとおり，教育の質を保証する仕組みの一環であるＦＤ研修において毎年講演内容を変更することで全教職員の 100%受講を達成した。
内部質保証については，現状，各課のＰＤＣＡサイクルに全体的な統一性が見られないことから，内部質保証体制をより盤石なものとするため，各課及び各種委員会等の役割及びＰＤＣＡサイクルの本質を再検証しながら，課題となる点を抽出し，生物資源科学部内部質保証推進委員会において今後検討及び改善していく予定である。

【教務】
＜点検・評価（検討・検証）＞
内部質保証システムは，生物資源科学部内部質保証推進委員会の下，学務委員会等が密接に連携し，体制を構築している。本研究科では，実務を担う委員会と評価組織の役割を明確に分担している。
具体的な運用プロセスとしては，まず学務委員会及び大学院構想・検討委員会において，研究科の教育方針や改善計画を策定（Ｐ）する。これに基づき，学務委員会が必要に応じてＦＤ・ＳＤ委員会等と連携して施策を実施（Ｄ）する。その後，学務委員会や大学院構想・検討委員会が，教学データを用いて点検・検証（Ｃ）を行い，必要に応じてＩＲ委員会と連携し，結果を補完する。これらの検証結果は生物資源科学部自己点検・評価委員会による評価を経て，最終的に生物資源科学部内部質保証推進委員会へ報告・承認（Ａ）することで，組織的な質保証サイクルを完結させている。
＜改善・向上を図った事例＞
安全配慮の観点から庶務課が起点となり，夜間の施設利用申請（午後９時以降）の仕組みを導入した。学務委員会においても，本運用が研究活動を支援するものであるとの認識を継承し，組織運営を行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，教育課程の編成の基本的な考え方が示されていないとの提言が付されている。したがって，内部質保証体制を機能させ，規定の体制の下，教育課程の体系的な編成方針を明確にするよう，改善が求められる。

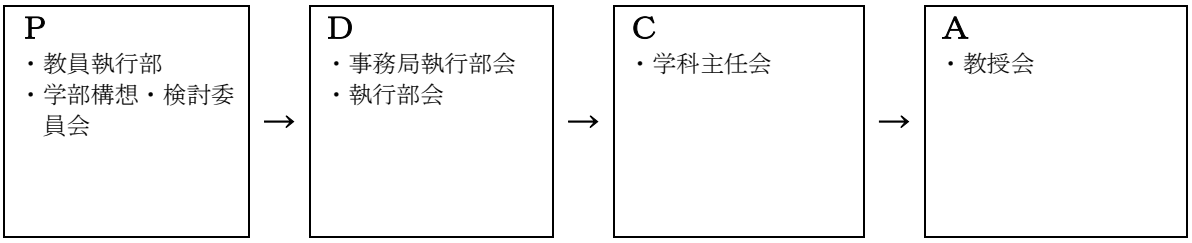
【教務】
獣医学研究科博士課程の教育課程編成において，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる人材像達成への明確な基本理念と体系的な論理が示されていないとの指摘を受けた。対応に際しては，令和９年度の獣医保健看護学専攻の博士前期課程の新設を優先課題としつつ，その修了生の令和 11 年度以降の博士課程進学も見据えていることから，獣医学研究科博士課程

の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の再検討・完了時期を令和 10 年度とする。この時期までに，大学院分科委員会において編成の基本理念と体系的な科目配置の論理を策定し，教育課程の体系性を確立する。

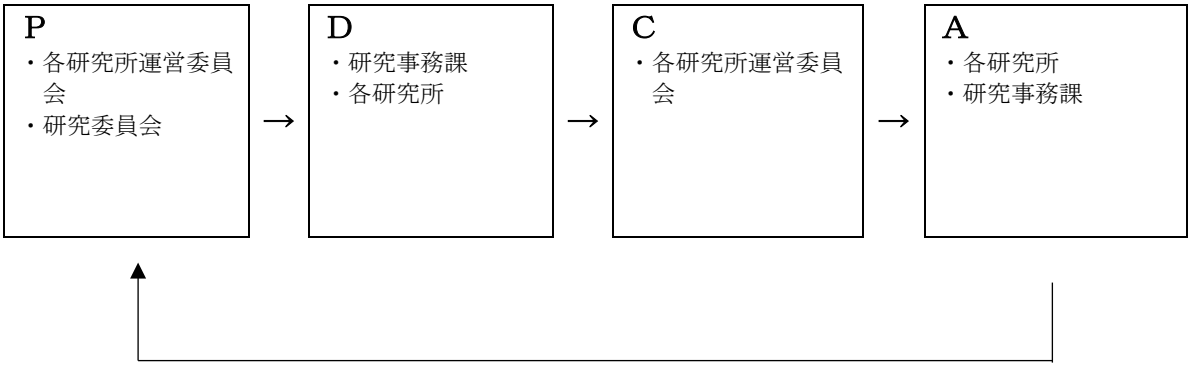
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



【研究事務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教育組織については，大学院設置基準やＳＴ比の標準化を踏まえた上で，教員執行部及び学部構想・検討委員会が中心となり，学部の今後のカリキュラム編成や組織再編に向けてのプロセスを検討している。

【研究事務】

各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営

委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。

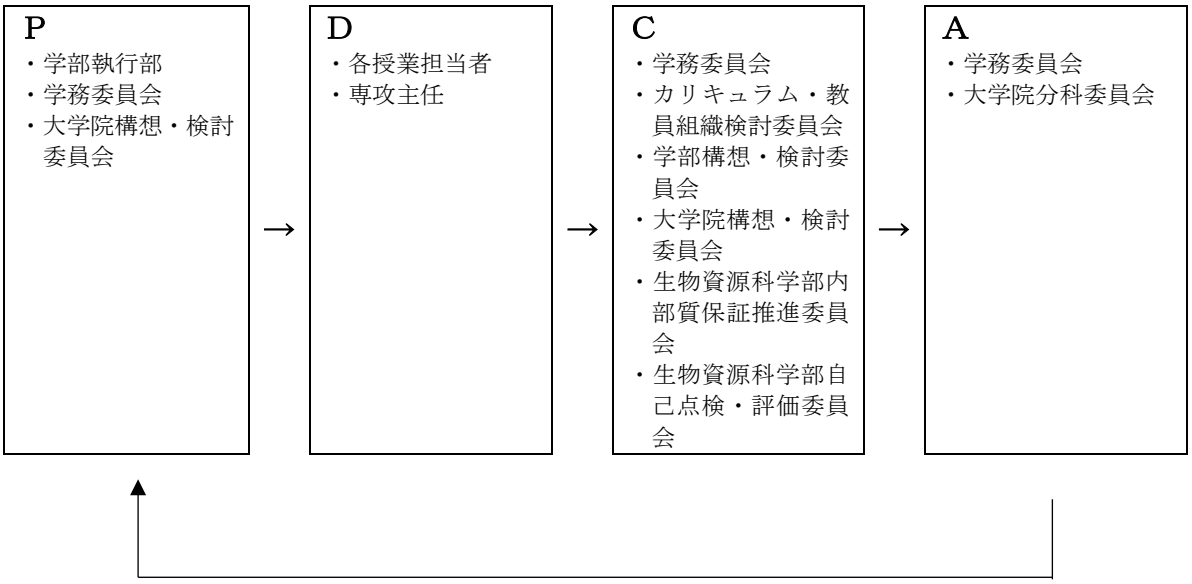
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

【教務】

＜基準・周期＞

教育方法については毎年度実施する。教育課程については，平成 12 年度からカリキュラムの骨子は大きく変更されずに現在に至っているが，令和９年度の獣医保健看護学専攻の新設に合わせて，大学院・構想検討委員会が中心となり，カリキュラム改正の検討に着手する。

＜体制・プロセス＞

執行部，学務委員会，カリキュラム・教員組織検討委員会，学部構想検討委員会及び大学院構想・検討委員会の各種検討委員会が中心となりＰＤＣＡを主導する。生物資源科学部内部質保証推進委員会へは，毎年の自己点検・結果等の状況報告を行うことで連関する。

＜方法＞

履修人数が小規模な科目を除き，授業評価アンケートを年２回実施し，その結果に基づき各教員が日々の授業改善に努める。

具体的な運用は，学部執行部、学務委員会、大学院構想・検討委員会による基本計画の策定（Ｐ）に基づき，各授業担当者の実践及び専攻主任による実務検討（Ｄ）を行う体制としている。実施状況については，学務委員会や大学院構想・検討委員会等の各委員会が，教学データ等を用いて多角的に点検・評価（Ｃ）を行う。その結果は，学務委員会及び大学院分科委員会での審議・承認（Ａ）を経て組織的に決定・反映される。この一連のサイクルにより，令和９年度の新専攻設置に伴う改正など，教育の質の継続的な向上を担保する。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜活用と改善事例＞

教育方法の改善として，毎年度実施する授業評価アンケートの結果を各教員にフィードバックし，各教員が次年度の講義で改善点を反映させることで，日々の教育の質向上に活用している。また，教育課程の改善として，次期カリキュラム改正に備え，大学院構想・検討委員会等の各種検討委員会が設置されており，これまでに共有された授業アンケートデータや情報を背景情報として，議論の創出につなげている。

組織的な改善については，教務課が取りまとめた自己点検・評価の結果（Ｃ）を，学務委員会や大学院構想・検討委員会等の関係委員会へ共有し，活用する体制を整備している。

現時点において，特筆すべき具体的な改善指摘事項はないものの，今後，自己点検において課題が抽出された際には，大学院構想・検討委員会等が主体となって改善案を策定（Ｐ）し，学務委員会及び大学院分科委員会での審議・承認（Ａ）を経て，速やかに教育課程等へ反映させる運用プロセスを確立する。なお，学務委員会や大学院構想・検討委員会等が自ら点検（Ｃ）した結果に基づき，改善を起案（Ｐ）し，上位組織の承認（Ａ）を得る質保証のルートを機能させることで，研究科独自の教育改善を継続的に推進していく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「獣医学研究科博士課程では，編成に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

【教務】

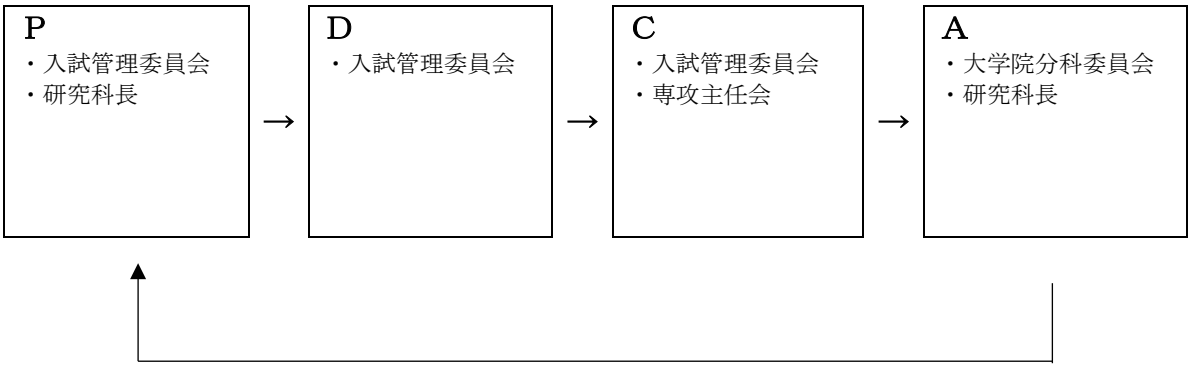
獣医学研究科博士課程の教育課程編成において，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる人材像達成への明確な基本理念と体系的な論理が示されていないとの指摘を受けた。対応に際しては，令和９年度の獣医保健看護学専攻の博士前期課程の新設を優先課題としつつ，その修了生の令和 11 年度以降の博士課程進学も見据えていることから，獣医学研究科博士課程の教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の再検討・完了時期を令和 10 年度とする。この時期までに大学院分科委員会において編成の基本理念と体系的な科目配置の論理を策

定し，教育課程の体系性を確立する。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【教務】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

学生の受け入れに関わる事項の検証は，入試管理委員会が主導する。委員会は，前年度の受験者数・入学者数等の動向や大手進学塾の分析結果を参照し，現状把握と入学者選抜制度の適合性を分析する。この検証結果に基づき，大学院分科委員会の審議を経て研究科長が次年度の制度改定を決定する。

＜改善・向上を図った事例＞

定員増加に向けた誘致策の一環として，大学院説明会を年２回開催し，学部生への働き掛けを強化している。今年度は特に，現役大学院生を招き，実際の研究活動や就職活動・インターンシップ等のキャリア形成事例を紹介するプレゼンテーションを実施し，大学院進学の具体的なメリットを明確化した。

＜今後の対応＞

現在の体制では，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘があるため，今後，入試管理委員会での検証結果を同委員会へ定期的に報告する体制の構築を図る。

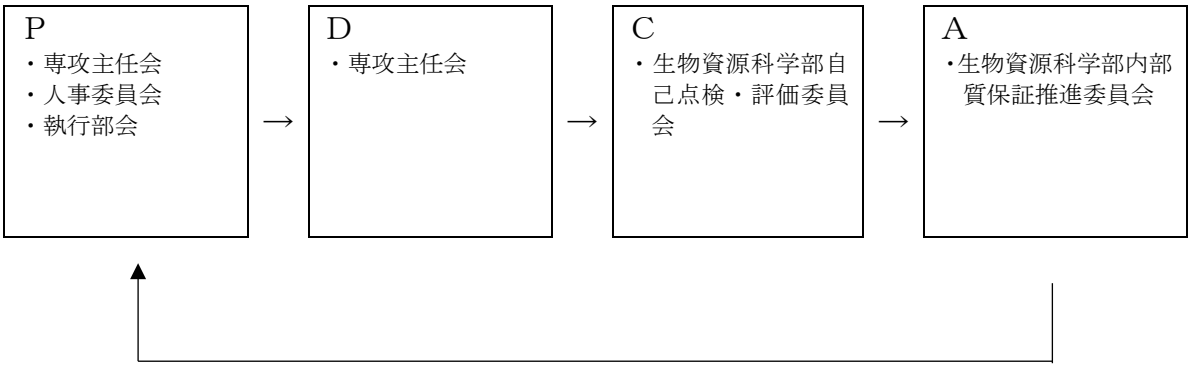
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

1　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【庶務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】

教員の配置については，「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」及び「教員配置及び教員配置数の上限」を基に，人事委員会にて，点検・評価を行っている。

令和７年度より，大学院研究科担当教員の教育・研究実績等評価体制を整備し，評価を実践する計画である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

記述上は教職の役割分担と責任の所在が理念的に示されているものの，実際の運用における具体的な成果や改善事例の提示が乏しい点が課題であり，改善が求められる。年齢構成の偏りに対する対応として，具体的な年齢分布の分析や定期的な点検・評価の実施状況，年齢構成に関する中長期的な人事戦略の明文化等については記述が確認できず，今後の改善が求められる。現時点での男女比の具体的な数値や今後の是正に向けた数値目標，又は具体的な改善策につい

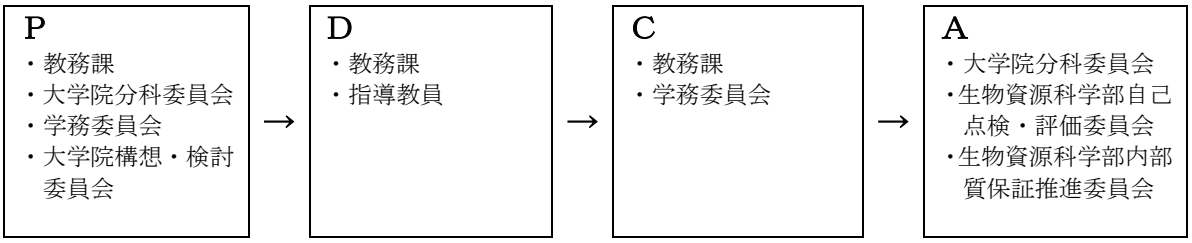
ての記述が確認できなかったため，実効性のある多様性確保の取組が行われているかどうかの確認が困難であり，改善が求められる。

【庶務】
大学院研究科担当教員については，指導資格の有無が重要視されるため，年齢構成の偏りに対する対応及び男女比の具体的な数値目標等については，限られたものになると考えられる。
専攻主任会，人事委員会及び執行部会において横断的に議論を重ねた上，人事委員会により具体的な数値目標及び改善策を策定・協議した後，専攻主任会の審議・決定となる。

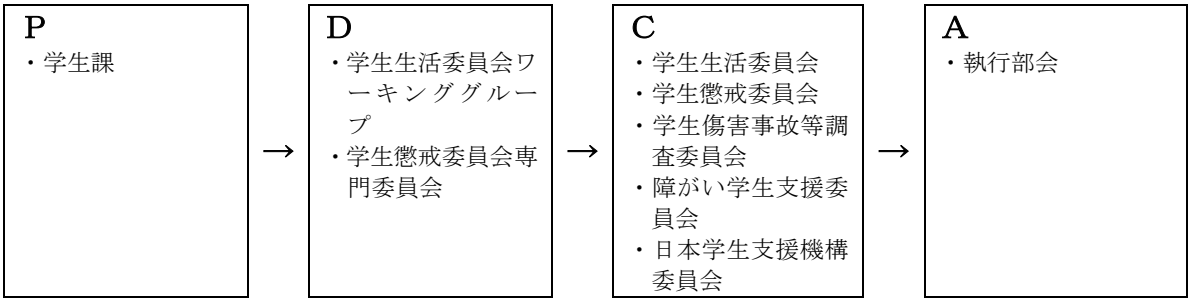
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

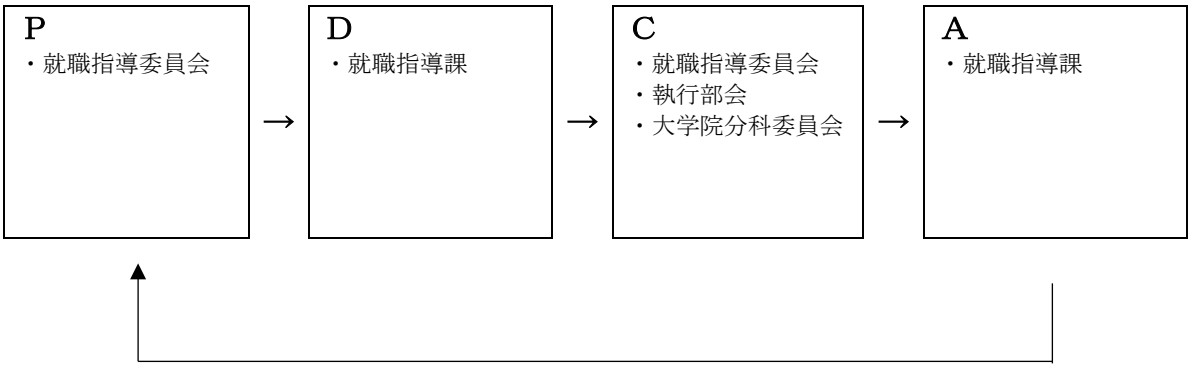
【教務】



【学生】



【就職指導】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【教務】

＜点検・評価（検証）のプロセス＞

教務課は，留年・休学・退学希望者に対し，指導教員作成の「対応記録」や「休学申出者対応シート」を収集・管理し，学生の修学状況を把握している。これらの修学状況の点検結果を基に，教員と事務が連携した指導の質の検証と改善を図っている。

具体的な運用プロセスとして，まずは教務課及び学務委員会が，収集したデータを基に修学支援の有効性を点検・評価（C）している。この結果を受け，教務課，大学院分科委員会，学務委員会及び大学院構想・検討委員会が連携して改善策を立案（P）し，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会への報告・承認（A）を経て組織的に決定される。このサイクルに基づき，教務課や指導教員が具体的な個別支援（D）を実践することで，支援の質の継続的な向上を担保している。

＜改善・向上を図った事例＞

学習継続に困難を抱える学生に対し，指導教員と連携し復学までのロードマップ作成などの個別指導を実施している。

また，本部検証所見で課題とされた自律的学習サポートを改善するため，大学院科目早期履修制度の導入を大学院・構想検討委員会等と連携して検討し，修学指導の質の向上につなげる。

＜今後の対応＞

学生支援に関わる点検・評価について，生物資源科学部内部質保証推進委員会との連関が不明瞭であるとの指摘がある。今後は，学務委員会での検証結果を同委員会へ報告する体制の構築を図る。

【学生】

学生担当を学生生活に関わる支援検討する委員会の長として任命し，学生生活委員会，学生懲戒委員会専門委員会，学生傷害事故等調査委員会，奨学生選考委員会，障がい学生支援委員会及び日本学生支援機構委員会を設置し，各支援の検討や情報共有を行っている。

また，各委員会では，学生生活に係る事案について検討を行っている。学生生活委員会では日々起こる学生生活に関する事案を調査・検討している。学生懲戒委員会専門委員会では学生の本分に反する行為を行った学生に対して教育的な指導含めた処分案などを検討している。学生傷害事故等調査委員会では，正課・課外活動などで起きた事故などの内容に関して精査・検証し再発防止を含めた対策などを検討している。奨学生選考委員会や日本学生支援機構委員会では，奨学金に関する申請・推薦などを報告・協議・審議し，手続が正しく行われているか確認を行っている。

障がい学生支援委員会では月曜日から金曜日までの週５日，本部派遣カウンセラーと学部採用の臨床心理士を毎日２名体制で配置し，増加傾向にある学生相談に対応している。また，学生支援室の他に独立した障がい学生支援窓口を設け，社会福祉士の有資格者や日本大学インテーカーの資格取得者をコーディネーターとして配置し，障がい学生支援業務に当たっており，随時，学生からの相談を傾聴し，教員と連携を図り，可能な配慮を模索している。

また，令和７年度日本大学インテーカーの資格研修に当該資格未取得の専任職員３名が参加し，全学生課員がインテーカー資格を取得し，学生相談の業務に当たっている。また，相談で得た内容を学生課内で共有整理し，しかるべき委員会内に議題提案し，学生生活環境整備などを検討している。

【就職指導】

就職指導委員長を筆頭に就職指導課で近年の就職動向を見据え，学生からのアンケート結果を基に行事日程を作成している。また，支援行事案を就職指導委員会で承認した上で，大学院分科委員会後に決裁を取り決定している（支援行事以外も同様）。また，学生の参加状況をみて

次年度以降の検討を行っている。特に開催時期と内容に鑑みて令和６年度ではインターンシップと業界研究を統合した内容で講座を開催していたが，令和７年度では切り離し業界研究を全３回とし，インターンシップガイダンスは６月までに全５回のガイダンスを開催し，採用と直結するインターンシップ対応及び就職活動の早期化に対応をした。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

大学院生の能力に応じて自律的に学習を進められる支援について，方針を含め検討するよう改善が求められる。

【教務】

大学院生の自律的学習支援として，ＴＡ制度を指導力と論理的思考力を養うアカデミックな機会として活用することを検討する。令和９年度中の方針策定を目指し，大学院生自身の研究遂行能力の涵養を促進する。

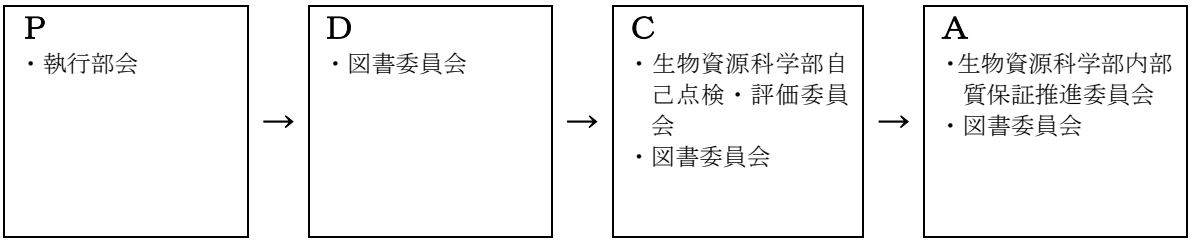
なお，本課題に対する組織的な取組については，まず，教務課，大学院分科委員会，学務委員会及び大学院構想・検討委員会が連携し，自律的学習支援の強化に向けた具体的な方策を策定（Ｐ）する。これに基づき，教務課及び指導教員が，各専攻の特性に応じた学生指導や支援（Ｄ）を実践する。

支援の実施状況については，教務課及び学務委員会が学生の修学データ等を用いて点検・評価（Ｃ）を行う。その検証結果は，大学院分科委員会，生物資源科学部自己点検・評価委員会及び生物資源科学部内部質保証推進委員会への報告・承認（Ａ）を経て，組織的な改善へと反映させる。

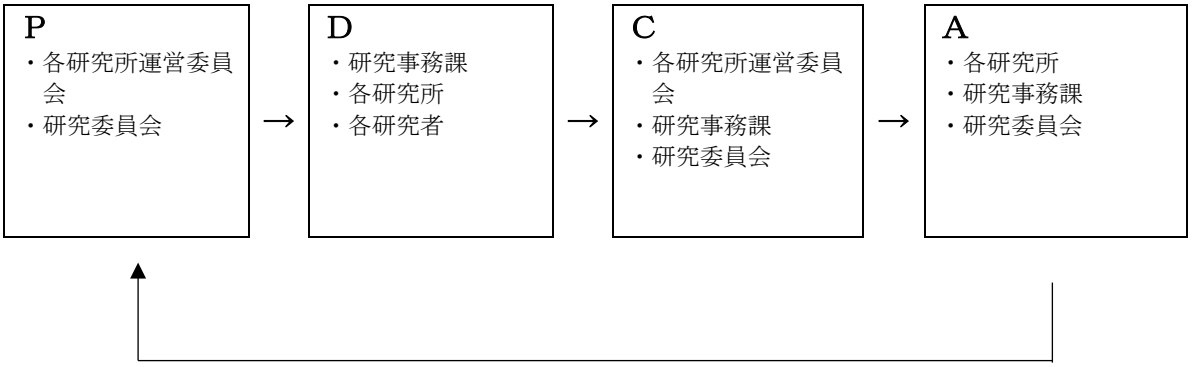
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【図書館】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【図書館】

計画，実行については，執行部，図書委員会が中心となり，図書館利用促進，電子資料，図書の充実等を進めている。特に利用促進については，図書館ホームページに利用案内と動画「図書館ってどんなトコ！？」を掲載し，日本大学図書館生物資源科学部分館の魅力を周知している。ラーニングコモンズ，グループ学習室の利用者が増加している。また，閑散期においても，獣医専攻院生が利用している。その利用者数を月ごとに集計し，図書委員会で報告し評価している。図書の充実については，専攻主任に最新の推薦本を紹介してもらい，所蔵本の改善を進めている。

【研究事務】
各研究所等では，学部研究委員会を中心として研究組織の適切性を検証するとともに，日々の業務については各研究所等の運営委員会で点検・検証に取り組んでいる。 各研究所等の運営委員会による点検・検証の結果を基に大型機器の購入，保守，点検及び修繕等の計画を検討している。総合研究所では，機器のニーズや点検結果等を基に，毎年大型機器の更新・導入に係るロードマップ（中期計画）を見直し，研究所運営委員会及び研究委員会の承認を得て予算化し，研究環境の改善を行っている。
学部独自の研究費については，その予算配分方法について研究委員会で検討し，各研究者に配分する。各研究者の実績報告や使用上の意見等を基に，研究事務課及び研究委員会で次年度に向けた改善案を検討・策定し，実行している。その他外部資金の獲得や研究成果の公表等，研究委員会や各研究所運営委員会で企画したイベントに参加した研究者の意見を，各研究所会や研究委員会及び研究事務課で検討し，次年度の実施案に反映している。

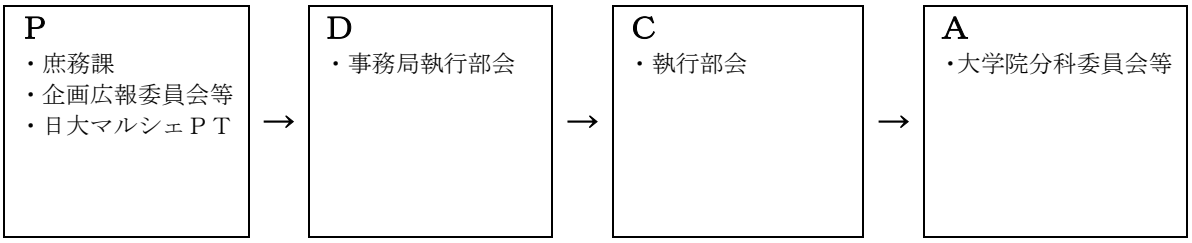
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

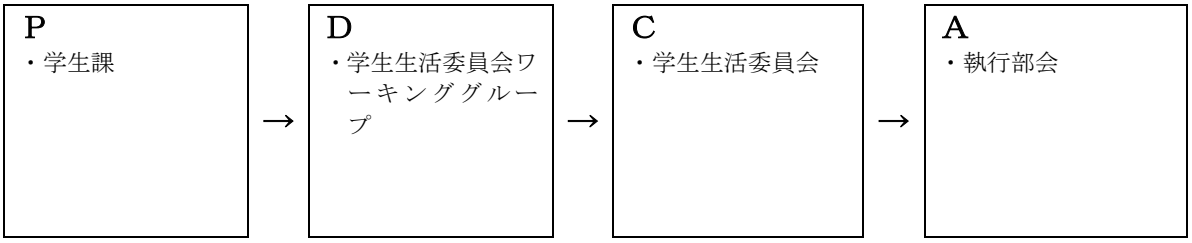
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

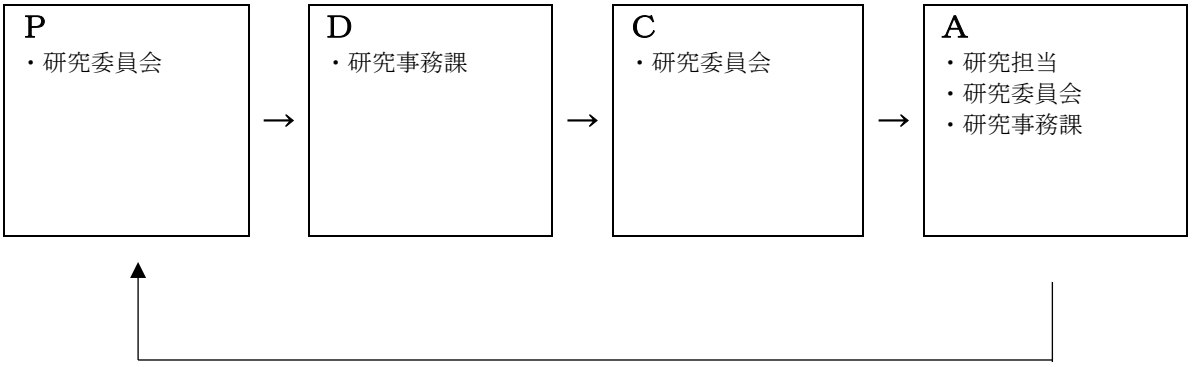
【庶務】



【学生】



【研究事務】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【庶務】
社会連携・社会貢献に関わる事項としては，日大マルシェＰＴ，庶務課及び企画広報委員会等で立案した企画について事務局執行部等が点検・評価をしている。事例としては，学部特産品の販売や研究室協力型のワークショップを兼ねた日大マルシェの実施等が挙げられる。今後は，各種委員会等で企画された内容を生物資源科学部内部質保証推進委員会でも共有し，学部全体として連携しながら取り組むことで，より高い相乗効果が期待できる組織作りを目指す。

【学生】
行政等からの依頼に対し，学生団体（学部祭実行委員会，学生団体連盟など）から地域貢献（ボランティア活動）の一環として，学生派遣を行っている。ただし，点検・評価（検討・検証）の実施はしていない。

【研究事務】
社会連携・社会貢献については，研究委員会を中心に社会連携・社会貢献の度合い等を検証している。毎年，藤沢市と連携し市民講座を開講しているが，受講者のアンケートを参考に，市民のニーズに応えるとともに，また一般市民や中高生に大学の研究成果を分かりやすく発表できるよう検討している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

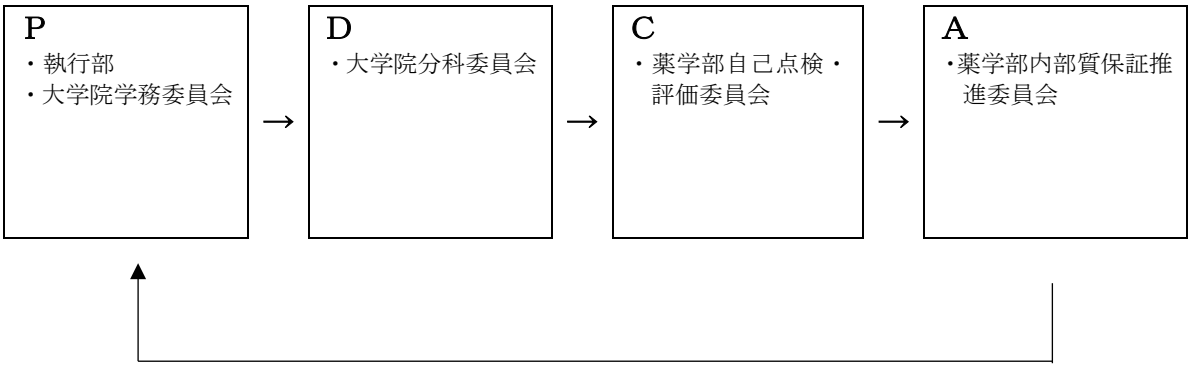
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　薬学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和６年度第１回薬学部内部質保証推進委員会（令和６年 10 月 16 日（水）～10 月 23 日（水）メール開催）において，令和６年度全学自己点検・評価の結果が薬学部自己点検・評価委員会から報告された。薬学研究科においては修業年限内で学位を取得し，修了できるようきめ細やかな指導が求められているため検討を進めるよう，薬学部内部質保証推進委員会委員の学外委員からも意見があった。

大学院学務委員会では，上述の結果及び意見等を受け，研究や学位論文の進捗状況を組織的に点検するための取組として「研究発表会」を令和７年３月 21 日（金）に開催した。令和７年度からは「薬学特別研究」の成績評価に「研究発表会」の評価を加えることで，修業年限内で計画的に研究を進め学位論文を作成できるよう指導している。

これらの大学院学務委員会が所管となり実施する取組は，大学院分科委員会で審議・報告がなされ，その結果は自己点検・評価報告書として薬学部自己点検・評価委員会で報告がなされる。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

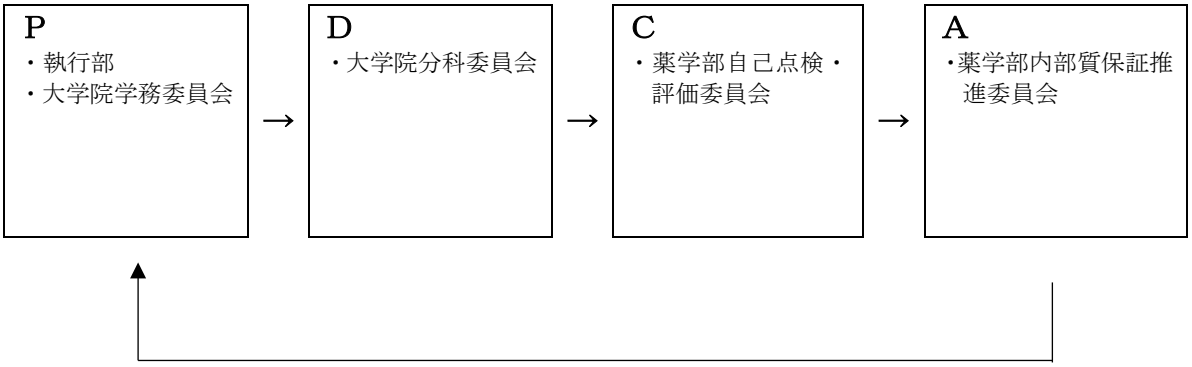
【提言（改善課題）】

日本大学薬学部内部質保証相関図に基づき，内部質保証システムの点検・評価を行う体制を整備しているものの，その仕組みは整えられているものの，実際の運用には至っていないため，整備した内部質保証体制の下，着実に取り組んでいくよう改善が求められる。

大学院学務委員会が所管となり実施している各種取組（入学者選抜，ＦＤ活動，学位授与等）を大学院分科委員会に随時報告を行い，その取組内容，検証結果等を一年に一度の自己点検・評価報告書に記載することで点検・評価を行っている。さらに，その点検・評価に基づき改善を要する事項は薬学部内部質保証推進委員会から執行部へ提言がなされ，優先事項から大学院学務委員会に諮問がなされることで教育の質の向上を図る。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，高度な専門性を有する人材養成及び研究推進の観点から，教育研究組織の適切性について，学問の動向や社会的要請等に対応すべく，薬学部自己点検・評価委員会が，大学院学務委員会や大学院分科委員会から提供される収容定員充足率などの指標に基づき，現行の薬学研究科体制が適切に機能しているかを点検する。点検・評価結果は，薬学部内部質保証推進委員会に報告され，学問の高度化や社会的な研究ニーズの変遷に照らし，組織編制の妥当性について検証を行う。検証の結果，組織改編や定員変更の検討が必要と判断された場合は，執行部と大学院分科委員会において具体的な計画を策定する体制を整える。

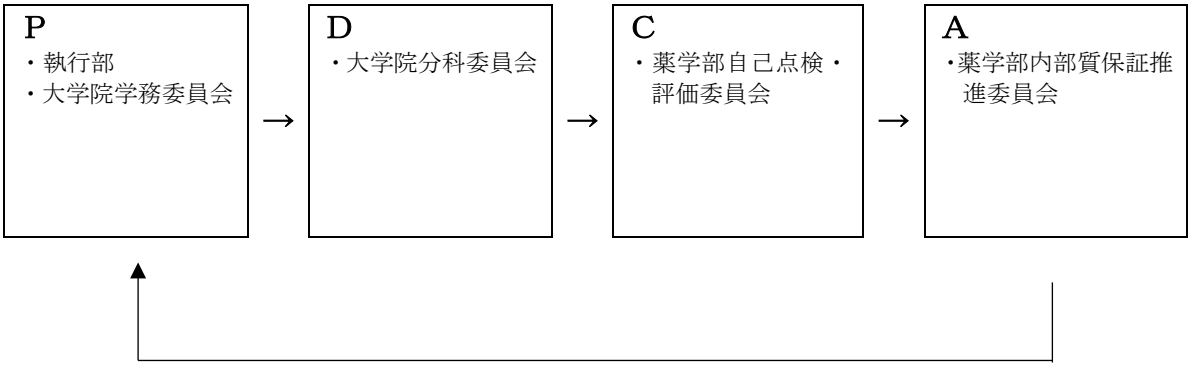
現状において，本研究科は定員充足率が安定に推移していること及び高度な専門知識を持つ薬剤師や研究者に対する社会的な需要が依然として高いことを確認しており，現時点では専攻の新設や改組の必要性はないと判断している。組織の大枠に変更はないものの，内部組織の質的向上を図るため，自己点検・評価の結果を受けた薬学部内部質保証推進委員会の提言に基づき，執行部が中心となって，研究科全体の教育研究活動の活性化及び学位取得に向けた研究環境の充実を図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育方法等に関する検証は大学院学務委員会が所管となり，大学院分科委員会にその結果を報告しているが，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会での定期的な検証には至っていない。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

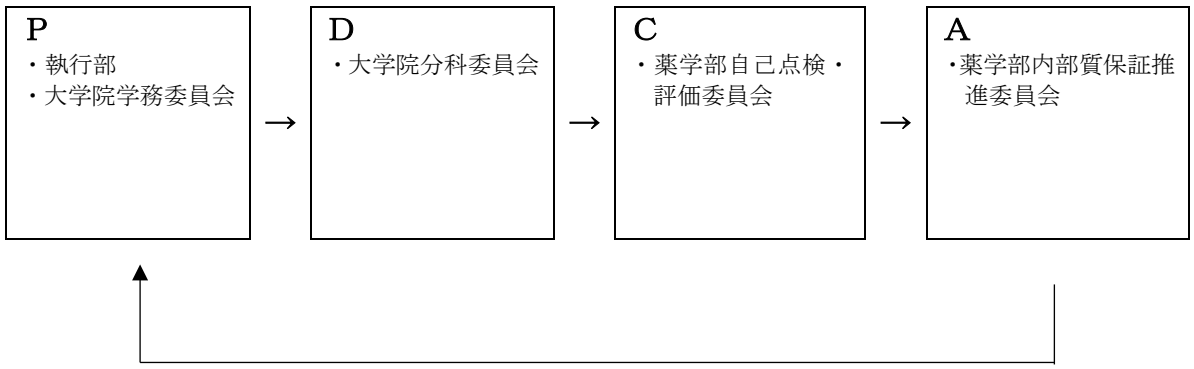
薬学研究科における講義科目のうち，令和６年度は２科目，令和７年度は４科目をオンライン開講とした。オンライン開講については「学生による授業評価アンケート」で履修者から要望があった事項であるが，大学院学務委員会として各科目の特性を考慮し授業方法を検討した結果である。今後も大学院学務委員会の各種取組の中で，大学院生の意見も取り入れ，教育内容・教育方法の改善・向上を図る。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき，適切かつ公正な入学者選抜を実施するため，以下の枠組みで定期的な点検・評価を行っている。点検・評価の基準は，過去の志願者数・受験者数・合格者数・入学者数，学生による授業評価及び社会人学生のニーズや受験生の動向などを指標としている。点検の体制とプロセスは，大学院学務委員会が，入試結果や入学後の学修状況等のデータを収集・分析し，入試方法や教育方法の課題を抽出する。大学院学務委員会で具体的な制度設計を行い，大学院分科委員会での審議を経て，新たな入試施策を決定・実施する。

入学者選抜の多様化と学修環境の整備を図った具体的な事例は，以下のとおりである。大学院学務委員会において，学士課程における学習歴，学力水準，能力を測る選考方法としてＧＰＡ値，卒業論文発表会の成績評価を重視する「推薦入試」の導入を決定し，令和５年度より実施した。これにより，学部段階から高い学力を有する学生を早期に確保するとともに，受験生の過度な入試負担を軽減し，内部進学の活性化につなげた。なお，導入後の学力や修学状況の点検評価は一年に一度，自己点検・評価報告書に記載することで点検・評価を行っている。さらに，その点検・評価に基づき改善を要する事項は内薬学部部質保証推進委員会から執行部へ提言がなされ，優先事項から大学院学務委員会に諮問がなされることで教育の質の向上を図る。本研究科の理念・目的が，地域医療等の社会ニーズと合致しており，社会人からの志願者が一

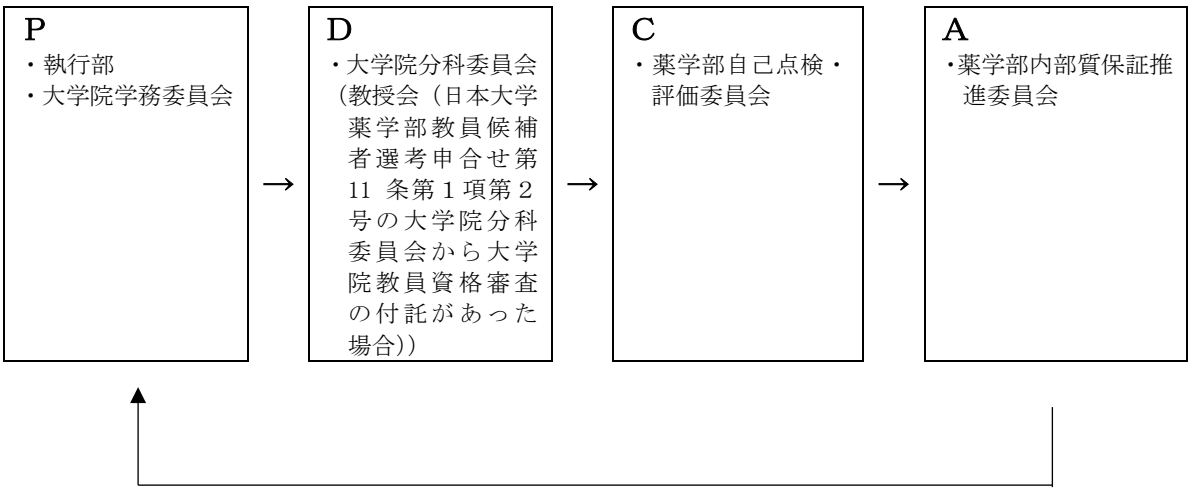
定数存在することを自己点検・評価により再確認した。これを受け，社会人学生の就労と学修の両立を支援するため，講義科目へのオンライン開講を組織的に導入した。この結果，社会人学生の受入れが促進され，多様な背景を持つ学生の確保に寄与している。これらの組織的な取組の結果，令和２年度以降，収容定員を安定的に充足しており，本研究科の教育・研究体制は社会的に高く評価されていると判断している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科では，高度な教育研究活動を永続的に推進するため，「学部等教員組織編制方針」に基づき，以下の体制で教員組織の点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，「教員組織編制方針」への適合性を主軸とし，教員の年齢構成・職位構成のバランス及び男女比等を客観的な指標としている。教育研究活動の実施に必要な教員組織の編成方針として「学部等教員組織編制方針」（令和３年 10 月制定）を定め，研究科長及び執行部がジェンダーや年齢の偏りにも配慮した教員配置計画を作成している。策定した計画に基づき，適切な教員の配置を行っている。薬学部自己点検・評価委員会は，専任教員の数，専任教員の年齢構成及び男女構成，専任教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）や採用・昇格実績に基づき，組織の適切性を点検・評価し，課題を抽出する。薬学部内部質保証推進委員会が点検・評価結果を検証し，次期教員配置計画や公募方針等について執行部へ改善の提言を行うことで改善・向上に努めている。さらに，定期的に一般社団法人薬学評価機構による分野別評価（第三者評価）を受審し，外部からの視点から組織の質保証について検証・改善を図る体制を構築している。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ＴＡに対する体系的な研修が実施されていないことから，教育支援者としての基礎的な能力や倫理的配慮等を学ぶ機会が限定されており，教育の質の担保や学生支援の効果という観点では課題であり，改善が求められる。

公募以外の選考（推薦・招へい・昇格）においては，選考理由や基準の透明性及び選考過程の公正性をどのように担保するかが今後の課題であり，改善が求められる。

年齢構成の偏りに対する配慮は記述されているものの，具体的な年齢分布の把握状況や偏りを是正するための数値的目標・分析に基づく改善施策については言及がなく，今後の課題であり，改善が求められる。

実際の男女比の現状や過去の採用における具体的な対応実績，又は今後の改善方針についての記述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不足しているため，課題であり，改善が求められる。

教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われている点は，組織的な評価体制の構築に向けた第一歩として期待できる。しかし，現時点では具体的な評価方法や基準が確立されておらず，教育活動・研究活動・社会活動等の活性化に直結する仕組みとしては十分に機能していないため，改善が求められる。

令和７年度から，大学院生に対するＦＤ活動の一環として，大学院学務委員会所管の下，ＴＡの事前研修として「授業補助業務実施に当たっての日本大学の教育について」の動画視聴及び「ＦＤガイドブック」の確認を実施し，教育支援者としての能力向上を図った。

教員の採用及び昇任は，「日本大学薬学部教員資格審査基準」及び「日本大学薬学部教員候補者選考申合せ」に基づき行われている。研究実績，専門知識，教育能力等を多面的に審査した後，人事教授会構成員の投票により厳正に選出されている。教授，准教授，講師及び助教の人数のバランスに著しい偏りは見られず，教育研究活動を支える体制が構築されている。准教授以上の採用・昇格に当たっては，選考委員会を設置し，「日本大学薬学部教員資格審査基準」により定められた各分野における審査基準に基づき書類審査を行い，教授会においてプレゼンテーションを実施し，選考結果を報告した上で投票により決定していることから公募以外の選考方法においても，透明性及び公平性は保たれていると考える。

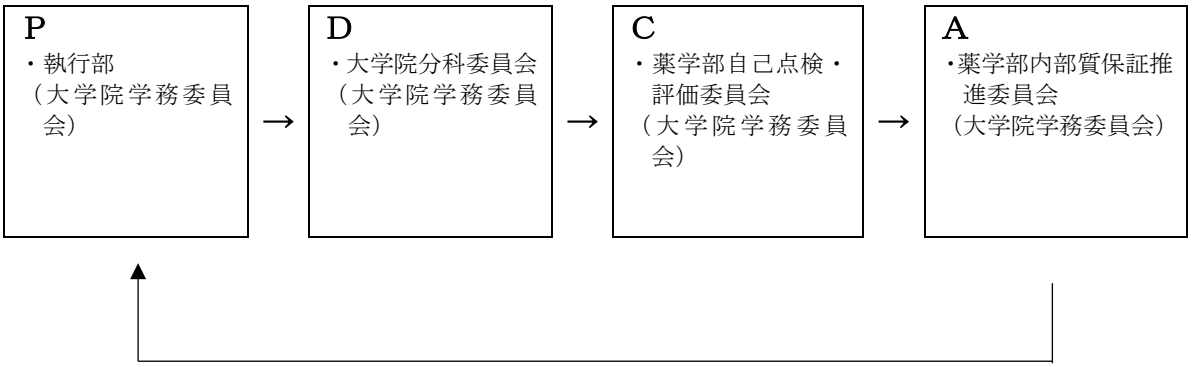
教員の年齢構成については，偏りに配慮した教員配置計画に基づき実施していることからほぼ均衡している。女性教員数の割合は教員全体で 20.6％であり，特に教授職では 7.1％にとどまっているが，女性教員の絶対数が少ないこともあり難しい課題ではあるが，執行部，教授会，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会が連携し，現状を検証することで，改善に努めたい。

教育活動・研究活動・社会活動等の活性化を促す目的で，教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われ，学部長へと提言した。その後，学部長より改めて，より具体的な評価案の検討が求められており，関係各委員会との情報共有によりその検討を行っている。

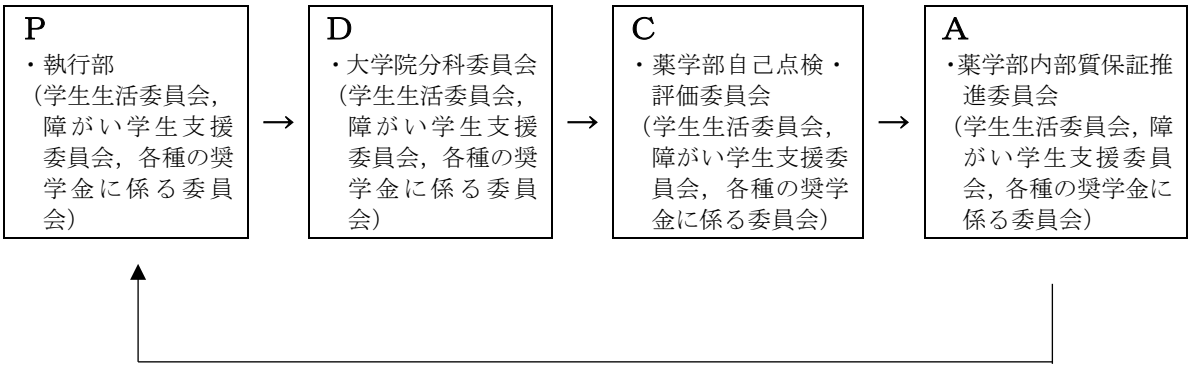
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

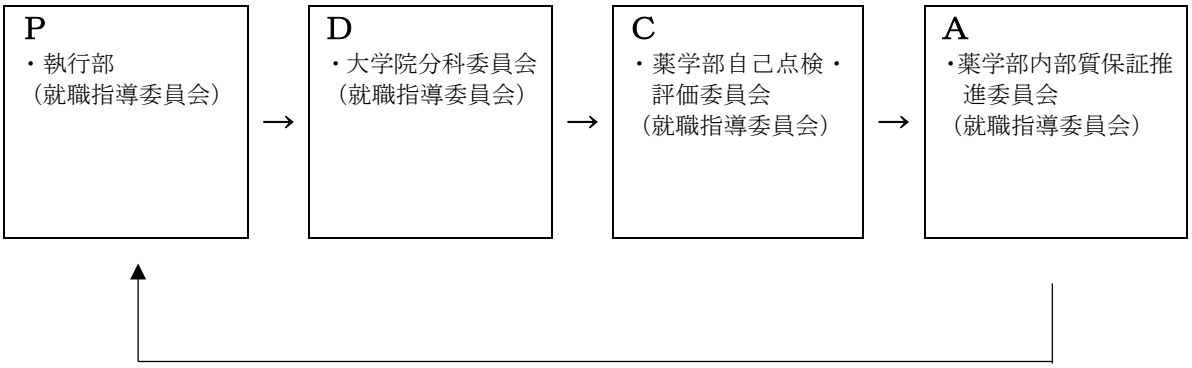
【学習面】



【生活面・経済面】



【進路面】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項については，学習面では大学院学務委員会，生活面・経済面については基本的には総じて学生生活委員会（障がい学生に係る場合は障がい学生支援委員会，奨学金に係る場合は，各種の奨学金に係る委員会），進路面については就職指導委員会が日常的な運用と課題の把握を担っている。大学院における学生支援全体の適切性については，これらの各委員会による検討・検証結果に基づき，総括的に大学院分科委員会を通じて薬学部自己点検・評価委員会が点検・評価し，その結果を薬学部内部質保証推進委員会が検証し，必要な改善を執行部へ提言する体制の構築を進めていく。

改善・向上を図った事例では，学生の意見箱による学習面，生活面・経済面及び進路面など多岐にわたる学生の意見を受けて，学生生活委員会で対応等を検討し，学生支援環境を恒常的に改善できるようにしている。

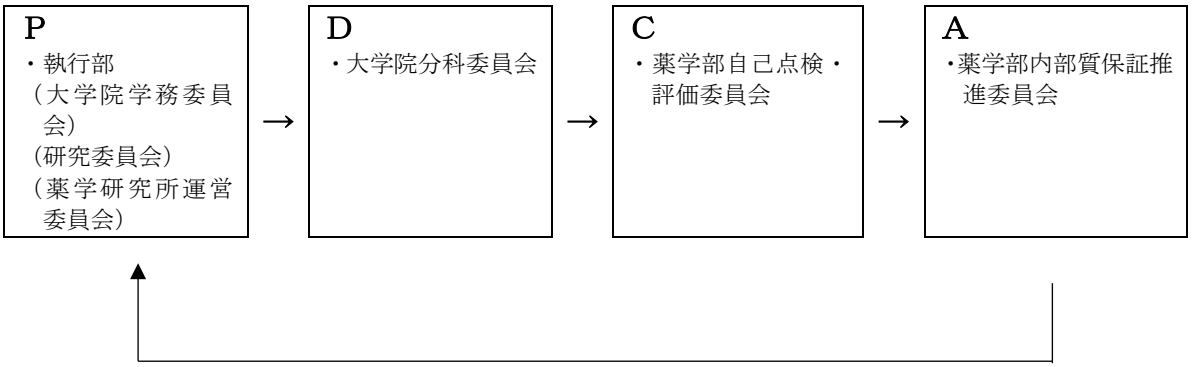
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

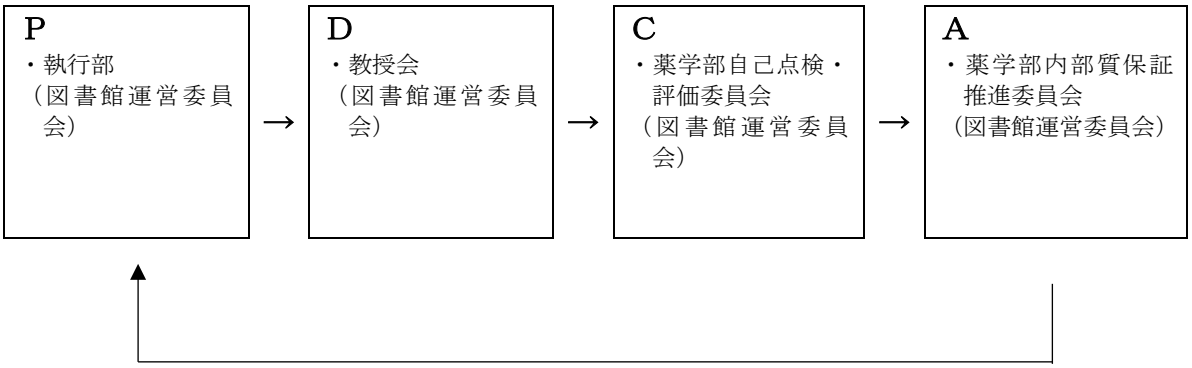
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【施設・設備】



【図書】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩4　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究活動を支える施設・設備，図書等の適切性について，薬学部では以下の枠組みにより定期的な点検・評価を実施している。点検・評価の基準は「研究設備・機器の稼働率及び老朽化状況」「図書資料の充足率」等の客観的指標に加え，利用者アンケート等による利便性の評価を基準としている。点検の体制は，研究委員会，薬学研究所運営委員会及び図書運営委員会が各担当分野の点検を行い，その結果を薬学部自己点検・評価委員会が総括する。各委員会が

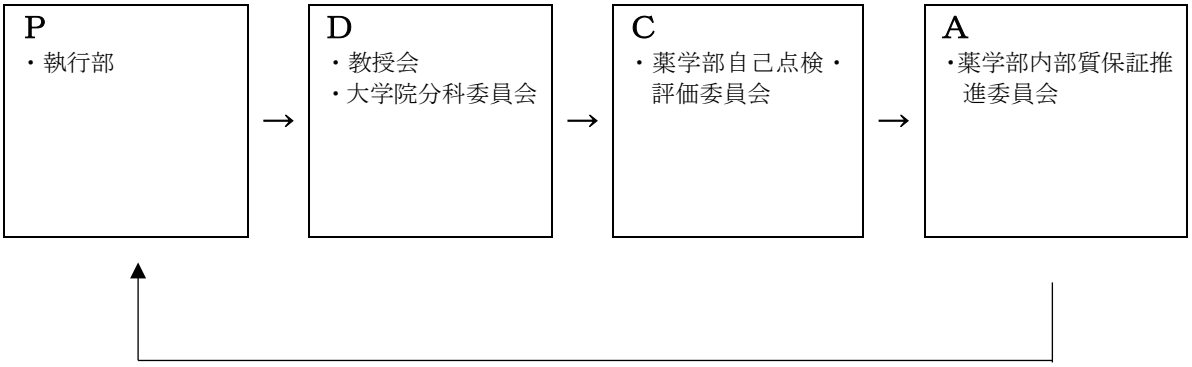
作成した点検結果に基づき，薬学部自己点検・評価委員会が現状と課題を整理した「自己点検・評価報告書」を作成する。これを受け，薬学部内部質保証推進委員会が内容を検証し，改善が必要な事項を執行部に提言する。執行部（各委員会）は，これに基づき次年度の整備計画を策定する。上記枠組みに基づき，研究環境の改善を図った事例として，令和５年度に実施した共同利用研究機器の再整備が挙げられる。令和５年度，研究委員会において，共同利用研究機器の利用状況に関する再調査を実施し，利便性を加味した配置換え及び廃棄を決定，大学院分科委員会での承認を受け整理を実施した。また，研究施設に関しては，高性能な研究装置等を備えた分子薬学研究センター（７号館）における共同利用実験室の利用について，令和６年度から保安・安全を加味した利便性向上のため，研究委員会及び薬学研究所運営委員会が主体となって対応を検討し，大学院分科委員会における承認の上，一部，開放型の実験室管理及び利用者を限定した開錠管理型の電子錠システム導入に至った。引き続き，今後必要とされる機器の更新や研究施設の利便性向上について，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会との情報共有により，検討及び検証を行い，研究時間の確保や最新の研究活動を維持するよう図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本研究科の社会連携・社会貢献として，地域住民の健康支援を目的とした公開講座を年１回，本学部において開催している。令和７年度の参加者は，41 名（令和７年 10 月 26 日（日）開催）であった。また，薬草を通して薬への関心を深めることを目的とした薬草教室を年２回開催し，外部講師による講演会と併せて薬用植物園の一般公開を行っている。令和７年度の実績は延べ 170 名（第１回[令和７年５月 10 日（土）開催]40 名，第２回[令和７年 10 月 26 日（日）開催]130 名）であった。

このほか，船橋市と共同して地域住民の健康維持・向上を図る講演会を実施している。また，小・中学生を対象とした科学実験教室を船橋市内で開催し，理科教育への興味喚起と将来の科学者育成に寄与している。

これらの取組は，主として広報委員会が中心となって企画し，演題や開催場所，日程等を検討している。企画ごとに参加人数の推移や参加者属性，参加者アンケート結果などを分析し，次年度以降の内容や広報方法の見直しにつなげることで，継続的な改善・向上を図っている。これらの結果は，教授会に報告され，企画の妥当性や社会的効果について検証が行われている。また，地域への継続的な貢献として，学校薬剤師を務める教員が９名おり，学校環境衛生の維持・向上に加えて，オーバードーズの危険性など薬の適正使用に関する講話も行うことで，児童・生徒及び保護者への啓発に貢献している。

現役の薬剤師に対する貢献としては,「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」を本学部で開催し，会場の提供に加えてタスクフォースとして教員を派遣している。これらは，千葉県薬剤師会，千葉県病院薬剤師会及び関東地区調整機構との共同開催であり，過去３年間では，実務実習指導薬剤師養成ワークショップを令和３年度及び令和６年度に，アドバンストワークショップを令和５年度に本学部で開催し，それぞれ２名の教員をタスクフォースとして派遣することで，実務実習教育の充実に寄与している。

一方，日本大学薬学生涯教育講座は，地域医療を担う薬剤師の質保証向上を目的として，薬剤師認定制度認証機構の生涯研修プロバイダーの認定を受けて実施している。同講座は５つのプログラムから構成され，一定時間数の受講に応じて認定シールを発行し，認定薬剤師の育成に努めている。これらの取組状況は逐次，生涯教育企画専門委員会に報告され，その後，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会にも情報共有されている。令和６年度の実績では,「最近のトピック」を年４回開催し延べ 146 名,「ファーマシューティカルケアの最前線」を年４回開催し延べ 60 名,「ブラッシュアップセミナー」を年１回開催し 25 名の参加があった（「薬剤師実践セミナー」は中止,「大学院講義受講コース」への参加はなし)。

これら共有された情報を基に，薬学部自己点検・評価委員会において点検し，薬学部内部質保証推進委員会において本学部が生涯教育のプロバイダーを取得している点は評価できるものの，受講者数及び認定薬剤師の発行数が十分とはいえないと評価を行った。そして，令和６年度の薬学部内部質保証推進委員会において執行部に対し，周知方法等の工夫が必要である旨の提言を行った。

その結果を受け，本学部公式ＳＮＳを活用した開催案内の発信など広報活動の充実を図り，受講者数の増加に向けた改善策を講じている。しかし，令和６年４月～12 月の延べ受講者数が 206 名であったのに対し，令和７年４月から 12 月 10 日現在では 166 名にとどまり，昨年度同時期と比較して約２割の減少となっている。以上のことから，現行の取組のみでは十分とはいえず，生涯教育企画専門委員会において，テーマ設定や開催形態，周知方法等について検討を行う計画を立てている。テーマについては，引き続き薬学的及び医学的ニュースやトピックなど社会的関心の高い内容での開催を行う。また，現在は日曜日の午後開催である「ファーマシューティカルケアの最前線」において，一定期間のオンデマンド配信により視聴確認を実施しながら受講者が受講しやすい時間帯での参加を促す予定である。さらに周知方法について，年度内の開催予定を当該年度の 4 月には公開することにより，参加者が参加予定を立てやすくするなどの工夫を行い，引き続き検討・改善を進めることが課題である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

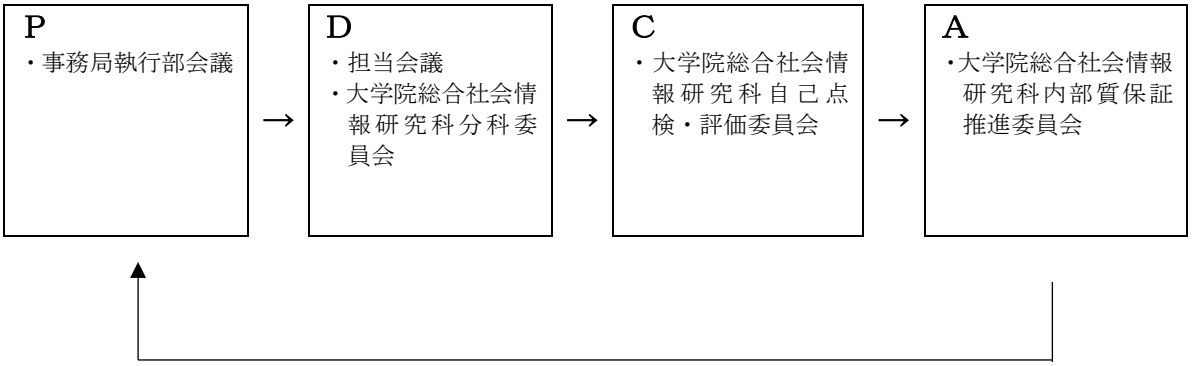
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院総合社会情報研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会を設置し，内部質保証システムの適切性について検証し，改善・向上に取り組むこととしている。さらに，ＦＤ活動で実施内容の共有を行っている。

改善事項に挙げられた「研究指導計画の策定」において，諸会議・委員会にて現状の学位取得までのプロセスを再検証することで，研究指導計画として策定する旨，改善を図った。

大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会と大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会については，現状全学自己点検・評価や認証評価等の改善における協議・審議機関として機能している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組

むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

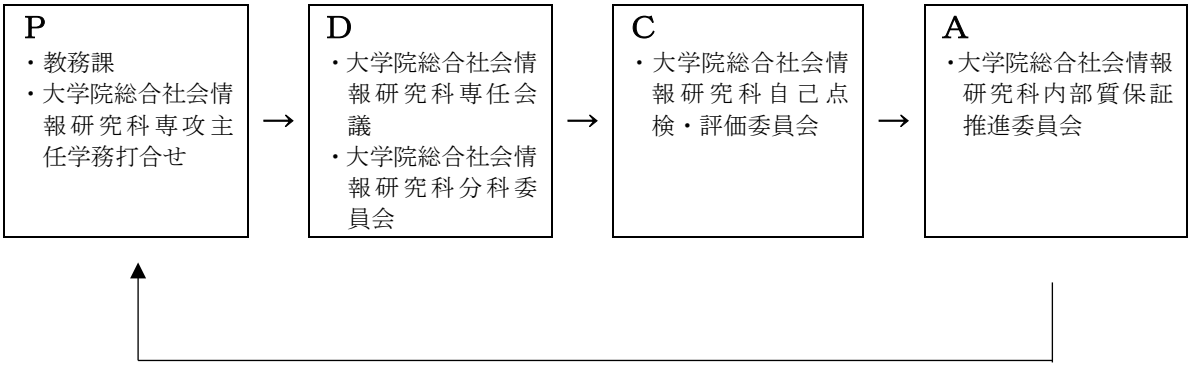
令和６年度大学評価（認証評価）結果基準４において，博士後期課程で教育課程の編成に関する基本的考え方を示していないとの提言が付されている。したがって，内部質保証体制を機能させ，整備した内部質保証体制の下，着実に取り組んでいくよう改善が求められる。

博士後期課程における教育課程の編成に基本的な考え方については，連動する博士前期課程の改組に関する進捗状況を考慮しつつ，大学院総合社会情報研究科分科委員会において令和９年４月１日までの改善を目指している。なお，改善に向けた検討に当たっては基準４と同様，通信教育部教務課より上程し，大学院総合社会情報研究科分科委員会において最終的な審議検討を行うことで内部質保証体制を機能させ，着実な取組を図るよう想定している。

事務局執行部会議及び担当会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会において，協議・審議を行い，改善を行っていくとともに，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会及び大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会で実施した改善の検証に取り組んでいく。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科では，教育研究組織に係る学科の新設や改組等について，教務課及び専攻主任学務打合せで計画を立案，その後必要と考えられた内容については，専任教員会議及び大学院総合社会情報研究科分科委員会で審議を行っている。

その後，必要に応じて大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会や大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会において検証を行い，組織運営の改善・向上に繋げている。

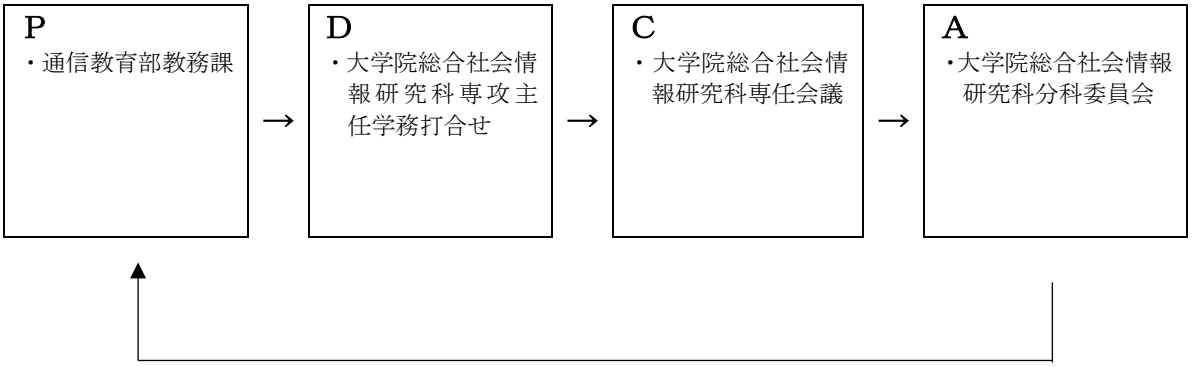
また，実際に大学院総合社会情報研究科分科委員会審議承認の下，博士前期課程において現行の３専攻を１専攻に統合する改組を令和９年度から実施できるよう図っており，現時点で文部科学省への事前相談を行う段階にある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科専攻主任及び教務課による学務打合せ及び専任教員会議等において，日頃から教育課程及びその内容，教育方法等の適切性について検討及び改善等を行っている。点検項目や基準，周期等は，必要に応じて会議等にて判断し，実施できる体制を整えている。また，定量的な評価を得る機会として，年度末に各担当教員へ自身の担当科目に関する自己評価アンケートを実施するとともに，学生に対しても履修科目に関する授業評価アンケートを実施している。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

各専攻主任が中心となり専攻のカリキュラムを検証し，４専攻主任が集まる学務打合せにおいて研究科全体のカリキュラムについて検証している。令和８年度にカリキュラム改正が行われるため，現時点では具体的に修正を必要とする点は生じていないが，定期的に課程単位でのカリキュラム改正を行っており，平成29年，令和２年及び令和５年にその実績がある。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

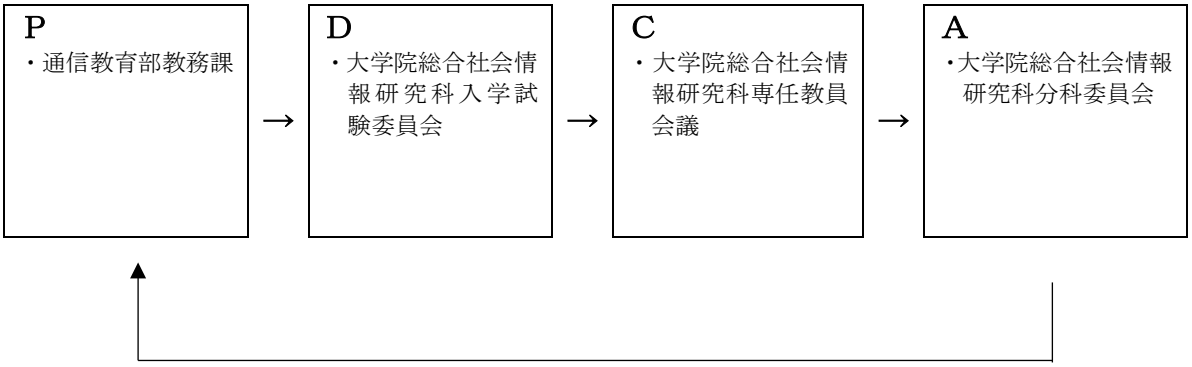
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，総合社会情報研究科博士後期課程では，編成に関する基本的な考え方を示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

基準２―３の記載内容と同様，令和９年４月１日までの改善を目指し，大学院総合社会情報研究科分科委員会において検討を行う予定である。

博士後期課程における教育課程の編成に基本的な考え方については，連動する博士前期課程の改組に関する進捗状況を考慮しつつ教務課及び大学院総合社会情報研究科専攻主任学務打合せで改革原案を作成し，専任教員会議による検討を経た上で，最終的には大学院総合社会情報研究科分科委員会における審議・検討の下，令和９年４月１日までの改善を目指している。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受入れについては，入学試験委員会が管轄し，同委員会内で随時点検・評価を図っている。具体的には入学試験における受験科目について令和９年度より英語を除外し，より円滑な入学試験の実施を図った実例がある。

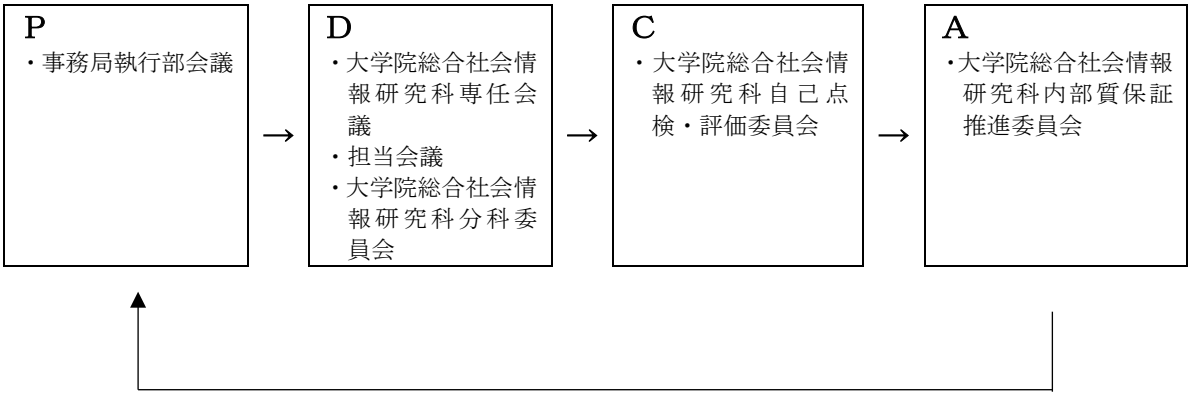
学生の受入れについては，入学試験委員会が管轄し，同委員会内で随時実務的な点検・評価を実施した上で，組織的な判断・決定が必要となる事例については，大学院総合社会情報研究科専任教員会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会にて意見聴取及び審議を行っている。具体的には入学試験における受験科目について令和９年度より英語を除外し，より円滑な入学試験の実施を図った事例がある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究組織の適切性の検証は，自己点検・評価の対象となるが，大学院総合社会情報研究科専任会議，担当会議及び大学院総合社会情報研究科大学院分科委員会で検証している。

教員組織の適切性の検証は，自己点検・評価の対象となるが，大学院総合社会情報研究科専任会議，担当会議及び大学院総合社会情報研究科分科委員会で検証している。

大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会と大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会については，教員組織編制方針に基づいた計画や全学自己点検・評価，認証評価等における検証・改善を行う機関として機能している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述では教職間の連携方法や協働の具体的成果（外部資金の採択実績，成果発信の改善例等）についての記述が確認できなかったため，改善が求められる。

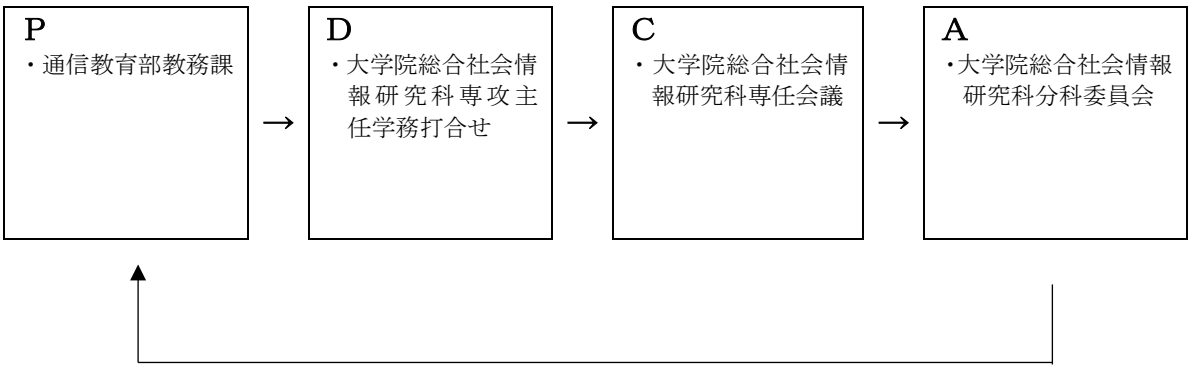
外部からの幅広い人材登用や多様性確保の観点では，公募の実施や候補者選定プロセスの透

明性確保が課題であり，改善が求められる。
　年齢構成の具体的な数値や分布状況及び過去の採用実績の傾向が示されておらず，取組の効果や改善状況を定量的に検証することは難しいため，課題であり，改善が求められる。
　具体的な男女比の現状データや過去の採用実績，偏り是正に向けた具体的手段についての記述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不十分であるため，改善が求められる。

　教員配置計画に基づき，長期的に専任教員数を管理し，定年退職を考慮した採用計画の下，担当会議を経て大学院総合社会情報研究科分科委員会で審議を行っており，一定の候補者選定プロセスの透明性は確保できている。一方で，近年公募を実施していないため，今後諸会議・委員会で検討を行っていく。
　また，年齢構成や男女比等については，ホームページにおける「教育情報」で公開を行っているものの，過去の採用実績は公開していない。こちらについても，今後諸会議・委員会で検討を行っていく。
　事務局執行部会議において教員組織の改善に向けた計画を立案後，大学院総合社会情報研究科専任会議・担当会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会を経て実行し，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会で点検・評価の上，大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会に報告を行い，検証・改善を行う。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

通信教育部教務課で受け付けた学生からの支援希望については，４専攻主任が対応する学務打合せで情報を共有し，内容により科目担当教員・研究指導担当教員へ対応に関する依頼・伝達を行っている。また，組織的な対応が必要となる事例については，大学院総合社会情報研究科専任教員会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会にて意見聴取及び審議を行い対応の方向性を確定させている。さらに，令和８年度博士後期課程入学試験においては，学習障がいを理由とした別室受験希望の申出があり，大学院総合社会情報研究科分科委員会審議承認の下，合理的な配慮により，別室受験対応を行った事例がある。

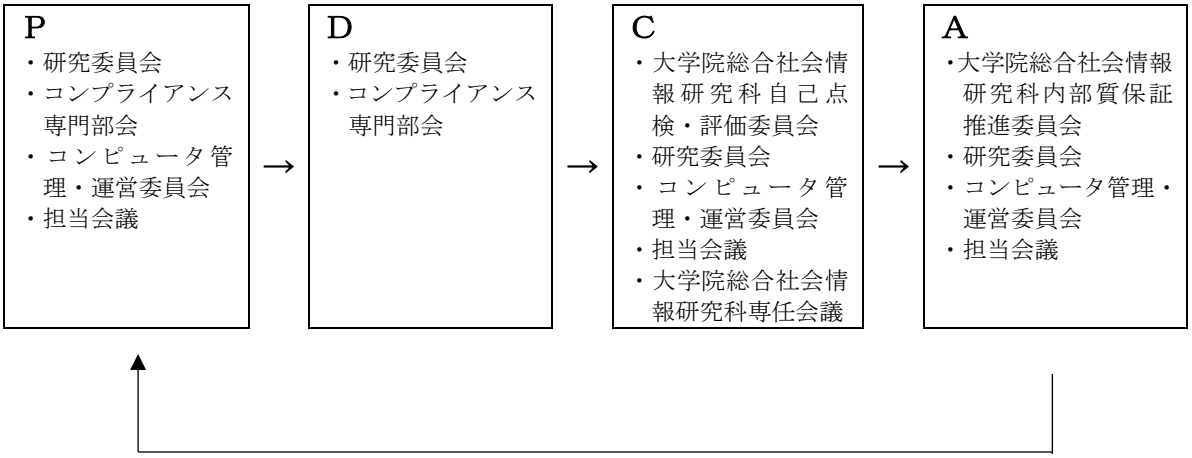
通信教育部教務課で受け付けた学生からの障がい等を理由にした学修支援に関する希望・要望については，４専攻主任が対応する学務打合せで情報を共有し，内容により科目担当教員・研究指導担当教員へ対応に関する依頼・伝達を行っている。また，組織的な対応が必要となる事例については，大学院総合社会情報研究科専任教員会議・大学院総合社会情報研究科分科委員会にて意見聴取及び審議を行い対応の方向性を確定させている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩④　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

研究等環境に関わる事項については，「教育研究等環境整備に関する方針」に基づき，研究委員会，研究委員会コンプライアンス専門部会，コンピュータ管理・運営委員会及び担当会議等が，随時，審議・計画・実行・点検を行っている。また，定期的に，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

これまで大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会及び大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，各委員会組織が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，コンピュータ管理・運営委員会では，各組織の共用パソコンの利用状況に鑑み，適切な情報管理及び情報倫理の遵守の視点から，個人情報保護や事故防止対策を強化する必要があると判断し，共用ＰＣに環境復元ソフト「V-Recover」を導入し，セキュリティを強化した。

また，研究委員会では，従来の個人研究費による研究活動支援に加えて，更なる支援の可能性を検討し，その結果，「通信教育部教育研究特別奨励金」を創設して，研究活動の充実を図っ

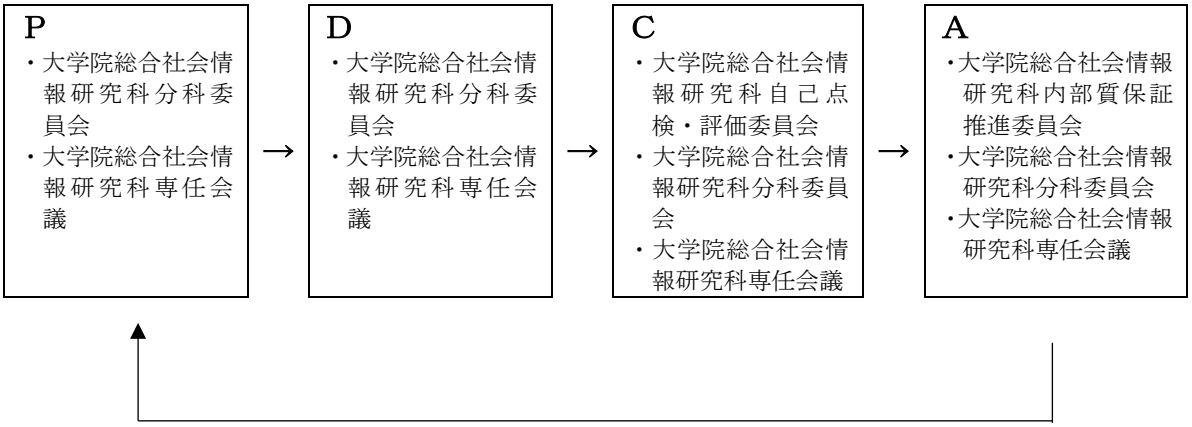
た。
　このように，各組織が計画と実行を繰り返しながら，定期的に点検・評価を行い，継続的な改善と向上に努めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院総合社会情報研究科では，大学院総合社会情報研究科専任会議及び大学院総合社会情報研究科分科委員会を中心に，社会連携・社会貢献に関わる事項について計画を立て，実施，点検及び検証を行っている。主な社会貢献活動としては，電子紀要，電子マガジン及び公開講座の実施となる。

また，定期的に，大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会による点検が行われ，その結果を基に大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会で検証を受けるというサイクルが確立されている。

なお，これまで大学院総合社会情報研究科自己点検・評価委員会及び大学院総合社会情報研究科内部質保証推進委員会による点検・評価・検証において，特に指摘事項はない。これは，各組織が日頃から点検・評価・検証を行い，必要な改善を実行している成果と言える。

具体的な改善・向上を図った事例としては，大学院総合社会情報研究科分科委員会では，知識や情報を広く社会に還元し，また社会人が学ぶことができる通信制大学院の存在をより広く周知することを目的に，公開講座の実施方法について点検を行った。その結果，オンライン開講からオンデマンド開講に変更し，より柔軟で参加しやすい形式へと改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

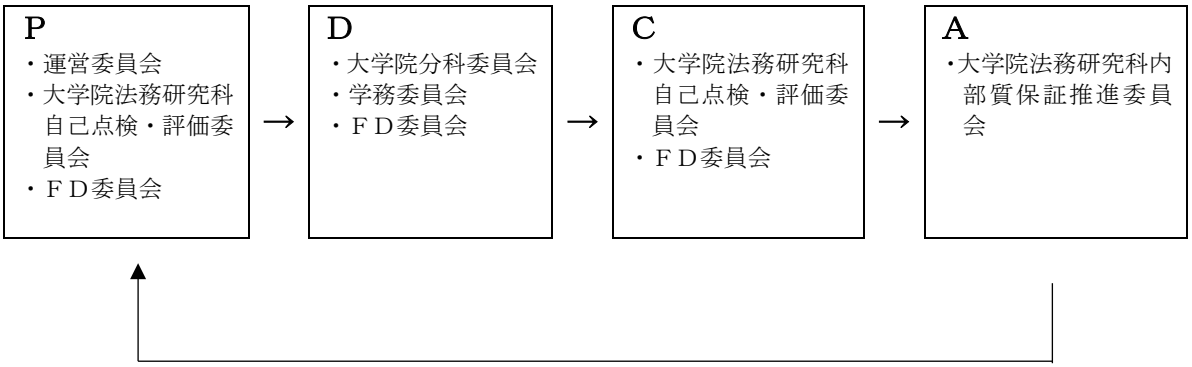
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院法務研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院法務研究科内部質保証推進委員会は，月１回を原則として開催している。

近年では，主に，令和５年度受審の法科大学院認証評価に向けた改善事項等について，大学院法務研究科自己点検・評価委員会から報告を受け，今後も継続して改善事項を検討することや提出資料の作成作業等を滞りなく進めるよう指示をした。その結果，法科大学院の認証評価において，大きな指摘事項もなく，適合の評価を受けるに至った。

内部質保証に関するシステムの整備について，本研究科では研究科長を委員長として「大学院法務研究科内部質保証推進委員会」を設置し，同委員会が内部質保証の推進について責任を負う組織となり，ＦＤ委員会と連携し，大学院法務研究科自己点検・評価委員会，ＦＤ委員会が行う自己点検・評価活動の結果報告等を受けてそれを検証し，教育の質の保証のために教育研究及び管理運営等の諸活動について必要な改善・改革を指示・推進し，質の向上を図ることとしている。なお，ＦＤ活動の内容についてはＦＤ委員会からの報告をもって，改善すべき事項等について必要な指示をする体制を整えている。大学院法務研究科内部質保証推進委員会は，研究科長，専攻主任に加えて，学務委員会委員長，ＦＤ委員会委員長，学生生活・就職委員会

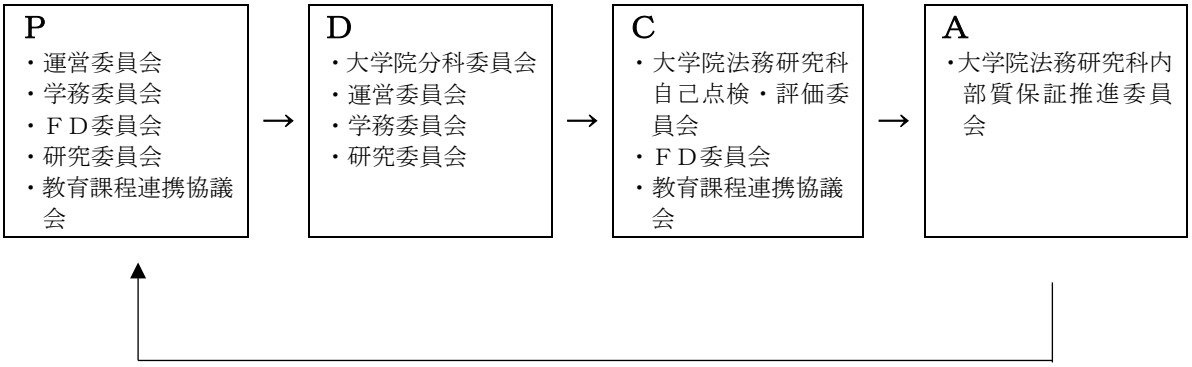
委員長，入学試験管理委員会委員長及び研究委員会委員長といった主要な委員会の委員長を網羅しているほか，公法系，民事系，刑事系それぞれの領域の教員をも網羅する構成となっている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学務委員会，ＦＤ委員会及び研究委員会により現状の把握と改善・向上に向けた取り組みを行い，ＦＤ委員会によるアンケート結果，大学院法務研究科自己点検・評価委員会が行う自己点検･評価活動の結果報告等を受けてそれを大学院法務研究科内部質保証推進委員会で検証し，教育の質の保証のために教育研究組織について必要な改善・改革の指示・推進を図る。

ＦＤ委員会においては，学生の視点に立った授業その他に関する改善が常に検討されかつ必要な改善が実現されている（「学生による授業評価アンケート」，「自由記述アンケート」，「学生との意見交換会」）。また，学生のみならず教員の視点からも授業内容や方法の改善が図られている（「教員による授業評価アンケート」）。さらに，授業において成績評価の厳格化・客観化をどのように達成するか，授業内容が法曹養成教育として適切かどうかの検討も適切になされてきた。

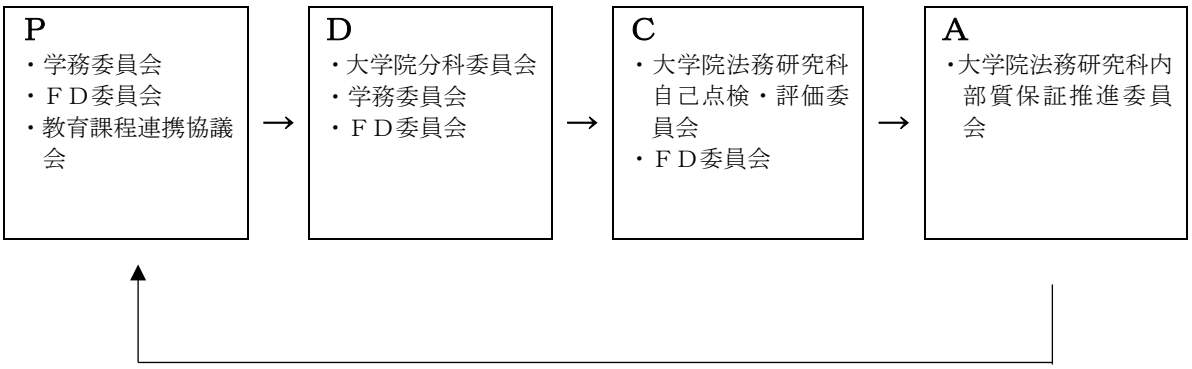
また，産業界の学外者も構成員になっている教育課程連携協議会で現状及び本研究科の活動に対する幅広い意見を受け，学務委員会等で実行に向けた検討を行い，大学院法務研究科内部質保証推進委員会で検証を行う体制になっている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

カリキュラムにおける学習成果の把握については，各教員が厳正に行っており，科目ごとに「成績評価基準」を作成し，学生に公開している。この内，「教育効果の達成状況」として記載された内容については，本研究科のＦＤ委員会と学務委員会で学期ごとに検証を行い，学習成果の把握と適正な評価がなされているか確認している。評価について，科目の合格，不合格の判定は絶対評価で行うが，合格した者の成績評価（Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ）については相対評価で行い，過度な集中が起きないよう，そのおおよその割合を決め，学生に公開している。

教育課程については，学務委員会で随時検証を行っており，また，産業界の学外者も構成員になっている教育課程連携協議会において，その編成について意見を受けている。

⑸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

全科目で授業評価アンケートを行い，その結果を，本研究科のＦＤ委員会及び学務委員会で検討している。アンケート結果を集計した資料を担当教員に渡し，次年度の授業改善に向けたアクションプランシートの作成及び提出を義務付けており，提出されたアクションプランシー

トは，その内容をＦＤ委員会で検討している。また，自由記述により寄せられた，全体に対する学生からの意見について，授業や教育の方法に係る部分をＦＤ委員会，授業の実施に係る部分を学務委員会で検討し，改善を図り，次年度のガイダンス等で学生に報告している。

【事例】

学生からの要望：レジュメのＴＫＣ（法科大学院教育研究支援システム）へのアップが，授業当日又は前日の科目もあり，印刷等の対応が難しいので，授業開始時に配布する等の対応をお願いしたい。

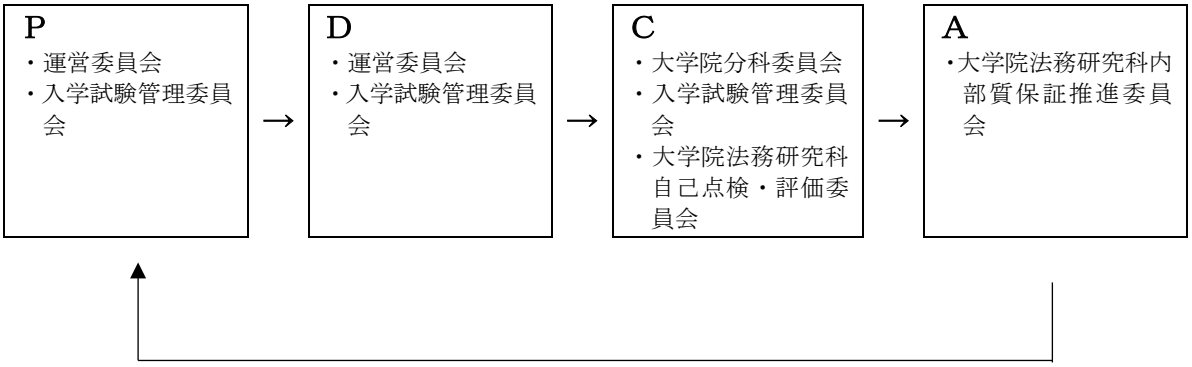
対応：従前より依頼していたが，再度，全教員に対し，授業１週間前を目安に，ＴＫＣに授業資料をアップしていただくよう周知して改善を図った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れに関わる事項は，入学試験や合格者判定とも深いつながりがあり，その業務上，秘匿性が高い情報を多く扱うため，主に入学試験管理委員会と運営委員会により，取組の検討と実施が行われている。法科大学院認証評価等の際に，大学院法務研究科自己点検・評価委員会が点検・評価し，これを受けて大学院法務研究科内部質保証推進委員会が検証を行い改善・向上策の指示・推進を図る。

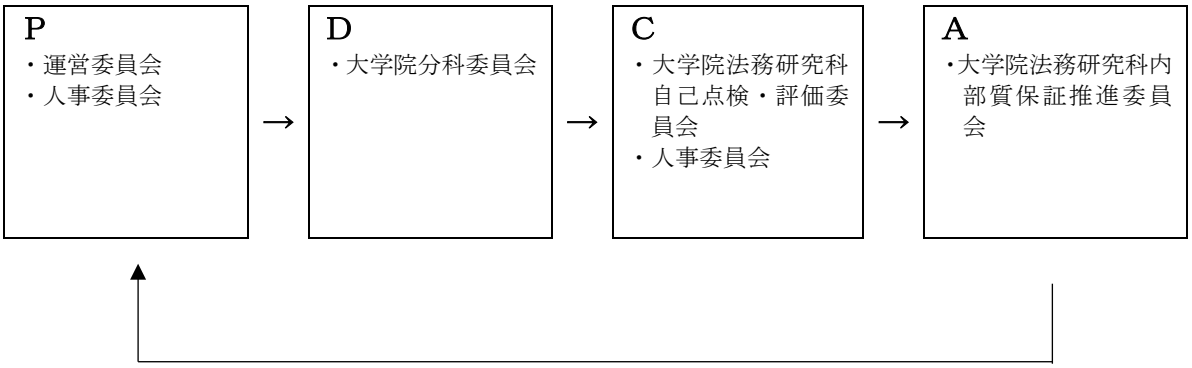
入学試験管理委員会において，入学試験の実施前に，各期の入学試験実施要項，面接実施要項及び書面審査要項を協議の上，教職員が共通認識をもつことで，適切かつ厳正な入学試験が実施されている。また，各種施策として，本学法学部出身者へは，ＰＲ活動，法曹コースとの連携や入学検定料の免除などを，社会人へは昼夜開講制の導入，ＩＣＴを利用した授業補助や自習室の開室時間延長などを実施し，志願者数の増加につながっている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㉘　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

人事委員会，運営委員会において，中長期的な人事計画を策定して継続的な教員確保を行い，法令に基づく人員の適正配置に努めている。大学院分科委員会で承認を受け実行となり，人事委員会で常に状況を点検し，法科大学院認証評価の際に大学院法務研究科自己点検・評価委員会でも点検・評価を行い，これを受けて大学院法務研究科内部質保証推進委員会が検証を行い改善・向上策の指示・推進を図る。

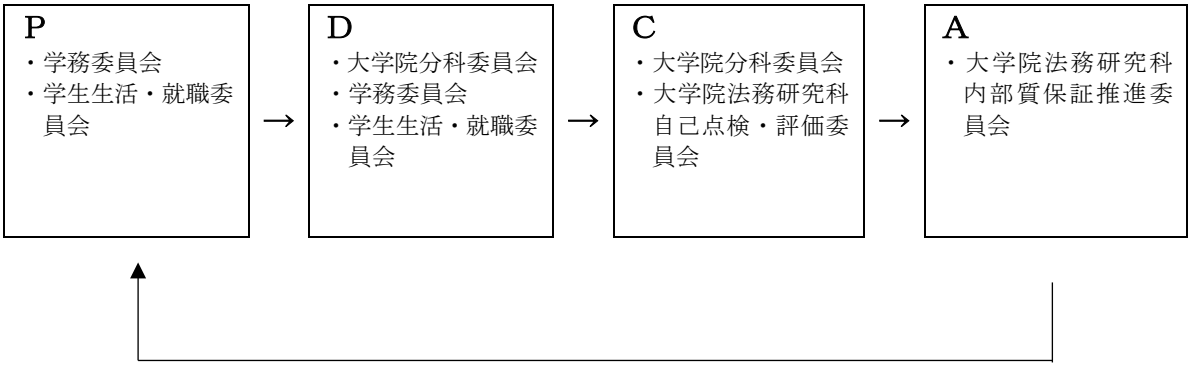
退職予定者については，あらかじめ把握して本学の「教員規程」 及び「教員資格審査規程」に従い計画的任用に努めている。法律基本科目については，適切な数の専任教員を確保するために特に慎重に人事を行い，場合によっては，退職予定者の退職予定日の前に後任者を前倒して採用して，退職予定者とともに，一定の期間教育に当たることも可能にしている。近年では，若手教員の任用による年齢構成の多様化及び研究者の育成を図っており，令和４年度及び令和７年度に，本研究科の元助教を教員として採用している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

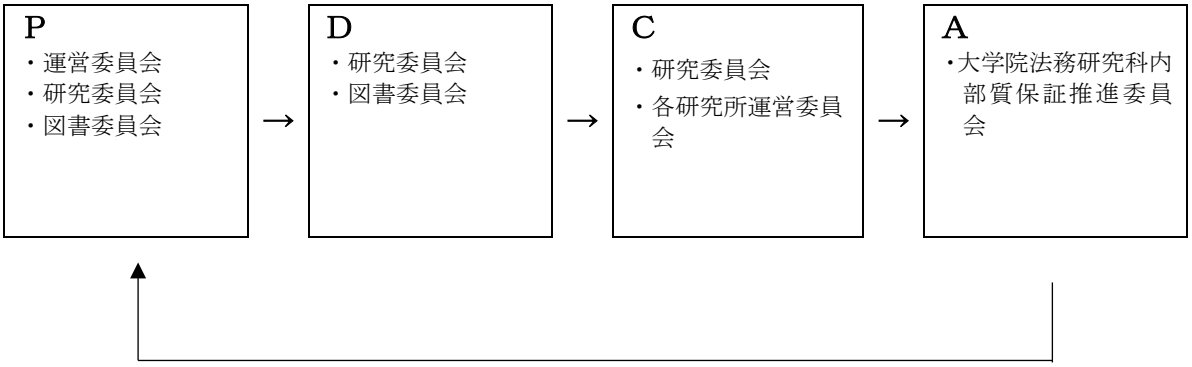
学生支援において，学習面での就学支援については，学務委員会が状況を把握し，成績不振学生への指導など，必要な措置を学務委員会及び大学院分科委員会で講じた上で，その効果を大学院分科委員会で成績の変化等で検証，法科大学院認証評価の際に大学院法務研究科自己点検・評価委員会でも点検・評価を行い，これを受けて大学院法務研究科内部質保証推進委員会が検証を行い改善，向上策の指示・推進を図る。また，経済面の就学支援，生活支援，進路支援及び学生の基本的人権の保障については，学生生活・就職委員会で状況を把握，問題が発生した場合にはその検討を学生生活・就職委員会，大学院分科委員会で行い，大学院分科委員会で結果を確認し検証，法科大学院認証評価の際に大学院法務研究科自己点検・評価委員会でも点検・評価を行い，これを受けて大学院法務研究科内部質保証推進委員会が検証を行い改善を図っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

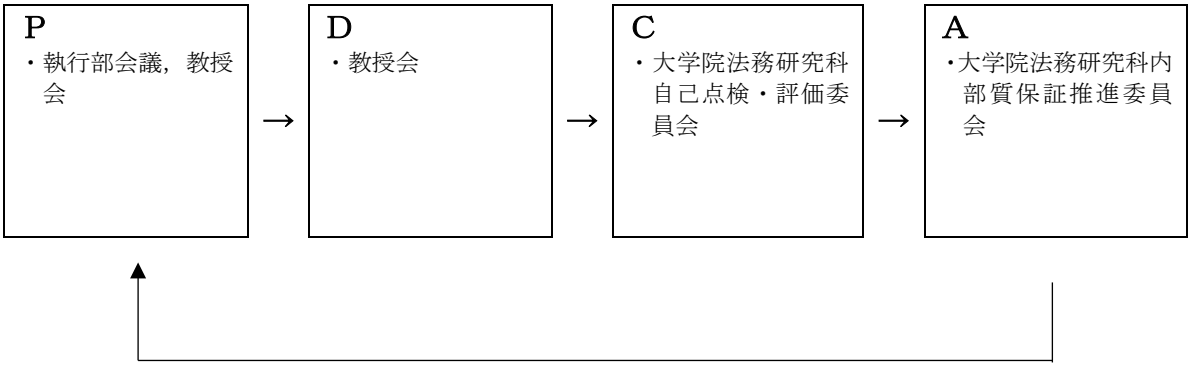
研究委員会，各研究所の運営委員会が定期的に委員会を開催し，点検・評価を行っている。方法として研究委員会では，教員へ３月に個人研究費に係る実績報告書の提出を依頼し，当該年度に実施した研究成果・業績等を確認することにより行っている。各研究所の運営委員会では４月に活動状況の報告，共同研究の「実績報告書」及び次年度の「研究計画」を報告することにより行っている。必要な場合は，執行部会議，教授会，運営委員会及び大学院分科委員会に上程している。改善・向上を図った事例として，博士論文を出版する若手研究者に対して，出版助成費を給付する制度を制定した。また，法学部研究費（学術研究費（個人研究・共同研究））の各支出費目の給付額について給付限度額を設けていたが，その内規について給付限度額を設けないように改正し，研究費を執行しやすいように改善した。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

防火・防災関係についての社会連携については，防火防災対策委員会が，大学院法務研究科自己点検・評価委員会からの指示の下で点検・評価を行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

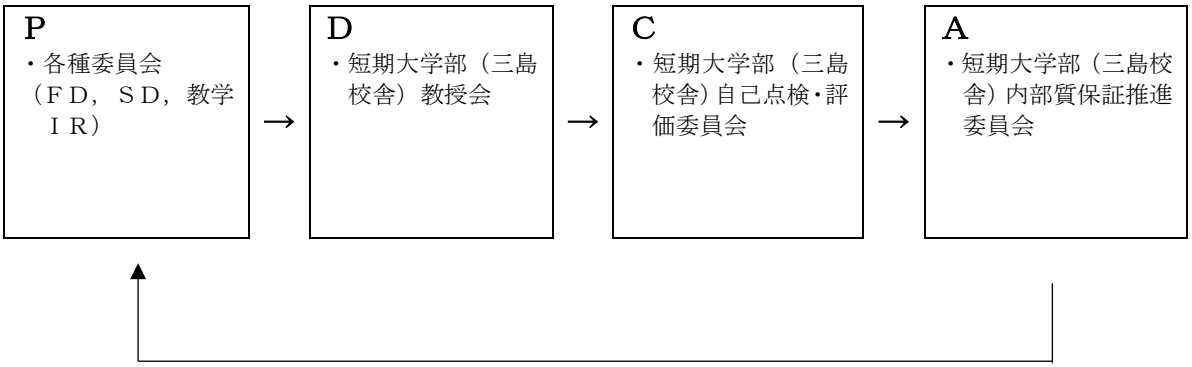
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　短期大学部（三島校舎）

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

短期大学部（三島校舎）では，教育研究活動の質の改善を目指し，日本大学の内部質保証に関する方針に基づき活動している。これまでに，教学ＩＲ委員会が中心となり，令和５年度に退学者や成績不振者の傾向分析を実施し，特に１年次必修科目に関する欠席状況に基づき，令和６年度から早期面談を行うなど，個別具体的な学生支援の改善策を実行に移している。しかしながら，これらの個別的な改善活動の成果を，学部全体の内部質保証システムの中で検証し，次年度以降の活動計画へ有機的に統合・反映していくＰＤＣＡサイクルが，十分に機能しているとは言い難い状況である。全学的な検証結果が示すとおり，短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会が，各委員会の自己点検・評価活動に対して運営支援，検証，及び改善指示を主導する役割や各委員会間の連携体制が明確になっていないという課題が残されている。今後は，この課題を踏まえ，短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会の主導性を明確化し，ＩＲ活動等の成果が具体的な改善指標を用いて定期的に評価される体制を確立することで，システムの有効性を確保し，教育の質の継続的な改善・向上を確実に図る。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

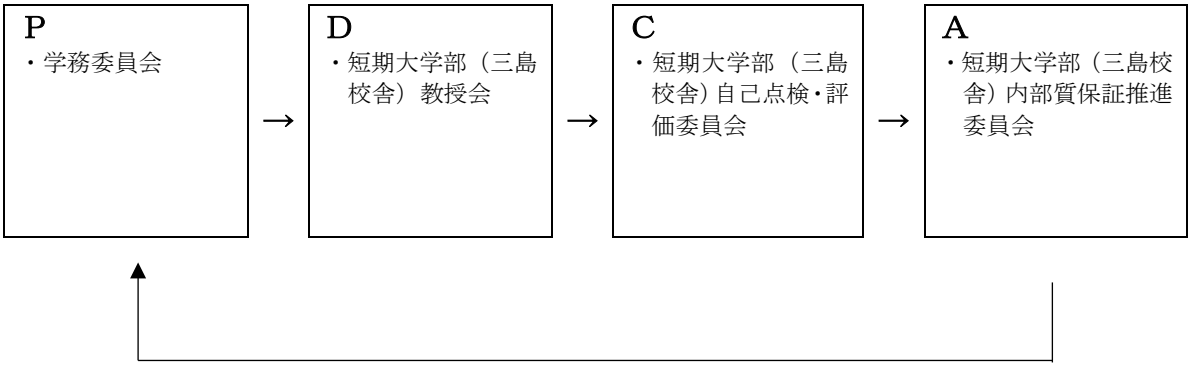
【提言（改善課題）】

短期大学部（三島校舎）における内部質保証体制は整備されつつあるものの，各種委員会が短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会へ報告し，評価を受ける仕組みは「予定」として示されている段階にとどまっている。そのため，実際にどのように検証が行われ，改善へとつながったのかを具体的に示す実績が十分ではないなため，改善が求められる。

短期大学部（三島校舎）は，検証結果（基準２：内部質保証）に付された提言（是正勧告・改善課題）に対応し，内部質保証システムの有効性及び適切性の向上に向けた取組を強化する。全学的な検証結果では，学部等における短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会が，自己点検・評価活動に対する運営支援，検証，及び改善指示に関する事項を任務としているにもかかわらず，多くの学部等において，主体となる委員会等と短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会との連携体制が不明確であることが指摘されており，これは短期大学部にも共通する課題である。また，短期大学部における内部質保証システムは，教学ＩＲ活動等により改善の方向性を目指しているものの，その成果を組織的に検証し，次年度の活動に反映させるＰＤＣＡサイクルが十分に機能していないという課題も残されている。この提言を受け，短期大学部（三島校舎）では，短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会の主導的役割を明確化し，各委員会（教学ＩＲ，ＦＤ，短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会等）との連携体制を抜本的に強化する。これにより，各委員会から提出される改善活動の結果について，具体的な指標を設定して定期的に検証・評価し，その結果に基づき，教育の質保証の仕組みがより有効に機能できるよう，改善・向上に向けた具体的な指示を出す体制を確立する。この組織的な連携強化と進捗管理の厳格化を通じて，自己点検・評価活動を教育研究活動の質の継続的な改善に確実に結び付けるＰＤＣＡサイクルを実質的に機能させることを目指す。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

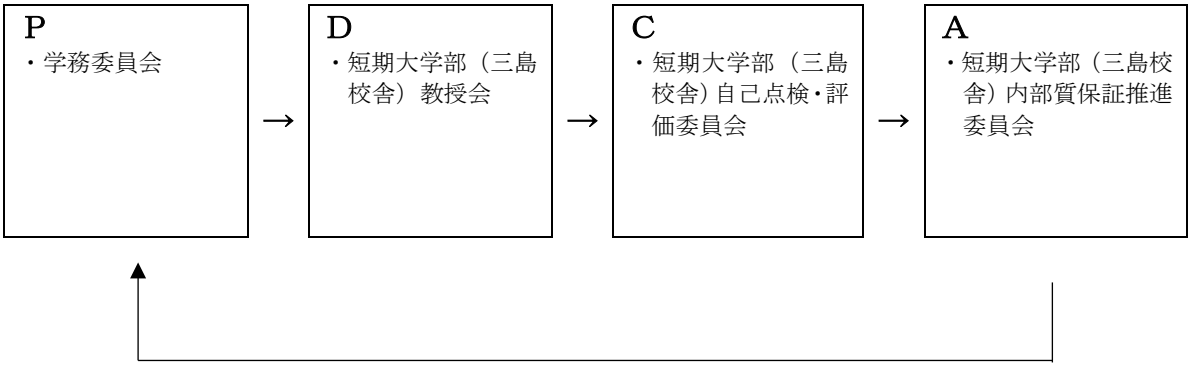
事務執行部会，短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会及び短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

事務執行部会，短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会及び短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

短期大学部（三島校舎）では，教育課程及びその内容，方法の適切性について定期的に点検・評価をする仕組みがなく，学務委員会において教育課程（カリキュラム）改正の際に，教育課程及びその内容，方法を検証し，教育課程の改善・向上の参考にしているのが現状である。

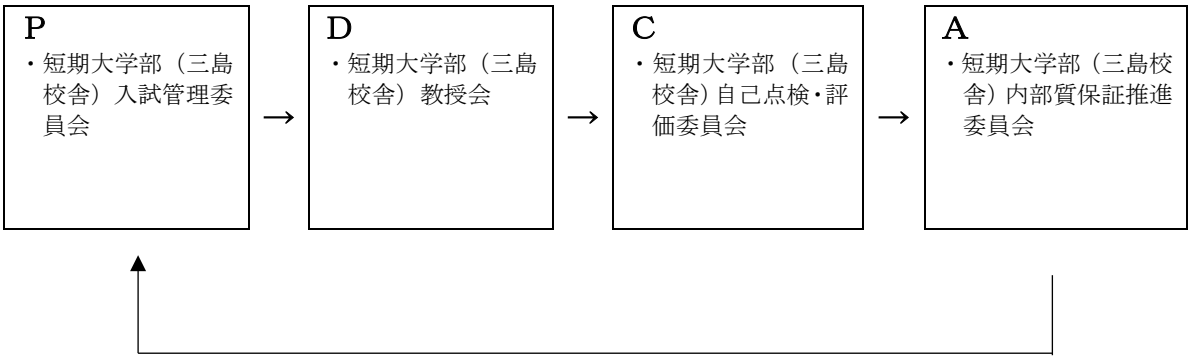
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

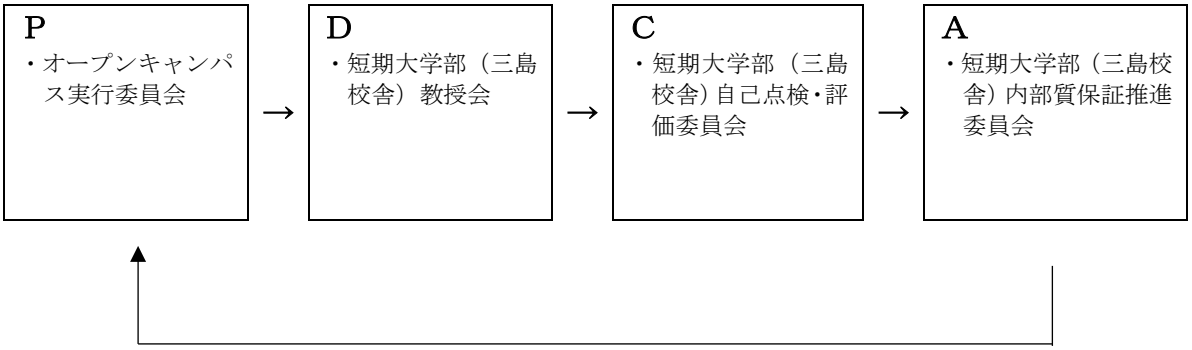
基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【入学者選抜計画，運営確認・入試広報】



【オープンキャンパス】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

【入学者選抜・入試広報】

各年度入学者選抜及び入試広報を入試管理委員会において計画し，教授会に諮り実行，当該年度の入試結果等に基づく改善点・次年度計画等を検討している。

短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会及び短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

【オープンキャンパス】
　各年度オープンキャンパスをオープンキャンパス実行委員会において計画し，教授会に諮り実行，当該年度の来場者人数及びアンケート等に基づき次年度計画・改善を行っている。
　短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会及び短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会等による検証は，現時点では行われていないため，見直しを図っていく。

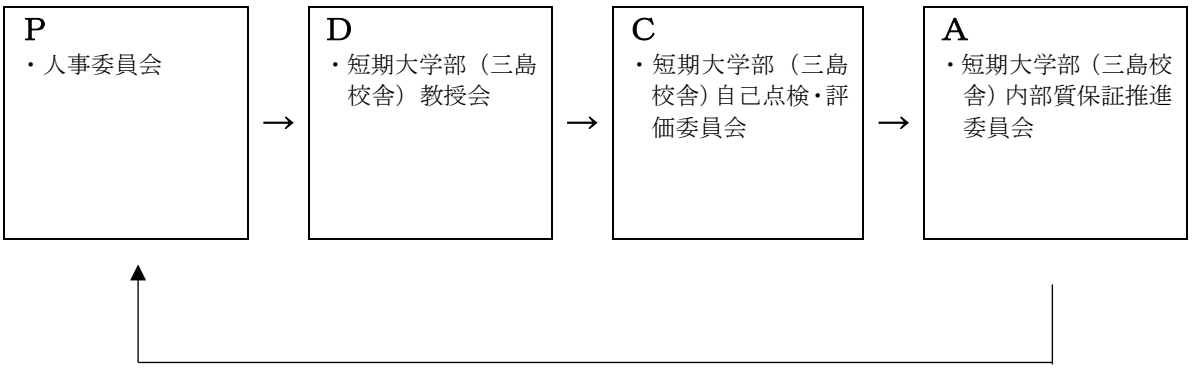
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】
　ビジネス教養学科においては，過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の５年平均が 0.77，収容定員に対する在籍学生数比率が 0.57 と著しく低いため，定員管理を徹底するよう是正されたい。

　ビジネス教養学科の入学定員 60 名を確保するため，入試管理委員会を中心に，入学者選抜を令和８年度入試から総合型選抜を３回から４回に変更し，令和９年度からは文系学部共通方式（AN 方式）を導入する予定がある。高校等へのアプローチとしては，併設の学部である国際関係学部へ編入学の際の推薦枠が多いことやビジネスシーンで即戦力となる８項目の学びについて，訪問及びＳＮＳ等の情報発信を行い，興味を持ってもらえる内容の検討を行う。オープンキャンパスについては，オープンキャンパス実行委員会を中心に，毎月開催し，いつでも入学希望者が相談できる体制を整えている。
　各事項を最終的に短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会で改善提案を行い，次の計画に反映し，入学定員充足を目指す。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

短期大学部（三島校舎）では，教育研究活動の継続的な改善・向上を目的とし，人事委員会が教員組織の維持・改善計画を策定し，短期大学部（三島校舎）教授会の議を経て実行するなど，教員組織の適切な維持に努めている。しかし，令和７年度より食物栄養学科の募集を停止したことに加え，ビジネス教養学科においても教員数が１名欠員している状況にあり，教員設置基準の充足という点で課題が継続している。この現状は，短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会による点検・評価の結果が，人事委員会による実効性のある改善活動に十分に生かされていないことを示している。

令和 10 年度の短期大学認証評価の受審に当たり，本短期大学部は，教員組織の質的・量的な改善を最優先課題として取り組みを強化する。具体的には，短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会の主導及び支援の下，教員組織に関する事項の点検・評価プロセスを抜本的に強化し，採用活動の有効性を定期的に検証する。加えて，専門分野の偏り是正やジェンダーバランスの是正（女性教員の採用強化）など，教員組織の多様性の確保を組織的な改善課題として明確に位置付け，これらの取組を通じて，教員充足と組織の質の継続的な改善を目指す。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

責任の所在が曖昧なまま運用される場合，業務の属人化や判断の不統一を招く可能性があり，組織的かつ効果的な教育研究活動の継続性に課題あるため，改善が求められる。

現行の評価対象が研究活動に特化しており，教育活動や社会活動といった他の業績評価との連動性が示されていないため，大学としての総合的な教員業績評価の枠組みとの統合が望まれるため，改善が求められる。

全学的な検証結果では，教員組織に関する事項の点検・評価結果を改善・向上に十分に活用していくことが求められており，短期大学部（三島校舎）においてもビジネス教養学科で１名の欠員が生じているなど，短期大学設置基準が定める教員数の充足という課題が継続している。この状況を重く受け止め，本短期大学部は図示したＰＤＣＡサイクル図に基づき，教員組織に関する評価検証プロセスを抜本的に強化する。

具体的には，人事委員会において採用辞退等のリスクを考慮した迅速かつ多角的な公募戦略を策定（Ｐ）し，教授会の議を経て確実に実行（Ｄ）することで，短期大学設置基準の確実な充足を目指す。あわせて，提言されているジェンダーバランスの是正（女性教員の採用強化）を組織的な改善課題として明確に位置付け，数値目標の設定や採用プロセスにおける多様性の確保を推進する。

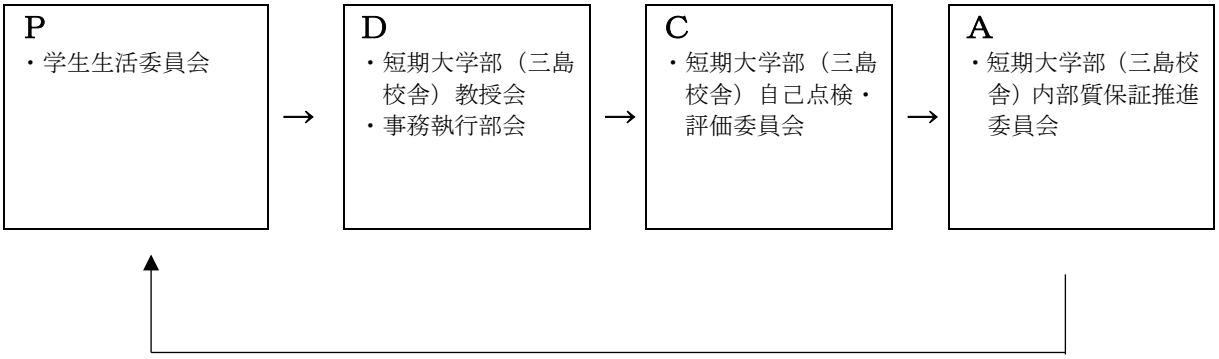
また，組織的かつ効果的な教育研究活動の継続性を確保するため，責任の所在を明確にする。具体的には，責任の所在が曖昧なまま運用されることによる業務の属人化や判断の不統一を解消すべく，平時における教職間の責任範囲や役割分担を体系化し，組織的な運営体制を構築する。教員業績評価の在り方についても見直しを行い，現行の研究活動に特化した評価体系を，教育活動や社会活動といった他の業績評価と連動させた「大学としての総合的な教員業績評価の枠組み」へと統合を図ることで，教員の多面的な貢献を適切に評価し，改善につなげる仕組みへと見直しを図りたい。

これらの改善状況については，自己点検・評価委員会が定期的に点検・評価（Ｃ）を行い，その結果を短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会が検証・支援し，適切な改善指示（Ａ）を出すことで，教員組織に関する事項のＰＤＣＡサイクルを実効性をもって機能させ，教員組織の適正化と質の継続的な向上を推進していく。

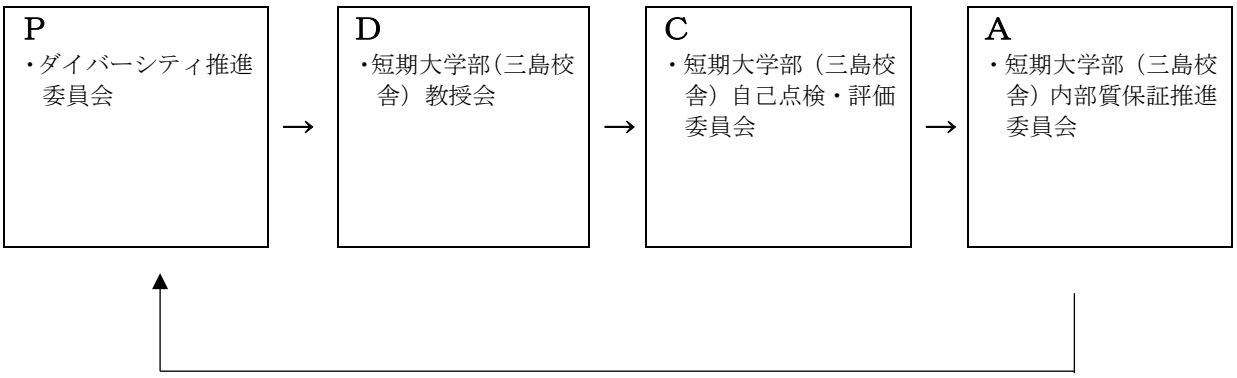
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

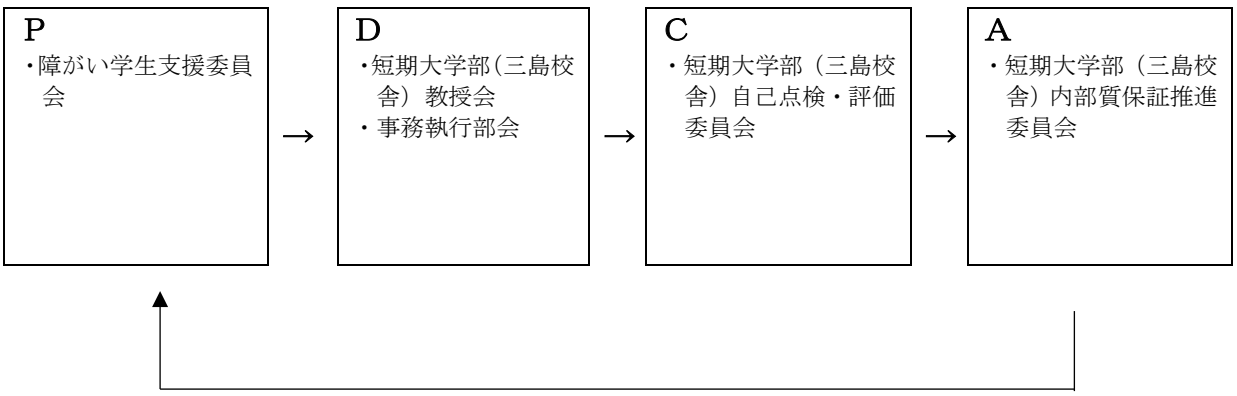
【学生の交流機会の確保，正課外における部活動及びボランティア活動の活性化】



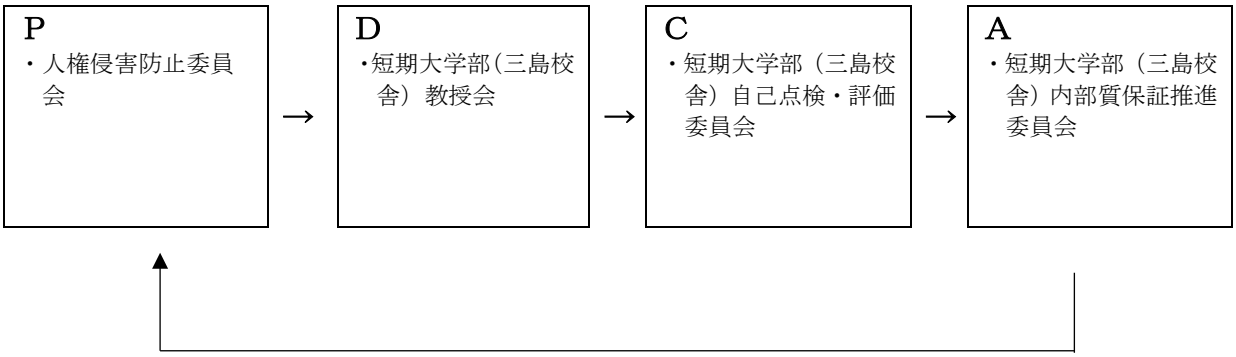
【学生に対する経済的支援（三島市による生理用品の支援)】



【障がいのある学生の基本的人権の保障】



【学生へのハラスメント防止，学生のプライバシー権の保障】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和６年９月 26 日に短期大学部（三島校舎）自己点検・評価委員会，令和６年 10 月 11 日に短期大学部（三島校舎）内部質保証推進委員会をそれぞれ開催し，学生支援に関わる事項について，点検・評価を実施した。

学生支援の向上を図った事例として，本学部では，令和７年度から「キャンパス活性化」というスローガンを掲げ，その一環として学生の正課外における部活動及びボランティア活動をバックアップする取組みを開始している。具体的には，音楽活動や演劇活動を行う学生団体を支援する目的で，三島駅北口校舎の大教室用に，高性能の音響機器を導入した。また，ボランティア活動については，外部から募集が寄せられた際，本学部学生の派遣を依頼する内容のものについては，学生生活委員会で審議に諮り，その安全性や活動意義を精査した上で周知するようにし，学生に安心してボランティア参加してもらえるよう，募集受付から周知までの仕組みを見直した。

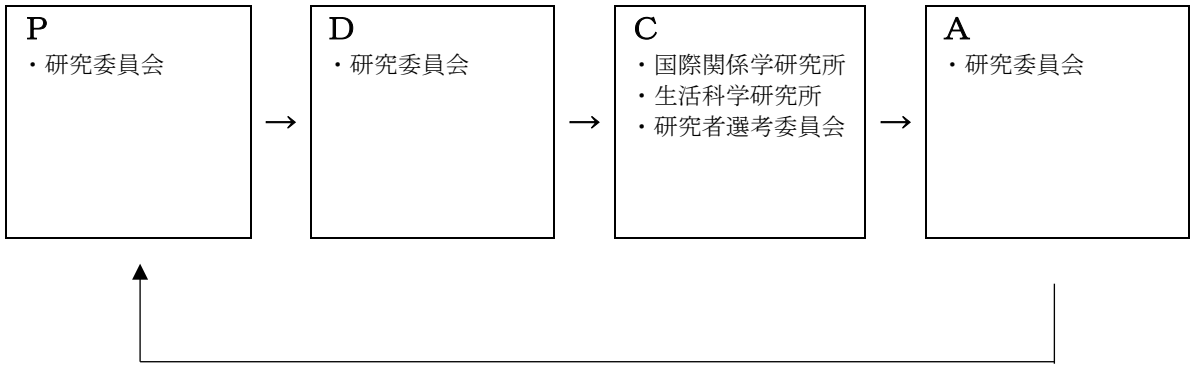
また，留学生と日本人学生の交流を目的として開催している異文化交流会について，以前は後学期に開催していたが，留学生の増加に伴い，学生同士が入学後早期に交流の機会を得られるよう，令和７年度は開催日程を前学期に変更した。その結果として，同時期に受け入れている海外提携校からの短期留学生も参加できるようになり，交流の幅が広がった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

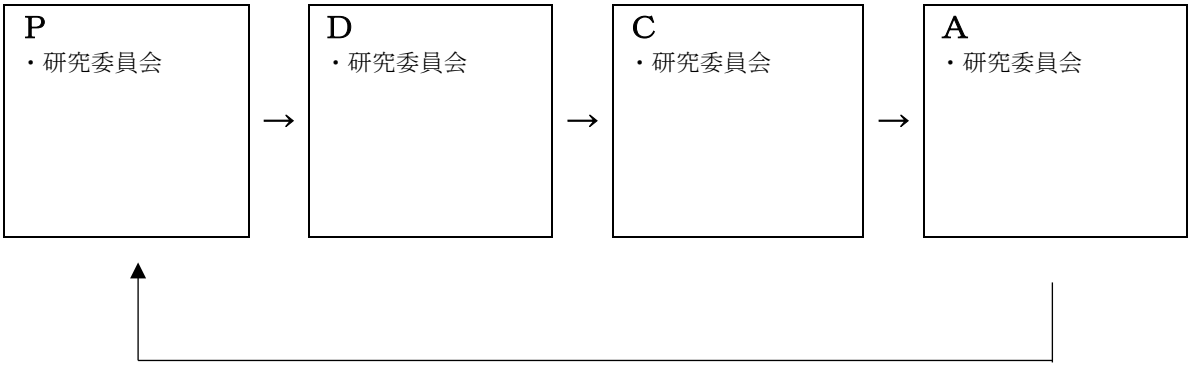
本学部研究者選考委員会で新年度の学部個人研究費申請書の内容を審議し，研究実施状況及び成果物については国際関係研究所・生活科学研究所において点検の上，本学部研究委員会で必要に応じて各研究所の点検結果にて検討が必要な事項や科研費採択時の懸案事項を検討し，改善策を計画し実行に移している。過去の事例としては，キャンパス内の共同研究を推進するために共同研究費を制定した上で，共同研究採択者に科学研究費助成事業への申請を義務付けることで改善を図った。また，個人研究費の給付額に傾斜配分を導入することでインセンティブを付した。当初はこの導入により，増額要件である科研費の申請件数に増加がみられ，今年度についても昨年度に比べ微弱ではあるが，申請件数が増加した。しかし，採択件数は昨年度より減少したため，採択件数増加の改善が必要と考える。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

地域社会への連携・貢献事業の開催内容については，研究委員会にて点検・評価を実施している。点検・評価の対象となるものは，地域住民を対象とした「市民公開講座（前期・後期に各４回)」や「エクステンション講座（前期・後期に各講座５回)」であるが，次回以降の内容を充実させるため，毎回講座終了後には受講者へのアンケート調査を実施している。その結果を研究委員会で精査し，次回以降の講座の企画立案に反映させるように努めている。アンケートからスポーツ関連の技術向上を目的とした講座を開講してほしいとの要望を受けて，令和６年度より取り入れた「エクステンション講座」の「ゴルフ講座」は，受講者に好評で，次年度以降の開講と参加を希望する意見が多数出された。また，受講者からの要望や講座をお願いしている講師の提案に基づき，今年度後期は初級よりレベルアップした「エクステンション講座」を用意したが，受講者数が減少したため，研究委員会にて開講内容を精査し，より多くの参加者に興味を持ってもらい，参加していただけるような内容とすべく，改善・向上に努めることとする。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

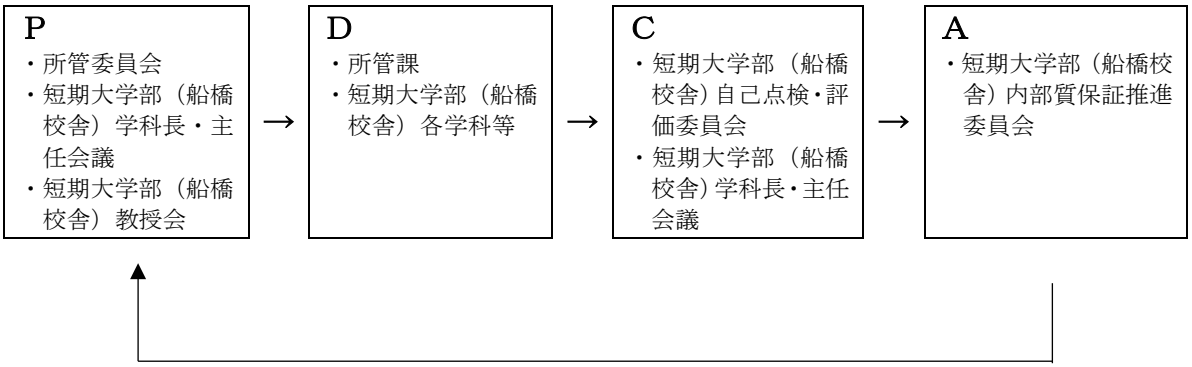
なし

令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　短期大学部（船橋校舎）

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本短期大学部では，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が関係部署（各委員会等）へ点検・評価の資料作成依頼を行い，取りまとめた点検・評価報告書等を短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ報告を行い，本短期大学部の課題等の抽出を行っている。課題として抽出された事項については，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が関係部署への改善を指示し，改善に努めている。作成された改善計画は，内容により短期大学部（船橋校舎）企画調整委員会又は短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議で協議され，短期大学部（船橋校舎）教授会にて審議，所管委員会（所管課）において実行されている。

令和６年度に実施した自己点検・評価結果において，令和６年度の入学定員・入学者数について，ものづくり・サイエンス総合学科 78 名中 44 名となり，同学科の令和６年度収容定員充足率が 0.84（定員未充足）となったことを受け，学生数確保に向けた検討を行うことを改善課題として抽出し，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会においても共有され，同委員会委員長である短期大学部（船橋校舎）次長から学生確保に向けた検討を行うよう改善取組の指示が短期大学部（船橋校舎）入学試験実行委員会にされている。具体的には新規の入学者選

抜方法の導入について検討することである。短期大学部（船橋校舎）入学試験実行委員会において新規の入学者選抜の導入について検討をした結果，新たに令和８年度入学者選抜において一般選抜Ｎ全学統一方式第２期を導入することとし，短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議で協議，短期大学部（船橋校舎）教授会で審議され，実行されることになっている。また，令和９年度入学者選抜で学校推薦型選抜（指定校制）を導入することが決まっている。

また，本短期大学部では，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会からの指示により教育活動に関する外部評価を実施しており，外部評価結果で意見等があった内容については，各部署にて改善取組を行っている。外部評価結果については，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会に報告され，本短期大学部ホームページに掲載している。

令和６年度の教育活動に関する外部評価では，上述の令和６年度の自己点検・評価結果同様に学生の受入れについて改善の必要があるとの指摘を受けている。短期大学部（船橋校舎）入学試験実行委員会では，上述したように新規の入学者選抜の導入について検討し，実行するほか，短期大学部（船橋校舎）学務委員会では，令和９年度実施に向けた新カリキュラムの策定を検討することとし，短期大学部（船橋校舎）広報委員会では令和７年度に年２回実施する高校訪問について，特に 12 月から年明け１月に実施する第２回高校訪問における訪問校の決定に当たって，より戦略的な方法により決定するなど，一人でも多くの受験生確保ができ，定員管理の問題解決に少しでも寄与できる施策を行う等，改善に努めている。

自己点検・評価活動以外の取組としては，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会が本短大学部教員も構成員として加わっている併設学部の理工学部情報統括委員会（ＩＲ委員会）の取組内容，本短期大学部で実施している教職員研修会をはじめとしたＦＤ・ＳＤ活動の結果等について報告を受け，点検・評価をして改善が必要な場合は改善指示を行うこととしている。

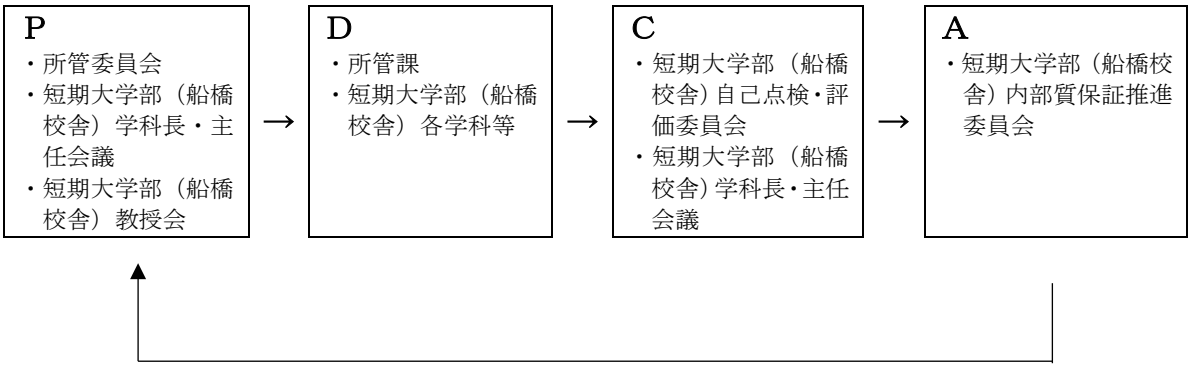
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

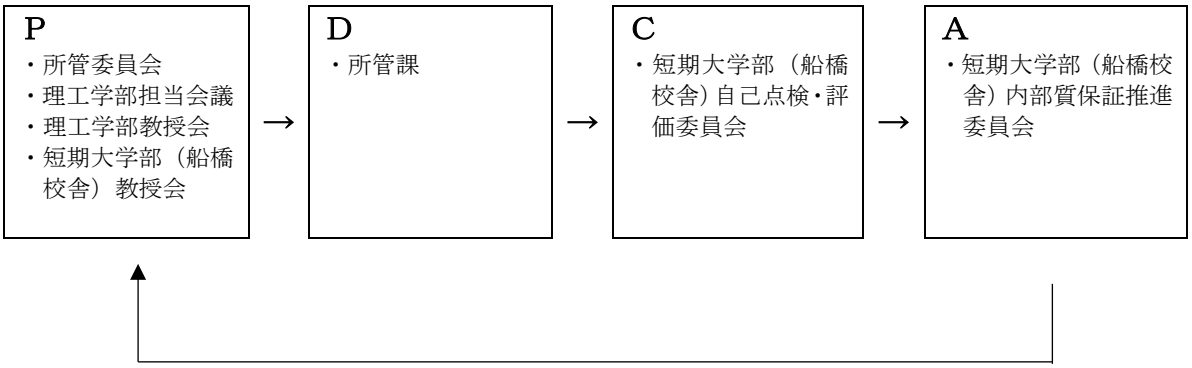
基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学科の新設・改組等】



【研究所の新設・改組等】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学科組織の適切性については，短期大学部（船橋校舎）学務委員会，同企画調整委員会及び同入学試験実行委員会が中心となり，カリキュラムの検討及び入学定員充足率・収容定員に対しての学生充足率等の学科定員管理から検討を行い，計画の立案を行っている。

学科名称の変更については，令和６年度入学者数及び令和７年度学校推薦型選抜における志願者数の減少等を受けたこと並びに文部科学省への届出となったことから，特にものづくり・

サイエンス総合学科については，従前から学問分野が分かりづらい等の意見が挙げられていたことを含め，令和６年 11 月開催の短期大学部（船橋校舎）学務委員会及び同企画調整委員会において，学科名称の変更を議題とし，両学科において検討を開始している。

研究所の新設・改組等は，理工学研究所運営委員会が中心となり，短期大学部（船橋校舎）を含む理工学部全体の研究力向上と外部への認知度向上等を目的として計画立案を行っており，令和７年度に研究支援体制の整備と機能強化を図るため，分野間連携を含む共通の研究目的を持つ複数の研究者の単位にユニット名称を付して組織的に活動することを理工学部の公式な位置付けとして扱う仕組み（研究ユニット制度）を制定した。

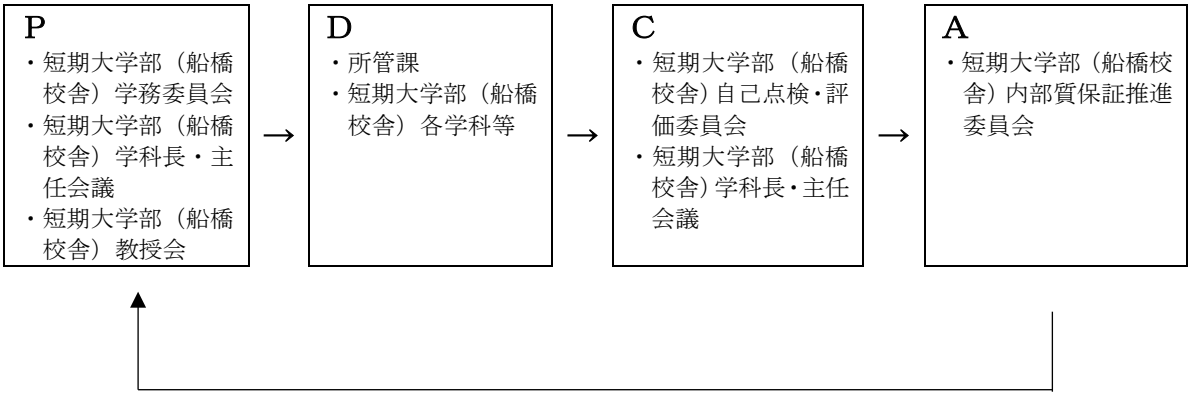
上述のとおり，所管委員会等で計画の立案を行い，短期大学部（船橋校舎）の学科組織については，短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議及び同教授会での審議等を経て，研究所組織の適切性については，理工学部担当会議，同担当・主任会議，同教授会及び短期大学部（船橋校舎）教授会での審議・報告等を経て，各々所管課等で実施している。同取組等については，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本短期大学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は所管委員会等にフィードバックを行っている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

短期大学部（船橋校舎）学務委員会が中心となり，各学科・一般教育委員に対して教育課程の改正についての実施確認及び依頼を行い，教育課程の立案をし，短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議及び同教授会での協議・審議を経て決定している。教育課程改正の周期については，大学全体の取組に加えて，時代のニーズや改善事項への対応など，柔軟かつ臨機応変に実施している。令和７年度には，「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度」の大学全体での認定を目指すため，「データサイエンスの世界」の設置を行った。

教育課程の改正については，毎年４月に本部が実施する「監事監査（期末）」の提出資料に短期大学部（船橋校舎）学務委員会として記載するとともに，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が取りまとめる「自己点検・評価報告書」に記載して同自己点検・評価委員会及び短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議においてチェックをし，課題等があれば抽出され，同学務委員会にフィードバックされる。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

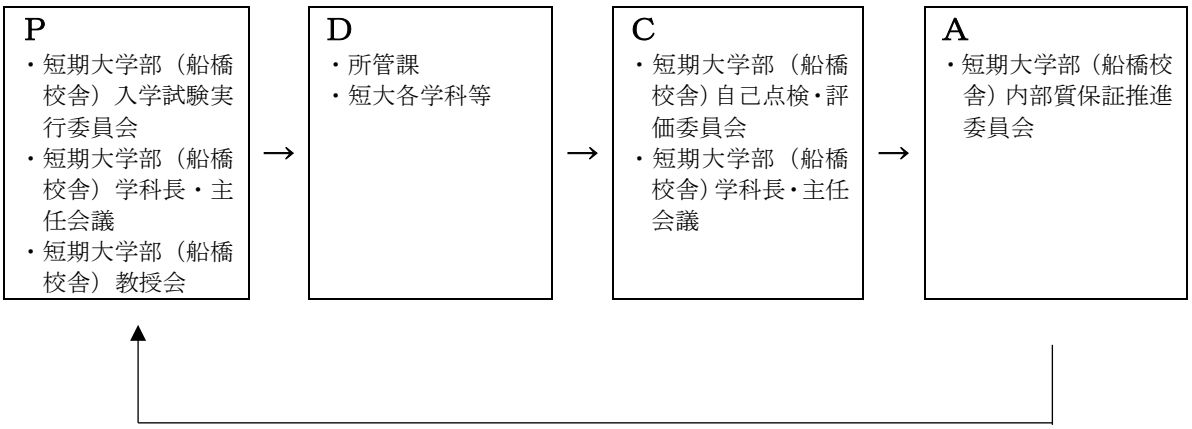
教育課程については，短期大学部（船橋校舎）学務委員会が中心となり，完成年度までの各学科等における検証結果を基に改善・見直しを図るのが通常であるが，大学全体の取組等への対応のため軽微な改正を行うこともあり柔軟に対応している。短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価結果の短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会への報告の結果，課題等が抽出されれば，その指摘を受けて改善・向上に取り組むことにもなるが，これまで指摘例はないため，指摘を受けて改善・向上を図った事例はない。なお，教育課程の変更に際しては，各学科・一般教育で十分に検討の上，諸会議に提出されている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

入学者選抜実施に関わる業務を行う短期大学部（船橋校舎）入学試験実行委員会において，計画・実施・点検・評価を行い，改善・向上を図っている。毎年，入学者選抜結果については，５月の諸会議に報告を行うとともに，12 月の諸会議において，次年度の募集人員を含む入学者選抜方針の立案を行っている。

最新の改善を図った事例として，令和７年度入学者選抜結果の５月における諸会議への報告後，令和７年７月開催の短期大学部（船橋校舎）入学試験実行委員会において，短期大学部（船橋校舎）学校推薦型選抜（指定校制）の導入について検討を始め，過去５年間の高校別志願者数等を資料として各学科の指定校の選定を行い，各学科の募集人員及び推薦基準等の実施概要を 10 月までに取りまとめた。取りまとめた案は，短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議において協議され，推薦基準の見直しなどの調整依頼を受けて，11 月末開催の同入学試験実行委員会において実施概要としての体裁を整えた。令和９年度入学者選抜から実施することになっている。

志願者の募集については，短期大学部（船橋校舎）広報委員会において，入試広報の在り方を協議し募集活動を行っている。

上述のとおり，学生の受け入れに関わる事項については，所管委員会等において計画の立案を行い，短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議及び同教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会

が中心に実施する自己点検・評価，同教育活動に関する外部評価等を通じて検討・検証を行い，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，本短期大学部の課題等を抽出している。抽出された課題等は所管委員会等にフィードバックを行っている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ものづくり・サイエンス総合学科において，収容定員に対する在籍学生数比率が 0.84 と低いため，定員管理を徹底するよう改善が求められる。

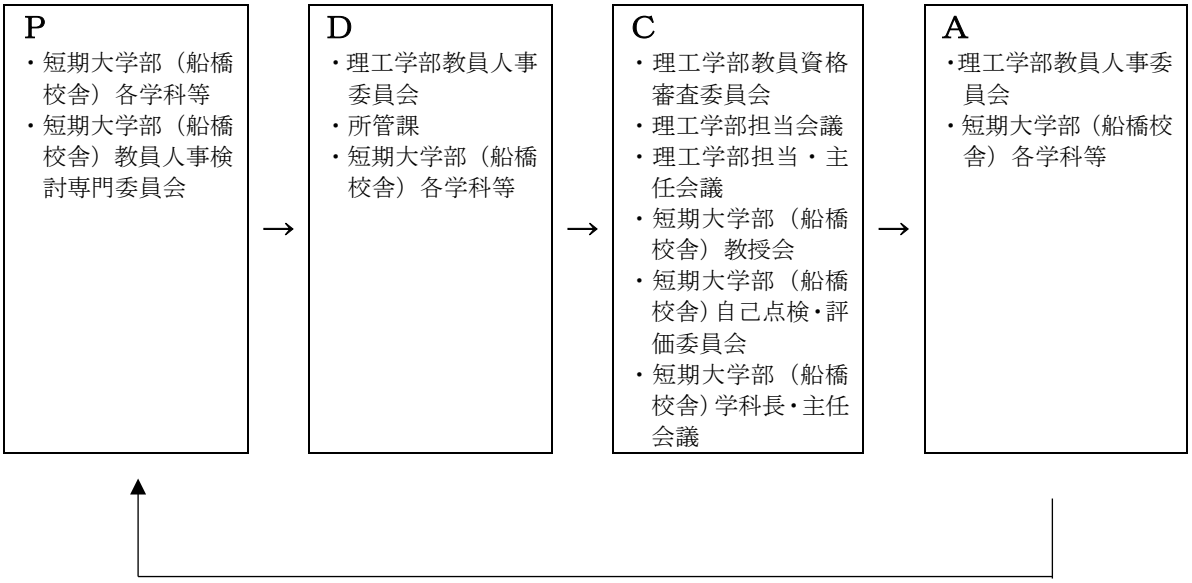
入学定員充足率の増加を目標として，短期大学部（船橋校舎）入学試験実行委員会において検討ワーキングを設置し，新規の入学者選抜方法の導入について検討を行った。その結果，令和９年度入学者選抜において，学校推薦型選抜（指定校制）を導入することについて，短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議及び同教授会にて審議され，実施することが決定した。

このほか，短期大学部（船橋校舎）広報委員会において，短期大学部（船橋校舎）教員全員の協力を得て，12 月から翌年１月に実施している高校訪問を戦略的に実施することにより，令和８年度入学者選抜において一人でも多くの志願者確保につながるよう取り組むこととしている。

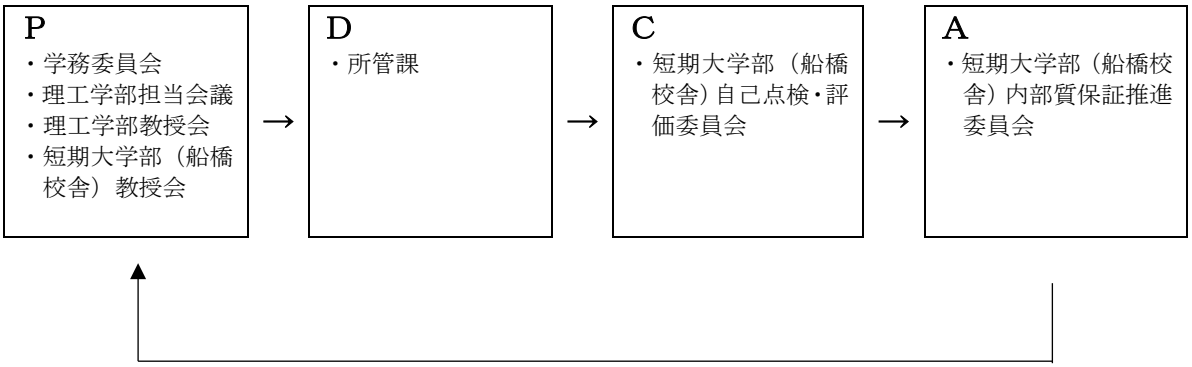
基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【人事】



【授業補助者への対応】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

各学科等から提出された次年度の教員人事計画を，短期大学部次長及び学科長・主任等で構

成される短期大学部（船橋校舎）企画調整委員会の専門委員会である短期大学部（船橋校舎）教員人事検討委員会において検討した後，毎年６月開催の理工学部教員人事委員会において，各学科等における教員の組織構成や資格ごとのバランス及び年齢構成を含めその可否を検討している。検討結果については，各学科等に通知され，必要に応じて面談を行うこととしている。この結果を基に，学科等は規程及び基準等に照らして採用活動の実施及び昇格者を検討し，理工学部教員資格審査委員会，同担当会議，同担当・主任会議及び短期大学部（船橋校舎）教授会における審査を経るものとしている。

理工学部教員人事委員会では，学校教育法等に基づき定められた「教員配置計画に係る基本方針」及び「教員組織編制方針」を踏襲し，短期大学部（船橋校舎）を含む理工学部における中・長期にわたる教員組織・人事計画「教員配置計画」に関する事項を審議し，学科等における年齢構成や資格ごとのバランスを考慮している。また，理工学部教員資格審査委員会，同担当会議，同担当・主任会議及び短期大学部（船橋校舎）教授会では，新規採用等の申請があった者について，教員規程等に定められた資格の確認及び審査を行うことで，公平性及び公正性を担保している。

同取組と並行して，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価を通じて短期大学設置基準に定める人数の充足状況等から教員組織の適切性について確認し，各学科等において課題等を抽出している。

教員組織については，各学科等において専門領域や男女構成，年齢構成，資格ごとのバランス等を確認しながら，昇格や採用の計画を立案して適切に対応しているため，短期大学部（船橋校舎）が実施する自己点検・評価において，改善課題を抽出して改善を図った事例はないのが実状である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

本記述は科研費等の外部資金申請支援に焦点を当てており，研究活動全般における役割分担や協働の具体事例が限定的であるため，改善が求められる。

各活動の具体的な成果や改善点については記述が限定的であり，評価基準の達成度や情報発信による外部連携・資金獲得への波及効果など，定量的・定性的な検証が今後の課題であり，改善が求められる。

科研費等の外部資金申請支援は，間接経費が措置される研究費獲得の側面からとらえると，研究者のみならず，研究機関としての組織を充実させる取組の内容を同時に合わせ持っていると考えられる。各府省から受入れた競争的資金（科学研究費助成事業等）の間接経費の理工学部における使用分は，研究部門及び管理部門とで原則 50％ずつとして，前者を研究者個人に配分し，各自の研究環境の改善に充て，後者は研究機関の組織的な充実に充てている。理工学部における間接経費の使用分を増額させることは，個人及び組織の両側面から同時に研究環境を改善する取組に結び付いている。特に科学研究費助成事業への積極的な応募を促し，その採択を支援する活動は，個人の充実と同時に，組織を充実させるための研究活動全般にわたる取組となっている。この取組は，短期大学部（船橋校舎）においても同様である。理工学部教授会及び短期大学部（船橋校舎）教授会において，応募件数の報告及び採択結果の報告を通して，点検・評価に供している。

また，現状では業務前の集合研修や授業補助者として必要なスキル・知識（ハラスメント防

止，守秘義務，学生対応方法など）に関する体系的な指導の実施が見られず，教員間や担当部署間での指導内容の統一性や質の保証には課題があり，改善が求められる。

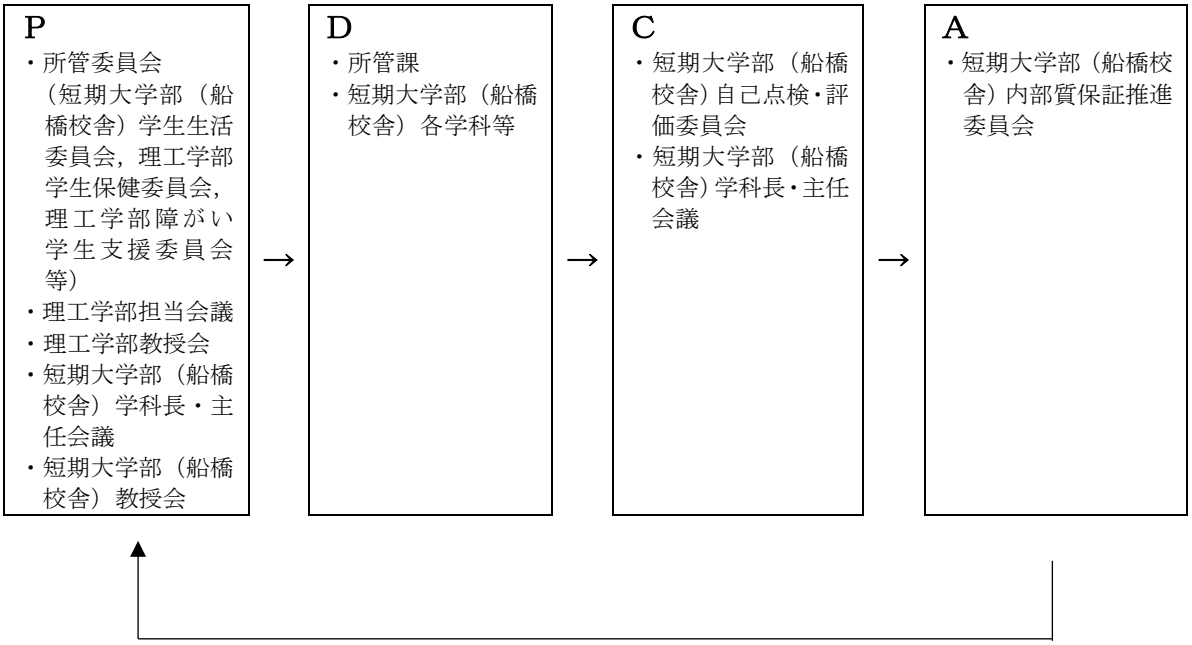
授業補助者への研修については，短期大学部（船橋校舎）は理工学部（船橋校舎）と同一の敷地内にあること，授業補助者（ＴＡ）は全員が大学院理工学研究科の大学院生で理工学部との雇用契約となっていること及びＴＡの必要人数が理工学部で 330 名，短期大学部（船橋校舎）で 12 名のため，研修については理工学部及び短期大学部（船橋校舎）のＴＡに対して，大学院を所管する理工学部駿河台校舎教務課から通知の上，実施した。

なお，令和７年度の実施内容については準備不足の面から不十分であったため，ブラッシュアップに向けて，駿河台校舎教務課から理工学部ＦＤ委員会に実施時期の早期化及び研修動画等の作成依頼を行うとともに，短期大学部（船橋校舎）内の諸会議においても，議題として意見等を聴取する。

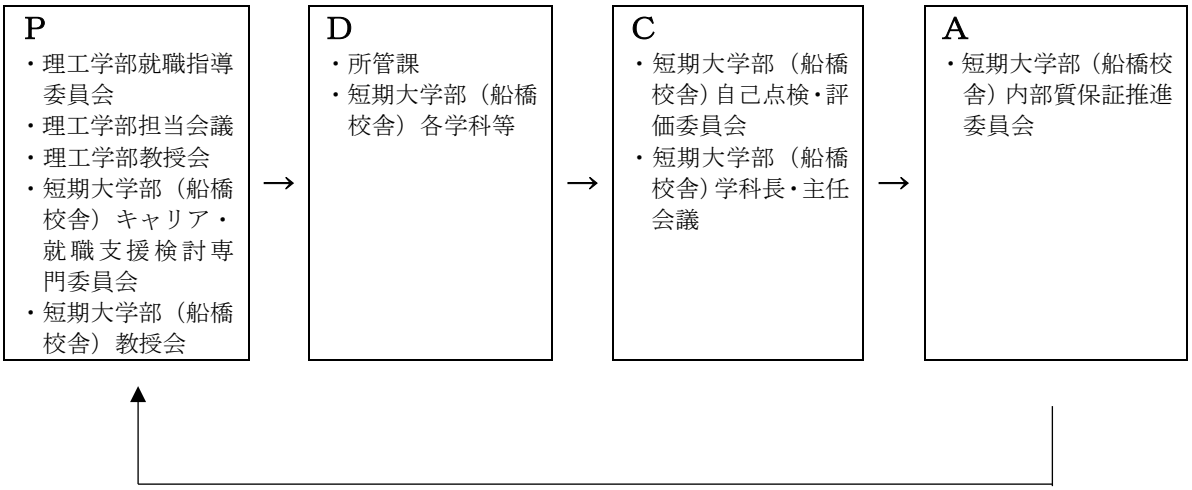
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【学生生活関係】



【就職関係】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生生活委員会においては，学生団体（サークル）の活動実績に応じ，昇格や降格，廃部，活動実績に応じた補助金支給額の審議を行っている。学部祭（桜理祭）の運営に当たっては，学生の実行委員会代表者と学生生活委員会による桜理祭協議会を校舎ごとに開催し，学部祭の企画内容の適切さや安全管理について確認し，審議の上，学生との協同に取り組んでいる。学部祭終了後には，その実施報告を検討し，次年度の取組への改善に活用している。

学生保健委員会においては，学部内の学生傷害事故等調査委員会にて報告された実験中に発生した傷害事故における原因究明と対策案を審議検討して，対策案を学部内で共有し，実験装置の取扱い手順や方法の改善を図る等，学部内で改めての注意喚起を行う契機とし，再発事故の防止と更なる安全対策に向けての取組を行っている。毎年４月に実施する「日本大学メンタルヘルスチェック（K6)」においては，取得した結果に基づき，数値や分布傾向等を分析し，リスクが高いと思われる学生への対応については，面談での状況確認を経て，必要に応じて，カウンセリングや保健室との連携，合理的配慮の申請を行って円滑に学生生活が過ごせるよう取り組んでいる。本委員会で作成し，初年次教育授業において実施している「学生生活の安全・健康学」の講義においては，各学科にて実施された状況を確認して，受講後の理解度を測るための小テストの実施や講義を担当した教員へのアンケートを行い，委員会において次年度への改善内容等を検討し，次年度の編集時に反映している。

障がい学生支援委員会においては，決定した合理的配慮の実施状況を，支援対象者及び支援実施者と面談等を通してモニタリングを実施している。実施状況に問題がある場合や追加や削減の要望がある場合には，再度委員会に諮る等の対応を行い，適切な支援が実施できるよう体制を整えている。合理的配慮の提供に当たっては，各種研修や理工学部学生理解講座などの取組を行っているが，合理的配慮の提供内容や決定過程に不服等がある場合や万が一差別的な取扱いを受けてしまった場合に備えて，令和７年７月より学生支援室への相談，本部学生支援センターへの再相談，本部学生課への救済措置の申立て等の体制を整備している。

就職支援に関する年間計画等は，就職指導委員会及び短期大学部（船橋校舎）キャリア・就職支援検討専門委員会が中心となって策定し，学生の就職活動の動向や前年の支援実績，企業からのフィードバック等を踏まえ，ガイダンスや個別相談，求人開拓等の支援方針を定めている。具体的な支援活動の実施については，就職指導課が担っており，就職支援計画の実行に当たっている。

上述のとおり，学生支援に関わる事項の適切性については，所管委員会で計画の立案を行い，理工学部担当会議，同担当・主任会議，同教授会及び短期大学部（船橋校舎）教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，課題等を抽出している。抽出された課題等は，所管委員会等にフィードバックを行っている。

これらにより，学生生活におけるより充実したサポート体制，就職活動の早期化に対応した低学年向けのキャリア形成支援プログラムを新たに開催する等，効果的な取組につなげている。

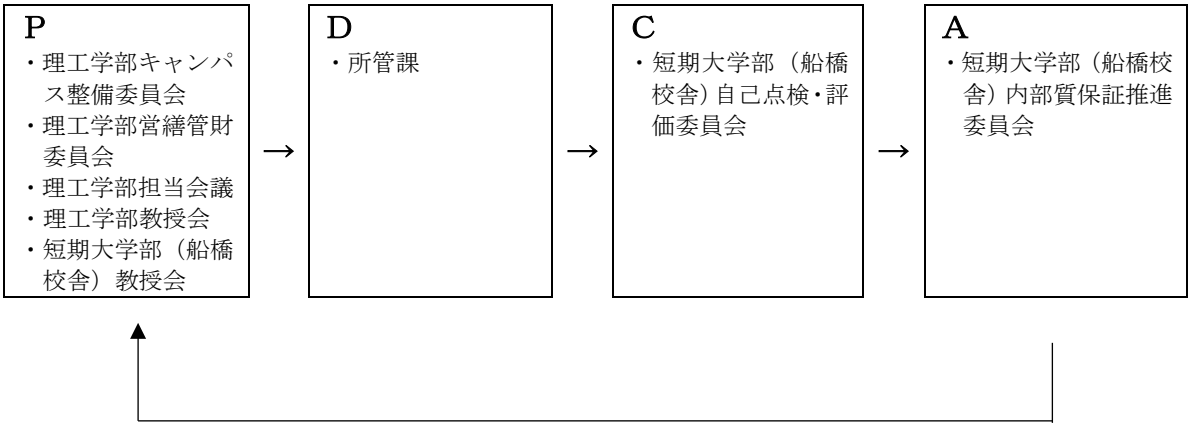
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

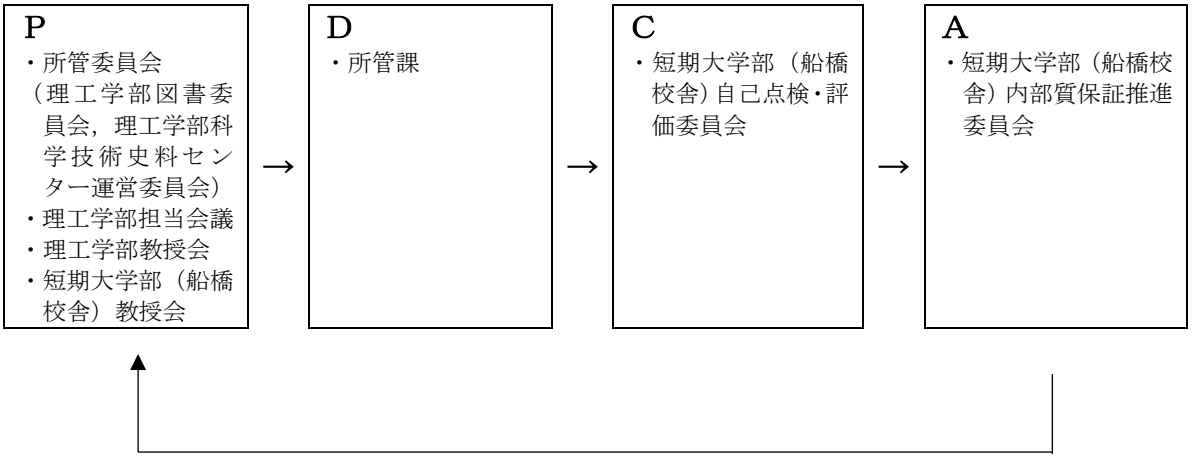
基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

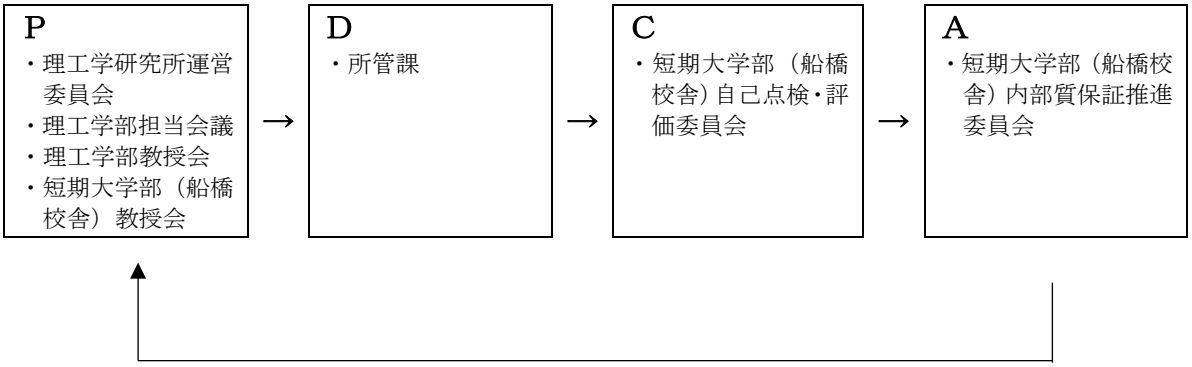
【キャンパス整備】



【図書館】



【研究所】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。
・点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

キャンパス整備委員会では，キャンパス全体に係る整備を点検する。その他の施設，設備については，毎年度，各部署から学生や教員の教育研究活動に必要な整備について，優先順位を付した上で申請を受けている。また，管財課においても老朽化している施設及びインフラ設備等も含めた校舎全体の総合点検を行い，緊急性や重要性を考慮した上で施設の整備計画を作成している。これらを基に，営繕管財委員会にて，予算規模や各学科からの施設・設備申請内容・優先順位等を考慮し，次年度に実施する施設・設備の計画を決定している。

改善・向上を図った事例としては，船橋校舎１号館～７号館階段手摺設置工事，テクノプレース 15 空調設備更新工事，船橋校舎階段教室便所和便器交換その他工事，船橋校舎８号館東側入口自動ドア化工事，船橋校舎実験室等無線ＬＡＮ整備，船橋校舎 12 号館地下演習室視聴覚設備更新及び船橋校舎階段教室（小）ＡＶ機器更新を各々実施し，施設・設備の改善・向上を図った。

図書委員会では，図書館業務全般の報告のほか，図書館における諸課題への対応策の検討等を行い，その結果を基に図書館事務課が具体的な対応策を策定し，図書館利用の促進及び所蔵資料のアクセス促進を図っている。

科学技術史料センター運営委員会では，科学技術史料センターに関する報告のほか，特別展の企画，受贈・寄贈品受入の検討を行い，その結果を基に図書館事務課が具体的な対応策を策定し，センター利用の促進及び史料の充実を図っている。

理工学研究所運営委員会では，学部が実施する助成金等に競争的資金をより獲得していくことを目指す各種支援を行っている。また，理工学研究所長から，特に科学研究費助成事業への積極的な応募を学部・短期大学部内で促し，外部資金獲得のための説明会の実施・参加に取り組んでいる。これらの各取組の実施については，研究事務課が担っている。

上述のとおり，教育研究等環境に関わる事項については，所管委員会で計画の立案を行い，理工学部担当会議，同担当・主任会議，同教授会及び短期大学部（船橋校舎）教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ同結果の報告を経て，課題等を抽出している。抽出された課題等は所管委員会等にフィードバックを行っている。

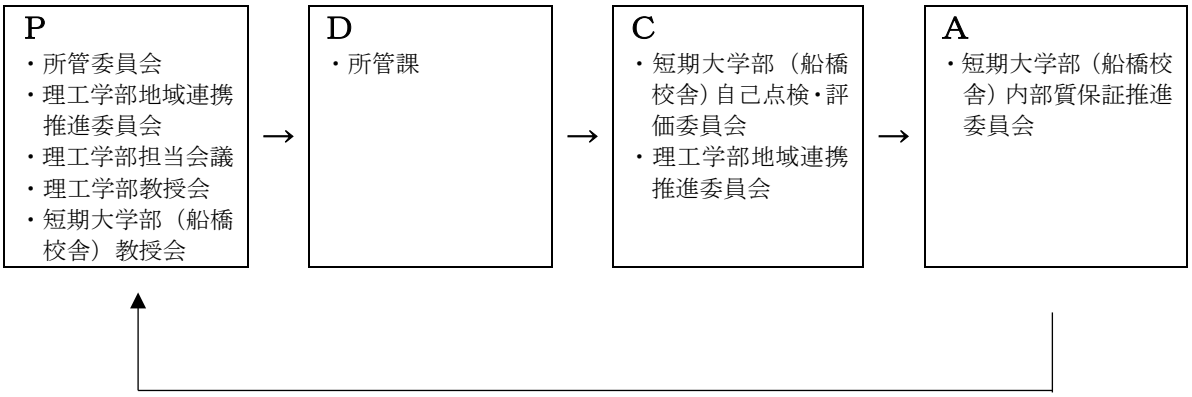
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

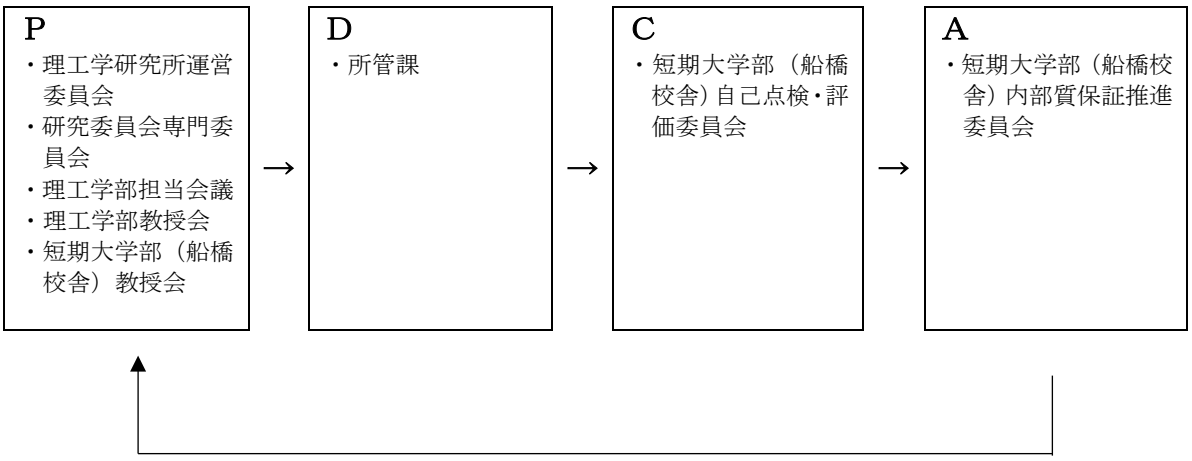
基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【公開講座等】



【研究関係】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

公開講座等の社会連携・社会貢献を目的としたイベントは，短期大学部教員も委員として加わっている理工学部地域連携推進委員会及び各イベントを所管する各委員会において，それぞれの特色を生かして計画を立案し，理工学部担当会議，同担当・主任会議，同教授会及び短期

大学部（船橋校舎）教授会での報告・審議等を経て，所管課等で実施している。同取組等については，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，同結果は短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ報告を行い，課題等を抽出している。

なお，検討・検証の段階では，理工学部地域連携推進委員会においても各イベントの実施状況等の確認を行い，ホームページを通して学外に広く発信しており，短期大学部（船橋校舎）を含む理工学部全体の地域連携活動全体の改善・向上につながるよう計画の立案にも寄与している。

また，理工学研究所では，令和４年度から主に企業を対象とした研究所公開イベントを実施しており，同イベントは社会連携・社会貢献として果たす効果と同様に受託・共同研究に結び付くことを期待して，関連委員会において計画を立案し，理工学部担当会議，同担当・主任会議，同教授会及び短期大学部（船橋校舎）教授会で報告等を行い，研究事務課等で実施している。同取組等についても，短期大学部（船橋校舎）自己点検・評価委員会が中心に実施する自己点検・評価等を通じて検討・検証を行い，短期大学部（船橋校舎）内部質保証推進委員会へ報告を経て，課題等を抽出している。同イベントについては，理工学部が実施した外部評価結果において社会から意見交換等を通して研究課題をもらい，それをフィードバックする良いサイクルになっているとの評価を受けており，毎年実施している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　法学部，法学研究科，新聞学研究科

（法学部）

基準	基準３　教育研究組織	
改善事項（注１）	新規	カリキュラムの点検・評価
	継続	
当時の状況	令和５年度に完成年度を迎えた現行カリキュラム（令和２年度改訂）の点検・評価を実施していない。学問の動向・社会的要請等の変化に対応した教育研究組織の見直しのため，同カリキュラムを点検・評価を実施する。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ カリキュラム改訂を念頭においた点検・評価を行う。 ［具体的方策］ 法学部内部質保証推進委員会，学務委員会等が点検・評価方法を検討し実施する。	
改善達成時期	令和８年度	
改善担当組織	法学部内部質保証推進委員会，学務委員会，ＦＤ委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	現時点で現行カリキュラムの点検・評価の実施計画は未定である。 上記改善担当組織により，学問の動向・社会的要請等の変化に対応した教育研究組織の見直しのため，点検・評価を実施したい。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし	

（法学研究科）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項（注１）	新規	大学院法学研究科の３つのポリシーの点検・評価
	継続	
現在の状況	大学院法学研究科の３つのポリシーの設定以来，見直しを行っていない。外部評価を行い，点検・評価を実施する。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 大学院法学研究科の３つのポリシーについて，外部評価を含めて，点検・評価を実施する。 ［具体的方策］ ・３つのポリシーの見直しに当たっては外部評価を実施する。 ・法学部内部質保証推進委員会，大学院運営委員会，大学院法学研究科ＦＤ委員会が中心となり検討する。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	法学部内部質保証推進委員会，大学院運営委員会，大学院法学研究科ＦＤ委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和６年度に法学部内部質保証推進委員会での検討を経て，大学院ＦＤ委員会が中心となり，大学基準協会の大学基準及び点検・評価項目に準拠して，外部機関による点検・評価を実施した（【法学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和６年度第１回学部等内部質保証推進委員会，【法学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_２　外部評価報告書）。 外部評価の指摘により，学部等（アドミッション・ポリシー）において，「求められる学修歴について記載が望まれる」，「入学者に求める資質や能力と入学者選抜の方法等の関係性について記載がない」との意見が付されたことを受けて，大学院ＦＤ委員会，大学院運営委員会及び大学院分科委員会において，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しを行い，一部改正をした（【法学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第４回大学院法学研究科分科委員会）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【法学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和６年度第１回学部等内部質保証推進委員会 ②　【法学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_２　外部評価報告書 ③　【法学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第４回大学院法学研究科分科委員会	

（新聞学研究科）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	大学院新聞学研究科の３つのポリシーの点検・評価を行う
	継続	
現在の状況	大学院新聞学研究科の３つのポリシーの設定以来，見直しを行っていない。外部評価を行い，点検・評価を実施する。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 大学院新聞学研究科の３つのポリシーについて，外部評価を含めて，点検・評価を実施する。 ［具体的方策］ ・３つのポリシーの見直しに当たっては外部評価を実施する。 ・法学部内部質保証推進委員会，大学院新聞学研究科運営委員会及び大学院新聞学研究科ＦＤ委員会が中心となり検討する。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	法学部内部質保証推進委員会，大学院新聞学研究科運営委員会，大学院新聞学研究科ＦＤ委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和６年度に法学部内部質保証推進委員会での検討を経て，大学院ＦＤ委員会が中心となり，大学基準協会の大学基準及び点検・評価項目に準拠して，外部機関による点検・評価を実施した（【新聞学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和６年度第１回学部等内部質保証推進委員会，【新聞学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_２　外部評価報告書）。 外部評価の指摘により，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）において，「求められる学修歴について記載が望まれる」，「入学者に求める資質や能力と入学者選抜の方法等の関係性について記載がない」との意見が付されたことを受けて，大学院ＦＤ委員会，大学院運営委員会及び大学院分科委員会において，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しを行い，一部改正をした（【新聞学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第４回大学院新聞学研究科分科委員会）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【新聞学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和６年度第１回学部等内部質保証推進委員会 ②　【新聞学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_２　外部評価報告書	

	③　【新聞学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第４回大学院新聞学研究科分科委員会

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　文理学部，文学研究科，理工学研究科（地理学専攻）

（文理学部）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	改善事項
	継続	
現在の状況	文理学部では受託研究・共同研究等の受け入れ実績は多くあり，また，「日本大学文理学部受託研究等に関する内規」及び「日本大学文理学部研究助成金等受入れに関する要項」を制定している。令和５年度は，本学部において研究・教育職に位置付けられながら，規定の整備が遅れていた研究面での拡充作業を優先させ，大型の科研費獲得等の成果を得た。また，先行して文理学部資料館及び次世代社会研究センター等の協力を得て，研究成果の外部発信及び産官学連携の強化を図るなど，一定の社会連携・社会貢献を果たしている。今後，遅れている内規への方針の追加について検討を図りたい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所の各研究所運営委員会及び研究委員会が連携の上，大学の研究成果を社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針について検討する。 ［具体的方策］ 人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所などの各付置研究所運営委員会及び研究委員会が連携の上，大学の研究成果を社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を「日本大学文理学部受託研究等に関する内規」に盛り込むべく，社会連携・社会貢献の在り方及び規定案について検討する。	
改善達成時期	令和８年度中	
改善担当組織	研究事務課	

令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度に研究事務課が「日本大学文理学部受託研究等に関する内規」に具体的に文言を追記し，研究担当に改正案を提示したが，他学部の内規の整備状況・内容の調査を踏まえ，再度検討を研究担当と行い，案について三研究所長に意見を仰ぐこととなった（【文理学部】進捗状況根拠資料_基準９　「日本大学文理学部受託研究等に関する内規」改正案）。 現状，この他学部の内規の整備状況・内容の調査が完了しておらず具体的な審議を行うには至っていない。 令和８年度においては，この調査を継続し，研究担当及び三研究所長と打合せ後，研究委員会及び三研究所の意見を取りまとめるべく，令和８年度に継続して検討を行う必要がある。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 研究担当及び三研究所長の意見を取りまとめ，内規改正案を作成し，研究委員会及び三研究所運営委員会承認を経て，担当会議及び合同教授会承認を得ることに取り組む。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【文理学部】進捗状況根拠資料_基準９　「日本大学文理学部受託研究等に関する内規」改正案

（文学研究科，理工学研究科（地理学専攻））

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	改善事項
	継続	
現在の状況	文学研究科及び理工学研究科（地理学専攻）においては，定員未充足の状況が続いているため改善する必要がある。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 広報活動の強化と学部からの内部進学者の確保及び社会人入試の拡大を行う。 ［具体的方策］ 大学院文学・理工学研究科分科委員会において，留学生を含めた広報活動を積極的に行っていく。庶務課・研究事務課とも協力し，研究科所属教員の研究成果を広く社会にアピールしていく。学部からの進学促進として，既存の学内選考，大学院科目の早期履修制度についてもさらに周知徹底していく。また一部専攻で導入している社会人入試の拡大も検討していく。	
改善達成時期	令和７年３月	
改善担当組織	大学院文学・理工学研究科分科委員会，教務課，研究事務課，庶務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	文学研究科及び理工学研究科（地理学専攻）における定員未充足の状況については，令和６年全学自己点検・評価後においても大きな改善には至っていないのが現状である。 これまでに，大学院文学・理工学研究科分科委員会等において，定員充足に向けた課題意識の共有は行われてきたが，広報活動の具体的な強化策の実施や進学者の確保につながる新たな取組の展開には至っていない。また，一部専攻で導入している社会人入試についても，制度の拡大や募集方法の見直しに向けた具体的な検討は進んでおらず，実質的な改善には結び付いていない状況である。 この背景としては，少子化の進行や学生の進路選択の多様化も要因として考えられる。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 今後は，大学院文学・理工学研究科分科委員会において，広報内容や入試種類の見直しについて検討を行い，研究科の教育研究の特色や研究成果を分かりやすく発信できる体制の	

	構築を目指す。具体的には，既存の学内選考制度及び大学院科目の早期履修制度について，学生及び学部教員への周知方法を見直し，制度の活用促進を図る。 　さらに，社会人入試については，他大学の取組事例等も参考にしながら，受験しやすい制度設計や募集方法の在り方について検討を行い，中長期的な視点で段階的に改善を進めていく。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　経済学部，経済学研究科

（経済学部）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	学部要覧に日本大学の目的及び使命並びに教育理念を掲載
	継続	
現在の状況	日本大学の目的及び使命及び日本大学の教育理念を踏まえた学部の教育理念及び教育目標を掲載しているため，学部要覧に，「日本大学の目的及び使命」及び「日本大学の教育理念」を掲載していなかった。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 令和７年度の学部要覧から掲載する。 ［具体的方策］ 令和７年度学部要覧に掲載する。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度の学部要覧から「日本大学の目的及び使命」，「日本大学の教育理念」を掲載の上，学部ホームページにも公表し改善した（【経済学部】進捗状況根拠資料_基準１　令和７年度学部要覧）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【経済学部】進捗状況根拠資料_基準１　令和７年度学部要覧	

（経済学部）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	外部評価結果を受けた改善・向上等の取組
	継続	
現在の状況	現時点では，外部評価の結果を会議体において検討する取組は行っていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 令和４年度以降，外部評価の結果を会議体において検討する取組みは行っていないため，内部質保証推進委員会委員会等の中で検討及び改善を行う体制を整えていく。 ［具体的方策］ 令和６年度の外部評価結果を速やかに内部質保証推進委員会に報告し，内部質保証推進委員会で検証・検討後，関係する委員会等にその改善策・対応策の立案を指示する。関係する委員会等で企画・立案し，再度，内部質保証推進委員会に上程し改善・向上を図る。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	経済学部内部質保証推進委員会，庶務課，教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年３月に実施した外部評価の結果は，学務委員会に報告した上で，経済学部内部質保証推進委員会に報告した（【経済学部】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和７年度第１回学務委員会議事録，【経済学部】進捗状況根拠資料_基準２_２　令和７年度第１回内部質保証推進委員会議事録）。外部評価で指摘された事項については，経済学部内部質保証推進委員会で検証・検討を行った結果，学務委員会に対して改善策を作成するよう指示があり，学務委員会で改善策を立案の上，学部長に上申した（【経済学部】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第 15 回学務委員会議事録）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 今後は，学務委員会で企画・立案した改善策を経済学部内部質保証推進委員会で審議・検討を行う。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【経済学部】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和７年度第１回学務委員会議事録 ②　【経済学部】進捗状況根拠資料_基準２_２　令和７年度第１回内部質保証推進委員会議事録 ③　【経済学部】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年	

	度第 15 回学務委員会議事録

（経済学研究科）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	外部評価結果を受けた改善・向上等の取組
	継続	
現在の状況	現時点では，外部評価の結果を会議体において検討する取組は行っていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 令和４年度以降，外部評価の結果を会議体において検討する取組みは行っていないため，内部質保証推進委員会委員会等の中で検討及び改善を行う体制を整えていく。 ［具体的方策］ 令和６年度の外部評価結果を速やかに内部質保証推進委員会に報告し，内部質保証推進委員会で検証・検討後，関係する委員会等にその改善策・対応策の立案を指示する。関係する委員会等で企画・立案し，再度，内部質保証推進委員会に上程し改善・向上を図る。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	経済学部内部質保証推進委員会，庶務課，教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年３月に外部評価を実施し，その結果を大学院委員会及び経済学部内部質保証推進委員会に対して報告した（【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和７年度第１回大学院委員会議事録，【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_２　令和７年度第１回内部質保証推進委員会議事録）。外部評価で指摘された事項は，経済学部内部質保証推進委員会で検証・検討を行った結果，大学院委員会に対して改善策を作成するよう指示があり，大学院委員会で改善策を立案の上，学部長に上申した（【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第 11 回大学院委員会議事録）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 今後は，大学院委員会で企画・立案した改善策を執行部会で審議・検討を行う。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_１　令和７年度第１回大学院委員会議事録 ②　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_２　令和７年度第１回内部質保証推進委員会議事録	

	③　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準２_３　令和７年度第 11 回大学院委員会議事録

（経済学研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	卒業の認定に関する方針の改善について
	継続	
現在の状況	「学生が修得すべき知識」,「技能」,「態度」等，当該課程・専攻にふさわしい学習成果を示せていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 「学生が修得すべき知識」,「技能」,「態度」等を明文化し，当該課程・専攻にふさわしい学習成果を示す。 ［具体的方策］ 大学院委員会で検討し明文化する。	
改善達成時期	令和８年度	
改善担当組織	大学院委員会，教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	従来の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が研究科全体としての共通的な到達目標にとどまっており，学生が所属する特定の教育研究分野（コース）ごとの専門性に即した修得目標や能力像が不明確であるという課題があったため，教育の実質化と質の向上を図ることを目的に，各コースの専門分野における研究活動や将来のキャリアに必要な知識，技能，態度を統合した「能力」（コンピテンシー）を明確に定義し，これを基盤としたコース固有の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を新たに策定した。 また，コースごとの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）で示された修得すべき能力が，対応するコースの教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を通じて修得されるよう，教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の内容も併せて改正し，両ポリシーの連動性を図ることにより，各コースの教育課程の目標を具体的な学習成果として明確化した（【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度第５回大学院分科委員会議事録，【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」の新旧対照表）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 令和７年 11 月の大学院委員会・担当会議・大学院分科委員会において卒業の認定に関する方針を正式に策定・公表と	

	した。策定後は，毎年度の自己点検・評価において当該方針の検証を行い，学修成果との整合を確認しながら継続的な改善を図る（【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」）。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度第５回大学院分科委員会議事録 ②　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」の新旧対照表 ③　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」

（経済学研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	教育課程の編成及び実施に関する方針の改善について
	継続	
現在の状況	「教育課程の体系」及び「教育課程を構成する授業科目区分」は大学院要覧において，「教育内容」及び「授業形態」についてはシラバスにおいて示している。「学習成果の評価」については，把握するための調査は行っているが，評価するための指標は設定していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 卒業の認定に関する方針に基づき，「学修成果の評価」を示す。 ［具体的方策］ 大学院委員会で検討し明文化する。	
改善達成時期	令和８年度	
改善担当組織	大学院委員会，教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和６年全学自己点検・評価において指摘された「学修成果の評価」の明確化については，令和７年度に教育課程編成の基盤となる教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正を行い，学習成果の整理と到達目標の再定義を実施した（【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度第５回大学院分科委員会議事録，【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」の新旧対照表，【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」）。 これを踏まえ，令和８年度においては，改正した教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との整合を図りつつ，学習成果を評価するための具体的な指標及び方法の検討・設定を大学院委員会で進めることを課題として取り組む予定である。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 令和７年度に実施した教育課程の実施・編成方針（カリキ	

	ュラム・ポリシー）及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の改正内容を踏まえ，令和８年度においては，学修成果の評価指標及び評価方法の整備を進める。具体的には，大学院委員会において，授業科目ごとの到達目標との連動や質的・量的データの活用方法について検討を行い，評価指標の明文化を図る。あわせて，評価結果を教育課程の改善に活用する仕組みの構築についても検討を進め，体系的な教育改善サイクルの実現を目指す。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度第５回大学院分科委員会議事録 ②　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」の新旧対照表 ③　【経済学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　大学院経済学研究科における「カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）」及び「ディプロマ・ポリシー（ＤＰ）」

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　商学研究科

（商学研究科）

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	定員の充足
現在の状況	商学研究科は慢性的な定員割れが生じている	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 商学研究科博士前期課程は 1 学年の定員は３専攻それぞれ 30 名合計 90 名であるが，慢性的な定員割れを生じており，定員割れを解消できるよう方策を検討，実施していく。 ［具体的方策］ 令和６年度から内部進学希望者に対し大学院科目早期履修制度を導入した。今後も引き続き学部教育との連携を強化して内部進学を促すとともに，オープンキャンパスや予備校・塾などへの広報活動の充実を通じて志願者数を増加させる方策を実施する。また，令和７年度入学試験より入学試験方式を増やし，外国人留学生入学試験（第２期）を行う。 なお，具体的方策については，各専攻の科目担当者会議や大学院商学研究科課程検討委員会で検討を行う。	
改善達成時期	令和８年３月予定	
改善担当組織	大学院課程検討委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	大学院科目早期履修制度を導入した結果，令和７年度は，大学院進学を希望する学部学生１名が同制度を利用し，大学院開講科目を履修している（【商学研究科】進捗状況根拠資料_基準５　日本大学大学院商学研究科大学院科目早期履修生募集要項）。 令和７年度入学試験より，外国人留学生入学試験（第２期）を導入し，併せて入試広報活動を充実させたことにより，受験者数が 90 名（令和６年度入試）から 115 名（令和７年度入試）に増加している。令和８年度入学試験においても，第１期入学試験では，前年度入学試験と同水準以上が受験しており，慢性的な定員割れ解消に向けた改善策が奏功している。	

	≪改善に向けた今後の取組≫ 　大学院科目早期履修制度の導入や入学試験制度の追加などの施策を実施した結果，受験者数は改善傾向にあるが，依然として定員を充足していない状況に鑑み，今後も継続して取り組み，引き続き動向を注視する必要がある。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【商学研究科】進捗状況根拠資料_基準５　日本大学大学院商学研究科大学院科目早期履修生募集要項

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　芸術学部

（芸術学部）

基準	基準８　教育研究等環境	
改善事項	新規	学生のさらなる創作活動に対応可能な教育研究等環境の確保
	継続	
現在の状況	江古田キャンパスはコンパクトにまとまっている一方，学生がさらに創作活動範囲を広げようとするにはキャンパス内の教育研究環境に限りがある。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ キャンパス内だけではなくキャンパス外にも，その教育研究環境を確保していく。 ［具体的方策］ 江古田キャンパスの敷地を広げたり建物を増築したりするということではなく，キャンパス周辺の街中や，連携プロジェクトにおける相手組織の外部資源等を有効活用することによって教育研究環境を確保していく。	
改善達成時期	令和６年度中	
改善担当組織	連携企画委員会，教務課及び関連部署	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	学生の更なる創作活動に対応可能な教育研究等環境の改善に当たり，物理的に研究施設や創作場所を広げることは不可能であるため外部資源の活用やネット環境等の充実を図ることの検討を行った。その結果，学務委員会及びＦＤ委員会を中心に以下の取組を実施した。 ①　キャンパス外の資源を体系的に取り込み，実社会と接続した創作の場を増やすために令和６年度に比べ連携型プロジェクト科目を２科目増設した（【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_１　令和７年度共通教育科目「連携型プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」開講について）。 ②　学生の創作活動を促進させるためのツールとしてアドビ無償ライセンスの配布を行った。また，教員のコンテンツのスキル向上を図るために教職員に向けてAdobe Express の技術講習会を実施した（【芸術学部】進	

	捗状況根拠資料_基準８_２　AdobeCreativeCloud の無償ライセンスの配布開始について)。 ③　キャンパス外の教育研究環境を確保するために「校外授業に関する要項」を整備し，校外授業や学外活動の実施を促進することとした（【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_３　校外授業に関する要項)。 ④　株式会社共同通信社から委託され東京スカイツリーで開催された「大昆虫展 2024」の展示内容に関する企画・展示・ワークショップ等のデザイン開発研究を行い，外部組織との連携を図っている（【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_４　受託研究　決裁及び委託研究終了届)。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 学生が創作活動を行うに当たり充実した教育研究環境を確保する方策として，連携型授業の増設や校外授業や学外活動の実施の促進など一定の改善を図ることができた。改善は達成としつつも引き続き，学生の教育研究環境を確保していくための方策を検討していく。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_１　令和７年度共通教育科目「連携型プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」開講について ②　【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_２　AdobeCreativeCloud の無償ライセンスの配布開始について ③　【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_３　校外授業に関する要項 ④　【芸術学部】進捗状況根拠資料_基準８_４　受託研究決裁及び委託研究終了届

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　国際関係学部・国際関係研究科

（国際関係学部）

基準	基準２　内部質保証 基準４　教育・学習 基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	教育の内部質保証を担保するためのＩＲの積極的な活用方針の策定と実施
現在の状況	国際関係学部では，令和５年度に教学ＩＲ委員会が退学者の分析を実施した。特に１年次必修科目である「自主創造の基礎」の単位未修得者と退学率の関係性を分析し，相関関係が高い結果となった。本学部では，成績不振者に対して学生面談を実施しているが，その対象者の基準を見直し，１年次５月末時点で「自主創造の基礎」の欠席回数が３回を超える者を新たに追加し，令和６年度より退学防止のための早期面談を実施している。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 令和５年度より分析内容を決定して取り組んでいるが，教育の内部質保証の確立やＩＲの積極的な活用方針の策定を行う。 ［具体的方策］ 分析結果の把握にとどまらず，内部質保証の確立に向けた取組を実行し，他の委員会との連携も強化する。	
改善達成時期	令和８年３月	
改善担当組織	教務課，教学ＩＲ委員会，学務委員会等	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度はＩＲの積極的な活用方針の策定を行うことができなかったが，一般入学試験で入学した学生の退学率について検証を継続している。教学ＩＲ委員会では，令和６年度の退学者分析において一般入学試験で入学した学生の退学率が高い点に着目し，「自主創造の基礎」の各担当教員に配布するクラス名簿に入試種別を新たに追記することとした。一般入学試験で入学した学生は，特待生等に選出されることが多く，優秀な成績を収める学生も多いが，そのような学生が退学している事例もある。成績不振者には面談制度があるが，	

	優秀な学生にはそのような制度が存在しないため，きめ細かな指導ができるよう改善を図っている。これら分析により，成績不振者以外の学生にも視野を広げ，学修成果の可視化に努めるサイクルの循環により少しずつ教育の内部質保証の確立につなげている（【国際関係学部】進捗状況根拠資料_基準２・４・５_１　令和７年度１年生クラス名簿)。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 　退学者分析を継続し，一般入学試験で入学した学生の退学率について検証を行う。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【国際関係学部】進捗状況根拠資料_基準２・４・５_１　令和７年度１年生クラス名簿

（国際関係研究科）

基準	基準２　内部質保証 基準４　教育・学習 基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	教育の内部質保証を担保するためのＩＲの積極的な活用方針の策定と実施
現在の状況	大学院博士前期課程，後期課程を通じたカリキュラムのリサーチワークとコースワークを組み合わせたカリキュラム改定を検討し，学部教育と大学院教育の連携，社会のニーズと合致する大学院教育を推進できる体系的カリキュラムの構築を進め，教育の内部質保証の検証及び推進体制の構築を目指そうとしている。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 内部質保証の向上のため，教学ＩＲ委員会における学生データの分析・活用を積極的に行い，ＩＲを推進する。 ［具体的方策］ 内部質保証の確立には，ＩＲは必須であると捉えており，令和５年９月から新教務システムが導入されたが，学生データの積極的な分析・活用を行えていない。国際関係学部のカリキュラム改定に合わせて大学院のカリキュラムを検討し，学部教育と大学院教育の連携，社会のニーズと合致する大学院教育を推進できる体系的カリキュラムの構築を進め，教育の内部質保証の検証及び推進体制の構築を目指す。	
改善達成時期	令和 13 年４月	
改善担当組織	大学院運営委員会，教学ＩＲ委員会，教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和６年度に，大学院生の学修状況を把握するための調査を実施することを決定し，令和７年度から大学院生を対象に学修状況等調査を実施した。今後は収集したデータを分析し，分析した結果を大学院運営及び教育・研究サポートへの充実に活用したい（【国際関係研究科】進捗状況根拠資料_基準２・４・５_１　令和７年度前学期大学院生への学修状況等調査）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 学修状況等調査結果を検証する。	
「令和６年全学自己点検・評価	①　【国際関係研究科】進捗状況根拠資料_基準２・４・５_１　令和７年度前学期大学院生への学修状況等調査	

後の改善状況」の根拠資料	

（国際関係学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	カリキュラム改定に伴い，「教育の質保証」の一環として，アセスメント・ポリシーを策定する。
	継続	
現在の状況	国際関係学部では，平成 28 年度入学生から教育課程（カリキュラム）を改定したが，その後，教育課程（カリキュラム）及びその内容，方法の適切性について定期的に点検・評価をする仕組みがなく，「教育の質保証」の一環としてのアセスメント・ポリシーも策定されていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 令和９年度入学生から教育課程（カリキュラム）の改定を目指し，新カリキュラムに伴う三つのポリシーの見直し及びアセスメント・ポリシーについても策定する。 ［具体的方策］ カリキュラム検討委員会を設置し，令和５年７月から令和６年７月にかけて現行のカリキュラムの各コース専門教育科目の内，コース専門基礎科目及びコース専門科目について，点検・評価し，新カリキュラム改定に伴う準備をした。今後，令和９年度入学生からの教育課程（カリキュラム）を改定し，アセスメント・ポリシーについても策定する。	
改善達成時期	令和９年４月	
改善担当組織	カリキュラム検討委員会，学務委員会，教務課等	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年６月にカリキュラム改定委員会を発足し令和９年度にカリキュラム改正を行う予定である。同時にアセスメント・ポリシーについても策定するべく，検討を進めている。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 特になし	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし	

（国際関係学部）

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	国際関係学部では，収容定員に対して適正な数を維持しているが，入学定員については未充足であることによる入学定員の充足
現在の状況	収容定員に対しては適正な数を維持しているが，入学定員充足率については，令和５年度は国際総合政策学科 97%, 国際教養学科 78%，令和６年度は国際総合政策学科 93%, 国際教養学科 82%，国際関係学部合計 89%で入学定員未充足の状態である。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 入学定員未充足であることによる入学定員の充足 ［具体的方策］ 以前より，国際関係学部入試管理委員会を中心に，各関連部署と連携し，入試日程，入試方法等の入学者選抜に関する事項及び募集活動等について検討を重ねている。また，入試広報業務で契約している広報企業や受験関連企業から受験生やその保護者の志望傾向等のデータを活用し，志願者を増やすための活動に役立てている。 入学者選抜の方策として，総合型選抜を年内に３回実施し，そのうち第１期・第３期は,「探究型プレゼンテーション方式」を新設した。学校推薦型選抜（付属高等学校等）については募集人員を増やした。一般選抜の募集人員を減らし，総合型選抜を増やすことにより，年内入試へ力を入れ，志願者増加を目指す。 また，一般選抜Ａ個別方式第１期・第２期において，外部の英語資格・検定試験スコアを外国語の得点として利用することができるように変更した。 募集活動においては，学校選びの早期化傾向があることから，４月中の高校訪問を開始した。オープンキャンパス開始についても，例年６月開始のところを５月開始として，希望者の訪問しやすい機会を提供している。ホームページ及びＳＮＳによる発信についても，動画コンテンツをできるだけ取り入れるよう意識している。	
改善達成時期	令和８年３月	
改善担当組織	国際関係学部入試管理委員会，広報委員会，教務課，庶務課等	

令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	国際関係学部では，収容定員に対して適正な数を維持しているが，入学定員については未充足であるため，入学定員の充足を目指す（【国際関係学部】進捗状況根拠資料_基準５_１入学者数一覧（令和５年～令和７年)）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 入学定員充足率について，令和７年度は国際総合政策学科104%，国際教養学科 104%と入学定員は充足された（【国際関係学部】根拠資料_基準５_１　入学者数一覧（令和５年～令和７年)）。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【国際関係学部】進捗状況根拠資料_基準５_１　入学者数一覧（令和５年～令和７年）

（国際関係研究科）

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	入学定員並びに収容定員ともに未充足であることによる入学定員の充足
現在の状況	令和６年度の入学者数比率は，博士前期課程が 80%，博士後期課程が 33.3%，研究科全体では 69.2%であった。令和７年度の入学者数比率は，博士前期課程が 70%，博士後期課程が 33.3%，研究科全体では 61.5%であった。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 引き続き入学定員の充足を目指す。 ［具体的方策］ 現在の入試状況に鑑み，博士前期課程については令和５年度から新たに学内推薦入学試験を実施し定員充足を満たしたものの，令和７年度については定員を満たさなかったため，引き続き大学院運営委員会を中心に入試の実施，募集活動を，また必要に応じて教育課程を検討していく。博士後期課程については将来のキャリアパスを検討し進学後の研究活動の目標を示していく。	
改善達成時期	令和 13 年４月	
改善担当組織	大学院運営委員会等，教務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	学部学生に対して，国際関係研究科の説明会を年に２回実施している。現役研究科生及び本研究科出身の教員による体験談を交えており，関心を抱く学生はいるものの定員を満たさない状況が続いている（【国際関係研究科】進捗状況根拠資料_基準５_１　入学者数一覧（令和５年～令和７年），【国際関係研究科】進捗状況根拠資料_基準５_２　令和７年度国際関係研究科進学説明会）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 引き続き説明会を開催し，入学定員の充足を目指す。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【国際関係研究科】進捗状況根拠資料_基準５_１　入学者数一覧（令和５年～令和７年） ②　【国際関係研究科】進捗状況根拠資料_基準５_２　令和７年度国際関係研究科進学説明会	

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　危機管理学部・危機管理学研究科

（危機管理学部）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	設問項目① ホームページへの必要項目の掲載
	継続	
現在の状況	ホームページに，一部の項目を掲載していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 全ての項目を掲載する。 ［具体的方策］ 全ての項目について所管委員会が掲載作業を行う。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）内，情報公開ページにおいて，以下情報を掲載した（【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準１　教育研究上の基礎的な情報）。 ①　学部，学科，課程，研究科，専攻ごとの名称及び教育研究上の目的及び学校教育法施行規則第百十五条の二　第一項の規定により定める方針 ②　専任教員数 ③　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ④　授業料，入学料その他の大学等が徴収する費用 ⑤　校舎等の耐震化率及び耐震化完了計画 ⑥　寄附行為，役員等名簿，役員報酬等の支給の基準	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準１　教育研究上の基礎的な情報	

（危機管理学研究科）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	設問項目① ホームページへの必要項目の掲載
	継続	
現在の状況	ホームページに，一部の項目を掲載していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 全ての項目を掲載 ［具体的方策］ ホームページ掲載項目を網羅的なものとする。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）内，情報公開ページにおいて，以下情報を掲載した（【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準１　教育研究上の基礎的な情報）。 ①　学部，学科，課程，研究科，専攻ごとの名称及び教育研究上の目的及び学校教育法施行規則第百十五条の二　第一項の規定により定める方針 ②　専任教員数 ③　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ④　授業料，入学料その他の大学等が徴収する費用 ⑤　校舎等の耐震化率及び耐震化完了計画 ⑥　寄附行為，役員等名簿，役員報酬等の支給の基準	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準１　教育研究上の基礎的な情報	

（危機管理学部）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	設問項目⑨ 学部教育情報の更新について
	継続	
現在の状況	メンテナンスフローがなく，更新時の点検漏れの恐れがある。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ ホームページの令和７年更新を機に，メンテナンスフローを可視化し関係委員会及び事務局で共有する。 定期更新時の点検漏れを防ぎ，速やかに修正するとともに更新時の点検体制を見直す。 ［具体的方策］ 関係委員会で協議する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）準備と共に，メンテナンスフローをホームページ作成業者に相談し作成した。また，更新時の点検体制見直しについて，ホームページ更新の際，更新者が編集した内容を管理者権限の者が承認し反映されるシステムとした（【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準２　アーティスＣＭＳ３）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準２　アーティスＣＭＳ３	

（危機管理学研究科）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	設問項目⑤ 外部評価の実施
	継続	
現在の状況	外部評価を実施していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 外部評価を実施する。 ［具体的方策］ 外部評価実施団体の選定及び依頼 （４月以降の実施）	
改善達成時期	令和８年１０月	
改善担当組織	三軒茶屋キャンパス内部質保証推進委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度に学部評価の中で大学院評価も一部対応したが，令和８年度は明確に別報告として外部評価者に評価していただく予定である（【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準２　令和７年度日本大学危機管理学部外部評価報告）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準２　令和７年度日本大学危機管理学部外部評価報告	

（危機管理学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	設問項目㉟ シラバスが，学生が授業の内容や目的を理解し，効果的に学習を進めるために十分な内容かどうか
	継続	
現在の状況	記載内容，文章表現等に関する大学本部の過度な統制のため分かりやすく記述することが困難な場合がある。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 開学時にＡＣ対応のため過度に統制した部分については，運用実績を踏まえて合理化する。 ［具体的方策］ 令和７年シラバス依頼に合わせて，合理化されたフォーマットを採用する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	記載内容，文章表現等に関する大学本部の過度な統制のため分かりやすく記述することが困難な場合があるとのことであるが，本キャンパスのシラバスは，本部も推奨している内容となっている。しかしながら分かりづらいとの指摘のため，「科目概要」の重複部分の項目を変更するなど合理化されたフォーマットを採用した（【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　第 10 回学務委員会（令和６年 11 月 28 日）議事録・資料，【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　執行部会（令和６年 12 月 10 日）議事録)。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　第 10 回学務委員会（令和６年 11 月 28 日）議事録・資料 ②　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　執行部会（令和６年 12 月 10 日）議事録	

（危機管理学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	設問項目 ㊶ 教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について
	継続	
現在の状況	学務委員会において（体制），授業評価アンケート，GPS-Academic，ＧＰＡと履修科目との相関を含むＩＲ情報等を用い（方法），年次で（周期）を行うこととしているが，基準及びプロセスについては，明確な取り決めを行っていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 基準及びプロセスについての明確な取り決め ［具体的方策］ 今後学務委員会を中心に詳細を検討することとする。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	大学本部のアセスメント・プラン対応を受けて改善していく予定である（【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日），【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日） ②　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日）	

（危機管理学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	
	継続	アセスメント・ポリシー又はアセスメント・プラン制定の検討について
現在の状況	現在は，アセスメント・ポリシー又はアセスメント・プランは制定されていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ アセスメント・ポリシー又はアセスメント・プラン制定の検討 ［具体的方策］ 教学サポート課及び学務委員会において検討し，検討結果を執行部会議及び教授会へ上程する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度に向けて，本部において策定することとなったため，その後の対応とする（【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日），【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日） ②　【危機管理学部】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日）	

（危機管理学研究科）

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	設問項目 ㊺ 入学者の受入れに関する方針に係る志願者等へ示す項目について
	継続	
現在の状況	入学者の受入れに関する方針には，修了の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」を志願者等に理解しやすく示していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 入学者の受入れに関する方針には，修了の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」を志願者等に理解しやすく示す。 ［具体的方策］ 募集要項中の出願資格及び事前相談要項中の関係項目を抽出し，志願者等に理解しやすく示す。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	入試委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和９年度募集要項作成時に大学院委員会，執行部会議及び大学院分科委員会において対応予定であり，既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている（【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院危機管理学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在），【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 17 回大学院危機管理学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録）。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院危機管理学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在） ②　【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 17 回大学院危機管理学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録	

（危機管理学部）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	設問項目 ⑩⑤ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいような特設サイトの開設
	継続	
現在の状況	社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいような特設サイトは開設していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設する。 ［具体的方策］ 令和７年更新のホームページのレイアウトツリーに反映させる。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新しいホームページ（令和７年４月１日公開予定）とともに，社会連携・社会貢献活動に関するページを設けた（【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載），【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載），【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載） ②　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載） ③　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載）	

（危機管理学研究科）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	設問項目 ⑩⑤ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいような特設サイトの開設
	継続	
現在の状況	社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいような特設サイトは開設していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設する。 ［具体的方策］ 令和７年更新のホームページのレイアウトツリーに反映させる。現行ホームページで掲載済の社会連携・社会貢献に関する情報を整理し，実績として再掲する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新しいホームページ（令和７年４月１日公開予定）とともに，社会連携・社会貢献活動に関するページを設けた（【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載），【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載），【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載） ②　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載） ③　【危機管理学部・危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載）	

（危機管理学研究科）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	設問項目 ⑯ 社会連携・社会貢献に関わる事項についての担当組織及び点検・評価（検討・検証）について
	継続	
現在の状況	研究科独自の取組は行っていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設する。 ［具体的方策］ 掲載情報の選定を大学院分科委員会（広報担当）の業務に位置付ける。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院分科委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度の大学院分科委員会において，広報担当を設け，社会連携・社会貢献に関する研究科独自の取組を推進する（【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　大学院分科委員会資料（大学院における役割分担に関する件），【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　令和７年度第１回 大学院危機管理学研究科大学院分科委員会（令和７年４月 10 日）議事録）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　大学院分科委員会資料（大学院における役割分担に関する件） ②　【危機管理学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　令和７年度 第１回 大学院危機管理学研究科大学院分科委員会（令和７年４月 10 日）議事録	

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　スポーツ科学部・スポーツ科学研究科

（スポーツ科学部）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	ホームページへの必要項目の掲載
	継続	
現在の状況	ホームページに，一部の項目を掲載していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 全ての項目を掲載 ［具体的方策］ 全ての項目について掲載作業を行う。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）内，情報公開ページにおいて，以下情報を掲載した（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１　教育研究上の基礎的な情報）。 ①　学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的及び学校教育法施行規則第百十五条の二第一項の規定により定める方針 ②　専任教員数 ③　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ④　授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用 ⑤　校舎等の耐震化率及び耐震化完了計画 ⑥　寄附行為、役員等名簿、役員報酬等の支給の基準	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１_１　教育研究上の基礎的な情報	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	ホームページへの必要項目の掲載
	継続	
現在の状況	ホームページに，一部の項目を掲載していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 全ての項目を掲載 ［具体的方策］ 全ての項目について掲載作業を行う。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）内，情報公開ページにおいて，以下情報を掲載した（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１　教育研究上の基礎的な情報）。 ①　学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的及び学校教育法施行規則第百十五条の二第一項の規定により定める方針 ②　専任教員数 ③　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境 ④　授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用 ⑤　校舎等の耐震化率及び耐震化完了計画 ⑥　寄附行為、役員等名簿、役員報酬等の支給の基準	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１_１　教育研究上の基礎的な情報	

（スポーツ科学部）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	社会への公表方法
	継続	
現在の状況	社会への公表（主にホームページなど）に関しては，統一的な公表ルールがなく，受験者目線で考えると分かりづらい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 受験者目線で分かりやすい公表 ［具体的方策］ 統一的な公表ルールの検討	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）準備と共に，メンテナンスフローをホームページ作成業者に相談し，作成を進めた。また，更新時の点検体制見直しについて，ホームページ更新の際，更新者が編集した内容を管理者権限の者が承認し反映されるシステムとした（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１_２　アーティスＣＭＳ３）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１_２　アーティスＣＭＳ３	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	社会への公表方法
	継続	
現在の状況	社会への公表（主にホームページなど）に関しては，統一的な公表ルールがなく，受験者目線で考えると分かりづらいことが問題	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 受験者目線で分かりやすい公表 ［具体的方策］ 統一的な公表ルールの検討	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）準備と共に，メンテナンスフローをホームページ作成業者に相談し，作成を進めた。また，更新時の点検体制見直しについて，ホームページ更新の際，更新者が編集した内容を管理者権限の者が承認し反映されるシステムとした（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１_２　アーティスＣＭＳ３）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準１_２　アーティスＣＭＳ３	

（スポーツ科学部）

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	
	継続	「学部の目的」の適切な設定について
現在の状況	教育上の目的，教育上の目標が設定されているが，自己点検・評価委員会から表現を修正した方が良いのではないかとの点検・評価結果を受けている。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 自己点検・評価委員会の意見を踏まえ再検討 ［具体的方策］ 学務委員会で再検討	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度に新カリキュラム施行のために各検討を行った。また，「学部等基本計画」を策定した（【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準１　令和７年度から令和８年度までの学部等基本計画概要（学部））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準１　令和７年度から令和８年度までの学部等基本計画概要（学部）	

（スポーツ科学部）

基準	基準３　教育研究組織	
改善事項	新規	学部長の委員会への諮問と委員会からの答申が分かりにくい。
	継続	
現在の状況	何を諮問し何を答申したのかが分かりにくく委員会が機能しているのか定期的な点検が難しい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 学部長からの委員会への諮問を明確にする。 ［具体的方策］ 年度当初に学部長から委員会への諮問一覧を作成する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	執行部会議	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度から実施している（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準３　令和７年度スポーツ科学部各委員会への諮問事項）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準３　令和７年度スポーツ科学部各委員会への諮問事項	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準３　教育研究組織	
改善事項	新規	学部長の委員会への諮問と委員会からの答申が分かりにくい。
	継続	
現在の状況	何を諮問し何を答申したのかが分かりにくく委員会が機能しているのか定期的な点検が難しい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 学部長からの委員会への諮問を明確にする。 ［具体的方策］ 年度当初に学部長から委員会への諮問一覧を作成する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	執行部会議	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度から実施している（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準３　令和７年度スポーツ科学部各委員会への諮問事項）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準３　令和７年度スポーツ科学部各委員会への諮問事項	

（スポーツ科学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	卒業の認定に関する方針がステークホルダーから見て，分かりやすく，理解しやすい表現・内容となっているか。
	継続	
現在の状況	スポーツ科学を志向するカリキュラムを構築しているにもかかわらず，学位が「体育学」となっている。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 学問との整合性をとり「スポーツ科学」とすべきか検討が必要。 なお，大学院（修士（スポーツ科学））との一貫性を図るためにも対応が求められている。 ［具体的方策］ 学問との整合性の観点から検討が必要	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	学位に付記する専攻の名称を「スポーツ科学」とすることについて，令和８年度のカリキュラム改正と同時に届出した（【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　スポーツ科学部学則の一部変更について（内申），【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学部等構想原案）。令和７年１月 16 日開催の教授会承認済みである。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　スポーツ科学部学則の一部変更について（内申） ②　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学部等構想原案	

（スポーツ科学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	「教育課程の編成及び実施に関する方針」と，卒業の認定に関する方針との連関性
	継続	
現在の状況	連関性について不透明である。分かりやすく公表方法を検討したい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 連関性の明確化。分かりやすい公表。 ［具体的方策］ 連関性の明確化，分かりやすい公表を検討する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度カリキュラム改定を行った（【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　本部内申文書,【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学部構想原案）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　本部内申文書 ②　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学部構想原案	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準４　教育・学習　設問項目㉗	
改善事項	新規	「教育課程の編成及び実施に関する方針」と，卒業の認定に関する方針との連関性
	継続	
現在の状況	連関性について不透明である。分かりやすく公表方法を検討したい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 連関性の明確化。分かりやすい公表。 ［具体的方策］ 連関性の明確化。分かりやすい公表。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度改正に向けて大学院委員会，執行部会議及び大学院分科委員会において対応予定であり，既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている（【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院スポーツ科学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在），【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 13 回大学院スポーツ科学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録）。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。対応予定である。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院スポーツ科学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在） ②　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 13 回大学院スポーツ科学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録	

（スポーツ科学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	「教育課程の編成及び実施に関する方針」は，ステークホルダーから見て，分かりやすく，理解しやすい内容か。
	継続	
現在の状況	「教育課程の編成及び実施に関する方針」は，ステークホルダーから見て，分かりにくく，理解しにくい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 分かりやすい表現，内容への見直し ［具体的方策］ 所管委員会での検討	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度カリキュラム改正を行った（【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　本部内申文書,【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学部等構想原案)。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　本部内申文書 ②　【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学部等構想原案	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	「教育課程の編成及び実施に関する方針」は，ステークホルダーから見て，分かりやすく，理解しやすい内容か。
	継続	
現在の状況	「教育課程の編成及び実施に関する方針」は，ステークホルダーから見て，分かりにくく，理解しにくい。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 分かりやすい表現，内容への見直し ［具体的方策］ 分かりやすい表現，内容への見直し	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度改正に向けて大学院委員会，執行部会議及び大学院分科委員会において対応予定であり，既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている（【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院スポーツ科学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在），【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 13 回大学院スポーツ科学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録）。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院スポーツ科学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在） ②　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 13 回大学院スポーツ科学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録	

（スポーツ科学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	
	継続	アセスメント・ポリシー又はアセスメントプラン制定の検討について
現在の状況	現在は，アセスメント・ポリシー又はアセスメントプランは制定されていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ アセスメント・ポリシー又はアセスメントプラン制定の検討 ［具体的方策］ 教学サポート課及び学務委員会において検討し，検討結果を執行部会議及び教授会へ上程する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度又は令和８年度に向け本部において策定することとなったため，その後の対応となる（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料__基準４_１　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日），【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料__基準４_１　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日） ②　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日）	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	アセスメント・ポリシー又はアセスメントプラン制定の検討について
	継続	
現在の状況	現在は，アセスメント・ポリシー又はアセスメントプランは制定されていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ アセスメント・ポリシー又はアセスメントプラン制定の検討 ［具体的方策］ 教学サポート課及び学務委員会において検討し，検討結果を執行部会議及び教授会へ上程する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度又は令和８年度に向けて，本部において策定することとなったため，その後の対応となる（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料__基準４_１　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日），【スポーツ科学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料__基準４_１　令和６年度（本部）第 10 回学務委員会資料（令和７年２月 25 日） ②　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和６年度（本部）第 11 回学務委員会資料（令和７年３月 18 日）	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	学生が意欲的かつ効果的に学習できるような取組
	継続	
現在の状況	授業外学習に資するフィードバックの取組がない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 授業外学習に資するフィードバックの取組について検討する。 ［具体的方策］ 大学院委員会で検討する	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和５年度修士課程開設から２年が経過し，これまでの大学院教育を検証した結果，学生が学ぶべき内容として以下３点を授業外学修等で実施すべきとのことになり，令和７年度の特別講義にて実施に向けて準備することとした（【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和７年度第２回大学院分科委員会資料（令和７年５月 15 日）（特別講義案），【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和７年度第２回スポーツ科学研究科大学院分科委員会（令和７年５月 15 日）議事録）。今後も年度末にその年度における課題を洗い出し，次年度の授業外学修に役立てることにする。 ○　スポーツテクノロジーの現状と問題点についての講演 スポーツの現場において指導者や選手自身にデータの有効利用を求めるのは効率的ではないという大きな問題がある。スポーツとデータの橋渡し人材として活躍中のサイエンティストやアナリストの人材養成と実践的活動の紹介。 ○　コーチングに対する科学技術の導入とその活用についての講演 これまで行われてきた古い指導法の見直しにより科学的知見を持たない指導者による現状の打破とサイエンスとスポーツの現場を繋ぎ，新たな視点を取り入れるコーチングの工夫の紹介。 ○　データをどう読み，どう使うかについての講演 データの収集による，その解釈と現場で求められている情報は何かの見極め，分かりやすく伝えるスキルを備えた，データの意味と価値，さらに現場の選手やコーチの気	

	持ちを理解できる活動の紹介。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３ 令和７年度第２回大学院分科委員会資料（令和７年５月15 日）（特別講義案） ②　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_４ 令和７年度第２回スポーツ科学研究科大学院分科委員会（令和７年５月 15 日）議事録

（スポーツ科学研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	学生が意欲的かつ効果的に学習できるような各項目についての取組
	継続	
現在の状況	授業外学修に資するフィードバックについて，取り組んでいない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 正課授業と課外活動の授業外学修との相乗効果を生み出せるプログラムを実施する。 ［具体的方策］ 委員会にて検討	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和５年度修士課程開設から２年が経過し，これまでの大学院教育を検証した結果，学生が学ぶべき内容として以下３点を授業外学修等で実施すべきとのことになり，令和７年度の特別講義において実施に向けて準備することとした（【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和７年度第２回大学院分科委員会資料（令和７年５月 15 日）（特別講義案），【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和７年度第２回スポーツ科学研究科大学院分科委員会（令和７年５月 15 日）議事録）。今後も年度末にその年度における課題を洗い出し，次年度の授業外学修に役立てることにする。 ○　スポーツテクノロジーの現状と問題点についての講演 ○　コーチングに対する科学技術の導入とその活用についての講演 ○　データをどう読み，どう使うかについての講演 なお，上記の授業外学修は，正課授業である「スポーツ科学研究法」及び「スポーツ統計学特論」を前学期受講した後に実施することによって，収集したデータ等をより高度に活用できるような設計としている。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_３　令和７年度第２回大学院分科委員会資料（令和７年５月 15 日）（特別講義案） ②　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_４　令和７年度第２回スポーツ科学研究科大学院分科委員会	

（スポーツ科学部）

基準	基準５	
改善事項	新規	入学者の受入れに関する方針への志願者等へ示す項目
	継続	
現在の状況	入学者の受入れに関する方針には，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」,「学力水準」を志願者等に理解しやすく示していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 入学者の受入れに関する方針には，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」,「学力水準」を志願者等に理解しやすく示す。 ［具体的方策］ 入試委員会で示す内容を検討し，志願者等に理解しやすく示す。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	入試委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度のカリキュラム改正に向け検討を進める。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	入学者の受入れに関する方針への志願者等へ示す項目
	継続	
現在の状況	入学者の受入れに関する方針には，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」,「学力水準」を志願者等に理解しやすく示していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 入学者の受入れに関する方針には，卒業の認定に関する方針及び教育課程の編成及び実施に関する方針を踏まえた「入学前の学習歴」,「学力水準」を志願者等に理解しやすく示す。 ［具体的方策］ 入試委員会で示す内容を検討し，志願者等に理解しやすく示す。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度改正に向けて大学院委員会，執行部会議及び大学院分科委員会において対応予定であり，既に大学院委員会で修正案を作成の上，本部学務課及び大学評価室ともやり取りを実施し，修正案が固まっている段階となっている（【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院スポーツ科学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在),【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 13 回大学院スポーツ科学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録)。しかしながら，大学本部が前提的な方針を示すとのことで，現在本部の対応待ちとなっている状況である。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　大学院スポーツ科学研究科３つのポリシー改定（案）について（令和７年 11 月 18 日現在） ②　【スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　第 13 回大学院スポーツ科学研究科大学院委員会（令和７年 11 月 18 日）議事録	

（スポーツ科学部）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトの開設
	継続	
現在の状況	社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいような特設サイトは開設していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設する。 ［具体的方策］ 企画広報委員会で検討する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	企画広報委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）準備と共に，社会連携・社会貢献活動に関するページを設けた（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載），【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載），【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載） ②　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載） ③　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載）	

（スポーツ科学研究科）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトの開設
	継続	
現在の状況	社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいような特設サイトは開設していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 社会連携・社会貢献に関する情報を社会に対し周知するために，情報にアクセスしやすいように特設サイトを開設する。 ［具体的方策］ 大学院委員会で検討する。	
改善達成時期	令和７年２月	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	新ホームページ（令和７年４月１日公開予定）準備と共に，社会連携・社会貢献活動に関するページを設けた（【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載），【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載），【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載））。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_１　社会連携・社会貢献に関する方針（ホームページ掲載） ②　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_２　社会連携協定一覧（ホームページ掲載） ③　【スポーツ科学部・スポーツ科学研究科】進捗状況根拠資料_基準９_３　社会連携・社会貢献これまでの活動（ホームページ掲載）	

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　理工学部・理工学研究科（地理学専攻を除く）

（理工学研究科（地理学専攻を除く））

基準	基準１　理念・目的	
改善事項	新規	「日本大学の教育理念」及び「日本大学教育憲章」が履修要覧に掲載されていないため，令和７年度から履修要覧に掲載し対応する。
	継続	
現在の状況	「日本大学の教育理念」及び「日本大学教育憲章」は理工学研究科のホームページに記載はあるが，履修要覧には記載がない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 「日本大学の教育理念」及び「日本大学教育憲章」が履修要覧に掲載されていないため，令和７年度から履修要覧に掲載する。 ［具体的方策］ 令和７年度から「日本大学の教育理念」及び「日本大学教育憲章」を履修要覧に掲載する。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度大学院要覧において，計画どおり「日本大学の教育理念」及び「日本大学教育憲章」を掲載した（【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準１　2025 大学院要覧）。具体的には，履修要覧の冒頭部分に明記し，本学の教育の根幹となる理念を学生が常に参照できるよう配慮した。これにより，学生が自身の学修を本学の教育理念と関連付けて理解することが可能となった。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準１　2025 大学院要覧	

（理工学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	
	継続	履修登録単位数の上限緩和について，適切性及び単位の実質化の検証を行い，上限緩和措置を行う場合の対象者の成績，及び履修登録可能単位数について適切な数値を検討する。
現在の状況	本改善事項への検証については，学務委員会が中心となって実施した。履修登録単位数の上限緩和措置に対する検証を行った結果，上限緩和の特例対象者となる成績基準については引き続き検証が必要であるものの，上限緩和措置の設定については適切であるとの判断に至った。以下に検証内容を述べる。 ①　履修登録単位数上限の特例措置対象者数の検証 理工学部は「履修登録単位数上限に関する要項（令和２年３月 12 日改正，令和２年４月１日施行)」により，履修登録単位数の上限を１学期 24 単位（年間 48 単位）としている。また，直前学期の修得単位数 20 単位以上かつ直前学期ＧＰA2.5 以上の場合 28 単位まで，ＧＰA3.0 以上の場合 30 単位まで上限緩和を認めている。 本要項による上限緩和の特例措置の対象者（以下「特例対象者」という）は，全学生の 41.8％であるが，このうち実際に特例措置を利用した者（以下「特例利用者」という）は特例対象者のうち 43.8％であり，これは全学生でみると 18.31％にとどまる。このことから，特例対象者であったとしても，実際には学生は無理な履修登録は行っておらず，自身の能力に応じた範囲で特例措置を利用していると考えられる。 ②　特例対象者に関する検証 今回の検証の前提条件として，特例措置の判定条件となる直前学期の修得単位数と直前学期のＧＰＡの分布について全学生分を検証したところ，極端な偏りは見られないことが明らかになっている。 直前学期のＧＰＡと当該学期のＧＰＡを学年別に比較すると，全学生・特例対象者のうち特例を利用しなかった者・特例利用者，いずれの場合もＧＰＡが上がった者・変わらなかった者・下がった者の割合はほぼ同じとなった。このことから，特例対象者が特例措置を利用した場合でも，学修の負担になっているとは言えないと考えられる。	

	③　検証結果 特例対象者が全体の４割以上となっていることについては，特例対象者となる成績基準について引き続き検証が必要であるが，直前学期の修得単位数と直前学期のＧＰＡの分布に極端な偏りが見られない状況のもと，本特例措置を適用できていることが明らかとなった。また，特例利用者の割合は全学生の 18.31%にとどまっていること，特例利用者の直前学期と当該学期のＧＰＡの推移については全学生と比較しても大きく変わらないことも検証で明らかとなり，特例利用者は学修の負担にならない範囲で特例措置を利用していると考えられる。このことから，特例措置は有用な措置であり適切であると判断した。 ④　履修登録単位数上限に含まない授業科目の見直し 卒業要件に含まれる一部授業科目を履修登録単位数の上限に含まないこととしていたが，令和４年度カリキュラムから卒業要件に含まれる授業科目はすべて履修登録単位数の上限に含むこととし，令和４年４月から運用している。
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 現行カリキュラムは令和５年度で完成年度を迎えるため，次期カリキュラム改定に向けての検証，検討を学務委員会にて行う。 上限緩和の特例措置については，当初，令和６年度入学生から変更する計画であったが，令和６年度については現行カリキュラムを継続するため上限緩和の適用条件を変更することは適切ではないことから，現行の上限緩和措置を適用することとする。ただし，検証については継続して行い，新カリキュラムに合わせた上限緩和措置の見直しにつなげる。 ［具体的方策］ 令和８年度にカリキュラムの変更を予定しており，そのタイミングで次のとおり全学生に適用する予定である。 履修登録の上限を緩和する条件として直前学期の修得単位数が上限単位数の８割以上を修得していることとし，１年生後期及び２年生前期は直前学期の修得単位数を 18 単位以上，２年生後期以降は直前学期の修得単位数を 20 単位以上とする。また，直前学期のＧＰＡは 3.0 以上とする。ＧＰＡ 3.0 以上とする理由は，平均点が 80 点以上であることから，「日本大学特待生候補者推薦に関する基準」第３条「特待生候補者

	は，原則として学業成績の平均点が 80 点以上の者とする。」に準じて成績優秀の定義づけを行った。
改善達成時期	令和８年度
改善担当組織	学務委員会
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	①　カリキュラム改正の経緯 令和８年度に 100 分授業の導入及び学事暦の見直しを行ったため，カリキュラム改正を令和９年度に延期した。 ②　教職課程科目及び学芸員課程科目に関する取組 教職課程科目及び学芸員課程科目については，令和９年度の新カリキュラムに併せて取扱いの見直しを検討している。現在においても，以下の取組を実施している。 (1)　配当年次や実習を実施するための履修条件等を設け，１年間で履修できる単位数が過剰にならないよう科目を開講している。 (2)　ガイダンスにおいて３年間又は４年間での履修モデルを説明している。 (3)　教職課程室や授業の前後で，教員が学生の個別の質問を受け付けて対応している。また，事務局においても随時質問や相談を受けている。 (4)　指導の記録をスプレッドシート等で管理し，教員と事務局の担当者間で共有する体制を構築した。 ③　修得単位数の分析 現行カリキュラムが適用された最初の卒業生である令和５年度卒業者の修得単位数を分析した。その結果，学生の修得単位数は上級学年になるほど減少し，特に４年生ではほぼ全ての学科で 10 単位以下と極端に低下している傾向が確認された。 ≪改善に向けた今後の取組≫ ①　履修上限制度の改善 (1)　履修登録可能な単位数の上限について具体的な改善案を策定する。 (2)　成績優秀者に対する履修上限の認定基準を厳格化し，対象者の絞り込みをする。 (3)　教職課程科目及び学芸員課程科目の取扱い見直しの検討を継続する。 (4)　100分授業導入に伴い，授業回数（対面15回から13回），１回50分のオンデマンド授業の導入，定期試験の廃止，さらに学生の事前・事後の学習時間の観点から

	も検討を行う。 ② 新カリキュラムにおける改善【令和９年度】 (1) 新カリキュラムと連動した履修上限制度の運用を開始する。 (2) 修得単位数の学年間平準化を図るため，科目の配当年次やカリキュラム設計を見直す。 (3) 学生の過度な早期履修を防ぐための措置として，低学年の履修上限単位数の抑制を導入する。 ③ 継続的な改善 (1) 履修状況のモニタリング体制を構築する。 (2) 単位修得状況の定期的な検証と制度の見直しを行う。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし

（理工学研究科（地理学専攻を除く））

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	博士後期課程の収容定員充足率が，過去５か年の平均で0.18と低いので，現在も充足率の向上に向けて取組を行っているが，さらなる取組について検討を行う。
現在の状況	大学院委員会に設置しているワーキング・グループにおいて，学生を確保するための方策等の検討を行い，Webを利用した大学院進学説明会開催や大学院情報サイトを開設して情報を発信しているが，充足率の向上に繋がっていない状況である。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 現在実施している広報の取組を継続・強化するとともに，修了生のキャリアパスのさらなる開拓を行い，博士後期課程への進学希望者を増加させる。 ［具体的方策］ 学部生・博士前期課程学生を対象としたWebを利用した大学院進学説明会の開催（年２回）や大学院情報サイトを開設して情報の発信を継続して行っている。 また，外国人留学生入学試験募集要項の英語訳のホームページ掲載，校友会報誌への掲載，博士後期課程への進学を勧める簡易パンフレット作成等，外国人留学生，社会人を対象とした広報活動の強化を図っている。 上述の方策を継続して実施し，博士後期課程への進学希望者を増加させる。	
改善達成時期	令和８年度	
改善担当組織	大学院委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	大学院委員会において，海外在住の留学生や首都圏以外の遠方在住者の受験機会拡大と志願者数増を目的として，大学院入学試験による口述試験のオンライン導入を検討し，令和８年度入学試験から実施した（【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_１　令和８年度大学院入試オンライン面接実施専攻一覧，【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_２　博士前期課程入学試験（一般第３期）募集要項，【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_３　博士前期課程入学試験（社会人第１期）募集要項，【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_４　博士前期課程入学試験（社会	

	人第２期）募集要項,【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_５　博士後期課程入学試験（社会人第１期）募集要項,【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_６　博士後期課程入学試験（社会人第２期）募集要項)。 しかしながら，オンライン入試を希望する志願者はいなかった。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 博士後期課程への進学促進を図るため，大学院担当が中心となり，博士後期課程の研究奨励費（授業料相当額）の支給を計画している。できる限り早期の実現を目指し，現在，対象者の条件や免除基準等について執行部と検討を進めている。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_１　令和８年度大学院入試オンライン面接実施専攻一覧 ②　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_２　博士前期課程入学試験（一般第３期）募集要項 ③　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_３　博士前期課程入学試験（社会人第１期）募集要項 ④　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_４　博士前期課程入学試験（社会人第２期）募集要項 ⑤　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_５　博士後期課程入学試験（社会人第１期）募集要項 ⑥　【理工学研究科（地理学専攻を除く）】進捗状況根拠資料_基準５_６　博士後期課程入学試験（社会人第２期）募集要項

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　生産工学部

（生産工学部）

基準	基準４　教育課程・学習成果	
改善事項	新規	
	継続	日本大学教育憲章ルーブリックに対応した生産工学部独自のルーブリックを設定している。教育課程表・履修系統図を編成し，シラバスの各科目にルーブリック・レベルを設定した。このカリキュラムレベルに落とし込んだルーブリックを活用して検証・改善を行うＰＤＣＡモデルが策定されていない。
現在の状況	日本大学教育憲章ルーブリックに対応した生産工学部独自のルーブリックを設定し，教育課程表・履修系統図・シラバスの各科目にルーブリック・レベルを設定している。しかし，検証には活用していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ ルーブリックを加味した上でのカリキュラム点検・検証を実施する。 ［具体的方策］ 教育開発センターにて，ルーブリックを加味した上でのカリキュラム点検・検証の方策を検討し，それをもとに教学ＩＲ室にて，必要データの集計を行い，そのデータをもとに教育開発センターにて，点検を行う。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	教育開発センター運営委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	全学で実施している外部アセスメント・テスト（GPS-Academic）の結果データを教学ＩＲ室にて，データ分析を行っている。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 上記分析結果を基に，教育開発センター運営委員会の下部組織である教育検討専門委員会にて，三つの方針の検証方法を検討し，カリキュラムツリー及びルーブリックに不整合かないか課題を検討する予定である。	

「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　工学部

（工学部）

基準	基準５　学生の受入れ	
改善事項	新規	
	継続	生命応用化学科の定員充足ができていない。
現在の状況	令和４年度から生命応用化学科の定員を 160 名から 130 名に減員し，土木工学科，建築学科，情報工学科を 10 名ずつ増員（学部合計は同数）したが，定員充足できなかった（生命応用化学科：令和 6 年度入学者数 83 名）。 令和４年度に高大連携推進室を開設し，多様化する高校からのニーズに柔軟に対応する体制を整備した。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 近年，幼い頃から化学に触れる機会が少ないことも，将来的に化学系の分野に進む学生が減少する一因と考えられる。化学分野の魅力を伝え，子どもたちが化学に興味を持つ機会を増やすためには，長期的な取り組みが必要なことから，学科の強みを明確にし，学科の強みを生かしたアプローチとして，魅力をいかに生み出し，伝えるかという点に重点を置いた学科広報を実践する。 ［具体的方策］ ①　ＳＮＳを活用した情報提供 生命応用化学科独自の LINE アカウントを作成し，学科に対する興味を志望に育てるよう，様々な情報を提供し，学科のイメージをつかみやすくすることで，志願者獲得につなげる。 また，学部公式インスタグラムを開設し，学科の紹介を随時行っている。 ②　小中高の学生対象のイベントの実施 化学に触れる機会の少ない小中学生を対象に，化学の面白さを知ってもらう活動として，各種イベントを実施している。 ・高大連携探求活動（ロハスクラス）の創設 ・日本化学会東北支部主催の「化学への招待」 ・郡山市理工系女子支援事業	

	・24 時間テレビ「日本大学工学部実験ランド」 ・付属東北高校文化祭へのブース展示 ・付属東北高校対象ミニオープンキャンパス ③　学科コミュニティの活性化 在学生や卒業生の満足度向上の視点から，生命応用化学科独自の取組として，学科独自のイベントを開催し，学生や卒業生に寄り添ったサービス提供により，学外への発信力につなげる。 ④　未来構想WGの設置について 若手教職員で構成する未来構想WGを設置し，将来を見据えた学部の目指すべき方向性を検討している。
改善達成時期	令和７年度
改善担当組織	庶務課（高大連携推進室）
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和８年度総合型選抜，推薦型選抜の出願者数は，定員充足できていなかった年度と変わりない状況である。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 具体的な方策を実施しているが，問題の改善には至っていないため，令和８年度中に生命応用化学科の将来の構想・方向性を決定する。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　医学部

（医学部）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	
	継続	医学教育センターの規程の整備
現在の状況	医学教育センターの業務について，学部内の調整を行っている。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 執行部内で，医学教育センターの業務内容についてのコンセンサスを形成するための議論を進める。 ［具体的方策］ 医学教育センターがＰＤＣＡサイクルのＰ（計画）とＣ（評価）を担当するのか，Ｄ（実行）も担当するのかによって，その規模や規程は大きく異なる。この点について検討し，結論を導き出す。	
改善達成時期	令和８年４月	
改善担当組織	執行部	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	現在，医学教育センターの業務については，学部内での調整を行いながら運用を進めている段階にある（【医学部】進捗状況根拠資料基準２_１　医学教育分野別評価改善報告書（2025 年度）47・48 ページ参照，【医学部】進捗状況根拠資料_基準２_２　教学に関する内部質保証体制（ＰＤＣＡサイクル図））。医学教育は，文部科学省の「医学教育モデル・コア・カリキュラム」への対応をはじめ，日本医学教育評価機構（ＪＡＣＭＥ）や大学基準協会の評価基準への対応，さらにＩＲ（インスティテューショナル・リサーチ）への対応など，その内容は極めて多岐にわたる。このように業務範囲が広範かつ複雑であることから，現時点では一律に規定化することには難しさがあり，執行部内での議論を通じたさらなる検討が必要な状況となっている。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 今後は，執行部内において医学教育センターの業務内容について議論を深め，組織としてのコンセンサスを形成することを目指す。具体的な方策としては，教育の質を管理する「Ｐ	

	ＤＣＡサイクル」において，センターが「Ｐ（計画)」と「Ｃ（評価)」を担当するのか，あるいは「Ｄ（実行)」までを担うのかについて検討を引き続き行う。この役割の定義によって，センターの組織規模や必要となる規定が大きく異なるため，本学の教育体制に最適なかたちを導き出し，速やかな規定の整備につなげていく方針である。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【医学部】進捗状況根拠資料基準２_１　医学教育分野別評価改善報告書（2025 年度）47・48 ページ参照 ②　【医学部】進捗状況根拠資料_基準２_２　教学に関する内部質保証体制（ＰＤＣＡサイクル図）

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　歯学部

（歯学部）

基準	基準２　内部質保証	
改善事項	新規	
	継続	教学ＩＲ及びＦＤ・ＳＤ活動との連携が必要であるため，教育研究活動における適切な教育の質の保証及び向上を今後も継続的に諮る必要がある。 学外の有識者による第三者からの評価機会を設けることとし，第三者を１名ではなく，複数名とすることを検討する。
現在の状況	現在，第三者評価者としての学外有識者は１名である。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 第三者評価者を複数名とすることを検討する。 ［具体的方策］ 現在，第三者評価者は１名体制であるが，卒業生から１名，千代田区内での開業医１名，近隣歯科大学関係者１名等，第三者として複数名を評価者として選定することを検討する。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	歯学部内部質保証推進委員会，歯学部自己点検・評価委員会，ＦＤ委員会，ＳＤ委員会，庶務課，教務課，研究事務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	現状，１名体制のままであるため，令和８年度から複数名とする。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 第三者評価者が複数名となるよう対応する。 なお，評価者選定にあたっては，私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」における，点検・評価に係る該当要件に合致する候補者に絞り，選定を行う予定である。 以下，該当要件（【歯学部】進捗状況根拠資料_基準２　経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」該当要件） ・ 都道府県や市区町村、又は商工会や企業等（法人格を有する組織）に所属する者とする。 ・ 本法人の役員又は教職員は除く。	
「令和６年全学自己点検・評価	①　【歯学部】進捗状況根拠資料_基準２　経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」該当要件	

後の改善状況」の根拠資料	

（歯学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	
	継続	学生主体の組織である学修向上委員会への参加率向上及び効果的な運用となるよう大学側としてのサポート体制の確立
現在の状況	学生が主体となって，６年生と５年生は研修小委員会，４年生はＣＢＴ対策委員会及びＯＳＣＥ対策委員会を組織している。現在のところ，１～３年生については，学生が主体となって学修向上委員会を組織立てできていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ １～３年生について，学生が主体となった学修向上委員会を設置することで，低学年次（早期）から学生自治による自発的な学習意欲向上につなげることを目標とする。 ［具体的方策］ 学務委員（教員）の協力やサポートを得ながら，特定の学生（委員に選出された学生）が負担とならないよう配慮する。特に１年生に対しては，学務委員（教員）等が主要メンバー（学生）の相談にのることで個々の成長を促しつつ学年全体の学習意欲向上につなげる。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	学務委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	学生が主体となり，学生生活委員会・学務委員会がサポートし，全学年に学習向上委員会を組織した（【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度第２回教授会議事・議事録（令和７年５月８日），【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学修向上委員会総会資料）。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度第２回教授会議事・議事録（令和７年５月８日） ②　【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　学修向上委員会総会資料	

（歯学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	学習成果の適切な把握及び評価に用いているＩＲ活動をステークホルダーに対して明示する。
	継続	
現在の状況	①　共用試験の公的化に伴い合格基準が全国統一のものとしてＩＲＴ標準スコアとなる予定であり，本学部の学生がどの程度の学力でこの基準をクリアできるか過去のデータからの予測を行い明示できている。 ②　歯科医師国家試験と学部での成績結果や外部模擬試験との相関関係を分析し明示できている。 ③　歯科医師国家試験とＣＢＴとの相関関係を分析し明示できている。 ④　ＣＢＴと学部での成績結果や外部模擬試験との相関関係を分析できている。 ⑤　上記①～④について，ステークホルダーに明示できている。 以上のことから，学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価できている。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 上記①～⑤の学習成果の把握やＩＲ活動については，更に充実させながら継続していく。 ［具体的方策］ 上段（「現在の状況」）に記載している①～⑤を改善しながら進めていく。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	学務委員会・共用試験運営委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	現状は，上記②のみ保護者を集めた学年別懇談会にて明示している（【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　20250607後援会総会学年別懇談会用資料 20250523）。 上記①は，ＩＲＴ標準スコアを用いたＩＲ活動は実施しているが，ステークホルダーへの明示まではできていない（【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　本学の第１回公的化 CBT の成績について）。 上記③・④は，直近の試験における分析ができていない。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 分析時期や実施体制について改めて検討する。	

	また，上記以外の教学ＩＲ分析を実施していることから，それらを踏まえた分析結果をステークホルダーに明示することを検討する。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　20250607 後援会総会学年別懇談会用資料 20250523 ②　【歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　本学の第１回公的化 CBT の成績について

（歯学部）

基準	基準６　教員・教員組織	
改善事項	新規	
	継続	歯科医師国家試験の合格率を上げるため，補習等の教育体制の充実と学習支援体制の強化の充実を図ること。
現在の状況	歯学部教員の学内業務は，各委員会活動のほか，教育・研究・診療業務等多岐にわたる。 現状では学内業務エフォートを分析できていないが，「教員配置計画書」については，２年に一度見直している。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 学内業務エフォートを分析し，歯科医師国家試験の合格率を上げるため，継続して補習等の教育体制の充実と，学習支援体制の強化の充実を図る。 ［具体的方策］ 歯学部教員は，各委員会活動のほか，教育・研究・診療業務等多岐にわたることから，教員が従事している学内業務の割合を把握し，教員配置計画の検討につなげる。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	執行部会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	現状では学内業務エフォートを分析できていないが，必要性を感じ分析する方向とする。 「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針」に基づき「教員配置計画書」を毎年作成している。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 歯科医師国家試験合格率に資する観点からの情報収集，調査分析，検証並びに各委員会及び各講座・分野へ各種データの提供等を行い，歯科医師国家試験合格率向上に資する組織について，「教育力向上センター」を設置する。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし	

（歯学部）

基準	基準８　教育研究等環境	
改善事項	新規	遺伝子組換え実験安全委員会における実験計画書の点検・評価
	継続	
現在の状況	一部の委員に業務が集中してしまい，平等に計画書の事前査読が分担されていないことがあり，委員間で査読能力に差が生じている。そのため，計画書の点検・評価が委員会全体で充分に実施されていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 遺伝子組換え実験計画書における全委員の査読能力向上 ［具体的方策］ 遺伝子組換え実験安全委員会と同じく，日本大学実験計画等申請管理システム「NU-PRiS」を使用している動物実験委員会では，令和６年度から申請された計画書を委員会で適切な研究計画であるかを審議する前に，システムを活用して全委員に分担を振り分け，計画書の事前査読を行っている。これにより，委員個人の査読能力向上や計画書の査読時間を確保したため，業務効率化にもつながった。遺伝子組換え実験安全委員会においても，システムを有効活用して事前査読を実施する。	
改善達成時期	令和７年度中	
改善担当組織	歯学部遺伝子組換え実験安全委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和６年度第８回歯学部遺伝子組換え実験安全委員会において審議が行われ，令和７年度から NU-PRiS を利用した実験計画書の事前査読の実施が承認された（【歯学部】進捗状況根拠資料_基準８_１　令和６年度第８回歯学部遺伝子組換え実験安全委員会議事録及び資料）。現在までに，事前査読は順調に実施されている。従来，委員会開催期間中のみ査読時間を確保していたが，計画書の申請の都度，事前査読を実施したことで委員会の開催前に十分な査読時間を確保できるようになった。これにより，委員からは余裕をもって意見が出されることが確認された。委員会開催時にこれらの意見内容を共有することで，従来よりも計画書の点検・評価の質が向上した（【歯学部】進捗状況根拠資料_基準８_２　NU-PRiS を使用した遺伝子組換え実験計画書の事前査読事例）。	

「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【歯学部】根拠資料_基準８_１　令和６年度第８回歯学部遺伝子組換え実験安全委員会議事録及び資料 ②　【歯学部】進捗状況根拠資料_基準８_２　NU-PRiS を使用した遺伝子組換え実験計画書の事前査読事例

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　松戸歯学部

（松戸歯学部）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項	新規	
	継続	学生の学力不足改善
現在の状況	受験後の空白期間等あり，入学当初より一定の学力水準が保たれておらず，その後学習にも大きな影響がでており，留年者，休学者，退学者が毎年度一定数おり，歯科医師国家試験合格者数にも影響が出ている。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 留年者，休学者，退学者の減少及び歯科医師国家試験の合格率向上 ［具体的方策］ 授業評価アンケートや学生ＦＤ活動等により，カリキュラムや講義方法の見直しを随時行い，学年進行に伴う適切な学力評価とその結果を活用した効果的な指導を行う。 受験後の空白期間となる入学前も継続して学修を行う体制をこれまで以上に整える。これにより，全入学生が一定水準以上の学力を入学時に保持することができ，初年次において学力や学修態度を更に向上させる。また，能動的な学修を身につける指導を行うことや学業不振の学生に対する個別指導を行うことにより学力の低下を防ぎ，歯科医師になるための道筋を入学時より示していく。 全講義内で，毎回，歯科医師国家試験の過去問題や改編問題を出題し，同国家試験に合格するために必要な学力の確保及び合格率の向上を目指す。	
改善達成時期	令和６年度	
改善担当組織	学務委員会	

令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	休学者については，前年度（令和５年度）の 22 名から今年度（令和６年度）の 11 名と半減しており，具体的方策による効果があったと言える。しかしながら，退学者及び留年者においては前年度を上回る人数となっており，また，歯科医師国家試験の合格率についても前年度（第 117 回 令和５年度）よりも低くなっており，問題の改善に至っていない（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和５年度 監事監査【書面監査】（学部）令和７年度休学，退学，留年者数抜粋，【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和５年度 監事監査【書面監査】（学部）令和６年度休学，退学，留年者数抜粋，【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_３　歯科医師国家試験 合格状況（過去 10 年間））。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 学力向上に向けては，今年度（令和７年度）から，WebClass を用いて，毎日，全学年の登録学生に向けて「日々鍛錬」と称した小テスト 10 問をメール配信している。そもそも４年次に行われる共用試験ＣＢＴに向けてのものだが，国家試験の必修問題対策にも有効なものである。これには，二次元バーコードからのログインが可能で，二次元バーコードが記されたのぼり旗を校舎の各所に掲示し，自ら進んで参加する姿勢を促している（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_４全学年共通日々鍛錬・３年次日々鍛錬（掲示））。 また，特に，共用試験ＣＢＴ対策としては，冬季休業期間中に，４年次生を主体とした特別補習講義を今年度（令和７年度）から開催予定である。本特別補講は，事前登録制とし自律的学修へのモチベーションを高め，講義者及びその講義内容は４年次生にてアンケート調査を基に決定している。（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_５　共用試験ＣＢＴに向けた４年次生特別補講の開催）。

「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和５年度 監事監査【書面監査】（学部）令和７年度休学，退学，留年者数抜粋 ②　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和５年度 監事監査【書面監査】（学部）令和６年度休学，退学，留年者数抜粋 ③　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_３　歯科医師国家試験 合格状況（過去 10 年間） ④　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_４　全学年共通日々鍛錬・３年次日々鍛錬（掲示） ⑤　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準４_５　共用試験ＣＢＴに向けた４年次生特別補講の開催

（松戸歯学部）

基準	基準５　学生の受け入れ 基準７　学生支援	
改善事項	新規	
	継続	適正な学生数の確保
現在の状況	令和６年度の入学者数は入学募集人数を確保できていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 入学募集人数（128 名）を確保しつつ，在校中はその人数を維持できるよう休・退学者を出さないように努める。 ［具体的方策］ 歯科医師国家試験合格率を向上させることにより，在学生の学力が向上，モチベーションを高めるとともに，入学志願者を含めて対外的なアピールが可能となり，優秀な学生の確保を目指す。 また，入試制度の改善に努めるとともに，入試成績上位合格者を確実に確保するために，教育充実料の減免枠の拡充等を行う。 さらに，休・退学者を防ぐため，少人数学部の特性を生かし，保護者との連携を強化し，成績不振や学生生活に不安のある学生の個々にあったきめ細やかなケアを行う。 令和７年度の入学者の確保に向けては，選抜方法の見直し，付属校・指定校へのアプローチ強化，オープンキャンパス等の内容の見直しを行い，本学部の魅力を積極的にアピールしていく。	
改善達成時期	令和６年度	
改善担当組織	教務課，庶務課	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	第 117 回 歯科医師国家試験における合格者総数は全国で第２位（120 名）であったことから，入学者数は，令和６年度（前年度）の 86 名から令和７年度の 114 名まで回復した（【松戸歯学部】根拠資料_基準５_１　第 117 回歯科医師国家試験の学校別合格者状況，【松戸歯学部】根拠資料_基準５_２　学校基本調査 ⑦Ｒ７学生数等の内訳票）。 また，令和７年度入学者の確保に向けた付属校へのアプローチとして，付属校教員を対象とした学部説明会及び付属校生徒を対象とした体験学習会を実施したほか，個別に申出のあった付属校（日本大学習志野高等学校，日本大学中学校，日本大学豊山女子中学校，目黒日本大学中学校）を対象に学	

	部訪問を実施している。 　さらに，指定校へのアプローチとして，指定校訪問を実施し，指定校進路指導教員との関係構築を図った。なお，訪問後は，進路指導教員宛てにイベント及び入試情報を広く発信した。 　そして，新たな取組として，主に高校１，２年生を対象とした夏休み（春休み）体験学習会をオープンキャンパスとは別に実施し，歯科業界の魅力を高校生に広くアピールした。また，令和８年度からは，早期から志願者にアプローチできるようオープンキャンパスの開催時期を早め，本学部に興味をもってもらうよう準備を進めている（【松戸歯学部】根拠資料_基準５_３　広報行事来場者数）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 　令和６年度から新校舎に移設した。令和７年度には，大学での学修習慣を奨励し，学生用自習室の 151 席中 70 席を６年生専用として確保した。加えて各学年の教室の使用時間を前年度と比較し前後１時間延長し，朝７時から夜 10 時まで使用可能とし環境を大幅に改善した。 　また，卒業決定まで緊張感を持ってモチベーションを維持させるために，卒業認定の方法を変更し，11 月末と翌年１月の２回の定期試験（卒業試験）とした。加えて，８月に中間試験を行い，11 月末の卒業試験と合算で判定することとし，更に年明けの再試験を受験義務のある卒業試験２とし，原則，２回の試験の総合判定を行うこととした（【松戸歯学部】根拠資料_基準５_４　令和７年度歯科医学総合講義６日程表）。 　入学者の確保に向けた今後の取組としては，令和６年度から本格的に実施したＳＮＳを用いた情報発信の強化である。本学部同窓会等との連携や広報行事等で取得した接触者情報の活用について検討し，フォロワー数及び閲覧数の増加を図りたい。 　また，令和８年度入試から海外留学生選抜及び３年次編入学の導入，入学者選抜の見直し等を行っている。

「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準５_１　第 117 回歯科医師国家試験の学校別合格者状況 ②　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準５_２　学校基本調査⑦Ｒ７学生数等の内訳票 ③　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準５_３　広報行事来場者数 ④　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準５_４　令和７年度歯科医学総合講義６日程表

（松戸歯学部）

基準	基準６　教員・教員組織	
改善事項	新規	教員に対する評価のさらなる活用
	継続	
現在の状況	教員の昇格を判断する際は，基本的には研究業績を重視しており，毎年度実施している計画票，それに対する自己評価及び上長者による評価を活用していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 教員の昇格基準を，研究だけでなく教育，臨床等への関与を含めて総合的に判断できるようにする。 ［具体的方策］ 教員の昇格基準に，毎年度実施している教員の自己点検評価及び上長者による評価も加味することにより，総合的に各資格の適正度を判断し，公正で公平な人事となるよう努める。	
改善達成時期	未定	
改善担当組織	教員人事委員会（庶務課）	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	現在，自己点検・評価委員会の下に教員評価制度検討ワーキンググループを設置し，教員人事委員会と連携しながら，目標達成に向けて改善を行っている。現時点での成果としては，教員個人計画票及び教員自己点検評価票の項目に，教育及び臨床等への関与に関する事項を追加することができた。 引き続き検討を重ね，評価結果の人事への活用についても進めていきたい（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準６_１教員評価制度検討ワーキンググループでの検討事項）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 引き続き評価結果の人事への活用についても検討を行うこととする。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準６_１　教員評価制度検討ワーキンググループでの検討事項	

（松戸歯学部）

基準	基準６　教員・教員組織	
改善事項	新規	
	継続	円滑な教員の世代交代
現在の状況	現状は順調に教員の世代交代が進んでいるが，今後，定年退職者が多数でることが見込まれているため，早い段階で準備を行う必要がある。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 年齢構成，男女比等のバランスのとれた教員配置 ［具体的方策］ 中長期的なスパンで登用・昇格等をあらかじめ計画し，適正数を確保しつつ，次世代の管理運営を含めた人材の育成を行う。 急速に変化する歯科業界に対応すべく，講座の内容や名称を適宜見直しするとともに外部を含めた人材を確保する。	
改善達成時期	令和６年度	
改善担当組織	教員人事委員会（庶務課）	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	既に基準を満たすよう人員配当等行っているが，令和８年度以降５年間で，教授 14 名が定年となる予定である。教授職は諸業務に習熟し，教育・研究・臨床及び講座運営全般を遂行するためには最低でも数年間の経験が必要である。そのため，令和７年度に学部長の諮問機関として講座編成検討委員会を設置し，短期・中期・長期の各段階で適切な講座編成及び人員配置を検討している（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準６_２　講座編成に関わる答申書)。 今後は，大学設置基準数を満たすように計画的に人員配置及び講座運営に支障がないよう昇格等を行い，教育・研究・臨床の充実を図っていく。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準６_２　講座編成に関わる答申書	

（松戸歯学部）

基準	基準９　社会連携・社会貢献	
改善事項	新規	社会連携・社会貢献に対応した体制つくり
	継続	
現在の状況	個々の組織で社会連携・社会貢献を実施しているが，学部として一元化して行っていない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 社会連携・社会貢献を学部として推進する組織の設置もしくは既存組織への権限付与 ［具体的方策］ 社会連携・社会貢献を学部として統括する組織の設置等を行い，学部としてのポリシーのもと実施していく。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	担当会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度から本学部付属病院に地域医療連携統括センターを設置し，超高齢社会を迎えた現代で，訪問診療を通して地域医療に貢献する体制を整えた（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_１　日本大学松戸歯学部付属病院地域医療連携統括センター運用基準)。 また，松戸市教育委員会と共催で，市民大学講座を実施し，本学部における教育・研究成果を広く一般市民に公開するとともに，「開かれた大学」として歯科医学における保健衛生思想の普及と地域の文化発展に寄与するための取組を行った（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_２　令和７年度市民大学講座実施概要)。 さらに，令和７年度から一般社団法人千葉県歯科医師会と災害時の歯科医療支援活動に関する協定を締結し，災害発生時に本学部が地域の歯科医療支援活動を行う体制を整えた（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_３　災害時の歯科医療支援活動に関する協定書)。 しかしながら，前述の社会連携・社会貢献活動を統括する組織の設置については，本年度では達成することができなかったため，引き続き検討を重ね，改善を目指したい。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 現在，「学部長の諮問に基づき，教育・研究・診療環境の整備に関する事項，制度・機構の整備・改善に関する事項，その他学部の発展のために必要と認められ事項につき審議し，	

	答申する」ことを目的として企画委員会を設置している。今後は，担当会にて当該活動の点検・評価及び助言等（Check）を行い，それを受けて，企画委員会が計画（Plan），実行（Do），改善（Action）することができるようプロセスの見直しをお行いたい（【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_４　日本大学松戸歯学部企画委員会内規）。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_１　日本大学松戸歯学部付属病院地域医療連携統括センター運用基準 ②　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_２　令和７年度市民大学講座実施概要 ③　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_３　災害時の歯科医療支援活動に関する協定書 ④　【松戸歯学部】進捗状況根拠資料_基準９_４　日本大学松戸歯学部企画委員会内規

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　薬学部・薬学研究科

（薬学部）

<table>
<tr><td>基準</td><td colspan="2">基準２　内部質保証
基準４　教育・学習</td></tr>
<tr><td rowspan="2">改善事項</td><td>新規</td><td></td></tr>
<tr><td>継続</td><td>教員レベルのＰＤＣＡサイクルは，授業アンケートによる学生からの評価，ＦＤ委員による授業参観及び試験問題の確認などのフィードバックによって授業改善計画書の提出，ＦＤ講演会等への参加を通して，シラバスの作成に続く授業の実施まで一連のプロセスが適切に展開し運用されている。しかしながら，現時点では学位プログラムレベルのＰＤＣＡサイクルについては，適切なシステムが機能していないため，その体制を整備し，意図した学修成果を生み出せているかどうか組織的に点検する必要がある。</td></tr>
<tr><td>現在の状況</td><td colspan="2">「日本大学内部質保証に関する方針」及び「日本大学薬学部内部質保証相関図」に従い，各所管委員会より薬学部自己点検･評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会への報告及び提案を通じて，薬学部全体の内部質保証体制を強化するとともに学位プログラムレベルのＰＤＣＡサイクルを構築している。
ＩＲ委員会では，ＣＢＴ委員会及び学務委員会で解析したＣＢＴ本試験の結果と４年次までの成績についての検証を行い，ＣＢＴ不合格者における低学年からの成績不振が確認された。これを受けて，低学年からの学修指導の強化等を薬学部内部質保証推進委員会へ報告した。
薬学部内部質保証推進委員会では，薬学部自己点検･評価委員会からの報告を受け，学習達成度を測定する上で有用となるポートフォリオの活用，クラス担任によるきめ細やかな個人面談の実施等について，薬学部執行部への提言を行った。ポートフォリオの活用については，４月の学年ごとのガイダンスにおいて，その目的，教育理念，ディプロマ・ポリシー等を薬学教育研究センターが説明を行い，学生自身が自身の学修プロセスを振り返り新たな目標を設定する機会と</td></tr>
</table>

	した。さらに，学生の自己省察及び行動目標としての記載事項は薬学教育研究センターが解析を行い，薬学教育研究センター運営委員会及び学務委員会で報告を行っている。 　これら改善に向けた取組を進めているものの学位プログラムレベルでの質保証はスタートしたばかりで，より多くのデータを蓄積する必要があると認識している。本学部は６年制薬学部であり，６年間をとおした取組が重要であると認識しているため，現時点ではＰＤＣＡサイクルを適切に機能させるための途上にあると考える。
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 　「日本大学内部質保証に関する方針」及び「日本大学薬学部内部質保証相関図」に従い，各所管委員会より薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会への報告及び提案を通じて，薬学部全体の内部質保証体制を強化するとともに学位プログラムレベルの PDCA サイクルに基づき，恒常的に点検・評価し，薬学教育の質向上につなげる。 ［具体的方策］ 　薬学部内部質保証推進委員会においてＩＲ委員会からの提案書，薬学部自己点検・評価委員会における点検・評価結果を検証，課題を抽出し，優先すべき課題への対応計画を策定，学部に対し指示及び提言を行うとともに進捗・改善状況を適宜確認する。
改善達成時期	令和９年度末
改善担当組織	薬学部内部質保証推進委員会，薬学部自己点検・評価委員会，執行部，学務委員会，ＩＲ委員会，薬学教育研究センター，薬学教育研究センター運営委員会

令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	教員レベルに留まらず,学位プログラムレベルでのＰＤＣＡサイクルとして発展・継続的に運用するため，令和７年２月 25 日（火）開催の第２回薬学部内部質保証推進委員会において，薬学部自己点検・評価委員会及びＩＲ委員会からの報告を踏まえ，学部長並びに執行部に対して，改善に向けた提言を行った。 当該提言における「教育活動の検証」の一環として，ＦＤ委員会では「学生による授業評価アンケート」結果の学位プログラムレベルでの活用方法を整理し，運用を見直した。具体的には，従前実施している授業評価アンケートについて，令和６年度から,総合得点がＦＤ委員会で定める一定値以上の科目を模範講義として位置付け,新任教員研修等に活用することとした。一方，一定値未満の科目については「授業改善計画報告書」に記載された改善計画をＦＤ委員会が確認した上で「教員による授業参観」の対象とし，授業改善に向けた具体的な支援につなげることとした。 各教員はこれらのフィードバックに基づき自己点検・振り返りを行い，ＦＤ委員会は改善の取組を支援するとともに,学務委員会はＩＲ委員会が検証する各授業科目の成績分布等の学修データと，ＦＤ委員会による授業評価結果・授業参観の所見等を統合して検証し，その結果を薬学部自己点検・評価委員会へ報告する。薬学部自己点検・評価委員会は，これらの結果を学位プログラムの観点から点検し,改善を要する課題を整理した上で薬学部内部質保証推進委員会に報告する。薬学部内部質保証推進委員会は，提言内容の優先度を踏まえて学部長並びに執行部に対応を提言し,進捗と改善状況を継続的に確認する。以上の流れにより，授業科目・教員単位で得られた点検結果を学位プログラム全体の点検・結果へ接続し,学位プログラムレベルのＰＤＣＡサイクルとして定着させることで，本学部の教育活動の改善・向上を推進している。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし

（薬学研究科）

<table>
<tr><td>基準</td><td colspan="2">基準７ 学生支援</td></tr>
<tr><td rowspan="2">改善事項</td><td>新規</td><td>大学院については，学部のような進級制度を設けていないが，修業年限内で学位を取得し，修了できるようきめ細かい指導をしていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>継続</td><td></td></tr>
<tr><td>現在の状況</td><td colspan="2">研究の進捗については，適宜，研究指導教員が確認し，指導している。
留年者については，研究指導教員と面談の上，翌年度以降も在籍する場合は，再修届を提出させている。
また，退学希望者についても，研究指導教員による個別面談を行い，状況の把握を行っている。</td></tr>
<tr><td>改善目標
具体的方策</td><td colspan="2">［改善目標］
研究指導教員による指導だけでなく，適時，全大学院生の就学状況について確認，指導する体制を整える。

［具体的方策］
大学院学務委員会において修業年限内での学位取得に向けて研究の進捗状況の確認と助言を行うための研究交流会を実施する。</td></tr>
<tr><td>改善達成時期</td><td colspan="2">令和８年度末</td></tr>
<tr><td>改善担当組織</td><td colspan="2">大学院学務委員会</td></tr>
<tr><td>令和６年全学自己点検・評価後の改善状況</td><td colspan="2">年度初めのガイダンスにおいて，大学院学務委員長から修業年限内での学位取得を見据えた学修計画･研究計画の立て方，研究倫理を含む研究推進錠の留意点について説明し，計画的な履修・研究の実施を促している。
また，令和６年度から，研究及び学位論文の進捗状況を研究科として組織的に点検し，必要な助言・支援につなげる取組として，大学院学務委員会が中心となり「研究発表会」を年度末（３月）に実施することとした（【薬学研究科】進捗状況根拠資料_基準７　令和６年度第７回大学院分科委員会資料（研究発表会実施概要））。研究発表会では，大学院生が研究の到達状況，今後の研究計画，学位論文作成に向けた課題等を発表し，研究科教員が質疑・コメントを行うことで，研究の遅れや課題を早期に把握し，修業年限内での学位取得に向けた指導の機会としている。さらに，令和７年度からは，「薬学特別研究」の成績評価に研究発表会での発表内用・達成度等の評価を位置付け，研究の進捗確認を単発の行事にと</td></tr>
</table>

	どめず，教育課程上の評価と連動させることで，計画的に研究を進め，学位論文を作成できるよう指導体制を強化している。 以上により，従来の研究指導教員による個別指導に加え，大学院学務委員会の下で研究科全体として大学院生の就学・研究状況を点検し，必要な助言・支援を行う体制を整備した。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【薬学研究科】進捗状況根拠資料_基準７　令和６年度第７回大学院分科委員会資料（研究発表会実施概要）

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　通信教育部

（通信教育部）

基準	基準６　教員・教員組織	
改善事項	新規	教員の教育能力の向上，教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる施策の検討及び学生の学修成果の把握についての検討
	継続	
現在の状況	授業評価アンケート結果について，現在は教員送付時に，アンケート結果を今後の通信教育部における教育及び指導に役立ててもらいたい旨を通知しているが，具体的な改善に向けた取組等の確認及び検証等が組織的に行えていない。 また，学修成果を把握するための調査として，授業科目ごとには授業評価アンケートを実施しているが，学修成果を把握する質問項目がない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 授業評価アンケート結果の取扱いについて，教員の授業改善によりつながるような確認及び検証体制・方策を確立する。 また，同アンケートの設問項目等の精査も行い，学修成果を把握する質問項目が設置可能かについて検証を行う。 ［具体的方策］ ＦＤ専門委員会を中心に，授業評価アンケート結果の取扱いについての検討を重ね，教員の授業改善によりつながるような確認及び検証体制・方策を確立する。 また，その過程で，学修成果を把握する質問項目の設置について併せて検討する。	
改善達成時期	令和８年度	
改善担当組織)	ＦＤ専門委員会	

令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	従来は教員へ結果送付時に活用を促すのみであったが，ＦＤ専門委員会において結果の傾向や課題を共有し，改善の必要性が高い項目について助言を行う仕組みを構築した。 また，学修成果把握に関する課題を踏まえ，授業評価アンケートの設問項目の精査を行い，学生の学修到達度や理解度を確認できる質問項目の設置可能性について検討を開始した。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 今後は，授業評価アンケート結果の分析を定期化し，教員へのフィードバック方法を標準化することで，授業改善に資する ＰＤＣＡ サイクルを確立する。また，新設を検討している「学修成果把握項目」については試行的導入を行い，回答傾向や有効性を検証した上で本格実施につなげる。さらに，教員連絡会等でアンケートの活用方法等を共有し，教員の教育能力向上を組織的に支援していく。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	なし

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　総合社会情報研究科

（総合社会情報研究科）

基準	基準４　教育・学習	
改善事項（注１）	新規	研究指導計画の策定
	継続	
現在の状況	大学院（修士・博士）課程修了による学位授与の手続きとして概要を記載しており，学生に対して「研究指導計画」として明示していない。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 学位取得までの研究指導の方法，内容及びプロセスを明示した研究指導計画の策定 ［具体的方策］ 大学院諸会議・委員会にて現状の学位取得までのプロセスを再検証し，研究指導計画として策定する。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	大学院総合社会情報研究科分科委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度大学院要覧（前期課程）において学位授与までの手続を示した箇所について，１年次には「修士論文の構想構築（研究計画の作成，先行研究の検討)」，２年次には「指導教員による研究指導及び論文指導（文章構成，校正と仕上げ指導）とそれぞれ括弧内でより具体的な研究活動の詳細を示し，研究指導計画の策定を行った（【総合社会情報研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１　令和７年度大学院要覧（前期課程))。 また，同様に令和７年度大学院要覧（後期課程）において学位授与までの手続を示した箇所についても，１・２年次における研究プロセスに(研究計画の作成,先行研究の検討)(量的調査・質的調査の実行指導)(文章構成，校正と仕上げ指導)とより具体的な研究活動の詳細を括弧書きで示し，研究指導計画の策定を行った（【総合社会情報研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２　令和７年度大学院要覧（後期課程))。	
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【総合社会情報研究科】進捗状況根拠資料_基準４_１ 令和７年度大学院要覧（前期課程） ②　【総合社会情報研究科】進捗状況根拠資料_基準４_２ 令和７年度大学院要覧（後期課程）	

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　法務研究科

（法務研究科）

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	法曹養成５年一貫教育の成果を更に上げるため，内部進学者のより一層の増加を図る。本研究科と本学法学部との連携をますます緊密なものとし，法学部法律学科法曹コースの優秀な学生を，本研究科の特別選抜入学試験で受け入れることにより，進学者数増加に向けた努力をしていく。
	継続	
現在の状況	本学法学部生のみが受けられる説明会を，一般向けの進学相談会よりも早い時期（６月）に実施し，学部生の目標意識の醸成を図っており，令和４年度以降，毎年，一定数の参加者がいるが，早期卒業や内部進学へとつながる十分な成果が出ているとは言い切れない状況である。 また，入学試験の特別選抜（５年一貫）においても，出願者数（延べ人数）は増えているが，法曹を目指す学生数や募集人数から考えると，十分な人数を獲得しているとは言い難い。特別選抜（開放型）も含めて，更なる獲得が必要な状況である。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 内部進学者については，増加の傾向にはあるが，未だ十分な人数を獲得しているとは言えない状況のため，引き続き，法学部との緊密な連携強化を促進し，本学法学部現役学生，特に法曹コースで学んでいる優秀な内部進学者をできるだけ多く本研究科に進学してもらうための取組を強化する。 ［具体的方策］ 本学法学部法律学科，特に法曹コースに在籍する学生に対し，本研究科の司法試験における最終合格者数や合格率などを正確に理解してもらい，本研究科への進学を第一志望としてもらうよう，本学法学部生だけの説明会などの開催方法や内容を検討し，引き続き情報提供に努める。 また，早期卒業による法曹資格取得までの期間短縮についても，引き続き丁寧な説明を行い，内部からの進学希望者の	

	増加を図る。内部進学者については，司法試験の在学中受験に向けて積極的に進めるよう，教科に関する指導のみならず，アカデミックアドバイザーなどにより，生活面など様々な面からサポートできるよう，体制を充実させ，このことを広報に盛り込み，きめ細やかな指導を行っていることを周知する。
改善達成時期	令和８年３月
改善担当組織	入学試験管理委員会，学務委員会
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	本学法学部生のみが受けられる説明会を，一般向けの進学相談会よりも早い時期（６月）に実施し，学部生の目標意識の醸成を図った。令和４年度は 73 名の参加者（対面 37 名，オンライン 36 名），令和５年度は 32 名（対面 19 名，オンライン 13 名），令和６年度は 25 名（対面 13 名，オンライン 12 名），令和７年度は 39 名（対面 26 名，オンライン 13 名），の参加があった。この説明会に参加できなかった学生が，後に開催される，一般向けの進学相談会に参加する場合もあり，本研究科の紹介においては，一定の成果を果たしていると考えられる（【法務研究科】進捗状況根拠資料_基準５_１　進学説明会参加者一覧（令和４年度～令和７年度））。 なお，入学試験においては，特別選抜（５年一貫）での出願者（延べ人数）が，令和４年度は２名，令和５年度は５名，令和６年度は６名，令和７年度は８名となっており，増加傾向にあるのは，情報提供の成果の表れと考えられる（【法務研究科】進捗状況根拠資料_基準５_２　大学院法務研究科入学試験状況（令和４年度～令和７年度））。 また，早期履修生制度（法学部法曹コースの学生の内，GPA3.0 以上の者が，法学部在学中に，法務研究科の授業を受講し，単位を修得できる科目等履修生制度）においても，受講者数（延べ人数）が，令和３年度は０名だったのに対し，令和４年度４名，令和５年度２名，令和６年度８名，令和７年度３名と，毎年度，実績が出ていることも，本学法学部への情報提供の成果であり，本研究科への進学を検討する貴重な機会となっている（【法務研究科】進捗状況根拠資料_基準５_３　早期履修生願書受付簿（令和４年度～令和７年度））。
「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【法務研究科】進捗状況根拠資料_基準５_１　進学説明会参加者一覧（令和４年度～令和７年度） ②　【法務研究科】進捗状況根拠資料_基準５_２　大学院法務研究科入学試験状況（令和４年度～令和７年度） ③　【法務研究科】進捗状況根拠資料_基準５_３　早期履修生願書受付簿（令和４年度～令和７年度）

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　短期大学部（三島校舎）

（短期大学部（三島校舎））

基準	基準２　内部質保証 基準４　教育・学習 基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	
	継続	ビジネス教養学科，食物栄養学科及び専攻科食物栄養専攻の内部質保証を担保するためのＩＲの積極的な活用方針の策定と実施
現在の状況	短期大学部（三島校舎）では，令和５年度に教学ＩＲ委員会が退学者の分析を実施した。特に１年次必修科目である「自主創造の基礎」の単位未修得者と退学率の関係性を分析し，退学の傾向が高い結果となった。本校舎では，成績不振者に対して学生面談を実施しているが，その対象者の基準を見直し，１年次５月末時点：「自主創造の基礎」の欠席回数が３回を超える者を新たに追加し，令和６年度より退学防止のための早期面談を実施している。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 令和５年度より分析内容を決定して取り組んでいるが，教育の内部質保証の確立やＩＲの積極的な活用方針の策定を行う。 ［具体的方策］ 分析結果の把握にとどまらず，内部質保証の確立に向けた取組を実行し，他の委員会との連携も強化する。	
改善達成時期	令和８年３月	
改善担当組織	教務課，教学ＩＲ委員会，学務委員会等	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	１年次５月末時点：「自主創造の基礎」の欠席回数が３回を超える者に継続して早期面談を実施している（【短期大学部（三島校舎）】進捗状況根拠資料_基準２・４・５　学生との面談実施に係る取扱い）。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 退学率を基にした面談実施による成果を検証する。	
「令和６年全学	①　【短期大学部（三島校舎）】進捗状況根拠資料_基準２・	

自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	４・５　学生との面談実施に係る取扱い

学部等単位の改善事項の進捗状況調査

学部等名：　短期大学部（船橋校舎）

（短期大学部（船橋校舎））

基準	基準５　学生の受け入れ	
改善事項	新規	令和６年度入学者選抜において，入学定員充足率が１を下回っていることから，学生確保に向けた検討を行う。
	継続	
現在の状況	令和６年度の入学定員・入学者数については，ものづくり・サイエンス総合学科が 78 名中 44 名となり，同学科の令和６年度収容定員充足率が 0.84（定員未充足）となった。これには，18 歳人口の減少に加えて，昨今の本学における不祥事の報道の影響及び併設の理工学部の令和６年度入学者が入学定員を超えていたことも影響しているものと考えられる。	
改善目標 具体的方策	［改善目標］ 入学定員充足率の増加を目標とする。 ［具体的方策］ 入学試験実行委員会において新規の入学者選抜方法の導入について検討をする。	
改善達成時期	令和７年度	
改善担当組織	入学試験実行委員会	
令和６年全学自己点検・評価後の改善状況	令和７年度 第２回 入学試験実行委員会 協議事項１「学校推薦型選抜（指定校制）の導入に関する件」において，検討ワーキングから大枠の内容が報告され，各学科で検討を行うため継続協議とした（【短期大学部（船橋校舎）】進捗状況拠資料_基準５_１　令和７年度第２回入学試験実行委員会（令和７年７月８日）資料）。 令和７年度第３回入学試験実行委員会報告事項１「前回（第２回）入学試験実行委員会議事録について」において，前回の協議の結果を報告するとともに，協議事項１「学校推薦型選抜（指定校制）の導入に関する件」とし，対象校選定用資料として，１都３県の高校別志願者数及び合格者数が提出され，継続協議とした（【短期大学部（船橋校舎）】進捗状況根拠資料_基準５_２　令和７年度第３回入学試験実行委員会（令和７年８月７日）資料）。	

	令和７年度第４回入学試験実行委員会報告事項１「前回（第３回）入学試験実行委員会議事録について」において，前回の協議結果を報告するとともに，協議事項１「学校推薦型選抜（指定校制）の導入に関する件」とし，各学科の募集人員，推薦基準，対象校数等の概要について協議を行った（【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_３　令和７年度第４回入学試験実行委員会（令和７年 10 月６日）資料)。 令和７年度第４回入学試験実行委員会での協議・上程を経て，令和７年度第７回学科長・主任会議 協議事項７「学校推薦型選抜（指定校制）の導入に関する件」において協議を行った（【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_４　令和７年度第７回学科長・主任会議（令和７年 10 月 17 日）資料)。協議結果については，令和７年度第８回学科長・主任会議報告事項１「第７回学科長・主任会議議事録について」のとおり，推薦基準における偏差値を削除及び表記の修正等を行った（【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_５　令和７年度第８回学科長・主任会議（令和７年 11 月 14 日）資料)。 令和７年度第７回短期大学部（船橋校舎）学科長・主任会議での協議・上程を経て，令和７年度第６回短期大学部（船橋校舎）教授会 審議事項７「学校推薦型選抜（指定校制）の導入に関する件」において審議を行った（【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_６　令和７年度第６回教授会（令和７年 10 月 21 日）資料)。審議結果については，令和７年度第９回短期大学部（船橋校舎）教授会報告事項１「第６回教授会議事録について」のとおり，それまでの諸会議における協議の結果，特に意見等は出なく原案のとおりとなった（【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_７令和７年度第９回教授会（令和７年 11 月 18 日）資料)。 ≪改善に向けた今後の取組≫ 社会人を対象とした社会人選抜に係る広報活動の強化として，今年度，兵庫県にある短大（産業技術短大）が募集停止となったことを受けて，短期大学部（船橋校舎）を新しい受け皿（企業では国内留学と呼ぶ）としたい旨の問合せが企業から多数あり，約 30 社の企業宛てに文書を送付した結果，７～８社と面談を実施しており，中には３～４名の志願者を送りたいとの要望があった（【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_８　企業リスト・企業向け文書)。

	令和７年度第５回入学試験実行委員会協議事項４「一般選抜（Ａ個別方式）の存廃に関する件」において，理工学部Ａ個別方式の得点を利用して合否を判定することで，受験生が来校し，受験することからの負担軽減だけでなく，卒業生の約７割が理工学部に編入学している実績から，理工学部不合格者を短期大学部（船橋校舎）に入学する道筋を立てる狙いがある（【短期大学部（船橋校舎）】進捗状況根拠資料_基準５_９　令和７年度第５回入学試験実行委員会（令和７年 11 月 28 日）資料）。 「令和６年度点検・評価報告書（基準５）学生の受け入れ」「１　現状分析」「点検・評価項目②」に次のとおり記載した。 短期大学部（船橋校舎）の入学者数は併設の理工学部の入学者数の影響を強く受ける状況にあるが，８月上旬に法人本部にて実施した「定員管理の方針に基づく協議」において，定員管理方針として「大学，短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可基準」を基本（理工学部は収容定員上限 1.05 倍）とすることについて再確認を行い，理工学部側出席者から，現在の収容定員が 1.10 倍となっている状況を踏まえて，令和７年度の入学者数を令和６年度より抑制する旨の発言があった。これが実施されれば短期大学部（船橋校舎）の入学者数が増加し，入学定員を充足する可能性が高くなると言える。 しかしながら，令和７年度の理工学部入学定員超過率は，1.07 倍・収容定員充足率は 1.12 倍とむしろ悪化したため，令和７年度の収容定員充足率は建築・生活デザイン学科が 0.74，ものづくり・サイエンス総合学科は 0.66 と共に定員未充足となった。

「令和６年全学自己点検・評価後の改善状況」の根拠資料	①　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_１　令和７年度第２回入学試験実行委員会(令和７年７月８日）資料 ②　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_２　令和７年度第３回入学試験実行委員会(令和７年８月７日）資料 ③　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_３　令和７年度第４回入学試験実行委員会（令和７年 10 月６日）資料 ④　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_４　令和７年度第７回学科長・主任会議（令和７年 10 月 17 日）資料 ⑤　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_５　令和７年度第８回学科長・主任会議（令和７年 11 月 14 日）資料 ⑥　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_６　令和７年度第６回教授会（令和７年 10 月 21 日）資料 ⑦　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_７　令和７年度第９回教授会（令和７年 11 月 18 日）資料 ⑧　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_８　企業リスト・企業向け文書 ⑨　【短期大学部（船橋校舎)】進捗状況根拠資料_基準５_９　令和７年度第５回入学試験実行委員会（令和７年 11 月 28 日）資料

令和７年度全学自己点検・評価（学部，通信教育部，大学院研究科，短期大学部）実施要領

１　基本方針

「日本大学自己点検・評価規程」及び「日本大学内部質保証に関する方針」に基づき，本学の建学の精神・教育理念に基づく教育・研究の諸活動について自己点検・評価を実施し，現状を確認するとともに，その結果を学内外に公表する。

また，自己点検・評価の結果を内部質保証推進委員会が検証することにより，改善・改革を推進し，質の向上を図ることとする。

令和７年度の全学自己点検・評価は，全学内部質保証推進委員会による令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果を踏まえ，以下の２つの方法により実施する。

①　全学内部質保証推進委員会による令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果を踏まえた点検・評価

②　令和６年度に実施した全学自己点検・評価において学部，通信教育部，大学院研究科，短期大学部から提出された「学部等単位の改善事項」の進捗状況調査

２　全学内部質保証推進委員会による令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果を踏まえた点検・評価

検証結果では，特に，基準２以降の各基準における「どの組織がどのように点検・評価（検討・検証）し，その結果，どのように改善・向上を図ったか」との設問に対し，各学部等の点検・評価報告が，主体となる委員会等と内部質保証の推進に責任を負う学部等内部質保証推進委員会との連関性が不明瞭であったとの指摘が多かった。学部等における内部質保証の推進に責任を負う組織として，学部等内部質保証推進委員会が点検・評価においてどのように機能しているのかを明確に確認できなかったことから，本学の内部質保証システムにおける全学的な課題として改めて点検・評価を実施する。くわえて，令和６年度全学自己点検・評価結果の検証において，各学部等に付された提言（是正勧告・改善課題）について，点検・評価を実施する。

なお，自己点検・評価結果については公表する。

①　実施対象

学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部

②　点検・評価内容

(1)　本学の内部質保証システムにおける全学的な課題として，学部等内部質保証推進委員会が学部等の各基準における点検・評価において，どのように機能しているのかを確認するため，改めて点検・評価を実施する。

(2)　令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果において，各基準に付された提言（是正勧告・改善課題）について，点検・評価を実施する。

③　作成資料

点検・評価報告書（様式１）

３　令和６年度に実施した全学自己点検・評価において学部，通信教育部，大学院研究科，短期大学部から提出された「学部等単位の改善事項」の進捗状況調査

令和６年度に実施した全学自己点検・評価において，喫緊に改善あるいは伸長に取り組むべき課題として提出された「学部等単位の改善事項」に対する進捗状況の調査を実施する。

①　実施対象

学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部

②　作成資料

学部等単位の改善事項の進捗状況調査（様式２）

４　実施スケジュール［予定］

実施時期	実施事項	実施組織・部署
10月中旬	各学部等への令和６年度全学自己点検・評価結果の検証及びフィードバック	全学内部質保証推進委員会
11月～12月	令和７年度全学自己点検・評価の実施	各学部等
１月中旬	令和７年度全学自己点検・評価結果の取りまとめ及び評価	全学自己点検・評価委員会
２月	令和７年度全学自己点検・評価結果の検証	全学内部質保証推進委員会
３月下旬	各学部等への令和７年度全学自己点検・評価結果の検証結果のフィードバック	全学内部質保証推進委員会

以　上